

發 所

複 不 製 許

昭昭昭 和十六年年 二四四 月二十日 再發印 放發 行行刷

京 市芝區 芝公 園 地

東

七 號地 +

電話芝二九四七番

發編 印 刷 行輯 者 者兼

長 日

印

刷

所

東京市芝區芝浦二丁目三番地 尾

雄

文

東京市芝區芝公園地七號地十番

具 雄

切經 般 若 金一圓五十錢〕 部

所本製

東京市芝區芝浦二丁目三

解脱門。②菩薩の十地。②五眼・六神通。②佛の十力乃至十八佛不共法。②無忘失法・恒住捨性。 聖諦。ⓒ四靜慮乃至四無色定。ⓒ八解脫乃至十遍處。ⓒ四念住乃至八聖道支。ⓒ空解脫門乃至無願 (c) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (c) 內空乃至無性自性空。 (d) 真如乃至不思議界。 (c) 苦聖諦乃至道 (c)舌界乃至諸受。身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦變惱。 故なり。⑥眼處乃至意處。⑥色處乃至法處。⑥眼界乃至諸受。⑥耳界乃至諸受。⑥鼻界乃至諸受。 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは道相智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 切智・一切相智。(〇一切陀羅尼門・一切三摩地門。(○預流果乃至阿羅漢果。(○獨覺菩提。(〇 切智智清浄なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に道相智清淨なり。 何を以ての

斷無きが故なり。dd眼處乃至意處。dd色處乃至法處。dd眼界乃至諸受。dd耳界乃至諸受。dd鼻界乃 故なり。 門乃至無願解脫門。は菩薩の十地。は五眼・六神通。は佛の十力乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒 至諸受。付舌界乃至諸受。付身界乃至諸受。付意界乃至諸受。付地界乃至識界。何無明乃至老死愁 以ての故に、若しは一 (ii) 聖論乃至道聖諦。(山四靜慮乃至四無色定。(山八解脫乃至十遍處。(山四念住乃至八聖道支。(山空解脫 ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは一切相智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次には善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切相智清淨なり。 一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。 (d) (d) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d) 內空乃至無性自性空。(d) 真如乃至不思議界。(d) 苦 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切相智清淨なり。何を 一切智·道相智。 (c)諸佛の無上正等菩提 切智智清浄岩しは受想行識清浄岩しは一切相智清浄は二無く二分無く別無く (d) 一切陀羅尼門·一切三摩地門。d)預流果乃至阿羅漢果。 d獨覺菩提。 何を以

薩の十地。的五眼・六神通。的佛の十力乃至十八佛不共法。的無忘失法・恒住捨性。的道相智・一切相智。 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內室乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦聖諦乃至道聖諦。的 故なり。的眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的 四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。的空解脫門乃至無願解脫門。的菩 舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは一切智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは一切智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な (a) 五眼·六神通。(a) 佛の十力乃至十八佛不共法。(a) 無志失法。(a) 一切智乃至一切相智。(a) 一切陀羅尼門 至道空節。(四階慮乃至四無色定。自八解脫乃至十遍處。()字解脫門乃至無願解脫門。(自菩薩の十地) 苦愛惱。自布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。自內空乃至無性自性空。自真如乃至不思議界。自苦聖諦乃 一切三摩地門。(6)預流果乃至阿羅漢果。(6)獨覺菩提。(6)一切の菩薩摩訶薩行。(6)諸佛の無上正等菩提 復た次に的善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智清淨なり。何を以ての 一切智清淨なり。何を以て

卷の第二百八十

初分難信解品第三十四之九十九

的諸佛の無上正等菩提 (b) 一切陀羅尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。的一切の菩薩摩訶薩行。

の故に、著しは一切智智清浄若しは色清浄若しは道相智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に回答現・一切智智清浄なるが故に色清浄・色清浄なるが故に 道相智清淨なり。 何を以て

(b) 前巻と同意。

受想行識清淨若道相智清淨無淨, 一切智智清淨和色清

七二七

なり。一切智智清浄なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に無忘失法清淨なり。何を以 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは無忘失法清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 苦變惱。心布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心眞如乃至不思議界。心苦聖 諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歌 無きが故なり。的眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至 乃至無願解脫門。切菩薩の十地。切五眼・六神通。切佛の十カ乃至十八佛不共法。切恒住捨性。切 諦乃至道聖諦。心四靜應乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門(a) ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは無忘失法清淨は二無く二分無く別無く斷 切の菩薩摩訶薩行。 "復た次に助善現·一切智智清淨なるが故に色清淨·色清淨なるが故に無忘失法清淨なり。何を以て 切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一 (b) 諸佛の無上正等菩提。

巻の第二百七十九

初分難信解品第三十四之九十八

以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは恒住捨性清淨は二無く二分無く別無く 故なり。 乃至諸受。回舌界乃至諸受。回身界乃至諸受。回意界乃至諸受。回地界乃至識界。回無明乃至老死愁歌 復た次に回善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に恒住捨性清淨なり。 無きが故なり。 (4) 限處乃至意處。 (4) 色處乃至法處。 (4) 眼界乃至諸受。 (4) 耳界乃至諸受。 (4) 鼻界 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に恒住捨性清淨なり。何を 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは恒住捨性清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 何を以

【一】 一切智智清淨なるが故に恒性捨性清淨を明す。 (n)「書現一切智智清淨故色清淨………若一切智智清淨故色清彩一次無別無斷故」 長想行識清淨若恒住捨性清淨 一次智智清淨故色清彩若極住捨性清淨

切智乃至一切相智。四一切陀羅尼門、一切三摩地門。四預流果乃至阿羅漢果。四獨覺菩提。四一切 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內室乃至無性自性室。山眞如乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。 至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。山布施 の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。 山四靜慮乃至四無色定。山八縣脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山空解脫門乃至無願解脫門。 菩薩の十地。四五眼、六神通。四佛の十力乃至大喜十八佛不共法。四無忘失法、恒住捨性。

卷の第二百七十八

初分難信解品第三十四之九十七

失法。恒住捨性。(山一切智乃至一切相智。(山一切陀羅尼門・一切三摩地門。(山預流果乃至阿羅漢果。 不思議界。自苦聖諦乃至道聖諦。自四靜慮乃至四無色定。自八解脫乃至十遍處。自四念住乃至八聖不思議界。自苦聖諦乃至道聖諦。自四靜慮乃至四無色定。自八解脫乃至十遍處。自四念住乃至八聖 無明乃至老死愁軟苦憂惱。自布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。因內容乃至無性自性空。自真如乃至無明乃至老死愁軟苦憂惱。自布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。因內容乃至無性自性空。自真如乃至 諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a) (1) 獨覺菩提。(1) 一切の菩薩摩訶薩行。(1) 諸佛の無上正等菩提。 道支。(自 卒解脱門乃至無願解脫門。(自 菩薩の十地。(自 五眼・六神通。(自 佛の十力乃至大捨。(自 無忘 なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは十八佛不共法清淨は二無く 無きが故なり。一切智智清浄なるが故に受想行職清浄・受想行職清浄なるが故に十八佛不共法清淨 以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは十八佛不共法清淨は二無く二分無く別無く斷 一分無く別無く斷無きが故なり。匈眼處乃至意處。匈色處乃至法處。匈眼界乃至諸受。匈耳界乃至 復た次に(自善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に十八佛不共法清淨なり。何を

初分難信解品第三十四之九十七

の諸佛の無上正等菩提。 (S) 切陀羅尼門、 (s) 佛の十力乃至大慈大喜太捨十八佛不共法。 (3)四念住乃至八聖道支。 切三摩地門。⑤預流果乃至阿羅漢果。 (8) 室解脫門乃至無願 (S) 無忘失法、 (5)獨覺菩提。(5) 恒住捨性。 解脫門。 (q)菩薩の十地。(s) (S) 切の菩薩摩訶 切智乃不 至 五眼、 切相

(t) 他眼處乃至意處。他色處乃至法處。他眼界乃至諸受。他耳界乃至諸受。他鼻界乃至諸受。他舌界乃 の故に、若しは一切智智清浄若しは色清浄若しは大喜清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは大喜清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 四靜慮乃至四無色定。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが哉に大喜清淨なり。何を以ての故に、 切の菩薩摩訶薩行。 復た次に比善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、 苦薩の十地。 切智乃至 蜜多乃至般若波羅蜜多。 (1)內空乃至無性自性空。(1)真如乃至不思議界。(1)苦聖諦乃至道理諦。 他內身界乃至諸受。 切相智。 (t) 五眼、 は諸佛の無上正等菩提。 (t) 一切陀羅尼門、 (t)八解脫乃至十遍處。(t)四念住乃至四無色定。(t) 室解脫門乃至無願解脫門。 六神通。 ()意界乃至諸受。()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦憂惱。 け佛の十九乃至大悲大捨十八佛不共法。け無忘失法、 切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。 色清浄なるが故に 大喜清淨なり。何を以て (t)獨覺菩提。(t) 恒住捨性。

浩しは一切智智清浄若しは受想行識清浄若しは大捨清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは大捨清淨は二無く二分無く別無く斷無が故なり。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨。 眼處乃至意處。 復た次に山善現、 (1)色處乃至法處。(1)服界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。 一切智智清浄なるが故に色清浄、 受想行識清淨なるが故に大捨淸淨なり。 色清淨なるが故に (1)鼻界乃至諸受。 大捨清淨なり。 何を以ての故に、 (山) 舌界乃至 何を以て

(8) 前巻と同意。

(七) 「現善」切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨故色清淨。 一切智智清淨故 」 「 本 6 6 の 場合の 如く 以下略出 古 6 6 の 場合の 如く 以下略出 す っ

(1 - 書典 - 以智管清淨遊舎精(1 - 書典 - 以智管清淨若大捨清淨若大捨清淨無二受想行議清淨若大捨清淨無二無二分無別無斷故」

切智智和群…大拾清

菩提。に一切の菩薩摩訶薩行。に諸佛の無上正等菩提。 波羅密多乃至般若波羅蜜多。中內空乃至無性自性空。中眞如乃至不思議界。中色聖諦乃至道聖諦。 至諸受。以身界乃至諸受。以意界乃至諸受。以地界乃至識界。以無明乃至老死愁歎苦變惱。以布施 恒住捨性。 い菩薩の十地。い五眼、 (PI限處乃至意處。(P)色處乃至法處。(P)眼界乃至諸受。(P)耳界乃至諸受。(P)鼻界乃至諸受。(P)舌界乃 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨者しは大慈清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 ·四靜慮乃至四無色定。(I)八解脫乃至十遍處。(I)四念住乃至八聖道支。(I) 空解脫門乃至無願解脫門。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に大慈清淨なり。何を以ての故に、 (1)一切智乃至一 六神通。に佛の十カ乃至四無礙解大悲大喜大捨十八佛不共法。に無忘失法 切相智。(一切陀羅尼門、一切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。 (r) 獨骨

波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 至諸受。⑤身界乃至諸受。⑤意界乃至諸受。⑤地界乃至識界。⑤無明乃至老死愁歎苦憂惱。 著しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは大悲清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (S) の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは大悲清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に大悲清淨なり。何を以ての故に、 、眼處乃至意處。(5)色處乃至法處。(5)眼界乃至諸受。(5)耳界乃至諸受。(5)鼻界乃至諸受。(6)舌界乃 四靜慮乃至四無色定。 復た次に(S)善現、 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に大悲清淨なり。 (8)內空乃至無性自性空。(8)真如乃至不思議界。(8)苦聖諦乃至道聖諦 何を以て (s) 布施

巻の第二百七十七

初分難信解品第三十四之九十六

初分難信解品第三十四之九十五、

*

(1) 「善現一切智智清淨故色清子………若一切智智清淨故色清無二分無別無職故」無二分無別無職故」無二分無別無職故」。 一切智智清淨無二分。 一切智智清淨…大盡清字。

門乃至無願解脫門。印菩薩の十地。印五眼、六神通。印佛の十力、四無礙解乃至十八佛不共法。 漢果。原獨覺菩提。 無忘失法、 恒住捨性。 (P)四靜慮乃至四無色定。(P)八解脫乃至十遍處。(P)四念住乃至八聖道支。 P一切の菩薩摩訶薩行。(P諸佛の無上正等菩提。 (P)一切智乃至一切相智。(P)一切陀羅尼門、 一切三摩地門。 P頂流果乃至阿羅 (P) 室解脫

以ての故に、 至諸受。(9)舌界乃至諸受。(9)身界乃至諸受。(9)意界乃至諸受。(9)地界乃至識界。(9)無明乃至老死愁 斷無きが故なり。(9眼處乃至意處。(9色處乃至法處。(9眼界乃至諸受。(9耳界乃至諸受。(9鼻界乃 故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に四無礙解清淨なり。何を ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは四無礙解清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次に(の善現、 (9布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(9內空乃至無性自性空。(9)真如乃至不思議界。 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは四無礙解清淨は二無く二分無く別無く 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に四無礙解清淨なり。何を以

卷の第二百七十六

1 - C. S. ...

初分難信解品第三十四之九十五

不共法。(9無忘共法、恒住捨性。 (9)一切智乃至一切相智。 (9)一切陀羅尼門、一 **室解脱門乃至無願解脱門。(四菩薩の十地。(印五眼、六神通。(9佛の十力、** (g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)四念住乃至八聖道支。(g) (q)獨覺菩提。 (q)一切の菩薩摩訶薩行。 (の諸佛の無上正等菩提。 四無所畏大慈乃至十八佛 切三摩地門。(g頂流果

の故に、若しは一切智智清浄若しは色清浄岩しは大慈清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。

切智智清浄なるが故に色清浄、

色清淨なるが故に 大慈清淨なり。

何を以て

第三

切智智清郡…大慈清

に四無量の各各の清澤なるを (中国無量の各各の清澤なるが故 は、一別では、「一切智智清潔なるが故 浮……若一切智智清淨若 右も四の場合に準じ以下略出 二分無別無斷故 受想行識清淨大慈清淨無二無

(4)「善現一切智智清淨故色清 無礙解清淨なり。 右も中の場合の如く以下略出 受想行識清淨若四無礙解清淨 浮……若一切智智清淨若 一切智智清泽の故

+

以ての故に、 故なり。 ての故に、 無きが故なり。 (0)舌界乃至諸受。 若しは一切智智清淨若しは修清淨若しは佛の十力清淨は二無く二分無く別無く斷 (0) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、 若しは一 (O眼處乃至意意。(O色處乃至法處。(O眼界乃至諸受。(O耳界乃至諸受。(O鼻界乃 切智智清淨若しは受想行識清淨若しは佛の十力清淨は二無く二分無く (0)身界乃至諸受。(0)意界乃至諸受。(0)地界乃至識界。(0)無明乃至老死愁 (0)內室乃至無性自性空。 受想行識清淨なるが故に佛の十力清淨なり。 、別無く

卷の第二百七十五

初分難信解品第三十四之九十四

至諸受。即舌界乃至諸受。即身界乃至諸受。即意界乃至諸受。即地界乃至識界。即無明乃至老死愁 以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは四無所畏清淨は二無く二分無く別無く 故なり。 ての故に、 念住乃至八聖道支。 (0)預流果乃至阿羅漢果。 「無きが故なり。①眼處乃至意處。②色處乃至法處。②眼界乃至諸受。②耳界乃至諸受。②鼻界乃言 復た次に印善現、 () 真如乃至不思議界。 佛不共法。⑥無忘失法、恒住捨性。⑥一切智乃至一切相智。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に四無所畏清淨なり。 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは四無所畏清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 即布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に四無所畏清淨なり。 (0)苦聖諦乃至道聖諦。 (0)獨覺菩提。 の一切の菩薩摩訶薩行。 (O四靜慮乃至四無色定。(O八解脫乃至十 p內容乃至無性自性空。 の菩薩の十地。 の諸佛の無上正等菩提。 (0) (0) 五眼、 切陀維尼門、 向真如乃至不思議界。即苦 六神通。 (0) 切三 24 温處。 無所畏乃至 摩地 何 何を を以 (0)

前後と同意

【二】一切智智清淨の故に四 無所投清淨なり。 無所投清淨なり。 一無二分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」 方も(のの場合に準じ以下略出 方もで、以下略出

卷の第二百七十四

初分難信解品第三十四之九十三

乃至不思議界。 b 漢果。 血獨覺菩提。 聖道支、四空解脫門乃至無願 聖諦。 回布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。回內空乃至無性自性空。回眞如乃至不思議界。回苦聖諦乃至道 四舌界乃至諸受。四身界乃至諸受。四意界乃至諸受。四地界乃至識界。回無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは六神通清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 解脫門。 切智乃至 (m) 復た次に印善現、 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは六神通清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 切智智清淨なるが故に受想行職清淨、受想行職清淨なるが故に六神通清淨なり。 (n)四靜慮乃至四無色定。(n)八解脫乃至十遍處。 川菩薩の十地。 (I)眼處乃至意處。(I)色處乃至法處。(I)眼界乃至諸受。(I)耳界乃至諸受。(I)鼻界乃至諸受。 恒住捨性。 切相智。四 m苦聖諦乃至道聖諦。 四一切の菩薩摩訶薩行。四諸佛の無上正等菩提 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に六神通淸淨なり。 四一切智乃至 (n) 五眼、 切陀羅尼門、一切三摩地門。 解脫門。 m市施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多、m內容乃至無性自性空。 六神通。 一切相智。 四菩薩の十地。四六神通。 m四靜慮乃至四無色定m八解脫乃至十遍處、 回佛の十カ乃至十八佛不共法。 四一切陀羅尼門、一 (四四念住乃至八聖道支。(四) 空解脫門乃至無願 四預流果乃至阿羅漢果。 (四佛の十力乃至十八佛不共法。 切三摩地門。四頂流果乃至阿羅 四無忘失法、 (n)獨覺菩提。 m四念住乃至八 恒住捨性。 何を以ての 何を以て (m) 眞如 (n) (m)

復た次に心善現、 一切智智清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に佛の十力清淨なり。 何を以

口諸佛の無上正等菩提。

(m) 前巻と同意。

【一】一切智智清淨の故に六四通清淨なり。 第現一切智智清淨な色清淨品一切智智清淨な色清淨品一致名行騰清淨活一神通清淨紙 二無二分無別無斷故」 ニ無二分無別無斷故」 おもいの場合に準じ以下略出たもいの場合に準じ以下略出

【二】 一切智智清淨の故に佛の十力清淨なり。 の十力清淨なり。 受想行識清淨若佛十力清淨無 受想行識清淨若佛十力清淨無 三無二分無別無斷故」 二無二分無別無斷故」

(1)苦聖諦乃至道聖諦。(1)四靜慮乃至四無色定。(1)八解脫乃至十遍處。(1)四念住乃至八聖道支。 老死愁數苦憂惱。山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山眞如乃至不思議界。 身界乃至諸受。(1)舌界乃至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無明乃至 別無く斷無きが故なり。(1)眼處乃至意處。(1)色處乃至法處。(1)眼界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。 きが故なり。 以ての故に、 解脫門乃至 何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは菩薩の十地清淨は二無く二分無く 切智乃至一切相智。 復た次に①善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に菩薩の十地清淨なり。何を 無頭解脱門。山五眼・六神通。山佛の十力乃至十八佛不共法。山無忘失法・恒住捨性。 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは菩薩の十地清淨は二無く二分無く別無く斷無 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に菩薩の十地清淨なり。 山諸佛の無上正等菩提 (1)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(1)預流果乃至阿羅漢果。(1)獨覺菩提。 (l) (1)

著しは一切智智清淨著しは受想行識清淨著しは五眼清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 至諸受。四身界乃至諸受。四意界乃至諸受。四地界乃至識界。 故に、若しは 復た次に四善現、 眼處乃至意處。四色處乃至法處。四眼界乃至諸受。四耳界乃至諸受。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に五眼清淨なり。 一切智智清淨若しは色清淨若しは五眼清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に五眼清淨なり。 (m)鼻界乃至諸受。 何を以ての故に、 何を以ての (四) 舌界乃

| 限清浄なり。

(三) 一切智智清淨の故に五 神……若一切智智清淨故色清 釋……若一切智智清淨若 要表行識清淨若五眼清淨若 無二分無別無斷故 無二分無別無斷故 が、以下略出 方。(1)の場合の如く以下略出 す。(1)の場合の如く以下略出

()) 室解脱門・無顧解脱門。()) 菩薩の十地。()) 五眼·六神通。()佛の十カ乃至十八佛不共法。()無忘失 法·恒住捨性。i)一切智乃至一切相智。i)一切陀羅尼門·一切三摩地門。i)預流果乃至阿羅漢果。i) 界。①苦聖語乃至道聖語。①四靜慮乃至四無色定。①八解脫乃至十遍處。①四念住乃至八聖道支。 至老死然數苦憂惱。①布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。①內空乃至無性自性空。①真如乃至不思議 () 鼻界乃至諸受。()舌界乃至諸受。()身界乃至諸受。()意界乃至諸受。()地界乃至識界。()無明乃 無く別無く斷無きが故なり。()眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。 り。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは無相解脫門清淨は二無く二分 獨覺菩提。①一切の菩薩摩訶薩行。①諸佛の無上正等菩提。 無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に無相解脫門淸淨な

受。似鼻界乃至諸受。似舌界乃至諸受。似身界乃至諸受。似意界乃至諸受。 分無く別無く斷無きが故なり。必眼處乃至意處。必色處乃至法處。必眼界乃至諸受。以耳界乃至諸 斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に無願解脫門清淨 何を以ての故に、若しは一切著智清淨若しは色清淨若しは無願解脫門清淨は二無く二分無く別無く なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは無願解脫門清淨は二無く二 復た次に似。善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 無願解脫門清淨なり。

卷の第二百七十三

初分難信解品第三十四之九十二

性自性空。此真如乃至不思議界。似苦聖諦乃至道聖諦。以四靜慮乃至四無色定。以八解脫乃至十遍 以地界乃至識界。以無明乃至老死愁歎苦變惱。以布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。以內空乃至無

> > (378)

(は) 前巻の同意。

菩提。(h) 恒住捨性。由一切智乃至一切相智。 脱門乃至無願解脫門。山菩薩の十地。山五眼・六神通。 一切の菩薩摩訶薩行。 的諸佛の無上正等菩提 (h)一切陀羅尼門·一 山佛の十カ乃至十八佛不共法。 切三摩地門。的預流果乃至阿羅漢果。 h 無忘失法· (h) 獨覺

乃至睹受。() 舌界乃至諸受。()身界乃至諸受。() 意界乃至諸受。() 地界乃至識界。()無明乃至老死 く斷無きが故なり。(1)眼處乃至意處。(1)色處乃至法處。(1)眼界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。(1)鼻界(2) 愁歎苦憂惱。·()布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 が故なり。 以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは空解脫門清淨は二無く二分無く別無く斷無き を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨者しは空解脫門清淨は二無く二分無く別無 復た次に①善現、 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に空解脱門淸淨なり。 一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 空解脱門清淨なり。 何を 何

卷の第二百七十二

初分難信解品第三十四之九十一

神通。 八解脫乃至十遍處。()四念住乃至八聖道支。()無相解脫門・無願解脫門。()菩薩の十地。()五眼・六 (i)內空乃至無性自性空。(i)眞如乃至不思議界。(i)苦聖諦乃至道聖諦。 (i)佛の十力乃至十八佛不共法。(i)無忘失法・恒住捨性。(i)一切智乃至一切相智。(i)一切陀羅(s) 切三 摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。 ①獨覺菩提。①一切の菩薩摩訶薩行。 (i)四靜慮乃至四無色定。 (i)諸佛の無上 (i)

を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは無相解脫門清淨は二無く二分無く別無く斷 復た次に①善現、 一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 無相解脱門清淨なり。

初分雜信解品第三十四之九十、一

(i) 前卷と同意。

(1)「善現一切智智清淨・無相解計學治無相解脱門清淨無不高(1)の場合に準じ以下略出力。)「一切智智清淨治受想方。

セーセ

以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは七等覺支清淨は二無く二分無く別無く 至諧受。⑤舌界乃至諧受。⑤身界乃至諧受。⑤意界乃至睹受。⑤地界乃至識界。⑤無明乃至老死愁 断無きが故なり。⑤眼處乃至意處。⑤色處乃至法處。⑤眼界乃至諸受。⑤耳界乃至諸受。⑤鼻界乃

巻の第二百七十一

初分難信解品第三十四之九十

性。g)一切智乃至一切相智。g)一切陀羅尼門・一切三摩地門。g預流果乃至阿羅漢果。g獨覺菩提。 道聖諦。⑤四靜慮乃至四無色定。⑤八解脫乃至十遍處。⑤四念住乃至五力八聖道支。⑤空解脫門乃 gー切の菩薩摩訶薩行。 図諸佛の無上正等菩提。 图布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 图内空乃至無性自性空。 图真如乃至不思議界。 图苦聖諦乃至 解脱門。図菩薩の十地。図五眼・六神通。図佛の十力乃至十八佛不共法。図無忘失法・恒住捨

以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは八聖道支清淨は二無く二分無く別無く斷無き 苦聚諦乃至道聖諦。他四靜慮乃至四無色定。山八解晚乃至十遍處。山四念住乃至七等覺支。山空解 乃至諸受。山舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死 を以ての故に、若しは一切智智清淨者しは受想行識清淨者しは八聖道支清淨は二無く二分無く別無 が故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に八聖道支淸淨なり。何 復た次に山善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に「八聖道支清淨なり。何を 一無きが故なり。山眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山外界 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的

(g) 前巻と同意。

性。任一切智乃至一切相智。任一切陀羅尼門・一切三摩地門。任預流果乃至阿羅漢果。任獨覺菩提。 代四靜慮乃至四無色定。f八解脫乃至十遍處。f)四念住乃至五根七等覺支八聖道支。f)空解脫門乃 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。氏內室乃至無性自性空。氏真如乃至不思議界。氏苦聖諦乃至道聖諦。 至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦憂惱。 f)眼處乃至意處。f)色處乃至法處。f)眼界乃至諸受。f)耳界乃至諸受。f)鼻界乃至諸受。f)舌界乃 至無願解脫門。氏菩薩の十地。氏五眼・六神通。氏佛の十力乃至十八佛不共法。氏無忘失法・恒住捨 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは五力清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは五力清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清浄なるが故に受想行識清浄・受想行識清浄なるが故に五力清浄なり。何を以ての故に、 復た次に(「善現・一切智智清浄なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 五刀清淨なり。何を以ての 切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。 (f) 布

復た次に、図善現・ 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に七等覺支清淨なり。何を 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは七等覺支清淨は二無く二分無く別無く 一切智智清浄なるが故に色清浄・色清淨なるが故に 七等覺支清淨なり。 何を以 無きが

初分難信解品第三十四之八十九

淨………若一切智智清淨故色清 受想行識清淨若五力清淨無二 右も(6)の場合に同じく以下略 二分無別無斷故」 一切智智清淨…

淨………:若一切智智清淨故色清 右もげの場合の如く以下略出 受想行識清淨若七等覺支清淨 二無二分無別無斷故」

支清淨。

Ħ.

(1) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(1) 內室乃至無性自性空。(1) 真如乃至不思議界。(1) 苦聖諦乃至道 に 恒住捨性。d)一切智乃至一切相智。 聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解說乃至十遍處。山四念住・四正斷五根乃至八聖道支。山空解 舌界乃至諸受。(山身界乃至諸受。(山意界乃至諸受。(山地界乃至識界。(山無明乃至老死愁歎苦變惱。 なり。山眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。山 覺菩提。 (d) 脱門乃至無顯解脫門。は菩薩の十地。は五眼・六神通。は佛の十力乃至十八佛不共法。は無忘失法: 復た次には善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 若しは一切智智清浄若しは受想行識清浄若しは四神足清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に四神足清淨なり。 若しは一切智智清淨者しは色清淨者しは四神足清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 一切の菩薩摩訶薩行。 di諸佛の無上正等菩提。 (d)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨 四神足清淨なり。 何を以ての故 何を以

(e) 眼處乃至意處。 (e) 色處乃至法處。 (e) 眼界乃至諸受。 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは五根清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清浄なるが故に受想行識清浄・受想行識清浄なるが故に五根清浄なり。 復た次に回善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 五根清淨なり。 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは五根清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (6) 耳界乃至諸受。(6) 鼻界乃至諸受。(6) 舌界乃 何を以ての故に、 何を以ての

巻の第二百七十

至諸受。

初分難信解品第三十四之八十九

(b)「書現一切智智清淨故色清淨………若一切智智清淨若四神足清淨無一大名(のの場合に準じ以下略出す。) 一切智智清淨:四神足清淨無

(e) 「善規一切智智清浄法 浄……若一切智智清浄若 を想行護清淨若五根清淨若 大。(b)の場合の如く以下略出 す。) 一切智智清浄無二 大。 一切智智清浄無二

(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。 性。b)一切智乃至一切相智。b)一切陀羅尼門·一切三摩地門。b)預流果乃至阿羅漢果。b)獨覺菩提 無願解脫門。 至道聖部。 復た次に

に善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦聖諦乃 的四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四正斷乃至八聖道支。的空解脫門乃至 的菩薩の十地。 b五眼·六神通。b)佛の十カ乃至十八佛不共法。 b無忘失法・恒住捨

若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは 四正斷清淨は二無く 二分無く 別無く 斷無きが故な の故に、若しは一 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に四正斷清淨なり。何を以ての故に、 (C)眼處乃至意處。(C)色處乃至法處。 切智智清淨若しは色清淨若しは四正斷は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 四正斷淸淨なり。何を以て

卷の第二百六十九

初分難信解品第三十四之八十八

乃至十遍處。②四念住•四神足乃至八聖道支。②室解脫門乃至無願解脫門。②菩薩の十地。 乃至諸受。(中界乃至識界。(無明乃至老死愁歎苦憂憐。山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 羅尼門・一 空乃至無性自性空。(c)真如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至叫無色定。(c)八解脫 上正等菩提 六神通。 .眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。心舌界乃至諸受。心身界乃至諸受。 (6)佛の十力乃至十八佛不共法。(6)無忘失法・恒住捨性。(6)一切智乃至一切相智。(6)一切陀 切三摩地門。 (c)預流果乃至阿羅漢果。 (c) 獨覺菩提。 (の一切の菩薩摩訶薩行。(の諸佛の無 (c) 五眼· (c) 意界 (c) 內

(で)「警現一切智智清淨故色清淨………若一切智智清淨故色清淨:四正斷清淨素四正斷清淨無斷故」 大き (あ) の場合の如く以下略出す。 しの場合の如く以下略出す。

(c) 前巻と同意。

セーニ

初分難信解品第三十四之八十七、八

巻の第二百六十八

初分難信解品第三十四之八十七

(a) 舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a) 意界乃至諸受。(a) 地界乃至識界。(a) 無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 故なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは十遍處清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 至道聖諦。(4)四靜慮乃至四無色定。(4)八解脫乃至九次第定。(4)四念住乃至八聖道支。(4)卒解脫門乃 故に、若しは一切智智清淨 若しは 色清淨若しは十遍 處清淨は 二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に回善現・一 切の菩薩摩訶薩行。の諸佛の無上正等菩提 (a) (a) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a) 內空乃至無性自性空。(a) 真如乃至不思議界。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に十遍處清淨なり。 解脱門。は菩薩の十地。は五眼・六神通。 一切智乃至一切相智。(自一切陀羅尼門・一切三摩地門。(自預流果乃至阿羅漢果。(自獨覺菩提 切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に十遍處清淨なり。何を以ての (1)佛の十力乃至十八佛不共法。 a無忘失法·恒住捨 (a) 苦聖諦乃 何を以ての

なり。 の故に、 (b) が故なり。 の故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは四念住清淨は二無く二分無く別無く斷無き 。舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 復た次に的善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 一切智智清浄なるが故に受想行識清浄・受想行識清浄なるが故に四念住清浄なり。 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは四念住清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 的眼處乃至意處。的色處乃至法處。 的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的身界乃至諸受。 四念住清淨なり。 何を以て 何を以て

(三) 大に一切智智清野なるが故に三十七遺品の各各に就が故に三十七遺品の各各に就が故に三十七遺品の各各に就が故に三十七遺品の各名に就が故に三十七遺品の各名に就行。 (本) 「等現一切智智清淨法 (本) 「等現一切智智清淨法 (本) 「等現一切智智清淨法 (本) 「以下略出 一級二分無別無斷故」 一級二分無別無斷故」 一級二分無別無斷故」 一切智智清淨…四念住 清淨。

門乃至無願解脫門。回菩薩の十地。回五眼・六神通。回佛の十力乃至十八佛不共法。回無忘失法・恒 憐。(a) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a) 內空乃至無性自性空。(a) 真如乃至不思議界。(a) 苦聖諦乃(a) 古界乃至諸受。(a) 身界乃至諸受。(a) 意界乃至諸受。(a) 地界乃至識界。(a) 無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 故なり。 若しは 一切の菩薩摩訶薩行。 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。 (a四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫、九次第定十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。 切智乃至一切相智。 一切智智清浄岩しは受想行識清浄者しは八勝處清浄は二無く二分無く別無く斷無きが (a)諸佛の無上正等菩提 (a)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺 (a) 空解脫

なり。 諸受。的舌界乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。的地界乃至識界。的無明乃至老死愁數 恒住捨性。 脱門乃至無願解脫門。的菩薩の十地。 諦乃至道聖諦。 苦憂惱。 無きが故なり。的眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至 ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは九次第定清淨は二無く二分無く別無く斷 の故に、著しは一切智智清淨若しは色清淨若しは九次第定清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 復た次に的善現・一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に九次第定清淨なり。 (b) 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に九次第定清淨なり。何を以 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。 (b) 切の菩薩摩訶薩行。 切智乃至 的四靜慮乃至四無色定。的八解脫、八勝處十遍處。的四念住乃至八聖道支。 一切相智。 (b) 諸佛の無上正等菩提。 (b) (b) 五眼·六神通。 一切陀羅尼門· b佛の十カ乃至十八佛不共法。b 無忘失法・ 切三摩地門。的預流果乃至阿羅漢果。的獨 (b) 苦聖 (b) 空解 を以て

> 【二】 一切智智清淨の故に九次第定清淨なり。 (b) 「善現一切智智清淨故色清淨………若一切智智清淨若 受想行識清淨九次第定清淨無 で想行識清淨九次第定清淨無 で想行識清淨九次第定清淨無 で表二分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」

切の菩薩摩訶薩行。 切智乃至一切相智。② ②菩薩の十地。 ②諸佛の無上正等菩提。 一切陀羅尼門。一切三摩地門。⑵預流果乃至阿羅漢果。 区五眼·六神 ②佛の十力乃至十八佛不共法。②無志失法・恒住捨性。② (四) 獨覺菩提。

性。a)一切智乃至一切相智。 故なり。(4)眼處乃至意處。(4)色處乃至法處。(4)眼界乃至諸受。(4)耳界乃至諸受。(4)鼻界乃至諸受。 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは八解脫清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 至道聖諦。 故に、若しは一切智智清浄若して色清浄若しは八解脱清浄は二無く二分無く別 無願解脫門。 "復た次に回善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に八解脱清淨なり。何を以ての (4) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(4)內空乃至無性自性空。(4) 真如乃至不思議界。(4)苦聖諦乃 切の菩薩摩訶薩行。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に八解院清淨なり。何を以ての (4)四靜慮乃至四無色定。(4)八勝處乃至十遍處。(4)四念住乃至八聖道支。(4) 空解說門乃至 a)菩薩の十地。 (a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死 (a)諸佛の無上正等菩提。 (a)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。 (a)五眼·六神通。 (a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨 無く断無きが 愁數 故な

巻の第二百六十七

初分難信解品第三十四之八十六

故に、若しは た次に(a善現・一 切智智清浄なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に八勝處清淨なり。 一切智智清淨若しは色清淨若しは八勝處清淨は二無く二分無く別無く斷 切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に八勝處清淨なり。 何を以ての 何を以 ての

解脱清浄なり。 一切智智清浄の故に八

有 6 (a) 「薯块一切智智清净液色清净………若一切智智清净液。 一颗二分無阴無斷故」 二無二分無阴無斷故」 二無二分無阴無斷故」

布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。()內空乃至無性自性空。()真如乃至不思議界。()苦聖諦乃至道聖 界乃至諸受。以身界乃至諸受。以意界乃至諸受。以地界乃至識界。以無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故に、者しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは四無量清淨は二無く二分別無く斷無きが故な ツ四靜慮・四無色定。W八解脫乃至十遍處。W四念住乃至八聖道支。W空解脫門乃至無願解脫 少眼處乃至意處。(y色處乃至法處。(y)眼界乃至諸受。(y)耳界乃至諸受。(y)鼻界乃至諸受。 (y)

卷の第二百六十六

ツ菩薩の十地。

初分難信解品第三十四之八十五

諸佛の無上正等菩提。 (y)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(y)預流果乃至阿羅漢果。(y)獨覺菩提。(y)一切の菩薩摩訶薩行。 ()佛の十力乃至十八佛不共法。()無忘失法・恒住捨性。()一切智乃至 一切相智。 (y)

乃至道聖諦。《四靜慮・四無量。《八解脫乃至十遍處。《四念住乃至八聖道支。《空解脫門乃至無為 受。②舌界乃至諸受。②身界乃至諸受。②意界乃至諸受。②地界乃至識界。②無明乃至老死愁歎苦 り。一切智智清淨なるが故に受想行職清淨・受想行職清淨なるが故に四無色定清淨なり。 憂惱。②布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。②內空乃至無性自性空。②真如乃至不思識界。②苦聖諦 無きが故なり。②眼處乃至意處。色處乃至法處。②眼界乃至諸受。②耳界乃至諸受。②鼻界乃至諸 の故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識淸淨若しは 四無色定淸淨は二無く 二分無 ~ 別無~斷 の故に、若しは一切智智清浄若しは色清浄若しは四無定清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に回善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に四無色定清淨なり。 何を以て 何を以て

(す) 前後と同意

【一】 一切智智清浄の故に四 解色定清浄を明す。 図「善現一切智智清浄故色清 彩……若一切智智清浄故色清 祭祖行職清浄若四無世定清浄若 無二無二分無別無斷故一 無二無二分無別無斷故一 無二無二分無別無斷故一 大。()の場合の如く以下略出 す。()の場合の如く以下略出

卷の第二百六十五

初分難信解品第三十四之八十四

一切陀羅尼門・一切三摩地門。(※預流果乃至阿羅漢果。(※獨覺菩提。(※一切の菩薩摩訶薩行。 W五眼·六神通。 (W佛の十力乃至十八佛不共法。 W無忘失法·恒住捨性。W一切智乃至一切相智。 (w)

諸佛の無上正等菩提。 至道聖論。《四無量、四無色定。《八解脫乃至十遍處。》四念住乃至八聖道支。《空解脫門乃至無 (X) 舌界乃至諸受。 (X) 身界乃至諸受。 (X) 意界乃至諸受。 (X) 地界乃至識界。 (X) 無明乃至老死愁歎苦愛 故なり。②眼處乃至意處。②色處乃至法處。③眼界乃至諸受。③耳界乃至諸受。②鼻界乃至諸受。 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは四靜慮清淨は二無く二分無く別無く斷無きが Do の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは四靜慮清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 顧解脱門。②菩薩の十地。③五眼・六神通。②佛の十力乃至十八佛不共法。③無忘失法・恒住捨性。 切の菩薩摩訶薩行。 一切智乃至一切相智。《一切陀羅尼門·一切三摩地門。《預流果乃至阿羅漢果。《獨覺菩提。 (3)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(3)內空乃至無性自性空。(3)真如乃至不思議界。(3)苦聖諦乃 一た火に(図善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に四靜慮清淨なり。何を以て 切智智清浄なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に四靜慮清淨なり。何を以ての (x) 諸佛の無上正等菩提。 (X)

故に、若しは一切智智清浄若しは色清浄若しは四無量清浄は一無く二分無く別無く斷無きが故な 復な次にの善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に四無量清淨なり。 切智智清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清浄なるが故に四無量清浄なり。何を以ての 何を以ての

(w) 前巻と同意。

右も(x)の場合の如く以下略出 、大量清淨を明す。 一級工分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」

七〇七

集道聖諦。(V四靜慮乃至四無色定。(V八解脫乃至十遍處。(V四念住乃至八聖道支。(V室解脫門乃至集道聖諦。(V四靜慮乃至四無色定。(V八解脫乃至十遍處。(V四念住乃至八聖道支。(V室解脫門乃至 (以)舌界乃至諸學,以身界乃至諸受。(以意界乃至諸受。(以地界乃至識界。(以無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 無願解脫門。⑵菩薩の十地。⑵五眼・六神通。⑵佛の十力乃至十八佛不共法。⑵無忘失法・恒住恒 故なり。 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは滅聖諦清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な (V) 布施波羅 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは滅聖諮清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 切智智清浄なるが故に受想行識清浄・受想行識清浄なるが故に滅聖論清浄なり。何を以ての 一切陀羅尼門·一切三摩地門。 以服處乃至意處。以色處乃至法處。(V服界乃至諸受。(V)耳界乃至諸受。(V)鼻界乃至諸受。 蜜多乃至般若波羅蜜多。以內空乃至無性自性空。以真如乃至不思議界。 (V預流果乃至阿羅漢果。(V獨覺菩提。(V一切の菩薩摩訶薩行 (v) 苦聖

聖諦(W四靜慮乃至四無色定、W八解脫乃至十遍處。W四念住乃至八聖道支。W 空解脫門乃至無願解 なり。 w.舌界乃至諸受。w身界乃至諸受。w意界乃至諸受。w地界乃至識界。w無明乃至老死愁歎苦變惱 故なり。W眼處乃至意處。W色處乃至法處。W眼界乃至諸受。W耳界乃至諸受。W鼻界乃至諸受。 故に、著しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは道聖韶清淨は二無く二分無く別無く斷無きが ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは道聖諦清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 (ツ諸佛の無上正等菩提。 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。W內空乃至無性自性空。W真如乃至不思議界。 W復た次にW善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に w菩薩の十地 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に道聖論清淨なり。何を以ての 道聖諦清淨なり。何を以 (w)苦聖諦乃至滅

至道聖確。 切の菩薩摩訶薩行。(け諸佛の無上正等菩提。 切智乃至一切相智。 也四靜慮乃至四無色定。 (t)菩薩の十地。 け一切陀羅尼門・一切三摩地門。 (t)五眼·六神通。 (1)八解脫乃至十遍處。(1)四念住乃至八聖道支。(1)空解脫門乃至 ()佛の十力乃至十八佛不共法。()無忘失法・恒住捨 (t)預流果乃至阿羅漢果。 (世獨覺菩提

布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(1)內室乃至無性自性室。(1)真如乃至不思議界。(1)苦聖諦、 界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。 り。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは集聖韶清淨は二 無く二分無く 別無く 斷無きが 故な 故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは集聖諦清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に集聖諦清淨なり。何を以ての故に、 復た次に⑴善現・一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に集聖諦清淨なり。 (1)四靜慮乃至四無色定。(1)八解脫乃至十遍處。 山菩薩の十地。 山四念住乃至八聖道支。 (u) 空解脫門乃至無願 何を以ての 滅道聖 (u) 舌 (u)

卷の第二百六十四

初分難信解品第三十四之八十三

諸佛の無上正等菩提。 一切陀羅尼門・一切三摩地門。 (u)五眼·六神通。 (山佛の十力乃至十八佛不共法。(山無忘失法・恒住捨性。(山一切智乃至 心預流果乃至阿羅漢果。 (山)獨覺菩提。 wー切の菩薩摩訶薩行。 切相智。 (u)

復た次に(V) 善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 滅聖諦清淨なり。何を以て

(u) 前卷の同意。

(ツ)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若滅聖諦清淨無三無二分無別無斷故」右も旬の場合の如く以下略出す。

一切智智清淨…滅聖諦

卷の第二百六十三

初分難信解品第三十四之八十二

門。⑤菩薩の十地。⑤五眼・六神通。⑤佛の十力乃至十八佛不共法。⑤無忘失法・恒住捨性。⑤一切 菩薩摩訶薩行。の諸佛の無上正等菩提 智乃至一切相智。⑤一切陀羅尼門・一切三摩地門。⑤預流果乃至阿羅漢果。⑤獨覺菩提。⑤一切の (S四靜慮乃至四無色定。(S八解脫乃至十遍處。(S四念住乃至八聖道支。(S空解脫門乃至無願解脫

故なり。()眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()鼻界乃至諸受。 惱。(t) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(t) 內空乃至無性自性空。(t) 真如乃至不思議界。(t) 集聖諦乃 (h)舌界乃至諸受。(h)身界乃至諸受。(t)意界乃至諸受。(t)地界乃至識界。(t)無明乃至老死 愁 歎 苦 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行職清淨若しは苦聖諦清淨は二無く二分無く別無く斷無きが り。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に苦聖諦清淨なり。何を以ての の故に、若しは一切智智清浄若しは色清浄若しは苦聖諦清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に①善現・一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に苦聖諦清淨なり。何を以て

> 73.....若一切智智清淨若色清理論清淨を說く。 【二】一切智智清淨の故に四郎 前後と同意。 右も四の場合に準じ以下略出 受想行識清淨若苦聖諦清淨 切智智清淨…苦率豁

> > -(365)-

初分雖信解品第三十四之八十一。二

巻の第二百六十二

初分難信解品第三十四之八十一

門。(9菩薩の十地。 智乃至一切相智。 (中)四靜慮乃至四無色定。(9八解脫乃至十遍處。 (9四念住乃至八聖道支。 (9) 空解說門乃至無顯解脫 (p)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(p)預流果乃至阿羅漢果。(p)獨覺菩提。(p) (9)五眼·六神通。(P)佛の十力乃至十八佛不共法。(P)無忘失法·恒住捨性。 (p) 切 一切の

(r)舌界乃至諸受。(r)身界乃至諸受。(r)意界乃至諸受。(r)地界乃至織界。(r)無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 故なり。()眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()鼻界乃至諸受。 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは虚空界清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 乃至無顯解脫門。(『菩薩の十地。(『五眼・六神通。(『佛の十力乃至十八佛不共法。(『無忘失法・恆住る の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは虚空界清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な **諦乃至道聖諦。印四靜慮乃至四無色定。印八解脫乃至十遍處。印四念住乃至八聖道支。印空解脫門** 菩薩摩訶薩行。即諸佛の無上正等菩提。 提。ロー切の菩薩摩訶薩行。 復た次に()善現・一切智智清浄なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 虚空界清淨なり。何を以て 一切智智清浄なるが故に受想行識清浄・受想行識清浄なるが故に虚空界清浄なり。何を以ての (T)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(T)內容乃至無性自性空。(T)真如乃至實際不思議界。 一切智乃至一切相智。い一切陀羅尼門・一切三摩地門。い預流県乃至阿羅漢果。 (r)諸佛の無上正等菩提。 (r)獨覺菩 (r) 苦聖

ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは不思議界清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次に(5)善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 不思議界清淨なり。何を以

(1) 前巻と同意

(中「善現一切智智清浄故色清浄……若一切智智清浄若登鬼行識清浄若虚空界清淨若虚空界清淨若虚空界清淨無 一無二分無別無斷故」 右も(1)の場合に準じ以下略出 す。 一切智智清淨…虚空界

(1)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨治」無二無二無別無斷故」 右。」の場合の如〈以下略出方。」の場合の如〈以下略出方。」

- (364)-

門乃至無頗解脫門。即菩薩の十地。即五眼・六神通。即佛の十力乃至十八佛不共法。 施波維蜜多乃至般若波羅蜜多。即內室乃至無性自性空。即真如乃至法定實際處空界不思議界。 乃至諸受。即身界乃至諸受。即意界乃至諸受。即地界乃至識界。即無明乃至老死愁歎苦憂惱。 即眼處乃至意處。 即色處乃至法處。 即眼界乃至諸受。 即耳界乃至諸受。 即鼻界乃至済受。 即舌界 若しは一切智智清淨若 故に、若しは 一諦乃至道聖諦。(P)四靜慮乃至四無色定。(P)八解脫乃至十遍處。(P)四念住乃至八聖道支。(P)至解脫 切智智清浄なるが故に受想行識清浄・受想行識清淨なるが故に法住清淨なり。何を以ての故に、 た次に印善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に (p) (P)一切智乃至一切相智。 切の菩薩摩訶薩行。 一切智智清浄若しは色清浄若しは法住清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 しは受想行識清淨若しは法住清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (p)諸佛の無上正等菩提。 P一切陀羅尼門·一切三摩地門。P預流果乃至阿羅漢果。 法住清淨なり。 p無忘失法·恒 何を以ての (p) 苦

故に、 至諸受。(自身界乃至諸受。(自意界乃至諸受。(自地界乃至識界。(自無明乃至老死愁歎苦憂惱。 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは實際清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (q)眼處乃至意處。(q)色處乃至法處。(q)眼界乃至諸受。(q)耳界乃至諸受。(q)鼻界乃至諸受。(q)舌界乃(g) 切智智清浄なるが故に受想行識清浄・受想行識清浄なるが故に、實際清淨なり。何を以ての故に、 復た次に印善現・一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に實際清淨なり。 若しは 一切智智清淨若しは色清淨若しは實際清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (9內室乃至無性自性室。(9真如乃至法住虛容界不思議界。() 何を以ての (g)苦聖諦乃 (9)布施

淨……若一切智智清淨故色清 有ものの場合に準じ以下略出 受想行識清淨若法住清淨無二

右もPの場合に準じ以下略出 無二分無別無斷故 淨······若一切智智清淨若色清

(363)

切智智清淨:實際清

共法。问無忘失法·恒住捨性。 阿羅漢果。川獨覺菩提。川一切の菩薩摩訶薩行。川諸佛の無上正等菩提。 八聖道支。回室解脫門乃至無顯解脫門。回菩薩の十地。回五眼・ **空界不思議界。** (n) 布施波羅 回苦聖諦乃至道聖諦。回四靜慮乃至四無色定。四八解脫乃至十遍處。回四念住乃至 蜜多乃至般若波羅蜜多。四內空乃至無性自性空。 四一切智乃至一切相智。 (n) 一切陀羅尼門。一 六袖通。 川真如乃至平等性法定法住實際虚 切三摩地門山預流果乃至 印佛の十九乃至十八佛不

至諸受。〇身界乃至諸受。〇意界乃至諸受。〇地界乃至識界。 (O)眼處乃至意處。(O)色處乃至法處。(O)眼界乃至諸受。(O)耳界乃至諸受。(O)鼻界乃至諸受。(O)舌界乃(E) 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは法定清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 故に、若しは一切智智清浄若しは色清浄若しは法定清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清浄なるが故に受想行識清淨・受想行識清浄なるが故に法定清浄なり。 復た次に回善現・一切智智清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 蜜多乃至般若波羅蜜多。 ()無明乃至老死愁歎苦憂惱。 法定清淨なり。 何を以ての故に、 何を以ての (の布施

卷の第二百六十一

初分難信解品第三十四之八十

菩薩の十地。 靜意乃至四無色定。(6)八解脫乃至十遍處。 (6)四念住乃至八聖道支。 (6) 空解脫門乃至無願 (6)內空乃至無性自性空。(6)真如乃至離生性法住實際虛空界不思議界。 の諸佛の無上正等菩提。 (の五眼・六神通。 (の佛の十カ乃至十八佛不共法。 切陀羅尼門· 切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。 (o)無忘失法·恒住捨性。 ()獨覺菩提。 (0) 苦聖諦乃至道聖諦。 (0) (0)一切智乃至 切の菩薩摩 解脫門。 (o)

(の) 「善現一切智智清淨故色清 200 場合に準で以下略出無二分無別無論故」無多分無別無論故」無一分無別無論故」無一分無別無論故」まら(の場合に準じ以下略出せら(の場合に準じ以下略出せる)の場合に準じ以下略出せる。

(の) 前巻と同意。

D'o 乃至諸受。四身界乃至諸受。四意界乃至諸受。四地界乃至識界。四無明乃至老死愁歎苦憂惱 若しは一切智智清浄者しは受想行識清浄者しは平等性清浄は二無く二分無く 別無く 斷無きが 故な 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に平等性清淨なり。何を以ての故に、 復た次に伽善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に平等性清淨なり。何を以 (m.眼處乃至意處。)如色處乃至法處。(m.眼界乃至諸受。(m.耳界乃至諸受。)加鼻界乃至諸受。(m.舌界 若しは一切智智清浄若しは色清淨若しは平等性清淨は二無く二分無く斷無きが故なり。

巻の第二百六十

初分難信解品第三十四之七十九

住乃至八聖道支。M室解脫門乃至無願解脫門。M菩薩の十地。M五限・六神通。M佛の 八佛不共法。如無忘失法•恒住捨性。四一切智乃至一切相智。四一切陀羅尼門•一切三摩地門。四預 **離生性乃至不思議界。回苦聖諦乃至道聖諦。回四靜慮乃至四無色定。回八解脫乃至十遍處。回四念** 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。如內空乃至無性自性空。如真如·法界法性不虚妄性不變異性 (四獨覺菩提。) 一切の菩薩摩訶薩行。 四諸佛の無上正等菩提。 十力乃至十

(11) 故なり。 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは離生性清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは離生性清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 【舌界乃至諸受。川身界乃至諸受。川意界乃至諸受。山地界乃至識界。川無明乃至老死愁歎苦 復た次に回善現・一切智智清淨なるが故に色情淨・色清淨なるが故に 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に離生性清淨なり。 (m)眼處乃至意處。 (m)色處乃至法處。 (m)眼界乃至諸受。 (m)耳界乃至諸受。(m)鼻界乃至諸受。 離生性清淨なり。何を以て 何を以ての

(四)「善現一切智智清浄故色清淨………若一切智智清淨法色清淨出一分無別無斷故」 右も(1)の場合の如く以下略出 す。 一切智智清淨:平等性 清淨。

(四)「前巻と同意。

(1)「善現一切智智清淨故色清淨………若一切智智清淨若要也有識清淨若離生性清淨無三無二分無別無斷故」 一無二分無別無斷故」 一切智智清淨無 中間,一切智智清淨、華生性 一切智智清淨、華生性

初分雖信解品第三十四之七十九

籍受。以古界乃至諸受。以身界乃至諸受。以意界乃至諸受。

卷の第二百五十九

初分難信解品第三十四之七十八

佛不共法。以無忘失法•恒住捨性。以一切智乃至一切相智。以一切陀羅尼門•一切三摩地門。以預流 乃至八聖道支。似空解脫門乃至無願解脫門。似菩薩の十地。似五眼・六神通。似佛の十力乃至十八〇 果乃至阿羅漢果。似獨覺菩提。似一切の菩薩摩訶薩行。似諸佛の無上正等菩提 性乃至無性自性空。似苦聖諦乃至道聖諦。以四靜慮乃至四無色定。以八解脫乃至十遍處。以四念住 は地界乃至識界。心無明乃至老死愁歎苦變惱。心內空乃至無性自性空。心真如・法界法性不變異

乃至諸受。山舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死 性平等性乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山性平等性乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山 愁歎苦憂惱。山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山眞如・法界法性不虚妄 く斷無きが故なり。(1)眼處乃至意處。(1)色處乃至法處。(1)眼界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。(1)鼻界 を以ての故に、若しは一切智智清淨者しは受想行識清淨者しは不變異性清淨は二無く二分無く別無 以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは不變異性清淨は二無く二分無く別無く斷無き 預流果乃至阿羅漢果。山獨覺菩提。山一切の菩薩摩訶薩行。山諸佛の無上正等菩提。 十八佛不共法。山無忘失法•恒佳捨性。山一切智乃至一切相智。山一切陀羅尼門•一 念住乃至八聖道支。()|| 空解脱門乃至無顯解脱門。()|| 菩薩の十地。()| 五眼・六神通。()|| 佛の十力乃至 が故なり。 復た次に山善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 不變異性清淨なり。何を 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に不變異性清淨にり。何

(k) 前巻と同意。

(1)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若愛思行識清淨若不變異性清淨無二無二分無別無斷故」 有も以の場合の如く以下略出

性清淨。 世清淨:不變吳

聖道支。①室解脱門乃至無願解脫門。①菩薩の十地。 至不思議界。白苦聖諦乃至道聖諦。白四靜慮乃至四無色定。白八解脫乃至十遍處。白四念住乃至八至不思議界。白苦聖諦乃至道聖諦。白四靜慮乃至四無色定。白八解脫乃至十遍處。白四念住乃至八 í)無忘失法·恆住捨性。 (i)一切の菩薩摩訶薩行。 (1)一切智乃至相智。 () 諸佛の無上正等菩提。 (1)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (i) 五眼 ·六神通。 ①佛の十力乃至十八佛不共 (i)預流果乃至阿羅

部乃至道聖諦。 提。()一切 乃至無願解脱門。①菩薩の十地。①五眼・六神通。①佛の十力乃至十八佛不共法。①無忘失法・恆住 至諸受。()身界乃至諸受。()意界乃至諸受。()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦變惱。 ()眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()鼻界乃至諸受。()舌界乃() 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。()內空乃至無性自性空。()真如·法界不虚妄性乃至不思議界。 著しは一切智智清浄若しは受想行識清浄若しは法性清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 一故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは法性清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に法性清淨なり。 復た次に「許現、 (j) 一切智乃至一切相智。 の菩薩摩訶薩行。①諸佛の無上正等菩提。 (J四靜慮乃至四無色定。(J)八解脫乃至十遍處。(J)四念住乃至八聖道支。(J)空解脫門 一切智智清淨なるが故に色清淨、 ()一切陀羅尼門・一切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。()獨覺菩 色清浮なるが故に 法性清淨なり。 何を以ての故に、 何を以て ()苦聖 (j)布施

ての故に、 故なり。 無きが故なり。似眼處乃至意處。似色處乃至法處。似眼界乃至諸受。以耳界乃至諸受。以鼻界乃至 ての故に、 復た次に此善現、 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に不虚妄性清淨なり。何を以 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは不虚妄性清淨は二無く二分無く別無く斷 若しは 切智智清淨若しは色清淨若しは不虚失性清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 切智智清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に不虚妄性清淨なり。 何を以

> 淨……若一切智智清淨黃 右も川の場合の如く以下略出 受想行識清淨若法性清淨無二 二分別無斷故」

切智智清淨…法性清

右も「うの場合の如く以下略出 受想行識清淨若不虛妄性清淨 淨……若一切智智清淨若 山「善現一切智智清淨故色清 切智智清淨…下處妄

分雖信解品第三十四之七十六

豁受。山身界乃至諸受,山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。 眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。山舌界 摩訶薩行。 (h) 菩薩の十地。 四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山空解脫門乃至無願解脫門。 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは真如清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは色如清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清淨なるが故に受想行職清淨、受想行職清淨なるが故に真如清淨なり。何を以ての故に、若 復た大に山善現、 切相智。 山諸佛の無上正等菩提。 h一切陀羅尼門・一 山五眼・六神通。山佛の十カ乃至十八佛不共法。 切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 真如清淨なり。 h內室乃至無性自性室。 切三摩地門。山預流果乃至阿羅漢果。 的法性乃至不思議界。的苦聖諦乃至道聖諦。 的無忘失法·恒住捨性。 山獨覺菩提。山一切の菩薩 (h) 一切智乃至 (h) 布施波 何を以て

著しは一切智智清浄若しは受想行識清浄若しは法界清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 の故に若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは法界清淨は二無く二分無く別無く斷無さが故なり。 切智智清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清浄なるが故に法界清浄なり。 復た次に山善現、 處乃至意處。山色與乃至法處。 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に i) 眼界乃至諸受。i) 耳界乃至諸受。 法界清浄なり。 何を以ての故に、 何を以て

卷の第二百五十八

(1)鼻界乃至諸受。 () 舌界乃至諸受。() 身界乃至諸受。()意界乃至諸受。 ()布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。()內空乃至無性自性空。()真如、 (i)地界乃至識界。 (i) 無明

(1)「善現一切智智清淨歌色清淨……若一切智智清淨素出界清淨無二及想行識清淨若法界清淨無二及想行識清淨若法界清淨無二人無別無斷故」本も切の場合の如く以下略出す。

(1) 前巻と同意

性。(f)一切智乃至一切相智。 乃至道聖諦。任四靜慮乃至四無色定。任八解脫乃至十遍處。任四念住乃至八聖道支。任空解脫門乃 ff布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。ff內空乃至無性空無性自性空。ff真如乃至不思議界。 (f) 舌界乃至諸受。(f) 身界乃至諸受。(f) 意界乃至諸受。(f) 地界乃至識界。(f) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 無願解脫門。①菩薩の十地。①五眼・六神通。①佛の十カ乃至十八佛不共法。①無忘失法・恆住捨 f)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (f)預流果乃至阿羅漢果。 (f)獨覺菩提。 (f) 苦聖縮

無く別無く斷無きが故なり。以服處乃至意處。以色處乃至法處。以眼界乃至諸受。以耳界乃至諸受。 無きが故なり。 を以ての故に、若しは一切智智清淨者しは色清淨者しは無性自性空清淨は二無く二分無く別無く斷 復た次に図善現、 何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは無性自性空清淨は二無く二分 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に無性自性空清淨な 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に無性自性空清淨なり。 何

一切の菩薩摩訶薩行。①諸佛の無上正等菩提

卷の第二百五十七

初分難信解品第三十四之七十六

乃至老死愁歎苦變惱。 法·恆住捨性。⑤一切智乃至一切相智。⑤一切陀羅尼門·一切三摩地門。⑤預流果至乃阿羅漢果。 獨覺菩提。⑤一切の菩薩摩訶薩行。 解脱門乃至無願解脱門。図菩薩の十地。図五眼・六神通。 g苦聖諦乃至道聖諦。 (g) 异界乃至諸受。(g) 舌界乃至諸受。(g) 身界乃至諸受。(g) 意界乃至諸受。(g) 地界乃至識界。(g) 無明 ⑤四靜慮乃至四無色定。⑤八解脫乃至十遍處。⑤四念住乃至八聖道支。⑤空 以而施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。以內空乃至自性空。以真如乃至不思議界。 図諸佛の無上正等菩提 宮佛の十力乃至十八佛不共法。 g無忘失 (g)

受想行識清淨若 性自性空清淨……若一切智智清淨若 性空清辞。 右もばの場合の如く以下略出浮無二無二分無別無斷故」

一切智智清淨:無性自

(g) 前卷と同意。

初分難信解品第三十四之七十五、

六

(d) 獨覺菩提。 (d) 切の菩薩摩訶薩行。 (は)諸佛の 無上正等菩提。

が故なり、 の故に、 なり。 ての故に、 復た次に(e)善現、 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは無性空清淨は二無く二分無く別無く 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、 (e)眼處乃至意處。 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは無性空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 切智智清淨なるが故に色清淨、 (e) 色處乃至法處。 受想行識清淨なるが故に無性空清淨なり。 (e)眼界乃至諧受。 色清淨なるが故に (e)身界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。 無性空清浄なり。 何を以て 何を以

巻の第二百五十六

初分難信解品第三十四之七十五

(e)獨覺菩提。 失法·恒住捨性。 惱 ee室解脫門乃至無願解脫門。 (e) 舌界乃至諸受。 (e) (e)苦聖諦乃至道聖諦。 布施波羅蜜多乃至散若波羅蜜多。 (e)一切智乃至一切相智。(e)一切陀羅尼門·一 一切の菩薩摩訶薩。 (e) 身界乃至諸受。 (e)四靜慮乃至四無色定。 (e) 菩薩の十地。 (e)諸佛の無上正等菩提 (e) 意界乃至諸受。 (e)內室乃至不可得空自性空無性自性空。 (色五眼・六神通。()佛の十力乃至十八佛不共法。 (e)八解脫乃至十遍處。 (e)地界乃至識外。 切三摩地門。 (e) 無明乃至老死愁歎苦愛 e預流吳乃至阿羅漢果。 (e)四念住乃至八聖道子。 (0)真如乃至不! (e) 無忘

なり。 ての故に、 が故なり。 の故に、 復た次に任善現、 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、 若しは一 若しは一 f服處乃至意處。 (e) 切智智清淨若しは受想行識清淨若しは自性空清淨は二無く二分無く別無く斷無き 切智智清浄若しは色清浄若しは自性空清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故 一切智智清淨なるが故に色清淨。色清淨なるが故に 竹色處乃至法處。 f即果乃至諸受。f) 耳界乃至諸受。f) 鼻界乃至諸受。 受想行識清淨なるが故に自性空清淨なり。 自性空清淨なり。 何を以て 何を以

(6)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨故色清淨。 一切智智清淨:無性空清淨無一方も(1)、場合の如く以下略出す。 (1) 「一切智智清淨:無性空清淨無

(e) 前巻と同じ。

(1)「善現一切智智清淨故色清淨………若一切智智清淨若受思行識清淨若自性空清淨無受思行識清淨若自性空清淨無大。(の場合の如く以下略出方。(の場合の如く以下略出方。)「別一切智智清淨:

巻の第二百五十五

初分難信解品第三十四之七十四

乃至老死愁歎苦憂惱。 法·恆住捨性。 解聆門乃至無 (c) 苦聖諦乃至道聖諦。 (c) 鼻界乃至諸受。 願解脱門。は菩薩の十地。 一切の菩薩摩訶薩行。 (1)一切智乃至一切相智。 (0)舌界乃至諸受。 (6)內容乃至共相空不可得空無性空口性空無性自性空。 心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。 (C) 諸佛以無上正等菩提。 (c) 身界乃至諸受。 (c)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (c)五眼·六神通。 (C)意界乃至諸受。(C)地界乃至識界。 () 佛の十力乃至十八佛不共法。() 無忘失 (四念住乃至八聖道支。 ()預流果乃至阿羅漢果。 (0真如乃至不思議界。 (c) 無明 (c) 空 (e)

乃至八聖道支。 乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死() を以ての故に、 故なり。 以ての故に、 愁歎苦憂惱。 **孙乃至不思議界。(d) 苦聖諦乃至道聖諦。** 復た次には善現、 無きが故なり。d)眼處乃至意處。d)色處乃至法處。d)眼界乃至諸受。d)耳界乃至諸受。d) d無忘失法·恆住捨性。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、 (山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(山內空乃至一 若しは d。空解脫門乃至無願解脫門。 着しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは不可得空清淨は二無く二分無く別無 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 不可得空清淨なり。何を 切智智清淨若しは色清淨若しは不可得清淨は二無く二分無く別無く斷無きが (d) 一切智乃至 d四靜慮乃至四無色定。d八解脫乃至十遍處。d四念住 (d) 菩薩の十地。 切相智。 受想行識清淨なるが故に不可得容清淨なり。 d一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (d) 五眼·六神通。 切法空無性容自性空無性自性空。 は佛の十力乃至十八 (d) 預流 何

前卷と同意

(1)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨故色清淨二無二分無別無斷故」右も(この場合の如く以下略出す。

大九五

至十八佛不共法。 (4) 無忘失法·恆住捨性。 (a)四念住乃至八聖道支。 (8) (a) 預流果乃至阿羅漢果。 、布施波 (a)真如乃至不思議界。 (a) 獨覺菩提 (a) (a) 至解脫門乃至無願解脫門。 高苦聖諦乃至道聖諦。 多。 向內室乃至本性空共相空一切法室不可得空無性空自性空無性自 一切の菩薩摩訶薩行。 (a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門•一 (a四靜慮乃至四無色定。(a八解脫乃至十遍處。 (a) 菩薩の十地。 (a)諸佛の無上正等菩提 (a) 五眼·六神通。(a) 佛の 切三摩地 十九万

なり。 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 的舌界乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。 住乃至八聖道支。心容解脫門乃至無願解脫門。的菩薩 の故に、 ての故に、 流果乃至阿羅漢果。 八佛不共法。 が故なり。 眞如乃至不思議界。 復た次に的善現、 若しは一 切智智清浄なるが故に受想行識清淨、 (b) 眼 若しは一 的無忘失法·恆住捨性。 處乃至意處。 切智智清淨若しは受想行識清淨若しは共相空清淨は二無く二分無く別無く斷無き 切智智清浄若しは色清浄若しは共相空清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故 (b) 獨覺菩提。 的苦聖諦乃至道聖諦。 切智智清浄なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 的色處乃至法處。 (b) 的內容乃至自相空一切法空不可得空無性空自性空無性自性空。 (1)一切智乃至一 切の菩薩摩訶薩行。 的四靜度乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。 的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。 受想行識清淨なるが故に共相空清淨なり。 切相智。 的地界乃至識界。的無明乃至老死愁歎苦憂惱。 の十地。 的諸佛の無上正等菩提。 b)一切陀羅尼門·一切三摩地門 (b) 五眼・六神通。 共相空清淨なり。 の佛の十カ乃至十 何を以て (b) 何を以 (b) 預

(り)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若及一切智智清淨若其和空清淨無受想行識清淨若共和空清淨無受想行識清淨若共和空清淨無以下略出去。」一切智智清淨本色清淨。

を以ての故に、岩以ての故に、岩

(c) 善現、

若しは

切智智清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨なるが故に色清淨、色

切智智清浄なるが故に受想行識淸淨。

若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは一切法空清淨は二無く二分無く別無

受想行識清淨なるが故に

切法空清淨なり。

何

切法空清淨は二無く二分無く別無く

色清浄なるが故に

一切法卒清淨なり。

何を

佛の十カ乃至十八佛不共法。心無志失法・恆住捨性。心一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門・一切 十渦處。切四念住乃至八聖道支。切空解脫門乃至無願解脫門。切菩薩の十地。切五眼・六神通。 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內空乃至無變異空自相空共相空一切法空不可得空無性空自性 的舌界乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。的地界乃至識界。的無明乃至老死愁數苦憂惱。 室無性自性室。(b)真如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至 が故なり。的眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。 なり。 三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。し一切の菩薩摩訶薩行。し諸佛の無上正等菩提 の故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは本性空清淨は二無く二分無く別無く斷無き ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは本性空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 復た次に的善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に本性空清淨なり。何を以て 本性空清淨なり。何を以 (b)

卷の第二百五十四

初分難信解品第三十四之七十三

00 故なり。(4)眼處乃至意處。(4)色處乃至法處。(4)眼界乃至諸受。(4)耳界乃至諸受。(4)鼻界乃至諸受。 故に、著しは一切智智清淨著しは受想行識清淨著しは自相空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが (a)舌界乃至諸受。 (a)身界乃至諸受。 (a)意界乃至諸受。 (a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 ての故に若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは自相空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に自相空清淨なり。何を以ての 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 自相空清淨なり。 何を以

> 浮……若一切智智清淨若色清 右も河の場合の如く以下略田二無二分無別無斷故」 受想行識清淨若本性空清淨無

一切智智清淨… 本性空

清淨。一路出す。 受想行識清淨若自相空清淨若會,仍「善現一切智智清淨若自相空清淨若 二無二分無別無斷故」 も前卷(b)の場合の如く以下

一切智智清淨:

·共相空

神通。 尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。心一 解脫乃至十遍處。()四念住乃至八聖道支。() 空解脫門乃至無顧解脫門。 變異至乃至無性自性空。(1)真如乃至不思議界。(1)苦聖諦乃至道聖諦。(1)四靜慮乃至四無色定。(1)八 正等菩提。 (i)佛の十カ乃至十八佛不共法。(i)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。 切の菩薩摩訶薩行。 (i)菩薩の十地。 ()諸佛の無上 (i)五眼·六 (h)一切陀羅

巻の第二百五十三

初分難信解品第三十四之七十二

得宏無性空自性宏無性自性空。(4)真如乃至不思議界。(4)苦聖諦乃至道聖諦。(4)四靜慮乃至四無色定。 乃至諸受。(4)舌界乃至諸受。(4)身界乃至諸受。(4)意界乃至諸受。(4)地界乃至識界。(4)無明乃至老死 を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは無變異卒清淨は二無く二分無く別無 以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは無變異空清淨は二無く二分無く別無く斷無き (1) 八解脱乃至十温處。 (4) 四念住乃至八聖道支。 (4) 空解脫門乃至無願解脫門。 (4) 菩薩の十地。(4) 五眼・ 愁歎古憂惱。○布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。○內室乃至散室本性空自相空共相空一切法空不可 く斷無きが故なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a) が故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に無變異空清淨なり。河 羅尼門・一切三摩地門。(1)預流果乃至阿羅漢果。(1)獨覺菩薩。(1) 六神通。 復た次に田善現、 a佛の十力乃至十八佛不共法。 a無忘矢法 切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に ・恒住捨性。 (a) 一切智乃至一切相智。 切の菩薩摩訶薩行。 無變異空清淨なり。何を (a)諸佛の無 (a) 一切陀 鼻界

上正等菩提

(1)「善現一切智智清浄故色清浄………若一切智智清浄若受想行識清淨若無變異空清淨無二無二分無別無斷故」右も前卷(1)の場合の如く以下哈出す。

---(352)---

(g)

諸佛の無上正等菩提。

bo bo 山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空・外空內外空空空大空勝義空有爲空無爲空畢竟空散空乃 (h)舌界乃至諸受。(h)身界乃至諸受。(h)意界乃至諸受。(h)地界乃至談界。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 佛の十力乃至十八佛不共法。山無忘失法・恒住捨性。 十遍處。山四念住乃至八聖道支。山空解脫門乃至無願解脫門。山菩薩の十地。 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 K 三摩地門。的預流果乃至阿羅漢果。的獨覺菩提。的一切の菩薩摩訶薩行。的諸佛の無上正等菩提 至無性自性空。山真如乃至不思議界。 なり。 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨。 が故なり。 の故に、若しは一切智智清淨著しは受想行識清淨者しは無際空清淨は二無く二分無く別無く斷無き ての故に、 復た次に前善現、 復た次に山善現、 若しは一切智智清浄若しは受想行識清浄若しは散室清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故な 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、 .眼處乃至意處。①色處乃至法處。①眼界乃至諸受。①耳界乃至諸受。①鼻界乃至諸受。 切智智清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清浄なるが故に、無際空清浄なり。 h账處乃至意處。 若しは一 ()身界乃至諸受。 切智智清淨若しは色清淨若しは無際空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 切智智清淨なるが故に色清淨、 切智智清淨なるが故に色清浮、 h色處乃至法處。 (1)意界乃至諸受。 (i)內容·外容內外空空空大空勝義空有爲空無爲空畢竟空無際空無 的苦聖諦乃至道聖諦。 受想行識清淨なるが故に散空清淨なり。 若しは散空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。 (1)地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁歎苦變惱。 山一切智乃至一切相智。 色清浄なるが故に 色清淨なるが故に 山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至 山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至 散空清淨なり。 無際空清淨なり。 h一切陀羅尼門· (h) 五眼·六神 何を以ての故 何を以て 何を以て 何を以 (i) 舌 (i) (h)

> すっ 山「善現一切智智清淨故色清 右も(gの場合の如く以下略出 二無二分無別無斷故 受想行識清淨若無際空清淨無 淨……若一切智智清淨若

清泽。

す。 無二分無別無斷故」 淨……若一切智智清淨故色清 右も山の場合の如く 切智智清淨:: 以下略出 數空清

六九

初分難信解品第三十四之七十一

(f) 至十八佛不共法。①無忘失法・恒住捨性。①一切智乃至一切相智。①一切陀羅尼門・一切三摩地門。 四念住乃至八聖道支。(『空解脱門乃至無願解脱門。(『菩薩の十地。(『五眼・六神通。 空。任真如乃至不思議界。任苦聖諦乃至道聖諦。 f新施波 (f)舌界乃至諸受。(f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁數苦憂惱。 が故なり。 預流果乃至阿羅漢果。 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 f)眼處乃至意處。 f 獨覚菩提。f 一切の菩薩摩訶薩行。 (f)色處乃至法處。(f)眼界乃至諸受。 fp內空·外空內外空空空大空膝義空有為空畢竟空乃至無性自性 (0) (1)四靜慮乃至四無色定。(1)八解脫乃至十遍處。(1) (f) 諸佛の無上正等菩提 ff 耳界乃至諸受。ff 鼻界乃至諸受。 (が佛の十カ乃)

虚。 性自性空。⑤真如乃至不思議界。 留布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 B內空·外室內外空空空大空勝義空有爲空無爲空無際空乃至無 (A) 舌界乃至諸受。(B) 早界乃至諸受。(B) 意界乃至諸受。(B) 地界乃至識界。(B) 無明乃至老死愁歎苦變惱。 が故なり。 ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは畢竟空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 復た次に図善現、 宮四念住乃至八聖道支。 宮空解脫門乃至無願解脫門。 一切智智清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清浄なるが故に畢竟空清浄なり。何を以 若しは一切智智清淨者しは受想行職清淨者しは畢竟空清淨は二無く二分無く別無く斷無き ⑤眼處乃至意處。 g色處乃至法處。 g)眼界乃至諸受。 g)耳界乃至諸受。g)鼻界乃至諸受。 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に (8苦聖諦乃至道聖諦。) ⑤四靜慮乃至四無色定。⑤八解於乃至十遍 図菩薩の十地。 畢竟空清淨なり。 何を以

卷の第二百五十二

初分難信解品第三十四之七十

(g佛の十力乃至十八佛不共法。 (g無忘失法・恒住拾性。 第一切智乃至一切相智。

(8)「善現一切智智清浄故色清浄………若一切智智清浄若受想行識清淨若畢竟空清淨無受想行識清淨若畢竟空清淨無可以下略出す。」一切智智清淨…畢竟空青淨。

(350)

(g)

羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

(e)舌界乃至諸受。(e)身界乃至諸受。(e)意界乃至諸受。 故なり。 ての故に著しは一切智智清淨若しは色清淨若しは有爲空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に(e)善現、 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に有爲空清淨なり。 若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨者しは有爲空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが (e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。 切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 有爲空清淨なり。 何を以ての 何を以

卷の第二百五十一

初分難信解品第三十四之七十

薩の一地。 內外空空空大空勝義空無為空乃至無性自性空。@真如乃至不思議界。@苦聖諦乃至道聖諦。 慮乃至四無色定。◎八解脫乃至十遍處。◎四念住乃至八聖道支。@空解脫門乃至無願解脫門。 ⑤ (e) 地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空·外空 (e) 諸佛の無上正等菩提。 (e) 一切陀羅尼門·一切三摩地門。(e) 預流果乃至阿羅漢果。(e) 獨覺菩提。(e) (e) 五眼·六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法·恒住捨性。(e)一切智乃至(e) 一切の菩薩摩訶 (e) 川静 (e) 菩

の故に、著しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは無爲空清淨は二無く二分無く別無く斷無き 復た次に任善現、 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは無爲空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 受想行識清淨なるが故に無爲空清淨なり。 無爲空清淨なり。 何を以て 何を以

(の) 前巻と同意。

何淨。 一切智智清淨:無爲空

六八九

初分難信解品第三十四之六十九、七十

(O服處乃至意處。(O色處乃至法處。(O服界乃至諸受。(O耳界乃至諸受。(O鼻界乃至諸受。

卷の第二百五十

9分難信解品第三十四之六十九

法。@無忘失法·恒住捨性。@一切智乃至一切相智。@一切陀羅尼門·一切三摩地門。@預流果乃至 聖道支。 () 室解脱門乃至無願解脫門。 () 菩薩の十地。 () 五眼・六神通。 () 佛の十力乃至十八佛不共 至不思議界。ⓒ苦聖齡乃至道聖諦。ⓒ四靜慮乃至四無色定。ⓒ八解脫乃至十遍處。ⓒ四念住乃至八至不思議界。ⓒ苦聖齡乃至道聖諦。ⓒ四靜慮乃至四無色定。ⓒ八解脫乃至十遍處。ⓒ四念住乃至八 阿羅漢果。(『獨覺菩提。()一切の菩薩摩訶薩行。(()諸佛の無上正等菩提。 (e)香界乃至諸受。(e)身界乃至諸受。(e)意界乃至諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂 心布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空・外空內外空空空勝義空乃至無性自性空。 (c) 真如乃

なり。 d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。d)內容·外空內外空空空大空有爲空乃至無性自性空。d)真如乃 (d) 舌界乃至諸受。(d) 身界乃至諸受。(d) 意界乃至諸受。(d) 地界乃至識界。(d) 無明乃至老死愁歎苦變惱。 が故なり。は眼處乃至意處。は色處乃至法處。は眼界乃至諸受。は耳界乃至諸受。は鼻界乃至諸受。 法。di無忘失法·恒住捨性。 至不思議界。母苦聖諦乃至道聖諦。母四靜慮乃至四無色定。母八解脫乃至十遍處。母四念住乃至八至不思議界。母苦聖諦乃至道聖諦。母四靜慮乃至四無色定。母八解脫乃至十遍處。母四念住乃至八 の故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識淸淨若しは勝義空淸淨は二無く二分無く別無く斷無き ての故に、 復た次には善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 一切智智清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清淨なるが故に勝義空清淨なり。 は容解脱門乃至無願解脱門。は菩薩の十地。は五眼・六神通。 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは勝義空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 一切智乃至一切相智。山一切陀羅尼門・一切三摩地門。山預流果乃至阿 は佛の十カ乃至十八佛不共 勝義空清淨なり。 何を以て 何を以

(で) 前巻と同意。

(4)「善現一切智智清浄紙祭……若一切智智清浄紙祭。」「切智智清浄紙の加く以下時田方も()の場合の加く以下時田方も()の場合の加く以下時田方も()の場合の加く以下時田方。」「加智智清浄紙の場合の加く以下時田方。」「加智智清浄紙の場合の加く以下時田方。」「加智智清浄紙の場合の加く以下時田方。」「加智智清浄紙の場合、

乃至無願解脫門。白菩薩の十地。白五眼・六神通。 捨性。(a) 語乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門(a) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。自內空・外空空空乃至無性自性空。自真如乃至不思議界。 (a) 一切の菩薩摩訶薩行。 切智乃至一 一切相智。 a諸佛の無上正等菩提。 (a)一切陀羅尼門。一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。 a佛の十カ乃至十八佛不共法。a無忘失法・恒住 (a)獨覺菩 (a) 苦聖

諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 捨性。b一切智乃至一切相智。 乃至無願解脫門。心菩薩の十地。心五眼・六神通。 諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門(a) 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內空、外空內外空大空乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦聖 眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。心舌界乃至 は一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは空空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に空空淸淨なり。何を以ての故に、若 (b) た次にbi善現、 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは空空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切の菩薩摩訶薩行。 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に (b)諸佛の無上正等菩提。 b一切陀羅尼門·一切三摩地門。b)預流果乃至阿羅漢果。b)獨覺菩 (b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住 空空清淨なり。 何を以ての (b) 布施波

の故に、若しは 切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に大空清淨なり。 復た次にに善現、 は 一切智智清淨著しは受想行識清淨若しは大空淸淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 一切智智清淨若しは色清淨若しは大空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり 一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 大空清淨なり。何を以て 何を以ての故に、

> 受想行識清淨若空空清淨無二 右も川の場合の如く以下略出 二分無別無 切智智清淨…空空清

淨……若一切智智清淨故色清 無二分無別無斷故 受想行識清淨若大空清淨無二 心の場合の如く以下略出

第三 切智智清淨…大空清

右も

大八七

聖諦。心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至無願 諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 しは一切智智清淨者しは受想行識清淨者しは外空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。心 故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは外空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空・內外空乃至無性自性空。心眞如乃至不思議界。心苦聖諦乃至道 眼鬼乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。心舌界乃至 一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。心一 一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に外空清淨なり。何を以ての故に若 復た次に

切善現・一切智智清淨なるが故に

色清淨なるが故に

外容清淨なり、 (b) 菩薩の十地。 心諸佛の無上正等菩提。 b) 五眼·六神通。心佛の十カ乃至十八佛不共法。心無忘失法·恒住捨性。b) 何を以ての (1) 布施波

卷の第二百四十九

初分難信解品第三十四之六十八

り。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に內外空清淨なり。何を以ての故 界乃至諸受。(4)身界乃至諸受。(4)意界乃至諸受。(4)地界乃至識界。(4)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 なり。(山眼處乃至意處。(山色處乃至法處。(山眼界乃至諸受。(山耳界乃至諸受。(山鼻界乃至諸受。(山舌 に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは內外空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 の故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは內外空清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に(自善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一内外空清淨なり。何を以て (a)

(b)「善現一切智智清澤故色流浮……若一切智智清澤若外空清淨素二受想行識清淨若外空清淨素二大多無別無斷故」「一切智智清淨、外空清淨素二十寸。」「切智智清淨、外空清淨。

(4) 書現一切智智清淨社色清淨………若一切智智清淨若及想行識清淨若內外空清淨無受想行識清淨若內外空清淨無受想行識清淨若內外空清淨無受想行識清淨若內外空清淨無可以下略出す。

道支。印室解脫門乃至無願解脫門。印菩薩の十地。印五眼・六神通。印佛の十カ乃至十八佛不共法。 C 無忘失法·恒住捨性。(r)一切智乃至一切相智。(r)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(r)預流果乃至阿羅 不思議界。(『苦聖諦乃至道聖諦。(『四靜慮乃至四無色定。(『八解脫乃至十遍處。(『四念佳乃至八聖不思議界。(『苦聖諦乃至道聖諦。(『四靜慮乃至四無色定。(『八解脫乃至十遍處。(『四念佳乃至八聖 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 豁受。(I) 桑界乃至諸受。(I) 舌界乃至諸受。(I) 身界乃至諸受。(I) 意界乃至諸受。(I) 地界乃至識界。(I)

卷の第二百四十八

漢果。(r獨覺菩提。

(r)一切の菩薩摩訶薩行。(r)諸佛の無上正等菩提。

初分難信解品第三十四之六十七

(4)四靜慮乃至四無色定。(4)八解脫乃至十遍處。(4)四念住乃至八聖道支。(4)空解脫門乃至 至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦憂惱。自布施 (A)眼處乃至意處。(A)色處乃至法處。(A)眼界乃至諸受。(A)耳界乃至諸受。(A)鼻界乃至諸受。(A)舌界乃(B) 若しは一切智智清浄若しは受想行識清浄者しは内空清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。四外空乃至無性自性空。回真如乃至不思議界。回苦聖諦乃至道聖諦。 故に、若しは一切智智清淨害しは色清淨害しは內室清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切智智清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に內空清淨なり。何を以ての故に、 復た次に(3)善現、一切智智清淨なるが故に色淸淨、色淸淨なるが故に 内空淸淨なり。何を以ての (a) 菩薩の十地。(a) 五眼・六神通。(a) 佛の十力乃至十八佛不共法。(a) 無志失法・恒住捨性。(a) 一切 切相智。 a)諸佛の無上正等菩提。 (a) 切陀羅尼門· 一切三摩地門。《預流果乃至阿羅漢果。《獨覺菩提。 無 (a) 一切の 願解脫

空等十八空の各各の清淨を脱し、一」一切智智清淨の故に內

(345)-

(4)「善現一切智智清淨故色清淨………若一切智智清淨若 受想行識清淨若內空清淨無二 受想行識清淨若內空清淨無二 Ξ 右も前巻中の場合の如く以下 略出す。 一切智智清淨…內空清

等。

大八五

初分難信解品第三十四之六十六、七

浮なり。 を以ての故に,若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは淨戒波羅蜜多清淨は二無く二分無く別無く く二分無く別無く斷無きが故なり。(q眼處乃至意處 斸無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に淨戒波羅蜜多清 復た次に(9善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは淨戒波羅蜜多清淨は二 浄戒波羅蜜多凊淨なり。 何

卷の第二百四十七

初分難信解品第三十四之六十六

乃至四無色定。(9八條脫乃至十遍處。(9四念住乃至八聖道支。(9空解脫門乃至無願解脫門。 (9菩薩 乃至般若波羅蜜多。四內空乃至無性自性空。回真如乃至不思議界。回苦聖諦乃至道聖諦。四四靜慮 乃至諸受。(q意界乃至諸受。(g)地界乃至識界。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(q)布施波羅蜜多·安忍(g) の諸佛の無上正等菩提。 智。(9)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(9預流果乃至阿羅漢果。(9獨覺菩提。(9)一切の菩薩摩訶薩行。 (9)色處乃至法處。(9)眼界乃至諸受。(9)耳界乃至諸受。(9)鼻界乃至諸受。(9)舌界乃至諸受。(9)身界 (9)五眼·六神通。(9)佛の十カ乃至十八佛不共法。(9)無忘失法·恒住捨性。 (9)一切智乃至一切相

なり。 断無きが故なり。一切智智清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清浄なるが故に布施波羅蜜多清淨 を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは布施波羅蜜多清淨は二無く二分無く別無く 二分無く別無く斷無きが故なり。印服處乃至意處。印色處乃至法處。印眼界乃至諸受。印耳界乃至 復た次に

に善現、

一切智智清浮なるが故に

色清浮、色清浮なるが故に 何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは布施波羅蜜多清淨は二無く 布施波羅蜜多清淨なり。 何

(四「薯現一切智智清静故色清静……若一切智智清静高益」清浄無二無二分無別無斷故」 おも (1)の場合に準じ以下略田

基蜜多清淨。 「四智智清淨…淨戒波

(引 前巻と同意。

()「善現一切智智清浮放色清 静……よ…若一切智智清浮放色清 海無二条二分無別無斷故」 右も④の場合の如く以下略出 す。

当 一切智智清淨···布施波

初分難信解品第三十四之六十五

切智乃至一切相智。 諦。 (6)四靜慮乃至四無色定。 (6)八解脫乃至十遍處。 (6)四念住乃至八聖道支。 (6)空解脫門乃至無願解語。 (6) 脱門。(0) 多乃至安忍靜慮般若波羅蜜多。〇內空乃至無性自性空。〇眞如乃至不思議界。〇苦聖 (()身界乃至諸受。(()意界乃至諸受。(()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦憂惱。()布施波羅蜜 菩薩の十地。②五眼・六神通。②佛の十力乃至十八佛不共法。②無忘失法・恒住捨性。② の諸佛の無上正等菩提 (o)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(o)預流果乃至阿羅漢果。(o)獨覺菩提。(o)一切 一諦乃至 道

(P無忘失法·恒住捨性。(P)一切智乃至一切相智。(P)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(P預流果乃至阿羅 支。()) 室解脱門乃至無願解脫門。()) 菩薩の十地。()) 五眼・六神通。()) 佛の十カ乃至十八佛不共法。 議界。即苦聖諦乃至道聖諦。即四靜慮乃至四無色定。即八解脫乃至十遍處。即四念住乃至八聖 死愁歎苦憂惱。即布施波羅蜜多淨戒精進乃至般若波羅蜜多。即內空乃至無性自性空。即真如乃至不思 印鼻界乃至諸受。即舌界乃至諸受。即身界乃至諸受。即意界乃至諸受。即地界乃至職界。即無明乃至老 分無く別無く斷無きが故なり。即眼處乃至意處。即色處乃至法處。即眼界乃至諸受。即耳界乃至諸受。 なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは安忍波羅蜜多清淨は二無く二 を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは安忍波羅蜜多清淨は二無く二分無く別無く 漢果。 (P)獨覺菩提。 (P)一切の菩薩摩訶薩行。 (P)諸佛の無上正等菩提。 斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に安忍波羅蜜多清淨 復た次に即善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に安忍波羅蜜多清淨なり。何

> 右も〇の場合の如く以下略出清淨無二無二分無別無斷故」 浮………若一切智智清淨若 受想行識清淨若安忍波羅蜜多

極蜜多清淨。

初分難信解品第三十四之六十五

上正等菩提。

支。(11) を以ての故に若しは一 至老死愁歎苦憂惱。回布施波羅蜜多乃至精進般若波羅蜜多。回內空乃至無性自性空。回真如乃至不 四鼻界乃至諸受。四舌界乃至諸受。四身界乃至諸受。四意界乃至諸受。四地界乃至識界。四無明乃 無く別無く斷無きが故なり。 り。何を以ての故に、者しは一切智智清浄若しは受想行識清淨者しは靜慮波羅蜜多清淨は二無く二分 無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に靜慮波羅蜜多清淨な 回無忘失法·恒住捨性。 思議界。川苦聖諦乃至道聖諦。 復た次に回善現、一切智智清浄なるが故に色清淨、色清淨なるが故に、靜慮波羅蜜多清淨なり。 、空解脱門乃至無願解脱門。四菩薩の十地。四五眼・六神道。 切智智清淨若しは色清淨若しは靜慮波羅蜜多清淨は二無く二分無く別無く 四一切智乃至一切相智。四一切陀羅尼門•一 回眼處乃至意處。回色處乃至法處。 回四靜慮乃至四無色定。四八解脫乃至十遍處。回四念住乃至八聖道 (四,眼界乃至諸受。)) 耳界乃至諸受。 切三摩地門。 回佛の十カ乃至十八佛不共法。 四預流果乃至阿羅 何

漢果。 浮なり。 く二分無く別無く斷無きが故なり。〇眼處乃至意處。〇色處乃至法處。〇眼界乃至諸受。〇耳界乃 を以ての故に、 断無きが故なり。一切智智清浄なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に精進波羅蜜多清 復た次にの善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に (n) 獨覺菩提。 何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは精進波羅蜜多清淨は二無 若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは精進波羅蜜多清淨は二無く二分無く別 四一切の菩薩摩訶薩行。四諸佛の無上正等菩提。 () 舌界乃至諸受。 精進波羅蜜多清淨なり。 何

(四「善現一切智智清彦故色礼得………若一切智智清彦若彦 変想行識清彦若彦康波羅蜜多受想行識清彦若彦康波羅蜜多受想行職清彦若の如く以下略出方も(四の場合の如く以下略出

程蜜多清淨。

(の)「善現一切智智清郡故色清澄……若一切智智清郡故色清澄無二無二分無別無斷故」右も山の場合の如く以下略出右も山の場合の如く以下略出す。

六八十

(1)眼界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。(1)鼻界乃至諸受。(1)舌界乃至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃 切三摩地門。(1)預流果乃至阿羅漢果。(1)獨覺菩提。(1)一切の菩薩摩訶薩行。 山佛の十 至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山室解脫門乃至無願解脫門。山菩薩の十地。山五眼・六神通。 乃至無性自性空。山真如乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃 力乃至十八佛不共法。(1)無忘失法•恒住捨性。(1)一切智乃至一切相智。(1)一切陀羅尼門•一 (1) 地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁歎苦變惱。(1) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (1)內空

至諧受。《與界乃至諧受。《四舌界乃至諧受。《四身界乃至諸受。 く二分無く別無く断無きが故なり。四眼處乃至意處。四色處乃至法處。四眼界乃至諸受。四耳界乃 浄なり。何を以ての故に、若しは一切智智清浄若しは受想行識清淨若しは般若波羅蜜多清淨は二無 を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは般若波羅蜜多清淨は二無く二分無く別無く [無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識淸淨なるが故に般若波羅蜜多淸 復た次に四善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 般若波羅蜜多清淨なり。 何

卷の第二百四十五

初分難信解品第三十四之六十四

四八解脱乃至十遍處。m四念住乃至八聖道支。m 空解脱門乃至無願解脫門。m 菩薩の十地。m 五眼・m 羅尼門・一切三摩地門。 血預流果乃至阿羅漢果。 血獨覺菩提。 m一切の菩薩摩訶薩行。 m諸佛の無 六神通。 (m)意界乃至諸受。(m)地界乃至職界。(m)無明乃至老死愁歎苦憂憐。(m)布施波維密 (m內容乃至無性自性空。(m眞如乃至不思議界。(m苦聖諦乃至道聖諦。)(m四靜慮乃至四無色定。 m佛の十力乃至十八佛不共法。m無忘失法·恒住捨性。m 一切智乃至 切相智。(m) 多乃至靜 切陀

(二) 一切智智清淨の故に大波羅蜜各々清淨を明す。 一切智智清淨和故に大海雞生子。 一切智智清淨和色清 一切智智清淨故色清 一切智智清淨故色清 一切智智清淨故色清 一切智智清淨故色清 一切智智清淨故色清 一切智智清淨。 一切智智清淨。

(m) 前巻と同意

界乃至諸受。以耳界乃至諸受。以身界乃至諸受。 故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、若しは一切の菩薩摩訶薩行清淨若しは受想行識清淨若し 無く別無く斷無きが故なり。 復た次に以善現、二 何を以ての故に、 智 智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 若しは一切の菩薩摩訶薩清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分 切の菩薩摩訶薩行清泽なるが故に色清淨、 切の菩薩摩訶薩淸淨なるが故に受想行識淸淨、受想行識淸淨なるが 以眼處乃至意處。 似色處乃至法處。 似眼 色清浄なるが故に一 切智智清浄な

卷の第二百四十四

初分難信解品第三十四之六十三

惱。以布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。以內空乃至無性自性空。以眞如乃至不思議界。以苦望諦 至道聖諦。 無願解脫門。 (k) 。古界乃至諸受。以身界乃至諸受。以意界乃至諸受。以地界乃至識界。以無明乃至老死愁歎苦憂。 切智乃至一 k)菩薩の十地。 切相智。 似五眼・六神通。 に佛の十カ乃至十八佛不共法。 に無忘失法・恒住 (k) 切陀羅尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。 乃多

分無く別無く斷無きが故なり。 た次に山善現、 何を以ての故に、 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。()・眼處乃至意處。() 色處乃至法處 切智智清淨なり。 諸佛の無上正等菩提清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 若しは諸佛の無上正等菩提清淨若しは色清淨若しは一 何を以ての故に、 諸佛の無上正等菩提清淨なるが故に受想行識淸淨、 若しは諸佛の無上正等菩提清淨若しは受想行識清 切智智清淨は二無く二 切智智清浄な

似諸佛の無上正等菩提。

【三】一切の菩薩原河薩行清 珍を明す。 (以「善現一切菩薩原河薩行清 孫政色清淨………若一切菩 藤原河薩行清淨若受想行護清 無別無断故」 右も())の場合の如く以下略出

は前後と同意。

(1)「喜現諸佛無上正等菩提清豫故色清淨……若諸佛無上正等菩提清淨若受想行識清 上正等菩提清淨若受想行識清 不も いの場合と同じく以下略

卷の第二百四十三

初分難信解品第三十四之六十二

忘失法·恒住捨性心一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門·一切三摩地門。心預流果乃至不還果。心 乃至老死愁歎苦憂惱。山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山真如乃至不思 獨覺菩提。()一切の菩薩摩訶薩行。 ① 容解脱門乃至無願解脫門。 ① 菩薩の十地。 ① 五眼・六神通。 ① 佛の十力乃至十八佛不共法。 ① 無 議界。(1) 苦聖諦乃至道聖諦。(1) 四靜慮乃至四無色定。(1) 八解脫乃至十遍處。(1) 四念住乃至八聖道支。 鼻界乃至諸受。(i)舌界乃至諸受。(i)身界乃至諸受。(i)意界乃至諸受。(i)地界乃至識界。(i)無明(c) (i) 諸佛の無上正等菩提。

なり。 諦乃至道聖諦。(j)四靜慮乃至四無色定。(j)八解脫乃至十遍處。(j)四念住乃至八聖道支。(j)空解脫門(w) 諸受。(j)舌界乃至諸受。(j)身界乃至諸受。(j)意界乃至諸受。(j)地界乃至諸受。(j)無明乃至老死愁敷 無きが故なり。①眼處乃至意處。①色處乃至法處。①眼界乃至諸受。①耳界乃至諸受。①鼻界乃至 捨性。()一切智乃至一切相智。()一切陀羅尼門・一切三摩地門。()頂流果乃至阿羅漢果。()一切の 乃至無願解脫門。汀菩薩の十地。汀五眼・六神通。 苦憂惱。①布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。①內容乃至無性自性空。①眞如乃至不思議界。①苦聖 ての故に、若しは獨覺菩提清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 の故に、 復た次に①善現、獨覺菩提清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 獨覺菩提清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以 若しは獨覺菩提清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 ()佛の十力乃至十八佛不共法。()無忘失法・恒住

(1) 前巻と同電。

-(339)-

菩薩摩訶薩行。①諸佛の無上正等菩提。

初分雖信解品第三十四之六十二

住乃至八聖道支。 流果·不遠阿羅漢果。因獨覺菩提。 八佛不共法。⑤無忘失法・恒住捨性。⑤一切智乃至一切相智。 g空解脫門乃至無 gー切の菩薩摩訶薩行。 願解脱門。宮菩薩の十地。 図諸佛の無上正等菩提 g)一切陀羅尼門·一 g五眼·六神通。 (g)佛の 切三摩地門。 十力乃至十

なり。 に、若しは不還果清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 聖諦。 山布施波蜜羅多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山眞如乃至不思議界。 舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受、山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。 不還果清淨なるが故に受想行職清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 故に、若しは不還果清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 解脫門。 切 の菩薩摩訶薩行。山諸佛の無上正等菩提。 た次に的善現、不還果清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 的眼處乃至意處。山色處乃至法處。山服界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。山 山四靜康乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山空解脫門乃至無願 (山菩薩の十地。(h) 五眼・六神通。(h)佛の十カ乃至十八佛不共法。(h)無忘失法・恒住捨性。 切相智。 (h) 一切陀羅尼門·一切三摩地門。山頂流果·一來阿羅漢果。山獨覺菩提。 (h) 苦聖諦乃至道 何を以ての故 何を以ての (h) (h)

> を論じて十九天に上り再び欲 更に欲界に發れる三品の思惑 で 界に遭り來ることなき位む 【一】 不選果。阿那含(Anāg: す。 右も。gの場合の如く以下略出 無二分無別無斷故」 ……若不還果清淨若受想 「善現不還果清淨故色清淨

す。 受想行識清淨若一切智智清淨若一切智智清淨若一切智智清淨若 右も山の場合の如く以下略出無二無二分無別無斷故」

何を以

『三』 阿羅漢果(Arben)。 不選果の聖者が色界、無色界の思惑七十品を斷じて得る位を

ての故に、

無きが故なり。

(i)眼處至意處。(i)色處乃至法處。

明 二部二部の

いったいないので

の故に、

復た次に①善現、阿羅漢果清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一

切智智清淨なり。

何を以て

阿羅漢果清淨なるが故に受想行識清淨。受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。

若しは阿羅漢果清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷

问眼界乃至諸受。

(i) 耳界乃至諸受。

若しは阿羅漢果清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故

性。(f)一切智乃至一 至道聖諦。任四靜慮乃至四無色定。任八解脫乃至十遍處。任四念住乃至八聖道支。任室解脫門乃至至道聖諦。任四靜慮乃至四無色定。任八解脫乃至十遍處。任四念住乃至八聖道支。任室解脫門乃至 僧。① 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。① 內室乃至無性自性空。① 真如乃至不思議界。① 苦聖諦乃 (f) 舌界乃至諸受。(f) 身界乃至諸受。(f) 意界乃至諸受。(f) 地界乃至識界。(f) 無明乃至老死 故なり。氏眼處乃至意處。氏色處乃至法處。氏眼界乃至諸受。氏耳界乃至諸受。氏鼻界乃至諸受。 敬に、者しは預流果清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 解脱門。氏菩薩の十地。氏五眼・六神通。氏佛の十力乃至十八佛不共法。氏無忘失法・恒住捨 頂流果清淨なるが故に受想行職清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 切相智。任一切陀羅尼門・一切三摩地門。任一來果乃至阿羅漢果。任獨覺菩提 愁歎苦憂

が故なり。宮眼處乃至意處。宮色處乃至法處。宮眼界乃至諸受。 り。一來果清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に 故に、若しは一來果清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無き 故に、若しは一來果清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に図善現・一來果清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 一切智智清淨なり。 何を以ての

(1)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提

巻の第二百四十二

初分難信解品第三十四之六十一

至識界。⑤無明乃至老死愁歎苦憂惱。⑤布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。⑤內空乃至無性自性空。 (B)耳界乃至諸受。(B)鼻界乃至諸受。(B)舌界乃至諸受。(B)身界乃至諸受。(B)意界乃至諸受。(B)地界乃(G) (B) 真如乃至不思議界。 (B) 苦聖諦乃至道聖諦。 (B) 四靜慮乃至四無色定。 (B) 八解脫乃至十遍處。 (B) 四念

(337)

(宮) 前巻と同意。

初分雖信解品第三十四之六十一

室解脫門乃至無願解脫門。 (d) 切の菩薩摩訶薩行。 苦聖諦乃至道聖諦。 恒住捨性。 (d) は諸佛の無上正等菩提。 切智乃至一切相智。 (山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。 (d) 菩薩の十地、 (d) (d) 五眼·六神通。 切三摩地門。 は佛の十カ乃至十八佛不共法。 d預流果乃至阿羅漢果。d獨覺菩提。 (d) 無

なり。 以ての故に、 二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に()善現、 が故なり。 何を以ての故に、若しは一切三摩地門清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く 若しは一切三摩地門清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 一切三摩地門清淨なるが故に受想行識清淨、 切三摩地門清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (e) 眼處乃至意處。 (e)色處乃至法處。(e)服界乃至諸受。 、受想行識清淨なるが故に一 切智智清淨 何を

巻の第二百四十一

初分難信解品第三十四之六十

乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦變惱。 四念住乃至八聖道支。 空。(e)真如乃至不思議界。(e)若聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。 至十八佛不共法。 (e) 耳界乃至諸受。(B鼻界乃至諸受。(B舌界乃至諸受。(B身界乃至諸受、(B意界乃至諸受。(B地界 (e)獨覺菩提。 e無忘失法・恒住捨性。 (e)空解脫門乃至無願解脫門。 (e) 切の菩薩摩訶薩行。 (e) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e) 內室乃至 (e) 切智乃至一切相智。 (e) 諸佛の無上正等菩提。 (e) 菩薩の十地。 (e) 五眼 (e) 一切陀羅尼門。 ·六神通。 (e)預流果乃至 (e)佛の十カ乃 無 性自 (e)

故に、若しは預流果清淨者しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に比善現、預流果清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての

智智清淨無二無二分無別無斷 色清淨……若一切三摩地 色清淨。 一切三摩地 右もdの場合の如く以下略出 切三 摩地門清淨を明

(e) 前卷と同意。

āpanna)の譯、八十八使の見【二】 預流果。須陀洹(Bot= ········若預流果清淨若受想 ることなき位をいふ。 感を斷じて最早三惡道に堕つ 右も他の場合の如く以下略出 「一」四果に就て清淨を明す。 二分無別無斷故」 切智智清淨無二

籍受。(c) 舌界乃至諸受。 無きが故なり。 ての故に、若しは一切相智清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 一切相智清淨なるが故に受想行職清淨、受想行職清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以 (c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至

卷の第二百四十

初分難信解品第三十四之五十九

智。(〇一切陀羅尼門・一切三摩地門。(○預流果乃至阿羅漢果。(○獨覺菩提(〇一切の菩薩摩訶薩行。 藤の十地。 (で)諸佛の無上正等菩提。 慮乃至四無色定。©八解脫乃至十遍處。©四念住乃至八聖道支。©空解脫門乃至無願解脫門。 多乃至般若波羅蜜多。ⓒ內室乃至無性自性空。ⓒ真如乃至不思議界。ⓒ苦聖諦乃至道聖諦。 (c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁數苦憂惱。(c)布施波羅蜜 (C)五眼·六神通。(C)佛の十力乃至十八佛不共法。(C)無忘失法·恒住捨性。(C) 一切智·道相 (c) (c) 菩 四靜 (c)

(d) 鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d) 意界乃至諸受。(d) 地界乃至識界。(d) 無明乃 く別無く斷無きが故なり。di眼處乃至意處。d)色處乃至清法處。d)眼界乃至諸受。d)耳界乃至諸受。 何を以ての故に、 以ての故に、 た次には、善現、一切陀羅尼門清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 一切陀羅尼門清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智淨清なり。 若しは 若しは一切陀羅尼門清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無 (d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 一切陀羅尼門清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く斷無きが (d)內空乃至無性自性空。(d)員如乃至不思議 切智智清淨なり。

(で) 前巻と同意

六七五

初分離信解品第三十四之五十九

無願解脫門。⑷菩薩の十地。⑷五眼・六神通。⑷佛の十力乃至十八佛不共法。⑷無忘失法・恒住捨性。 至道聖諦。 山舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死 の菩薩摩訶薩行。 (a) 道相智· (a) · 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。《內空乃至無性自性空。《真如乃至不思議界。《苦聖諦 (a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。 (a)四念住乃至八聖道支。 (a) 空解說門乃至 ·眼處乃至意處。a)色處乃至法處。a) 切相智。 (8) 諸佛の無上正等菩提 (a) 一切陀羅尼門·一切三摩地門。《預流果乃至阿羅漢果。《獨覺菩提, ·眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a) **鼻**界乃至諸受。 愁歎苦憂 (a) 切

(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至諸受。(b)無明乃至老 (b) 故なり。 無願解脫門。心菩薩の十地。心五眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。 復た次に

し善現・道相智清浄なるが故に色清浄、色清浄なるが故に一切智智清浄なり。 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦聖諦乃 道相智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 若しは道相智清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 若しは道相智清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 心眼處乃至意處。 的四靜處乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。的空解脫門乃至 (b) 一切陀羅尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。心 的色處乃至法處。心眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。 死愁數苦愛 何を以 故なな ての 切

の故に、若しは一切相智清淨若しは色清淨若しは一 復た次に心善現、 切相智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 切智智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故 一切智智清淨なり。 何 を以て

菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。

(b)「書現進相智清澤故色清澤 行職清淨若一切智智清淨無二 行職清淨若一切智智清淨無二 行職清淨若一切智智清淨無二 行職為別無斷故」

(の「善現一切相智清澤故色清 悪二無二分無別無斷故」 無二無二分無別無斷故」 指も的の場合の如く以下略出 方ものの場合の如く以下略出

切の菩 切智乃至 山諸佛の無上正等菩提。 (l) — 切陀羅尼門·一 切三 摩地門。山預流果乃至阿羅漢果。 獨覺菩提。 **(1)**

切智乃至 乃至無願解脫門。四菩薩の十地。四五眼・六神通。 苦憂惱。 m布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 諸受。四舌界乃至諸受。四身界乃至諸受。四意界乃至諸受。四地界乃至識界。四無明乃至老死愁數 なり。 の故に、 部乃至道聖諦。(M四鄰慮乃至四無色定。(M八解脫乃至十湯處。(M四念住乃至八聖道支。 無きが故なり。(加眼處乃至意處、如色處乃至法處。(如眼界乃至諸受。)四耳界乃至諸受。(四鼻界乃至 ての故に、 復た次に四善現、恒住捨性清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一 摩訶薩行。 恒住捨性清淨なるが故に受想行識清淨、 若しは恒住捨性清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 切相智。 若しは恒住捨性清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 四諸佛の無上正等菩提。 (m) 一切陀羅尼門·一切三 四內字乃至無性自性空。四眞如乃至不思議界。 摩地門。 受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 四佛の十力乃至十八佛不共法。四無忘失法。四 四預流果乃至阿羅漢果。四獨覺菩提。 切智智清淨なり。 (m) 室解脫門 何を以て (m) 何を以 (m) 苦聖

卷の第二百三十九

初分難信解品第三十四之五十八

故に、 復た次には善現、 若しは一 若しは一 切智清淨なるが故に受想行識清淨、 切智清淨若しは受想行識清淨若しは 切智清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 切智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 受想行識清淨なるが故に一 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 切智智清淨なり。 何を以 何を以ての ての 故な

> (二) 恒住捨性清淨を明す。 (三) 恒住捨性清淨を明す。 (三) 無二無二分無別無斷故」 「華現恒住捨性清淨若一切智智清淨 無二無二分無別無斷故」 「本もい。場合の如く以下略出

……若一切智清淨若受想 (a)「善現一切智清淨故色清淨 (b)」三智に就て清淨を明す。

六七三

受。似鼻界乃至諸受。似舌界乃至諸受。似身界乃至諸受。似意界乃至諸受。以地界乃至識界。以無 法·恒住拾性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 支。心室解脫門乃至無願解脫門。 思議界。以苦聖諦乃至道聖諦。以四靜慮乃至四無色定。以八解脫乃至十遍處。以四念住乃至八聖道 明乃至老死愁軟苦憂惱。自布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。自內空乃至無性自性空。自員如乃至不 分無く別無く斷無きが故なり。似眼處乃至意處。似色處乃至法處。似眼界乃至諸受。似耳界乃至諸 何を以ての故に、者しは十八佛不共法清淨者しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二 (以菩薩の十地。 ld 五眼・六神通。ld 佛の十カ乃至大捨。ld 無忘失

卷の第二百三十八

初分難信解品第三十四之五十七

諸受。(1)舌界乃至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁歎 なり。 乃至無願解脫門。(1)菩薩の十地。(1)五眼・六神通。(1)佛の十力乃至十八佛不共法。(1)恒住捨性。(1) 無きが故なり。(1)眼處乃至意處。(1)色處乃至法處。(1)眼界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。(1)鼻界乃至無きが故なり。(1)眼處乃至意處。(1)色處乃至法處。(1)眼界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。(1)鼻界乃至 ての故に、若しは無忘失法清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 の故に、者しは無忘失法清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 **部乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山空解脫門** 復た次に()善現、無忘失法清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 仏預流果乃至阿羅漢果。似獨覺菩提。似一切の菩薩摩訶薩行。似諸佛の無上正等菩提。 無忘失法清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (1)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(1)內空乃至無性自性空。(1)真如乃至不思議界。(1)苦聖 何を以て 何を以

(は) 前巻と同意。

【二】無忘失法清淨を明す。(1)「善現無忘失法清淨故色清淨……若無忘失法清淨故色清淨和無歸故」無二無二分無別無歸故」有も以の場合に準じ以下略出

初分難信解品第三十四之五十六

切相智。 ()五眼·六神通。()佛の十力乃至大悲大捨十八佛不共法。()無忘失法·恒住捨性。()一切智乃至一 (1)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(1)預流果乃至阿羅漢果。(1)獨覺菩提。(1)一切の菩薩摩訶

藤行。

(i) 諸佛の無上正等菩提

())菩薩の十地。())五眼·六神通。())佛の十力乃至大喜十八佛不共法。()無忘失法·恒住捨性。())一切智 諸受。(j)身界乃至諸受。(j)意界乃至諸受。(j)地界乃至識界。(j)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(j)布施波 乃至一切相智。()一切陀羅尼門・一切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。()獨覺菩提。()一切の菩 四靜慮乃至四無色定。;〕八解脫乃至十遍處。;〕四念住乃至八聖道支。;〕空解脫門乃至無願解脫門。 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。()內容色至無性自性空。()真如乃至不思議界。()苦聖諦乃至道聖諦。 眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()鼻界乃至諸受。()舌界乃至 捨清淨なるが故に受想行識淸淨、受想行識清淨なるが故に一切智智淸淨なり。何を以ての故に、 しは大捨清淨若しは受想行識清淨若じは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に①善現・大捨清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故 若しは大捨清淨若しは色清淨若しは ()諸佛の無上正等菩提。 一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 大

無きが故なり。十八佛不共法清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智淸淨な 以ての故に、 復た次には善現・十八佛不共法清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 若しは十八佛不共法清淨若しは色清淨若しは 一切智智清淨は一 一無く二分無く別無く斷 何を

初分難信解品第三十四之五十六

(山) 前巻と同意。

(1)「善現大榜清淨故色清淨……若大拾清淨若受想行職 一切智智清淨無二無二分無別無斷故」 の場合と同じく以下略

大七

(h) (h) 的四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。的宏解脫門乃至無願解脫門。 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山眞如乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。 的眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的舌界乃 至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。 若しは大悲清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり 大悲淸淨なるが故に受想行識淸淨、受想行識淸淨なるが故に一切智智淸淨なり。何を以ての故に、 菩薩の十地。 切の菩薩摩訶薩行。 復た次に山善現、 一切智乃至一切相智。(h)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(h)預流果乃至阿羅漢果。(h)獨覺菩提。(b) 若しは大悲清浄若しは色清浄者しは一切智智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (h)五眼·六神通。(h)佛の十力乃至大慈大喜大捨十八佛不共法。(h)無忘失法·恒住捨性 大悲淸淨なるが故に色淸淨、 山諸佛の無上正等菩提。 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての (h) 布施 すい

①眼處乃至意處。(i)色處乃至法處。(i)眼界乃至諸受。(i)耳界乃至諸受。(i)鼻界乃至諸受。(i)舌界乃(i) 故に、若しは大喜清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり ①四靜慮乃至四無色定。①八解脫乃至十遍處。①四念住乃至八聖道支。②空解脫門乃至無願解脫門 至諧受。()身界乃至諸受。()意界乃至諸受。()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦憂憐。 若しは大喜清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 大喜清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 復た次に(i)善現、 大喜淸淨なるが故に色淸淨、 (1)內空乃至無性自性空。(1)真如乃至不思議界。 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 切智智清淨なり。 (1)苦聖諦乃至道聖諦。 何を以ての故に、 (i)布施

(1)「善現大悲清郡故色清澤: ::...若大悲清郡若一切智智清郡無二無二分無別無斷故」 カ無別無斷故」

(g)

(g)

正等菩提。

初分難信解品第三十四之五十四、五

右も(f)の場合の如く以下略出分無別無斷故」

清淨者一切智智清淨無二無二

(2)「善現大慈清淨若受想行識(三)四無量心清淨を明す。

(f) 苦聖

きが故なり。(e、眼處乃至意處。 の故に、若しは四無所畏清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無 なり。四無所畏淸淨なるが故に受想行識淸淨、受想行識淸淨なるが故に一切智智淸淨なり。 の故に、若しは四無所畏清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 復た次に回善現、四無所畏清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (e)舌界乃至諸受。(e)身界乃至諸受。(e)意界乃至諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦 (e) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e) 內空乃至無性自性空。 。(色色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()鼻界乃至諸 何を以 何を以

卷の第二百三十五

初分難信解品第三十四之五十四

地門。@預流果乃至阿羅漢果。@獨覺菩提。@一切の菩薩摩訶薩行。@諸佛の無上正等菩提 碾解乃至十八佛不共法。@無志失法·恒住捨性。@一切智乃至一切相智。@一切陀羅尼門·一 念住乃至八聖道支。⑥空解脫門乃至無願解脫門。⑥菩薩の十地。⑥五眼・六神通。⑥佛の十年 (e)真如乃至不思議界。 (e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四 力四無

諸受。任舌界乃至諸受。任身界乃至諸受。任意界乃至諸受。任地界乃至識界。任無明乃至老死愁數 無きが故なり。氏眼處乃至意處。氏色處乃至法處。氏眼界乃至諸受。氏耳界乃至諸受。氏鼻界乃至無きが故なり。氏眼處乃至意處。氏色處乃至法處。氏眼界乃至諸受。氏耳界乃至諸受。氏 ての故に、若しは四無礙解清淨者しは受想行識清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 なり。 の故に、若しは四無礙解清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く断無きが故 復た次に①善現、四無礙解清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 四無礙解清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以

(二) 四無所畏清淨を明す。 (金) 「善現四無所畏淸淨故色清 一等現四無所畏淸淨若 受想行識淸淨若一切智智淸淨若 一切智智清淨若 一切智智清淨若 一切智智清淨若

(e) 前巻と同意。

(1) 「善現四無礙解清澤を明す。 (1) 「善現四無礙解清淨故色清淨………若四無礙解清淨若受想行議清淨若一切智智清淨 無二無二分無別無斷故」 右も()の場合の如く以下略出

巻の第二百三十四

初分難信解品第三十四之五十三

智乃至一切相智。 道望諦。ⓒ四靜慮乃至四無色定。ⓒ八解脫乃至十遍處。ⓒ四念住乃至八聖道支。ⓒ卒解脫門乃至無(亞) 音薩摩訶薩行。(欧諸佛の無上正等菩提 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (e) 菩薩の十地。(c) 五眼。(c) 佛の十力乃至十八佛不共法。(c) 無忘失法・恒住捨性。(c) 一切 (c) 一切陀羅尼門・一切三摩地門。(『預流果乃至阿羅漢果。(『獨覺菩提。()一切の (c)內室乃至無性自性空。(c)真如乃至,不思議界。(c)苦聖諦乃至

住捨性。 門乃至無願解脫門。母菩薩の十地。母五眼・六神通,母四無所畏乃至十八佛不共法,母無忘失法・恒 菩提。は一切の菩薩摩訶薩行。は諸佛の無上正等菩提。 聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)容解脫 至諸受。创舌界乃至諸受。创身界乃至諸受。创意界乃至諸受。创地界乃至識界。创無明乃至老死愁 以ての故に、若しは佛の十カ淸淨若しは受想行識淸淨若しは一切智智淸淨は二無く二分無く別無く 故なり。佛の十力清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を 歌苦憂惱。(d) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d) 內室乃至無性自性室。(d) 真如乃至不思議界。(d) 苦 断無きが故なり。は眼處乃至意處。は色處乃至法處。は眼界乃至諸受。は耳界乃至諸受。は鼻界乃 ての故に、若しは佛の十力清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次には善現、佛の十力清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (d) 一切智乃至一切相智。 (d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺 何を以

(の) 前巻と同意。

-(327)

初分雖信解品第三十四之五十三

切の 解脫門乃至無願 (a) 苦聖諦乃至道聖諦。 智乃至 訶薩行。 切相智。 解脫門。 a諸佛の無上正等菩提。 (a) (a) 四靜慮乃至四無色定。a (a) 切陀羅尼門・ 五眼·六神 通。 (a)佛の十力乃至十八佛不共法。 切三摩地門。 八解脫乃至 (a)預流果乃至阿羅漢果。 十遍是。 (a) 四念住乃至八 a無忘失法·恒住 (a) 獨覺菩提。 聖道 支。 (a) (a) (a)

色定。 故に。 (b) 陀羅尼門 的六神通。 波羅蜜多。 若しは五眼清淨若しは受想行識清淨若しは一 五眼清淨なるが故に受想行識清淨、 無上正等菩提。 .眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的舌界乃意 復た次に山 (b) 若し 的身界乃至諸受。 八解脫乃至十遍處。 (b) 佛の 的內室乃至無性自性空。 は五眼清浄若しは色清浄若しは 善現、 切三摩 十力乃至十八佛不共法。 地門。的預流果乃至阿羅漢果。 五眼精浄なるが故に色精浄、 的意界乃至諸受。的地界乃至識界。 的四念住乃至八聖道支。的空解脫門乃至無願 (b) 真如乃至不思議界。 受想行識清淨なるが故に一切智想清淨なり。 b)無忘失法・恒住捨性。 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 色清淨なるが故に一 (b) 獨覺菩提。 **山苦聖諦乃至道聖諦。** 的無明乃至老死愁數苦憂惱。 (b) (b) 切の菩薩摩訶薩行。 切智智清淨なり。 切智乃至 解脫門。 何を以ての故に、 (b) 四靜慮乃至四 切相 (h) 菩薩の 何を以ての (b) + なり。 (b) なり (b) 布施

故なり。 故に、 復た次にに善現、 六神通清淨なるが故に受想行識清淨、 若しは六神通淸淨若しは受想行識淸淨若しは一 (企)眼處乃至意處。 若しは六神通清淨若しは色清淨若しは一 六神通清淨なるが故に色清淨、 (色處乃至法處。()眼界乃至諸受。 受想行識清淨なるが故に 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 色清浄なるが故に一 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きか (c) 耳界乃至諸受。 一切智智清淨なり。 切智智清淨なり。 (0)鼻界乃至諸受。 何を以ての 何を以て

> (b)「善現五眼清淨故色清淨: (b)「善現五眼清淨若受想行職 清淨若一切智智清淨無二無二 分無別無斷故」 方無別無斷故」 方無別無斷故」 方無別無斷故」 方無別無斷故」

(c)「善現六神通清淨故色清淨……若六神通清淨故色清淨 行識清淨若一切智智清淨無二 無二分無別無斷故」 無二分無別無斷故」 「一方表」

心苦聖諦乃至道聖諦。 **鼻界乃至諸受。** 別無く斷無きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心 何を以ての故に、 きが故なり。 以ての故に、 (b) 切の菩薩摩訶薩行。 若しは無願解脱門清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無 無願解脱門清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 切智乃至一切相智。 い舌界乃至諸受。い身界乃至諸受。い意界乃至諸受。い地界乃至識界。い無明乃至 (w) 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山真如乃至不思議界。 若しは無願解脱門清淨若しは受想行職清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く (山 菩薩の十地。 山五眼・六神通。 的四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。 (b)諸佛の無上正等菩提。 し一切陀羅尼門・一切三摩地門。し預流果乃至阿羅漢果。 り佛の十力乃至十八佛不共法。り無忘失法 (b) 空

巻の第二百三十三

初分難信解品第三十四之五十二

身界乃至諸受。 別無く斷無きが故なり。(a) 何を以ての故に、若しは菩薩の十地清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く 老死愁數苦憂惱。 きが故なり。 以ての故に、 復た次に印善現、 若しは菩薩の十地清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無 菩薩の十地清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (4) 舌界乃至諸受。(4) 身界乃至諸受。(4) 意界乃至諸受。 (1) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 0 、眼處乃至意處。自色處乃至法處。自眼界乃至諸受。自耳界乃至諸受。 十地清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (a)內容乃至無性自性容。(a)真如乃至不思議界 (a)地界乃至識界。 (a) 無明乃至 何を (a)

脱門・無願解脫門。心菩薩の十地。心五眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒 菩提。

し一切の菩薩摩訶薩行。

し諸佛の無上正等菩提。 聖論乃至道聖諦。心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心 (6)一切智乃至一切相智。(6)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(6)預流果乃至阿羅漢果。(6)獨覺 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。 無相解 (b)

巻の第二百三十二

初分難信解品第三十四之五十一

法·恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 室解脱門・無願解脱門。(4)菩薩の十地。(4)五眼・六神通。(4)佛の十力乃至十八佛不共法。(4)無忘失 身界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)は泉乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃別無く翳無きが故なり、(a)眼患乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a) 別無く斷無きが故なり。(《眼處乃至意處。(《色處乃至法處。(《眼界乃至諸受。(》耳界乃至諸受。 何を以ての故に、若しは無相解脱門清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く 以ての故に、若しは無相解脱門清淨者しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無 至老死愁歎苦憂惱。自布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。自內空乃至無性自性空。自真如乃至不思議 きが故なり。 (a) 復た次に回善現、無相解脱門清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を 獨覺菩提。自一切の菩薩摩訶薩行。 (a)苦聖諦乃至道聖諦、四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念往乃至八聖道支。(a) 無相解脱門清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (a)諸佛の無上正等菩提。 (a)預流果乃至阿羅漢果。

700

復た次に小善現、 無願解脱門清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。

(4)「善現無相解趾門清淨故色(4)「善現無相解趾門清淨若受想行識清淨若一切智智淨若受想行識清淨若一切智智淨若受想行識清淨若一切智智淨不可以不可以不可以不可以不可以不可以不可以不可以不可以不可以不可以

(b)「喜現無順解脱門清澤故色 清澤………若無順解脱門清 清澤無二無二分無別無斷故」 清澤無二無二分無別無斷故」 方。(a)の場合の如く以下略出

何を

卷の第二百三十一

初分難信解品第三十四之五十

聖諦乃至道聖諦。(8) 以ての故に、 故なり。 断無きが故なり。 ての故に、 た次に(a)善現、 (a) 無願解脫門。(8)菩薩の十地。 (a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁 (a)一切智乃至一切相智。 八聖道支清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智淸淨なり。 切の菩薩摩訶薩行。 (3) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(3) 內空乃至無性自性空。(3) 真如乃至不思議界。 若しは八聖道支清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 若しは八聖道支清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃(b) 四靜慮乃至四無色定。 (1)八解脫乃至十遍處。 (1)四念住乃至七等覺支。 八聖道支清淨なるが故に色淸淨、 (a)諸佛の無上正等菩提。 a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。 (3)五眼・六神通。 (3)佛の十カ乃至十八佛不共法。 (3)無忘失法・恒 色清淨なるが故に一 a)預流果乃至阿羅漢果。 切智智清淨なり。 (a) 空解脫 (a) 獨覺 何を以 (a) 苦 何を

至睹受。心舌界乃至諸受。心身界乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃至老死 断無きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至譜受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃 ての故に、 復た次に的善現、 **空解脱門清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に** 若しは空解脱門清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 若しは空解院門清淨若しは受想行職清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く 空解脱門清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に一 切智智清淨なり。 切智智清淨なり。 何を以

【二】八聖道支清淨を明す。 (ハ「善現八聖道支清淨故色清 淨………若八聖道支清淨若 受想行識清淨若一切智智清淨 無二無二分無別無斷故」 右も前卷(b)の場合の如〈以下

(二) 三解脱門清淨を明す。 協)「善現空解脱門清淨故色清 第………若空解脱門清淨若 受想行識清淨若一切智智淸淨 無二無二分無別無斷故」 無二無二分無別無斷故」 か。

初分縣信解品第三十四之五十一

性。山一切智乃至一切相智。山一切陀羅尼門・一切三摩地門。山頂流果乃至阿羅漢果。山獨覺菩提。 (a)一切の菩薩摩訶薩行。(4)諸佛の無上正等菩提 至無願解脫門。山菩薩の十地。山五眼・六神通。山佛の十力乃至十八佛不共法。山無忘失法・恒住捨 (a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解院乃至十遍處。 (a)四念住乃至五根七等覺支八聖道支。 (a)空解脫門乃 若しは五力清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。

解脱門乃至無願解脫門。心菩薩の十地。心五眼・六神通。心佛の十カ乃至十八佛不共法。心無忘失聖諦乃至道聖諦。心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至五カ八聖道支。心苦數苦愛惱。心布施波羅蜜多万至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心眞如乃至不思議界。心苦歎。心苦寒乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃至老死愁,之言皆受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃至老死愁, 以ての故に、若しは七等覺支清淨者しは受想行識清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く 故なり。七零覺支清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を 法•恒住捨性。心一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門•一切三摩地門,心預流果乃至阿羅漢果。 心 断無きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃 ての故に、若しは七等覺支清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次にか善現、七等覺支清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以

獨覺菩提。心一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。

覺菩提。切一切の菩薩摩訶薩行。 恒住捨性。()一切智乃至 脱門乃至無願解脫門。⑦菩薩の十地。 切相智。 () 諸佛の無上正等菩提。 ()一切陀羅尼門・一 ()五眼·六神通。 ()佛の十カ乃至十八佛不共法。 切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。

脱門乃至無願解脫門。以菩薩の十地。 以四靜慮乃至四無色定。以八解脫乃至十遍處。 恒住捨性。 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 故に、 五根清淨なるが故に受想行識清淨、 復た次に似善現、 しは五根清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 仍至意處。以色處乃至法處。以眼界乃至諸受。以耳界乃至諸受。以鼻界乃至諸受。 (1) (k)身界乃至諸受。(k)意界乃至諸受。(k)地界乃至識界。(k)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (k) しは五根清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切の菩薩摩訶薩 一切智乃至一切相智。 五根清淨なるが故に色清淨、 (4)內空乃至無性自性空。(4)真如乃至不思議界。(4)苦聖諦乃至道聖諦。 行。 k 諸佛の無上正等菩提。 (k) 受想行職清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 k)五眼·六神通。 一切陀羅尼門・一切三摩地門。 **以四念住乃至四神足五力七等覺支八聖道支。** 色清淨なるが故に一 k)佛の十 力乃至十八佛不共法。心無忘失法・ ki 預流果乃至阿羅漢果。 切智智清淨なり。 何を以ての (以舌界乃) (k) 空解 (k)布施

初分難信解品第三十四之四十九

五力清淨なるが故に受想行識清淨、 復た次に(a)善現、 若しは五力清浄若しは色清浄若しは一切智智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 五力清淨なるが故に色清淨、 受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 何を以ての故に 清瀞若一切智智清淨無二無二分無別無斷故」
右も前祭以の場合の如(以下
略出す。 ……若五力清淨若受想行識

(4)「善現五力清淨故色清淨… 右もりの場合の如く以下略分無別無斷故」 清淨若 ……若五根清淨若受想 「善現五根清淨故色清淨… 切智智清淨無

六六二

初分難信解品第三十四之四十八、九

(1) 舌界乃至諸受。(1) 身界乃至諸受。(1) 意界乃至諸受。(1) 地界乃至識界。(1) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。①眼處乃至意處。①色處乃至法處。①眼界乃至諸受。①耳界乃至諸受。①鼻界乃至諸受。 (i) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(i)內空乃至無性自性。空(i)真如乃至不思議界。(i) 苦聖諦乃至道 聖諦。①四靜慮乃至四無色定。①八解脫乃至十遍處。①四念住、四神足乃至八聖道支。 故に、若しは四正斷清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 正斷清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に 一切智智清淨なり。何を以ての

卷の第二百二十九

初分難信解品第三十四之四十八

果。(i)獨覺菩提。(i)一切の菩薩摩訶薩行。(i)諸の無上正等菩提。 無忘失法·恒住捨性。()一切智乃至一切相智。()一切陀羅尼門·一切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢 (1) 空解脱門乃至無願解脫門。(1) 菩薩の十地。(1) 五眼・六神通。(1) 佛の十力乃至十八佛不共法。(1)

())舌界乃至諸受。()身界乃至諸受。()意界乃至諸受。()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦憂惱 ()布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。()內空乃至無性自性空。()眞如乃至不思議界。()苦聖諦乃至道 故なり。①眼處乃至意處。①色處乃至法處。①眼界乃至諸受。①耳界乃至諸受。①鼻界乃至諸受。 聖諦。①四靜慮乃至四無色定。①八解脫乃至十遍處。①四念住、四正斷五根乃至八聖道支。①空解 故に、若しは四神足清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが の故に、若しは四神足清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に①善現、四神足清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て |神足清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識淸淨なるが故に一切智智淸淨なり。何を以ての

(i) 前卷と同意。

巻の第二百二十八

初分難信解品第三十四之四十七

切智乃至一切相智。 脱門。⑤菩薩の十地。⑤五眼・六神通。⑤佛の十力乃至十八佛不共法。⑤無忘失法・恒住捨性。 (g)四靜慮乃至四無色定。 (g)八解脫乃至九次第定。 (g)四念住乃至八道聖支。 (g)空解脫門乃至無願解 図諸佛の無上正等菩提。 ⑤一切陀羅尼門·一切三摩地門。⑤預流果乃至阿羅漢果。⑤獨覺菩提。⑥一切 (g)

的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內室乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦聖諦乃至道 的舌界乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。地界乃至識界。的無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。山眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。 故に、 り。四念住清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての の故に、若しは四念住清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 一切智乃至一切相智。 復た次に図善現、四念住清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て (h) 若しは四念住清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 四靜慮乃至四無色定。由八解脫乃至十遍處。由四正斷乃至八聖道支。由空解脫門乃至無願 菩薩の十地。山五眼・六神通。 的諸佛の無上正等菩提。 (h)一切陀羅尼門・一切三摩地門。h)預流果乃至阿羅漢果。h)獨覺菩提。h) 山佛の十カ乃至十八佛不共法。山無志失法・恒住捨性。山

の故に、著しは四正斷清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に(i)善現、 四正斷清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て

初分難信解品第三十四之四十七

の前巻と同意

くこ』 四念住に就て清浄を明

(山)「善現四念住清淨故色清淨 (山)「善現四念住清淨若受想行識清淨若一切智智清淨無二行識清淨若受想無二分無別無斷故」 おもりの場合の如く以下略出方ものの場合の如く以下略出

す。

(1)「善晃四正斷清淨故色清淨 ………若四正斷清淨若受想行職清淨若一切智智清淨無二年五分無別無斷故」無二分無別無斷故」

大五九

(.319)

聖諦乃至道聖諦。出四靜慮乃至四無色定。出八解脫、八勝處十遍處。出四念住乃至八聖道支。出空 歎苦憂惱。(f) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f) 內空乃至無性自性空。(f) 真如乃至不思議界。(f) 苦 至諸受。任五界乃至諸。受任身界乃至諸受。的意界乃至諸受。出地界乃至識界。任無明乃至老死愁 断無きが故なり。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至諸受。(f)耳界乃至諸受。(f)鼻界乃 以ての故に、著しは九次第定清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く 故なり。 T 解脱門乃至無顧解脱門。氏菩薩の十地。氏五眼・六神通。山佛の十力乃至十八佛不共法。氏無忘失法・ 覚菩提。近一切の菩薩摩訶薩行。 の故に、若しは九次第定清淨若しは色清淨者 九次第定清浄なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 f) 一切智乃至一切相智。f) 一切陀羅尼門・一切三摩地門。f) 預流果乃至阿羅漢果。f) 獨 (f)諸佛の無上正等菩提。 しは一 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 何を

舌界乃至諸受。 ⑤身界乃至諸受。 ⑤意界乃至諸受。 ⑤地界乃至識界。 ⑤無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。 故に。若しは十遍處清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが の故に、若しは十遍處清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次にの善現、十遍處清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 遍處清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての g眼處乃至意處。g色處乃至法處。g眼界乃至諸受。g耳界乃至諸受。g與界乃至諸受。 (g內容乃至無性自性空。(g)真如乃至不思議界。 g苦聖諦乃至道 何を以て

(8)「善現十遍臨清淨故色清淨す。 十遍處に就て清淨を明

……若十遍處清淨若受想

行議清淨若一切智智清淨無二 無二分無別無斷故」 右も(f)の場合と同じく以下略

(318)

创布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。d)內空乃至無性自性空。d)真如乃至不思議界。d)苦聖諸乃至道 解脱門。は菩薩の十地。は五眼・六神通。は佛の十力乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は 切智乃至一切相智。 (d)四靜慮乃至四無色定。d)八勝處乃至十遍處。d)四念住乃至八聖道支、d)空解脫門乃至 (d)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(d)

切の菩薩摩訶薩行。

は諸佛の無上正等菩提。

(e) 舌界乃至睹受。(e) 身界乃至諸受。(e) 意界乃至諸受(e)。地界乃至識界。(e) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。(《眼處乃至意處。(《色處乃至法處。(《眼界乃至諸受。(《耳界乃至諸受。(《鼻界乃至諸受。 故に、若しは八勝處清淨著しは受想行職清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが り。八勝處清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての の故に、若しは八勝處清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に回善現、八勝處清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て

巻の第二百二十七

初分難信解品第三十四之四十六

乃至無願解脫門。回菩薩の十地。回五眼・六神通。回佛の十力乃至十八佛不共法 (e)布施波羅蜜多乃至敷岩波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至 e)一切の菩薩摩訶薩行。 (e) 一切智乃至一切相智。 (e)四靜慮乃至四無色定。 (e)諸佛の無上正等菩提 (e) (e八解脫、九次第定十遍處。(e四念住乃至八聖道支。(e) 空解脫門 一切陀羅尼門·一切三摩地門。@預流果乃至阿羅漢果。@獨覺菩 。e無忘失法·恒住

た次に任善現。 切分離信呼品第三十四之四十五、六 九次第定清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以

> 古も()の場合と同じく以下略 す。 (6)「善現八勝處清淨故色清淨 無二分無別無斷故 行識清淨若 ……若八勝處清淨若受想 切智智清淨無一

(e) 前卷と同意

九次第定に就て清淨を

古も()の場合の如く以下略出 第……若九次第定清淨故色清 無二無二分無別無斷故 切智智清淨

大五七

諸受。(6)身界乃至諸受。(6)意界乃至諸受。(6)地界乃至識界。(6)無明乃至老死愁歎苦憂憐。 眼處乃至意處。ⓒ色處乃至法處。ⓒ眼界乃至諸受。ⓒ耳界乃至諸受。ⓒ鼻界乃至諸受。ⓒ舌界乃至 以ての故に、若しは四無色定清淨若しは受想行識清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。回 故なり。 ての故に、若しは四無色定清淨者しは色清淨渚しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次に心善現、 四無色定清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり、 四無色定清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以 何を

巻の第二百二十六

初分難信解品第三十四之四十五

切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提 解脱門。⑥菩薩の十地。⑥五眼・六神通。⑥佛の十力乃至十八佛不共法。⑥無忘失法・恒住捨性。 一切智乃至一切相智。ⓒ一切陀羅尼門·一切三摩地門。ⓒ預流果乃至阿羅漢果。 (c) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (c) 內空乃至無性自性空。 (c) 真如乃至不思議界。 (c) 苦聖諦乃至 (©四靜慮・四無量、©八解脫乃至八聖道支。©四念住乃至八聖道支。©空解脫門乃至無願 (c)獨覺菩提。(c) (c)

(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。は眼處乃至意處。は色處乃至法處。は眼界乃至諸受。は耳界乃至諸受。は鼻界乃至諸受。 故に、若しは八解脱清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが の故に、若しは八解脱清浄若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次には善現、八解脱清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 八解脫清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての

【三】四無色定に就て清釋を明す。
(の「善現四無色定清淨故色清淨……若四無色定清淨故色清淨若一切智智清淨若一切智智清淨若一切智智清淨若一切智智清淨若一切智智清淨

の前巻と同意。

右も()の場合の如く以下略出 右も()の場合の如く以下略出 無二分無別無斷故」 無二分無別無斷故」 無二分無別無斷故」

す。

脱門。回菩薩の十地。回五眼・六神通。回佛の十力乃至十八佛不共法。回無忘失法・恒住捨性。回 聖諦。 (a) 舌界乃至諸受。(a) 身界乃至諸受。(a) 意界乃至諸受。(a) 地界乃至識界。(a) 無明乃至老死愁歎苦變惱。 故なり。(《眼處乃至意處。《色處乃至法處。《眼界乃至諸受。《耳界乃至諸受。《鼻界乃至諸受。 切智乃至一切相智。(4)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(4)預流果乃至阿羅漢果。(4)獨覺菩提。(4)一切 (a) 布施波羅蜜多乃至敷若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)真如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道 の菩薩摩訶薩行。の諸佛の無上正等菩提 故に、若しは四髎慮清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 四靜庫清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (3四無量・四無色定。(3)八解脫乃至十遍處。(3)四念住乃至八聖道支。(3)空解脫門乃至無願解 何を以ての

し舌界乃至諸受。し身界乃至諸受。し意界乃至諸受。し地界乃至識界。b)無明乃至老死愁歎苦憂惱 故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。 智乃至一切相智。的 聖諦。

ゆ四靜慮・四無色定。

ゆ八解脫乃至十遍處。

ゆ四念住乃至八聖道支。

ゆ空解脫門乃至無願解 菩薩摩訶薩行・り諸佛の無上正等菩提。 脱門。心菩薩の十地。の五眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。い一切 心布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心真如乃至不思議界。心苦聖諦乃至道 故に、若しは四無量清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが の故に、者しは四無量清淨者しは色清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に心善現、 四無量清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 四無量清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 一切陀羅尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。心一切の

> *****若四無量清淨若受想 行識清淨若 的「喜現四無量清淨故色清淨 切智智清淨無一

> > (315)

出す。 二分無別無斷故

初分雖信解品第三十四之四十四

切の菩薩摩訶薩行。匈諸佛の無上正等菩提。 一切智乃至一切相智。 (a) 四靜慮乃至四無色定。 菩薩の十地。 a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。a)預流果乃至阿羅漢果。 (a) 五眼·六神通。 (a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願 a佛の十力乃至十八佛不共法。a無忘失法·恒住捨性。 (a) 獨覺菩提。 (a) (a)

心布施 心一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。 (b) 舌界乃至諸受。(b) 身界乃至諸受。(b) 意界乃至諸受。(b) 地界乃至識界。(b) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。山眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。 の故に、 解脱門。山菩薩の十地。山五眼・六神通。 復た次に心善現、 道聖諦清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 波羅 若しは道聖諮清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが b四靜慮乃至四無色定。b八解脫乃至十遍處。b)四念住乃至八聖道支。b)空解脫門乃至無 若しは道理諦清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 蜜 多乃至般者波羅蜜多。 (1) 內空乃至無性自性空。 (1) 真如乃至不思議界。 (1) 苦聖諦、 道聖諦清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 **心佛の十カ乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。** 何を以 (b)

切の菩薩摩訶薩行。

心諸佛の無上正等菩提。

初分難 信解品第三十四之四十四

の故に著しは四靜慮清淨著しは色清淨著しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な (a) 善現、 四静慮清淨なるが故に色淸淨、 色清浄なるが故に 切智 清淨なり。 何を以て

> 出す。 右も同の場合と同じく以下略 無二分無別無斷故 るもの、即ち悟の因を示せる つところの諸種の遺品を説け ……若道聖諦清淨若受想 一切智智清淨無一

ものなり。 【二】 道樂譜(Mārga-Batya)。 苦本を滅せんが爲に感業を斷

下略出す。 行識清淨若 ……若四靜慮清淨若受想 (a)「善現四靜慮清淨故色清淨 無二分無別無斷故」 四部度に就て清浄を明 一切智智清淨無二

(b) 似。 (b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死(b) 故に、 故に、 切 願解脫門。 故なり。 bo 切智乃至 流布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。b)內室乃至無性自性空。b)真如乃至不思議界。b) 薩摩訶薩行。 若しは集聖諦清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分法く別無く斷無きが 若しは集聖諦清淨若し い四靜慮乃至四無色定。b)八解脫乃至十遍處。b)四念住乃至八聖道支。b)空解脫門乃至 (b) (b) 眼 清淨なるが故に受想行識清淨、 菩薩 處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。 切相智。(b) の十地。 (b) 諸佛の無上正等菩提 一切陀羅尼門·一 (b) 五眼·六神通。(b) は色清淨若しは一 受想行識清淨なるが故に 切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。 佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。 切智智清淨は二無く二分無く別無く 切智智清淨なり。 無きが 愁 何を以ての 苦聖諦、滅 敷苦 憂 無

卷の第二百二十四

初分難信解品第三十四之四十三

が故なり。 故に、 (a) (a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。 り。減聖諦清淨なるが故に受想行識淸淨、 布施沙羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 復た次に四善現、滅聖諦清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての は滅聖諦清淨若 (a) は滅聖諦清淨者しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 眼 處乃至意處。 しは受想行識清淨、 (a) 色處乃至法處。 (a) (a) 意界乃至諸受。 內室乃至無 受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 若しは一切智智清淨は二無く二分無く別 a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。 性自性空。 (a)地界乃至識界。a)無明乃至老死愁歎苦變惱。 (a) 真如乃至不思議界。 (a) 苦聖斋、 無く 何を以ての 集道 故 75

(の「善現滅塞諸清浄故色清浄……若滅聖諸清浄若受想無二分無別無斷故」、※※※は一切智智清浄無二行龍清淨若一切智智清淨無二方も前後的の場合と同じく以下略出す。

「国人」 集の因を滅すれば果の苦が除 集の因を滅すれば果の苦が除 かれ其の結果が涅槃寂靜の證 果であると示す。即ち悟の果 を示せるものなり。

1

解品第三十四之四十二、

=

六五三

無願解脫門。 切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內室乃至無性自性室。的真如乃至虚空界。 切智乃至一切相智。⑷一切陀羅尼門・一切三摩地門。⑷預流果乃至阿羅漢果。 い四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至 山菩薩の十地。 (b)五眼・六神通。b)佛の十力乃至十八佛不共法。b)無忘失法・恒住捨 (b) 獨覺菩提。 (1) 苦聖諦乃至

巻の第二百二十三

初分難信解品第三十四之四十二

(a) (a) 舌界乃至諸受。(a) 身界乃至諸受。(a) 意界乃至諸受。(a) 地界乃至識界。(a) 無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 故なり。(4)眼處乃至意處。(4)色處乃至法處。(4)眼界乃至諸受。(4)耳界乃至諸受。(4)鼻界乃至諸受。 故に、若しは苦聖諦清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが り。苦聖諦清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 故に、若しは苦聖諮淸淨若しは色淸淨 若しは一切智智淸淨は二無く二分無く 別無く斷 無きが故な 復た次に()善現、苦聖諮清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 切の菩薩摩訶薩行。 一切智乃至 (a) 布施波羅蜜多乃至敷若波羅蜜多。(1)內空乃至無性自性空。(1)真如乃至不思議界。 (a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無 (a)菩薩の十地。(a)五眼·六神通。(a)佛の十カ乃至十八佛不共法。(a)無忘失法·恒住捨性。 切相智。 (a)諸佛の無上正等菩提。 (a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。 (a) 集聖諦滅 何を以ての (a)

復た次に心善現、集聖諦清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての

迷の因を示せるものなり。

ることを徹見せるもの、即 tyn)。現在の苦の原因を觀察 【三】集聖論(Samudaya-Ban

、之れは煩悩による業で

ちあ

す。 ……若苦聖諦清释若受想 右も前後しと同じく以下 「善現苦聖論清淨故色清淨 二分無別無斷故一 一切智智清淨無二

(b)「善現集聖諦清淨故色清淨即ち迷の果を示せるものなり 右も向の場合に準じ以下略出 行識清淨若一切智智清淨無二 ……若集聖節清淨若受想 T 現在の事實を示し人生はすべ 古光の果を示せるものなり。苦なりと觀ぜしめるもの、 苦聖論(Dulikha-Batya)。 提。(山一切の菩薩摩訶薩行。(山諸佛の無上正等菩提。 諦乃至道聖諦。(A)四靜慮乃至四無色定。(A)八解脫乃至十遍處。(A)四念住乃至八聖道支。(A)空解脫門 住捨性。自一切智乃至一切相智。自一切陀羅尼門・一切三摩地門。自預流果乃至阿羅漢果。自獨覺菩 乃至無願解脫門。(自菩薩の十地。(自五眼・六神通。(自佛の十力乃至十八佛不共法。(自無忘失法・恒 故なり。 (a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死 愁 故に、若しは虚空界清淨著しは受想行識清淨著しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 故に、若しは虚空界清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 (a) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a) 真如乃至實際不思議界。(a) 苦聖 た次に回善現、虚字界清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 虚空界清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (a) .眼處乃至意處。即色處乃至法處。即眼界乃至諸受。即耳界乃至諸受。即身界乃至諸受。 無きが 何を以 何を以ての 數苦憂 ての

受。(1)舌界乃至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁歎苦 きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸 なり。 の故に、著しは不思議界清淨者しは色清淨者しは一切智智は清淨二無く二分無く別無く斷無きが故 復た次に心善現、不思議界清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 不思議界清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 若しは不思議界清淨者しは受想行識清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無 何を以

(八)「善現虚空界清浄故色清浄(八)「善現虚空界清浄故色清浄無二分無別無斷故」
右も前絵()の場合と同じく以
市も前絵()の場合と同じく以
下略田す。
「一】 虚空界。無色無形、無
「一】 虚空界。無色無形、無

(b)「鼻現不思議界清淨故色清淨………若不思議界清淨若那二分無別無斷故」無二無二分無別無斷故」無二無二分無別無斷故」無二無二分無別無斷故」不也。以下略出す。

大五一

分難信解品第三十四之四十二 ---

至無願解脫門。⑷菩薩の十地。⑷五眼・六神通。⑷佛の十力乃至十八佛不共法。⑷無忘失法・恒住捨 乃至道聖諦。②四靜慮乃至四無色定。②八解脫乃至十遍處。②四念住乃至八聖道支。②空解脫門乃言 處乃至意處。(4)色處乃至法處。(4)眼界乃至諸受。(4)耳界乃至諸受。(4)鼻界乃至諸受。(4)舌界乃至諸 (a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a) 獨覺菩 「多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a) 真如乃至法定實際虚空界不思議界。(a) 苦聖論 身界乃至諸受。 (1)意界乃至諸受。 (1)地界乃至識界。 (1)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 切の菩薩摩訶薩行。は諸佛の無上正等菩提。 (8) 布施波

波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山眞如乃至法住虛空界不思議界。山苦聖諦乃 至諸受。心身界乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃至老死愁歎苦憂惱。心布施 心眼處乃至意處。山色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。心舌界乃(b) 眼處乃至意處。山色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。心 故に、著しは實際清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 無願解脫門。山菩薩の十地。 至道壅諦。心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至至道壅諦。心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至 若しは實際清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 實際清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 た次に山善現、實際清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に、一切智智清淨なり。何を以ての 切の菩薩摩訶薩行。山諸佛の無上正等菩提。 切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門·一切三摩地門。心質液果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提 り五眼・六神通。心佛の十カ乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨

Contract of the Party of the Pa

(b)「善現實際清淨故色清淨::.....若實際清淨若受想行識 清淨若一切智智清淨無二無二 分無別無斷故」 方無別無斷故」 「實際。真如の實理を極 出す。

失法。恒住捨性。 (4)一切智乃至一切相智。 (4)一切陀羅尼門・一切三摩地門。 (4)預流果乃至阿羅漢果。 (a) 獨覺菩提。 (a) 切の菩薩摩訶薩行。 (a) 諸佛の無上正等菩提。

解脱門乃至無願解脫門。心菩薩の十地。心五眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失 (b) 苦聖諦乃至道聖諦。(b) 四靜慮乃至四無色定。(b) 八解脫乃至十遍處。(b) 四念住乃至八聖道支。(b) 空 諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁 歎苦 憂惱。 (b) 布施 獨覺菩提。

山一切の菩薩摩訶薩行。

山諸佛の無上正等菩提。 法·恒住捨性。b)一切智乃至一切相智。b)一切陀羅尼門·一切三摩地門。b)預流果乃至阿羅漢果。b) 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心眞如乃至離生性法住實際虚空界不思議界。 眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的舌界乃至 しは法定清浄若しは受想行職清浄若しは一切智智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 定清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 復た次に助善現、法定清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故 若しは法定清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 法

卷の第二百二十一

初分難信解品第三十四之四十

住清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清浄なるが故に一切智智清浄なり。何を以ての故に、著し は法住清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 に、若しは法住清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 **復た次に⑷善現、法住清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に←切智智清淨なり。何を以ての故** (a) 眼 法

右ものの場合と同じく以下略分無別無斷故」 (b)「善現法定清淨故色清淨… 定して諸法の中に在れば法定 法定。眞如の妙理は決 切智智清淨無二無二

出す。 ……若法定清淨若受想行識 清淨若一

の故に名く。 (8)「善現法住清淨故色清淨… 下略出す。 右も前卷的の場合と同じく以 分別無斷故 ……若法住清淨若受想行識 清淨若一 切智智清淨無二

六四 九

初分難信解品第三十四之三十九、四十

預流果乃至阿羅漢果。(9獨覺菩提。(9一切の菩薩摩訶薩行。(9諸佛の無上正等菩提。 十八佛不共法。(9)無忘失法•恒住捨性。(9)一切智乃至一切相智。(9)一切陀羅尼門•一切三摩地門。(9) 念住乃至八聖道支。(9空解脫門乃至無願解脫門。(9菩薩の十地。(9五眼・六神通。(9佛の十力乃至念住乃至八聖道支。(9空解脫門の) 性離生性乃至不思議界。(《苦聖諦乃至道聖諦。(《四靜慮乃至四無色定。(《八解脫乃至十遍處。(《 惱。(9)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(9)內室乃至無性自性空。(9)真如,法界法性不虚妄性不變異 (P)舌界乃至諸受。(P)身界乃至諸受。(P)意界乃至諸受。(P)地界乃至識界。(P)無明乃至老死 愁 歎 苦 夢 なり。 (中眼處乃至意處。 (中色處乃至法處。 (中眼界乃至諸受。 (中界乃至諸受。 (中界乃至諸受。) 故に若しは平等性滑淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故

初分難信解品第三十四之三十九

至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁數苦憂惱。(1)布施 (4) 空解脱門乃至無顧解脱門。(4) 菩薩の十地。 (4) 五眼・六神通。 (4) 佛の十力乃至十八佛不共法。 (4) 無忘 界。《苦聖譜乃至道聖譜。《四靜慮乃至四無色定。《八解脫乃至十遍處。《四念住乃至八聖道支。 波羅蜜多乃至散若波羅蜜多。因內容乃至無性自性空。因真如乃至平等性法定法住實際虛空界不思議 9。山眼處乃至意處。自色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山身界乃至諸受。山舌界乃 故に、若しは離生性清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 若しは 離生性清淨若しは 受想行識清淨若しは 一切智智清淨は二無く二分無く別無く 斷無きが故な 離生性清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 復た次に(図善現、離生性清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 生死を出離する故に名く。

**********若愛想 (1)「善現離生性清淨故色清淨 右も前巻回の場合と同じく以 二分無別無斷故」 離生性。聖者の正性、

初分難信解品第三十四之三十八

諸佛の無上正等菩提。 (0) 一切陀羅尼門· (o) 五眼·六神通。 (の佛の十力乃至十八佛不共法。(の無忘失法・恒住捨性。(の一切智乃至 切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。 ()獨覺菩提。 の一切の菩薩摩訶薩行。 切相智。

十八佛不共法。①無忘失法·恒住捨性。即一切智乃至一切相智。 乃至諸受。(山舌界乃至諸受。(山身界乃至諸受。(印意界乃至諸受。(山地界乃至識界。(山無明乃至老死) く断無きが故なり。(P服處乃至意處。(P)色處乃至法處。(P)服界乃至諸受。(P)耳界乃至諸受。(P)鼻界 預流果乃至阿羅漢果。P獨覺菩提。P一切の菩薩摩訶薩行。P諸佛の無上正等菩提 念住乃至八寇道支。印空解脱門乃至無願解脫門。即菩薩の十地。 性平等性乃至不思議界。②苦鬼諦乃至道聖諦。②四靜慮乃至四無色定。②八解晚乃至十遍處。②四 愁歎苦憂惱。 以ての故に、者しは不變異性清淨、者しは受想行識清淨、若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無 故なり。 の故に、若しは不變異性清淨若しは色清淨、若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次に印善現、不變異性清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 不變異性清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (P)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(P)內空乃至無性自性空。(P)真如・法界法性不虚妄 (P)一切陀羅尼門·一 (P五眼·六神通。 切三 (p) 佛の 十力乃至 何を (p)

故に、若しは平等性清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く 復た次に回善現、平等性清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 平等性清淨なるが故に受想行識清淨、 受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 斷無 何を以ての 何を以ての きが故 な

> (o) 前巻と同意。

淨……若不變異性清淨故色清 なるにあらざるをい 在りて 右も〇の場合に準じ以下略出無二無二分無別無斷故」 受想行識清淨若一切智智清淨 動かず、因變じて果と 不變異性。諸法自相

出す。 切諸法に周遍して平等なる故 右もPの場合と同じく以下略 行識清淨若一切智智清淨無二 ……若平等性清淨若受想 「善現平等性清淨故色清淨 分無別無斷故 平等性。眞理の性は

六四七

初分雖信解品第三十四之三十八

捨性。(m)一切智乃至一切相智。(m)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(m)預流果乃至阿羅漢果。(m)獨覺菩 至無願解脫門。回菩薩の十地。回五眼・六神通。回佛の十力乃至十八佛不共法。回無忘失法・恒住 波維蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山眞如法界不虛妄性乃至不思議界。山苦聖諦 至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至識界。山地界乃至諸受。山無明乃至老死愁歎苦憂觸。 四眼處乃至意處。山色處乃至法處。四眼界乃至諸受。四耳界乃至諸受。四身界乃至諸受。四舌界乃 若しは法性清浄若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 法性清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 (n) 切の菩薩摩訶薩行。 回四靜慮乃至四無色定。四八解脫乃至十遍處。四四念住乃至八聖道支。四空解脫門乃至四無色定。四八解脫乃至十遍處。四四念住乃至八聖道支。四字解脫門乃 若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 印諸佛の無上正等菩提。 (四)布施

至諸受。()舌界乃至諸受。 ()身界乃至諸受。 ()意界乃至諸受。 ()地界乃至識界。 ()無明乃至老死 断無きが故なり。の眼處乃至意處。の色處乃至法處。の眼界乃至諸受。の耳界乃至諸受。の鼻界乃 ての故に、若しは不虚妄性清淨、若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く なり。不虚妄性清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以 愁歎苦憂惱。〇布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。〇內容乃至無性自性空。〇眞如、法界法性不變異性 復た次にの善現、不虚妄性清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 若しは不虚妄性清淨者しは色清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 (o)苦聖諦乃至道聖諦。(o)四靜慮乃至四無色定。(o)八解脫乃至十遍處。(o)四念作乃至 の菩薩の十地。

(の「善現不虚妄性清淨若清……若不虚妄性清淨若清……若不虚妄性清淨若清。無二分無別無斷故」右も、(2)不處妄性。」以下略用す。 不虚妄性。」 建資性のとと。

羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 菩薩の十地。 靜慮乃至四無色定。(1)八解脫乃至十遍處。(1)四念住乃至八聖道支。(1)空解脫門乃至無願解脫門。(2) 切相智。 (i)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(i)預流果乃至阿羅漢果。(i)獨覺菩提。 (山五眼·六神通。 (1)內空乃至無性自性空。(1)法界乃至不思議界。 山佛の十力乃至十八佛不共法。 山無忘失法・恒住捨性。 (1)苦聖諦乃至道 (l) (1) 聖統。 切の菩 切智 (1)

薩摩訶薩行。

山諸佛の無上正等菩提。

m眼處乃至意處。 界清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 は法界清浄若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た次に回善現・法界清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故 若しは法界清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 蜜多乃至般若波羅蜜多。 m身界乃至諸受。 (m)色處乃至法處。(m)眼界乃至諸受。(m)耳界乃至諸受。(m)鼻界乃至諸受。(m)舌界乃() (n) 意界乃至諸受。(m) 地界乃至諸受。(m) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 m內容乃至無性自性空。 故なり。 (m) 布施 法

巻の第二百一十八

初分難信解品第三十四之三十七

摩地門。 十力乃至十八佛不共法。四無忘失法・恒住捨性。四一切智乃至一切相智。 復た次に回善現・法性清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (m) (m)道 四念住乃至八聖道支。 如 (m) 預流果乃至阿羅漢果。 法性乃至不思議界。 m空解脱門乃至無願解脱門。m菩薩の十地。 m苦聖諦乃至道聖諦。 (m)獨覺菩提、 (m) 一切の菩薩摩訶薩行。 (m四靜慮乃至四無色定。 m) m諸佛の無上正等菩提 m一切陀羅尼門·一 (M)五眼·六神通。 八解脫乃 何を以ての故 (m) 佛 十遍 切三 0 出す。

右も四の場合に同じく以下略右も四の場合に同じく以下略者を一切智智清浄無二無二 清浄著一切智智清浄無二無二

六四五

界乃至諸受。以舌界乃至諸受。以身界乃至諸受。以意界乃至諸受。以地界乃至識界。以無明乃至老死 別無く斷無きが故なり。以眼處乃至意處。似色處乃至法處。以眼界乃至諸受。以耳界乃至諸受。以鼻 何を以ての故に、者しは無性自性空清淨者しは受想行識清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く が故なり。 若しは無性自性室清淨若しは色清淨若しは一切智界清淨は二無く二分無く別無く斷無き 無性自性空清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。

・卷の二第百一十七

初分難信解品第三十四之三十六

脱門。は菩薩の十地。は五眼・六神通。は佛の十力乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は 諦。k)四靜處乃至四無色定。k)八解脫乃至十遍處。k)四念住乃至八聖道支。k)空解脫門乃至無願解諦。k)四靜處乃至四無色定。k)八解脫乃至十遍處。k)四念住乃至八聖道支。k)空解脫門乃至無願解 切の菩薩摩訶薩行。仏諸佛の無上正等菩提。 |切智乃至一切相智。以一切陀羅尼門・一切三摩地門。以預流果乃至阿羅漢果。以獨常菩提。以 似布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。以內空乃至自性空。以真如乃至不思議界。以苦聖諦乃至道聖

()眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()鼻界乃至諸受。()舌界乃 至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁數苦變惱。山布施波 若しは真如清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 如清淨なるが故に、受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 に、若しは眞如淸淨若しは色淸淨若しは一切智智淸淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に山善現・眞如清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての

> 【二】 次に法性十二異名 分別無斷故」 ……若眞如清淨若受想行職 (1)「善現眞如清淨故色清淨… 々に就て清淨を明す。 清淨若一切智智清淨無二無二

右も内の場合と同じく以下略

故

出す。 ひ、常住にして不變不改なれ 妄を離れて眞實なれば真と云 如は如常の義。 ütatathatā)の譯、眞は眞實、 【二】 真如。部多多他多(Bh-諸法の體性虚

卷の第二百一十六

初分難信解品第三十四之三十五

法·恒住捨性。(i)一切智乃至一切相智。(i)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(i)預流果乃至阿羅漢果。 界。()苦聖諦乃至道聖諦。()四靜慮乃至四無色定。()八解脫乃至十遍處。()四念住乃至八聖道支。() 空解脱門乃至無願解脫門。⑴菩薩の十地。⑴五眼・六神通。 獨覺菩提。①一切の菩薩摩訶薩行。①諸佛の無上正等菩提。 ①布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。①內空乃至不可得空自性空無性自性空。①眞如乃 至 不 思議 ()佛の十力乃至十八佛不共法。 ()無忘失

乃至道聖諦。()四靜慮乃至四無色定。()八解脫乃至十遍處。()四念住乃至八聖道支。()空解脫門乃 ①布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 ①內字乃至無性空無性自性空。 ①真如乃至不思議界。 ①苦聖諦 なり。()眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()鼻界乃至諸受。() bo 至無願解脫門。①菩薩の十地。①五眼・六神通。①佛の十力乃至十八佛不共法。①無忘失法・恒住捨性。 舌界乃至諸受。()身界乃至諸受。()意界乃至諸受。()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦變惱。 故に若しは自性空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 故に、若しは自性空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無 き が 故 切の菩薩摩訶薩行。 復た次に①善現・自性空清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 自性空清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 一切相智。「リー切陀羅尼門・一切三摩地門。「頂流果乃至阿羅漢果。「獨覺菩提。」 ()諸佛の無上正等菩提 何を以ての

復た次に似等現・無性自性空清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以

初分難信解品第三十四之三十五

(1) 前巻と同意

(303)

性と俱に不可得なるをいふ。性と俱に不可得なるをいふ。性と俱に不可得なるをいふ。

恒住捨性。(g)一切智乃至 gー切の菩薩摩訶薩行。 一切相智。(g)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 g蓄佛の無上正等菩提。 g 預流果乃至阿羅漢果。

法。心無忘失法•恒住捨性。心一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門•一切三摩地門。心預流 受。山舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至饑界。山無明乃至老死愁歎苦 阿羅漢果。山獨覺菩提。山一切の菩薩摩訶薩行。 聖道支。山空解脫門乃至無願解脫門。山菩薩の十地。山五眼・六神通。山佛の十力乃至十八佛不共 至不思議界。山苦聖蕭乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八至不思議界。山苦聖蕭乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八 憂憐。山布施波羅蜜多乃至較若波羅蜜多。山內空乃至一切法空無性空自性空無性自性空。山眞如乃 きが故なり。山眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸 復た次に山善現・不可得空清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 不可得空清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 若しは不可得空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 若しは不可得空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無 h 諸佛の無上正等菩提。 何を以て

故に、若しは無性空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 (i) 舌界乃至諸受。(i) 身界乃至諸受。(i) 意界乃至諸受。(i) 地界乃至識界。(i) 無明乃至老死愁歎苦憂憐。 故なり。 故に、若しは無性空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 復た大に①善現・無性空清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 無性空清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 ①眼膚乃至意處。①色處乃至法處。①眼界乃至諸受。①耳界乃至諸受。①鼻界乃至諸受。 無きが故な 何を以ての

ところに立てたる空をいふ。ところに立てたる空をいふ。ところに立てたる空をいふ。

(1)「善現無性空清浄故色清神 無二分無別無斷故」 右も(b)の場合と同じく以下略 出す。 出す。

失法。恒住捨性。任一切智乃至一切相智。任一切陀羅尼門・一切三摩地門。任預流果乃至阿羅漢果。 (f) 布施波羅蜜多。 (f) 內空乃至自相空一切法空不可得空無性空自性空無性自性空。 (f) 真如乃至不思議 け獨覺菩提。任一切の菩薩摩訶薩行。任諸佛の無上正等菩提。 舌界乃至諸受。(f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。付眼處乃至意處。创色處乃至法處。付眼界乃至諸受。付耳界乃至諸受。付鼻界乃至諸受。分 (f) 苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f) 八解脫乃至十遍處。(f) 四念住乃至八聖道支。

憂惱。⑤布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。⑤內空乃至共相空不可得空無性空自性空無性空自性空。 り。一切法空清淨なるが故に受想行職清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て きが故なり。⑤眼處乃至意處。⑤色處乃至法處。⑤眼界乃至諸受。⑤耳界乃至諸受。⑤鼻界乃至諸 故に、若しは一切法空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な g真如乃至不思議界。 の故に、 復た次に図善現・一切法空清淨なるが故色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての (g)舌界乃至諸受。(g)身界乃至諸受。(g)意界乃至諸受。(g)地界乃至識界。(g)無明乃至老死愁歎苦 若しは一切法空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無

巻の第二百一十五

初分難信解品第三十四之三十四

解脫門乃至無願解脫門。 図苦聖諦乃至道聖諦。図四靜慮乃至四無色定。 ⑤八解脫乃至十遍處。 ⑤四念住乃至八聖道支。 ⑤空 図菩薩の十地。 (f) 五眼・六神通。 (g) 佛の十力乃至十八佛不共法。 (g) 無忘失法・

右も(f)の場合と同じく略出す。 本義門上の有、實有とすべき なければ空といふ。 (B)「善現一切法空清淨故色清淨………若一切法空清淨若受想行識清淨若一切智智清淨若受想行識清淨若一切智智清淨若

(g) 前卷と同意。

六四一

行。は諸佛の無上正等菩提

故に、若しは自相空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 界乃至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。 若しは自相空清浄若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 自相空清浄なるが故に受想行識清浄、受想行識清浄なるが故に一切智智清浄なり。 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 復た次に(B善現・自相空清浄なるが故に色清浄、色清浄なるが故に一切智智清浄なり。 眼 處乃至意處。(6)色處乃至法處。(6)眼界乃至諸受。(6)耳界乃至諸受。(6)鼻界乃至諸受。 (e) 地界乃至識界。 (e)無明乃至老死愁數苦憂惱。 何を以ての故に、 何を以ての (e) 舌 (e)

巻の第二百一十四

初分難信解品第三十四之三十三

地門。 十力乃至十八佛不共法。 復た次に任善現・共相空清浄なるが故に色清浄、色清浄なるが故に (e) 內空、 (e)四念住乃至八聖道支。(e)室解脫門乃至無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼・六神通。 (e) 預流果乃至阿羅漢果。 外空內外空空空大空勝義空有為空無為空畢竟空無際空散空無變異空本性空共相空乃至無 e 真如乃至不思議界。 e無忘失法·恒住捨性。 (e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。 (e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十 (e)一切智乃至一切相智。 切智智清淨なり。 (e) 諸佛の無上正等菩提。 (e)一切陀羅尼門·一 何を以ての 切三 (e) 佛の

> (e) 「善現自相空清淨故色清澄 無二分無別無斷故」 無二分無別無斷故」 無二分無別無斷故」 相す。 出す。 出す。 出す。 他の諸法と共 通せざる一法獨自の體相空寂 なるを云ふ。

(8) 前卷と同意。

共相空清淨なるが故に受想行識淸淨、

若しは共相空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無き

若しは共相空清淨者しは受想行識清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが

受想行識清淨なるが故に

切智智清淨なり。

何を以て

か

故

初分難信解品第三十四之三十二

切陀羅尼門・一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。心一 定。ⓒ八解脫乃至十遍處。ⓒ四念住乃至八聖道支。ⓒ空解脫門乃至無願解脫門。ⓒ菩薩 空散空本性空乃至無性自性空。(e)真如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃 至 四 無 の無上正等菩提 五眼·六神通。 (c) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內室、外室內外室室室大室勝義室有爲室無爲室畢竟空無際 ©佛の十力乃至十八佛不共法。©無忘失法·恒住捨性。©一切智乃至一切相智。©一 切の菩薩摩訶薩行。 の十地。 (c) 諸佛 色 (c)

至四無色定。は八解脫乃至十遍處。は四念住乃至八聖道支。は空解脫門乃至無顯解脫門。は菩薩の 際空散空無變異空自相空乃至無性自性空。d)真如乃至不思議界。d)苦聖諦乃至道聖諦。d)四靜慮乃 惱。创布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。创內室、外室內外室室室大室勝義室有爲室無爲室畢竟空無 (d) 舌界乃至諸受。(d) 身界乃至諸受。(d) 意界乃至諸受。(b) 地界乃至識界。(d) 無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 故なり。 故に、若しは本性空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが b の故に、者しは本性空清淨者しは色清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次には著現・本性空清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 本性空清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての (d) 五眼 (d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。 切陀羅尼門 ·六神通。 ・一切三摩地門。d)預流果乃至阿羅漢果。d)獨覺菩提。d)一切の菩薩摩訶薩 は佛の十力乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は一切智乃至一切 何を以て

(d)「善現本性空清淨故色清淨(d)」「善現本性空清淨故色清淨若一切智智清淨無二行職清淨若一切智智清淨無二行職清淨若一切智智清淨無二分無別無斷故」
おも()の場合に準じ以下略出
す。

本性空。階性空寂をい

三九

初分難信解品第三十四之三十二

心佛の十カ乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。 乃至十遍處。 室乃至無性自性空。心眞如乃至不思議界。 心眼處乃至意處。心 故に、若しは散空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (は) 第の十力乃至十八佛不共法。 散室清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 切三摩地門。《預流果乃至阿羅漢果。 しは散空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に(b) 多乃至般若波羅蜜多。 (b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 心四念住乃至八聖道支。 善現・散空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的舌界乃 的內空、外空內外空空空大空勝義空有爲空無爲空畢竟空無際空無變異 (a) 無忘失法·恒住捨性。 心空解脱門乃至無願解脫門。心菩薩の十地。 (a) 獨覺菩提。(a) b)苦聖諦乃至道聖諦。 一切の菩薩摩訶薩行。 心一切智乃至一切相智。 (a) 切智乃至 (b)四靜慮乃至四無色定。 一切相智。 a諸佛の無上正等菩提。 (b) 一切陀羅尼門・ (a) 何を以ての故に、 (b)五眼·六神通。 切陀羅尼門· 何を以ての (b) (b) 布施

> (b)「善現散空清浮故色清淨… 清淨若一切智智清淨無二無二 清淨若一切智智清淨無二無二 分無別無斷故」 おも。の場合に準じ以下略出 す。

(○)「善現無變異空清淨故色清淨……若無變異空清淨故色清彩。無無差異空清淨若一切智智清淨若。」無變異空。 諸法自相に在りて動かず、因變じて果となるに非ざれば空と名く。

何を

以ての故に、

無きが故なり。

故なり。無

至諸受。(c)

·舌界乃至睹受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁(c)

切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。

復た次に②善現・無變異空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。

(b) 獨覺菩提。(b)

一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提

何を以

若しは無變異空清淨若しは色清淨若しは

無變異空清淨なるが故に受想行職清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。

一切智智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが

若しは無變異空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く (c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃(c)

佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。 十遍處。①四念住乃至八聖道支。①空解脫門乃至無願解脫門。①菩薩の 至無性自性空。 (1)舌界乃至諸受。(1)身界乃至諸受。 故なり。 (1) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(1)內空、外空內外空空空大空膝養空有為空無為空無際空乃 學地門。 眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。 は畢竟空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 ()預流果乃至阿羅漢果。 (1)真如乃至不思議界。(1)苦聖諦乃至道聖諦。 (1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無明乃至老死 (i)獨覺菩提。 (i) (1)一切智乃至一 切の菩薩摩訶薩行。⑴諸佛の無上正等菩提。 (i)四靜順乃至四無色定。(i)八解脫乃至 一切相智。 十地。 (i)一切陀羅尼門·一 (i)五眼·六神通。 愁 歎 無きが (i)

卷の第二百一十二

初分難信解品第三十四之三十一

乃至十遍處。 **室乃至無性自性室。**(a)真如乃至不思議界。 (a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a) b 故なり。 の故に、 (1) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(1)內空、外空內外空空空大空勝義空有爲空無爲空畢竟空散 無際空清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 た次に 著しは無際空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く 斷無き (a) 若しは無際空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 服處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至譜受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。 (a) 善現· a四念住乃至八聖道支。 無際空清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 a之解脫門乃至無願解脫門。 (a) 苦聖諦乃至道聖諦。 (a) 四靜慮乃至四無色定。 a)菩薩の十地。 無明乃至老死 (a) 五眼·六神通 愁·歎 何を以て (a) 八解脫 何を以 苦 憂

(本) 善現無際空清淨者受想行識清淨者一切智智清淨無二 無二分無別無斷故一無二分無別無斷故一無二分無別無斷故一 無二分無別無斷故一 無三分無別無斷故一 情望にして無際空清淨無二 情望にして無際空。世間一切法は 情望にして無際の相亦た不可

卷の第二百一十一

初分難信解品第三十四之三十

至十八佛不共法。心無忘失法•恒住捨性。山一切智乃至一切相智。山一切陀羅尼門•一切三摩地門。 故なり。 故に、若しは無為空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く bo 地門。⑤預流果乃至阿羅漢果。⑤獨覺菩提。 力乃至十八佛不共法。⑤無忘失法・恒住捨性。⑤一切智乃至一切相智。 四念住乃至八聖道支。 舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受、山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。山 の故に、若しは無為空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 預流果乃至阿羅漢果。小獨覺菩提。山一切の菩薩摩訶薩行。 宮四念住乃至八聖道支。 復た次に山善現・無傷空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 山真如乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。 無為空清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空、外空內外空空空大空勝義空有為空畢竟空乃至無性自性 的眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。山 山空解脱門乃至無願解脱門。山菩薩の十地。山五眼・六神通。山佛の十力乃 g空解脫門乃至無願解脫門。 g菩薩 図ー切の菩薩摩訶薩行。 山諸佛の無上正等菩提。 の十地。図五眼・六神通。 図諸佛の無上正等菩提。 g)一切陀羅尼門。 一 何を以ての 何を以て 断無きが 宮佛の十 切三摩

bo

の故に、者しは畢竟空清淨者しは色清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な

色清淨なるが故に一切智智清淨なり。

何を以て

畢竟空清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての

復た次に①善現・畢竟空清淨なるが故に色清淨、

なり。 (f)舌界乃至諸受。(f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 故なり。氏眼處乃至意處。氏色處乃至法處。丘眼界乃至諸受。氏耳界乃至諸受。氏鼻界乃至諸受。 の故に若しは勝義空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが 勝義空清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 若しは 勝義空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 何を以て

故なり。 bo (g)舌界乃至諸受。 (g)身界乃至諸受。 (g)意界乃至諸受。 (g)地界乃至識界。 (g)無明乃至老死 愁 歎 苦 憂 故に、若しは有爲空淸淨若しは受想行職淸淨若しは一切智智淸淨は二無く二分無く別無く斷無きが の故に、若しは有爲空淸淨若しは色淸淨若しは一切智智淸淨は二無く二分無く別無く斷無きが故な 復た次に図善現・有爲空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て 有爲空清淨なるが故に受想行職清淨、受想行職清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て g真如乃至不思議界。g苦諦諦乃至道聖諦。 g市施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 g內空、外空內外空空空大空勝義空無爲空乃至 g眼處乃至意處。g色處乃至法處。g眼界乃至諸受。g耳界乃至諸受。g鼻界乃至諸受。 図四靜慮乃至四無色定。 図八解脫乃至十遍處。 性自 性 0

不共法。ff無忘失法·恒住捨性。ff一切智乃至一切相智。ff一切陀羅尼門·一切三摩地門。ff預流果

至八聖道支。氏空解脱門乃至無願解脫門。氏菩薩の十地。氏五眼・六神通。氏佛の十力乃至十八佛

乃至阿羅漢果。任獨覺菩提。任一切の菩薩摩訶薩行。任諸佛の無上正等菩提。

如乃至不思議界。(作苦聖諦乃至道聖諦。(小四靜慮乃至四無色定。(八八解脫乃至十遍處。(小四念住乃 惱。氏布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。氏內空、外空內外空空空大空有爲空乃至無性自性空。

(f) 眞

無二分無別無斷故 行識清淨若 ……若勝義空清淨若受想 (五) 善現勝義空清淨故色清淨 右も回の場合に準じ以下略出 受なく著なきが故にこ

出す。 因線和合に生ずる故に空なり。 無二分無別無斷故若有爲空清淨若受想 【二】 有爲空。五蘊十二處等 右も町の場合に準じて以下略 行識清淨若一切智智清淨無一 (B)「善現有爲空清淨故色清

(295)

乃至無願解脫門。は菩薩の十地。は五眼・六神通。は佛の十カ乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住 提。は一切の菩薩摩訶薩行。は諸佛の無上正等菩提。 捨性。(d) **諦乃至道聖諦。**(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門 多乃至敬若波羅蜜多。因內容、外空內外空大空乃至無性自性空。因真如乃至不思議界。因苦聖 一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩

諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁數苦憂惱。 眼處乃至意處。(自色處乃至法處。(自眼界乃至諸受。(自耳界乃至諸受。(自鼻界乃至諸受。(自舌界乃至 しは大空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(e) 大
を清淨なるが故
に
受想行
識清淨・受想行
識清淨なるが故
に
一切智智清淨なり。何を以ての故
に、若 故に、若しは大空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に回善現・大空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての

巻の第二百一十

初分難信解品第三十四之二十九

@無忘失法·恒住捨性。@一切智乃至一切相智。 思議界。回苦聖諦乃至道聖諦。回四靜慮乃至四無色定。回八解脫乃至十遍處。回四念住乃至八聖道 漢果。 (e) 獨覺菩提。 (e) 一切の菩薩摩訶薩行。 (② | 空解脱門乃至無願解脱門。 (② 菩薩の十地。 (④ 五眼・六神通。 (④ 佛の十力乃至十八佛不共法。 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (e)內空、外空內外空空勝義空乃至無性自性空。(e)真如乃至不 (e)諸佛の無上正等菩提、 (e) 一切陀羅尼門·一 切三摩地門。但預流果乃至阿羅

復た大に①善現・勝義室清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以て

(6)「善現大空清浄故色清浄……若大空清浄若受想行識清浄若一切智智清浄無二無二方もはの場合に準じ以下略出す。 大空。十方相素~空なり。

(a) 前巻と同意。

卷の第二百九

初分難信解品第三十四之二十八

獨覺菩提。(c) 法•恒住捨性。ⓒ一切智乃至一切相智。ⓒ一切陀羅尼門•一切三摩地門。⑹預流果乃至阿羅漢果。 解脱門乃至無願解脫門。ば菩薩の十地。ば五眼・六神通。 (c) 苦聖諦乃至道聖諦。(c) 四靜慮乃至四無色定。(c) 八解脫乃至十遍處。(c) 四念住乃至八聖道支 (c) 舌界乃至諸受。(0身界乃至諸受。 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 一切の菩薩摩訶薩行。(C)諸佛の無上正等菩提。 (C) 意界乃至諸受。 (6)內室、外室室室乃至無性自性室。 (c) 地 (6)佛の十力乃至十八佛不共法。(6)無忘失 界乃至識界。 C無明乃至老死愁歎苦憂 (0)真如乃至不思議界。 (c) 空 (c)

審受。d)身界乃至諸受。d)意界乃至諸受。d)地界乃至識界。d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。d)布施波 d眼處乃至意處。d 空空清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 故に、若しは空空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 しは空空清浄若しは受想行識清浄若しは一切智智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に创善現・空空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。 何を以ての故に、 (d) 舌界乃至

(の「善現内外空清浮放色清浮に……若内外空清浮落一切智智清浮無二行識清浮落一切智智清浮無二方。)の場合に準じ以下略出方。

(c) 前巻と同意。

(山「善現空空清浄故色清浄: ……若空空清浄若受想行識 付別す。 空空。內空等の三空を 空なり。

大三田

初分脈信解品第三十四之二十八

門。(8菩薩の十地。(8五眼・六神通)。(佛の十力乃至十八佛不共法。(8無志失法・恒住捨性。(8一切 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。四外空乃至無性自性空。四眞如乃至不思議界。回苦聖諦乃至道聖諦 至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁歎苦憂惱、 若しは内室清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 菩薩摩訶薩行。匈諸佛の無上正等菩提。 智乃至一切相智。()句陀羅尼門・一切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。()獨覺菩提。()一切の() (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃(a) 内容清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 . 慮乃至四無色定。 (a)八解脫乃至十遍處。 (a)四念住乃至八聖道支。 (a)空解脫門乃至 無 何を以ての故に、 願解脫 (a) 布施

脫多乃至般若波羅蜜多。b)內容、內外空乃至無性自性空。b)真如乃至不思議界。b)苦聖諦乃至道聖 受。山身界乃至諸受。意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。山布施波羅蜜 處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。 的舌,界乃至 諸 は外空清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。心眼 空清淨なる故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、若し に、若しは外空清淨著しは色清淨著しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。外 復た女に切善現・外空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以 b四静慮乃至四無色定。b)八解脫乃至十遍處。b)四念住乃至八聖道支、b)空解脫門乃至無願解 (b)菩薩の十地。(b) 五眼·六神通。(b) 佛の十力乃至十八佛不共法。(b) 無志失法·恒住捨性。(b) 一切 一切相智。山一切陀羅尼門・一切三摩地門。山預流果乃至阿羅漢果。山獨覺菩提。山一 心諸佛の無上正等菩提。 っての故 切の

(b)「喜現外空清淨故色清淨::
.......若外空清淨若受想行識清淨若一切智智清淨無二無二清淨若受想行識者所無斷故」
分無別無斷故」
外空。六外處,色聲香才。

果乃至阿羅漢果。a獨覺菩提。a一切の菩薩摩訶薩行。 佛不共法。闾無忘失法・恒住捨性。闾一切智乃至一切相智。 乃至八聖道支。()。空解院門乃至無願解院門。(②菩薩の十地。(②五眼・六神通。(3佛の十カ乃至十八 資如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。 a、諸佛の無上正等菩提。 (a)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (a) 四念住 (a) 預流

(b)無忘失法·恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅 思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解耽乃至十遍處。山四念住乃至八聖道 受。山外界乃至諸受。山舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。 明乃至老死愁歎苦憂惱。心淨戒波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心眞如乃至不 分無く別無く斷無きが故なり。心眼界乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸 無きが故なり。布施波羅蜜多清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨な 以ての故に、若しは布施波羅蜜多清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く無別く斷 復た次に

し善現・布施波羅蜜多清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての故に、若しは布施波羅蜜多清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二 (b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。 | 空解脱門乃至無願解脱門。 ()| 菩薩の十地。 ()) 五眼・六神通。 ()) 佛の十カ乃至十八佛不共法。 (b)諸佛の無上正等菩提。 何を (b) 無

巻の第二百八

初分難信解品第三十四之二十七

故に、著しは内空清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に(a)善現・ 内空清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての

初分雖信解品第三十四之二十六、七

多清淨若受想行識清淨若一切色清淨……若布施波羅蜜

右も同の場合に準じ以下略出

清淨若一切智智清淨無二無二 を明す。 六內處空。 右も前卷的に準じ以下略出す。 分無別無斷故」 眼耳鼻舌身意の

佛不共法。心無忘失法•恒住捨性。心一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門•一切三摩地門。心預流 乃至八聖道支。心空解脱門乃至無願解舵門。心菩薩の十地。心五眼・六神通。心佛の十力乃至十八色 真如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住 明乃至老死愁歎苦憂懷。心布施波羅蜜多、淨戒精進靜慮般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心 受。山外界乃至諸受。山舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山 無く別無く斷無きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸 り。何を以ての故に、若しは安忍波羅蜜多清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分 無きが故なり。安忍波羅蜜多清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨な 以ての故に、若しは安忍波羅蜜多清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。心一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。

巻の第二百七

THE A SECOND SECURITY OF THE PARTY OF THE PA

初分難信解品第三十四之二十六

以ての故に、若しは淨戒波羅蜜多清淨若しは色淸淨若しは一切智智淸淨は二無く二分無く別無く斷 受。(1),异界乃至諸受。(1)舌界乃至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無 無く別無く斷無きが故なり。(②眼處乃至意處。(③色處乃至法處。(③眼界乃至諸受。(④耳界乃至諸無く別無く斷無きが故なり。(④甲界乃至諸 なり。何を以ての故に、若しは淨戒波羅蜜多清淨若しは受想行識若しは一切智智清淨は二無く二分 無きが故なり。淨戒波羅蜜多清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に一切智智清淨 復た次に(の善現・浄
液凝蜜多清浄なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を

明乃至老死愁敷苦憂惱。(《布施波羅蜜多,安忍精進靜慮般若波羅蜜多。(《內空乃至無性自性空。(《

(1) 「善現番戒波羅蜜多清淨荷色清淨………若華戒波羅蜜多清淨若受想行識清淨若一切智清淨無二無二分無別無斷智智清淨無二無二分無別無斷智問。

(b) 真如 住乃至八聖道支。山室解脫門乃至無願解脫門。 八佛不共法。 乃至老死愁歎苦憂惱。 乃至不思議界。 b無忘失法·恒住捨性。 (b) 苦 心布施波羅蜜多、 聖諦乃至道聖諦。 (b) 一切智乃至 (b)四靜慮乃至四無色定。 淨戒安忍精進般若波羅蜜多。 心菩薩の十地。 切相 智。 (b) (b)五眼·六神通。 切陀羅尼門·一 (b) 八解脫乃至十 (b)內室乃至無性自性空。 切二 (b) 佛の十カ乃至十 摩地 遍處。 門 (b) 四念 (b) 預

卷の第二百六

流界乃至阿羅漢果。

(b)獨覺菩提。

(b)

切の菩薩摩訶薩行。

(b)諸佛の無上正等菩提。

初分難信解品第三十四之二十五

乃至不思議界。 至老死愁歎苦憂惱。 (a) 八聖道支。 り。何を以ての故に、若しは精進波羅蜜多清淨若しは受想行識清淨若しは一 無きが故なり。精進波羅蜜多清淨なるが故に受想行識清淨・受想行識清淨なるが故に 以ての故に、 鼻界乃至諸受。(a) た次に (a) 無忘失法·恒住捨性。 (a) 空解脫門乃至無願 (4) 善現・精進波羅蜜多清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に (a) 無きが故なり。 若しは精進波羅蜜多清淨若しは色清淨若しは 獨覺菩提。 (8) 苦聖諦乃至道聖諦。 舌界乃至諸受。 a布施波羅蜜多、 (a) (a) 眼處乃至意處。 (a) 色處乃至法處。 (a) 眼界乃至諸受。(a) 耳界乃至諸受。 (a) 一切智乃至 切 解於門。 の菩薩摩訶薩行。 (a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。 (a) 淨戒安忍靜慮般若波羅蜜多。 (a) 菩薩 四靜慮乃至四無色定。 切相智。 0 十地。 (a) 諸佛の無上正等菩提。 (a) (a) 五眼 切陀羅尼門· 切智智清淨は二無く二分無く別無く . 八解脫乃至十遍處。 六神通。 (a) 內空乃至無性自性 (a) 地界乃至識界。 切二 (a) 切智智清淨は二無く二分 佛 切智智清淨なり。 摩地門。 0 --力乃至 (a) 切智智清淨な 24 (a) (a) 預流果乃 十八佛不 念住乃至 無明乃 (a) 真如 何

復た次に

い善現・安忍波羅蜜多清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に 切智智清浄なり。 何を

(4)「善現精進波羅蜜多清淨故色清淨……若精進波羅蜜多清淨若受想行識清淨若一切智智清淨無二無二分無別無斷故」

(289)-

(b)「善現安忍波羅蜜多清浮故色清浮………若安忍波羅蜜多清浮若受想行識清浮若一切智智清浮無二無二分無別無斷故」右も高の場合に準じ以下略出す。

卷の第二百五

《難信解品第三十四之二十四

明乃至老死愁歎若憂惱。 受。四界界乃至諸受。回舌界乃至諸受。四身界乃至諸受。回意界乃至諸受。 無きが故なり。般若波羅蜜多清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨な 以ての故に、 血無忘失法·恒住捨性。 無く別無く斷無きが故なり。(《眼處乃至意處。(《色處乃至法處。(《眼界乃至諸受。(《耳界乃至諸無く別無く斷無きが故なり。(《眼處乃至意處。(《色處乃至法處。(《眼界乃至諸受。(《耳界乃至諸 り。何を以ての故に、若しは般若波羅蜜多清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分 復た次には善現、般若波羅蜜多清淨なるが故に色清淨・色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 |空解脱門乃至無願解脱門。 (a) 菩薩の十地。 (a) 獨覺菩提。(a) 一切の菩薩摩訶薩行。 (a) 苦聖諦乃至道聖諦。 若しは般若波羅蜜多清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 (a)一切智乃至一切相智。 (a)布施波羅蜜多乃至靜慮波羅蜜多。(a)內室乃至無性自性空。(a)真如乃至不 (a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道 (a)諸佛の無上正等菩提。 a)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。 (a) 地界乃至識界。 (a)預流果乃至阿羅 (a) 無 何を

諸受。心身界乃至諸受。心舌界乃至諸受。心身界乃至諸受。 なり。 無きが故なり。 以ての故に、若しは靜慮波羅蜜多清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 一分無く別無く斷無きが故なり。山眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至 復た次に心善現、靜慮波羅蜜多清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に 何を以ての故に、 靜慮波羅蜜多清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨 若しは靜慮波羅蜜多清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く (b) 意界乃至諸受。 一切智智清淨なり。 (b) 地界乃至識界。 (b)

を明す。

智智清掃無二無二分無別無断 を下に出す諸法を挿入せば他 大下に出す諸法を挿入せば他 多清淨若受想行識清淨若一切

右も同の場合に準じて以下略清淨無二無二分無別無斷故」 色清淨……若靜慮波羅蜜

巻の第二百四

初分難信解品第三十四之二十三

諸受。 智。 內室乃至a無性自性空。 (a) (a) なるが故に眼處淸淨、 なり。想清淨なるが故に行清淨、行清淨なるが故に想清淨なり。何を以ての故に、是の想清淨と行 るが故に受清淨なり。 淨なり。何を以ての故に、是の行淸淨と識淸淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。行清淨なるが故に識清淨、識清淨なるが故に行清 五眼 八解脫乃至a 色清淨と受清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に善現、 一無く二分無く別無く斷無きが故なり。(3、眼處乃至(3意處)。 (a) (a) 耳界乃至(a)諸受。 諸佛の無上正等菩提 (a) 六神通。 (a) 地界乃至。a識界。 切陀羅尼門 十遍處。 (a) 佛の (a)色清淨なるが故に受淸淨、 (a) 何を以ての故に、是の受清淨と想清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故 眼處清淨なるが故に識清淨なり。 切三 (a) 鼻界乃至(a) 諸受。 (a) 真如乃至(a) 不思議界。 十力乃至(a) (a)四念住乃至(a)八聖道支。 (a)無明乃至(a)老死愁歎苦憂惱。 摩地門。 十八佛不共法。 (a)預流果乃至(a) (a) 舌界乃至(a) 諸受。 受清淨なるが故に色清淨なり。 (a) 苦聖諦乃至(a) 道聖諦(a) 四靜慮乃至(a) 四無色定。 (a) 室解脫門乃至(a) 無願解脫門。 a無忘失法。恒住捨性。 阿羅漢果。 何を以ての故に、是の識清淨と眼處清淨 (1) 布施波羅蜜多乃至(1) 般若波羅蜜多。 (a) 色處乃至(a) 法處。 受清淨なるが故に想清淨、 (a) 獨覺菩提。 (a) 身界乃至(a) (a) 諸受。 (a) 何を以ての故に、 切智乃至(a) 切 (a) 菩薩の (a) 眼界乃至a) 0 (a) 意界乃至(a) 想清淨な 十地 識清淨 切相 (a) 諸 是

(287)

乃至四無色定。此八解脫乃至十遍處。此四念住乃至八聖道支。此空解脫門乃至無願解脫門。任菩薩 乃至般若波羅蜜多。竹內空乃至無性自性空。竹眞如乃至不思識界。竹苦聖諦乃至道聖諦。竹四靜慮 (f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多 の十地。①預流果乃至阿羅漢果。①獨覺菩提。①一切の菩薩摩訶薩行。①諸佛の無上正等菩提 至意處。任色處乃至法處。任眼界乃至諸受。任耳界乃至諸受。任鼻界乃至諸受。任舌界乃至諸受。 職清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 ①眼處乃 浮なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、若しは しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。

乃至四無色定。⑤八解脫乃至十遍處。⑤四念住乃至八聖道支。⑤空解脫門乃至無願解脫門。⑤菩薩 (B)身界乃至諸受。(B)意界乃至諸受。(B)地界乃至識界。(B)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 の十地。⑤五眼・六神通。⑤佛の十力乃至十八佛不共法。⑤無忘失法・恒住捨性。⑤一切智乃至一切 乃至般若波羅蜜多。因內容乃至無性自性空。因真如乃至不思議界。因苦聖諦乃至道聖諦。因四靜慮 至意處。⑤色處乃至法處。⑤眼界乃至諸受。⑤耳界乃至諸受。⑤界界乃至諸受。⑤舌界乃至諸受。 **爆清浄若しは受想行識清浄若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 図眼處乃** 淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、若しは に、若しは握清淨者しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次には善現、癡清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以この故 (g)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(g)預流果乃至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩 g布施波羅蜜多 癡清

> (8)「善現職清浄新受急行議清浄 若一切智智清浄無二無二分無 著一切智智清浄無二無二分無 別無斷故」

(d) 獨覺菩提。 d空解脱門乃至無願解脱門。di菩薩の十地。 忘失法·恒住捨性。d d苦聖諦乃至道聖諦。 (d) 切の菩薩摩訶薩行。 一切智乃至一 d四靜慮乃至四無色定。d八解脫乃至十遍處。 切相智。 d諸佛の無上正等菩提。 (d) (d) 五眼 切陀羅尼門·一 · 六神通。 は佛の十力乃至十 切三摩地門。他預流果乃至阿羅漢果。 d四念住乃至八聖道支。 八佛不共法。 (d)

乃至般若波羅蜜多。 乃至四無色定。 (e)身界乃至諸受。 淨なるが故に受想行識清淨、 に、著しは食清淨若しは色清淨若しは一 食清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 十地。 復た次に(e)善現、 (e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。 (e)八解脫乃至十遍處。 (c) 意界乃至諸受。 (6)內空乃至無性自性空。 食清淨なるが故に色清淨、 受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (e) 地界乃至識界。 (e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (e) 真如乃至不思議界。 色清淨なるが故に (e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 一切智智清淨なり。 (e) 苦聖諦乃至道 何を以ての故に、 (e)舌界乃至踏受。 是語。 解脫門。 (e) 布施波羅蜜多 何を以 (e) 眼處乃 (e) (c) 菩薩 四靜慮 若し ての故

卷の第二百三

初分難信解品第三十四之二十二

諸佛の無上正等菩提。 (e) (e)五眼·六神通。 切陀羅尼門 (e) 切三摩地門。 佛の十力乃至十八佛不共法。 e預流果乃至阿羅漢果。 e無忘失法·恒住捨性。 (e) 獨 覚菩提。 (e) (e) 切の菩薩摩訶薩行。 一切智乃至 切相智。 (e)

復た次に任善現、 順清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に一 切智智清淨なり。 何を以ての故

分離信解品第三十四之二十一、二

(6)「善現貪清淨故色清淨……若食清淨若受想行識清淨若一切智智清淨無二無二分無有も(1)の場合に準じて以下降日す。

右も(の) 動巻と同意。 ……若職清淨若受想行職清淨 若一切智智清淨無二無二分無 清淨 新書等 一切智智清淨無二無二分無 の場合に準じ以下略出

六二五

K

至老死愁歎苦憂惱。 (c) く別無く斷無きが故なり。(O)眼塵乃至意處。(O)色處乃至法處。(O)眼界乃至諸受。(O)耳界乃至諸受。 の瞋清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 想行識清淨なれば即ち瞋淸淨なり。 · 异界乃至諸受。ⓒ舌界乃至諸受。ⓒ身界乃至諸受。 復た次に(c)善現、 瞋清淨なれば即ち色清淨、 何を以ての故に、是の瞋清淨と受想行識清淨とは二無く二分無 色清淨なれば即ち瞋清淨なり。何を以ての故に、 (0) 意界乃至諸受。(0) 地界乃至識界。 瞋清淨なれば即ち受想行識清淨、 (c) 無明乃至 受 是

卷の第二百二

初分難 信解品第三十四之二十

(c) 道聖縮。 **解**脫門。 (c) 布施波 切智乃至一 (C)四靜慮乃至四無色定。(C)八解脫乃至十遍處。(C)四念住乃至八聖道支。(C)空解脫門乃至無 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (c) 菩薩の十地。 切相智。 (で佛諸の無上正等菩提。 (c)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。 (C) 五眼·六神通。 (1)內奈乃至無性自性空。(1)眞如乃至不思議界。 (c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。 (c) 苦聖諦乃至 (e)

(b)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃(s) く別無く断無きが故なり。dd眼處乃至意處。 想行識清淨なれば即ち癡清淨なり。何を以ての故に、 の癡淸淨と色淸淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 切の菩薩摩訶薩行。 復た次にdi善現、 d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。d)內容乃至無性自性容。d)真如乃至不思議 **襲清浄なれば即ち色清浄、** (1)色處乃至法處。(1)眼界乃至諸受。(1)耳界乃至諸受。 色清淨なれば即ち癡清淨なり。何を以ての故に、 是の癡清淨と受想行識清淨とは二無く二分無 癡淸淨なれば即ち受想行識淸淨、 是

右も()の場合に準じて以下略 ……是職清淨與受想行識清淨 (c) 無二無二分無別無斷故」 「善現職清淨即色清淨……

賦清淨を明す。

(c) 前卷と同意

出す。Cの場合に準じて以下略 ……是癡清淨與受想行識清淨 「善現癡清淨即色清淨…… 疫清淨を明す。

大二三

至一切相智。 (a) (a) 波羅蜜多乃至敝若波羅蜜多。(4)內室乃至無性自性空。(4)眞如乃至不思議界。(4)苦聖諦乃至道聖諦 至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (a) 見者清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 故に、若しは見者清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 、眼處乃至意處。 (a) 色處乃至法處。 (a) 眼界乃至諸受。 (a) 耳界乃至諸受。 (a) 鼻界乃至諸受。 (a) 舌界乃(a) .四靜慮乃至四無色定。(4)八解脫乃至十遍處。(4)四念住乃至八聖道支。(4)空解脫門乃至無願解脫門。 しは見者清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 a)諸佛の無上正等菩提。 地。 (4)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(4)預流果乃至阿羅漢果。(4)獨覺菩提。(4)一切の菩薩 (3) 五眼・六神通。 (4) 佛の十力乃至十八佛不共法。(4) 無忘失法・恒住捨性。(4) 一切智乃 (a) 有i

(b) 忘失法。恒住捨性。(1)一切智乃至一切相智。(1)一切陀羅尼門•一 (6) | 多解脱門乃至無願解脫門。(6) | 菩薩の十地。(6) 五眼・六神通。 至老死愁歎苦憂惱。的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議 **的外界乃至諸受。**心舌界乃至諸受。心身界乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃 く別無く斷無きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。 想行識清淨なれば即ち貪清淨なり。何を以ての故に、是の貪清淨と受想行識清淨とは二無く二分無 の食清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。食清淨なれば即ち受想行識清淨、受 。(6)苦聖諦乃至道聖諦。(6)四靜慮乃至四無色定。(6)八解脫乃至十遍處。(6)四念住乃至八聖道支。 復た次にい善現、食清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち食清淨なり。何を以ての故に、是 (b) 切の菩薩摩訶薩行。 (b) 諸佛の無上正等菩提。 的佛の十カ乃至十八佛不共法。山無 切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。

(一善現食清浄の色清浄……) 上、一善現食清浄與受想行識無二分無別無斷故」
オる(の場合に準じ以下略出す。
「一」更に三毒雑染法等に就て清淨を明す。

波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 至一切相智。 (a)菩薩の十地。 (a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。 摩訶薩行匈諸佛の無上正等菩提。 (a) (a) 五眼·六神通。 一切陀羅尼門· (a)內空乃至無性自性空。(a)真如乃至不思議界。 a)佛の十力乃至十八佛不共法。a)無忘失法·恒住捨性。 切三摩地門。 (a)預流果乃至阿羅漢果。 (a) 獨覺菩提。 (a) 苦聖諦乃至道聖諦。 (a) 一切の (a) 切智乃

(b) 眼 山菩薩の十地。 (b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。 至諸受。心身界乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃至老死愁數苦憂惱。 若しは知者清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 至一切相智。 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 故に。若しは知者清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 知者清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 復た次に心善現、 [處乃至意處。(1)色處乃至法處。(1)眼界乃至諮受。(1)耳界乃至諸受。(1)鼻界乃至諮受。(1)舌界乃 (b) 諸佛の無上正等菩提。 (b) (b) 五眼·六神通。 一切陀羅尼門。 知者清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 い內容乃至無性自性空。い真如乃至不思議界。い苦聖諦乃至道聖諦。 り佛の十カ乃至十八佛不共法。り無忘失法・恒住捨性。 一切三摩地門。 心預流果乃至阿羅漢果。 (b) 獨覺菩提。 何を以ての故に、 (b) (b) 何を以ての 切の菩薩 切智乃 (b) 布施

巻の第二百

初分難信解品第三十四之二十

見者清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての

> (b)「善現知者清澤故色清淨: ……若知者清淨若受想行識 清淨若一切智智清淨無二無二 分無別無斷故」 方無別無斷故」

(a)「善現見者清浮故色清浮… ※ 若一切智智清浮無二無二 清彩若一切智智清浮無二無二 第二年で以下略出す。

波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。即內室乃至無性自性空。即真如乃至不思議界。即苦聖諦乃至道聖諦 至諸受。即身界乃至諸受。即意界乃至諸受。即地界乃至識界。即無明乃至老死愁數苦憂惱。 の菩薩の十地。 (P)四靜慮乃至四無色定。(P)八解脫乃至十遍處。 (P)四念住乃至八聖道支。(P)空解脫門乃至無願解脫門。 (P)眼處乃至意處。(P)色處乃至法處。(P)眼界乃至諸受。(P)耳界乃至諸受。(P)鼻界乃至諸受。(P)舌界乃(E) 若しは作者清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 作者清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智淸淨なり。 故に、若しは作者清淨者しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に(p)善現、 切相智。 p 諸佛の無上正等菩提。 (P)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(P)預流果乃至阿羅漢果。(P)獨覺菩提。(P)一 (P)五眼·六神通。 作者清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (P)佛の十カ乃至十八佛不共法。(P)無忘失法·恒住捨性。 何を以ての故に、 (p)一切智乃 何を以ての 切の菩薩 p布施

巻の第二百

初分難信解品第三十四之十九

至諸受。自身界乃至諸受。 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。 著しは受者清淨若しは受想行職清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 受者清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 故に、若しは受者清淨若しは色淸淨若しは一切智智淸淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に(A)善現、 受者清淨なるが故に色清淨、 (a) 意界乃至諸受。(a) 地界乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦憂惱。 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以ての故 何を以ての (a) 舌界乃 (a) 布施

(中)「善現作者清野故色清野……若作者清野若一切智智清野無二無二清淨若一切智智清淨無二無二清淨若一切智智清淨無二無二

(4)「善現受者清淨故色清淨……若受者清淨故色清淨…無別無斷故」無別無斷故」

281

波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。四內容乃至無性自性空。四眞如乃至不思議界。四苦聖諦乃至道聖諦。 (凹四靜慮乃至四無色定。(凹八解脫乃至十遍處。(凹四念住乃至八聖道支。(凹室解脫門乃至無願解脫門 菩薩の十地。

卷の第一百九十九

初分難信解品第三十四之十八

諸佛の無上正等菩提 心五眼·六神通。 切陀羅尼門· 一切三摩地門。山預流果乃至阿羅漢果。山獨覺菩提。山一切の菩薩摩訶薩行。山 回佛の十力乃至十八佛不共法。回無忘失法・恒住捨性。回一切智乃至一 切相智。

至諸受。四身界乃至諸受。回意界乃至諸受。回地界乃至識界。回無明乃至老死愁歎苦憂惱。 ○ 菩薩の十地。○ 五眼・六神通。○ 佛の十力乃至十八佛不共法。○ 無忘失法・恒住捨性。○ 一切智乃 ()四靜慮乃至四無色定。()八解脫乃至十遍處。()四念住乃至八聖道支。())空解脫門乃至無願解脫門。 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(6)內容乃至無性自性空。(6)真如乃至不思議界。(6)苦聖諦乃至道聖諦。 若しは儒童清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 儒

薫清浄なる

が故に

受想

行識清浄、

受想

行識清浄なる

が故に

一切智智清浄なり。

何を以ての故に、 故に、若しは儒童清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 眼處乃至意處。(()色處乃至法處。(()眼界乃至諸受。(()耳界乃至諸受。(()鼻界乃至諸受。(()舌界乃 復た次にの善現、儒童清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての の諸佛の無上正等菩提。 (の)一切陀羅尼門・一 切三摩地門。の預流果乃至阿羅漢果。の獨党菩提。の一切の菩薩摩 (の布施

(n) 前巻と同意。

(の「善現儘童清释故色清释:……若儘童清释若受想行識清释若一切智智清释無二無二分無別無斷故」

___(280)-

切の菩薩 願解脱門。山菩薩の十地。 摩訶薩行。 切相智。(1) 山諸佛の無上正等菩提 一切陀羅尼門·一切三摩地門。 山五眼・六神通。山佛の十カ乃至十八佛不共法。 預流果乃至阿羅漢果。 山無忘失法·恒住 (1)獨覺菩提。

諦乃至道聖諦。 無きが故なり。 ての故に、 故なり。 復た次に加善現、 (m) 機。 (m) (m 切の菩薩摩訶薩行。 一切智乃至 解脫門。 舌界乃至諸受。 的身界乃至諸受 的意界乃至諸受。 (m) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。四內空乃至無性自性空。四眞如乃至不思議界。 若しは補特伽羅清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く 若しは補特伽羅清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷 | 四四靜慮乃至四無色定。四八解脫乃至十遍處。四四念住乃至八聖道支。回空解脫門 m眼處乃至意處。m色處乃至法處。m眼界乃至諸受。 (m) 菩薩の 補特伽羅清淨なるが故に色清淨、 一切相智。 + 地。 (m) 諸佛の無上正等菩提。 (m)一切陀羅尼門·一 (m)五眼·六神通。 四佛の十九乃至十八佛不共法。四無忘失法・恒住 切三摩地門。伽預流果乃至阿羅漢果。伽獨覺菩 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 (m)地界乃至識界。 (加耳界乃至諸受。(加鼻界乃至 一切智智清淨なり。 m無明乃至老死愁歎 (m) 苦聖 無き 何を以 何を以

山眼處乃至意處。 若しは意生清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 意生清淨なるが故に受想行識清淨、 故に、若しは意生清浄若しは色清浄若しは一切智智清浄は二無く二分無く別無く斷無きが故なり た次に印善現、 (n) 身界乃至諸受。 向色處乃至法處。 意生清淨なるが故に色清淨、 (n) 意界乃至諸受。 (n) 受想行識清淨なるが故に一 、眼界乃至諸受。 (n) 地界乃至識界。心無明乃至老死愁數苦憂惱。 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 四耳界乃至諸受。 切智智清淨なり。 四鼻界乃至諸受。四舌界乃 何を以ての故に、 (1)布施

四、「善現補特伽羅清淨故色清淨……若補特伽羅清淨若受想行識清淨若一切智智清淨 受想行識清淨若一切智智清淨 医二条二分無別無斷故」

(1)「善現意生清淨故色清淨… 清淨若一切智智清淨無二無二 分無別無斷故」

六一九

分雖信解品第三十四之十七

似布施波羅蜜多乃至敷若波羅蜜多。此內空乃至無性自性空。此與如乃至不思議界。似苦壅諦乃至道 (k) 舌界乃至諸受。(k) 身界乃至諸受。(k) 意界乃至諸受。(k) 地界乃至識界。(k) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 故なり。似眼處乃至意處。似色處乃至法處。似眼界乃至諸受。似耳界乃至諸受。似鼻界乃至諸受。 切の菩薩摩訶薩行。 解脱門。以菩薩の十地。 聖諦。以四靜慮乃至四無色定。以八解脫乃至十遍處。以四念住乃至八聖道支。以空解脫門乃至無願 故に、若しは養育者清淨者しは受想行識清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが り。養育者清淨なるが故に受想行職清淨、受想行職清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 切智乃至一切相智。此一切陀羅尼門・一切三摩地門。似預流果乃至阿羅漢果。似獨覺菩提。此 (k) 諸佛の無上正等菩提。 は五眼・六神通。は佛の十カ乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は

至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (l) 若しは士夫清淨若しは受想行職清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 士夫清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 故に、若しは士夫清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 、眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至諸受。山舌界乃 復た次に①善現、士夫清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての

卷の第一百九十八

初分難信解品第三十四之十七

道聖諦。山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山岑解脫門乃至無 蜜多乃至般若波羅蜜多。(1)內空乃至無性自性空。(1)眞如乃至不思議界。(1)苦聖諦乃至

(1)「善現士夫清淨故色清淨……若士夫清淨若受想行識清淨無二無二分無別無斷故」有清淨無二無二分無別無斷故」

(278)

(1) 前後と同意。

(i) 摩訶薩行心諸佛の無上正等菩提。 四靜慮乃至四無色定。(i)八解脫乃至十遍處。(i)四念住乃至八聖道支。(i)空解脫門乃至無願解脫門。 切相智。 地。 (i)一切陀羅尼門· (i)五眼·六神通。 ()佛の十力乃至十八佛不共法。()無忘失法・恒住捨性。 切三摩地門。 ()預流果乃至阿羅漢果。()獨覺菩提。()一切の菩薩 (1)一切智乃

至諸受。()身界乃至諸受。()意界乃至諸受。()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦憂惱。 ①眼處乃至意處。()色處乃至法處。()眼界乃至諸受。()耳界乃至諸受。()**鼻**界乃至諸受。()舌界乃 若しは生者清淨者しは受想行識清淨者しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 生者清淨なるが故に受想行識淸淨、受想行識淸淨なるが故に一切智智淸淨なり。 故に、若しは生者清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に()善現、生者清淨なるが故に色清淨、 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての 何を以ての故に、

巻の第一百九十七

信解品第三十四之十六

(j)一切智乃至一 願解脫門。 一切の菩薩摩訶薩行。 ()) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。()) 内空乃至無性自性空。()) 真如乃至不思議界。()) 苦聖諦乃(s) () 菩薩の十地。()五眼・六神通。()佛の十力乃至十八佛不共法。()無忘失法・恒住捨性。 四靜慮乃至四無色定。①八解脫乃至十遍處。 一切相智。()一切陀羅尼門・一切三摩地門。()預流果乃至阿羅漢果。()獨覺菩提。 ()諸佛の無上正等菩提。 ()四念住乃至八聖道支。()室解脫門乃至 (j) 至

の故に、若しは養育者清淨若しは色清淨若しは 復た次に似善現、 養育者清淨なるが故に色淸淨、 切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故 色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 何を以て な

> 右も何の場合に準じて略す。 分無別無斷故」 清淨若一切智智清淨無二無二 ()「善現生者清淨故色清淨: ……若生者清淨若受想行識

(j)

前後と同意

右も①の場合に準じ以下略す。無二分無別無断故」 行識清淨若一切智智清淨無二 ……若養育者清淨若受想 は「善現養育者清淨故色清淨

初分雖信解品第三十四之十五、六

六一七

若しは有情清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く斷無く別無きが故なり。 有情清淨なるが故に受想行識清淨,受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。 故に、若しは有情淸淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。 何を以ての故に、

卷の第一百九十六

初分難信解品第三十四之十五

乃至老死愁歎苦憂惱。 失法·恒住捨性。心一切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門·一切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。 山空解脱門乃至無願解脱門。山菩薩の十地。山五眼・六神通。山佛の十力乃至十八佛不共法。山無志 h)獨覺菩提。h)一切の菩薩摩訶薩行。h)諸佛の無上正等菩提。 議界。由苦聖諦乃至道聖諦。由四靜慮乃至四無色定。由八解脫乃至十遍處。由四念住乃至八聖道支。 的鼻界乃至諸受。山舌界乃至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內空乃至無性自性空。的真如乃至不思

(i)眼處乃至意處。(i)色處乃至法處。(i)眼界乃至諸受。(i)耳界乃至諸受。(i)鼻界乃至諸受。(i)舌界乃(i) 波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心眞如乃至不思議界。心苦聖諦乃至道聖諦。 至諸受。山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。 若しは命者清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 命者清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 故に、若しは命者清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に①善現、命者清淨なるが故に色清淨。色清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての (1) 布施

(h) 前巻と同窓。

(1)「善現命者清淨故色清淨… 一切智智清淨無二無二 清淨若一切智智清淨無二無二 分無別無斷故」

法。(f)無志失法·恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(f)預流果乃至 理道支。 (f)
全解脱門乃至無願解脫門。 (f)
菩薩の十地。 (f)
五眼・六神通。 (f)
佛の十カ乃至十八佛不共 至不思議界。的苦聖諦乃至道聖諦。的四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八 ff無明乃至老死愁歎苦憂惱。ff布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。ff內室乃至無性自性。空ff真如乃 乃至諸受。氏鼻界乃至諸受。氏舌界乃至諸受。氏身界乃至諸受。氏意界乃至諸受。氏地界乃至識界。 阿羅漢果。氏獨覺菩提。氏一切の菩薩摩訶薩行。氏諸佛の無上正等菩提。 無く二分無く別無く斷無きが故なり。 受想行識清淨なれば即ち見者清淨なり。何を以ての故に、是の見者清淨と受想行識清淨とは二 f·眼處乃至意處。f·色處乃至法處。f·眼界乃至諸受。f·耳界

乃至四無色定。⑤八癣脫乃至十遍處。⑤四念住乃至八聖道支。⑤空解脫門乃至無願解脫門。⑤菩薩 乃至般若波羅蜜多。⑤內空乃至無性自性空。⑤眞如乃至不思議界。⑤苦聖諦乃至道聖諦。⑤四靜慮 至意處。②色處乃至法處。③眼界乃至諸受。⑤耳界乃至諸受。⑤鼻界乃至諸受。⑤舌界乃至諸受。 我清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。以眼處乃我清淨若しは受想行識清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。以眼處乃 の十地。 (g)身界乃至諸受。(g) 意界乃至諸受。(g) 地界乃至識界。(g) 無明乃至老死愁歎苦變惱。 淨なるが故に受想行職清淨、受想行職清淨なるが故に一切智智清淨なり。何を以ての故に、 に、若しは我清淨若しは色清淨若しは一切智智清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 図諸佛の無上正等菩提。 (g) g五眼·六神通。g佛の十力乃至十八佛不共法。g無忘失法·恒住捨性。 一切陀羅尼門・一切三摩地門。⑤預流果乃至阿羅漢果。⑤獨覺菩提。⑤一切の菩薩摩訶薩 我清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切智智清淨なり。 g一切智乃至一切 g布施波羅蜜多 何を以ての故 若しは 我清

復た次に山善現、 有情淸淨なるが故に色淸淨、色淸淨なるが故に一切智智淸淨なり。 何を以ての

大

右も図の場合に準じて略す。 おもと図の場合に準じて略す。 清潔者一切智智清潔無二無二清潔者受想行識

漢果。 道支。 d)無忘失法·恒住捨性。 不思議界。 (d) 心空解脫門乃至 獨覺菩提。 (d) **苦聖諦乃至道聖諦。** (d) 無願解說門。 (d) 切の菩薩摩訶薩行。 一切智乃至 (d) (1) .四靜慮乃至四無色定。由八解脫乃至十遍處。由四念住乃至八聖 一切相智。 菩薩の十地。 心諸佛の無上正等菩提。 (d) (d)五眼·六神通。 切陀羅尼門·一 切三摩地門。 (d) 佛の十力乃至十八佛不共法。 (d)預流果乃至阿羅

至不思議界。 (e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 乃至諸受。 是の知者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に回善現、知者清淨なれば即ち色清淨、 受想行識清淨なれば即ち知者清淨なり。 他空解脫門乃至無與解脫門。 (e) 鼻界乃至諸受。 (e) 苦聖諦乃至道聖諦。 (e) (e)舌界乃至諸受。 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (e) 四靜慮乃至四無色定。 (e) (e) 菩薩の十地 眼處乃至意處。 何を以ての故に、 (e)身界乃至諸受。 色清淨なれば即ち知者清淨なり。何を以ての故に、 (e) 色處乃至法處。 (e)八解脫乃至十遍處。 是の知者清淨と受想行識清淨とは二 e內容乃至無性自性空。 (e)意界乃至諸受。(e)地界乃至識界 知者清淨なれば即ち受想行識清 (e) 眼界乃至諸受。 (e) 四念住乃至八 (e) 真如乃 (e) 耳界

卷の第一百九十五

初分難信解品第三十四之十四

諸 (e) 佛の無上 (e) 五眼·六神通。 切陀羅尼門· 正等菩提 e佛の十カ乃至十八佛不共法。 切三摩地門。 e預流果乃至阿羅漢果。 e無忘失法·恒住捨性。 (c) 獨覺菩提。 (e)一切の菩薩摩訶薩行。 (e) 切智乃至 切相智。 (e)

是の見者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次に任善現、 見者清淨なれば即色清淨、 色清淨なれば即ち見者清淨なり。 見者清淨なれば即ち受想行職清 何を以ての故に、

(で)「善現知者清浄即色清浄……是知者清浄即色清浄……是知者清浄泉受想行識清浄泉でない。 知者。五陰法中に於てれた五塵を知ると妄計するが故に名く。

相を見ると策計するが截に名も。の場合に弊じ略す。右ものの場合に弊じ略す。右ものの場合に弊じ略す。右もの場合に弊じ略す。右もの場合に弊じ略す。

六

乃至諸受。(0身界乃至諸受。(0)舌界乃至諸受。 無く二分無く別無く斷無きが故なり。 是の作者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次にに善現、作者清淨なれば即ち色清淨、 受想行識清淨なれば即ち作者清淨なり。何を以ての故に、是の作者清淨と受想行識淸淨とは一 (c) 限處乃至意處。 色清淨なれば即ち作者清淨なり。何を以ての故に (它色處乃至諸受。 作者清淨なれば即ち受想行 (0)眼界乃至諸受。 (c) 耳界

卷の第一百九十四

分難 信解品第三十四之十三

切相智。 薩の十地。 慮乃至四無色定。 多乃至般若波羅蜜多。 (c)身界乃至諮受。 (c) 諸佛の無上正等菩提 (c) 一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c) 預流果乃至阿羅漢果。 (C)五眼·六神通。 (6)八解脫乃至十遍處。 (6)四念住乃至八聖道支。 (6) 空解脫門乃至無願 (c) 意界乃至諸受。 (1)內室乃至無性自性空。(0)真如乃至不思議界。(1)苦聖諦乃至道聖諦。 (c)佛の十九乃至十八佛不共法。(c)無忘失法•恒住捨性。 (c) 地 界乃至識界。心無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (c) 獨覺菩提。 (c) (c) 解脫 切の菩薩摩訶 (c) 布施波羅蜜 一切智乃至 (c) 四 (c)

(1)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 乃至諸受。他鼻界乃至諸受。他舌界乃至諸受。他身界乃至諸受。他意界乃至諸受。他地界乃至識界。 無く二分無く別無く斷無きが故なり。は眼處乃至意處。は色處乃至法處。は眼界乃至諸受。は 淨、受想行識清淨なれば即ち受者清淨なり。何を以ての故に、是の受者清淨と受想行識清淨とは一 是の受者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。受者清淨なれば即ち受想行識清 復た次にdi善現、 受者清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち受者清淨なり。何を以ての故 (1) 布施波羅蜜多乃至般者波羅蜜多。(1) 內空乃至無性自性空。(1) 真如乃至 耳界 K

(c)

任ずと妄計するが故に名く。 我れ身力手足ありて能く事を

右も的の場合に準じて略す。

……是作者清淨與受想行職

「善現作者清淨即色清淨…

右ものの場合に準じて略す。 清淨無二 (1)「善現受者清淨即色清淨… 受くべしと妄計する 我れの後身當に罪禍の果報を 【一】 受者。五陰法中に於て ……是受者清淨與受想行職 無二分無別無斷故」

無く二分無く別無く斷無きが故なり。匈眼處乃至意處。匈色處乃至法處。匈眼界乃至諸受。匈耳界無く二分無く別無く斷無きが故なり。匈眼處乃至意處。匈色處乃至法處。匈眼界乃至諸受。匈耳界 聖道支。(自空解脱門乃至無願解脫門。(自菩薩の十地。 a無明乃至老死愁歎苦憂惱。 是の意生清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。意生清淨なれば即ち受想行識清 (a)無忘失法。恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門。一 受想行識清淨なれば即ち意生清淨なり。何を以ての故に、是の意生淸淨と受想行識淸淨とは二 (a) 獨覺菩提。 (a) 鼻界乃至諸受。 (a) 善現、 (a) 苦聖諦乃至道聖諦。 意生清淨なれば即ち色清淨・色清淨なれば即ち意生清淨なり。 (a) 一切の菩薩摩訶薩行。 (a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內室乃至無性自性空。(a)真如乃 (a) 舌界乃至諸受。(a) 身界乃至諸受。(a) 意界乃至諸受。(a) 地界乃至識界。 (a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八 a諸佛の無上正等菩提。 (a)五眼・六神通。(a)佛の十カ乃至十八佛不共 切三摩地門。(A)預流果乃至 何を以ての故に、

b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 乃至諸受。山鼻界乃至諸受。 聖道支。

() 空解脱門乃至無膜解脫門。

() 菩薩の十地。

() 五眼・六神通。

() 佛の十力乃至十八佛不共 至不思議界。 無く二分無く別無く斷無きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。 是の儒重清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次にい善現、儒童清淨なれば即ち色淸淨、 b)無忘失法·恒住捨性。 受想行識清淨なれば即ち儒童清淨なり。何を以ての故に、是の儒童清淨と受想行識清淨とは二 (b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。 b) 苦聖諦乃至道聖諦。 (h) (b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)真如乃 り舌界乃至諸受。り身界乃至諸受。 一切智乃至一切相智。 心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。 心諸佛の無上正等菩提。 色清淨なれば即ち儒童清淨なり。何を以ての故に、 (d) 一切陀羅尼門·一 的意界乃至諸受。的地界乃至識界。 儒童清淨なれば即ち受想行識清 切三摩地門。 (b)四念住乃至八 (b)預流果乃至 (b) 耳界

(1) 書現意生清淨即色清淨……是意生清淨無二無二分無別無斷故」清淨無二無二分無別無斷故」有意生。意のまとに奉じて略す。人の義に意の如堪以上の菩薩の身を意生身といふ。素牛濟陵の爲に意の如く受生し得る身の爲に意の如く受生し得る身がなる名く。

(f)無忘失法·恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 f 空解脫門乃至無願解脫門。 (f) 鼻界乃至諸受。(f) 舌界乃至諸受。(f) 身界乃至諸受。 獨覺菩提。(f) (f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖 切の菩薩摩訶薩行。此諸佛の無上正等菩提 (f) 布施波羅 (f)菩薩の十地。 多乃至般若波羅蜜多。 f五眼·六神通。ff佛の十カ乃至十八佛不共法 切陀羅尼門・一切三摩地門。け預流果乃至阿羅 (f)意界乃至諸受。 (f) 內室乃至無性自性空。 (f)地界乃至識界。 (f) 真如乃至

通。 內室乃至無性自性空。⑤真如乃至不思議界。 脫乃至十遍處。。四念住乃至八聖道支。 界乃至諸受。 羅清淨と受想行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。⑤眼處乃至意處。⑥色處乃至法 れば即ち受想行識清淨、 ての故に、 復た次 (g) 眼 (g)佛の 切二 界乃至諸受。因耳界乃至諸受。因鼻界乃至諸受。 に図善現、補特伽羅清淨なれば即ち色清淨、 十力乃至十八佛不共法。の無忘失法・恒住捨性。 糜地門。 是の補特伽羅清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 g地界乃至識界。 g無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (g) 預 受想行識清淨なれば即ち補特伽羅清淨なり。 流果乃至阿羅漢果。 g 室解脫門乃至無願解脫門。 g苦聖諦乃至道聖諦。· 贸獨覺菩提。 色清淨なれば即ち補特伽羅清淨なり。 g舌界乃至諸受。 ⑤身界乃至諸受。 (g) (g) g布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。g 切の菩薩摩訶薩行。 切智乃至一 g四靜慮乃至四無色定。 図菩薩の十地。 何を以ての故 切相智。 gi諸佛 補特伽羅清淨な K, (g) (g) 五胆 是の 0 切陀羅尼 無上 補特伽 (g) 八 何 , (g) 意 六神 を以

一百九十三

初分 人難 信 解品 第 = 十四之十二

初分難信解品第三十四之十一、二

-(271)

阿羅漢果。 法。d無忘失法·恒住捨性。 は獨覺菩提。は一切の菩薩摩訶薩行。 (d) 一切智乃至 切相智。 (d)諸佛の無上正等菩提。 d一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (d) 頂流果乃至

自性空。(自與力至不思議界。(自苦聖諦乃至道聖諦。 (e) 地界乃至識界。(e) 無明乃至老死愁歎苦變惱。 至諸受。但耳界乃至諸受。但鼻界乃至諸受。但舌界乃至諸受。但身界乃至諸受。但意界乃至諸受。 故に、是の養育者淸淨と色淸淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。養育者淸淨なれば即ち (e) 行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。。由眼處乃至意處。自色處乃至法處。 受想行識清淨、受想行識清淨なれば即ち養育者清淨なり。 四念住乃至八聖道支。回室解脫門乃至無願解脫門。 復た次に回善現。養育者清淨なれば即ち色清淨、 (e) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 色清淨なれば即ち養育者清淨なり。 (e)菩薩の十地。 (d)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。 何を以ての故に、是の養育者清淨と受想 (e)內室乃至無性 何を以ての (e) 眼界乃

巻の第一百九十二

切分難信解品第三十四之十一

諸佛の無上正等菩提。 (e)五眼·六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。 切陀羅尼門・一切三摩地門。 他預流果乃至阿羅漢果。 e無忘失法·恒住捨性。 (e) 觸覺菩提。 (e) (e) 一切智乃至 切の菩薩摩訶薩行。 切相智。 (e)

受想行識清浄なれば卽ち士夫清淨なり。何を以ての故に、是の士夫清淨と受想行識清淨とは二無く の士夫清浄と色清浄とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。士夫清浄なれば即ち受想行識清淨 「分無く別無く斷無きが故なり。①眼處乃至意處。①色處乃至法處。①眼界乃至諸受。①耳界乃至 復た次に伯善現、士夫清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち士夫清淨なり。何を以ての故に、是

> (e)「善現養育者清淨即色清淨 行識清淨無二無二分無別無斷 放」」

右もd)の場合の如く略す。 大二】 養育者。五陰法中に於 て我れ能く他人を養育し及び 我れ生じてより父母の爲に養 育せらると妄計するが故に名

(の) 前巻と同意

(1)「善現士夫清淨即色清淨… 一切の營務を作すと妄計する の故に名く。

(c) 乃至諸受。()鼻界乃至諸受。 無く二分無く別無く斷無きが故なり。⑥眼處乃至意處。⑥色處乃至法處。⑤眼界乃至諸受。⑥耳界無く二分無く別無く斷無きが故なり。⑥眼處乃至意處。⑥色處乃至法處。⑤眼界乃至諸受。⑥耳界 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 受想行識清淨なれば即ち命者清淨なり。何を以ての故に、是の命者清淨と受想行識清淨とは二 (c) 舌界乃至諸受。 (c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。

卷の第一百九十

初分難信解品第三十四之十

(c) 道聖諦。 切の菩薩摩訶薩行。 解脫門。 切智乃至 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (C四靜慮乃至四無色定。 (C)八解脫乃至十遍處。 (C)四念住乃至八聖道支。 (C) 空解脫門乃至無 (c)菩薩の十地。 一切相智。 (c)諸佛の無上正等菩提。 (c) (c)五眼·六神通。 切陀羅尼門·一 (6)內空乃至無性自性空。(6)真如乃至不思議界。 (で)佛の十力乃至十八佛不共法。(の無忘失法・恒住捨性。 切三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。 (c) 獨覺菩提。 (c) 苦聖諦乃至 (c)

聖道支。 d無明乃至老死愁歎苦憂尚。 乃至諸受。山鼻界乃至諸受。山舌界乃至諸受、山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界 無く二分無く別無く斷無きが故なり。は眼處乃至意處。は色處乃至法處。は眼界乃至諸受。は耳界 是の生者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。生者清淨なれば即ち受想行識清 至不思議界。 淨、受想行識清淨なれば即ち生者清淨なり。何を以ての故に、是の生者清淨と受想行識清淨とは二 復た次に创善現、生者清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち生者清淨なり。何を以ての故に、 d空解脫門乃至無願解脫門。 (d)苦聖諦乃至道聖諦。 d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。d)內室乃至無性自性空。d)真如乃 (山四靜慮乃至四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八 (d) 菩薩 0 十地。 d五眼·六神通。 は佛の十カ乃至十八佛不共

(で) 前巻と同意

は「善現生者清評即色清評。 活評無二無三分無別無斷故」 清評無二無三分無別無斷故」 大中に來て生ずと妄計するが 人中に來て生ずと妄計するが

初分雖信解品第三十四之十

諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a) 意界乃至諸受。(a) 地界乃至識界。(a) 無明乃至老死愁歎 諦乃至道聖諦。(A)四靜慮乃至四無色定。(A)八解脫乃至十遍處。(A)四念住乃至八聖道支。(A)空解脫門 捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩 乃至無願解脫門。 きが故なり。山眼處乃至意處。山色處乃至法處。山眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。山鼻界乃至 想行識清淨なれば即ち我清淨なり。 切の菩薩摩訶薩行。(《諸佛の無上正等菩提。 (a) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a) 內室乃至無性自性空。(a) 真如乃至不思議界。(a) 苦聖 (4) 菩薩の十地。(4) 五眼・六神通。(4) 佛の十カ乃至十八佛不共法。(4) 無忘失法・恒住 何を以 ての故に、是の我清淨と受想行識清淨とは二無く二分無

.

乃至諸受。心鼻界乃至諸受。心舌界乃至諸受。心身界乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。 無く二分無く別無く斷無きが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界 漢果。心獨覺菩提。(四一切の菩薩摩訶薩行。(心諸佛の無上正等菩提 (b)無忘失法·恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅 聖道支。心室解脫門乃至無願解脫門。心菩薩の十地。心五眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法 至不思議界。心苦聖諦乃至道聖諦。心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八至不思議界。心苦聖諦乃至道聖諦。心四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八 b無明乃至老死愁歎苦憂惱。 是の有情清浄と色清浄とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。有情清淨なれば即ち受想行識清 復た次にり善現、有情清淨なれば即色清淨、色清淨なれば即ち有情清淨なり。何を以ての故に、 受想行識清淨なれば即ち有情清淨なり。何を以ての故に、是の有情清淨と受想行識清淨とは二 心布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心真如乃

是の命者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。命者清淨なれば即ち受想行識清 復た次に回善現、命者清淨なれば即ち色清淨。 色清淨なれば即ち命者清淨なり。何を以ての故に、

(b)「善現有情淸淨即色清淨:……是有情淸淨與受想行識清淨無二無二分無別無斷故」有は(a)の場合に準じて略す。石は(a)の場合に準じて略す。石は(a)の場合に準じて略す。

巻の第一百八十七

初 分難 信解品第三十四之六

八解脫乃至十遍處。 (h) 內室乃至無性自性室。 的真如乃至不思議界。 h) 苦聖諦乃至道聖諦。 的四靜感乃至四無色定。 (h)

卷の第 一百八十八

初 分難 信 解 品第三十四之七

力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。 h四念住乃至八聖道支。 h室解脫門乃至無 願解脫門。 (h) 菩薩の十 地。 (h) 五眼 六神通。 山佛の十

巻の第一百八十九

初 分難信解品第三十四之八

(h) (h) 切の菩薩摩訶薩行。 切智乃至一 切相智。 (h) 諸佛 (h) 0 切陀羅尼門。 無上正等菩提 切三 摩地門。 (h)預流果乃至 (h) 獨覺菩

巻の第一百九十

初 分難信 解品 第三十四之九

の我清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 復た次には善現、 我清淨なれば即ち色清淨、 色清淨なれば即ち我清淨なり。 我清淨なれば即ち受想行識清淨、 何を以ての故に、

初分難信解品第三十四之四、五、六、七、八、九

(h)

略し以下その諸法のみ出す。 ・ 本下に出す諸法を挿入せば他 ・ 大下に出す諸法を挿入せば他 ・ は皆同じ故に之を符號(1)にて 妄計するをいふ。 実計するをいふ。 ……是我清淨與受想行識清淨…… 無二無二分無別無斷故」

(h) 前後と同意

前卷と同意。

(h)

前卷と同意

是の知者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。知者清淨なれば即ち受想行識清 二無く二分無く別無く斷無きが故なり。見者清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち見者淸淨な 淨、受想行識清淨なれば即ち知者清淨なり。 何を以ての故に、 是の知者清淨と受想行識清淨とは 受者清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち受者清淨なり。何を以ての故に、是の受者淸淨と色 り。何を以ての故に、是の見者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。見者清淨 なれば即ち受者淸淨なり。何を以ての故に、是の受者淸淨と受想行識淸淨とは二無く二分無く別無 清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。受者清淨なれば卽ち受想行識清淨、受想行識清淨 なれば即ち受想行職清淨、受想行職清淨なれば即ち見者清淨なり。何を以ての故に、是の見者清淨 く斷無きが故なり。知者清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち知者清淨なり。何を以ての故に、 と受想行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。

的眼處乃至意處。

卷の第一百八十五

初分難信解品第三十四之四

(b)色虚乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。

巻の第一百八十六

初分難信解品第三十四之五

山身界乃至諸受。山意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。山布施放羅蜜

(h) 前後と同意。

前佐と同産。

(h)

淨なり。何を以ての故に、是の作者清淨と受想行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 分無く別無く斷無きが故なり。作者清淨なれば卽ち受想行識清淨、受想行識清淨なれば卽ち作者清 即ち色清淨、色清淨なれば即ち作者清淨なり。何を以ての故に、是の作者清淨と色清淨とは二無く二 の故に、是の儒童清淨と受想行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。作者清淨なれば きが故なり。儒童清淨なれば即ち受想行識清淨、受想行識清淨なれば即ち儒童清淨なり。何を以て 淨と受想行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。儒童清淨なれば即ち色清淨、色清淨 淨なれば即ち受想行識清淨、受想行識清淨なれば即ち意生清淨なり。何を以ての故に、是の意生清 即ち意生清淨なり。何を以ての故に、是の意生清淨と色清淨とは二無く二分無きが故なり。意生清 淨なれば即ち受想行識清淨、受想行識清淨なれば即ち補特伽羅淨清なり。何を以ての故に、是の補特 を以ての故に、是の補特伽羅清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。補特伽羅清 別無く斷無きが故なり。補特伽羅清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち補特伽羅清淨なり。 清淨なれば即ち士夫清淨なり。何を以ての故に、是の士夫清淨と受想行識清淨とは二無く二分無く 淨なり。何を以ての故に、是の養育者清淨と受想行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故な 清淨、色清淨なれば即ち養育者清淨なり。何を以ての故に、是の養育者清淨と色清淨とは二無く二 なれば即ち儒童清淨なり。何を以ての故に、是の儒童清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無 伽羅清淨と受想行識清淨とは二無く二分無きが故なり。意生清淨なれば卽ち色清淨,色清淨なれば と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。士夫清淨なれば卽ち受想行識清淨、受想行識 り。士夫清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち士夫清淨なり。何を以ての故に、是の士夫清淨 分無く別無く斷無きが故なり。養育者清淨なれば受想行識清淨、受想行識清淨なれば即ち養育者清 是の生者清淨と受想行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。養育者清淨なれば即ち色

⑤佛の十力乃至十八佛不共法。⑤無忘失法·恆住捨性。⑤一切智乃至一切相智。⑤一切陀羅尼門·一〇 至十遍處。⑤四念住乃至八聖道支。⑤空解脫門乃至無願解脫門。⑤菩薩の十地。⑤五眼・六神通。 乃至無性自性空。⑤真如乃至不思議界。⑥苦聖諦乃至道聖諦。⑤四靜慮乃至四無色定。⑤八解脫乃 至諸受。因地界乃至識界。因無明乃至老死愁歎苦憂惱。因布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。因內空 ⑤眼界乃至諸受。⑤耳界乃至諸受。⑤鼻界乃至諸受。⑤舌界乃至諸受。⑤身界乃至諸受。⑤意界乃 即ち受想行識清淨、 清淨、受想行識清淨なれば即ち有情清淨なり。何を以ての故に是の有情清淨と受想行識清淨とは二 界の有情清淨と色清淨とは。二無く二分無く別無く斷無きが故なり。有情清淨なれば卽ち受想行識 浄なれば即ち我淸淨なり。何を以ての故に、是の我淸淨と受想行識淸淨とは二無く二分無く別無く と色清浄とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。我清淨なれば即ち受想行識清淨、 清淨と一切智智清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(g眼處乃至意處。g色處乃至法處。 ば即ち一切智智清浄、 行識清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。主者清淨なれば即ち色清淨、 何を以ての故に是の命者清淨と色淸淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。命者淸淨なれば 無く二分無く別無く斷無きが故なり。命者清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち命者淸淨なり。 断無きが故なり。有情清淨なれば即ち色清淨、色清淨なれば即ち有情清淨なり。何を以ての故に、 ち生者清淨なり。 仙復た次に善現、 生者清淨なれば即ち受想行識清淨、受想行識清淨なれば即ち生者清淨なり。何を以ての故に、 摩地門。⑤預流果乃至阿羅漢果。⑤獨覺菩提。⑤一切の菩薩摩訶薩行。⑤諸佛の無上正等菩提。 何を以ての故に、是の生者清淨と色清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故な 受想行識清淨なれば即ち命者清淨なり。何を以ての故に、是の命者清淨と受想 我清淨なれば即色清淨色清淨なれば我清淨なり。何を以ての故に、 切智智清淨なれば即ち受想行識清淨なり。何を以ての故に、是の受想行識 色清淨なれば即 是の我淸淨 受想行識清

(b)「復次善現我清淨即色清淨無無斷故」 一名の文中「色乃至識」の所に 大下に出す諸法を挿入せば他 は皆同じき故その兄てを符録。 一次下に出するに止む。

(e) 佛の無上正等菩提。 切陀羅尼門· 五眼·六神通。 一切三摩地門。 ()佛の十力乃至十八佛不共法。 e)預流果乃至阿羅漢果。 e無忘失法·恆住捨性。 (e)獨覺菩薩。 (e) (e) 切の菩薩摩訶薩行。 切智乃至 切相智。 (e) 諸 (e)

乃至般若波羅蜜多。任內室乃至無性自性空。任真如乃至不思議界。任苦聖諦乃至道聖諦。任四靜慮 (f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦變惱。(f)布施波羅蜜多(c) 乃至四無色定。氏八解脫乃至十遍處。氏四念住乃至八聖道支。氏空解脫門乃至無願解脫門。(2) 識清淨なれば即ち般若波羅蜜多清淨・般若波羅蜜多清淨なれば即ち受想行識清淨なり。 何を以ての故に、是の色清淨と般若波羅蜜多清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。受想行 復た次に①善現・色清浮なれば即ち般若波羅蜜多清浮・般若波羅蜜多清浮なれば即ち色清浮なり。 是の受想行識清淨と般若波羅蜜多清淨とは 二無く二分無く別無く斷無きが故なり。 (f)色處乃至法處 fi眼界乃至諸受。fi耳界乃至諸受。fi鼻界乃至諸受。fi舌界乃至諸受。 何を以ての (f) 服處

巻の第一百八十四

初分難信解品第三十四之三

ff一切陀羅尼門·一切三摩地門。 ff五眼·六神通。 田佛の十カ乃至十八佛不共法。(f)無忘失法·恆住捨性。(f)一切智乃至 ff預流果乃至阿羅漢果。ff獨覺菩提。 (f) 切の菩薩摩訶薩行。 切相智。 (f)

諸佛の無上正等菩提。

の故に、是の色清淨と一切智智清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。受想行識清淨なれ 復た次に図善現・色清淨なれば即ち一 切智智清淨・一 切智智清淨なれは即ち色清淨なり。 何を以て

(1) 「善現色清淨即般若波羅蜜多清淨………是受想行識清多清淨………是受想行識清。 一個 大会等。 質相に異なく、別なければ、二無く等。 質相に異なくと云ひ、不離不散の故に顕くと云ひ、不離不改の故に顕くと云ひ、不離不改の故に顕

(生) 前後と同意。

大口三

巻の第一百八十三

初分難信解品第三十四之二

(d) 切の菩薩摩訶薩行。 解脫門。 (d) 一切智乃至一切相智。 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。山眞如乃至不思議界。 (d) (d) 四靜慮乃至四無色定。因八解脫乃至十遍處。因四念住乃至八聖道支。 菩薩の十地。 (d) 諸佛の無上正等菩提。 (d)一切陀羅尼門· (d) 五眼·六神通。 (は)佛の十カ乃至十八佛不共法。(は)無忘失法 切三摩地門。山頂流果乃至阿羅漢果。 d室解脫門乃至 (個獨覺菩提。 (d) 苦聖諦乃至 • 恒住捨性 (d)

悪の補特伽羅は此の般若波羅蜜多に於て實に信解し難し。所以は何ん。

()善現・色清淨なれば即 米だ善根を種ゑす不善根を具し惡友に攝せられ魔力に隨ひて行じ懈怠増上し精進微劣にして失念惡 多に於て實に信解し難しと。佛言はく、 友に攝せられ魔力に隨ひて行じ懈怠増上し精進微劣にして失念 以ての故に、是の受想行識清淨と果清淨とは二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(e眼處乃至意 別無く斷無きが故なり。 界乃至諸受。回意界乃至諸受。 具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、諸の有ゆる勤め精進せず未だ善根を種えず不善根を具 (e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。(e)舌界乃至諸受。 果清淨なれば卽ち色清淨なり。 ⓒ內容乃至無性自性空。 受想行識清淨なれば即ち果清淨・果清淨なれば即ち受想行識清淨なり。何を (e)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦愛惱。(a)布施波羅蜜多乃至 散 (0)真如乃至不思議界。 善現、是の如し是の如し、 何を以ての故に、 是の色清淨と果清淨とは二無く二分無く (c) 苦聖諦乃至道聖諦。 惡慧の補特伽羅 汝が所説の如し。 は此の般若波羅蜜 (e)四靜慮乃至四 動め精進せず (e) 身

無色定。但八解脫乃至十遍處。

他四念住乃至八聖道支。他空解脫門乃至無顯解脫門。@菩薩の十地。

(d) 前巻と同蔵。

無きもの。

乃至阿羅漢果。 至八聖道支。 如乃至不思議界。 界乃至諸受、(b) 無明乃至老 (b) 無忘失法·恒住捨性。 心空解脫門乃至無願解脫門。 (b) 鼻界乃至諸受。 心苦聖諦乃至道聖諦。 獨覺菩提。 死愁歎苦憂惱。 (b) し舌界乃至諸受。し身界乃至諸受。い意界乃至諸受。 し 一切の菩薩摩訶薩行。 (b)一切智乃至 (b) 布 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (b) (b) 菩薩の十地。 四靜慮乃至四無色定。 切相智。 (b)諸佛の無上正等菩提。 (b) (b) 五眼·六神通。 切陀羅尼門· (b)八解脫乃至十遍處。 (b) 內室乃至無性自性空。 切三摩地門。 的佛の十カ乃至十八佛 (b) 地界乃至 (b)四念住乃 (b) 頂 流

聖道支。 至不思議界。 (c) と爲すが故なり。 無明乃至 羅漢果。 た次に善現(c) 無忘失法·恆住捨性。 後際の自性と爲すが故なり。 (c) 室解脫門乃至無 (c) 鼻界乃至諸受。 (c)獨覺菩提。(c) 老死愁歎苦憂惱。 (c) 苦聖諦乃至道聖諦。 受想行識後際は 色後際は縛 (c) 舌界乃至諸受。 願 (c) 切の菩薩摩訶薩行。 解脫門。 (c) K 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 切智乃至 非ず解に非ず。 縛に非ず解に非ず。何を以ての故に、受想行識後際の (c)四靜慮乃至四無色定。 (c) (c) 菩薩の十地。 眼處乃至意處。 切相 (0)身界乃至諸受。(0)意界乃至諸受。 何を以ての故に色後際の 智。 (c)諸佛の (c) (c) 五眼 (色) 色處乃至法處。 切陀羅尼門・一 無上正等菩提。 (c) • 六神通。 八解脫乃至十遍處。 (c)內室乃至無性自性室。 無所 切三摩地門。 (の佛の十力乃至十八佛不共 (C) 眼界乃至諸受。 有 性を (0地界乃至識界。 (C)四念住乃至八 色 (c) 無所有性 後際 頂 流果乃至 (c) (c) 真如乃 耳界乃 の自性 を受

性と爲すが故なり。 た次に善現、 無明乃至老死愁歎苦憂惱 中 (d) 際の自性と爲すが故なり。 鼻界乃至諸受。 (d) 色中際 受想行識中際は縛に非ず解に非ず。 は縛 (d) 舌界乃至諸受。 K 非ず解に (d) 限處乃至意處。 非ず。 (d) 何を以 身界乃至諸受。 何 7 (d) を以ての故に、 0 色處乃至法 故 K. d意界乃至諸受。 色中際の 處。 受想行識中際 (d) 無所有性を色中際 眼 界乃 (d) 至諧 地界乃至 (1) 無所有性 (d) 0 耳 自

(d)

分難信解品第三十四之一

右も(b)の場合に準じて略出す。 (6)「色後際非緯非解何以故… 受想行識後際単所有性

高受想行識中際自性故 高受想行識中際自性故 の場合こと 準じて略出す。 何以故…

卷の第一百八十二

初分難信解品第三十四之一

籍受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 處乃至意處。(4)色處乃至法處。(4)眼界乃至諸受。(4)耳界乃至諸受。 (4)鼻界乃至諸受。 (4) 舌界乃(5) 非す解に非す。何を以ての故に、色のこ 是の如き般若波羅蜜多は云何が甚深にして信じ難く解し難きやと。佛言はく、善現、自色は 如し是の如し、 受する所と爲る者は佛の所説の甚深般若波羅蜜多に於て實に信解し難しと。佛言はく、善現 と爲る者は此の所説の甚深般若波羅蜜多に於て實に信解し難しと。具籌善現復た佛に白して言さく 菩薩の十地。 帶慮乃至四無色定。(4)八解脫乃至十遍處。(4)四念住乃至八聖消支。(4) 空解脫門乃至無願解脫門。 雅蜜多乃至般若波羅蜜多。四內空乃至無性自性空。四眞如乃至不思議界。四苦聖齡乃至道聖諦 切相智。 具壽善現復た佛に白して言さく世尊、 解に非ず何を以ての故に、受想行識の無所有性を以て受想行識の自性と爲すが故なり。 a諸佛の無上正等菩提。 (a) (a)五眼·六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法·恒住捨性。(a)一切智乃至 汝が所説の如し勤めて精進せず未だ善根を種ゑず不善根を具し惡知識の攝受する所 切陀羅尼門・一切三摩地門。四預流果乃至阿羅漢果。四獨覺菩提。 勤めて精進せず未だ善根を種ゑず不善根を具し惡知識の攝 無所有性を以て色の自性と爲すが故なり。受想行識は轉に (a) 一切の菩薩摩 (8) 布施波 是の (a) (a) 眼

を受想行識前際の自性と爲すが故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳 性と属すが故なり。 復た次に善現、 b)色前際は縛に非ず解に非ず。何を以ての故に、色前際の無所有性を色前際の自 受想行識前際は縛に非ず解に非ず。 何を以ての故に、受想行識前際の無所有性

【二】 般若の信解し無きを野

右を(b)の場合に乗じて略出す。 故に縛も解も質ならず。 故に縛も解も質ならず。 故に縛も解も質ならず。 故に縛も解も質ならず。

の中の無數無量無邊の苦聚を攝受すと。 切陀羅尼門一切三摩地門を謗毀すべし。彼れは諸の功德聚を謗毀するに由りて則便ち無數無量無邊 亦た當に無志失法恒住捨性を誘毀すべく、亦た當に一切智乃至一切相智を誘毀すべく、亦た當に一 の罪聚を攝受す。彼れ無數無量無邊の罪聚を攝受するに由りて則便ち諸の大地獄傍生鬼界及び人趣

擬者は是の如き甚深般若波羅蜜多を誘毀するなりと。 して是の如き甚深般若波羅蜜多を誇毀せしむ。善現、是の如き四因緣を具するに由るが故に諸の場 毀せしむ。四には多く瞋恚を懐き樂うて惡法を行じ喜びて自ら高擧し他を輕毀するが故に愚癡者を **・堅く五蘊に著して諸の悪知識に攝受せらるるが故に愚癡者をして是の如き甚深般若波羅蜜多を誘** 於て信解せざるが故に愚癡者をして是の如き甚深般若波羅蜜多を誘毀せしむ。三には勤めて精進せ 波羅蜜多を誇毀するやと。佛言はく、善現、四因緣に由る。何等をか四と爲す。一には諸の邪魔 **扇惑する所と爲るが故に愚癡者をして是の如き甚深般若波羅蜜多を誇毀せしむ。二には甚深の法** 時に具誇善現復た佛に白して言さく。世尊、諸の愚癡の人は幾の因緣の故に是の如き甚深般若

不信終、惡友終、憍慢終を云不信終、惡友終、憍慢終を云

足らんと。時に含利子即ち佛に白して言さく、唯然世尊、唯然善逝、未來淨信の諸の善男子善女人 有りて、彼れ我れを稱して以て大師と爲すと雖も而かも我が甚深般若波羅蜜多を說くに於て誹謗し が故に造作し増長して贋法業を感ずるなり。我が正法 毘奈耶の中に於ても當に愚癡の諸の出家者 聞くも正法を誇る者は未來世に於て久しく大苦を受けん。應に善く身語意業を護持し正法に於て誹 命を捨つるも終に法を謗らず、我が未來に當に斯の苦を受くべきこと勿らんと。 すべく、亦た當に五眼・六神通を誘致すべく、亦た當に佛の十力乃至十八佛不共法を誇毀すべく。 誇毀壊して三悪趣に堕し長時苦を受くること勿るべし。久遠時に於て諸佛を見ず正法を聞かず僧に 至道聖諦を誘毀すべく、亦た當に四靜慮乃至四無色定を誇毀すべく、亦た當に八解脫乃至十遍處を に内空乃至無性自性空を誇毀すべく、亦た當に真如乃至不思議界を謗毀すべく、亦た當に苦聖諦乃 べし、若し當に世間の正見を誇毀すべくんば則ち當に布施乃至般若波羅蜜多を謗毀すべし。亦た當 するなり、若し法を誘毀せば則ち僧を謗毀するなり。若し僧を謗毀せば則ち當に世間の正間を謗毀す 毀すと爲す。若し一切相智を誇毀する有らば則ち佛を誇毀するなり、若し佛を誇毀せば則ち法を誇毀 謗毀すと爲す。若し諸佛の無上正等菩提を謗毀する有らば則ち過去未來現在の諸佛の一切相智を謗 毀壊すべし。善現當に知るべし、若し甚深般若波羅蜜多を謗毀する有らば則ち諸佛の無上正等菩提を 惡語業を習ふに由らさる耶と。佛言はく、善現、是の如し是の如し、實に惡語業を申習するに由る 所說有るも人信受せさらんと。具籌善現復た言さく、世尊、造作し增長して匱法業を感するは豈に 値遇せず有佛の國土に生するを得す、人趣に生すと雖も下賤貧窮醜陋頑愚にして支體具はらず諸の 誘致すべく、亦た當に四念住乃至八聖道支を誘毀すべく、亦た當に空解脱門乃至無願解脱門を誘致 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し聰明なる諸の善男子善女人等有りて佛の所說を 佛の先きに説きたまひし正法業を破して長時の苦を感ずるを聞かば明誠と爲すに足る。寧ろ身

[三] 三業を掻し誇法すべからざるを鋭く。

す。 【云】毘奈耶(Vinaya)。滅 は離とな ば大地獄傍生鬼界に墮し一一の趣の中にて長時に苦を受くと聞かば自ら競持して正法を毀たざるに ん、謂ゆる未來世の諸の善男子善女人等、我が說きし所の正法業を破し造作し增長し極めて圓滿せ 斯の罪を造らざらしめたまはんことをと。佛言はく、舎利子、我が先に說く所は明誠と爲すに足ら 法を破する者の當來に受くる所の惡趣形量を說いて明かに未來を誡め破法の大苦報を獲るを知りて が故に汝が爲に正法を破する罪の形貌身量を説かざるなりと。舍利子言さく、惟だ願はくは佛、正 大醜苦の身を受くべきを說くを聞かば徒らに自ら驚惶して身命を喪失せんを恐れ、我れ彼れを愍む 趣の形量を説かば彼れ聞きて驚怖し當に熱血を吐きて便ち命終を致し或は死苦に近づくべし。 の悪趣の形量を說くべからす。所以は何ん、若し我れ具さに正法を破する者の當來に受くる所の悪 彼の形貌身量を説きたまはざるやと、佛言はく、舍利子、止みね、正法を破する者の當來に受くる所 尊、何に稼りて但だ是の如き正法を破する者は大地獄傍生鬼趣に墮し長時の苦を受くとのみ説きて 合利子、諸の甚深般若波羅蜜多を破壞する有らば當に知るべし彼の類は即ち是れ地獄傍生餓鬼なり を汚すこと爛糞紫の如く、若し破法者の言を信用する有らば亦た前に説く所の如き大苦を受けん。 有るは當に知るべし彼れを正法を破する者と名づく。黑暗類に墮すること機蜴螺の如く自ら汚れ他 や眼見豈に苦住を許さしめんをや。 何を以ての故に、 舍利子、 諸の甚深般若波羅蜜多を誹謗する 子、彼の謗法者は我れ尙ほ菩薩乘に住する諸の善男子善女人等の其の名字を聞くをも聽かず、況ん に憂惱して毒箭に中れるが如く身漸く枯頓し苗を截被るるが如く彼れ正法を誇る者の當に是の如き と。是の故に智者は甚深般若波羅蜜多を毀謗すべからずと。時に舍利子復た佛に白して言さく、世 に於て尙ほ彼れをして正法を誇らしむる者の其の名字をも聞かず況んや彼の爲に說かんをや。 陷れて苦海に沈溺し亦た他人陷れて苦海に沈溺するなり。舍利子、我れ是の如き甚深般若波羅蜜多 ら甚深般若波羅蜜多を信解せず亦た他人をして甚深般若波羅蜜多を信解せざらしめ、自ら其の身を

不善を黒とす。悪性なり。

無く鼻無く舌無く手無く足無く癰疽疥癩風狂癲癇癃殘背僂矬陋纏癖にして諸根缺減し貧窮枯頓頭囂無く鼻無く舌無く手無く足無く癰疽疥癩風狂癲癇癃殘背僂矬陋纏癖にして諸根缺減し貧窮枯頓頭囂 は工匠の家或は樂人の家或は邪見の家或は餘の猥雜惡律儀の家に在り、 是の如く周流して無數劫を經、彼の匱法業の餘勢將に盡きなんとして人爲るを得と雖も而かも下賤 未だ盡きずして死し已つて復た他の餘の世界に生じ十方餓鬼界の中に遍歴して廣く衆の苦を受け、 未だ起らざるより已來虛贏飢渴等の苦を備受す。若し此の世界の三災壞する時も彼の匱法業の餘勢 死し己つて還つて此の間の世界の餓鬼趣の中に生じ一餓鬼國より一餓鬼國に至り乃至火劫水劫風劫 渦等の苦を備受す。

若し彼の諸の餘の十方世界の三災壊する時も彼の

匿法業の餘勢未だ盡きずして 已來虛贏飢渴等の苦を備受し、 だ盡きざるが故に餘の世界に於て一餓鬼國より一餓鬼國に至り乃至火劫水劫風劫未だ起らざるより の如き等の愛樂す可からさる圓滿の苦果を受くと。 は復た幽暗世界に生じて恒に晝夜無く光明を覩ず、 にして識無く凡て人に皆輕賤せらるる有り、 に居し所謂生ずるも 生盲人の家或は「旃茶羅の家或は 是の如く展轉して十方諸の餘の世界を遍歴し鬼界の中に於て虚厭飢 或は所生の處佛名法名僧名菩薩名獨覺名を聞かず、 彼の匱法業の造作增長極めて深重なるが故に是 | 補羯娑の家或は屠膾の家或は漁獵の家或 或は身を受くる所眼無く耳 或

らず。 失ひ亦た他をして失はしめ、自ら其の身を以て地獄火に投じ亦た他人をして地獄火に投ぜしめ、自 き法は諸の如來應正等覺の演説する所に非卞法に非卞律に非卞大師の教に非卞我れ等此れに於て修 相似なりと説く可きやと。佛言はく、 の身を壌し亦た他をして壌せしめ、自ら毒薬を飲み亦た他をして飲ましめ、自ら生天解脱の樂果を 學すべからずと。 爾の時舍利子、 謂ゆる彼れ甚深の般若波羅蜜多を說くを聞き即便ち信ぜずして誹謗毀呰して言はく、 是の謗法人は自ら般若波羅蜜多を謗り亦た無量の有情をして毀謗せしめ、 佛に白して言さく、世尊、彼の造作し增長する所の能感匱正法業と 舎利子、彼の置法業は最極塵重なり以て五無間業に比す可 五無間業と 自ら其 是の如 力

> 株大正本には「世」とあるも今でから、 「九」生育人。前世般若を見るを欲せざるが故に今人となるも生れながら育なり。 【10】 藤茶縣(Candala)。居種と課す。 【1二】 補親娑(Pullensa)。養

【三】 五無間業。五逆罪に関
と、無間地獄に強つべき罪業。 凝炎、殺母、出佛身血、殺阿 殺女、殺母、出佛身血、殺阿 殺女、殺母、出佛身血、殺阿 殺女、殺母、出佛身血、殺阿 殺女、殺母、出佛身血、殺阿 殺女、殺母、出佛身血、殺阿 殺女、殺母、出佛身血、殺阿 我不るを聞くなり。 多く百歳乃至若しは多く百千俱胝那庾多蔵を經歴し鬼界の中に於て虛羸飢渴等の苦を備受す。罪未 の餘勢未だ盡きずして死し已つて餘方の世界に轉生し此れと同類の餓鬼趣の中にて多くの蔵者しは 劫風劫未だ起らざるより已來虚羸飢渴等の苦を備受す。若し他の世界の三災壞する時は彼の廣法業 渦等の苦を備受す。 罪未だ盡きざるが故に他の世界に於て一餓鬼國より一餓鬼國に至り乃至火劫水 麼し鬼界の中に於て虚羸飢渴等の苦を備受す。罪未だ盡きざるが故に此の世界に於て一 三災壊する時も彼の匱法業の餘勢未だ盡きずして死し已つて復た他の餘の世界に生じ十方傍生趣の 彼の匱法業の餘勢未だ盡きすして死し已つて還つて此の間の世界の傍生趣の中に生じ一險惡處より の中にて多くの歳若しは多く百歳乃至若しは多く百千俱胝那庾多歳を經歷し鬼界の中に於て虚厭飢 三災壊する時も彼の匱法業の餘勢未だ盡きずして死し己つて他方世界に轉生し此れと同類の餓鬼趣 を発れて鬼界の中に墮し多くの蔵若しは多く百歳若しは多く千歳若しは多く百千歳若しは多く倶既 中に遍歴して廣く衆の苦を受け是の如く循環して無數劫を經、彼の匱法罪の業勢漸く薄らぎ傍生趣 受け殘害恐逼等の苦を受く。罪未だ盡きさるが故に餘の世界に於て一險惡處より一險惡處に至り乃 世界の三災壌する時も彼の置法業の餘勢未だ盡きずして死し已つて餘方の世界に轉生し此れと同類 に遍歴して傍生の身を受け殘害恐逼等の苦に備遭す。著し彼の諸の餘の十方世界の三災壞する時も 至火劫水劫風劫未だ起らさるより已來残害恐逼等の苦に備遭し是の如く展轉して十方諸の餘の世界 處より一陰惡處に至り乃至火劫水劫風劫未だ起らざるより已來舜害恐逼等の苦に備遭す。若 の惰生趣の中にて多くの歳若しは多く百歳乃至若しは多く百千俱胝那庾多歳を經歴して傍生 餓鬼國に至り乃至火劫水劫風劫未だ起らざるより已來虚羸飢渇等の苦を備受す。若し此の世界の 險惡處に至り乃至火劫水劫風劫未だ起らさるより已來殘害恐逼等の苦に備遭す。若し此の世界 餓鬼國より の身を

く に此 は多く百千倶眡那庾多歳を經歷して傍生の身を受け殘害恐逼等の苦に備遭す。 は多く百千歳若しは多く俱胝歳若しは多く百倶胝歳若しは多く千倶胝歳若しは多く百千倶胝歳若 じ、一大地獄より一大地獄に至り乃至火劫水劫風劫未だ起らざるより已來諸の楚毒猛利の大苦を受 方諸の餘の 地獄の中に は に至り 界に轉生し此れと同類の傍生趣の中にて多くの歳若しは多く百歳乃至者しは多く百千倶胝那庾多歳 0 世界に生じ十方大地 劫起る時も彼 東北方。 に至り乃至火劫水劫風劫未だ起らざるより已來諸の楚毒猛利の大苦を受け。①是の如く展轉して東 0 地獄の中に を經歷して傍生の身を受け殘害恐逼等の苦に備遭す。 匱法罪の業勢稍微へ 多く百 苦に備遭す。 大地獄の中にて多くの蔵若しは多く百蔵若しは多く千蔵若しは多く百千蔵若しは多く供晒歳若 此の世界の火劫水劫風劫起る時も彼の置法業猶ほ未だ盡きさるが故に死し已つて復た他の の世界に於て一 地起る時 乃至火劫 (f)東南方。(f)西南方。(f)西北方。(f)下方。上方。若し彼の諸の餘の十方世界の火劫水 倶胝蔵若しは多く千倶胝蔵若しは多く百千倶脳蔵若しに多く百千倶胝那庾多蔵を経歴し大 世界を遍歷し大地獄の中にて諸の楚毒猛利の大苦を受く。氏南方。 て諸 て諸 も彼 の置法業績ほ未だ盡きさるが、故に死し已つて還つて、此の間の世界の大地 の楚毒猛利の大苦を受く。 0 水劫風劫未だ起らざるより已來諸の楚毒猛利の大苦を受く。 の匱法業獪ほ未だ盡きさるが故に死し已つて轉じて餘方の世界に生じ此れと同 し此の世界の三災壌する時も彼の匱法業の餘勢未だ盡きずして死し已つて他方世 楚毒猛利の大苦を受く。 險惡處より一 獄の中を遍歴して諸の楚毒猛利の大苦を受く。是の如 地獄より出でて 險惡處に至り乃至火劫水劫風劫未だ起らざるより已來發害恐逼等 传生趣に隆し多くの歳若しは多く百歳若 彼の罪重きが故に餘の世界に於て一大地獄より一大地獄 彼の罪重きが故に他の世界に於て一大地 罪未だ鑑きざるが故に他の世界に於て一險惡 く轉廻 若し他の 任西方。 罪未だ盡きさるが故 し無數劫を經、 は多く千歳若 獄より一 世界の火劫 獄 ff 北方。 0 大地 中 劫 IC (f)

(1)「如是展轉遍歷東方諸輸世界大地獄中受諸方」を挿入せば他は皆同じき故之を符號(りにては皆同じき故之を符號(りにては皆同じき故とを行いている。

中に轉じて苦を受く。 しくして罪少しく滅すれば畜 は多く百倶胝歳若しは多く千倶胝歳若しは多く百千倶胝歳若しは多く百千倶胝那庾多歳を經歴し大 の大地獄の中にて多くの蔵若しは多く百歳若しは多く千歳若しは多く百千歳若しは多く倶胝蔵若し 水劫風劫起る時も彼の匱法業猶ほ未だ盡きさるが故に死し已つて轉じて他方世界に生じ此れと同類 は多く百俱服蔵若しは多く千俱胝蔵若しは多く百千俱胝蔵若しは多く百千俱胝那庾多蔵を經歴し に至り乃至 地獄の中にて諸の楚毒猛利の大苦を受く。彼の罪重きが故に此の世界に於て一大地獄より一 捨するに由りて即便ち能感匱正法業を造作し增長す。彼れは能感匱正法業を造作し增長するに因り 彼れ愚癡惡慧罪業を選作し增長するに由りて是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて卽便ち毀謗 0 し障礙し棄捨す。彼れ既に是の如き般若波羅蜜多を毀謗し障礙し棄捨せば則ち過去未來現在の諸佛 所說の甚深般若波羅蜜多に於て身語及び心皆和合せず、斯れに由りて愚癡思慧罪業を造作し增長す 是の善男子善女人等は先世に甚深般者波羅蜜多を說くを聞きて已に曾て捨て去りぬ、今世に是の如 彼の類有り、我が是の甚深般若波維蜜多を說くを聞きて心悦可せず衆を捨てて去らん。所以は何ん、 を敬はず亦た佛を敬はず既に是の如き甚深般若波羅蜜多を捨て亦た諸佛を捨つ。今此の衆の中亦た き般若波羅蜜多を說くを聞くも宿習力に由りて還つて復た捨て去らん。是の善男子善女人等は此 かば便ち座より起ち衆を捨てて去るなり。善現、是の善男子善女人等は是の如き甚深般若波維蜜多 羅蜜多を修學すること能はず。善現、是の善男子善女人等は是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞 も有所得を方便と爲すが故に甚深般者波羅蜜多を修學すること能はす亦た靜慮波羅蜜多乃至般者波 く百千倶胝那庾多佛を見、諸佛の所に於て亦た多く布施淨戒安忍精進靜慮般若を修習すと雖も而 一切相智を毀謗し障礙し築捨すと爲す。彼れは過去未來現在の諸佛の一切相智を毀謗し障礙し棄 大地獄に堕ち多くの歳若しは多く百歳若しは多く千歳若しは多く百千歳若しは多く俱胝歳若し 火劫水劫風劫未だ起らざるより已來諸の楚毒猛利の大苦を受く。若し此の世界の火劫 大地 大

に十六の副地獄ありとなす。 に十六の副地獄ありとなす。 リ六十四大劫を経て世界を壊 するを云ふ。

界乃至諸受。e)意界乃至諸受。e)地界乃至識界。e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 處。他色處乃至法處。他眼界乃至諸受。 四無色定。 般若波羅蜜多。心內室乃至無性自性空。心真如乃至不思議界。 (c) 菩薩摩訶薩·菩薩摩訶薩行。 e)佛の十カ乃至十八佛不共法。 切三摩地門。 (e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願 (e) 預流乃至阿羅漢。 e如來應正等覺·無上正等菩提。 e無忘失法·恒住捨性。 (e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。(e) (色預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢 (e) 一切智乃至 (e) 苦聖諦乃至道聖諦。 (e) 切法。 果。 舌界乃至諸受。 切相智。 解說門。 (e) 布施波羅蜜 (e) 獨覺 (e)四靜慮乃至 (e) (e) 五眼 切陀羅 多乃至

世尊及び諸の菩薩摩訶薩等を供養恭敬尊重讃歎せんと欲するに意に隨ひて成窮し、亦た能く彼の諸 菩薩摩訶薩衆を離れず。 多を修學す。善現、 摩訶薩有りて初發心より即ち能く甚深般若波羅蜜多を修學し亦た能く 若波羅蜜多を修學するやと。佛言はく、 は恒に殊勝の神通を遠離せずして一佛國より一佛國に趣き有情を成熟し佛土を嚴淨す。 して生す。是の菩薩摩訶薩の心は常に煩惱と雜住せず亦た曾て二乘の心を起さす。 の如來の所に於て衆の善根を殖う。 菩薩摩訶薩は能く正しく甚深般若波羅蜜多と修學す。 具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、 是の菩薩摩訶薩は常に布施乃至般若波羅蜜多相應の行を遠離せず、 是の菩薩摩訶薩は方便善巧有るが故に諸法を謗らず。 是の菩薩摩訶薩は一佛土より一佛土に趣き珍奇なる諸の妙供具を以て諸佛 是の菩薩摩訶薩は身を受くる處に隨ひて母腹胞胎の中に堕ちず 善現、此の事の中に於て應に分別し說くべし。善現、 諸の菩薩摩訶薩行を積むこと久如くして便ち能く 靜慮波羅蜜多乃至布施波羅 亦た常に諸佛世尊及び諸の 一切法に於て増さず減ぜ 是の菩薩 甚深般 菩薩

く百千佛若しは多く俱胝佛若しは多く百俱胝佛若しは多く千俱胝佛若しは多く百千俱胝佛若しは多 善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有り、 曾で多くの佛若しは多く百佛若しは多く千佛若しは多

般若を信じて功徳あり。

に反し悪報を受く。 を行ずるも有所得にして般若 を行するも有所得にして般若

の時具壽舍利子、 佛に白して言さく。 世尊、 若 し菩薩摩訶薩の此の甚深般若波羅蜜多に於て能

是の菩薩摩訶薩は布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修習すること已に久如くすと爲すや。世尊、 く信解する者は何處より没して此の間に來生せるや。 し已りて幾時を經しや。 世尊、 是の菩薩摩訶薩曾て幾所の如來應正等覺に親近し供養せるや。世尊、 世尊、 是の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を發趣

是の菩薩摩訶薩は云何が是の如き般若波羅蜜多の甚深の義を信解するやと。佛言はく、舍利子、 し菩薩摩訶薩の此の甚深般若波羅蜜多に於て能く信解する者は十方界無數無量無邊の如來應正等覺 法會の中より没して此の間に來生す。舎利子、是の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を發趣し已に無數

戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修習して已に無數無量無邊百千俱胝那庾多劫を經たり。 可稱量の如來應正等覺に親近し供養せり。含利子、是の菩薩摩訶薩は初發心より常に勤めて布施淨 し菩薩摩訶薩、 量無邊百千俱胝那庾多劫を經たり。 此の般若波羅蜜多を見て便ち是の念を作さん、我れ佛を見たてまつらんが爲に此 舎利子、是の菩薩摩訶薩は已に曾て無數無量無邊不可思議不 舍利子、 是の 0

色は聞く無く見る無し、諸法鈍の故に、 者有りと爲すや不やと。 解するなりと。 菩薩摩訶薩は無相無二無所得を以て方便と爲して能く正しく是の如き般若波羅蜜多甚深の義趣 般若波羅蜜多を聞かんと。便ち是の念を作さん、 是の如き般若波羅蜜多は亦た聞かるるに非ず及び見らるるに非す。 爾の時具壽善現、 佛言はく、善現、 佛に白して言さく、 受想行識聞く無く見る無し、 是の如き般若波羅蜜多は實に能く聞き及び能 我れ佛の説を聞きたてまつれりと。 世尊、 甚深般若波羅蜜多を能く聞き能く見る 諸法鈍の故に。他眼處乃至意 何を以 ての故に、 舍利子、 く見る者無 (e) 善現 で信

> < せるもの般若を信ずる佛 なるを鋭く。 無量劫來十 如

(e)「善現色無関無見諸法鈍故 受想行議無関無見諸法鈍故」 大下に出す諸法を入るれば他 大下に出す諸法を入るれば他 職を利とし六境を鈍とす、 夫の分別に於て利鈍あり、 付せざる所は「善現」 個し諸法のみ出して符號()を略し以下その諸法のみ略出す 初めに無き所なり。 別に於て利鈍あり、六諸法鈍の故に。三界凡

h. 九

> 施乃至 等の法

聞見なきも

至佛は鈍に盤右は利なり、布法は鈍に慧は利なり、布

分鹏般若品第三十二之八、

九、第三十三

卷の第一百八十

初分讃般若品第三十二之九

切相智。山一切陀羅尼門・一切三摩地門。山頂流乃至阿羅漢。 願解脫門。は五眼・六神通。は佛の十カ乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は一切智乃至一願解脫門。は五眼・六神通。は佛の十カ乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は一切智乃至一 道聖諦。何四靜慮乃至四無色定。何八解脫乃至十遍處。何四念住乃至八聖道支。何空解脫門乃至無 d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。d)內容乃至無性自性容。d)真如乃至不思議界。d)苦聖諦乃至

卷の第一百八十一

初分讃般若品第三十二之十

應正等覺·無上正等菩提。di一切法。 (d)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(d)獨覺·獨覺菩提。(d)菩薩摩訶薩·菩薩摩訶薩行。(d)如來 (d)

(d) 前卷と同意

前巻と同意。

乃至諸受。创身界乃至諸受。创意界乃至諸受。创地界乃至識界。创無明乃至老死愁歎苦憂惱。

處乃至意處。d)色處乃至法處。d)眼界乃至諮受。d)耳界乃至諮受。d)鼻界乃至諮受。d)

世尊、我れ此の意に縁るが故に菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多は大波羅蜜多と名づくと說く。

就せずと、受想行識の勢力成就せざるが故に當に知るべし般若波羅蜜多の勢力も亦た成就せずと。 羅蜜多も亦た無覺知なりと。色の勢力成就せざるが故に當に知るべし般若波羅蜜多の勢力も亦た成 に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無覺知なりと、受想行識無覺知なるが故に當に知るべし般若波 受想行識不可思議なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た不可思議なりと。色無覺知なるが故 多も亦た不可得なりと。色不可思議なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た不可思議なりと、 に知るべし般若波羅蜜多も亦た不可得なりと、受想行識不可得なるが故に當に知るべし般若波羅蜜 と、受想行識寂靜なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た寂靜なりと。 色遠離なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た遠離なりと、受想行識遠離なるが故に當に知る 羅蜜多も亦た無願なりと、受想行識無願なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無願 相なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無相なりと。色無願なるが故に當に知るべし般若波 蜜多も亦た空なりと。 るが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た空なりと。受想行識空なるが故に當に知るべし般若波羅 無所有なりと、受想行識無所有なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無所有なりと。色空な 無自性なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無自性なりと、受想行識無自性なるが故に當に 蜜多も亦た無滅なりと、受想行識無滅なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無滅なりと。色 **べし般若波羅蜜多も亦た遠離なりと。色寂靜なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た寂靜なり** 知るべし般若波羅蜜多も亦た無自性なりと。色無所有なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た 色無相なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無相なりと、受想行識無 色不可得なるが故に當

門。 (C)五眼·六神通。

総の第一百七十九

初分讃般若品第三十二之八

るべし般若波羅蜜多の勢力も亦た成就せずと。世尊、我れ此の意に緣るが故に菩薩摩訶薩の般若波 可得なりと。有情不可思議なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た不可思議なりと。 と。有情遠離なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た遠離なりと。有情寂靜なるが故に當に知 し般若波羅蜜多も亦た無相なりと。有情無願なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無顧なり 20 波羅蜜多も亦た無自性なりと。有情無所有なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無所有なり 諸の菩薩摩訶薩・菩薩摩訶薩行。(()諸の如來應正等覺・佛の無上正等菩提。(()一切法。 知なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無覺知なりと。有情の勢力成就せさるが故に當に知 るべし般若波羅蜜多も亦た寂靜なりと。有情不可得なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た不 なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無滅なりと。有情無自性なるが故に當に知るべし般若 切三摩地門。©預流乃至阿羅漢。©預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。©獨覺·獨覺菩提。 (c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法·恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・ 所以は何ん、 有情空なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た空なりと。有情無相なるが故に當に知るべ 世尊、有情無生なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無生なりと。 (c)

なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無生なりと。色無滅なるが故に當に知るべし般若波羅 付復た次に世尊、色無生なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無生なりと、受想行識無生

蜜多は大波羅蜜多と名づくと說く。

(c) 前後と同意。

略し以下その諸法のみ略出す。 大下に出す諸法を挿入せば他大下に出す諸法を挿入せば他 **醛般若波羅蜜多名大波羅蜜多** 世尊我緣此意故說菩薩摩訶 「復次世尊色無生故………

(d)

心預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果的。獨覺·獨覺菩提。心菩薩摩訶薩·菩薩摩訶薩行。 無忘失法·恒住捨性。心一切智乃至一切相智。 應正等覺・佛の無上正等菩提。山一切法。 念住乃至八聖道支。 (b) 真如乃至不思議界。 心空解脫門乃至無願解脫門。 (b) 苦聖諦乃至道聖諦。 心一切陀羅尼門·一切三摩地門。心預流乃至阿羅漢。 心四靜慮乃至四無色定。山八解脫 心五眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。 乃至十 温處。 (b)諸の如來 (b) (b) 四

提を證するに非さるが故なり。 得と名づくるなり。 作さず受想行識に於て若しは有力無力と作し有力無力と作さずと。世尊、是の菩薩摩訶薩は大有所 作さず受想行識に於て若しは廣狹と作し廣狹と作さず、 作さず受想行識に於て若しは有量無量と作し有量無量と作さず、 作さず受想行識に於て若しは集散と作し集散と作さず、 し大小と作さず受想行識に於て若しは大小と作し大小と作さず、色に於て若しは集散と作し集散と (c) 世尊、 若し菩薩摩訶薩是の如き想を起さん。是の如き般若波羅蜜多は色に於て若しは大小と作 般若波羅蜜多を行するに非す。何を以ての故に、 色に於て若しは有力無力と作し有力無力と 色に於て若しは有量無量と作し有量無量と 色に於て著しは廣狭と作し廣狭と 有所得の想は能く無上正等菩

(c) 四靜慮乃至四無色定。 施波羅蜜多乃至殺若波羅蜜多。ⓒ內空乃至無性自性空。ⓒ眞如乃至不思議界。ⓒ苦聖諦乃至道聖諦 乃至諸受。(以身界乃至諸受。(心意界乃至諸受。(心地界乃至識界。(心無明乃至老死愁歎苦憂惱。 ©眼處乃至意處。(C)色處乃至法處。(C)眼界乃至諸受。(C)耳界乃至諸受。(C)外界乃至諸受。 (0)八解脫乃至十遍處。 (c)四念住乃至八聖道支。 (0) 空解脫門乃至無願解脫 (c) 舌界 (c) 布

(b) 前巻と同意。

(0「復久」の二字を「世尊」の上に加へ「復次世尊若菩薩 摩訶薩 起如是想………何以故非有所得是想………何以故非有所得

にして敷若に應ぜず。 大小を作すと、六度に依止せ 大小を作すと、六度に依止せ 大小を作すと、六度に依止せ 大小を作すと、六度に依止せ ですと、四者皆空有の所得想

五八七

初分讚般若品第三十二之七

力と作すと。世尊、是の菩薩摩訶薩は此の想を起すに由りて般若波羅蜜多を行するに非ずと。 (a) 眼處乃至意處。(a) 色處乃至法處。(a) 眼界乃至諸受。(a) 耳界乃至諸受。(a) 鼻界乃至諸受。(a)

(a) 五眼·六神通。 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (1)內空乃至無性自性空。 (1)真如乃至不思議界。(1)苦聖諦乃至道聖諦 乃至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (a) 切陀羅尼門・一切三摩地門。山頭流乃至阿羅漢。山頂流向頂流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。山獨覺 四靜慮乃至四無色定。每八解脫乃至十遍處。每四念住乃至八聖道支。每空解脫門乃至無願解脫門。 實菩提。 a 菩薩摩訶薩·菩薩摩訶薩行。 (a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法·恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a) (1)諸の如來應正等覺・佛の無上正等菩提。 (a)一切法。 舌界

如き一切は皆般若波羅蜜多の等流果に非さるが故に。 力と作し有力無力と作さず受想行識に於て著しは有力無力と作し有力無力と作さずと。世尊、是の 量と作し有量無量と作さず受想行識に於て若しは有量無量と作し有量無量と作さず。色に於て若し 於て著しは大小と作し大小と作さず受想行識に於て著しは大小と作し大小と作さず、色に於て若し は廣狹と作し廣狹と作さず受想行識に於て若しは廣狹と作し廣狹と作さず。色に於て若しは有力無 は集散と作し集散と作さす受想行識に於て若しは集散と作し集散と作さず、色に於て若しは有量無 何を以ての故に、山世尊、若し菩薩摩訶薩、是の如き想を起さん、是の如き般若波羅蜜多は色に

乃至諸受 的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。的地界乃至識界。的無明乃至老死愁歎苦憂惱。 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空 的眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的舌界 (b) 布

> 「夏大世章 音等選集可能 型の上に加へ の上に加へ の二字を「世尊

す。 の上に加へ に復次世尊 若菩薩縣訶薩 起如 に復次世尊 若菩薩縣訶薩 起如

由りて般若波羅蜜多を行するに非ずと。 さず受想行識に於ても亦た有力と作さず無力と作さすと。世尊、是の菩薩摩訶薩は此の想を起すに 色に於て有量と作さず無量と作さず受想行識に於ても亦た有量と作さず無量と作さず。色に於て廣 作さす小と作さす。色に於て集と作さす散と作さす受想行識に於ても亦た集と作さす散と作さす。 と作さず狭と作さず受想行識に於ても亦た廣と作さず狭と作さず。色に於て有力と作さず無力と作

施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。⑤內容乃至無性自性空。⑤眞如乃至不思議界。⑤苦聖諦乃至道聖諦。 獨覺菩提。の菩薩摩訶薩・菩薩摩訶薩行。の諸の如來應正等覺、佛の無上正等菩提。の一切法。 g五眼·六神通。 (B四靜慮乃至四無色定。(3)八解脫乃至十遍處。 (3)四念住乃至八聖道支。(3)空解脫門乃至無願解脫門。 乃至諸受。以身界乃至諸受。以意界乃至諸受。以地界乃至識界。以無明乃至老死愁歎苦憂惱。 切陀羅尼門·一切三摩地門。⑤預流乃至阿羅漢。⑤預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。⑤獨覺· ⑤眼處乃至意處。⑤色處乃至法處。⑤眼界乃至諸受。⑤耳界乃至諸受。⑤鼻界乃至諸受。⑤舌界 宮佛の十力乃至十八佛不共法。 ⑤無忘失法・恒住捨性。 ⑤一切智乃至一切相智。 (g)

巻の第一百七十七

初分讃般若品第三十二之六

於ても亦た廣と作し狭と作し。色に於て有力と作し無力と作し受想行識に於ても亦た有力と作し 小と作し。色に於て集と作し散と作し受想行識に於ても亦た集と爲し散と作し。色に於て有量と作 き想を起さん。是の如き般若波羅蜜多は色に於て大と作し小と作し受想行識に於ても亦た大と作し し無量と作し受想行識に於ても亦た有量と作し無量と作し。色に於て廣と作し狭と作し受想行識に 若し新に大乗を學する菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多乃至布施波羅蜜多に依らずして是の如 「復灰世尊若新學大乘菩薩摩 右も前巻(gの場合と同方法に の上に加へ **陸由起此想非行般若波羅蜜多** 訶薩……世尊是菩薩摩訶

五八五

切分掛股若品第三十二之五、六

藤·菩薩摩訶薩行。(e) 諸の如來應正等覺、佛の無上正等菩提。(e) 一切法。

乃至諸受。出身界乃至諸受。出意界乃至諸受。出地界乃至識界。出無明乃至老死愁歎苦憂惱。出布 作し。色に於て集と作し散と作し受想行識に於ても亦た集と作し散と作し。色に於て有量と作し無 を起さん。 (f) (f) 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。①內空乃至無性自性空。①真如乃至不思議界。①苦聖諦乃至道聖諦。 も亦た廣と作し狭と作し。色に於て有力と作し無力と作し受想行識に於ても亦た有力と作し無力と 作すと。世尊、是の菩薩摩訶薩は此の想を起すに由りて般若波羅蜜多を行するに非ずと。 四靜慮乃至四無色定。由八解脫乃至十遍處。 と作し受想行識に於ても亦た有量と作し無量と作し。色に於て廣と作し狭と作し受想行識に於て 五眼·六神通。 f)眼處乃至意處。f)色處乃至法處。f)眼界乃至諸受。f)耳界乃至諸受。f)鼻界乃至諸受。 (f) 世尊、 是の如き般若波羅蜜多は色に於て大と作し小と作し受想行識に於ても亦た大と作し小と 若し新に大乘を學する菩薩摩訶薩、 (1)佛の十力乃至十八佛不共法。 般若波羅蜜多乃至布施波羅蜜多に依りて是の如き想 (f)四念住乃至八聖道支。f) 空解脫門乃至無願解脫門。 f無忘失法·恒住捨性。 (f)舌界

卷の第一百七十六

初分讃般若品第三十二之五

乃至阿羅漢向阿羅漢果。 の無上正等菩提。 切智乃至一切相智 (f)一切法。 (f)獨覺·獨覺菩提。(f)菩薩摩訶薩·菩薩摩訶薩行。 。ff 一切陀羅尼門·一切三摩地門。ff 預流乃至阿羅漢果。 (f)諸の如來應正等覺。 (f)預流向預流果

き想を起さん。 g世章、 若し新に大乘を學する菩薩摩訶薩、 是の如き般若波羅蜜多は色に於て大と作さず小と作さず受想行識に於ても亦た大と 般若波羅蜜多乃至布施波羅蜜多に依らずして是の 如

上に加へ上に加へ上に加へ

「復永 世尊若新學 大乗菩薩摩訶薩……世尊是菩薩摩訶 をし 大下所出の諸法を入るれば他 大下所出の諸法を入るれば他 大下所出の諸法を入るれば他 大下所出の諸法を入るれば他

の上に加への二字を「世尊

「復久世尊若新學大乘菩薩摩訶薩由起此想非行穀若波羅蜜多」としたの文中「色乃至識」の所に大下所出の諸法を入るれば他大下所出の諸法を入るれば他大下所出の諸法を入るれば他大下所出の諸法を入るれば他は皆同じさ故之を行號以下その諸法を出すのみとす。

十八佛不共法。问無忘失法·恒住捨性。d)一切智乃至一切相智。 (d) 諸の如來應正等覺、 d預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 佛の無上正等菩提。 (d) 切法。 (d)獨覺·獨當菩提。 (d) 切陀羅尼門・一切三摩地門。 d語薩摩訶薩·菩薩摩 (d)

ず。色に於て有量と作さず無量と作さす受想行識に於ても亦た有量と作さず無量と作さす。 大と作さす小と作さす。色に於て集と作さす散と作さず受想行識に於ても亦た大と作さず小と作さ の如き想を起さん、 すに由りて般若波羅蜜多を行するに非す。 て廣と作さず狭と作さず受想行識に於ても亦た廣と作さず狭と作さず。色に於て有力と作さず無力 (e) 復た次に世尊、 是の如き般若波羅蜜多は色に於て大と作さず小と作さす受想行識に於ても亦た 若し新に大乘を學する菩薩摩訶薩、 般若波羅蜜多乃至布施波羅蜜多に依りて是 是の菩薩摩訶薩は此の想を起 色に於

乃至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦憂惱。 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。(e)舌界

巻の第一百七十五

初分讃般若品第三十二之四

地門。 十力乃至十八佛不共法。 八解脫乃至十遍處。 (e)內室乃至無性自性空。(e)真如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。 (e)預流乃至阿羅漢。 (e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。 e無忘失法·恒住捨性。 (e) 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(e)獨覺·獨覺菩提。(e) 菩薩摩訶 (e)一切智乃至一切相智。 (e) (e) 一切陀羅尼門·一 五眼。 六神通。 (e) 佛 (e)

(6) (() 人世 () 大世 () 大世 () 大世 () 大世 () 大世 () 大世 () 大下に出す諸法を入るればか大下に出す諸法を入るればか大下に出す諸法を入るればかた。 () 大下に出す諸法を入るればから、() 大下に出す諸法を入るればから、() 大下に出す諸法を入るればから、() 大田 () 大田 ()

(6) 前巻と同意。

五八三

初分讃般若品第三十二之三、四

諸佛の無上正等菩提。に一切法。 (C)四靜慮乃至四無色定。 (C)五眼·六神通。 一切陀羅尼門・一切三摩地門。⑥預流果乃至阿羅漢果。⑥獨覺菩提。⑥一切の菩薩摩訶薩 (6佛の十カ乃至十八佛不共法。(6無忘失法・恒住捨性。(6一切智乃至 (c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至 二切

現、佛に白して言さく、は世尊、 想行識に於ても亦た大と作さず小と作さす。色に於て集と作さず散と作さす受想行識に於ても亦た 於て有力と作さず無力と作さず受想行識に於ても亦た有力と作さず無力と作さず。世尊、我れ此の 量と作さす。色に於て廣と作さず狭と作さす。受想行識に於ても亦た廣と作さず狭と作さす。 集と作さず散と作さず。色に於て有量と作さず無量と作さず受想行識に於ても亦た有量と作さず無 言はく、 意に緣るが故に菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多は大波羅蜜多と名づくと說くと。 具籌善現復た佛に白して言さく、世尊、 汝何の意に緣りて菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多は大波羅蜜多と名づくと說くやと。善 菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多は 菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多は大波羅蜜多と名づくと。 色に於て大と作さず小と作さす受

巻の第一百七十四

du眼處乃至意處。di色處乃至法處。

初分讃般若品第三十二之三

乃至十遍處。は四念住乃至八聖道支。は空解脫門乃至無願辨脫門。は五眼・六神通。は佛の十力乃至 室乃至無性自性空。d)真如乃至不思議界。d)苦聖諦乃至道聖諦。d)叫靜慮乃至四無色定。d)八解脫(b) 乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂惱。山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 创眼界乃至諸受。d)耳界乃至諸受。d)鼻界乃至諸受。d)舌界乃至諸受。d)身界乃至諸受。d)意界 (d)

(d)「復決」の二字を「世章」 所以を明す。

「復永世尊菩薩摩訶薩 般若波の上に加へ

「復央世尊菩薩 摩訶薩 般若波羅蜜多於色不作大不作小……

「変字」とし右の文中「色みで、変形、変形とし右の文中「色みで、変形、変形とし右の文中「色みで、変麗を変える。
の所に次下に出す諸法を入るの所に次下に出す諸法を入るのはは皆同じき故之を存號した。

(d) 前巻と同音

尸迦、 壊無く得無く捨無く自性無からんが爲の故に而かも現在前せり。 白して言さく、 受無く取無く住無く斷無く執無く捨無く是の如く合得して而かも合得無しと。 如く合得して而かも合得無し。 般若波羅蜜多は一切智智に於て名相等の如く 希有なり世尊、 是の如く般若波羅蜜多は 憍尸迦、 是の如く般若波羅蜜多は 受無く取無く住無く断無く執無く捨無く是の 切法の作無く止無く生無く滅無く成無く 合有り得有りと雖も然かも合無く 一切法に於ても亦た名相等の 時に天帝釋復た佛に 如く

(c) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (c) 舌界乃至諸受。(c) 身界乃至諸受。(c) 意界乃至諸受。 なりと。 得可からず。 すやと。 現復た佛に白して言さく、 さるやと。 を信ぜずと。 自在ならずと。是の菩薩摩訶薩は俱に般若波羅蜜多を棄捨し倶に般若波羅蜜多を遠離すと。 き想を起さん、 多を修行する時是の如き想を起さん、是の如き般若波羅蜜多は無所有にして真實に非ず堅固ならず て諸の菩薩摩訶薩、 は俱に般若波羅蜜多を棄捨し俱に般若波羅蜜多を遠離するなりと。 爾の時具壽善現、 佛言はく、 (0)眼處乃至意處。 善現、 世尊、 是の故に菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を信する時は則ち色を信ぜず受想行識を信 般若波羅蜜多と一 菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行する時色を觀ずるも得可からす受想行識を觀ずるも 云何が菩薩摩訶薩、 (c) 善現、 般若波羅蜜多を棄捨し般若波羅蜜多を遠離す。 佛に白して言さく、 世尊、 (c) 色處乃至法處。 若し菩薩摩訶薩、 若し菩薩摩訶薩、 切法と合す、 (6)內室乃至無性自性空。 世尊、 般若波羅蜜多を信ずる時は則ち色を信ぜず受想行識 (C服界乃至諸受。 ©耳界乃至諸受。 般若波羅蜜多を信ずる時は則ち色を信 般若波羅蜜多と一切法と合せずと。是の菩薩摩訶 若し菩薩摩訶薩、 般若波羅蜜多を信ずる時何の法をか信 (0)地界乃至識界。(0)無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (c) 真如乃至不思議界。 般若波羅蜜多を修行する時是の 謂ゆる菩薩摩訶薩、 佛言はく、善現、 (c) (C)苦聖諦乃至道 鼻界乃至諸受。 復た内縁有り ぜず受想行 般若波羅蜜 ぜずと為 ぜざる を信 如

(三) 無受等。法常無常にあらざるが故に無住、解政、神事の故に無住、解政、神者が改に無性、解政、神者が改に無所有の故に無法、情沈遠等を離るものなきが故に無い、情沈遠等を離るも合なしとせず、或は、合とし或は不合と定むるもの、「三」 二種の数に無執、情沈遠等を離るものなり。これ有無の、「一、「一、」

「(で)「復夫」の二字を「善現」 の上に加へ 「復夫」の二字を「善現」 「復夫」の二字を「善現」 「復夫」の二字を「善現」 「復夫」の二字を「善現」 「復大書現 若菩薩縣訶薩信般 若波羅蜜多時則不信色……… ば他は皆同じき放之を符號。 にて略し以下その諸法を入るれ にて略し以下その諸法を入るれ は他は皆同じき放之を符號。 にて略し以下その諸法を入るれ は他は皆同じき放之を符號。

卷の第一百七十三

初分讃般若品第三十二之二

三摩地門。心預流果乃至阿羅漢果。心獨覺菩提。心一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。 佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。し一切智乃至一切相智。し一切陀羅尼門・一切 b)八解脫乃至十遍處。b)四念住乃至八聖道支。b)空解脫門乃至無願解脫門。b)五眼・六神通。 (b)

(b)一切法。 方清淨法と合せず、染汚法と合せず不染汚法を合せず、世間法と合せず出世間法と合せず、生死法 無罪法と合せず、有漏法と合せず無漏法と合せず、有爲法と合せず無爲法と合せず、雜染法と合せ と合せざるやと。舍利子、是の如き敝若波羅蜜多は善法と合せず非善法と合せず、有罪法と合せず、 せざるを以ての故に般若波羅蜜多と名づくるを得と。世尊、是の如き般若波羅蜜多は何等の一切法 なるが故なりと と合せず涅槃法と合せず。何を以ての故に、舎利子、是の如き般若波羅蜜多は一切法に於て無所得 合するやと。佛言はく、含利子、菩薩摩訶薩是の如く引發せる般若波羅蜜多は一切法と合せず、合 時に舎利子復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩是の如く引發せる般若波羅蜜多は何の法と

るやと。佛言はく、憍尸迦、是の如し是の如し、此の般若波羅蜜多は亦た一切智智にも合せざるな り。此れは彼れに於て不可得なるに由るが故なりと。世尊、云何が般若波羅蜜多は一切智智に於て 合有り得有るに非らずと。世尊、云何が般若波羅蜜多は一切智智に於て亦た合有り得有るやと。憍 合無く亦た得無きやと。憍尸迦、般若波羅蜜多は一切智智に於て名の如く相の如く其の所作の如く 爾の時天帝釋、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は豈に亦た一切智智にも合せさ

(b) 前卷と同意。

智に對する愛あるが爲なり。

高爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上無等無等等爲るなりと。 能く是の事を成するに非さればなり。是の故に般若波羅蜜多は前の五種よりも最爲り勝爲り尊爲り は要らず般若波羅蜜多に住して方に能く布施淨戒安忍精進鄣慮波羅蜜多を圓滿し、餘の五に住して に攝受せらるるのみに由るが故に餘の五方に到彼岸の名を得るなり。 靜慮波羅蜜多に搔受せらるるに由るが故に餘の五方に到彼岸の名を得るに非す。但た般若波羅蜜多 の名を得るに非す、精進波羅蜜多に攝受せらるるに由るが故に餘の五方に到彼岸の名を得るに非す、 所以は何ん、諸の菩薩摩訶薩

受想行識を引發せんが爲の故に般若波羅蜜多を引發すべからず。 想行識は作無く止無く生無く滅無く成無く壞無く得無く捨無く自性無きを以ての故に菩薩摩訶薩は く自性無きを以ての故に菩薩摩訶薩は色を引發せんが爲の故に般若波羅蜜多を引發すべからず、受 羅蜜多を引發すべからざるやと。含利子、色は作無く止無く生無く滅無く成無く壞無く得無く捨無 **方、受想行識を引發せんが爲の故に般若波羅蜜多を引發すべからずと。世尊、云何が菩薩摩訶薩は** きやと。佛言はく、心舍利子、菩薩摩訶薩は色を引發せんが爲の故に般若波羅蜜多を引發すべ 爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は云何が應に般若波羅蜜多を引發すべ から

(b) 乃至諸受。心身界乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃至老死愁歎苦憂惱 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 四靜慮乃至四無色定。 的眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心身界乃至諸父。b) (b)內容乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦理諦乃至道聖諦 (b) 布 舌界

【三型 行者如何に般若を生ずるかを明す。 (b)「復次」の二字を「含利子」の上に加への上に加への上に加への上に無生無減無成無壞無解作無止無生無減無成無壞無精無自性故菩薩摩訶薩 不爲明發色故…………以受想行識

豈に說く可からす。要らず布施波羅蜜多に攝受せらるるに由るが故に餘の五は乃ち到彼岸の名を得、 若波羅蜜多の淨目者の導き無くんば尚ほ菩薩の正道にすら趣く能はず、 する所の般若波羅蜜多は布施淨戒安忍精進靜慮波羅蜜多に超勝すること無量倍數なり。如し生育人 菩提に隨喜廻向す。是の因縁に由るが故に斯の事を問 有る一切の功徳善根、若しは諸の整開獨覺菩薩餘の有情類の功徳善根を合集稱量し現前に無上正 於て初發心より無上正等菩提を得るに至り妙法輪を轉じて乃ち法滅に至るまで其の中間に於ける所 若波羅蜜多及び方便善巧の攝受する所と爲るが故に能く過去未來現十方世界一 五は乃ち到彼岸の名を得るなり。若し爾れば何に絲りてか獨り般若のみ餘の五波羅蜜多に超勝する に由るが故に餘の五は乃ち到彼岸の名を得、 多に攝受せらるるに由るが故に餘の五は乃ち到彼岸の名を得、要らず精進波羅蜜多に攝受せらるる 要らず浄戒波羅蜜多に攝受せらるるに由るが故に餘の五は乃ち到彼岸の名を得、要らず安忍波 等の五波羅蜜多は要らず般若波羅蜜多に攝受せらるるに由るが故に乃ち名を得て到彼岸と爲すとは の一切は皆到彼岸の名を得と。時に天帝釋便ち具壽舍利子に白して言さく、 せらるるに由るが故に有目者と名づけ、復た般若波羅蜜多の攝受する所なるに由るが故に布施等 を得んをや。復た次に憍尸迦、是の如く布施淨戒安忍精進靜原波羅蜜多は此の般若波羅蜜多に攝受 能く遠く豊樂の大城に達せんをや。是の如く布施淨戒安忍精進靜慮波羅蜜多の諸の生盲紫は若し般 百千等の衆なるも淨目者の善く之を引導する無くんば猶尙は、近く正道に趣くすら能はず、 餘の五方に到彼岸の名を得るに非ず、安忍波羅蜜多に攝受せらるるに由るが故に餘の五方に到彼岸 るるに由るが故に餘の五方に到彼岸の名を得るに非ず、浮戒波羅蜜多に攝受せらるるに由るが故に 舎利子言はく、爾ら市爾らす。何を以ての故に、憍尸迦、布施波羅蜜多に攝受せら 要らず靜慮波羅蜜多に攝受せらるるに由るが故に除の へり。復た次に憍尸迦、 況んや能く一切智城に入る 大徳の說くが如く布施 諸の菩薩摩訶薩の學 切の如來應 F 況んや

を信ずるに依る、然るに布施等に言う有目者。布施を罪職等 道。大城は一切智智涅槃妙果【三】正道は十地菩薩道八正 を護りて廻向功徳を爲せしめ 道。大城は一切智智涅槃 なり、これを因縁とす。 倚般若無相を失はざるは希有

み。客なければ無限となる。中の智慧眼は客として有るの

時に舎利子、

.其の心の念を知り便ち之に告げて言はく、

住捨性は皆般若波羅蜜多に由りて出現し得るが故に。

し得るが故なりと。

時に天帝釋竊かに是の念を生す。

今舎利子は何の因縁を以てか乃ち斯の事を問

憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩は般

五

七七七

一切三摩地門は皆般若波羅蜜多に由りて出現

多に由

りて出現し得るが故に。

舍利子、

切陀羅尼門

舍利子、一

切智乃至一切相智は皆般若波羅

切の無忘失法

の十カ乃至十八佛不共法は皆般若波羅蜜多に由りて出現し得るが故に。舎利子、

(二) 含利弗瀾濫雕欲の人なるに類りに般若を譲じ供養を るに類りに般若を譲じ供養を

___(237)—

初分讃般若品第三十二之一

蜜多は 多は皆應に禮敬すべし、我れ等天人の欽率する所なるが故に。世尊、是の如き般若波羅蜜多は染著 をして、二邊を離れしむるが故に。 有情を攝受して五眼を得せしむるが故に。世尊、是の如き般若波羅蜜多は能く中道を示す、失路者 く一切の驚恐逼惱災横の事を斷するが故に。 切積覺有法の中に於て極めて尊勝なるが故に。世尊、是の如き般若波羅蜜多は能く安隱を作す、 眩を遠離す、 せらるる無し、諸の世間法汚す能はざるが故に。世尊、是の如き般若波羅蜜多は一切の 世尊、是の如き般若波羅蜜多に 言はく、舎利子、是の如き所說は即ち是れ般若波羅蜜多なりと。時に舎利子復た佛に白して言さく、 是の如き般若波羅蜜多は能く佛の十力を成す、 壌に非ざるが故に。 訶薩の母なり、 く一切の相積する煩惱並びに習氣を斷ずるが故に。 爾の時具壽舍利子、佛に白して言さく、世尊、是の如き所說は豈に般若波羅蜜多に非すやと。 能く「三轉十二行相の無上法輪を轉す、 不生不滅なり、 能く煩惱諸見の暗を除くが故に。世尊、 菩薩の修する所の一切の佛法は此れより生するが故に。 世尊、 自相空の故に。 是の如き般若波羅蜜多は能く依怙を作す、諸の法寶に施すが故に。世尊 能く照明を作す、畢竟淨なるが故に。世尊、是の如き般若波羅蜜 世尊、 世尊、是の如き般若波羅蜜多は 是の如き般若波羅蜜多は善能く 世尊、 屈伏す可からさるが故に。 一切法に達し轉還無きが故に。 世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ諸の菩薩摩 是の如き般若波羅蜜多は能く光明を施す。諸の 是の如き般若波羅蜜多は最も上首と寫す、 世尊、 世尊、 生死を遠離す、 一切智智を發生す、 是の如き般若波羅 是の如き般若波羅 是の如き般若 三界の智 常に非ず 佛 永

【二】 総イ照明を作す。■〈 を配く。

【二】能く照明を作す。温く 過去、未來、現在、無爲、不 可能の五種一切法藏を明にす。 音八煩惱六十二見等斷邀する 首八煩惱六十二見等斷邀する が故に三輩の淤泥な等三界に 着せざるをいふ。 者せざるをいふ。

【本】 四念住等三十七品の分 別を敷若の妙慧を本とすれば なり。

【七】 一切智所見の資相を諸法れ、一切智所見の資相を諸法れ、一切智所見の資相を諸法れ、一切智所見の資相を諸法れ、一切智所見の資相を諸法れ、一切智所見の資相を諸法れ、一切智所見の資相を諸法れ、一、世不滅なり。

波羅蜜多は能く諸法の無顕倒性を示す、

無性自性空を顕了するが故に。

世尊、

菩薩乘若しは獨覺乘

大栗を發趣する諸の菩薩摩訶薩は皆應に無相を以て方便と爲し無所得を方便と爲して布施乃至般若 **脳倍百千倶胝倍百千倶胝那庾多倍、敷倍算倍計倍喩倍乃至鄔波尼殺曇倍なり。故に說く是の如き** 波羅蜜多等相應の善根を修學し及び般著波羅蜜多の方便善巧に依りて諸の如來應正等覺及び弟子等 喜廻向は最爲り勝爲り尊爲り高爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上無等無等等爲りと。是の故に善現、 便善巧隨喜廻向に由依りて繭に起す所の隨喜廻向に勝ること百倍千倍百千倍、俱胝倍百俱胝倍千俱 子等の功徳善根に於て隨喜廻向無上正等菩提を發生せば是の善男子善女人等は、般若波羅蜜多の方 多等相應の菩根を修習し又た無相を以て方便と爲し無所得を方便と爲して諸の如來應正等覺及び弟 人等有りて無上正等菩提を發趣し無相を以て方便と爲し無所得を方便と爲して布施乃至般若波羅蜜 功徳善根に於て隨喜廻向無上正等菩提を發生すべしと。

諦。 (A)四靜慮乃至四無色定。 (A)八解脫乃至十遍處。 (A)四念住乃至八聖道支。 (A)空解脫門乃至無願解 の如き隨喜廻向を成就せば疾く無上正等菩提を證するなり。 喜は能隨喜に非ず、所隨喜無きが故に。是の如き廻向は能廻向に非ず、所廻向無きが故に。是の如 無く捨無きが如く我れ是の如き功德善根に於て現前に無上正等菩提に隨喜廻向せんと。是の如き隨 切の法性。(8)一 **穀涅槃。 (3)一切の獨覺の諸法。 (3)一切の如來應正等覺及び佛弟子獨覺の法性。 (3)一切の有情。 (3)** 切の佛弟子。(1)一切の佛弟子の般涅槃。(1)一切の獨覺、(1)一切の獨覺の諸根の成熟。(1)一切の獨覺 (1)過去未來現在十方世界一切の如來應正等覺。(1)一切の佛菩提涅槃。(1)無數無量無邊の佛法。(1) 智。山一切陀羅尼門・一切三摩地門。山戒蘊・定蘊蓋蘊解脫蘊解脫智見蘊。山過去未來現在の一切法 脱門。(4五眼・六神通。(4佛の十力乃至十八佛不共法。(4無忘失法・恒住捨性。(4一切智乃至一切相 は最爲り勝爲り奪爲り高爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上無等無等等爲り。善現、若し菩薩摩訶薩是 くして起す所の隨喜廻向は轉に非す息に非す。生滅無きが故に。善現、是の菩薩摩訶薩の隨喜廻向 切の隋喜廻向。諸の法性の縛無く解無く染無く淨無く起無く盡無く生無く滅無く取

爲して布施乃至般若波羅蜜多相應の善根を修習し、又た有相を以て方便と爲し無所得を方便と爲し 切の如來應正等覺及び弟子衆に於て有相を以て方便と爲し有所得を方便と爲し其の形壽を盡くすま て諸の如來應正等覺及び弟子等の功德警根に於て隨喜廻向無上正等菩提を發生せんに、善男子善女 燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎し、復た有相を以て方便と爲し有所得を方便と し、彼の諸の如來應正等覺及び弟子衆般涅槃の復設利羅を取り、妙七寶を以て高廣の諸の軍堵波を で供養恭敬尊重讃歎し復た種種の衣服飲食臥具醫藥及び餘の資生の諸の妙樂具を持ちて之に率施 修建し簀夜に精勤して禮敬右遶し復た種種上妙の花覧塗散等の香衣服瓔珞寶幡幡蓋衆妙珍奇の伎樂 復た次に善現、若し大乗に極く諸の善男子善女人等は假使ひ能く十方現在各殑伽沙等の世界の一 等爲りと、 く是の如くして起す所の隨喜廻向は最爲り勝爲り尊爲り高爲り妙爲り微妙爲 千俱胝倍百千俱胝倍百千 爲りと説く。 摩訶薩の所す所の隨喜廻向は我れ最為り勝為り尊爲り高爲り妙爲り微妙爲り上爲り 性法定法住實際虚室界不思議界の如く我れも亦た是の如く隨喜廻向せんと。 得に非ず又た 無しと知り是の如き念を作す彼の過去未來現在の諸法の真如法界法性不虚妄性不變異性平等性離 覚菩薩及び餘の 喜廻向は最為り勝為り尊為り高為り妙為り微妙為り上為り無上無等無等等為りと說きたまふや 善現、 諸法の生無く減無く染無く浮無く増無く減無く去無く來無く聚無く散無く入無く出 是の如き隨喜廻向は餘の隨喜廻向 切有情の諸の善根等に於て取らず、 是の善男子善女人等は普ねく過去未來現在十方世界の 俱態 那庾多倍、 數倍算倍計倍喻倍乃至鄔波尼殺曇倍なり。 に勝ること百倍千倍 捨てず野らず度せず、 百千倍、 善現、 り上篇り無上無 切の 有所得に非ず 如來應一 是の故に我れ 411 無上無等無等等 齊しく是の 胝 倍百俱胝 E 4

界乃至諸受。 至るまで其 せば應に是の念を作すべし。 復た次に 上等覺の (a) 眼 處乃至意處。 戒性修性の三編業事及び餘の善法を合集稱量して現前に無倒の隨喜廻向の心を發起せ 善現 の中 初發心より無上正等菩提を得るに至り妙法輪を轉じ無餘依般涅槃に入りて後乃ち法滅 (a)身界乃至諸受, 間に於ける所有る一 は餘の無量無邊 菩薩乘に住 (a) 色處乃至法處。 する諸の善男子善女人等、 (a) a解脱の如く色も亦た是の如し、 意界乃至諸受。 (a)內容乃至無性自性室。 の佛法若しは諸 切の布 (a) 眼界乃至諸受。 施乃至 (a) 地 の聲聞 般若波羅蜜多 地界乃至識 獨覺菩薩 過去未來現在十 (a) 真如乃至不思議界。 (1) 耳界乃至諸受。(1) 鼻界乃至諸受。 界。a無明乃至老死愁歎苦憂惱。 相應の善根若し 解脱の如く受想行識も の功徳善根、 方世界に 若しは餘の有情 は戒蘊定蘊悪蘊 (a) 苦聖諦乃至道 於ける 亦た是の 切 0 ん 解 (a) 如 0 (a) 如 2 所 脫

> 【二】 諸法の生無く滅無く等。 さるが故に取らず捨てず、諸 さるが故に取らず捨てず、諸

「三」 是は無量、無靈、無毒、 所な。餘は有量、有盡、難毒、 不定にして生死に贈ふ。

【四】諸法解脱に等しきを説

略し以下その諸法のみ出す。 な皆同じき故之を符號(4)にて な下に出す諸法を入るれば他 な下に出す諸法を入るれば他

二を方便と爲して現前に隨喜し、旣に隨喜し已つて無上正等菩提に廻向せんに、善男子善女人等有 有相を以て方便と爲し、有所得を方便と爲し、有染著を方便と爲し、有思作を方便と爲し、有二不 入るを得、若しは諸の有情の布施乃至散若等を修して引く所の善根、是の如き一切を合集稱量して 修學して預流果を得、一來果を得、不還果を得、阿羅漢果を得、獨覺菩提を得、菩薩の正性離生に 若しは諸の如來應正等覺の戒蘊定蘊蒸蘊解脫蘊解脫智見蘊及び餘の無量無邊の佛法若しは諸の如來 根を修習し、若しは一切陀羅尼門一切三摩地門相應の善根を修習し、若しは諸の菩薩摩訶薩行相應 の善根を修習し、若しは五眼六神通相應の善根を修習し、若しは佛の十カ乃至十八佛不共法相應の 算倍計倍喩倍乃至郎波尼殺曇倍も亦た最も勝ると属すと。 百倶腾倍勝ると爲し千倶略倍勝ると爲し百千倶胝倍勝ると爲し百千倶眡那庾多倍勝ると爲し、數倍 り。前の有情の隨喜廻向よりも百倍勝ると属し千倍勝ると爲し百千倍勝ると爲し俱略倍勝ると爲し の善男子善女人等の隨喜廻向は最爲り勝爲り録爲り意爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上無等無等等爲 りて無上正等菩提を發趣し普ねく……伽……現前に隨喜し隨喜し已つて無上正等菩提に廻向せば是 の所説の正法若しは彼の法に依りて施性戒性修性の三編業事を修習し、若しは彼の法に依りて精動 の警根を修習し、若しは諸佛の無上正等菩提相應の善根を修習し、若しは諸の弟子の所有る善根 善根を修習し、若しは無忘失法恒住捨性相應の善根を修習し、若しは一切智乃至一切相智相應の善

卷の第一百七十二

初分隨喜廻向品第三十一之五

向は最低り勝爲り韓爲り高爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上無等無等等爲り。世母、齊しく何んぞ是 の時具籌善現、佛に白して言さく、世尊、世尊の說きたまふ如く是の善男子善女人等の隨喜廻

等の功德善根に於て隨喜廻向無上正等菩提を發生す。是の如くして起す所の隨喜廻向は二法不二法 是の如き廣大の隨喜廻向を發起す。 珍奇を持ちて諸の天樂を奏し以て佛に供養し白して言さく、 無所得を方便と爲し、 無染著を方便と爲し、無思作を方便と爲し、 謂ゆる彼の菩薩摩訶薩は方便善巧ありて無相を以て方便と爲 世尊、 是の如き菩薩摩訶薩は乃ち能く 諸の如來應正等覺及び弟子

ff蘇夜摩天王。ff珊觀史多天王。ff善變化天王。ff最自在天王。

の中に堕せずと。

るが故に、 發して言さく、 g極光淨天子と無量百千俱胝那庾多の光天衆。g遍淨天衆と無量百千俱胝那庾多の淨天衆。 爾の時の大梵天王と無量百千俱胝那庾多の梵天衆と倶に前んで佛所に詣り變足は頂禮し 前の方便善巧無く有相有所得の諸の善男子善女人等の修する所の善根に超勝すと。 希有なり世尊、是の如き菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多及び方便善巧の攝受する所と爲 俱に (g) 廣 聲を

果天と無量百千俱胝那庾多の廣天衆。図色究竟天と無量百千俱胝那庾多の浮居天衆

善根に安住し、 根を修習し、若しは四念住乃至八聖道支相應の善根を修習し、若しは空解脱門乃至無願解脫門相應 應の善根に安住し、若しは真如乃至不思議界相應の善根に安住し、若しは苦聖諦乃至道聖諦相應の で其の中間に於て所有る布施乃至般若波羅蜜多相應の善根を修習し、若しは內室乃至無性自性空相 覺の初發心より無上正等菩提を得るに至り妙法輪を轉じ無餘依般涅槃に入りて後乃ち法滅に 情皆阿耨多羅三藐三菩提の心を發し、山普ねく過去未來現在の十方世界に於ける一 果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天等に告げて言はく、假使ひ三千三千世界の一 大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣 爾の 時佛、四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天・梵衆天・梵輔天・梵會天・ 若しは四静慮乃至四無色定相應の善根を修習し、若しは八解脫乃至十遍處相應の 切の如 來應正等 切の 一至るま 善

(8)「時大梵天王奥無量百千俱勝於前無方便善巧有相有所得勝於前無方便善巧有相有所得於一次大梵天王乃至梵天名等を入るれば他は皆同じき故之を符號。以下に出す天王梵天子。

右を略すに符號(4)を用ふ。 理向無上正等菩提」 理向無上正等菩提」

初分隨喜廻向品第三十一之四

界の如き所も容受せざらんと。佛言はく、 量無邊無限にして算數譬喩も測量で可きこと難し。世尊、若し是の 得ること多きや不やと。 掌を起し、佛足を頂禮し白して言さく、 有所得を以て方便と爲すが故なりと。 資生上妙の樂具を以て彼の無上正等菩提に趣ける諸の菩薩衆に奉施して獲る所の福聚は皆有相及び 以て方便と爲すが故なり。 餘の査具を以て預流一來不還阿羅漢果及び諸の獨覺に奉施して獲る所の福聚は皆有相及び有所得を て方便と爲すが故なり。 り尊爲り高爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上無等無等等爲り。 所の福聚甚だ前よりも多し。善現、是の善男子善女人等の起す所の是の如き隨喜廻向は最爲り勝爲 廻向を發起す。謂ゆる彼の菩薩摩訶薩は方便善巧ありて無相を以て方便と爲し、無所得を方便と爲 善現、彼の諸の有情の成就する所の十善業道四靜慮四無量四無色定五神通は皆有相及び有所得を以善 多分の一にも及ばず、數分算分計分喩分乃至鄔波尼殺量分の亦た一にも及ばず。何を以て 百倶胝分の一にも及ばず、千倶胝分の一にも及ばず、 百千倶胝 分の一にも及ばず、 百千倶胝那 **ぶるに百分の一にも及ばず、千分の一にも及ばず、百千分の一にも及ばず、俱胝分の一にも及ばず、** 喜廻向無上正等菩提を發生す。是の如くして起す所の隨喜廻向は二法不二法の申に墮せずと。 れ天帝釋と其の眷屬無量百千の天子と俱に各種種の天の妙花量燒香塗香散香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙 無染著を方便と爲し、 諸の如來應正等覺及び弟子等の功德善根に於て無染著の隨喜廻向を起して獲 善現答へて言はく、 彼の善男子善女人等の供養恭敬尊重讃歎し無量種の衣服飲食臥具醫 無思作を方便と爲し、諸の如來應正等覺及び弟子等の功德善根に於て隨 彼の諸の有情の供養恭敬尊重讃歎し無量種の 爾の時四大天王、其の眷屬二萬の天と倶に踊躍歡喜し便ち合 世尊、 善哉善哉、 甚だ多し世尊、甚だ多し善逝。是の如き福聚は無數 是の如き菩薩摩訶薩は乃ち能く是の如き廣大の隨喜 善現、彼の福聚の量は汝が說く所の如し。 善現、 若し前の福を以て此の福 福聚形色有らば十方各苑 衣服飲食以具醫藥及び の故 葉及び (f) 時 加沙

が形像色體を有せばの蔵なり。

(1)「時天帝釋與其眷屬無量百千天子俱………不強二法不二法中」「天帝釋」の所に大下に出す諸天名を入るれば他は皆同じき故之を符號(1)にて

是の善男子善女人等の起す所の是の如き隨喜廻向は最為り勝為り尊爲り高爲り妙爲り微妙爲り上爲 言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、善現、若し善男子善女人等、諸の如來應正等 佛言はく、善現、若し善男子善女人等、諸の如來應正等覺及び弟子等の功德善根に於て無染著の隨 摩訶薩の所に於て供養恭敬尊重讃歎し無量種の衣服飲食臥具醫藥及び餘の資生上妙の樂具を以て之 に、設ひ復た十方各院伽沙等の如き世界の一切有情の一一各彼の無上正等菩提に趣ける一一の菩薩 り無上無等無等等為り。復た次に善現、假使ひ三千大千世界の一切の有情皆無上正等菩提に趣かん **覺及び弟子等の功德善根に於て無染著の隨喜廻向を起して獲る所の繭聚は甚だ前よりも多し。善現** 汝が意に於て云何、是の善男子善女人等此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて 假使ひ三千大千世界の一切の有情皆獨覺を成ぜんに、善男子善女人等有りて彼の獨覺に於て其の形 隨著廻向は最爲り勝爲り鄭爲り高爲り妙なり微妙なり上爲り無上無等無等等爲り。復た次に善現、 喜廻向を起して獲る所の福聚は甚だ前よりも多し。善現、是の善男子善女人等の起す所の是の如 の肉絲に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。 衣服飲食臥具醫藥及び餘の資具を以て之に率施せば、汝が意に於て云何、是の善男子善女人等、 籌を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎し、無量種の衣服飲食臥具醫薬乃び餘の資具を以て之に率施せば、 人等有りて彼の預流一來不還阿羅漢果に於て其の形壽を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎し、無量種の 復た次に善現、假使ひ三千大千世界の一切の有情皆預流一來不還阿羅漢果を得んに、善男子善女 **苑伽沙等の如き大劫を經ば、** 汝が意に於て云何、是の諸の有情、此の因緣に由りて福を 此

満する能はさるに由るが故に。 生するが如く我れも今亦た應に是の如き法に依りて隨喜廻向無上正等菩提を發生すべしと。是れを る能はさるが故に、則ち嚴淨佛土を圓滿する能はず、亦た成熟有情を圓滿する能はず。嚴淨佛土 故に、佛の十力乃至十八佛不共法を圓滿する能はざるが故に、無忘失法恒住捨性を圓滿する能 ず、亦た一切陀羅尼門、一切三摩地門を圓滿する能はず。五眼六神通を圓滿する能はざるに由るが 滿する能はす。亦た無志失法・恒住料性を圓滿する能はず、亦た一切智乃至一切相智を圓滿する能は 圓滿する能はざるが故に、則ち五眼六神通を圓滿する能はず、亦た佛の十九乃至十八佛不共法を圓 正しく隨喜廻向を起すと爲すと。 に大士、諮の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修行せんには應に是の念を作すべし。十方界一切の如來 證得する能はず。何を以ての故に、彼の起す所の隨喜廻向は衆毒を雑ふるに由るが故なり。復た女 應正等覺の如實に功德善根を照了するに是の如き法の依る可き有り、是の法の無倒の隨喜廻向を發 満する能はさるに由るが故に、成熟有情を回溯する能はさるが故に、則ち阿耨多羅三藐三菩提を 一切智乃至一切相智を圓滿する能はさるが故に、一切陀羅尼門、一切三摩地門を圓滿す 員如乃至不思議界を圓滿する能はさるが故に、

苦聖諦乃至道聖誌を

ゆる菩薩摩訶薩等の賃に善く無倒の隨喜廻向を說けり。是の如く說く所の隨喜廻向は無相を以て 方便と爲し、無所得を方便と爲し、無生を方便と爲し、無滅を方便と爲し、無染を方便と爲し。無 と爲し、法界を方便と爲し、法性を方便と爲し、不虚妄性を方便と爲し、實際を方便と爲すが故に、 浄を方便と爲し、無性自性を方便と爲し、自相空を方便と爲し、自性空を方便と爲し、真如を方便 に、汝が意に於て云何、是の諸の有情の功徳多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚 爾の時世尊、具壽善現を讃めて言はく、善哉善哉、善現、汝今已に「佛の所作の事を爲せり。謂 假使ひ三千大千世界の 一切の 有情皆十善業道四靜慮四無量四無色定五神通を成就し 得ん

逃ぶ。週向の顧徳深大なるも

初分隨喜廻向品第三十一之四

提に至らん 不共法。@無忘失法·恒住捨性。@一切智乃至一切相智。@一切陀羅尼門·一切三摩地門。@戒蘊· 處。@四念住乃至八聖道支。@空解脫門乃至無願解脫門。@五眼·六神通。@佛の十力乃至十八佛 性自性空。(e) 真如乃至不思議界。(e) 苦聖諦乃至道聖諦。(e) 四靜慮乃至四無色定。(e) 八解脫乃至十遍 薩行。(6諸佛の無上正等菩提。是の菩薩摩訶薩の是の如き隨喜廻向は衆毒を雜へす終に甘露無上菩 定蘊懸蘊解脫蘊解脫智見蘊。@預流果、一來果不還果阿羅漢果。@諸の獨覺菩提。@諸の菩薩摩訶 (e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無

至十遍處を圓滿する能はざるが故に、四念住乃至八聖道支を圓滿する能はざるが故に、空解脫門乃 至無願解脫門を圓滿する能はざるが故に、則ち內室乃至無性自性空を圓滿する能はず、亦た真如乃 蜜多を圓滿する能はさるに由るが故に、四髎慮乃至四無色定を圓滿する能はざるが故に、八解脫乃 至八聖道支を圓滿する能はず、亦た空解脫門乃至無願解脫門を圓滿する能はず、布施乃至般若波羅 た四靜慮乃至四無色定を圓滿する能はず、亦た八解脫乃至十遍處を圓滿する能はず、亦た四念住乃 便と爲し諸の如來應正等覺及び弟子等の功德善根に於て隨喜廻向無上正等菩提を發生せば、是の如 至不思議界を圓滿する能はず、亦た苦聖諦乃至道聖諦を圓滿する能はず。內室乃至無性自性空を圓 心は佛世尊の稱讃する所に非さるが故に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿する能はす、 きを邪隨喜廻向と爲す。此の邪隨喜廻向の心は諸佛世尊の稱讃せざる所なり。是の如き隨喜廻 復た次に大士、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し有相を以て方便と爲し或は有所得を方 向の

(e) 前卷と同意。

初分贈喜廻向品第三十一之四

を以て無所有に隨喜廻向す可からざるを以ての故なり。心眼處乃至意處。心色處乃至法處。 d) 苦聖諦乃至道聖諦。d) 四靜處乃至四無色定。d) 八解脫乃至十遍處。d) 四念住乃至八聖道支。d) 空 老死愁歎苦憂惱。向布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。向內空乃至無性自性空。向真如乃至不思議界。 界界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至 も亦た是の如くすべし。は眼處乃至意處。は色處乃至法處。は眼界乃至諸受。は耳界乃至諸受。は 行識の欲界色界無色界に墮せず、既に三界に墮せされば則ち過去未來現在に非さるが如く 乃至諸受。但耳界乃至諸受。但身界乃至諸受。但舌界乃至諸受。但身界乃至諸受。但意界乃至諸受。 自性に於て空なるが故に三界に堕せず三世攝するに非ず。所廻向法の自性空なるが故に三界に墮 彼の諸法の自性空なるが故に三界に堕せず三世掛するに非さるが如く隨喜廻向も亦復た是の如し。 非されば則ち彼の有相を以て方便と爲し有所得を方便と爲して隨喜廻向無上正等菩提を發生す可 界色界無色界に堕せさるを知り、若し倶に三界に瞳せされば則ち過去未來現在に非す。 三世攝するに非ず。 なるが故に三界に墮せず三世撰するに非ず。聲聞獨覺及び人天等の自性空なるが故に三界に墮せず 請ゆる諸の如來應正等覺の自性空なるが故に三界に墮せず三世攝するに非す。諸佛の功德の自性空 切智乃至一切相智。は一切陀羅尼門・一切三摩地門。は戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊。は預流 脱門乃至無願解脱門。は五眼・六神通。は佛の十力乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。 來果不還果阿羅漢果。似獨覺菩提。似菩薩摩訶薩行。似諸佛の無上正等菩提。 何を以ての故に、色等の法の自性生ぜす。若し法不生なれば則ち無所有なり。彼の無所有の法 般若波羅蜜多を修行せば如實に色の欲界色界無色界に墮せざるを知り、如實に受想行識の 彼の諸の善根の自性空なるが故に三界に墮せず三世攝するに非す。 能廻向者の自性空なるが故に三界に壁せず三世攝するに非ず。 (e) 若し 所以は何ん、 若し三世に 彼の隨喜の (e) 眼界 (d) 欲

(6)「若菩薩摩訶薩修行般若波無後多如實知色不隨欲界色界無後男如實知受想行識不廢欲界色界無色界無所有法數 喜廻向無不可以從無所有法數 喜廻向無所有故以無所有故以無所有法數 喜廻向無所有故以而,以色等不下に出す諸法を入るれば他を同じき故之を符號(6)にて、

を作さげ則ち佛を謗らず佛の所敎に隨ひ法に隨ひて說くなり。是の菩薩摩訶薩の是の如き隨喜廻向 來應正等覺及び弟子等の功德善根に於て應に是の如く隨喜廻向を作すべし。者し是の如き隨喜廻向 漏の善根、若しは諸の如來應正等覺の已當現に記せる諸の天人等の獨覺菩提の所有る功德若しは諸 の心は永く衆毒を離れ終に甘露無上菩提に至る。 無上佛智を以て了達し遍ねく應に是の如き諸の福業事を以て無上正等菩提に廻向すべしと知りたま を以て了達し温ねく諸の功徳善根の是の如き類有り是の如き體有り是の如き相有り是の如き法有り らずして而かも隨喜廻向心を發さんと欲せば應に是の念を作すべし。諸の如來應正等覺、 善男子善女人等は云何が彼の功德善根に於て隨喜廻向無上正等菩提を發起するやと。具壽善現白し て隨喜す可しと知りたまふが如く我れも今亦た應に是の如く隨喜すべしと。又た諸の如來應正等覺、 て言さく、大士、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、般若波羅蜜多を修行して若し諸佛世尊を誇 の諸の功徳に於て隨喜廻向を發起せる善根に於て隨喜廻向すべしと說くべき。菩薩乘に住する諸の の天龍薬叉健達縛阿素洛揚路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等の集せる諸の善根、若しは善男子善女人等 の所有る戒蘊定蘊無蘊解脫蘊智見蘊及び餘の一切無數無量無邊の功德若しは佛弟子の一切の有漏無 は佛土を嚴淨して集せる諸の善根若しは有情を成熟して集せる諸の善根、 至四無色定、 るが如く我れも今亦た應に是の如く廻向すべしと。菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は諸 () 佛の十力乃至十八佛不共法、() 一切智乃至一切相智、() 一切陀羅尼門・一切三摩地門、若一 (6)八解脫乃至十遍處、(6)四念住乃至八聖道支、(6)空解脫門乃至無願解脫門、(6)五眼・六 若しは諸の如來應正等覺 の如

覺及び弟子等の功德善根に於て應に是の如き隨喜廻向を作すべし。

(d)色の飲界色界無色界に墮 **ず、旣に三界に墮せされば則ち過去未來現在に非ざるが如く隨喜廻向も亦た是の如くすべし,受想** 復た次に大士、 菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は般若波羅蜜多を修行するに諸の如來應正 は皆等しき故之を符號山にて 略し以下その諸法のみ略出す

【10】諸法三界に繋せざるが故に三世に撰せず、これを以故に三世に撰せず、これを以故に三世に撰せず、これを以故へ。

(225)-

不共法,心無忘失法·恒住捨性、b 廻向の善根、 に集せる善根、 を嚴淨して已に集し當に集すべく現に集せる善根、 無性自性空、 集せる諸の善根 るに至り 毒を舞ふるが故に則ち佛を誇り佛教に隨はず法説に隨はずと爲す。菩薩種性の補特伽羅は彼 以て隨喜廻向の心を發起すればなり。 が如く初め盆 に廻向せんと。 等の已に集し當に集すべく現に集せる善根、 の天人等の獨覺菩提の所有る功徳、 に隨ひて修學すべ 無邊の功徳、 は (b) 靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修して已に集し當に集すべく現に集せる善根 四念住乃至八聖道支、 妙法輪を轉じて無量の衆を度し無餘依般涅槃に入り己つて乃ち法滅に至るまで其の中間 其の中間に於て山 切 的真如乃至不思議界、 是の如き 0 して後損するなり。 如來應正等覺及び弟子等の功德善根 是の如く說く所の隨喜廻向は有所得取相の分別を以て方便と答す、 若しは佛弟子の一 若しは諸の如來應正等覺の所有る戒蘊定蘊 からす。是の故に大徳、云何が菩薩乘に住せる諸の善男子善女人等は過去未來現 (0)內容乃至無性自性空、 切を合集稱量した現前に隨喜し一切有情と同じく共に阿耨多羅三 若しは般若波羅蜜多を修して已に集し當に集す 心空解脱門乃至無願解脫門、 して集せる諸 切の有漏無漏の善根、 故に此れは善隨喜廻向に非ず。 一切智乃至一切相智、b か苦聖諦乃至道經諦。 若しは諸の天龍樂又健達縛阿素洛揭路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人 因有り緣有り作意有り戲論有り般若波羅蜜多に應ぜす、 心真如乃至不思議界、 の善根若 若しは善男子善女人等の諸の功徳に於て發起せる隨喜 若しは有情を成熟して已に集し當に集す 謂ゆる彼の諸佛初發心より無上正等菩提 若しは諸の如來應正等覺已當現に記する諸 は靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修して (b) 無蘊解脫蘊解脫智見蘊及び一 一切陀羅尼門·一切三摩地門、 (b) 五眼·六神通、(b) 四靜慮乃至四 所以は何ん、 (0) 苦聖諦乃至道聖諦、 無色定、 べく現に 佛の十カ乃至十 有所得取相の分別を (b) 食に毒を雑ふる 八解脫乃至 集せる善現 切の 若 (C)四靜慮乃 (b) 內容乃 しは佛士 の所説 無數無 ~3 L 家 1 得 在 現

1 より無上正等菩提を得るに至り妙法輪を轉じて無量の かも大乗種性の者に告げて日はく、 樂すと雖も而 味を具すと雖も而かも毒薬を雜ふるに愚人の淺識なるは貪り取りて之を噉ひ初めは意に適ひ歡喜快 の故に 其の中に於て有所得取相の分別隨喜廻向を起こさば佛彼れに大義利有りと說きたまはず。 喜廻向無上正等菩提を起こさんと欲せば中に於て有所得取相の分別隨喜廻向を起 するは是れ大有所なるが故なり。 を以ての故に、 是の取相分別を以て方便して隨喜廻向無上正等菩提を發起せば諸佛世尊の皆許さざる所なりと。 於て相を取りて分別し及び所作の隨喜俱行諸の福業事、發心廻向無上菩提に於て相を取りて分別し、 行する時、應に是の如く觀ずべし。 るが故に、 弟子衆の功徳善根皆無所有不可得なるを以ての故に、 して能く隨喜俱行諸の福業事を發起する有りて無上正等菩提に廻向すと。 には是の如き等の善巧方便有りて相を取らずと雖も而かも所作成じ、 具壽善現答へて言はく、 如く 是の 發心廻向無上菩提性皆寂滅す。 發心廻向無上菩提も亦無所有不可得なるが故なり。 是の説を作すこと勿れ、 かも後 如き隨喜廻向の心は忘想分別の毒薬を難ふるが故なり。譬へば食有りて上 已に滅度せる諸佛世尊及び弟子等に於て相を取りて分別し無上正等菩提に隨喜廻向 類の補特伽羅 食消して衆の苦を備受し或は便ち死を致し若しは命を失ふに等しからんが如 大士、 善く受持せず 是の故に菩薩摩訶薩、諸佛及び弟子衆の功德善根に於て正しく隨 過去の諸佛及び弟子衆の功德善根性皆已に滅し、所作の隨喜諸 所以は何ん。 來れ善男子、 應に知るべし、 我れ若し彼の一 善く観察せず 汝過去末來現在の一切の如來正等覺に於て 甚深般若波羅蜜多の中、 菩薩摩訶薩の學する所の 衆を度し無餘依般涅槃に入り已つて乃ち法滅 所作の隨喜諸の福業事も亦た無所有不可得 切の如來應正等覺及び弟子衆の功德善根 善く誦讀せず 此の中菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修 般若波羅蜜多を離るるに 彌勒菩薩摩訶薩言はく、 切の如 義を了知せずして すべ 般若波羅蜜多の中 來應 からず。 妙の色香美 正等覺及び 何を以て 初發心 非ず 何

【七】 暮く觀察せず。 と具足せず、 く分別せず錯謬に陷る。 その義を取らず。 受くるも愚にして語言に著し、 天の福樂、香は名譽富貴勢力、 するをいひ、無常破壊に喰ふ。 【五】 食消して。食物の消化 毒は取相、に喩ふ。 書く受持せず。 善く師讀せず。受るこ 又は句文を忘失 般若を 法 0) 如

(223)

義を了知せず。

正中

佛の無上正等菩提を知りて佛の無上正等菩提の自性を遠離せば是の菩薩摩訶薩は是の如く離性般若 失法·恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智、(a)一切陀羅尼門·一切三摩地門、(a)菩薩摩訶薩行、 至八聖道支、())を解脱門乃至無願解脫門、(自五眼・六神通、(a)佛の十力乃至十八佛不共法、(a) 如乃至不思議界、《高書聖諦乃至道聖諦、《四靜慮乃至無四色定、《八解脫乃至十遍處,《四念住乃 施波羅蜜多を知りて靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の自性を遠離し、(a)内空乃至無性自性空、(a)員 蜜多を修行して能く性もて無上正等菩提に隨喜廻向するなり。 E

是の如く無上正等菩提に隨喜廻向せば想顕倒無く心顕倒無く見頭倒無し、若し菩薩摩訶薩取相を以 倒に堕す。若し菩薩摩訶薩、不取相を方便と爲して般若波羅蜜多を修行せば彼の一切の佛及び弟子 菩提に隨喜廻向するなり。 是れは爲れ善隨喜廻向に非す。 過去の佛及び弟子衆の功徳善根は る是の念を作せ、諸の如來應正等覺及び諸の弟子の皆已に滅度せるが如く功德菩根も亦復た是の如 因緣に由りて是の菩薩摩訶薩の隨喜廻向は想顕倒を離れ心顚倒を離れ見顕倒を離ると。 無相所取の境界に非ざるを以てなり。是の菩薩摩訶薩は相を取りて隨喜廻向無上正等菩提を發起せ て方便と爲し般若波羅蜜多を修行せば彼の一切の佛及び弟子の功德善根に於て相を取りて無上正等 し。我が發起する所の隨喜廻向無上正等菩提の心及び廻向する所の無上菩提、其の性も亦爾なりと。 て若し無上正等菩提に隨喜廻向する心を發起せんと欲せば應に是の如き隨喜廻向を作すべし。 の功徳善根に於て相を離れて無上正等菩提に隨喜廻向す。是れを名づけて善隨喜廻向と爲す。此の んと念するを以て、是の故に善隨喜廻向に非す。此の因緣に由りて想顚倒に墮し心顚倒に墮し見顚 復た次に大士、諸の菩薩摩訶薩、已に涅槃せる一切の如來應正等覺及び諸の弟子の功德善根に於 謂

及び弟子彙の功德菩根隨喜倶行福業事等に於て皆相を取らずして能く無上正等菩提に隨喜廻向する 駒の時頭勒菩薩摩訶薩、 具籌善現に問ふて言はく、大德、云何が菩薩摩訶薩、諸の如來應正等覺

有無二相を斥く。

3

六

6 知り、 知り、 く八解脱乃至十 正しく るるを知り、 不共法を離るるを知り、正しく無忘失法、恒住捨性を離るるを知り、 乃至無願解脱門を離るるを知り、 離るるを知り、 至諸受を離るるを知り、 を知り、 復た次に大士、 正しく布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多を離るるを知り、 正しく真如乃至不思議界を離るるを知り、 舌界乃至諸受を離るるを知り、 しく佛の無上正等菩提を離るるを知らば是の菩薩摩訶薩は修住する所の諸の 正しく一切陀羅尼門・ 遍處を難るるを知り、正 正しく地界乃至識界を離るるを知り、 眼處乃至意處を離るるを知り、 者し菩薩 正しく耳界乃至諸受を離るるを知り、正しく鼻界乃至諸受を離るるを知り、 摩訶薩修作する所の諸 正しく五眼・六神通を離るるを知り、 切三摩地門を離るるを知り、 正しく身界乃至諸受を離るるを知り、 しく四念住乃至八聖道支を離るるを知り、 正しく色處乃至法處を離るるを知り、 正しく四静慮乃至四無色定を離るるを知り、 の福業 正しく無明乃至老死愁歎苦愛惱を離るるを 事に於て正 正しく内室乃至無性自性室を離るるを 正しく菩薩 正しく しく色を離れ受想行識を E しく佛の十 切智乃至 正しく意界乃至諸受を 摩訶薩 E しく空 福業事 一行を聞るるを 正しく眼界乃 力乃至十八 切相智を 解脫門 難るる K 於て 正し 佛

の自性を遠離し、正しく廻向する所の無上正等菩提を知りて 善根の自性を遠離し、 りて聲聞獨覺菩薩の自性を遠離し、 く如來應正等覺の所有る功德を知りて如來應正等覺功德の自性を遠離し、 た次に大士、 国正しく般若波羅蜜多を知りて般若波羅蜜多の自性を遠離し、 福業事の自性を遠離し、 正しく菩提心を知りて菩提心の自性を遠離し、 正しく如來應正等覺を知りて如來應正等覺の自性を遠離し 正しく聲聞獨覺菩薩の修する所の善根を知りて聲聞獨覺菩薩 正しく修する所の隨喜俱行諸 廻向する所の の福業事を知りて修する所 正しく靜慮精進安 正しく廻向心を知り 正しく聲聞獨覺菩薩 無上正 等菩提 忍 の自性を遠 7 淨 廻 0 戒 向 を 隨 E 布 心 0 知

是の

如く

E

じく

知りて能く正しく無上正等菩提に隨喜廻向す。

【一】 現在編業の空離相を置き、正廻向を辯ず。 も、正廻向を辯ず。 く略田す以下之れに準ず。

(4)「正知般若波羅蜜多遠離般布施波羅蜜多自性…………浮戒右の文中「般若乃至布施波羅密多自性」 を入るれば他は皆同じき故之を符號(4)にて略し以下その諸法

天・浄天・少浄天・無量浄天・遍浄天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天の彼の說法を聞きて種うる所の養 男子善女人等、所説の法を聞きて無上正等覺心を發趣し種種の諸の菩薩行を勤修する、是の如き 根、若しは無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天の彼の說法を聞きて種うる所の善根、若しは善 法を聞きて種うる所の善根、若しは梵衆天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光浮 り。是の如く知ると雖も而かも能く無上正等菩提に隨喜廻向す。是の菩薩摩訶薩、若し能く是の 上為り無上無等無等等為り。隨喜の心も復た是の如く善根を隨喜するを以て諸の有情と皆悉く同じ 切合集し稱量して現前に發起するを餘の善根に比ぶるに最為の勝為り韓為り高為り妙為り微妙為り て種うる所の善根、若しは四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天の彼の けて無上の隨喜廻向と爲す。 せず。執著無きに由りて顚倒に堕せさればなり。是の如き菩薩摩訶薩の起す所の隨喜廻向心を名づ 善根に於ても亦た執著せず、廻向心に於て執著を生せず、廻向せらるる無上菩提に於ても亦た執著 倒無く見顕倒無し。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は隨喜心に於て執著を生ぜず、隨喜せらるる功德 **く 隨喜廻向して般若波羅蜜多を修行し、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修行せば想顕倒無く心顕** す可し。何を以ての故に、一切法の自性皆空にして室の中都て能所の隨喜廻向法無きを以ての故な く共に無上正等菩提に廻向せよ。是の如き時に於て若し正しく諸の能隨喜廻向の法の靈滅し 隨喜廻向するなり。復た是の時に於て若し正しく都て法有る無しと解了せば能く法に於て隨喜廻向 し、諸の所隨喜廻向の法の自性皆空なりと解了せば是の如く知ると雖も而かも能く無上正等菩提に

巻の第一百七十

初分隨喜廻向品第三十一之三

£

五

九

薩摩訶薩は皆應に是の如く隨喜廻向すべし。復た次に大士、 向心、 法を聞きて種うる所の善根、 有る功徳、若しは佛弟子及び諸の獨覺の彼の佛法に依りて起す所の善根、 如來應正等覺に於て初發心より無上正等菩提を得るに に非ずと了達し、 想與倒 起するを餘の菩根に比するに最爲り勝爲り尊爲り高爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上無 の心に於て亦復た隨喜廻向無上正等菩提の心想を起さずんば是の菩薩摩訶薩の起す所の隨喜廻向 念ぜば是の菩薩摩訶薩、 佛及び弟子衆の所有る功徳丼びに人天等の種うる所の善根、 院障害に 説法を聞きて種うる所の善根、 の隨喜廻向無上正等菩提の心に於て發起する所の隨喜廻向無上正等菩提 訶薩の 是の 弟子の功徳相を取り、 人天等の種うる所の善根に於て善根人天等の想を起さず、發起する所の隨喜廻向無上正 若し菩薩摩訶薩、 法性も亦た爾なり能廻向に非ずと了達し及び正しく 無く心願倒無く見顕倒 心も復 非ざるを知り、 如 起す所の隨喜廻向は想顕倒有り心顕倒有り見顕倒有るなり。 き隨喜の た是の 若し能く是の如き所説に依りて隨喜廻向する有らば是れ正しくして邪に非 心を以 如き隨喜善根を以て諸の有情と皆悉く同じく共に 念する所の佛及び弟子衆の所有る功徳に於て諸佛及び弟子衆の功徳想を起さ 正しく 云何して想顧倒心顚倒見顚倒に墮せざるやと。 7 人天等の種うる所の善根に於て彼の善根、 無し。 若しは諸 切の佛及び弟子衆の功徳善根を念じ正しく此の心の盡減 彼の法其の性も亦た然く所隨喜に非ざるを知り、 若し菩薩摩訶薩、 は利 0 龍 帝利 神樂又健達 大族婆羅門大族長者大族居士大族 縛阿 至り乃ち法滅に至るまで其の 念する所の佛及び弟子衆の所有る功徳に於て 素洛揭路 若し菩薩摩訶薩、 所廻向の法其の性も亦た爾なり 是の如き一 茶緊捺洛 復た次に大士、 人天等の相を取 具壽善現答へて言は 無上正等菩提に 切合集し 若しは諸 0 莫呼洛 心相を取 過去未來現在 0 又た正 中 彼の説法を聞 伽人 0 6 b 異生の 間に於ける所 等無等等為 廻向 非 ば是の菩薩 7 現前 人等 しく 離 發起する ず。 所廻 せんと 彼 能 切 0 0 K 大

○ を混ずるを以てとれを問へを混ずるを以てとれを問へ

□三】 彼の法。先に云ふ心縁事功徳なり。 □云】 所廻向の法。無上菩提を云ふ。その不可得なるが如し。 減の不可得なるが如し。 □三】 新學の隨喜の眞正無上廻向を逃ぶ。

方便と爲して諸の功徳を攝受し、 至八葉道支。行空解脫門乃至無願解脫門。行五眼・六神通。は佛の十カ乃至十八佛不共法。は無忘失 方便と爲し一切有情と皆悉く同じく共に無上正等菩提に廻向すべし。的內室乃至無性自性空。的真 如乃至不思議界。氏苦聖諦乃至道聖諦。氏四靜慮乃至四無色定。氏八解脫乃至十遍處。氏四念住乃如乃至不思議界。氏苦聖諦乃至道聖諦。氏四靜慮乃至四無色定。氏八解脫乃至十遍處。氏四念住乃 は①修集する所の布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に隨ひて應に無所得を以て方便と爲し無相を 如き法を聞くも心験疑せず恐れず怖かざるなり。復た次に憍尸迦、新に大乗を學する菩薩摩訶薩 ・恒住捨性。氏一切智乃至一切相智。氏一切陀羅尼門・一切三摩地門。氏菩薩摩訶薩行。氏無上 諸の功徳に於て多く深く信解し常に善友の攝受する所と爲らば是

諸の有結を盡くし、正智を具足し、心善く解脫し、巧みに法要を說く一切の如來應正等覺、 天・梵曾天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・温淨天・廣天・少廣天・ に於て各無數無量無邊の諸の有路を斷じ、戲論道を絕し、諸の重擔を棄て、 を以て一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべしと。 り高爲り妙爲り微妙たり上爲り無上無等無等等爲り。隨喜の心も復た是の如き隨喜俱行諸の福業事 の善根有り。是の如き一切合集し稱量して現前に發起するを餘の善根に比するに最爲り勝爲り尊爲 大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天の種うる所の善根、岩しは梵衆天・牧輔 る所の善根、 の弟子所成の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊及び起作する所の種種の功德丼びに是の處に於て種う 無量廣天・廣果天の種うる所の善根、若しは無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天等の 種うる 所 復た次に憍尸迦、新に大乘を學する菩薩摩訶薩は應に普ねく十方無數無量無邊世界の一一の世界 謂ゆる刹帝利大族、婆羅門大族、長者大族、居士大族等の種うる所の善根、 聚落の刺を摧じき、 若しは四 及び諸

の時彌勒菩薩摩訶薩、具壽善現に聞ふて言はく、大德、新に大乘を學する菩薩摩訶薩。若し諸

門・一切三摩地門を信解し、多く菩薩摩訶薩行を信解し、多く無上正等菩提を信解す。

ばなり。 を以 るが故に常に に佛薄伽焚を遠離せず諸佛の所に於て衆の善根を殖ゑしむればなり。復た善根に揖受せらるるに 不可得なるが故なり。亦た是の法を以て教誠教授し其れをして乃至菩薩の正性離生に入るを得て常 れをして聞き已つて諸の魔事に於て、心増減無からしむ。 (e)五眼·六神通。 @四靜慮乃至四無色定。@八解脫乃至十遍處。@四念住乃至八聖道支。@空解脫門乃至無願解脫 波羅蜜多を遠離せざらしむ。 門巧妙の文義を以て其の爲に般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多相應の法を辯説し、 切陀羅尼門· 憍尸迦、 て教誡教授して其れをして乃至「菩薩の正性難生に入るを得て常に般若靜慮精進安忍淨戒布施 憍尸迦、 是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて常に善友の攝受する所と爲る。是の如き善友は 菩薩摩訶薩の家に生じ乃ち無上正等菩提に至るまで諸の善根に於て常に遠離せされ (e)佛の十力乃至十八佛不共法。 新に大乘を學する菩薩摩訶薩、 切三摩地門。()菩薩摩訶薩行。()無上正等菩提。亦た爲に諸の惡厭事を辯說し其 (e)內室乃至無性自性空。 (e)無忘失法·恒住捨性。(e)一切智乃至一 若し能く是の如く無所得を以て方便と為し無相を (6)真如乃至不思議界。(6)苦聖諦乃至道 何を以ての故に、 諸の魔事業性は無所有 (e) 是の如き法 3 切相智。 企业部。 山 (e)

を本文の如く略出す以下之に **空乃至無性自性空** とすべき

右の文中「般者乃至布施浚羅右の文中「般者乃至布施浚羅を入るれは他は皆等しき故之を行るれば他は皆等しき故之を行るの。 般若……布施波羅蜜多」 得入菩薩正性職生常 菩薩の正性職生。 教授令其 の不遺離

法位なり。 心指減無からしむ。 知

な修習すれば、空の確立らるを修習すれば、空の確立らる 日台 無上道を 菩薩摩訶薩の 让佛

共法の無所有、 蜜多乃至般若波羅蜜多の無所有、 語乃至道聖諦の無所有、四靜慮乃至四無色定の無所有,八解脫乃至十遍處の無所有,四念住乃至八語乃至道聖諦の無所有,四靜慮乃至四無色定の無所有,八解脫乃至十遍處の無所有,四念住乃至八 無所有、受想行識の無所有、眼處 くと。 供行編業事を以て無上正等菩提に廻向す、是れを無顕倒に阿耨多羅三藐三菩提に隨喜廻向すと名づ 正等菩提の無所有を知る。大士、是の菩薩摩訶薩は既に如實に一切法の皆無所有なるを知り、 摩地門の無所有、 聖道支の無所有、 意界乃至諸受の無所有、地界乃至識界の無所有、 耳界乃至諸受の無所有、 無忘失法・恒住捨性の無所有、一切智乃至一切相智の無所有、 空解脱門乃至無願解脱門の無所有、五眼・六神通の無所有、佛の十为乃至十八佛不 預流果乃至阿羅漢果の無所有、獨覺菩提の無所有、菩薩摩訶薩行の無所有、 鼻界乃至諸受の無所有、 內室乃至無性自性室の無所有、真如乃至不思議界の無所有、 乃至意處の無所有、 無明乃至老死愁數苦憂惱の無所有、 色處乃至法處の無所有。 舌界乃至諸受の無所有、 一切陀羅尼門。 眼界乃至諸受の無所 身界乃至諸受の無所 布施波羅

所の一切の善根を以て無上正等菩提に廻向するや。大徳、新に大乘を學する菩薩摩訶薩は云何し 神力加被を承け天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、新に大乘を學する菩薩摩訶薩、 か隨喜俱行諸の福業事を攝受して無上正等菩提に廻向するやと。時に具籌善現、 かば其の心將に驚疑し 布施波羅蜜多を滌受す。山內空乃至無性自性空。山眞如乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。山四 安忍淨戒布施波羅蜜多を修するには無所得を以て方便と爲し無相を方便と爲して靜慮精進安忍淨戒 多を修するには無所得を以て方便と爲し無相を方便と爲して般若波羅蜜多を擴受す、若し靜慮精進 **时息乃至图無色定。d)八解脫乃至十遍處。d)四念住乃至八聖道支。d)空解脫門乃至無願解脫門。d)** 爾の時天帝釋、具籌善現に白して言さく、大德、新に大乘を學する菩薩摩訶薩、是の如き法を聞 恐怖する無きや。大徳、新に大栗を學する菩薩摩訶薩は云何してか修集 は若し般若波羅 彌勒菩薩摩訶薩

の如き略出す以下之に準ず。 虚無所有」を二分すべき本文 を表

るが故 空 て少分信敬愛樂すると 0 義を宣 以なり 一説す ~ か 5 うた。ハ と有 何を h 以 雖 B 7 0 故 かも彼れ聞き已つて事い r 大德、 新 K で皆忘失し驚疑恐怪 る諸 0 等は是の して 如

薩及び 聖道 清 此 住捨性。 曾て無量 至不思議 ~ 0 廣く為に 0) 法 善 し。 た次に を聞 曾 部 知 0 (c) (c) 界。 (c) 大德、 潜 空 若 力 無 K 攝受 ば皆能く 量 切 切 解 (c) 佛を供養 知 智乃 は不 0) 法 脱 苦 譤 門乃 諸 の自 せら 华 K 至 银 佛を供養 攝受せらる 受持 相空 乃至 るるる者 轉 至 は 切相 宿善根を 0 不 退轉 0 願 道 終 義を辯説すべ 解脫 聖 し宿善根 智。 0 に廢忘 其 る 摩 0 門。 者の 殖 0 菩薩摩訶薩 (c) 訶薩 る久 前 (c) (c) 切陀 せず 四靜 或は 前 を殖る人 K 五眼 一對し L に對 心驚疑 し。 く大願 羅尼門 曾 慮乃至四 六神通。 廣く爲 7 L 或 無量 しく大願 何 廣 は く為 を以て 曾て せず を發し諸 • 0 無 K (c) 佛 內室乃至 切三 色定。 恐 潜 に般若靜慮 無量の諸佛を供養 を發し 佛を供 の故に、 82 0 一摩地門。 す 0 十力乃至 情意 善 (c) 知識 無性 諸 れず毀謗 八 大德、 解 精進 の善知識 に攝受 自性空 宿善根 若しは不退轉の 脫 十八佛 乃至十 安忍淨戒布 是 世 L さる 宿善 K 0 世 を を 不共法。 攝 辯 殖 如き不退轉 らるる者の 遍 が故 處。 説すべ 根を 受 多 久 施波 世 へしく 殖る久 5 菩薩摩 な (c) (c) 3 119 羅 無忘失法 念住乃 其 ろ 0 菩薩 0 河薩 願 多 を發 本 前 眞 若 摩 K 或 至 如 は 恒 乃至

所の す 0 心 無上正 П か 心 は 0 なる。 變す。 5 ·L 時 ず。 具 理 K 復 提 於て隨喜 自性 た 0 K 現、 所 廻 何 通向すべ 0 緣 故に。 勒菩薩 廻 D 向 以 事 有 し。 及 7 所緣 大士、 るべ U K 諸 謂 白 から 善 L (F) 10 事 る 若し菩薩摩訶薩、 根 2 す 用 及 言さく、 8 び諸 た S 二心 亦 る 所 善根 皆 苦薩摩 俱 心 0 時 10 0 0 隨喜 爲 如 K K < 訶薩 般若波羅蜜多を修行 起る無きを以て 無上 は應 廻 向するなり。 E L 一等菩提 離邊す。 K 是 0 0 に随 如 故 此 き 喜 此 す Ko 0 隨 る 0 心も 俱行 時 驷 用 ふる 何等 能 亦た隨喜 す 諸 と説 所 3 力 0 如實 是 0 < 北 心 K は L 用 0 ふる 色 廻 を 是

みをを空右 以符入一の下號るの文 の文辯 出(c) れ 所 中 說 不 すことといば他に皆 にばい 內退 以下 空乃至 內空乃至 皆同じ 示 するい その す 学 所 諸故諸は性性 **随**……

は念念に盡減變化し、 以下 する 路線事 和雜合義 なし。 46 我を釋す。 化し離る を 那 明 去所 しの 力 滅 EK て心

とす C 8 相分別なり K 1 K L 0.0 8 心なく 俱時 0 なき L B 等しく過 和に合む 日に 廻向 il を 相空 世 7 IE 滅 ず。 の理に 廻 L 向 隨 向入

す。若し菩薩有りて久しく六波羅蜜多を修行せず未だ曾て無量の諸佛を供養せず宿善根を殖ゑず 得に非ざるを方便と爲し染に非ず淨に非ざるを方便と爲し生に非ず滅に非ざるを方便と爲すが故に 向は二に非ず不二に非ざるを以て方便と爲し相に非ず無相に非ざるを方便と爲し有所得に非ず無所 び一切法に於て皆相を取らずして能く隨喜を發起し阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の如き隨喜廻 正等菩提に廻向するやと。 た是の如くんば 起し無上正等菩提に廻向す。是の如くして起す所の隨喜廻向は相を取るを以ての故に猶ほ顚倒 だ久しく大願を發さず善友の攝受する所と爲らず未だ一切法に於て善く自相空を學せずんば是の 所緣の事に於て乃至無上正等菩提に至るまで能く相を取らす。 自相空の義を學せば是の菩薩摩訶薩、能く所緣の事、 に
曾て無量の
諸佛を供養し
宿善根を
殖名久しく
大願を
發し諸の
善友の
攝受する所と
爲り善く
諸 の菩薩は所縁の事、 何等か是れ無上正等菩提にして彼の菩薩摩訶薩、 何等か是れ 隨喜廻向、 彌勒菩薩言はく、 所緣、 諸の善根等、 何等か是れ事、 大德、 無上菩提及び一切法に於て猶ほ其の相を取りて隨喜を 若し菩薩摩訶薩、久しく六波羅蜜多を修行し己 何等か是れ隨喜廻向の心、何等か是れ諸の善根 隨喜廻向の心、 是の如きの事を縁じて隨喜の心を起して無上 相を取らざるが故に非顕 踏の善根等、無上正等菩提及 倒 K 攝 に類 法との 未 受

多を宣説すべからす。山内空乃至無性自性空。山眞如乃至不思議界。 愿乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。 復た次に大徳、⑪彼の新に大乘を學する諸の菩薩等の爲に及び其の前に於て般若波羅蜜多を宣說 一切三摩地門。彼の新に大乘を學する諸の菩薩等の爲に及び其の前に於て一切法の自相 心佛の十力乃至十八佛不共法。 心四念住乃至八聖道支。心空解脱門乃至無願 心無忘失法・恒住捨性。 (1)一切智乃至一切相智。 **心苦聖諦乃至道聖諦。** 解脫門。 (b) (b) 四靜 (b) 切 五

り、兼事等は何ぞと問ふなり。

答へ廻向を明にす。 格へ廻向を明にす。 なりと

七】不取相の方便を説明す。

(b)「不應爲彼新學大樂諸菩薩等………及於其前定說靜慮等,此一次下に出す諸法室多」の所に次下に出す諸法を持載的にて略し以下その諸との政略出す。

是の如く、佛の十力乃至十八佛不共法も亦た是の如く、無忘失法恒住捨性も亦た是の如く、 苦集滅道聖諦も亦た是の如く、川靜慮乃至四無色定も亦た是の如く、八解脫乃至十遍處も亦た是の 如く、四念性乃至八聖道支も亦た是の如く、空無相無願解脫門も亦た是の如く、五眼六神通も亦た 波羅波多も亦た是の如く。内室乃至無性自性室も亦た是の如く、真如乃至不思議界も亦た是の如く、 法處も亦た是の如く、眼界乃至諸受も亦た是の如く、耳界乃至諸受も亦た是の如く、鼻界乃至諸受 佛の十力乃至十八佛不共法も亦た是の如く、無忘失法恒住捨性も亦た是の如く、一切智乃至(3) た是の如く、地乃至識界も亦た是の如く、無明乃至老死愁歎苦憂惱も亦た是の如く、布施乃至般若 も亦た是の如く、舌界乃至諸受も亦た是の如く、身界乃至諸受も亦た是の如く、意界乃至諸受も亦 く、無上正等菩提も亦た是の如く、色乃至識も亦た是の如く、眼乃至意處も亦た是の如く、色乃至 大士、岩し所縁の事、實に所有無きが如く、隋喜廻向の心も亦た是の如く、籍の善根等も亦た是の如 智も亦た是の如く、一切陀羅尼門一切三摩地門も亦た是の如く、諸の陰間獨覺大乘も亦た是の如し、 住乃至八聖道支も亦た是の如く、空無相無願解脱門も亦た是の如く、五眼六神通も亦た是の如く、 諦も亦た是の如く、四靜慮乃至四無色定も亦た是の如く、八解脫乃至十遍處も亦た是の如く、四念 た是の如く、内室乃至無性自性室も亦た是の如く、真如乃至不思議界も亦た是の如く、苦乃至道聖 地乃至識界も亦た是の如く、無明乃至老死愁歎苦憂惱も亦た是の如く、布施乃至般若波羅蜜多も亦(3) く、舌界乃至諸受も亦た是の如く、身界乃至諮受も亦た是の如く、意界乃至諮受も亦た是の如く 如く、眼界乃至諸受も亦た是の如く、耳界乃至諸受も亦た是の如く、鼻界乃至諸受も亦た是の如 提も亦た是の如く、色乃至識も亦た是の如く、眼乃至意應も亦た是の如く、色乃至法處も亦た是の 縁の事實に所有無きが如く、隨喜廻向心も亦た是の如く、諸善根等も亦た是の如く、 無上正等菩 切相智も亦た是の如く、一切陀羅尼門 一切三摩地門も亦た是の如く、諸の聲聞獨覺大乘も亦

す所の暗喜廻向は餘の起す所の諸の福業事よりも最爲り勝爲り尊爲り高爲り妙爲り微妙 る一切の善根及び餘の有情の諸の如來應正等覺に於ける聲聞菩薩の諸の弟子衆、若しは現在世若し は涅槃後種うる所の善根、 の心を起すは是の如き所縁の事有りて、 無上無等無等等為り。 く諸の脳業事を陥喜俱行するを以て一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向すなり。 願はくは我れ此の善根を以て一切有情と同じく共に無上菩提を引發せんととを。 來果を得不還果を得阿羅漢果を得獨覺菩提を得菩薩の正性離生に入るを得る是の如き所有 意に於て云何、 是の諸の善根一切合集して現前に隨喜し、既に隨喜し已つて復た是の 彌勒大士、彼の菩薩摩訶薩の是の如きの事を縁じて隨喜列 彼の菩薩摩訶薩の取る所の相の如しと爲すや不やと。 是の如くして起 たり上篇り 南

巻の第一百六十九

初 分隨 喜廻向品第三十一之二

根を一切合集して現前に陥高して無上正等菩提に廻向するなり。是の如くして起す所の隨喜 諸佛の已に涅槃せる者を緣じ、初發心より乃ち法滅に至るまでの所有る善根及び弟子等の所有る善 具壽善現言はく、大士、若し所総の事無くして取る所の相の如きなりとは、 隨著廻向の心を起すは實に是の如き所緣の事無くして彼の菩薩摩訶薩の取る所の相の如きなりと。 は是れ想顧倒心顧倒見顧倒なり。此の無相に於て其の相を取るも亦た是の如くなるべし。大士、 將に顚倒に非さるか。無常に於て常と謂ふが如きは是れ、想顚倒心顚倒見顚倒、 廻向の心は相を取るを以て方便と爲し普ねく十方無數無量無邊世界の一一の世界の無數無量 は是れ想顧倒心顧倒見顧倒、 時に彌 勒菩薩摩訶薩、 上座善現に白して言さく、 無我に於て我と謂ふは是れ想頭倒心頭倒見頭倒、 大徳、彼の菩薩摩訶薩の是の如きの事を終じて 彼の菩薩摩訶薩の 不淨に於て淨と謂 苦に於て樂と謂 廻向 所 2 8

來隨喜

命ん。即ち隨喜念佛は顕 陷るべしい 倒倒

見道に見を動じ、厚地に心となり身見幾見邪見等となる。 想以到等。題より心となり見 書法も功徳も聴喜もなかるべく菩提も廻向も無所有にしてく菩提も廻向も無所有にしてその如 想とを減す。 【三】 想顛倒等。顧倒の三種なる如く無相に取相するも類 我帯の四倒を撃ぐる 無常に於て云十。 その順倒

善法も功徳

慮乃至四 諸の異 徳に するを以 事を暗喜廻 耨多雞三 りも最高り 計 於 0 の異 て諸 時 生 7 無色定、 一聲聞獨覺の 貌 彌 、生の 向 勝爲り尊爲り高爲り妙爲なり微妙爲り上 0 一菩提に 自ら調伏せんが為 初 せんに、 福 苦 業事を暗 福業事を修するは但だ己れをして自在安樂の聲聞獨覺たらし 四聖諦 諸の 廻向 是の菩薩摩訶薩の所有る隨喜廻向の功徳は彼の異生聲聞 福業事 せん。 喜俱行 八解脫乃至十 上座善現 の所謂 無所得 し。 自ら寂靜なら 若 に白して言さく、 を以て方便と偽すが故に。 し菩薩 遍處、 施性戒性修 摩訶薩、 んが為 空無相無願解脫門、 爲 性 大德、 り無上 此 の三福業事若 自ら涅槃せん 0 福 業事 無等無等等為 若し菩薩摩訶薩、 若し餘の を以 しは四念住乃至八聖道支、 四無礙解、 7 が爲なり。 1)0 有情諸 切有情と同 8 h 獨覺の諸 六神通等の諸 何 が爲 を以て 菩薩摩訶薩 0 切有情の 福 17 C

h

喜廻向

の功徳は普ねく一

切有情の調伏寂靜般涅槃の爲の故なりと。

中間 無上 は諸 の弟子の に於ける所有る六波羅蜜多相應 IF: 0 時 等菩提を得るに至り、 0 大捨、 如 ,具壽善現、 來 所有る施性戒性修性 無量無邊 應 E 等覺 世界の 彌勒菩薩摩訶薩に白して言さく、 0 所有る戒蘊 無邊の佛法及び諸 是の如く の三 0 世界の無數無量無邊の諸佛の已に涅槃せる者を緣じ、 定蘊 一嗣業事 の善根及び餘の無數無量無邊の佛法相應 展轉して 悬蘊解於蘊 佛所說 若しは彼の聲聞弟子の所有る 無餘依般涅槃に入りて後乃ち法滅に 0 正法、 が比 大士、 智 若しは彼の法に依りて精勤修學して 見蘊及び 是の菩薩摩訶薩 切有情を利樂せ 學無學無漏の善根、 の善根、 0 隨 喜 廻向 至るまで、 んが爲 若しは彼の異 初發 0 心 心より は普 0 預流 大慈 其の 若 12

大般若に依れば大下の四念住 等も此に列せらるべし。 語正業正命に就て自己を調ふ るなり。 向の當然行はる」は無所得に「此の廻」という。 自作隨喜の善を廻して 「三」一般に最も 住すればなり。 戒、定の三福業事を舉ぐるも、 不取相の

事 <

は SAJ 功

所有る

共

【七】諸佛の扁纏を隨喜し廻 をかと問ふ。彌勒は二故を以 で否定す。即ち一は過去已滅 無餘、二は諸佛功德は三界戲 無能を超越するが故なり。 一備の始終にして佛身 向せんに過去事、所取相の如人工、計構の顧徳を隨喜し廻見正思惟正方便に依て废す。見正思惟正方便に依て废す。智慧、正人工、自ら涅槃す。智慧、正人工、自ら演辞す。修禪、正人工、 0 Œ Œ

【10】 學無學。 不共の諸善。 不共の諸善。 漏盡せるを無學とす。 門。此 乘得 八間佛菩薩共 心 より 7

の功徳。

Ð. E

分隨喜題向品第三十一之一

0 0

K

業事

1

0

嗣 [TQ

業

靜

福業事を修 故 福

0

所有

的 苦聖諦乃至道聖諦。 會天。大梵天。光天。少光天。無量光天。極光淨天、淨天、少淨天。無量淨天、逼淨天。廣天。少廣天。無量廣 天・廣果天。山無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天。山空無邊處天・識無邊處天・無所有處天・非 故に便ち刹帝利大族婆羅門大族長者大族居士大族有りて世間に出現す。 洛黨を損滅して天衆を増益す。 忘失法恒住捨性を修學する有り、 衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天有りて 世間 薩摩訶薩有りて無上正等菩提を證得するに由りて則ち世間一切の地獄傍生鬼界を斷じ亦た能く阿素 薩有りて是の如きの事を修學し安住するに由るが故に則便ち能く無上正等菩提を證得する有り。 切智乃至 切の大乗有りて 六神通を修學する有り、 切相智。山一切陀羅尼門・一 山布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。內空山乃至無性自性空。山真如乃至不思議 解脫門。 世間 山四靜慮乃至四無色定。由八解脫乃至十遍處。由四念住乃至八聖道支。 (h) 五眼·六神通。 に出現すと。 憍尸迦、 亦復た能く佛の 亦復た能 苦薩摩訶薩 山佛の十力乃至十八佛不共法。 < 切三摩地門。此れに由りて復た一切の聲聞乘一切の獨覺 切陀羅尼門 十カ乃至十八佛不共法を修學する有り、 有りて阿耨多羅三 切三摩地門を修學する有り、 に出現 一
范三菩提を證得するに由 山此れに由りて復た四 的無忘失法·恒住捨性。山 す。 山梵衆天·梵輔天·梵 亦た能く (h) 空 大王 界 3 から 訶

A STATE OF

(也)「由此復有四大王衆天乃至他化自在天出現世間」 相次を入るれば他は皆同じき 諸法を入るれば他は皆同じき は之を山の符號にて略し以下

西四九

四靜慮乃至四無色定を修學する有り、亦復た能く八解脫乃至十遍慮を修學する有り、亦復た能く四 く内空乃至無性自性空に安住する有り、亦復た能く眞如乃至不思議界に安住する有り、亦復た能く 乃至四無色定を修學すること有るとと無く、亦た能く八解脫乃至十遍處を修學すること有ること無 三菩提の心を發す者無くんば則ち布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修學すること有る こと 無 念住乃至八聖道支を修學する有り、亦復た能く空解脫門乃至無願解脫門を修學する有り、亦復た能 羅三藐三菩提の心を發すに由るが故に則便ち能く布施乃至般若波維蜜多を修學する有り、 ば則ち能く菩薩聲聞獨覚世間勝事に安立すること有ること無し。憍尸迦、菩薩摩訶薩有りて阿耨多 ち能く無上正等菩提を證得すること有ること無し。若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證得する無くん と無く、亦た能く一切智乃至一切相智を修學すること有ること無く、亦た能く一切陀羅尼門一切 すること有ること無し、亦た能く苦聖諦乃至道聖諦に安住すること有ること無く、亦た能 彼の菩薩摩訶薩に由るが故に出生するを得ればなり。所以は何ん、若し菩薩摩訶摩の阿耨多羅三 護助し速に無上正等菩提に趣かしむ。何を以ての故に、憍尸迦、一切の如來聲聞獨覺世間の勝事は 三摩地門を修學すること有ること無し。若し菩薩摩訶薩、是の如き諸事を修學安住する無くんば則 力乃至十八佛不共法を修學すること有ること無く、亦た能く無忘失法恒住捨性を修學すること有る を修學すること有ること無く、亦た能く五眼六神遊を修學すること有ること無く、亦た能く佛の十 して彼の菩薩摩訶薩を勸勵し速に無上正等菩提に趣かしめ、法施財施を以て彼の菩薩摩訶薩を攝受 の作す應き所の事を作せり。一切如來の諸の聖弟子は諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に方便 亦た能く内空乃至無性自性空に安住すること有ること無く、亦た能く真如乃至不思議界に安住 亦た能く四念住乃至八聖道支を修學すること有るとと無く、亦た能く空解脱門乃至無願解脱門 復た能く彼の菩薩摩訶薩を攝受し、亦た能く彼の菩薩摩訶薩を護助せり。汝已に佛の 亦復た能

ましむべきなり。 集生利益を事とし菩提心を進 ましむべきなり。

切世界の諸の有情類を教化して……(戊) 此の十方各院伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十

彼の 薩無上正等菩提に轉近せば、是の如く是の如く應に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を以て速に疾 菩薩摩訶薩を教誡教授すべし。 應に布施波羅蜜多を以て速に疾く彼の菩薩摩訶薩を教誡教授すべし。 佛に白して言さく、 (f)世尊、 如如に菩薩摩訶薩無上正等菩提に轉近せば、 如如に菩薩 是の 如

色定。g八解脫乃至十遍處。 具醫藥を以て其の須つ所に隨ひて種種の資具を彼の菩薩摩訶薩に供養し構受すべし。世尊、 十力乃至十八佛不共法。ff無忘失法·恒住捨性。ff一切智乃至一切相智。 以佛の十カ乃至十八佛不共法。 の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。何を以ての故に、図世母、彼の菩薩摩訶薩は要す此の布施淨戒 男子善女人等能く是の如き 具を攝受せらるるに由るが故に速に無上正等菩提を證ずればなりと。 ればなり。 安忍精進靜慮般若波羅蜜多を以て教誡教授し攝受せらるるに由るが故に、速に無上正等菩提を證 八解脫仍至十遍處。任四念住乃至八聖道支。任空解脫門乃至無願解脫門。 的內容乃至無性自性空。f)真如乃至不思議界。f)苦聖諦乃至道聖諦。f)四靜慮乃至四無色定。 (g)內空乃至無性自性空。(g)真如乃至不思議界。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無 如如に菩薩摩訶薩無上正等菩提に轉近せば、是の如く是の如く、應に上妙の衣服飲食臥 彼の菩薩摩訶薩は復た此の衣服飲食臥具醫藥を以て其の須つ所に隨ひて種種の資 **図四念住乃至八聖道支。** 法施財施を以て彼の菩薩摩訶薩に供養し攝受せば是の善男子善女人等 g無忘失法恒住捨性。g一切智乃至 g空解脫門乃至無願解脫門。 切相智。 (f) 一切陀羅尼門·一切三摩 f 五眼·六神通。 (g) 切陀羅尼門一切 g五服·六衲通。 (f) 佛 (f) 0

の時具壽善現、

天帝釋に告げて言はく、

善哉善哉、

憍尸迦、汝乃ち能く彼

の菩薩摩

を入るれば他は皆同じき故之を入るれば他は皆同じき故之な外「布施乃至般若波羅 教授彼菩薩摩訶薩」 法皆如なるが故に如如といふ。平等なるを如といふ、彼此の不等なるを如といふ、彼此の理體不二 法のみ出するのとす。 を行號はにて略し以下その諸 無上正等菩提如是如是應以布」「世尊如如菩薩摩訶薩剛近 絶對の真理の意。 施波羅蜜多……

右も何の場合に準じ以下略す。

(208)

故に、大菩提に於て退轉せざるが故なり。速に大菩提に趣く菩薩摩訶薩は要す甚だしく所說の法を 逆に無上正等菩提に趣かしめ三乘を説いて一切を救度せしめ、復た般若波羅蜜多の無量の法門巧妙 假藉するが故に、無上覺に於て速趣を求むるが故に、生死苦の一切有情を觀じ大悲心を運らすこと 地に住せる菩薩摩訶薩は逃だしくは所説の法を假籍せさるが故に、無上覺に於て定めて趣向するが 橋尸迦、後の善男子善女人等の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し何を以ての故に、憍尸迦、不退轉 の文義を以て其の爲に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れをして解し易からしめば、

をして皆無上正等菩提に於て……(戊 復た次に憍尸迦、贍部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲恵勝身洲の諸の有情類 極めて痛切なるが故なり。

貸洲の諸の有情類をして……(戊) 復た次に橋尸迦、贍部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲西牛

身洲西牛貨洲北倶盧洲の諸の有情類をして……(戊) 復た次に憍尸恐、贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝

復た次に憍尸迦、小千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等中千界の諸の有情類をして… 復た次に四大洲の諸の有情類を置いて著し善男子善女人等小千界の諸の有情類をして: :(戊)

教化して皆無上正等菩提に於て不退轉を得せしめ……(戊) 復た次に憍尸迦、中千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等三千大千世界の諸の有情類を

き諸の有情類を教化して……(戊 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男善女人等十方各院伽沙等の如

貨洲の諸の有情類をして……(丁) 復た次に憍尸迦、 贍部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲西牛

巻の第一百六十八

初分校量功德品第三十之六十六

身洲西牛貨洲北倶盧洲の諸の有情類をして……(丁) 復た次に憍尸迦、 贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等膽部洲東勝

復た次に憍尸迦、 四大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等小千界の諸の有情類をして…

復た次に憍尸迦、 復た次に憍尸迦、 中千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等三千大千世界の諸の有情類を 小千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等中千界の諸の有情類をして…

如き世界の諸の有情類を教化して……(丁) 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方各殑伽沙等の 教化して皆無上正等菩提に趣かしめ。

…...

切世界の諸の有情類を教化して……(丁) 復た次に憍尸迦,此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方

轉を得せしめ、復た般若波羅蜜多の無量の法門巧妙の文義を以て其の爲に廣說し宣示開演し顯了し 解釋し義趣を分別し其れをして解し易からしめんに、善男子善女人等有り、中に於て一りを勧めて (戊)復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等贍部洲の諸の有情類をして皆無上正等菩提に於て不退

(丁) 前巻と同意。

右も(丁)の場合に季じて略無上正等菩提得不退轉……… 観生死苦一切有情運大悲心無難が別談す情選者於

に於て不退轉を得 一

た次に憍尸迦、 **贈部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情**

俱盧洲の諸の有情類皆……(**丙** 復た次に憍尸迦、 贈部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置い て岩し贍部洲 東勝身洲西

た次に憍尸迦、 四大洲の諸の有情類を置いて若し小千界の諸 の有情類 皆 丙

た次に憍尸 沙迦、 小千界の諸の有情類を置いて若し中千 し此の三千大千世界の諸の有情類 界の諸の有情類 皆 丙

た次に憍尸迦、

中千界の諸の有情類を置いて若

皆……

(205)

る諸の有情類皆…… た次に憍尸迦、 此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し十方各院伽沙等の如き世界に於け 丙

る諸の有情類皆…… た次に憍尸迦、 一两 此の十方各院伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し十方一 切世界に於け

功徳は甚だ前よりも多し。 題了し解釋し義趣を分別し其れをして解し易からしめば、 て不退轉を得せしめ、復た般若波羅蜜多の無量 を分別し其れをして解し易からしめんに、 丁)復た次に憍尸迦、 復た般若波羅蜜多の 無量の法門巧妙の文義を以て其の爲に廣說し宣 若し善男子善女人等、 善男子善女人等有り、 一の法門巧妙の文義を以て其の爲に廣説し宣 膽部洲の諸の有情類をして皆無上正等菩提 憍尸迦、 有情を教 後の善男子善女人等の獲る所 示開演し て無上正等菩提 題了し解釋 一示開演 に趣 し義 IC 力

をして皆無上正等菩提に趣かしめ た次に情戸迦、 贍部洲 の諸の有情類を置 V て若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲の 諸 の有情類

即分校量功德品第三十之六十五

多無咸法門………後善男子無上正等菩提復以般若波羅蜜女人等教膽部洲諸有情類皆趣 右も 右も(丙)の場合に準じて略善女人等所獲功徳甚多於前し

玉 四

五

復た次に憍尸迦、 瞻部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸 0 有情

類皆……(乙 俱盧洲の諸の有情類皆……(乙) 復た次に憍尸迦、 贈部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し贈部洲東勝身洲西牛貨洲北

復た次に憍尸迦、 四大洲の諸の有情類を置いて若し小千界の諸の有情類皆

復た次に憍尸迦、 小千界の諸の有情類を置いて若し中千界の諸の有情類皆

復た次に憍尸迦、 復た次に憍尸迦、 此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し十方各死伽沙等の如き世界に於け 中千界の諸の有情類を置いて若し此の三千大千世界の諸の有情類皆……(乙)

る諸の有情類皆……(乙) 復た次に憍尸迦、 此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し十方一 切世界に於け

る諸の有情類皆……(乙)

若し能く是の如き般若波羅蜜多を修學せば則ち能く一切智法を證得す。若し能く一切智法を證得せ 説の法門に隨ひて正しく信解すべし、若し正しく信解せば則ち能く是の如き般若波羅蜜多を修學す。 釋し義趣を分別し其れをして解し易からしめて復た是の言を作さん、來れ善男子、汝當に此の 女人等有りて此の般若波羅蜜多に於て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣說し宣示開演し顯了し解 ば則ち般若波羅蜜多の增益圓滿を修す。若し般若波羅蜜多の增益圓滿を修せば便ち無上正等菩提を 般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し、此の般若波羅蜜多所 (内)復た次に憍尸迦、若し贍部洲の諸の有情類皆無上正等菩提に於て不退轉を得んに、 是の善男子善女人等の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。 善男子善 甚深

復た次に憍尸迦、

魔部洲の諸の有情類を置いて若し贍部洲東勝身洲の諸の有情類皆無上正等菩提

(内)「復失憍尸迦若膽部洲諸有情類皆於無上正等者提心得不退轉………是善男子書女不退轉……是善男子書女人等所獲功德甚多於前」方も(乙)の場合に準じて略

復た次に憍尸迦、 四 大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等小千界の諸の有情類をして…

復た次に憍尸迦、 小千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 中千界の諸の有情類をして

教化して皆菩薩の不退轉地に住せしめば……(甲) 復た次に憍尸迦、 中千界の諸の有類情を置いて若し善男子善女人等三千大千世界の諸の

如き世界の諸の有情類を教化して……(甲 復た次に憍尸迦、 此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方各院伽沙等

切世界の諸の有情類を教化して……(甲 復た次に憍尸迦、此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方

此 の善男子善女人等の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。 多の増益圓滿を修す。 般若波羅蜜多を修學せば則ち能く一切智法を證得す。若し能く一切智法を證得せば則ち般若波羅蜜 て正しく信解すべし。若し正しく信解せば能く是の如き般若波羅蜜多を修學す。 に於て至心に聽聞し受持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し此の般若波羅蜜多所說 の般者波羅蜜多に於て無量門巧妙の文義を以て他の為に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分 一乙)復た次に憍尸迦、若し贍部洲の諸の有情類皆無上正等菩提に趣かんに、善男子善女人等有りて 其れをし解して易からしめて復た是の言を作さん、來れ善男子、汝當に此の甚深般若波羅蜜多 若し般若波羅蜜多の增益圓滿を修せば便ち無上正等菩提を證すと。憍尸迦、是 若し能く是の如 0 法門に隨 当

に趣く……(乙) 復た次に憍尸迦、 膽部洲の諸の有情類を置いて若し瞻部洲東勝身洲の諸の有情類皆無上正

初分校量功德品第三十之六十五

略す。 格も符號 右も符號(甲)の場合の如く善女人等所獲功德甚多於前」 男子喜女人等……是善男子有情類皆趣無上正等菩提有善

-(203)

五四三

卷の第一百六十七

初分校量功德品第三十之六十五

に聽聞し受持讀誦し善く通利せしめ理の如 羅蜜多に於て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れを 善男子善女人等の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。 増益圓滿を修す。若し般若波羅蜜多の増益圓滿を修せば便ち無上正等菩提を證すと。憍尸迦、 波羅蜜多を修學せば則ち能 釋言さく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、憍尸迦、 しめば、 信解すべし。若し正しく信解せば則ち能く是の如き般若波羅蜜多を修學す。若し能 して解し易からしめて復た是の言を作さん、來れ善男子、汝當に此の甚深般若波羅蜜多に於て至心 音薩摩訶薩は皆是の般若波羅蜜多の流出せし所なるが故なり。 甲)復た次に憍尸迦、 意に於て云何、 是の善男子善女人等の此の因縁に由りて福を得ること多きや不やと。 若し善男子善女人等、 く一切智法を證得す。 く思惟 贈部洲の諸の有情類をして皆菩薩の 若し能く一切智法を證得せば則ち般若波羅 ١ 此の般若波羅蜜多所説の法門に隨ひて正 何を以ての故に、 若し善男子善女人等、此の般若波 憍尸迦、 切の不退轉地 く是の如き般若 不退轉地 に住 蜜多の しく 是の

をして皆菩薩の不退轉地に住せしめば……(甲 復た次に憍尸迦、 贈部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贈 部洲東勝身洲の諸の有情

貨洲の諸の有情類をして…… 復た次に憍尸迦、 贈部洲東勝身洲の諸の有情類を置 甲 いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲 西

身洲西牛貨洲北倶盧洲の諸の有情類をして……(甲) 贍部洲東勝身洲西牛貨洲 の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贈部洲東勝

(甲)「復次幡尸迦若善男子善女人教鵬部洲諸有情類皆住菩女人教鵬部洲諸有情類皆住菩薩不退轉地於意云何…………」皆是般若波羅蜜多所流出故」古も前卷(已)の場合に準じて略す。

を教へて皆無上正等覺心を發さしめば……(己) 復た次に憍尸迦、贍部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲の諸の有情類

貨洲の諸の有情類を教へて……(己) 復た次に憍尸迦、贍部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲西牛

身洲西牛貨洲北俱盧洲の諸の有情類を教へて……(己) 復た次に憍尸迦、贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝

復た次に憍尸迦、 四大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等小千界の諸の有情類を教 へて

復た次に憍尸迦、小千界の諸の有情類を置いて著し善男子善女人等中千界の諸の有情類を教

教化して……(己) 復た次に憍尸迦、 中千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等三千大千世界の諸の有情類

類を敎化して……(己) 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置いて十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情

切世界の諸の有情類を教化して……(己) 復た次に橋尸迦、此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて著し善男子善女人等十方

身洲西牛貨洲北俱盧洲の諸の有情類を教へて……(戊)

復た次に憍尸迦、 四大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等小千界の諸の有情類を教へて

復た次に憍尸迦、 小千界の諸の有情類を置いて岩し善男子善女人等中千界の諸の有情類を教

教化して皆獨覺菩提に安住せしめば……(戊 復た次に憍尸迦、 中千界の諸の有情類を置いて著し善男子善女人等三千大千世界の諸の有情類を

如き世界の諸の有情類を教化して……(戊) 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方各殑伽沙等の

世界の諸の有情類を教化して……(戊) 復た次に憍尸迦、 十方各院伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方 切

蜜多を修學せば則ち能く一切智法を證得す。 すべし。若し正しく信解せば則ち能く是の如き般若波羅蜜多を修學す。 聞し受持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し、此の鮫若波羅蜜多所說の法門に隨ひて正 解し易からしめ、復た是の言を作さん、來れ善男子、汝當に此の甚深般若波雞蜜多に於て至心に聽 多に於て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れをして しめば意に於て云何、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。 (己)復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等鵬部洲の諸の有情類を教へて皆無上正等覺の心を發さ 甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等此の般若波 若し能く一切智法を證得せば則ち般若波羅蜜多の增益 若し能く是の如き般若波羅 天帝釋

圓滿を修す。岩し般岩波羅蜜多の增益圓滿を修せば便ち無上正等菩提を證すと。憍尸迦、是の警男

(己)「復永橋戸迦若善男子善女人等教贈部洲諸有情類皆發女人等教贈部洲諸有情類皆發生、一個人的人。 という はんしょう はん はんじょう はんしょう はんりょう はんない はんしょう はんしゃ はんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしんしん はんしん はんしんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はん

教化して皆阿羅漢果に安住せしめば……(丁) 復た大に憍尸迦、中千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等三千大千世界の諸の有情類を

如き世界の諸の有情類を教化して……(丁) 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方各院伽沙等の

切世界の諸の有情類を教化して……(丁) 復た次に憍尸迦,此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方

受持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し此の法門に隨ひて勤め修學すべしと。是の善男子善女人 易からしめ、 於て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れをして解じ **ば意に於て云何、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。 天帝釋言さ** 若波羅蜜多の流出せし所なるが故なり。 等の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。 く、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。 (戊)復た次に憍尸迦、 復た是の言を作さん、 若し善男子善女人等贍部洲の諸の有情類を教 來れ善男子、 佛言はく、 何を以ての故に、憍尸迦、 汝當に此の甚深般若波羅蜜多に於て至心 憍尸迦、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に 一切の獨覺獨覺菩提は皆是の般 て皆獨覺菩提に安住せしめ に聽聞し

を教へて皆獨覺菩提に安住せしめば……(戊) 復た次に憍尸迦、 贍部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲の諸 0

牛貨洲の諸の有情類を教へて……(戊 復た次に憍尸迦、 膽部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 贍部洲東勝身洲西

復た次に憍尸迦、 初分校量功德品第三十之六十四 贈部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贈部洲東 Ð, 二九

(戊)「復吹憍尸迦若善男子善文人等奏瞻部洲諸有情興皆令女人等奏瞻部洲諸有情興皆令 に当佳般若波羅蜜多所流田酌 おもく(丁)の場合に準じて略方。

如き世界の諸の有情類を教化して……(丙)

切世界の諸の有情類を教化して……(丙 復た次に憍尸迦、此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十

受持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し此の法門に隨ひて勤め修學すべしと。 易からしめ、復た是の言を作さん、來れ善男子、 於て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し共れをして解し ば意に於て云何、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。 等の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。 く、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、 若波羅蜜多の流出せし所なるが故なり。 丁)復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等贍部洲の諸の有情類を教へて皆阿羅漢果に安住せしめ 何を以ての故に、 汝當に此の甚深般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し 憍尸迦、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に 憍尸迦、 諸の阿羅漢阿羅漢果は皆是れ般 是の善男子善女人 天帝釋言さ

復た次に憍尸迦、 贍部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲の諸 の有情類

を教へて皆阿羅漢果に安住せしめば……(丁)

牛貨洲の諸の有情類を教へで……(丁) 復た次に憍尸迦、 膽部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 贈部洲東勝身洲西

身洲西牛貨洲北俱盧洲の諮の有情類を教へて……(丁) 復た次に憍尸迦、 贈部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝

復た次に憍尸迦、 復た次に憍尸迦、 小千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等中千界の諸の有情類を教へて 四大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等小千界の諸の有情類を教

(丁)「復永懺尸迦若善男子善女人等教鵬※洲諸有情類皆令女人等教鵬※洲諸有情類皆令安住阿羅漢果於憲云何………般若波羅蜜多所流出故」

波羅蜜多の流出せし所なるが故なり。 持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し此の法門に隨ひて勤め修學すべしと。是の善男子善女人等 の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。何を以ての故に、憍尸迦、一切の不還及び不還果は皆是の般 からしめ、復た是の言を作さん、來れ善男子、汝當に此の甚深般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受

を教へて皆不還果に住せしめば……(丙) 復た次に憍尸迦、贍部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝身洲の諸の有情類

貨洲の諸の有情類を教へて……(丙) 復た次に憍尸迦・贍部洲東滕身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東滕身洲西牛

卷の第一百六十六

初分校量功德品第三十之六十四

復た次に憍尸迦、贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等贍部洲東勝

身洲西牛貨洲北県盧洲の諸の有情類を教へて……(丙)

復た次に憍尸迦、四大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等小千界の諸の有情類を教へて

復た次に憍尸迦、小千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等中千界の諸の有情類を教へて

教化して皆不還果に住せしめば……(丙) 復た次に憍尸迦、中千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等三千大千世界の諸の有情類を

復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方各殑伽沙等の

初分校量功德品第三十之六十四

五三七

類を教へて皆一來果に住せしめば……(乙) 復た次に憍尸迦、 瞻部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 鵬部洲東勝身洲の諸の有情

4 貨洲の踏の有情類を教へて……(乙) 復た次に憍尸迦、 膽部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 贍部洲東勝身洲西

復た次に憍尸迦、 贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 膽部洲東

復た次に憍尸迦、 四大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、小千界の諸の有情類を教

て……(乙) 勝身洲西牛貨洲北倶盧洲の諸の有情類を教へて……(乙)

復た次に憍尸迦、 小千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等中千界の諸の有情類を教へて

復た次に憍尸迦、

を教化して皆一來果に住せしめば……(乙) 復た次に憍尸迦、 此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等十方各殑伽沙等の

中千界の諸の有情類を置いて著し善男子善女人等、三千大千世界の諸の有情類

方一切世界の諸の有情類を教化して……(乙) 如き世界の諸の有情類を教化して……(乙) 復た次に憍尸迦、 此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、

甚だ多し世尊、 て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣説し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れをして解し易 (丙)復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、 甚だ多し善逝と。 是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。天帝釋言さく 佛言はく、 憍尸迦、若し善男子善女人等、 贈部洲の諸の有情類を教へて皆不還果に住せしめば 此の般若波羅蜜多に於

> 住不還果於意云何……皆女人等教膽部洲諸有情類皆令 右も(乙)の場合に準じて是般若波羅蜜多所流出故」

勝身洲西牛貨洲北県盧洲の諸の有情類を教へて……(甲) 復た次に憍尸迦、 四大洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、小千界の諸の有情類を教

復た次に憍尸迦、 小千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、中千界の諸の有情類を教

て……(甲) 復た次に憍尸迦、 中千界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、三千大千世界の諸の有情類

の如き世界の諸の有情類を教化して……(甲) 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、十方各殑伽沙等 を教化して皆預流果に住せしめば……(甲

方一切世界の諸の有情類を教化して……(甲) 復た次に憍尸迦、此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等,

般若波羅蜜多の流出せし所なるが故なり。 等の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。 持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し、此の法門に隨ひて勤め修學すべしと。是の善男子善女人 甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於 からしめて復た是の言を作さん、來れ善男子、汝當に此の甚深般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受 て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れをして解し易 意に於て云何、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。天帝釋言さく (乙)復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、瞻部洲の諸の有情類を教へて皆一來果に住せしめば、 何を以ての故に、 憍尸迦、一切の一來及び一來果は皆是の

五三五

初分校量功德品第三十之六十三

宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れをして解し易からしめば、獲る所の福楽甚だ前よりも多 方便と爲し受持讀誦し理の如く思惟し、復た種種巧妙の文義を以て須臾を經る間も他の爲に辯說し 他の爲に廣說し宜示開演し類了し解釋し義趣を分別し其れをして解し易からしむべし、憍尸迦、 羅蜜多に於て無所得を以て方便と貸し受持讀誦し理の如く思惟すべし。當に種種巧妙の文義を以 り來有り去有りて得可き者無し。憍尸迦、是の善男子善女人等此れ等の説を作さば是れ真正の般若靜 の縁に由るが故に我れ是の説を作す、著し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於て無所得を以て 慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を說くなり。是を以ての故に、憍尸迦、諸の善男子善女人等は般若波

の獲る所の功徳は甚だ前よりも多し。 持讀誦し善く通利せしめ理の如く思惟し此の法門に隨ひて勤め修學すべしと。是の善男子善女人等 からしめ、 甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於 意に於て云何、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。天帝釋言さく 若波羅蜜多の流出せし所なるが故なり。 て無量門巧妙の文義を以て他の爲に廣說し宣示開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れをして解し易 (甲)復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、贍部洲の諸の有情類を教へて皆預流果に住せしめば、 復た是の言を作さん、來れ善男子、汝當に此の甚深般若波羅蜜多に於て至心に聽聞 何を以ての故に、憍尸迦、一切の預流及び預流果は皆是の般

を教へて皆頂流果に住せしめば……(甲 贈部洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 贍部洲東勝身洲の諸の有情類

牛貨洲の諸の有情類を敷へて……(甲) 膽部洲東勝身洲の諸の有情類を置いて若し善男子善女人等、 瞻部洲東勝身洲西

> も般若を施す功徳の大なるを むるより

るのみにして皆同じき故之を 右の文中初めの部分を異に (甲)「復次艦尸迦若善男子 羅蜜多所流出故 住預流果……告是般若 女人等教膽部洲諸有情類 す

異れる初めの部分のみを出 (甲) にて略し以下その

卷の第一百六十四

初分校量功德品第三十之六十二

門。心五眼、六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法。恒住捨性。心一切智乃至一切相 智。山一切陀羅尼門。一切三摩地門。 、四靜慮乃至四無色定。心八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至無願解脫。

巻の第一百六十五

初分校量功德品第三十之六十三

預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。心一切の獨覺菩提。心一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無 (b)

等有りて獲る所の功徳及び隨喜して菩提に廻向すること無ければなり。所以は何ん、一切法の自性 き、或は布施波羅蜜多を說きて是の如き言を作さん、來れ善男子、我れ當に汝をして般若波羅蜜多 此の般若乃至布施波羅蜜多に於ては竟に少法も入有り出有り生有り滅有り斷有り常有の一有り異有 は皆空なるを以て都て所有無ければなり。若し所有無ければ即ち是れ般若乃至布施波羅蜜多なり。 の般若乃至布施波羅蜜多に於ては畢竟少法も住す可く超ゆ可く入る可く得可く證す可く受持す可き 可き等有りて獲る所の功徳及び隨喜して菩提に廻向す可きを觀ずること勿れ。何を以ての故に、此 を修學せしむべし。汝修學する時、諸法の少くも住す可く超ゆ可く入る可く得可く證す可く受持す は靜慮波羅蜜多を說き、或は精進波羅蜜多を說き、或は安忍波羅蜜多を說き、或は淨戒波羅蜜多を說 復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、無上菩提の心を發せる者の爲に般若波羅蜜多を宜說し、或

(b) 前後と同意

前後と同な。

初分校量功德品第三十之六十二、上三

。は何ん、此の中尙ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の我と無我と有らんをや。汝若し能く是の 想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は卽ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦 からず、受想行識の若しは我若しは無我を觀すべからず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受 や彼の淨と不淨と有らんをや。汝若し能く是の如き布施を修せば是れ布施波羅蜜多を修するなりと。 可からず、彼の淨不淨も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尙ほ色等すら得可き無し。何に況ん 蜜多なり。此の布施波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の淨不淨も亦た得可からず、受想行識皆得 性は卽ち自性に非ず是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。若し自性に非ざれば卽ち是れ布施波羅 らす。何を以ての故に、色は色の自性室なり受想行識は受想行識の自性室なればなり。是の色の自 多を修すべし。色の若しは淨若しは不淨を觀ずべからず受想行識の若しは淨若しは不淨を觀ずべか 如き布施を修せば是れ布施波羅蜜多を修するなりと。復た是の言を作さん、汝善男子、布施波羅蜜 た自性に非ず。若し自性に非されば卽ち是れ布施波羅蜜多なり。此の布施波羅蜜多に於ては色得可 憍尸迦、是の善男子善女人等此等の説を爲さば、是れを真正の布施波羅蜜多を宣說すと爲す。 (b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界 彼の我無我も亦た得可からず、受想行識皆得可からす。彼の我無我も亦た得可からす。所以

卷の第一百六十三

初分校量功德品第三十之六十一

多乃至般若波羅蜜多。心內空乃至無性自性空。心眞如乃至不思議界心苦聖諦乃至道聖諦 い身界乃至諸受。い意界乃至諸受。い地界乃至識界。い無明乃至老死愁歎苦憂惱。b)布施波羅蜜

(b) 前巻と問意

巻の第一百六十二

初分校量功德品第三十之六十

自性は即ち自性に非ず是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。 なり。 に況んや彼の樂と苦と有らんをやと。 皆得可からず、 施波羅蜜多を修すべし。色の若しは樂若しは苦を觀すべからず受想行識の若しは樂若しは苦を觀す 色得可か 性も亦た自性に非す。若し自性に非されば即ち是れ布施波羅蜜多なり。 観ずべからず、 なり受想行職は受想行職の自性空なればなり。 を宣説して し能く是の如き布施を修せば是れ布施波羅蜜多を修するなり。 (a) らず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は受想行識の自性空なればなり。 の善男子善女人等、 復た是の言を作さん、汝善男子、 切の菩薩 らず、 是の如き言を作さん、 此の布施波羅蜜多に於ては色得可からず、 (b)憍尸迦、 彼の樂と苦とも亦た得可からず。 彼の常無常も亦た得可からず、 受想行識の若しは常若しは無常を觀すべからず。 此の中尙ほ色等すら得可き無し。 無所得の布施波羅蜜多を說くを 若し善男子善女人等、 (a)諸佛の無上正等菩提。 汝善男子、布施波羅蜜多を修すべし。 汝若し能く是の如き布施を修せば是れ布施波羅 布施波羅蜜多を修すべし、色の若しは我若しは無我を觀す 受想行識皆得可からず、 是の色の自性は即ち自性に非ず、 所以は何ん、 無上正等菩提の心を發せる者の爲に布施波羅蜜多 何に況んや彼の常と無常と有らんをやと。 時に天帝釋復た佛に白して言さく、 彼の樂と苦とも亦に得可か 真正の布施波羅蜜多を說くと名づく 此 若し自性に非されば即ち是れ布 復た是の言を作さん、汝善男子、 何を以ての故に、 の中尚ほ色等すら得 彼の常無常も亦た得可 此の布施波羅蜜多に於て 色の若しは常若しは無常を 是の受想行識の自 5 色は色の自性空 10 미 世尊、 受想行識 是の色 施波 汝若 から るや 云何 0 は

(a) 前巻と同本。

(b)「復六」の二字を加へ(b)「復六」の二字を加へ(b)「復六」の二字を加へ「復六幡尸迦若 善男子 善女人等作此等說是爲宣說眞正布施波作此等說是爲宣說眞正布施波作此等說是爲宣說眞正布施波羅蜜多」右も(a)の場合に準じて略す。

五三

初分校量功德品第三十之五十八、

九、六十

此の中尚ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の淨と不淨と有らんをやと。汝若し能く是の如き淨 彼の淨不淨も亦た得可からず、受想行識皆得可からず、彼の淨不淨も亦た得可からず。所以は何ん 非方。若し自性に非されば即ち是れ淨戒波羅蜜多なり。此の淨戒波羅蜜多に於ては色得可からず、 是れを眞正の淨戒波羅蜜多を宣説すと爲す。 戒を修せば、是れ淨戒波羅蜜多を修するなりと。憍尸迦、是の善男子善女人等此れ等の說を作さば 受想行識の自性室なればなり。 是の色の自性は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦た自性

乃至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。 (3) 耳界乃至諸受。(3) 鼻界乃至諸受。 (a) 舌界

卷の第一百六十

初分校量功德品第三十之五十八

自性空,《眞如乃至不思議界。《苦聖諦乃至道聖諦。《四靜慮乃至四無色定。 (2)地界乃至識界(3)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(3)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (a)內容乃至無性

巻の第一百六十一

初分校量功德品第三十之五十九

切三摩地門。 佛の十力乃至十八佛不共法。白無忘失法、恒住捨性。 (a) 八解脫乃至十遍處。 a預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (1)四念住乃至八聖道支。(1)空解脫門乃至無願解脫門。 (a) 一切智乃至 切の獨覺菩提 一切相智。 (a) 五眼、 (a) 一切陀羅尼門、 六神通。 (a)

(a)

前後と同意

前後と同意。

(a)

受想行識の若しは淨若しは不淨を觀すべからず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は 是の言を作さん、汝善男子、淨戒波羅蜜多を修すべし。色の若しは淨若しは不淨を觀すべからず、 我と無我と有らんをや。汝若し能く是の如き淨戒を修せば是れ淨戒波羅蜜多を修するなりと。復た す、彼の我無我も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尚ほ色等すら得可き無し。 修せば是れ淨戒波羅蜜多を修するなりと。復た是の言を作さん、汝善男子、淨戒波羅蜜多を修すべ 此の中尙ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の樂と苦と有らんをや。汝若し能く是の如き淨戒を 若し自性に非されば即ち是れ淨戒波羅蜜多なり。此の淨戒波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の樂 た是の言を作さん、汝善男子、淨戒波羅蜜多を修すべし。色の若しは樂若しは苦を觀すべからず受 目性に非ず、是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。若し自性に非されば即ち是れ淨戒波羅蜜多な を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は即ち し。色の若しは我若しは無我を觀すべからす。受想行識の若しは我若しは無我を觀すべからす。何 と苦とも亦た得可からず、受想行識皆得可からず、彼の樂と苦とも亦た得可からず。所以は何ん 行識の自性空なればなり。是の色の自性は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。 想行識の若しは樂若しは苦を觀すべからす。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は受想 可からず、彼の常無常も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尚ほ色等すら得可き無し。何に況ん 蜜多なり。此の浮戒波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の常無常も亦た得可からず、受想行職皆得 は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。若し自性に非されば即ち是れ淨戒波羅 **す。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性** や彼の常無常有らんをや。汝若し能く是の如き淨戒を修せば是れ淨戒波羅蜜多を修するなりと。復 此の淨戒波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の我無我も亦た得可からず、受想行識皆得可か 何に況んや彼の

乃至諸受。山地界乃至識界。心無明乃至老死愁數苦憂惱。

卷の第一百五十七

初分校量功德品第三十之五十五

道聖諦。他四靜慮乃至四無色定。他八解脫乃至十遍處。 (d) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d) 內容乃至無性自性空。(d) 真如乃至不思議界。(d) 苦聖諦乃至 的四念住乃至八聖道支。 的 空解脫門乃至無

巻の第一百五十八

初分校量功德品第三十之五十六

(d) 切の菩薩摩訶薩行。 (d) 五眼、 切陀羅尼門、 六神通。 (d)諸佛の無上正等菩提。 は佛の十カ乃至十八佛不共法。は無忘失法、 切三摩地門。 d預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 恒住捨性。d (d) 一切の獨覺菩提。 切智乃至 切相智。 (d)

卷の第一百五十九

初分校量功德品第三十之五十七

提の心を發せる者の爲に淨戒波羅蜜多を宣說して是の如き言を作さん、汝善男子、淨戒波羅蜜多を を說くを 修すべし。色の若しは常若しは無常を觀すべからず、受想行識の若しは常若しは無常を觀すべから 時に天帝釋、 眞正の淨戒波羅蜜多を說くと名づくるやと。 復た佛に白して言さく、世尊、云何が諸の善男子善女人等、無所得の淨戒波羅蜜多 a憍尸迦、若し善男子善女人等、無上正等菩

(d) 前巻と同意。

【一】 眞正の浄戒波羅蜜多。(1) 「復次橋尸迦若 善男子 善女人等為發無上正等菩提心者…… 情尸迦是善男子善女人等作此等說是為宣說真正淨戒波作此等說是為宣說真正淨戒波和蜜多」

(d) 前巻と同意。

安忍波羅蜜多を宣説すと爲す。 れ安忍波羅蜜多を修するなりと。憍尸迦、是の善男子善女人等、此れ等の説を作さば是れを真正 色等すら得可き無し。何に況んや彼の淨と不淨と有らんをや。汝若し能く是の如き安忍を修せば是 亦た得可からず、受想行識皆得可からず、 性に非されば即ち是れ安忍波羅蜜多なり。 自性室なればなり。是の色の自性は卽ち自性に非ず是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。若し自 若しは淨若しは不淨を觀すべからず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は受想行識の 作さん、汝善男子、安忍波羅蜜多を修すべし。色の若しは浮若しは不浮を觀すべからず受想行識 と有らんをや。汝若し能く是の如き安忍を修せば是れ安忍波羅蜜多を修するなりと。復た是少言を 我無我も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尙ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の我と無我 安忍波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の我無我も亦た得可からず、受想行識皆得可からず、彼の 非す是の受想行識の自性も亦た自性に非す。若し自性に非されば即ち是れ安忍波羅蜜多なり。此 の故に、 修せば是れ安忍波羅蜜多を修するなりと。復た是の言を作さん、汝善男子、安忍波羅蜜多を修すべし。 色の若しは我若しは無我を觀すべからす受想行識の若しは我若しは無我を觀すべからず。何を以て 色は色の自性室なり受想行識は受想行識の自性室なればなり。是の色の自性は即ち自性に 彼の淨不淨も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尚ほ 此の安忍波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の淨不淨も

duw處乃至意處。d)色處乃至法處。

卷の第一百五十六

初分校量功德品第三十之五十四

d) 眼界乃至諸受。d) 耳界乃至諸受。d) 鼻界乃至諸受。d) 舌界乃至諸受。d) 身界乃至諸受。 (d) 意界

初分校量功態品第三十之五十三、四

五二七

(d) 前巻と同意。

卷の第一百五十五

初分校量功德品第三十之五十三

(c) 一切智乃至一切相智。ⓒ一切陀羅尼門、一切三摩地門。⑫預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 切の獨覺菩提。は一切の菩薩摩訶薩行。 の諸佛の無上正等菩提。

す。岩し自性に非ざれば即ち是れ安忍波羅蜜多なり。此の安忍波羅蜜多に於ては色得可からす、彼の 況んや彼の常と無常と有らんをや。汝若し能く是の如き安忍を修せば是れ安忍波羅蜜多を修するな **皆得可からず、彼の常無常も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尚ほ色等すら得可き無し。何に** 蜜多を修すべし。色の若しは常若しは無常を觀すべからす。受想行識の若しは常若しは無常を觀す 上正等菩提の心を發せる者の爲に安忍波羅蜜多を宣說し是の如き言を作さん、汝善男子、安忍波羅 説くを、眞正の安忍波羅蜜多を說くと名づくるやと。 佛言はく、 団憍尸迦、若し善男子善女人等、 無 りと。復た是の言を作さん、汝善男子、安忍波羅蜜多を修すべし。色の若しは樂若しは苦を觀すべか 此の中尙ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の樂と苦と有らんをやと。汝若し能く是の如き安忍を 樂と苦とも亦た得可からず、受想行識皆得可からず、彼の樂と苦とも亦た得可からず。所以は何ん、 受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は卽ち自性に非ず是の受想行識の自性も亦た自性に非 らず受想行識の若しは樂若しは苦を觀ずべからず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は 忍波羅蜜多なり。此の安忍波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の常無常も亦た得可からず受想行識 の自性は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。若し自性に非ざれば即ち是れ安 **べからず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色** 時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、云何が諸の善男子善女人等、無所得の安忍波羅蜜多を

> 「し」 「復次」の二字を加へ 「復次[編 P 迦若 善男子 善女人等 等為養無上正等著提心者…… 作此等說是為宣說真正安忍波 羅密多」」。 羅密多」」。 和電の場合に準じて略す。

初分校量功德品第三十之五十一、二

五二五

の善男子善女人等此れ等の説を作さば是れを真正の精進波羅蜜多を宣説すと爲す。 と有らんをやと。汝若し能く是の如き精進を修せば是れ精進波羅蜜多を修するなりと。憍尸迦、 **浄不淨も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尙ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の淨と不淨 方、是の受想行職の自性も亦た自性に非す。若し自性に非されば即ち是れ精進波羅蜜多なり。** 故に、色は色の自性空なり受想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は卽ち自性に 精進波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の淨不淨も亦た得可からず。受想行識皆得可からず、彼の (C)眼處乃至意處。(C)色處乃至法處。(C)眼界乃至諸受。(C)耳界乃至諸受。 此の

卷の第一百五十三

初分校量功德品第三十之五十一

乃至老死愁歎苦憂惱。心布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。心內容乃至無性自性空。 (c) 鼻界乃至諸受。(c) 舌界乃至諸受。(c) 身界乃至諸受。(c) 意界乃至諸受。(c) 地界乃至識界。(c) 無明

卷の第一百五十四

初分校量功德品第三十之五十二

念住乃至八聖道支。⑥空解脫門乃至無願解脫門。⑥五眼・六神通。⑥佛の十力乃至十八佛不共法。 © 真如乃至不思議界。© 苦聖諦乃至道聖諦。©四靜慮乃至四無色定。©八解脫乃至十遍處。©四 (c)

(11)

前巻と同意。

前後と同意。

此の中尚ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の我と無我と有らんをや。汝若し能く是の如 す。若し自性に非ざれば即ち是れ精進波羅蜜多なり。此の精進波羅蜜多に於ては色得可からず、彼 無想行識の自性空なればなり。是の色の自性は即ち自性に非す、是の受想行識の自性も亦た自性に非 復た是の言を作さん、汝善男子、精進波羅蜜多を修すべし。色の若しは我若しは無我を觀すべから んや彼の樂と苦と有らんをや。汝若し能く是の如き精進を修せば是れ精進波羅蜜多を修するなりと。 得可からす、彼の樂と苦とも亦た得可からす。所以は何ん、此の中尚ほ色等すら得可き無し。何に況 羅蜜多なり。此の精進波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の樂と苦とも亦た得可からず、受想行識皆 性は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。若し自性に非ざれば即ち是れ精進波 羅蜜多を修すべし。色の若しは樂若しは苦を觀すべからす受想行識の若しは樂若しは苦を觀すべか 是の如き精進を修せば是れ精進波羅蜜多を修するなりと。復た是の言を作さん、汝善男子、精進波 所以は何ん、此の中尙ほ色等すら得可き無し、何に況んや彼の常と無常と有らんをや。汝若し能く 得可からず、彼の常無常も亦た得可からず、受想行職皆得可からず、彼の常無常も亦た得可からす。 も亦た自性に非す。若し自性に非されば即ち是れ精進波羅蜜多なり。此の精進波羅蜜多に於ては色 り受想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は即ち自性に非す、是の受想行識の自性 すべからず、受想行識の若しは常若しは無常を觀すべからず、何を以ての故に、色は色の自性空な の若しは淨若しは不淨を觀すべからす受想行識の若しは淨若しは不淨を觀すべからす。何を以ての を修せば是れ精進波羅蜜多なりと。復た是の言を作さん、汝善男子、精進波羅蜜多を修すべし。色 の我無我も亦た得可からず、受想行識皆得可からず、彼の我無我も亦た得可からず。所以は何ん、 らず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受积行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自

巻の第一百五十

初分校量功德品第三十之四十八

い舌界乃至諸受。い身界乃至諸受。い意界乃至諸受。い地界乃至識界。い無明乃至老死愁歎苦憂 心布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 心內容乃至無性自性空。 心真如乃至不思議界

巻の第一百五十一

初分校量功德品第三十之四十九

し苦聖諦乃至道聖諦。 (b)四靜慮乃至四無色定。(b) 八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。 (b)

を解脱門乃至無願解脫門。 (b) 切智乃至 切相智。 山五眼·六神通。 心佛の十九乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。

巻の第一百五十二

初分校量功德品第三十之五十

(b) 切陀羅尼門 • 一切三摩地門。 b)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。b)一 切の獨覺菩提。山

一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。

說くを 時に天帝釋復た佛に白して言さく、 眞正の精進波羅蜜多を說くと名づくるやと。 世尊、 云何が諸の善男子善女人等、無所得の精進波羅蜜多を

宣説して是の如き言を作さん、汝善男子、精進波羅蜜多を修すべし。色の若しは常若しは無常を觀 佛言はく、(C橋尸迦、 若し善男子善女人等、 無上正等菩提の心を發せる者の爲に精進波羅蜜多を

初分校量功德品第三十之四十八、九、五十

(b)

前卷と同意。

(b) 前卷と同意。

(b) 前卷と同意。

(一)「復次」の二字を加へ(で)「復次橋尸迦岩・善男子・善女人等為發無上正等菩提心者……橋尸迦是善男子善女人等作此是說是為宣說真正精進波作此是說是為宣說真正精進波

五二三

性は即ち自性に非す、是の受想行識の自性も亦た自性に非す。若し自性に非ざれば即ち是れ靜慮波 多を修すべし。色の若しは淨若しは不淨を觀すべからす受想行識の若しは淨者しは不淨を觀すべ 如き靜慮を修せば是れ靜慮波羅蜜多を修するなりと。復た是の言を作さん、汝善男子、靜慮波羅蜜 らず、彼の我無我も亦た得可からず、受想行識特得可からず、彼の我無我も亦た得可からず。所以 得可からす、彼の樂と苦とも亦た得可からず。所以は何ん、此の中尙ほ色等すら得可き無し、何 蜜多なり。此の靜慮波羅 得可からず、彼の淨不淨も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尚ほ色等すら得可き無し。何に況 羅蜜多なり。此の靜慮波羅蜜多に於ては色得可からず、彼の淨不淨も亦た得可からず、受想行識皆 らず。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自 は何ん、 行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は即ち自性に非す、是の受想行識の自性も亦た からす受想行識の若しは我若しは無我を觀すべからす。何を以ての故に、色は色の自性空なり受想 と。復た此の言を作さん、汝善男子、靜慮波羅蜜多を修すべし。色の若しは我若しは無我を觀すべ 況んや彼の樂と苦と有らんをや。汝若し能く是の如き靜慮を修せば是れ靜慮波羅蜜多を修するなり と。憍尸迦、是の善男子善女人等、此れ等の説を作さば是れを真正の靜慮波羅蜜多を宣説すと爲す。 んや彼の淨と不淨と有らんをや。汝若し能く是の如き靜慮を修せば是れ靜慮波羅蜜多を修するなり 自性に非ず。若し自性に非されば即ち是、靜慮波羅蜜多なり。此の靜慮波羅蜜多に於ては色得可か .眼處乃至意處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心鼻界乃至諸受。 此の中尚ほ色等すら得可き無し、何に況んや彼の我と無我と有らんをや。汝若し能く是の 蜜多に於ては色得可からず、彼の樂と苦とも亦た得可からず、受想行識皆

THE RESIDENCE AND PROPERTY OF THE PERSON OF

佛の十 三摩地門。 (a) 八解脫乃至十遍處。a)四念住乃至八聖道支。a) 空解脫門乃至無願解脫門。a) 力乃至十八佛不共法。 a預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果 a)無忘失法·恒住捨性。 (a) 切智乃至一 切相智。 (a) 一切陀羅尼門· 五眼·六神通。 切 (a)

巻の第一百四十九

初分校量功德品第三十之四十七

説くを真正の靜慮波羅蜜多を說くと名づくるやと。 (a) に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、 切の獨覺菩提。 (a) 切の菩薩摩訶薩行。 云何が諸の善男子善女人等、 a諸佛の無上正等菩提・ 無所得の靜慮波羅蜜多を

す。 は何 は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。若し自性に非されば即ち是れ靜慮波羅 多を修すべし。色の若しは樂若しは苦を觀すべからす受想行識の若しは樂若しは苦を觀 如き靜慮を修せば是れ靜慮波羅蜜多を修するなりと。復た是の言を作さん、汝善男子、靜慮波羅蜜 らす。彼の常無常も亦た得可からす。受想行識皆得可からず、彼の常無常も亦た得可からす。 自性に非す。若し自性に非されば即ち是れ靜慮波羅蜜多なり。 行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦た して是の如き言を作さん。汝善男子、 佛言はく、心憍尸迦、若し善男子善女人等、 何を以ての故に、 ん、 彼の中尚ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の常と無常と有らんをや。汝若し能く是の 色は色の自性空なり受想行識は受想行識の自性空なればなり。 靜慮波羅蜜多を修すべし。色の若しは常若しは無常を觀ずべ 無上菩提の心を發せる者の爲に靜慮波羅蜜多を宜說 此の靜慮波羅蜜多に於ては色得可か 是の色の自性 ずべ do

(a) 前後と同意。

(a) 前巻と同意。

眞正

の静庫

波羅蜜多。

-(181)

と略す。 と略す。 と略す。

以は何ん、此の中尚ほ色等すら得可き無し。何に況んや彼の淨と不淨と有らんをや。汝若し能く是 なりと。復是の言を作さん、汝善男子、般若波羅蜜多を修すべし。色の若しは淨著しは不淨を觀す を作さば是れ真正の般若波羅蜜多を宣説すと爲す。 からず、彼の淨不淨も亦た得可からず、受想行識皆得可からず、彼の淨不淨も亦た得可からず。所 の如く般若を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなりと。憍尸迦、是の善男子善女人等、此れ等の説 た自性に非す。若し自性に非されば卽ち是れ般若波雞蜜多なり。此の般若波雞蜜多に於ては色得可 想行識は受想行識の自性空なればなり。是の色の自性は即ち自性に非ず、是の受想行識の自性も亦 べからす受想行識の若しは淨若しは不淨を觀すべからす。何を以ての故に、色は色の自性空なり受 に況んや彼の我と無我と有らんをや。汝若し能く是の如く般若を修せば是れ般若波羅蜜多を修する 識皆得可からず、彼の我無我も亦た得可からず。所以は何ん、此の中尙ほ色等すら得可き無し。何

乃至諸受。(4)身界乃至諸受。

(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界

初分校量功德品第三十之四十五

多。《內容乃至無性自性空。《真如乃至不思議界。《苦聖諦乃至道聖諦。《四靜慮乃至四無色定。 (a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜

卷の第一百四十八

初分校量功德品第三十之四十六

(a) 前巻と同意。

岩波羅蜜多なり。

の般若波羅蜜多に於ては色得可からす、

彼の我無我も亦た得可からず、

若し自性に非

され

ば即ち

是

れ般

是

非ず是の受想行識の自性も亦た自性に非ず。

色の自性は即ち自性に

若波羅蜜多を修すべし。

からず。

何を以ての故に、

らず。

所以

は何ん。

此の

中尚ほ色等すら得可き無し、

何に況んや彼の樂と苦と有らんをや。

能く是の如

く般若を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなりと。復た是の言を作さん、汝善男子、

色の若しは我若しは無我を観すべかす受想行識の若しは我若しは無我を觀 色は色の自性室なり受想行職は受想行職の自性室なればなり。

得可からず、

彼の樂と苦とも亦た得可からず、

受想行識皆得可からず、

彼の樂と苦とも

亦

た得可 汝若

の般若波羅蜜多に於ては色

是の受想行識

0

自 空

た自

TE

に非ず。

若し自性に非されば即ち是れ般若波羅蜜多なり。

h *

受相 観すべ

成は受利

行識の自性空なればなり。

是の色の自性は即ち自性に非ず、

何を以ての故に、

色は色の自性

るなりと。

復た是の言を作さん、

汝善男子、

應に般若波維蜜多を修すべし。

色の若しは樂若

しは苦

からず受想行識の若しは樂若しは苦を観ずべからず。

行識皆得可

0

ずべからず。

何に況んや彼の常と無常と有らんをや。汝若し能く是の如く般若を修せば是れ般若波羅蜜多を修す

所以は何

ん

此

は皆同じき故之を符號(4)にて 次下に出す諸法を挿入せば他 右の文中「色乃至識」の所に 等說是爲宣說真正般若波羅蜜 略し以下其の諸法のみ

來應正等覺を供養恭敬尊重讃歎し、此れに由りて速に疾く無上正等菩提を證得せんと。憍尸迦、 神通を得、 精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修學せしむ。是れを相似の般若乃至布施波羅蜜多を宣說すと爲す。 に菩薩の正性離生に入りて便ち菩薩の の善男子善女人等は有相を以て方便と爲し、有所得を方便と爲し及び時分想もて他をして般若靜慮 既に菩薩、不退神通を得て能く十方一切の佛土を歴、一佛國より一佛國に至り一切の如 無生法忍を得、既に菩薩の無生法忍を得て便ち菩薩の不

波羅蜜多を聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟せば決定して當に無量無數無邊の功徳を獲 作すなり。是れ相似の般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を説くなり。 しと。憍尸迦、是の善男子善女人等は有相を以て方便と爲し、有所得を方便と爲して是の如き說を 復た次に橋尸迦、若し善男子善女人等、 菩薩種性に住する者に告げて言はん、若し能く共深般若

切の如來應正等覺に於て初發心より乃ち無餘涅槃を證得するに至るまでの所有る善根を皆隨喜し一 波羅蜜多を説くなりと。 て方便へ為し有所得を方便と爲して是の如き說を作すなり。是れ相似の般若靜慮精進安忍淨戒布施 切合集して諸の有情の爲に無上正等菩提に廻向すべしと。憍尸迦、是の善男子善女人等は有相を以 復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等菩薩種性に住する者に告げて言はん、汝過去未來現在の

卷の第一百四十六

初分校量功德品第三十之四十四

蜜多を宜説すと爲すやと。佛言はく、憍尸迦、 戒布施波羅蜜多を説かば是の如きを名づけて真正の般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を宣説すと 爾の時天帝釋、 佛に白して言さく、 世尊、云何が名づけて眞正の敬若靜慮精進安忍淨戒布施波羅 若し善男子善女人等、 無所得の般若靜慮

【三】 無生法忍。生滅を遠慮 で動かざるをいよ。

子を有するもの。 必ず佛果を関くべき無漏の種

を說く。

至阿羅漢向阿羅漢果。 無忘失法・恒住捨性。〇一切智乃至一切相智。〇一切陀羅尼門・一切三摩地門。〇預流向預流果乃 (c)一切の獨覺菩提。(c)一 切の菩薩摩訶薩行。 (c)諸佛の無上

布施波羅蜜多。 若波羅蜜多を說くなり。山靜慮波羅蜜多。山精進波羅蜜多。山安忍波羅蜜多。山淨戒波羅蜜多。山 方便と為し有所得を方便と為し及び時分想もて他をして般若波羅蜜多を修學せしむ。是れ相似の般 七遠行地・八不動地・九善慧地・十法雲地に住すべしと。憍尸迦、是の善男子善女人等は有想を以て 我が教に依りて修學せば當に速に 説し、是の如き言を作さん、來れ善男子、我れ當に汝をして般若波維蜜多を修學せしむべし。 復た次には憍尸迦、 若し善男子善女人等、 初極喜地·二離苦地·三發光地·四焰戀地·五極難勝地·六現前地 無上正等菩提の心を發せる者の爲に般若波羅蜜多を宣

岩靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修學せしむ。是れを相似の般若乃至布施波羅蜜多を宜說すと爲 波羅蜜多を修學せしむべし。 若し 我が教に依りて 修學せば速に聲聞及び獨學地を超えんと。 蜜多を說き、或は布施波羅蜜多を說きて是の如き言を作さん。來れ善男子、我れ當に汝をして般若 復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、無上正等菩提の心を發せる者の爲に般若波꾩蜜多を宣說 是の善男子善女人等は有相を以て方便と爲し、有所得を方便と爲し及び時分想もて他をして般 或は靜慮波羅蜜多を說き、或は精進波羅蜜多を說き、 或は安忍波羅蜜多を説き、 或は淨戒波羅

至布施波羅蜜多を修學せしむべし。若し我が教に依りて修學せば速に菩薩の 多を説き、或は布施波羅蜜多を説きて是の如き言を作さん、來れ善男子、我れ當に汝をして般若乃 し、或は靜慮波羅蜜多を說き、或は精進波羅蜜多を說き、或は安忍波羅蜜多を說き、或は淨戒波羅蜜 復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、無上正等菩提の心を發せる者の爲に般若波羅蜜多を宣說 正性離生に入り、 旣

> 爲發無上菩提心者宣說般若波 波羅蜜多 羅蜜多……是說相似般

たて略し次下その諸法のみ略ば他は昔同じき故之を符號付所に次下に出す諸法を入るれ 二出す。 この位に入った菩薩は能く中 至法雲地を菩薩の十地と爲す、

道の佛智を持して動ぜざるな

の證悟に入るをいふ。

得相似の布施波羅蜜多を行すと爲すと說く。憍尸迦、前に說く所の如く當に知るべし皆是れ有所得 め受想行識の若しは淨若しは不淨を求め、此れ等の法に依りて布施を行する者は我れ名づけて有所 しは常若しは無常を求め、色の若しは樂若しは苦を求め、受想行識の若しは樂若しは苦を求め、色 行するなりと。憍尸迦、若し善男子善女人等是の如く色の若しは常若しは無常を求め受想行識の若 しは不淨を求むべし。若し能く是の如き等の法を求めて布施を修行する有らば是れ布施波羅蜜多を 行識の若しは我若しは無我を求むべし。色の若しは浄若しは不淨を求むべし受想行識の若しは淨若 は苦を求むべく受想行識の若しは樂若しは苦を求むべし。色の若しは我若しは無我を求むべく受想 色の若しは常若しは無常を求むべく受想行識の若しは常若しは無常を求むべし、色の若しは樂若し て布施を修行する有らば是れ布施波羅蜜多で行するなり。復た是の説を作さん、布施を行する者は 着しは浮若しは不浮を説き受想行識の若しは浮若しは不浮を説き、若し能く是の如き等の法に依り の若しは我若しは無我を求め受想行識の若しは我若しは無我を求め、色の若しは淨若しは不淨を求 相似の布施波羅蜜多を說くと。

乃至諸受。(()身界乃至諸受。(()意界乃至諸受。(()地界乃至識界。()無明乃至老死愁歎苦憂憐。()布 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(內字乃至無性自性空。 (O眼處乃至意處。(O色處乃至法處。(O眼界乃至譖受。(C耳界乃至諸受。(C身界乃至諸受。(C)舌界

卷の第一百四十五

初分校量功德品第三十之四十三

念住乃至八聖道支。心室解脫門乃至無顯解脫門。心丘眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。 (0)真如乃至不思議界。(0)苦聖諦乃至道聖諦。 (四)野意乃至四無色定。(0八解脫乃至十遍處。(0四

(の) 前巻と同意

乃至諸受。 心眼處乃至意處。 b色處乃至法處。 的眼界乃至諸受。山耳界乃至諸受。 b 鼻界乃至諸受。 (b) 舌界

卷の第一百四十三

初分校量功德品第三十之四十一

多乃至般若波羅蜜多。的內室乃至無性自性室。也真如乃至不思議界。 陀羅尼門・一切三摩地門。 服·六神通。 身界乃至諸受。心意界乃至諸受。 心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。心一切智乃至一切相智。 り地界乃至識界。り無明乃至老死愁歎苦憂惱。 () 苦聖諦乃至道聖諦。 (b) (b) 四靜 五

巻の第一百四十四

初分校量功德品第三十之四十二

(b) 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。心一切の獨覺菩提。心一切の菩薩摩訶薩行。 心諸佛の無

時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、云何が諮の善男子善女人等有所得の布施波羅蜜多を説 相似の布施波羅蜜多を説くと名づくるやと。

は無常を説き愛想行識の若しは常若しは無常を説き、 は樂若しは苦を說き、色の若しは我若しは無我を說き受想行識の若しは我若しは無我を說き、 (で橋戸迦、若し善男子善女人等無上正等菩提の心を發せる者の爲に色の若しは常著し 色の若しは樂若しは苦を說き受想行識の若し 色の

(b) 前巻と同意

右もゆの場合に準じて時す。右もゆの場合に準じて時ず。 (1) 「復次」の二字を加へ「復次幡尸迦若 善男子 善女人等為發無上正等菩提 者…… 「何以不確以不確決不可能,因此不能決稱案多」

五 一 完

初分校量功德品第三十之四十一、二

三摩地門。匈預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 佛の十カ乃至十八佛不共法。白無忘失法・恒住捨性。自 諸佛の無上正等菩提 (a) 八解脫乃至十遍處。 (a)四念住乃至八聖道支。 (a) 空解脫門乃至無願解脫門。 (1)一切の獨覺菩提。(1)一切の菩薩摩訶薩行。 一切智乃至一 切相智。 (a)一切陀羅尼門· (a) 五眼 六神通。 切 (a) (a)

くを 時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、 相似の淨戒波羅蜜多を說くと名づくるやと。 云何が諸の善男子善女人等有所得の淨戒波羅蜜多を説

と說く。憍尸迦、前に說く所の如く當に知るべし皆是れ有所得相似の浮戒波羅蜜多を說くと。 色の若しは我若しは無我を求め受想行識の若しは我若しは無我を求め、色の若しは淨若しは不淨を の若しは常若しは無常を求め、色の若しは樂若しは苦を求め受想行識の若しは樂若しは苦を求め、 を行するなりと。憍尸迦、 若しは不淨を求むべし。若し能く是の如き等の法を求めて淨戒を修行する有らば是れ淨戒波羅蜜多 行識の若しは我若しは無我を求むべし。色の若しは淨若しは不淨を求むべく受想行識の は苦を求むべく受想行識の若しは樂若しは苦を求むべし。 色の若しは常若しは無常を求むべく受想行識の若しは常若しは無常を求むべし。 て浮戒を修行する有らば是れ浮戒波羅蜜多を行するなり。復た是の說を作さん、浮戒を行する者は 若しは淨若しは不淨を說き受想行識の若しは淨著しは不淨を說き、若し能く是の如き等の法 は樂者しは苦を說き、色の若しは我若しは無我を說き受想行識の若しは我若しは無我を說き、 は無常を說き受想行識の若しは常若しは無常を說き、色の若しは樂若しは苦を說き受想行 此れ等の法に依りて淨戒を行する者は我れ名づけて有所得相似の淨戒波羅蜜多を行すと爲す 心橋尸迦、若し善男子善女人等無上正等菩提の心を發せる者の爲に色の若しは常若し 若し善男子善女人等、是の如く色の若しは常若しは無常を求め受想行識 色の若しは我若しは無我を求むべく受想 色の若しは樂若 若しは 識の若 に依 色の b

(a) 前巻と同音

【二】相似の存戒波羅蜜多。

右ものの場合に準じて略す。「復來幡尸迦若 善男子 善女人等為發絲上菩提心者………解尸迦如前所就當點皆是說有條尸迦若 善男子 善女人

a四靜慮乃至四無色定。 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。自內空乃至無性自性空。自真如乃至不思議界。自苦聖諦乃至道聖諦 乃至諸受。(自身界乃至諸受。(自意界乃至諸受。(自地界乃至識界。(1)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(1)布 前に說く所の如く當に知るべし皆是れ有所得相似の安忍波羅蜜多を說くと。 法に依りて安忍を行ずる者は我れ名づけて有所得相似の安忍波羅蜜多を行ずと爲すと說く。憍尸迦、 しは無我を求め、色の若しは淨若しは不淨を求め受想行識の若しは淨若しは不淨を求め、此れ等の を求め受想行識の若しは樂若しは苦を求め、色の若しは我若しは無我を求め受想行識の若しは我若 如く色の若しは常若しは無常を求め受想行識の若しは常若しは無常を求め、色の若しは樂若しは苦 の法を求めて安忍を修行せば是れ安忍波羅蜜多を行するなりと。憍尸迦、若し善男子善女人等是の 苦を求むべし。色の若しは我若しは無我を求むべく受想行識の若しは我若しは無我を求むべし。色 の若しは淨若しは不淨を求むべく受想行識の若しは淨若しは不淨を求むべし。若し能く是の如き等 識の若しは常若しは無常を求むべし。色の若しは樂若しは苦を求むべく受想行識の若しは樂若しは を行するなり。復た是の説を作さん、安忍を行する者は色の若しは常若しは無常を求むべし受想行 の若しは淨若しは不淨を說き、若し能く是の如き等の法に依りて安忍を修行せば是れ安忍波羅蜜多 しは樂若しは苦を說き、色の若しは我若しは無我を說き受想行識の若しは我若しは無我を說き、色 しは無常を説き受想行識の若しは常若しは無常を說き、色の若しは樂若しは苦を說き受想行識の若 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界(b) 巻の第一百四十二 初分校量功德品第三十之四十

初分校量功德品第三十之三十八、三十九、四十

の法 は苦を求め受想行識の若しは樂若しは苦を求め、 前に説 に依りて精進を行する者は我れ名づけて有所得相似の精進波羅蜜多を行すと爲すと說く。 しは無我を求め、色の若しは淨若しは不淨を求め受想行識の若しは淨若しは不淨を求め、此れ等 く所の如く當に知るべし皆是れ有所得相似の精進波羅蜜多を說くと。 色の若しは我若しは無我を求め受想行識の若

。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。 (c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c) (c) 地界乃至識界。 (C)無明乃至老死愁歎苦憂惱

巻の第一百四十

初分校量功德品第三十之三十八

願解說門。②五眼・六神通。②佛の十力乃至十八佛不共法。②無忘失法・恒住捨性。 切相智。 (O布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(O內空乃至無性自性空。(O真如乃至不思議界。 (c) 一切の菩薩摩訶薩行。 (c) (e) 四靜慮乃至四無色定。ⓒ八解脫乃至十遍處。ⓒ四念住乃至八聖道支。 一切陀羅尼門·一切三摩地門。心預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (c)諸佛の無上正等菩提。 (c) 室解脫門乃至 (c) (c) (c) 苦樂部乃至 切の獨覺菩 切智乃至

巻の第一百四十一

初分校量功德品第三十之三十九

時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、 相似の安忍波羅蜜多を說くと名づくるやと。 云何が諸の善男子善女人等有所得の安忍波羅蜜多を説

回情尸迦、岩し善男子善女人等、無上正等菩提の心を發せる者の爲に色の若しは常若

(の) 前巻と同意

(a) 「復永」の「復永」の「復永」の「復永」の二字を加へ「復永」の二字を加へ「復永」の二字を加へ(b) 相似の安忍波羅蜜多。

右も前巻のの場合に準じて略所得相似安忍波羅蜜多」

無願解脫門。心五眼・六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。 的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦聖諦乃 的四靜慮乃至四無色定。b)八解脫乃至十遍處。b)四念住乃至八聖道支。b)空解脫門乃至

巻の第一百三十九

初分核校量功德品第三十之三十七

是の如く色の若しは常若しは無常を求め受想行識の若しは常若しは無常を求め、色の若しは樂若し 法を求めて精進を修行する有らば是れ精進波羅蜜多を行ずるなりと。憍尸迦、者し善男子善女人等 若しは淨若しは不淨を求むべく受想行識の若しは淨若しは不淨を求むべし。若し能く是の如き等の を求むべし。色の若しは我若しは無我を求むべく受想行識の若しは我若しは無我を求むべし。色の の若しは常若しは無常を求むべし。色の若しは樂若しは苦を求むべし受想行識の若しは樂若しは苦 行するなり。復た是の説を作さん、精進を行する者は色の若しは常若しは無常を求むべく受想行識 淨若しは不淨を說き、若し能く是の如き等の法に依りて精道を修行する有らば是れ精進波羅蜜多を 我を說き受想行識の若しは我若しは無我を說き、色の若しは淨若しは不淨を說き受想行識の若 無上正等菩提の心を發せる者の爲に色の若しは常若しは無常を說き受想行識の若しは常若しは無常 說くを (b) 一切智乃至一切相智。(b) 一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b) 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、云何が諸の善男子善女人等、有所得の精進波羅蜜多を 一切の獨覺菩提。心一切の菩薩摩訶薩行。心諸佛の無上正等菩提。 色の若しは樂若しは苦を說き受想行識の若しは樂若しは苦を說き、色の若しは我若しは無 相似の精進波羅蜜多を說くと名づくるやと。佛言はく、心憍尸迦、若し善男子善女人等。 しは

(b) 前巻と同意

200

(171)-

初分校量功態品第三十之三十六、七

相似の靜慮波羅蜜多を說くと名づくるやと。

我若し は苦を求め受想行識の若しは樂若しは苦を求め、色の若しは我若しは無我を求め受想行識の若し 是の如 を求むべく受想行識の若しは業若しは苦を求むべし。色の若しは我若しは無我を求むべく受想行識 若しは常若しは無常を求むべく受想行識の若しは常若 若しは苦を説き、色の若しは我若しは無我を說き、受想行識の若しは我若しは無我を說き、 尸迦、前に說く所の如く當に知るべし皆是れ有所得相似の靜慮波羅蜜多を說くと。 等の法に依りて靜慮を行ずる者は我れ名づけて有所得相似の般若波羅蜜多を行ずと爲すと說く。 を求めて靜慮を修行する有らば是れ靜慮波羅蜜多を行ずるなりと。憍尸迦、若し善男子善女人等、 慮を修行する有らば是れ靜慮波羅蜜多を行ずるなり。復た是の說を作さん、 は淨著しは不淨を說き受想行識の著しは淨著しは不淨を說き,著し能く是の如き等の法に依りて靜 常を說き受想行識の若しは常若しは無常を設き、色の若しは樂若しは苦を說き受想行識の若しは樂 若しは我若しは無我を求むべし。色の若しは淨若しは不淨を求むべし。 佛言はく、心情尸迦、若し善男子善女人等、無上菩提の心を發せる者の爲に色い若しは常若 は無我を求め、 く色の若しは常若しは無常を求め受想行識の若しは常若しは無常を求め、 處乃至意處。 心色處乃至法處。 色の若しは淨若しは不淨を求め受想行識の若しは淨若しは不淨を求め、 的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。b 身界乃至諸受。 しは無常を求むべし。 若し能く是の如き等の 色の若しは樂若しは苦 靜慮を行ずる者は色の 色の若しは樂若 色の若 しは無 は

卷の第一百三十八

初分校量功德品 十五之三十六

b)舌界乃至諸受。b)身界乃至諸受。 し意界乃至諸受。山地界乃至識界。山無明乃至老死愁歎苦憂。

(b)

前卷と同意

有所得相似靜慮波 …循尸迦如前所說當知吉是說發無上正等菩提心者」…… の場合に

(a)

似の般若波羅蜜多を說くと。 相似の般若波羅蜜多を行ずと爲すと說く。憍尸迦、前に說く所の如く當に知るべし皆是れ有所得相 受想行識の若しは淨若しは不淨を求め、此れ等の法に依りて般若を行する者は我れ名づけて有所得 若しは我若しは無我を求め、受想行識の若しは我若しは無我を求め色の若しは浮若しは不浮を求め しは常若しは無常を求め、色の若しは樂若しは苦を求め、受想行識の若しは樂若しは苦を求め、色の 行するなりと。憍尸迦、若し善男子善女人等、是の如く色の若しは常若しは無常を求め受想行識の若 若しは不淨を求むべし。若し能く是の如き等の法を求め般若を修行する有らば是れ般若波羅蜜多を 想行識の若しは我若しは無我を求むべし、色の若しは淨若しは不淨を求むべく受想行識の若しは淨

施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。四內室乃至無性自性空。四眞如乃至不思議界。四苦聖諦乃至道聖諦。 乃至諸受。(《身界乃至諸受。(《意界乃至諸受。(》地界乃至識界。(》無明乃至老死愁歎苦憂懶。(》)布(》) a四靜慮乃至四無色定 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a) 舌界

卷の第一百三十七

初分校量功德品第三十之三十五

佛の十カ乃至十八佛不共法。自無忘失法・恒住捨性。自一切智乃至一切相智。自一切陀羅尼門・一切 三摩地門。(4)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(4)一切の獨覺菩提。(4)一切の菩薩摩訶薩行。(4) 八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山 (a)

時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、云何が諸の善男子善女人等有所得の靜慮波羅蜜多を說

初分校量功德品第三十之三十四、

H

(1) 前巻と同意

静慮波羅蜜多乃至布施波羅蜜多を宣説すべ 文義を以て無上菩提心を發せし者の爲に般若波羅蜜多を宣説すべ の般若波羅蜜多を聞きて心便ち迷謬して中道を失す。 女人等有り、 安忍波羅蜜多。 他の為に相似の敬若波維蜜多を宜說し、初め無上菩提心を發せし者、 (c) 淨戒波羅蜜多。 4 (e) 布施波羅蜜多。 何を以ての故に、 是の故に無所得の慧を以て、及び種種巧妙 し。 (c) 憍尸迦, (c) 靜慮波羅蜜多。 當來低に於て善男子善 彼の所説 (e) 0 相似

卷の第一百三十六

初分校量功德品第三十之三十四

波羅蜜多を説かば是の如きを相似の般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を說くと名づくと。 くと名づくるやと。 爾の時天帝釋、 佛に白して言さく。 佛言はく、 憍尸迦、 世尊、 若し善男子善女人等、 云何が相似の般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多 有所得の般若靜慮精進安忍淨戒 を説 布 施

は色の岩 の若しは淨若しは不淨を說き受想行識の若しは淨若しは不淨を說き、 しは無常を説き受想行識の若しは常無しは無常を説き、 L りて般若を修行する有らば是れ般若波羅蜜多を行するなり。 しは樂岩 べくを は苦を求むべく受想行識の若しは樂若しは苦を求むべし、 佛言はく、 時に天帝縄復た佛に白して言さく、 相 しは常若 しば苦を説き、 似の般若波羅蜜多を說くと名づくるやと。 回橋尸迦、若し善男子善女人等、無上正等菩提の心を發せし者の質に しは無常を求むべく受想行識の若しは常若しは無常を求む 色の若しは我若しは無我を說き受想行識の若しは我若しは無我を說 世尊、 云何が諸の善男子善女人等、 色の若しは樂若しは苦を説き受想行識の 色の若しは我若しは無我を求むべく受 復た是の説を作さん、 若し能く 有所得の般若波羅蜜多を ~ 是の 色の若しは 般若を行 如き等の法に依 色の若しは常岩 する者

> (の)「懶尸塩於宮來世…………」 宮發無上菩提心者宜配般岩波 羅蜜多」

【一】相似般若を廣説す。

(二) 相似の般若波羅蜜多。 (三) 相似の般若波羅蜜多」 放羅蜜多」

【三】 色の若しは常等。色は 無常なりとし、無常觀これ般 無常なりとし、無常觀これ般 に無相不二に合せず、相似な て略し以下只だ其の諸法のみ他は皆同じき故之を符號(3)に大不に出す諸法を挿入せばに永下に出す諸法を挿入せば

出す。

,

2

T 4. 4. 000 11

子喜女人等は無量無數 是の善男子善女人等の 無量門を以て他の爲に廣 男子善女人等有りて自ら般若波羅蜜多に於て受持讀誦 を

虚くすまで

無量

種上

妙の

花

を

散
等の

香

衣
服 くすまで清淨の樂具 0 切の を證すべく、 如來應正等覺は皆般若波羅蜜多を學するに 今無上正等菩提を證でればなり。 獲る所の福聚は甚だ前よりも多し。 もて十方無量無數世界の一 無邊不可思議 説し宣示し開演し顯了し解釋し義趣を分別し其れ 0 大功德聚を成就す。 瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有 切の如來應正等覺を供養恭敬尊重讃歎 し理の如く思惟し復た種種巧 由りて已に無上正等菩提を證 橋尸迦、 何を以ての故に、 若し善男子善女人等、 をして解し易 橋尸迦、 妙の文義 彼の過去未 し、 から 世 當に 其の形 h K めば を

を分別 く思惟し復た種種巧妙の文義を以て須臾を經る間他の爲に辯 行せんに、 男子善女人等安忍を修する時是の如き念を作さん、 戒を持つ時淨戒に住すと名づけ淨戒波羅蜜多と名づけず。 と名づけす。有所得を以て方便と爲すが故に。若し善男子善女人等淨戒を修する時是の は是れ忍の果及び忍の自性なりと。彼れ忍を修する時安忍に住すと名づけ安忍波羅蜜多と名づ た次に憍尸迦、 我れ能く戒を持つ、 とは謂 し其れをして解し易からしめば獲る所の福聚は甚だ前よりも多し。 此れ 善男子善女人等有り此の般若波羅蜜多に於て無所得を以て方便と爲し受持讀誦し は是れ ゆる善男子善女人等布施を修する時是の如き念を作さん、 無量無數無邊大劫に有所得を以て方便と爲して淨戒波羅蜜多乃至般若波羅蜜多 若し善男子善女人等、 施の果施及び施物なりと。 彼れに於て護ると属す、 無量無數無邊大劫に有所得を以て方便と爲し 彼れ施を行する時布施に住 我れ 此れ は是れ 能く忍を修す、 有所得を以て方便と爲すが故に。 沈し宣示し開演し 戒の果及び持つ 彼れ 我れ能く惠施す、彼れ 憍 尸 すと名づけ布施波羅蜜多 を護 所の 迦、 題了し 5 此の中言 戒 んが質の なり 如き念 て布施波羅 故 ふ所の て義 理 彼れ は是 を修 化作 0 如

此れ

ざると具足六度とを辨ず。

分校量功德品第三十之三十三

し善男子善女人等、

能

く種

種 妙

巧 0

の文義

を

以

7

是

0

如き般若波羅

蜜多を宣説 を宣説し開

し開 示す

示

せば、 1

是

0

善

男 岩

h

の元

の善男子善女人等

は種

種巧

文義を以て是の如き般若波羅蜜多

說

し開

示す L

しとの

は

1

憍尸

迦

是の

如

し是の は種

如

し、

汝が

所說

0 7

如

~

憍尸

0

带

天帝

佛に白

T

言さく、

世尊、 佛言

諸

の善男子

善女人等

種

妙

0

文義

を以

是

如

8

摩地門。 (h) 八解脫乃 (b) 至十 菩薩摩訶薩行。 八佛不共 處。山 法。 四念住乃至八 (a) (h) 無忘失法·恒住 無上正 等菩提。 聖道支。山 捨性。 空 解 (b) 脱門乃至 切 智 乃定 至 無願 切相 解 脱門 (b). Ŧi. 切陀羅 眼 . 六神 尼 通 (a) 切三 佛 0

善男子善女 を以 た次 他を教 に非ず 轨 言 宣示し き般若波羅蜜多を受持 入に非ず出 如 際 IC ふ所 き般若波羅蜜多を受持 って他の に憍尸 た次に K 非 すっ 開演 非 不 0 て是の 般若波羅蜜多の ず 和 不 一边、 合に 1 爲 非 橋戸 執 K し題了し解釋して義趣を分別し其れをし 實 17 非 K 如き般 際に 非ず、 非ず、 ず、 迦、 0) 癀 若し善男子善女人等、 獲 說 増に る所 非 若し善男子善女人等、 L 因緣に し若し 光光波羅 宣 すっ 住 一示し し若 非 0 IT 義趣とは此 福 是の 非ず ず減 開演 は讀 蜜多 衆は前の福聚に過ぐること無量 非 しは讀み若しは誦 如 -3-不 K が決深の き義 非ず、 し題了し 非因緣に 住 4 著し K の般素波羅 自ら般若波 非ず、 趣無量門有るを謂 は誦 義趣を解し易 染に非ず淨に非 解釋し 非ず、 此 の般著波羅蜜多に於て 實 L 理 IC 蜜 L 羅蜜 法に非 理の 非 多 義趣を分別し其れをして 0 如 す 0 て解し易から ニに 如く 多 く思惟 力》 不 ずい に於て受持 5 す 3. 實 非法 非ず 思惟 L K 無邊 生に 憍 むる者の 非 L て獲る 尸迦、 ず、 不二に に非ず、 1 なり 非ず滅に非ず、取に E て獲る所の功徳に勝らん。 讀 相 めて 400: 所 若し 應に 量門 獲る所の福聚 非ず、有相 誦 礼 獲 0 解し る所の 理 功 善男子善 如 非 李 德 以 D ず 17 不 如く 非ず 易からし 0 7 に非 相應 無 福 廣く他の 思惟し、 非真 楽は、 量 II 女 ず無相 非ず捨に 倍數 人等 K めば、 自ら 如 自らら なり。 K 驾 K 是の く廣 非ず 橋 K 非ず 非 説き 是 す、 復 如 4 0

自から如理思知 思惟 するに 分別する 勝るこ 9

理の如く思惟するを覺るなり。心眞如乃至不思議界。心苦聖諦乃至道聖諦。心四靜慮乃至四無色定。 靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多に於て受持讀誦し理の如く思惟するを覺るなり。 此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し理の如く思惟するを覺り、 住せしむるに勝らん。 皆十善業置四靜慮四無量四無色定五神通に安住せしむるに勝らん。 界の諸の有情類を教化して皆十善業道四靜慮四無量四無色定五神通に安住せしむるに勝らん。 色定五神通に安住せしむるに勝らん。憍尸迦、是の善男子善女人等の獲る所の福聚は亦た三千大千世 男子善女人等の獲る所の福聚は亦た中千世界の諸の有情類を教化して皆十善業道四辭意四無量四 有情類を教化して皆十善業道四靜慮四無量四無色定五神通に安住せしむるに勝らん。憍尸迦、是の 神通に安住せしむるに際らん。 女人等の獲る所の 教化して皆十善業道四靜麗四無量四無色定五神通に安住せしむるに勝らん。 洲東勝身洲の諸の有情類を教化して皆士善業道四鄰慮四無量四無色定五神通に安住せしむるに勝ら 無色定五神通に安住せしむるに勝らん。 是の善男子善女人等の獲る所の福聚は一膽部洲の諸の有情類を教化して皆十善業道四靜慮四無量四 非中不二に非さる行を以て內室に於て理の如く思惟するを覺り、 憍尸迦、 是の善男子善女人等の獲る所の福榮は亦た十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を敎化して 聚は亦た十方一 是の善男子善女人等の獲る所の福聚は亦た南贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸 一編聚は 岩 憍尸迦、 し善男子善女人等、 亦た 切世界の諸の有情類をして皆十善業道四靜慮四無量四無色定五神 此の中理の如く思惟するとは謂ゆる二に非す不二に非さる行を以 僑尸迹、 四 大洲の諸の有情類を教化して皆十善業道四靜慮四無量四無色定五 是の善男子善女人等の獲る所の職豪は亦た小千世界の諸 憍尸迦、是の善男子善女人等の獲る所の福聚は亦た南贍部 此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し理の如 復た二に非ず不二に非ざる行を以 復た外容乃至無性自性空に於て 憍尸迦、 憍尸迦、 是の善男子善女人等の (b) 憍尸迦、 是の善男子善 く思惟せば、 の有情類を 復た二 安

を略出す。 を略出す。 を略出す。 を略出す。

巻の第一百三十四

初分校量功德品第三十之三十二

て皆四靜慮四無量四無色定五神通を修學せしめば……(甲)=同シン 復た次に憍尸迦、四大洲の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、小千界の諸の有情類を教

て皆四靜慮四無量四無色定五神通を修學せしめば……(甲)=同ジ 一復た次に憍尸迦、小千界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、中千界の諸の有情類を教へ

を教化して皆四靜慮四無量四無色定五神通を修學せしめば……((甲)=同シ) 復た次に憍尸迦、中千界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、三千大千世界の諸の有情類

の如き世界の諸の有情類を教化して皆四靜慮四無量四無色定五神通を修學せしめば ……(甲) =同シ (何を以ての故に、憍尸迦、獨覺菩提の所有功德預流等に勝るること百千倍なるが故なり。マデ) 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、十方各殑伽沙等

巻の第一百三十五

THE COURT OF THE C

初分校量功德品第三十之三十三

住せしめより……(前巻最後の(甲)の績きより乃至最後まで)。 若し善男子善女人等、十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を教化して皆獨覺菩提に

方一切世界の諸の有情類を敦化して皆四靜處四無量四無色定五神通を修學せしめば……(甲)=同ジ) 復た次に憍尸迦、此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、十

初分校量功德品第三十之三十、一、二、三

五〇三

巻の第一百三十二

初分校量功德品第三十之三十

めより)……(前後最後の(甲)の續き乃至最後まで)。 (憍尸迦、若し善男子善女人等、三千大千世界の諸の有情類を教化して皆預流乃至阿羅漢果住せし

の如き世界の諸の有情類を教化して皆十善業道を修學せしめば……(甲)=同シ 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、十方各院伽沙等 復た次に憍尸迦、此の十方各殑伽沙等の如き世界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、十

方一切世界の諸の有情類を致化して皆十善業道を修學せしめば……(甲)=同ジ 復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、 瞻部洲の諸の有情類を教へて皆四靜慮四無量四無色定五

神通を修學せしめば……(甲)=同ジン

卷の第一百三十三

初分校量功德品第三十之三十一

類を教へて皆叫靜慮四無量四無色定五神道を修學せしめば……(甲)=同ジ 復た次に憍尸迦、瞻部洲の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、瞻部洲東 勝身洲の諸の有情

牛貨洲の諸の有情類を教へて皆四靜慮四無量四無色定五神通を修學せしめば……(甲)三同ジ 復た次に憍尸迦、瞻部洲東勝身洲の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、瞻部洲東勝身洲西

勝身洲西牛貨洲北倶盧洲の諸の有情類を教へて皆四靜慮四無量四無色定五神通を修學せしめば……

復た次に憍尸迦、贍部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、瞻部洲東

(a) 前巻と同意

(a)

(162)

及び諸佛の無上正等菩提。 至一切相智。()一切陀羅尼門、一切三摩地門。()預流乃至阿羅漢及び預流向預流果乃至阿羅漢向阿 羅漢果。 (3)獨覺及び獨覺菩提。 (4)一切の菩薩摩訶薩及び諸の菩薩摩訶薩行。 (4)一切の如來應正等覺

類を教へて皆十善業道を修學せしめば……(甲)=同ジン 復た次に憍尸迦、瞻部洲の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、贍部洲東勝身洲の諸の有情

西牛貨洲の諸の有情類を教へて皆十善業道を修學せしめば……(甲)ニ同シ 復た次に憍尸迦、贍部洲東勝身洲の諸の有情類を置きて、若し善男子善女人等、瞻部洲東勝身洲

卷の第一百三十一

初分校量功德品第三十之二十九

て皆十善業道を修學せしめば……(甲)ニ同ジ) 勝身洲西牛貨洲北倶鷹洲の諸の有情類を教へて皆十善業道を修學せしめば……(甲)=同ジ) 復た次に憍尸迦、瞻部洲東勝身洲西牛貨洲の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、瞻部洲東 復た次に憍尸迦、四大洲の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、小千界の諸の有情類を教

て皆十善業道を修學せしめば……((甲):同ジ) 復た次に橋尸迦、小千界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、中千界の諸の有情類を教

を教化して皆十善業道を修學せしめば……(甲)ニ同シ 復た次に憍尸迦、中千界の諸の有情類を置きて若し善男子善女人等、三千大千世界の諸の有情類

(況んや教へて一來不還阿羅漢果に住せしめて獲る所の福聚彼れに勝らざらんや。マデ)。

初分校量功德品第三十之二十九

(甲) 前卷と同

五〇二

ち世間 の中に に趣か · (a) る所 少光天・無量光天・極光淨天。 まで菩薩摩訶薩を供養恭敬尊 以ての故に、 證得し、 灭·三十三天·夜摩天·觀史多天·樂變化天·他化自在天。(a)梵衆天·梵輔天·梵會天· 大梵天。 るが故に 無繁天·無熱天·善現天·善見天·色究竟天。 の福聚は 是の る功徳 (a) 布 は廣く しむる の佛眼をして断ぜさらしむればなり。 K 施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 如き甚深般若波羅蜜多を書寫し他に施して讀 羅漢獨覺菩提有り、 無量上妙の花鬘塗散等の 菩薩摩訶薩有るに由るが故に便ち は前 世間 其れ て告獨覺菩提に安住せしめて 預流等に 憍尸迦、 K 切世出 如 0 便ち刹帝利大族・婆羅門 かず 福聚に勝ること無量無邊なりと。 0 勝ること百千倍なるが故なり。 7 世間の勝善法を說くが故なり。 切世間の若しは天若しは魔若 何を以ての故に、 重 菩薩摩訶薩有るに (a)淨天·少淨天·無量淨天·逼淨天。 讃歎す 提に安住 香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈 (a) 八解脫乃至十 べし。 (a)內容乃至無性自性空。 せし 大族・長者大族・居士大族有りて施設 佛寶法寶僧寶有りて 獲る所の福聚は、 僑尸迦、 (a) 空無邊處天·職無邊處天·無所有處天· 憍尸迦、 所以は何ん、 むるに如 由るが故に便ち如來應正等覺有りて無上正 若し有情を教 何を以て 誦し 此れに由りて當に 憍尸迦、 力 (a) しは梵若しは沙門若 す。 此 若し 菩薩摩訶薩有るに由るが故に a四念住乃至八聖道支。 の般若波羅蜜多秘 人有りて一 何を以 の故に、 は轉じて書寫 若し善男子善女人等、 a廣天·少廣天·無量廣天·廣 (a)真如乃至不思議界。 切世間歸依供養すればなり。 へて無上正等菩提に 7 是の如き般若波羅蜜 の故に、 知る 有情に教へ 明を以て諸の所有を鑑く しは婆羅門及び阿素洛 密藏 し廣く流布 ~ 得 し若し善男子善女人 憍尸迦、 可し。 0 中の所 て無上正 非想非非想處 趣かしめば則 學部洲 (a) 苦聖諦乃 便ち (a) 世 獨覺菩提 說 多秘 しめて獲 等菩提 四 (a) 果天。 大王 預流 0 0 光天・ 是を 法 密藏 諸 圣 0 0

35. 路佛も 薩より生じ 皆佛

世間便有利帝和大族海野門大大大族」の所に次下に出す諸立を符號(1)にて略し以下その法を入るれば他は皆同じき故法を入るれば他は皆同じき故法を入るれば他は皆同じき故法を入るれば他は皆同じき故法を入るれば他は皆同じき故法を入るれば他は皆同じき故法を入るれば他は皆同できない。

至道聖部。

(a)

四靜慮

四無色定。

(8) 五眼

六神通。

(a) 佛の

力乃至十八佛不共法。

(a)無忘失法、

恒住捨性。(a)

切智乃

(a) 空設

脫門乃至

温處。

めば、 乃至十八佛不共法·無忘失法·恒住捨性·一切智乃至一 を修學せしむるに勝らん。 無量無邊の佛法なり。皆是れ此の中に說く所の一 の補特伽羅此 種性の補特伽羅此 修學せば速に整聞 き般若波羅蜜多秘密藏の中には廣く一 多きや不やと。天帝釋言さく、甚だ多し世尊、 有情をして預流果に住せしめば獲る所の福聚は猶ほ 來不還阿羅漢果に住 贈部洲の諸の有情類を教 善業道を修學せしめば、 八解脫乃至十遍處、 是の善男子善女人等の獲る所の福聚は甚だ前よりも多し。 是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫し他に施して讀誦し、 內室乃至無性自性空、 憍尸迦、 若し諸の有情類預流果に住せば便ち永く三悪趣を脱するを得るが故なり。況んや教 の法を修學せば速に菩薩の正性離生に入り漸次に諸の菩薩行を修行して無上正等菩提 天帝釋に告げて言はく、 の法を修學せば速に獨覺の正性離生に入りて漸次に獨覺菩提を證得し。 の正性雑生に入りて頂流果を得、 是の如き般若波羅蜜多の中には廣く一切の無漏法を說くとは所謂布施乃至般若 せしめんに獲る所の福聚彼れに勝らざらんや。 四念住乃至八聖道支、空解脫門乃至無願解脫門、 何を以ての故に、 意に於て云何、 で皆預流 **真如乃至不思議界、** 憍尸迦、 切の無漏の法を説けばなり。鏧聞種性の補特伽羅、 來 是の善男子善女人等は此の因縁に由りて福を得ること 憍尸迦、 不還阿羅漢果に住せしめて獲る所の福聚は、 甚だ多し善逝と。 若し善男子善女人等、 切の無漏の法なり。 一來果を得、 切相智・一切陀羅尼門・一 苦聖諦智乃至道聖諦智、 諸の有ゆる十善業道を修行するも地獄傍生鬼 瞻部洲の諸の有情類を教化して皆十善業道 不還果を得、 何を以ての故に、憍尸迦、 若しは轉じて書寫し廣く流布せし 佛言はく、 略部洲の諸の有情類を數 憍尸迦、 憍尸迦、 憍尸迦、 五眼六神通、 切三摩地門、 阿羅漢果を得。 若し善男子善女人等 無漏四靜慮乃至四無 若し善男子善女人 若し善男子善 此の 佛の 菩薩種性 人有りて 及び餘の 是の 法を + へて 力 如

四九九

【二】 一切衆生に十善を行ぜしむるよりも般若受持の功徳あるを説く。

【□】 無漏に依り三乗を成じ 温繋に入る十善道の流轉に膝 る。 【□】 無漏空道の整悟に入る

身洲諸有情類」と改むるも

諸の如來應正等覺を生じ、諸の如來應正等覺に依りて聲聞獨覺而かも生するを得ればなり。是を以て **伎樂燈明を以て諸の所有を鑑くすまで供養恭敬尊重讃歎すべし。憍尸迦、我れ是の義を觀す、初め** 者は此の般若波羅蜜多に於て精動修學し究竟して阿羅漢果を證得し、獨覺を求むる者は此の般若波 妙珍奇の伎楽燈明を以て諸の所有を蠢くすまで供養恭敬尊重讃歎すべし。所以は何ん、聲聞を求むる の故に憍尸迦、若し大乘を求め獨覺乘を求め聲聞乘を求めんには諸の善男子善女人等皆應に此の甚 を以ての故に、憍尸迦、是の如き般者波羅蜜多は能く菩薩摩訶薩衆を生じ、此の菩薩摩訶薩衆より 香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎すべし。 るには亦た應に此の甚深般若波羅蜜多に於て至心に歸依し精動修學し、無量種上妙の花鬘塗散等の を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎せざらんや。憍尸迦、若し善男子善女人等聲聞乘或は獨覺乘を求む 迦、我れ已に成佛せるも尙ほ是の如き甚深般若波羅蜜多に選ひ依止して住し供養恭敬尊重。 歉す。況 て此の法に依りて供養恭敬尊重讃歎に住すべし。何をか此の法と謂ふ。所謂般若波羅蜜多なり。憍尸 らく、我れ此の法に依りて已に無上正等菩提を證せり。此の法は微妙甚深寂靜なり。我れ當に還つ 婆羅門人非人等の我れと等しき者有るを見ず、況んや當に勝ること有るべきやと。復た自ら思惟す 受くるに堪へんと。是の念を作す時、都て一切世間の若しは天若しは魔若しは梵若しは沙門若しは て無上正等覺を得し時是の思惟を作せり、我れ誰れに依りて住し、誰れか我が供養恭敬尊重讃歎を ば當に是の如き甚深般若波羅蜜多を書き無量種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の 羅蜜多に於て精動修學し究竟して獨覺菩提を證得し、大乘を求むる者は此の般若波羅蜜多に於て精 深般若波羅蜜多に於て至心に歸依し精勤修學し、無量種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶憧幡藍衆 し精動修學し、無量種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋紫妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有 んや善男子善女人等無上正等菩提を求めんと欲して而かも此の甚樑般若波羅蜜多に於て至心に歸依

記く。

得す。是を以ての故に、憍尸迦、若 妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで現在の如來應正等覺を供養恭敬尊重讃歎せんと欲 して漸次に獨覺菩提を證得し、菩薩種性の補特伽羅も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に依りて精動 修學して諸の聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に證入し復た漸く修行して無上正等菩提を證 證得す。憍尸迦、 せる菩薩摩訶薩なりと。是の菩薩摩訶薩も亦た般若波羅蜜多に依りて精勤修學して無上正等菩提を 修學して無上正等菩提を證得すればなり。憍尸迦、尊梵行者は當に知るべし即ち是れ不退轉地に住 羅蜜多に異らずと。何を以ての故に、憍尸迦、過去未來現在の賭佛は皆般者波羅蜜多に依りて精勤 い。當に知るべし般若波羅蜜多は如來應正等覺に異らずと。當に知るべし、如來應正等覺は般若波 復た他に此の經を施す功徳の多きに勝ること百千倍なり。憍尸迦、此の法師を敬ふこと當に佛を敬 義趣の如く廣く有情の爲に分別解說して正解を得せしめば、是の善男子善女人等の獲る所の 独書を得せしむるに由るが故なり。復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、能く般若波羅蜜多所說 しむる此の二福聚は後者を多しと為す。何を以ての故に、他に施す者は能く無量無邊の有情をして 惟すると、善男子善女人等有りて是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫し他に施して受持し廣く流布せ 妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎し、此の經說に依りて理の如く思 維蜜多は即ち是れ如來應正等覺なりと。當に知るべし、如來應正等覺は即ち是れ般若波羅蜜多なり ふが如く、亦た尊梵行者に率事するが如くすべし。何を以ての故に、憍尸迦、當に知るべし般若波 來不還阿羅漢を證得し、獨覺種性の補特伽羅も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に依りて精動修學 如 爾の時佛、 き甚深般若波羅蜜多を書寫し衆實もて嚴節し無量種上妙の花量途散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋象 天帝釋を讃めて言はく、善哉善哉、汝が所説の如し。憍尸迦、若し善男子善女人等、 聲聞種性の補特伽羅も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に依りて精動修學して質流 し善男子善女人等無量上妙の花量塗散等の香衣服瓔珞實幢幡蓋衆

施す者の其の福を多しと爲すと。 諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎する、此の二福聚は後者を多しと爲す。何を以ての故に、 法の如く安置せしめ、復た無量上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以 他より請うて佛の設利羅を得、寶函を以て盛り高勝處に置き復た無量上妙の花鬘塗散等の香衣服 て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎すると、意に於て云何、是の如き前後二種の福聚何者を し法の如く安置せしめ、復た無量上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以 善女人等有り他より請うて佛の設利羅を得、分ちて他に芥子の如き許りを施與し、彼れをして敬受 瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を持ちて諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎すると、 他より請うて佛の設利羅を得、 是の如き佛の設利羅を如來般涅槃の後に於て、一粒の芥子量の如きを得て種種に供養せしむればな き者には金剛喩三摩地力を以て。金剛身を碎きて芥子の如くならしめ、復た深廣大悲神力加持を以て 人等有りて他より請うて佛の設利羅を得、分ちて他に芥子の如き許りを施與し、彼れをして敬受し 路質幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎すると、善男子善女 多しと爲すやと。天帝釋言はく、世尊、我が佛の所說の法義を解する如くば、若し善男子善女人等、 切の如來應正等覺は本大悲を以て有情類を觀じ、賭佛の設利羅所に於て歸敬し供養して得度すべ 其の 福無邊にして天人の中に於て諸の妙樂を受け乃至最後に苦際を盡くすととを得。故に他に 我れ還つて汝に問はん、汝が意に隨ひて答へよ。若し善男子善女人等 寶函を以て盛り高勝處に置き、復た無量上妙の花鬘塗散等の香衣服 善男子

卷の第一百三十

初分校量功德品第三十之二十八

て供養せしむるを云ふ。 にその身を芥子の如く分散しにその身を芥子の如く分散し

他作と俱に無邊なるを說く。

(155)

甚深般若波羅蜜多を尊と爲し導と爲し修する所の淨戒波羅蜜多に執著する所無くして速に圓滿する 若波羅蜜多を修習す。此の因緣に由りて執著する所無く、修習する所をして速に圓滿することを得 て無所得を以て方便と爲して般若波羅蜜多を修習し、受想行識に於て無所得を以て方便と爲して般 習するが故に執著無く、修習する所をして速に圓滿することを得しむ。の是の菩薩摩訶薩は色に於 羅蜜多に執著する所無くして速に圓滿することを得。是の菩薩摩訶薩は般若を行ずる時、 般若波羅蜜多を尊と爲し導と爲し修する所の精進波羅蜜多に執著する所無くして速に圓滿すること 忍波羅蜜多に執著する所無くして連に圓滿することを得。是の菩薩摩訶薩は精進を行する時、 ことを得。是の菩薩摩訶薩は安忍を行ずる時、甚深級若波羅蜜多を尊と爲し導と爲し修する所の安 の布施波羅蜜多に執著する所無くして速に圓滿することを得。是の菩薩摩訶薩は淨戒を行する時、 に圓滿せしむ。是の菩薩摩訶薩は布施を行ずる時、甚深般若波羅蜜多を尊と爲し導と爲し修する所 慮を得す散亂を得す靜慮を行する者を得す。般若を得す惡慧を得す般若を行する者を得さるなり。 る者を得す。精進を行する時は精進を得す懈怠を得す精進を行する者を得す。靜慮を行する時は靜 は静戒を得す悪戒を得す浄戒を持つ者を得す。安忍を行する時は安忍を得す忿恚を得す安忍を行す 六種波羅蜜多を行す。布施を行する時は施者を得す受者を得す施及び施物を得す。淨戒を行する時 た餘の五波羅蜜多も行する耶と。佛言はく、 波羅蜜多を尊と爲し導と爲し修する所の般若波羅蜜多に執著する所無くして、速に圓滿することを 時に天帝釋復た佛に白して言さく、 復た次に憍尸迦、是の菩薩摩訶薩・ 是の菩薩摩訶薩は靜慮を行する時、甚深般若波羅蜜多を尊と爲し導と爲し修する所の 菩薩摩訶薩は甚深般若波羅蜜多を尊と爲し導と爲し一切の波羅蜜多を修習して速 世尊、 一切法に於て無所得を以て方便と為して般若波羅蜜多を修 憍尸迦、菩薩摩訶薩は無所得を以て方便と爲し具さに 菩薩摩訶薩は但だ般若波羅蜜多のみを行ずと属すや亦 甚深般若 靜慮波 甚深

を関具すべきを鋭く。

(の)「是菩薩滕河薩於色以無所得令所修智連得側滿」得令所修智連得側滿」得令所に大下に出す諸法を精入せば他は下に出す諸法を精入せば他は大いに大きない。

界乃至諸受。心意界乃至諸受。心地界乃至識界。心無明乃至老死愁歎苦憂惱。 亦た得可からず、 四無色定。山八解脫乃至十遍處。山四念住乃至八聖道支。山空解脫門乃至無願解脫門。山五眼 處。心色處乃至法處。心眼界乃至諸受。心耳界乃至諸受。心身界乃至諸受。心舌界乃至諸受。心身 有情の心行の境界差別を知ると雖も而かも我を得す有情・命者・生者・養者・士夫・數取趣者・意生・儒 蜜多は有所得に因りて現前するに非ざるが故なり。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は都て自性無く 童・作者・受者・知者・見者を得す。(1)是の菩薩摩訶薩は亦た色を得す受想行識を得す。(1)眼 羅蜜多、是れ無等等波羅蜜多なり。 時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ六波羅蜜多、是れ無上波 b)菩薩摩訶薩·菩薩摩訶薩法。b)三藐三佛陀·三藐三佛陀法。 心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法・恒住捨性。心一切智乃至 切三摩地門。心預流乃至阿羅漢。心預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。心獨覺・ い内室乃至無性自性空。 い真如乃至不思議界。 い苦聖諦乃至道聖諦。 い四靜慮乃至 能得所得及び二依處の性相皆空不可得なるが故なり。 世尊、菩薩摩訶薩は是の如き甚深般若波羅蜜多を修行して、一切 何を以ての故に、 一切相智。 心布施波羅蜜多乃至 此の般若波羅 處乃至意 切陀羅 .

すら得ず、 んや。菩薩と法とすら尚ほ不可得なり、況んや諸佛及び諸佛法を得んをやと。 菩薩摩訶薩は無所得を以て方便と爲し長夜に甚深般若波羅蜜多を修行するに尚ほ菩提及び薩埵 の時佛、 況んや菩薩摩訶薩を得んをや。此の菩薩摩訶薩既に不可得なり。 天帝釋に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。 豈に菩薩摩訶薩法を得 何を以ての故に、

> (b)「是菩薩縣訶薩亦不得色不 下に出す諸法を入るれば他は 下に出す諸法を入るれば他は 古同じき故之を符號(b)にて略

四九三

初分校量功態品第三十之二十七

bo 非ず、 を方便と爲すが故に、 無作を方便と属す 無性無相を方便と寫すが故に、 共深般者波羅蜜多に因りて現に獨覺菩提を證せり。 **覺も亦た是の** 聲聞 流果を得べく、 來應正等覺も皆是の如き洪深般若波羅蜜多に因りて現に無上正等菩提を證せり。 有色に非ず無色に非ず、 正等覺は皆是の き般 非ず無記に 密藏の中には廣く三乘相應の法を說くが故なり。 一の弟子も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に因りて現に預流果を得、 き甚深般若波維蜜多に因りて當に無上正等菩提を得べく、現在十方無量無數無邊世界 學に非ず無學に非ず非學非無學に非ず、 陸に非 非 世間に非ず、 如き甚深般若波羅蜜多に因りて當に獨覺菩提を證すべく、現在の獨覺も亦た是 過去の獨覺も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に因りて已に獨覺菩提を證し、 察聞の弟子も亦た是の如き共深般若波羅蜜多に因りて已に預流果を得、 非ず、 蜜多は般若波 當に 如き甚 水に非ず、 未來の如來應正等覺の聲聞の弟子も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に因りて當に が故に、無入無出を方便と爲すが故に、 一來不還阿羅漢果を得べく、 過去に非ず未來に非ず現在に非ず、 是の如き所説は世俗に由るが故に、 深般若波羅蜜多に因りて己に無上正等菩提を證し、 有見に非ず無見に非ず、 有漏に非ず無漏に非ず、 高に非ず下に非ず、 雜 無生無滅を方便と爲すが故に、 蜜多に非ず、 見所斷に非字修所斷に非字非所斷に非字、 非般若波羅 平等に非す不平等に非す、 有對に 現在十方無量無數無邊世界 有爲に非ず無爲に非ず、有罪に非ず無罪に非す、 何を以ての故に、憍尸迦、 然かも此の所説は無所得を方便と爲すが故 非ず無對に非ず、 蜜多に非ず、 無増無減を方便と爲すが故に、 欲界繋に非ず色界繋に非ず無色界 勝義に非さるが故なり。 無染無淨を方便と爲すが故に、 此岸に非ず彼岸に非 現に 有相に非ず 善に非ず不善に非ず、 朱來の如來應 一來不還阿羅漢を得 是の如き般若波羅 切の如來應 橋尸迦、 所以は何 。己に 無相 有に非字空 等 未來の ず中流 無取 正等覺 に非ず、 過去の 覺も皆是 繋に非 一の如き ん、 切の 無造 有 是 K 猫 70 預

【*】 般若は三乗を廣設する は無所得無相乃至不取不捨を 付際に由る、第一義踏より祝 俗跡に由る、第一義踏より祝

處乃至意處、(4)色處乃至法處,(4)眼界乃至諸受、(4)耳界乃至諸受、(4)鼻界乃至諸受、(4)舌界乃至諸 儒道性無く作者性無く受者性無く知者性無く見者性無く、回著しは色性無く受想行識性無く、 ゆる我性無く有情性無く命者性無く生者性無く養育者性無く士夫性無く補特伽羅性無く意生性無く 無滅・無住無異・無染無淨・無增無減・無相無爲・無性自性なり。云何が名づけて無性自性と爲すや。謂 (a) (身界乃至諸受、自意界乃至諸受、山地界乃至識界、自無明乃至老死愁歎苦憂惱、自布施波羅蜜 眼

六神通 乃至敝若波羅蜜多,自內空乃至無性自性空、自真如乃至不思議界、自苦聖諦乃至道聖諦、 乃至四無色定、《八解脫乃至十遍處、《四念住乃至八聖道支、《空解脫門乃至念》 a)菩薩摩訶薩、 (a) 佛の 切三摩地門、 十九乃至十八佛不共法、匈無忘失法、 菩薩摩訶薩行、 (a) 預流乃至阿羅漢、 (a)三藐三佛陀、 (1) 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果、(1) 獨覺、 恒住捨性、a 阿耨多羅三藐三菩提、 一切智乃至 a)善法·不善·無記法 無願解脫門、 切相智、 (a) (a) 四靜慮 (a) 切陀 五眼

く、室・無所有・無相・無狀・無言・無説・無覺・ 修所斷·非所斷法、(a)有色法·無色法、 a過去法·未來·現在法、 (a)有罪法·無罪法、 (A) 欲界繫法·色界繫·無色界繫法、(A)學法·無學·非學非無學法、(A) 見所斷法· (a)世間法·出世間法、 a有見法·無見法、 無知なり。 a)雜染法·清淨法、 是の如きを名づけて無性自性と為す。 (a) 有對法·無對法, 是の如き等の無量門 (a)有漏法·無漏法、 (a) 有 性

如き諸法の無性自性を皆悉く名づけて無為法性と爲すと。 の時佛、 天帝釋に告げて言はく、 是の如 し是の如し、 汝が所説の如く、憍尸迦、 過去の如來應

ひ、諸法の無性自性に名く。に反して、生滅作相無きを云いた反して、生滅作相無きを云いた。先の有爲法

至十八佛不共法智、若しは無忘失法智、恒住捨性智、若しは一切智智乃至一切相智智、 至八聖道支智、者しは空解脱門智乃至無願解脱門智、 乃至道聖諦智、若しは四靜慮智乃至四無色定智、若しは八解眈智乃至十遍處智、 若しは鼻界智乃至諸受智、若しは舌界智乃至諸受智、若しは身界智乃至諸受智、若しは意界智乃至 の如 眼處智乃至意處智、 伽羅智・意生智・儒童智・作者智・受者智・智者智・見者智、若しは色智・受智・想智・行智・識智、 何が名づけて有爲法性と爲すや。謂ゆる如實に我智・有情智・命者智・生者智・養者智・士夫智・補特 の爲に宣説流布すべし。世尊、若し善男善女人等、般若波羅蜜多を修行せんには應に法性を以 若波羅蜜多に於て供養恭敬尊重讃歎し至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し廣く有情 に十方三世一 持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣説流布すべし。 を見るを得んと欲せば、 || 宋應正等覺に於て || 隨佛念を修すべし。世尊、法性に二有り。一には有爲、二には無爲なり。云 若しは獨覺智、 若しは地界智乃至識界智、若しは無明智乃至老死愁歎苦憂惱智、若しは布施波維 若し善男子善女人等、 一切三摩地門智、若しは預流智乃至阿羅漢智、若しは預流向預流果智乃至阿羅漢向阿羅 切の如來應正等覺の法身・色身・智慧身等を見るを得んと欲せば、 若しは内室智乃至無性自性空智、若しは真如智乃至不思議界智、 若しは色處智乃至法處智、若しは眼界智乃至諸受智、若しは耳界智乃至諸受智、 若しは善法智・不善法智・無記法智、 獨覺菩提智、若しは菩薩摩訶薩智、 當に是の如き甚深般若波羅蜜多に於て供養恭敬尊重讃歎し至心に聽聞し受 常に此の佛土 の中に現に在す如來應正等覺の法身・色身・智慧身等 若しは五眼智、六神通智、 者しは過去法智·未來法智·現在法智、 菩薩摩訶薩行智、若しは三藐三佛陀智、 世尊、 若し善男子善女人等常 當に是の如き甚深般 若しは佛十力智乃 若しは四念住智乃 若しは苦聖諦智 若しは一切 無蜜多乃至 若しは て諸

若しは欲界緊法智・色界緊法智・無色界緊法智、若しは學法智・無學法智・非學非無學法智、

若しは見

の作相とす。の作相とす。の作相とす。を無今有有已還無を有為の。 先無今有有已還無を有為の。

法身、色身を觀ずるを

なり。 尊ろ是の如き般若波羅蜜多を取るなり。世尊、 羅蜜多に於て供養恭敬尊重讃歎して獲る所の功徳は甚だ彼れよりも多し。 敬尊重讃歎せば則ち爲れ一切の佛法を增長するなり亦た爲れ出世間 の所に於て信受せさるに非ず欣樂せさるに非ず、供養恭敬尊重讃歎す。 する所に隨ひて饒盆を作し、漸次に乃至無上正等菩提を證得す。是の故に世尊、 大族に生れ、或は天帝釋と爲り、或は大梵王と爲り、或は毘沙門と爲り、 は小國王と作り、 勝思願を起し種種の身を受け、或は大轉輪王と作り、或は小轉輪王と作り、或は大國王と作り、 佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し正法を聽聞し佛土を嚴淨し、諸の有情を成熟せんと欲するが爲の故に、 己つて復た菩薩の勝妙神通を得、 た整聞地及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に證入せしめ、 りて復た修習 是の如きは已に佛の設利羅を供養恭敬尊重讃歎すと爲す。 此れに由りて復た修習無忘失法、恒住捨性をして圓滿することを得せしむ。 一切陀羅尼門、一切三摩地門をして圓滿することを得せしむ。世尊、 或は刹帝利大族に生れ、或は婆羅門大族に生れ、或は長者大族に生れ、或は居士 此の神通に乗じて諸の佛土に遊び、一佛國より一佛國に至りて諸 若し善男子善女人等是の如き般若波羅蜜多を供養恭 既に菩薩の正性離性位に證入するを得 切の富貴安樂自在を攝受する 然かも是の如 是の因緣に由りて我が意 或は持國等と爲り、 我れ諸佛の設利羅 世尊、 此れに由 き甚深般若波 りつ n 應現 に由

卷の第一百二十九

初分校量功德品第三十之二十七

來應正等覺の 養恭敬尊重讃歎し至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟 復た次に世尊、若し善男子善女人等、常に十方無數無邊世界の現に妙法を說きたまへる一切の如 法身・色身・智慧身等を見るを得んと欲せば、當に是の如き甚深般若波羅蜜多に於て し廣く有情の爲に宣説流布す 供

初分校量功德品第三十之二十七

四八九

と、智慧身は般若慧を云ふ。とは三十二相等の相好身のととは三十二相等の相好身のととは三十二相等の相好身のと

門乃至無願解脫門をして圓滿することを得せしむ。世尊、此れに由りて復た修習五眼六神通をして 住内室乃至無性自性室をして圓滿するを得せしむ。世尊、此れに由りて復た安住眞如乃至不思議界 佛の設利羅を供養恭敬尊重讃歎せば、是の善男子善女人等は此の善根に由りて人天の中に於て富貴 とを得せしむ。世尊、此れに由りて復た修習一切智乃至一切相智をして閩滿することを得せしむ。 圓滿することを得せしむ。世尊、此れに由りて復た修習佛十力乃至十八佛不共法をして圓滿すると 復た修習四念住乃至八聖道支をして間滿することを得せしむ。世尊、此れに由りて復た修習空解脱 世尊、此れに由りて復た修習八解脱乃至十遍處をして圓滿することを得せしむ。世尊、此れに由りて 滿するを得るが故に復た布施波羅蜜多をして圓滿することを得せしむ。世尊、此れに由りて復た安 圓滿するを得るが故に復た淨戒波羅蜜多をして圓滿することを得せしむ。是の如く淨戒波羅蜜多圓 多圓滿するを得るが故に復た安忍波羅蜜多をして圓滿することを得せしむ。是の如〈安忍波羅蜜多 蜜多圓滿するを得るが故に復た精進波羅蜜多をして間滿することを得せしむ。是の如く精進波羅 若波羅蜜多圓滿するを得るが故に復た靜慮波羅蜜多をして圓滿するを得せしむ。是の如く靜慮波羅 誦心書寫解說し理の如く思惟せば此の般若波羅蜜多に由りて便ち圓滿することを得ん。是の如く般 苦緊を盡くすことを得ん。世尊、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀 多天・樂變化天・他化自在天の中の富貴の樂を受け、即ち是の如き殊勝の善根に由りて最後身に至り の樂を受く、所謂刹帝利大族・婆羅門大族・長者大族・居士大族・四大王衆天・三十三天・夜摩天・親史 掲路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等の供養恭敬尊重讃敷を受くるに堪ふ。世尊、若し善男子善女人等、 の設利羅は皆是の如き甚深啟若波羅蜜多の低る所の器と爲るが故に、一切の天龍藥叉健達縛阿素洛 とを得せしむ。世尊、此れに由りて復た修習四靜慮乃至四無色定をして圓滿することを得せしむ。 をして圓滿することを得せしむ。世尊、此れに由りて復た安住苦聖諦乃至道聖諦をして圓滿するこ

1)

蜜多の薫修する所なるが故に、 敬尊重讃歎を受くるに堪ふ。 なるが故に。 是れ極めて清淨なり、 復た次に(c)世尊、 切世間天人阿素洛等の供養恭敬尊重讃歎を受くるに堪ふ。 佛の設利羅は是れ極めて圓滿なり、甚深般若波羅蜜多の薫修する所なるが故に、 甚深般若波羅蜜多の依る所の器なるが故に。 世尊、 是れ極めて清淨なり、 佛の設利羅は是れ極めて関滿なり、 靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の依る所の器 切世間天人阿素洛等の供養恭 靜慮精進安忍淨戒布 施波維

相智。 (c) (c) 五眼·六神通。 四靜慮乃至四無色定。 (c)安住內空乃至安住無性自性空。 (c)無生無滅波羅蜜多。 (c)無忘失法·恒住捨性。(c)永斷一切相續煩惱習氣。 (で佛の十カ乃至十八佛不共法。 (6)八解脫乃至十遍處。(6)四念住乃至八聖道支。(6) 空解脫門乃至無願解脫門。 (c) 無入無出波羅蜜多。 ©安住真如乃至安住不思議界。©安住苦聖諦乃至安住道聖諦。 (c) (c)無增無減波羅蜜多。 切陀羅尼門・一切三摩地門。 (c)功德珍寶波羅蜜多。 (c)無來無去波羅 (c)無染無淨波羅蜜 (c) 一 切智 乃至 (c) 無 切

無止波羅蜜多。

(c)無此無彼波羅蜜多。

(c) 諸法實性波羅蜜多。

諸の設利羅は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に因り に充滿せる佛の設利羅、 設利羅に皆是の如 此の二分中我が意尊ろ是の如き般若波羅蜜多を取る。 た次に世尊、 三千大千世界に滿てる佛の設利羅を置きて假使ひ十方各院伽沙等の如 き甚深般若波羅蜜多に 以て一分と爲し、是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫して復た一 由りて薫修する所なるが故に、 て生するを得るが故 何を以ての故に、 亿 切の 切 0 切の如來應正等覺の 如 如來應正等覺の諧 來應正等覺の諸 がき諸 分と爲さん

右の文中「甚深般若……布 多所世器故………布施波羅蜜 深般若波羅蜜多……是極國滿甚 徳を讃ず。 より供養さるべく 直證数」 更に合利の般若修熏に 般若の大功

の諸法のみ略出す。 故之を符號(の)にて略し以下そ 故之を符號(の)にて略し以下そ

設利羅も此の靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多に由りて生するを得るが故に、 ての故に、 るに堪ふ。 何を以ての故に、是の如き般若波維蜜多の功德は深廣にして量無邊なるが故なり。 の無量清淨殊勝の功德を引發 しむ。 天上に有る者は威徳殊勝にして人中の珠に比ぶるに過ぐること無量倍なりと。 し天上に在らば形大にして輕し。又た人中の者は相具足せず、若し天上に在らば其の相周圓 有る耶と。天帝釋言はく、大德、人中天上俱に此の珠有り、 足し成就せしむ。設ひ空箱篋なるも曾て珠を置きしに由りて其の器仍ち衆人に愛重せられんと。時に の般若波羅蜜多に由りて生するを得るが故に、一切世間の天人阿素洛等の供養恭敬尊重讃歎を受く に白して言さく、 切智智に喩ふるなり。 威徳は無邊にして說くとも盡くす可からず。若し箱篋に置かば亦た其の器をして無邊の威徳を具 所在の 世尊、說く所の無價大寶神珠は但だ甚深般若波羅蜜多のみに於て喩ふるに非す、 世尊、甚深靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の功徳の分限は稱讃す可きこと難し。 天帝釋に問ふて言はく、憍尸迦、是の如き神珠は天にのみ獨り有りと為すや人にも亦た 是の如き靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の功德は深廣にして量無邊なるが故なり。 **處に隨ひて諸の有情の身心の苦惱をして悉く告銷減し、** 世尊、甚深般若波羅蜜多も亦復是の如し、衆の德本と爲り能く無量心惡不善法 数を受くるに堪ふ。 仙尊、 すっ 是の如き般若波羅蜜多は無量殊勝の功德を具足し亦た能く し世尊、 甚深般若波維蜜多の功徳の分限は稱讃す可きこと難 若し人中に在らば形小にして重く、若 人非人等に害を爲す能はさら 一切世間の天人阿素洛 時に天帝釋り 佛の設利羅も此 亦た如來の 世出世間 何を以 復た佛 なり。 佛の

十力乃至十八佛不共法。心一切陀羅尼門・一切三摩地門。心 八解脫乃至十遍處。 內空乃至無性自性空。 い四念住乃至八聖道支。心室解脫門乃至無願解脫門。 b真如乃至不思議界。 心苦聖諦乃至道聖諦。 切智乃至一切相智。心無忘失法。恒住 b 四靜慮乃至四無色定。b) い五眼·六神通。 い佛の

> (b)「世尊甚深毅若波羅蜜多… 作設利疑由此靜度……布 施波羅蜜多而得座故塘受一切 施波羅蜜多而得座故塘受一切 重讃歎」 右の文中「般若乃至布施波羅 蜜多」の代りに次下に出す諸 法を代入せば他は昔同じき故 法を代入せば他は昔同じき故 法を代入せば他は

珠有らば蛇蝎等の毒敢へて停止するとと無し。設ひ男子或は復た女人有りて毒に中てられ楚痛忍び て此の神珠を裹み之を水に投すれば水衣の綵りに隨ひて種種の色を作さん。是の如く無價大寶神珠 投すれば水便ち盈滿し、香潔澄淨にして八功德を具せん。若し青黃赤白紅紫碧綠雜綺種種の色衣を以 **ビ染病皆愈ゆ。若し諸の池沼泉井等の中の其の水濁穢し或は將に枯涸せんとするに珠を以て之れ** られ身心苦惱せんに若し此の神珠を持ちて之に示す有らば珠の威力に由りて鬼便ち捨て去らん。,諸 て此の神珠有らば人及び非人終に惱害すること無きが如し。設ひ男子或は復た女人有りて鬼に執せ 作す。世尊、是の如き般若波羅蜜多は大神用有り此の三千大千國土に於て大佛事を作す。 をば除く。世尊、是の如き般若波羅蜜多は大威力を具し所在の處に隨ひて諸の有情の與に大饒益を せられず、唯だ決定して悪業の受くべく、漸次に修學して其の所願に隨ひ乃至三乘涅槃を證得する 羅蜜多を受持讀誦し書寫解說し供養恭敬尊重讃歎する有らば是の處の有情は一切の人非人等に悩害 に出現し一切を利樂すと。世尊、譬へば「無價大寶神珠の無量種勝妙の威德を具し所住の處に隨ひ し世界の中是の如き甚深般若波羅蜜多を流行せしめば當に知るべし是の處は則ち爲れ佛有りて世間 からんに若し此の神珠を持ちて見せしむる有らば珠の威勢の故に毒即ち消滅せん。 病除こり愈えざる無し。 熱病或は風或は痰或は熱風痰合集し病を爲す有らんに若し此神珠を繋けて身に著くれば是の如 世尊、若し此の三千大千世界或は餘の世界の所有る王都城邑聚落に其の中に若し是の如き般者波 癩疾惡瘡腫疱目睞臀等に関り眼病み耳病み鼻病み舌病み喉病み身病まんに此の神珠を帶ぶれ 地方に隨ひて此の神珠の有る所、 此の珠暗に在れば能く照明を作し、熱き時は能く涼しく、 時節調和して寒からず熱からず。若し地方の處に此 寒き時は能 若し諸の有情 世尊、若

義にて如意珠をいふ。

a.佛の十力乃至十八佛不共、@法無念失法·恒住捨性、@一切智乃至 得るが故に、国内空乃至無性自性空、国真如乃至不思議界、苦聖諦乃至道聖諦、国四靜慮乃至四無色 するを得るが故に、(a)世尊、 に由りて佛の設利羅、及び佛の得たまへる所の三十二種大丈夫相、八十暗好 此の二分中我が意撃ろ是の如き般若波羅蜜多を取ると。何を以ての故に、世尊、此の般若波羅蜜多 せる佛の設利羅、以て一分と爲さんに、是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫して復た一分と爲さば、 りて成就するを得。世尊、此の緣に由るが故に我れ是の說を作す。假使ひ此の三千大千世界に充滿 るるが故に諸の天人阿素洛等に供養恭敬尊重讃歎せらる。世尊、一切智智も亦た般若波羅蜜多に依 養恭敬尊重讃歎せらるるが如く、佛の設利羅も亦復た是の如し、此の般若波羅蜜多に由りて薫修せら を離るるを得るが如し。 **懺怖畏を選離す。世尊、負債人は債主を怖畏するも即便ち王に率事親近せば王の勢力に依りて怖畏** 奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎せば、是の善男子善女人等は 說流布し、或は復た書寫して衆寶もて莊嚴し無量種上妙の華蠶餘散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍 の警男子幹女人等は決定して當に菩薩摩訶薩の不退地に住すべきが故なり。世尊、若し善男子善女人 蔑戾車の中に<u>墜せす常に諸根を具し</u>聰明端正にして**聲聞及び獨覺地に墮せす。何を**以ての故に、是 く思維し廣く有情の爲に宣説流布せば、是の善男子善女人等は當來世に於て地獄傍生鬼界邊鄙達絜 の身心は倶に壊す可からず、金剛に踰ゆること無數倍なるが故に、 此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宜 (a)八解脫乃至十遍處、(a)四念住乃至八聖道支、(a)空解脫門乃至無願解脫門、 a) 一切の薩菩摩訶薩行、 世尊、譬へば人有り王に依附するが故に、王攝受するが故に諸の世人に供 此の般若波羅蜜多に由りて布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多圓淨を (a)諸佛の無上正等菩提。 世尊、 一切相智 世尊、此の般若波羅蜜多の威 此の般若波羅蜜多に由りて諸 莊嚴する所の身、生 (a) 一切陀羅尼門·一 (a)五眼·六神通 切の衰

製練乃至論議を十二部数と

(1)「世尊由此般若波羅蜜多布施………般若波羅蜜多得圖 神族」の所に以下に出す諸法 審多」の所に以下に出す諸法 審多」の所に以下に出す諸法 審多」の所に以下に出す諸法 を符號(4)にて略し以下その諸

説し 方世界 若し十方界の 無量種上妙の花鬢塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋業妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで十 し。 領。記別・諷領・自説・因縁・本事・本生・方廣・希法・譬喩・論議を宣説したまはんに、 しは三示導、 見ると北 に説かん の有情の 正等覺とは平等にして二無く二分無きが故なり。 所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎 論議を宣説したまはんに、 たまふ所の十二分数は皆般若波羅蜜多に依りて出生するが故なり。 何を以ての故に、 此の般者波雞蜜多に於て受持讀誦し廣く他の為に説か 多を書寫し、 の競伽沙 僞に K. のニ 若しは宣說したまふ所の十二分教は皆般若波羅蜜多に依りて出生するが故なり。世尊、 死伽沙の 此の二功德平等に 正法の所謂、 功徳平等にして異ること無し。 如き 亦た無量上妙の花量塗散等の香衣服瓔珞遺幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸 如き一 若しは十方界の殑伽沙の如き一 切の如來應正等覺を供養恭敬尊重讃歎せんに、 契經・應頌・記別・諷頌・自説・因縁・本事・本生・方廣 切の如來應正等覺三示導に住し、 若し善男子善女人等、 して異ること無し。 せば此の二 何を以ての故に、 功徳は平等にして異ること無し。何を以ての故に、 何を以ての故に、 此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し廣く他の 切の如來應正等覺、 若し如來應正等覺有りて ば、 此の二功德は平等に 是の如き般若波羅蜜多 諸の有情の爲に 若しは彼 善男子善女人等有りて般若 世尊、若し善男子善女人等、 若しは三示導、 E 0 若し善男子善女 法の所謂契經 如來應 三示導に して異ること無 ·希法·醫喻 F 等覺、 0 住 如來應 は宣 應 若

卷の第一百二十八

0

諸

0

如來應正等覺は皆般若波羅蜜多に依

りて出生するが故なり。

初分校量 功德品第

若し善男子善女人等、 此 0 般若波羅 蜜 多 K 於て 至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し 理の 如

分校量功德品第三十之二十六

(三) 三示導。 しきを説き 般若の 開船の 說

といいの 教誠の三神變をいふ。 契ひ機根に合するが故に契三」 契經(Sutra) 経文は理 経文は

ともいふ。佛が弟子の成佛 高前の所説に應じて重三」 應項 Geyn 重領と するもの。 記別(Vyākaraha)授 領とも ね TV

句なり。 を讃し三寶の功徳を頌する ることを記するなり。 調頌(Gāthā) 深妙 0 言理

法の因緣、佛の說法教化の因 興を述べたまへるもの。 「云」自説(Udāna)佛自ら感 を記くも (143)

去世の因縁を鋭くもので 廣大の眞理を說くもの。 子の過去世の因終を說くも 本事(Itivataka)佛弟 方廣 本生 希法(Apbhuta-dhurma) (Jātaka) 佛 (Vaipulya) のの過 0

記せるもの。 喩を説く所なり 神力不思議を現じたまふ 未會有とも云ふ。佛が種種 學像(Avadama) 經中學

論識(Upadson) 法 理 李

生鬼界邊鄙達絮 農民車の中に堕せず、聲聞及び獨覺地に墮せす必ず無上正等菩提に趣き常に諸佛 服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て爲に供養す。 を見たてまつり、恒に正法を聞き、善友を離れず、佛土を厳浄し有情を成熟し、一佛國より一佛國 燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎せば是の善男子善女人等は決定して復た地獄傍 し、或は復た書寫し衆寶もて莊嚴し無量種上妙の花蜜塗散等の香衣服璎珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂 般者波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し 精勤修學し理の如く 思惟し廣く 有情の爲に 宣說流布 燈明を以て諸の所有を盡くすまでの供養恭敬尊重讃歎を受くべし。世尊、若し善男子善女人等此の 蜜多は應に一切世間天人阿素洛等の無量種上妙の華鬘整散等の香衣服瓔珞寶幢幡藍衆妙珍奇の伎樂 等菩提を證得し、諸の有情の爲に一切法の無相無狀無言無說なるを說く。 狀有言有説に非さるに由り、是の放に如來應正等覺は一切法の無相無狀無言無說なるを知り無上正 無相無狀無言無說なるを說くべからず。世尊、此の駁若波羅蜜多は無相無狀無言無說にして有相有 に趣きて諸佛世尊及び諸の菩薩摩訶薩衆を供養恭敬尊重讃歎し、能く無量上妙の華鬘常散等の香衣 一切法の無相無狀無言無說なるを知り無上正等菩提を證得し、諸の有情の爲に一切法の 世尊、是の故に般若波羅 【三七】 達架。姓にDasyu 達

三栗法に乗じて涅槃に趣く。世尊、岩し如來應正等覺を見ると若し寫せし所の甚深般若波羅蜜多を 定して復た三悪趣に堕ちず、常に天人に生れて諸の快樂を受け、富貴自在にして心の所願に隨ひ、 千界の佛の設利羅は皆般若波羅蜜多の功德勢力の薫修する所に由るが故に、諸の天人阿素洛等の供 に、一切の如來應正等覺及び三千界の佛の設利羅は皆般若波羅蜜多より出生するが故なり。又た三 多を書寫して復た一分と爲し、此の二分中、我が意寧ろ是の如き般若波羅蜜多を取る。何を以ての故 養恭敬尊重讃歎を得。此の因縁に由り諸の善男子善女人等佛の設利羅を供養恭敬尊重讃歎するに決 世尊、假使ひ此の三千大千世界に充滿せる佛の設利羅以て一分と爲し、是の如き甚深般若波羅蜜

【八】 蔑戾車 Mlecolin 邊地、 とも云ふ邊國變族の名。

を取る。
を取る。

成此の處は是れ天帝釋、 及び諸の 利羅も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多の功德薫修するに由りて供養を得るが故なり。 等覺は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に因りて生ずるを得るが故に。 が故に、 健達縛阿素洛揚路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等有りて皆會に來集し、 **説流布する有らば當に知るべし是の處は恒に此の土丼びに餘の十方無邊世界に無量** 拜して去るべしと言はん。 亦た是の處に於て供養恭敬尊重讃歎し禮拜して去ると。何を以ての故に、 有情上妙の樂具は皆是の如き甚深般若波維蜜多に依りて起ることを得るが故に 諸天等の爲に說法せし座なり我れ等皆應に天主の在すが如く供養 世尊、 是の如き般若波羅蜜多を若し書寫し受持讀誦し廣 設ひ説者無けんも法を敬重する 切の菩薩摩訶薩衆、 無數の天龍 く有情の爲に宜 世尊、 切の如來應正 し右 獨覺聲聞 是の 佛の設 樂叉 遙禮 如

湿虚。 中我が意寧ろ是の如 る佛の設利羅、 爲り能く引發を爲す。 無性自性空。 きに由り、 若波羅蜜多は相無く狀無く言無く説無ければない。 誦し正憶念する時は き般若波羅蜜多と諸の菩薩摩訶薩行及び證得する所の一切智智とは因と爲り緣と爲り依止する所と (d) 念住 是の故に靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た相無く狀無く言無く說無し。山內容乃至 (d)真如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十 乃至八聖道支。 以て一分と為し、 き般若波羅蜜多を取ると。 心 心尊、 法に契ふが故に都で諸の怖畏相有るを見ず。所以は何ん、 此の緣に由るが故に、 d|空解脫門乃至無願解脫門。d|五眼·六神通。d|佛の十力乃至 是の如き甚深般若波維蜜多を書寫して復た一分と爲し、 世尊、 (d) 世尊、 我れ是の説を作す。 我れ若 此の般若波羅蜜多の相無く狀無く言 し此の甚深般若波羅蜜多に於て受持 假使ひ此の贈部洲 世尊、 此の二分 に充満 甚深般

若し此 の般若波羅蜜多の 相有り狀有り言有り說有りて無相無狀無言無説に非ずんば、こ 如

(d)

諸佛の無上正等菩提。

(d)

d無忘失法·恒住捨性。d

一切法。

切相智。d一切陀羅尼門·一切三摩地門。

(d)菩薩摩

合利等を拿ぶなり。

【三】 心、法に契ふ。無二法 相無狀無言無配是故靜感…… 相無狀無言無配是故靜感…… 布施波羅蜜多無相無狀無言無

右の文中「静慮乃至布施波羅右の文中「静慮乃至布施波羅を存號(は)にて略し只だ其諸法を存號(は)にて略し只だ其諸法をのみ出すこととす。

蜜多に於て能く是の如く 精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た二行に隨はず二相無きが故なりと。 を修行すと爲す。 預 流果乃至阿羅漢果。 不共法。 何を以ての故に、共深般若波羅蜜多は二行に隨はず二相無きが故に是の如く靜慮 (b) 無忘失法·恒住捨性。 知らば、 (山獨党菩提。 是れを真に甚深般若波羅蜜多を取り、 (b) 菩薩摩訶薩行。心無上正等菩提。大德、若し般若波羅 (b) 一切智乃至 一切相智。 (b)一切陀羅尼門· 亦た眞に甚深般若波羅蜜多

靜慮精進安忍淨戒布施波羅密多と真如とは二無く二分無きが故なり。()法界。()法性。()不虚妄性。 欲する者有らば則ち爲れ真如をして亦た二相有らしめんと欲するなり。何を以ての故に、 蜜多も亦た二行に隨はす。 は二無く二分無きが故なり。憍尸迦、 きが故なり。は憍尸迦、 (c)不變異性。(c)平等性。(c)離生性。 眞如も亦た二相有らしめんと欲するなり。何を以ての故に、 爾の時佛、 何を以ての故に、 天帝釋を讃じて言はく、善哉善哉、 甚深般若波羅蜜多は二相無きが故なり。 諸の共深般若波羅蜜多をして二相有らしめんと欲する者有らば 則ち 為 何を以ての故に、是の如く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た二相 (c) 法定。 諸の靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多をして二相有らしめんと (c)法住。(c)實際。 汝が所説の如し。甚深般若波羅蜜多は二行に隨は 憍尸迦、 是の如く靜慮精進安忍淨戒布施波羅 (c) 虚空界。 甚深般若波羅蜜多と真如 (c) 不思議界。 憍尸迦. ٤

諸の天子等有りて我が所に來至し我が所說を聽き供養恭敬尊重讃歎し右續禮拜合掌して去らん。 若波羅蜜多に依りて精勤修學して無上正等菩提を已に得、當に得べく、 誠もて禮拜右繞し し我れ三十三天の 在らさる時も、 爾の時天帝繹、 諸の天子等亦た是の處に來り我れを見ずと雖も、我が在りし時の如く恭敬供養し 佛に白して言さく、世尊、 供養恭敬貸重讃歎すべし。 善法殿中に在りて天帝座上に坐し諸の天衆の爲に正法を宣説せば、 所以は何ん、一切の菩薩摩訶薩衆は皆是の如き甚深般 是の如き般若波羅蜜多は世間の天人阿素洛等皆應に至 現に得ればなり。 時に無量の 我 加。

惑を論ずといふ。
ぶと論ずといふ。

法を與 す。 乃至十八佛不共法。 解脫乃至十遍處。自四念住乃至八聖道支。自室解脫門乃至無願解脫門。 般若波羅蜜多は取 可からず、 敷すればなりと。 莽鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊 波羅蜜多の功徳勢力の 內容乃至無 (a) 一般若波羅蜜多は 是を如 色無く見無く對無く一相にして所謂無相なり。 異生法を捨てず、 * 般若波羅蜜多は布施波羅蜜多を與 性空。 爾の時舎利子 無く捨無く増無く減無く聚無く散無く益無く損無く染無く淨無けれ a.無忘失法·恒住捨性。 諸佛法を與ヘず、異生法を捨てず、 (a) 瓦如乃至不思議界。 薫修する所なるが故に、乃ち爲れ一 聲聞法を與ヘナ、 、天帝釋に謂つて言はく、憍尸迦、 (a) 一切智乃至一 (a) 苦聖諦乃至道聖諦。 へず、 異生法を捨てず、 淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を與 菩薩法を與へず、 汝云何が取るや。 切相智。 切世間の天人阿素洛等、 是の如き般若波羅蜜多は既 (a) 無為界を與へず、 (a) (a) 四靜慮乃至四 切陀羅尼門・一 五眼 ٠ 異生法を捨てず、 所以は何ん、 六神通。 無色定。 有爲界を捨て ば 無量種上妙 切三摩地門。 なり。 (a) 佛 是の の十カ K ず 如 取 重 (a)

的內容乃至無性自性空。 般若波羅蜜多は諸佛法を與 若波羅蜜多は取無く捨無く増無く減無く聚無く散無く益無く損無く染無く淨無し。 若波羅蜜多は實に取る可からず、 (a) 預流果乃至阿羅漢果。 爾の時天帝釋、 是の 異生法を捨てず、 温處。 如き般若波羅蜜多は布施波羅蜜多を與 b)四念住乃至八聖道支。 **舎利子に報へて言はく、** b)真如乃至不思議界。 聲聞法を與ヘナ、 (a)獨覺菩提。 へず、 異生法を捨てず、 色無く見無く對無く一 (8) 菩薩摩訶薩行。 心室解脫門乃至無願 異生法を捨てす、 是の如し是の如し、 (b) 苦聖諦乃至道聖諦。 へず、 菩薩法を與へず、 (a) 淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜 相にして所謂無相なり。 無上正等菩提。 無爲界を與ヘず、 誠に所說の 解脫門。 b)四靜慮乃至四無色定。 異生法を捨てず、 (b) 五眼·六神通。 如し。 有爲界を捨てす。 大德、 大德、 多を與 是の 是の 小佛の 是の如 如 如 (b) ず を與 き般 き般 (b) 八

るを云ふ。

【10】諸佛法を與ヘず等。 お一を減せざるべし。 法一を減せざるべし。 施波羅蜜多不與淨戒……… かにせんとするなり。 無相なれば取捨なし、然るに 多」のある所に次下に出 て取捨するに過ぎざるを明し利を置き經卷を取るは何ぞ 若波羅蜜多」

與布施波羅蜜多··· の場合と同じく

四七九

分校量功德品第三十之二十五

を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎せば亦た前に説く所の如き功德を得。何を以ての故に、憍尸迦、是 もて嚴飾し、復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞萱幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有 の善男子善女人等は能く廣く無量の諸の衆生を利益安樂するが故なり。 し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し廣く有情の為に宣說流布せずと雖も而かも但だ書寫し朱寶

布し、或は復た書寫し衆寶もて嚴飾し、復た種種上妙の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇 の伎樂燈明を以て、諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎せば、是の善男子善女人等は此の因緣 此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣說流 蜜多に因りて出生するが故なり。 ること有るに勝らん。何を以ての故に、憍尸迦、十方の諸佛及び弟子衆は皆是の如き甚深般若波羅 整散等の香衣服瓔寶珞幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て其の形壽を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎す 設利羅を供養せんが爲の故に、妙七寶を以て窣堵波い高廣嚴麗なるを起て、復た無量の天の妙華賢 に由りて無量の福を獲、形籌を盡くすまで無量種上妙の飲食衣服臥俱醫藥の資緣を以て十方世界 切の如來應正等覺及び弟子衆を供養恭敬尊重讃歎するに勝る。亦た十方佛及び弟子般涅槃の後、 復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、一切智智に應する心を以て、無所得を用て方便と爲し、

非す、供養恭敬尊重讃歎す。然かも設利羅は皆般若波羅蜜多に因りて出生するが故に、皆是の般若 若波羅蜜多を取る。何を以ての故に、我れ諮佛の設利羅の所に於て信受せさるに非す、欣樂せさる 時に天帝釋即ち佛に白して言さく、世尊、假使ひ此の瞻部洲に充滿せる佛の設利羅、以て一分と爲 と爲し、是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫して復た一分と爲さんに、此の二分中汝何者を取るやと。 爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、假使ひ此の瞻部洲に充滿せる佛の設利羅、以て一分 是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫して復た一分と爲せる二分中に於ては我が意寧ろ是の如き敬

稀讚す。
精讚す。
を利益の比較を置き般若法を

迦、 故なり 加 て諸 無所得を以て方便と爲し、 徳を具せる者、 0 醫藥衣服 復た夢に東方無量百千俱胝那庾 調ゆる其 K 主有りて佛の設利羅を供養せんが爲の故に、妙七寶を以て各無量百千俱胝那庾多數の諸 0 如 百 由 く 趺坐 明を以て、 整開弟子に恭敬圍繞せられて爲に法を說きたまへり。 千俱胝 切の 廣 りて身心を滋潤し、 の天神等 是の善男子善女人等、 復た 何 切智 是の く有情の爲に流布 して産 を以 如來應正等覺聲聞菩薩天龍樂义健達縛阿素洛揭路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等の 0 憍尸迦若 臥具に 洲 世界、 智々攝取すべしと。 如く佛土を嚴淨すべ 庾 7 の精氣を益し、 無量却を經るまで供養恭敬尊重讃歎せり。 怨を降伏し無上正等菩提を證得して 慈悲護念し の故に、 食染せず。 0 V) 笨堵波の 其の名の如來應正等覺、 菩薩摩訶薩共に集りて種種の法義を論 し善男子善女人等是の如 せしむべ 憍尸迦、 定より出で已つて諸の美膳に於て其の心輕微 此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀 妙精氣を以て冥に身心に注ぎ其の志勇をして體に充盛せし 是の如き類の諸の善き夢相を見若 所に於て各無量上妙の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡藍衆妙珍 四供養に於て其の心輕微なること 彼れ し、 多の佛般涅槃に入りたまへるを見る。 或は復た夢に東方無量百千俱胝那庾多の佛を見、 20 是の善男子善女人等は此 をして自ら身體輕便なっを覺えしむ。 是の如く 憍尸 迦 き現世の功徳を得んと欲 若干百千俱胝那庾多の菩薩摩訶薩、 魔軍を降伏すべし、 若 善男子善女人等、 妙法輪を轉じ無量の衆を度するを見、 南西北方四維上下も亦復た是の如 南西北方四維上下も亦復た是の 説せるを見る。 の三千三大世界丼びに L は睡み若 瑜伽師 是の如 せば應に 般若波羅蜜多に於て なるが如 一一の佛般涅槃し已つて各施 の勝妙 是の因縁に由りて多く く菩薩行を修 所謂是の しは覺むるも身心安樂に し精勤 の定に 切智智の 若干百千俱 如人 修學し 餘 亦た音 入り、 此 0 むるに由 + n 有情を成 心を發 方無邊 如 「壁を聞 弘 理 大神力 の笨堵波 奇の し、 能 0 亦 彼 10 復た無量 如く思 く聴聞 た是 0 定力 飲食 憍尸 るが 伎樂 是の 世 < 多 て法輪を以て佛の教法に譬ふ。 始法を説かる」ことを云ふ。輪法を説かる」ことを云ふ。輪

相應の義、觀行即ち禪定相
、】瑜伽師。瑜伽(Yogn) する人を取て瑜伽師と名く。 衣服、臥具をいふ。

門相應の法義を分別 を分別し、復た聞きて四念住乃至八聖道支相應の法義を分別し、復た聞きて空解脱門乃至無顧解脫 し、復た聞きて四靜慮乃至四無色定相應の法義を分別し、復た聞きて八解脫乃至十遍處相應の法義 復た聞きて真如乃至不思議界相應の法義を分別し、復た聞きて苦聖諦乃至道聖諦相應の法義を分別 羅蜜多乃至般若波羅蜜多相應の法義を分別し、復た聞きて內空乃至無性自性空相應の法義を分別し、 きたまへるを聞き、 陀羅尼門、一切三摩地門相應の法を説きたまへるを聞き、佛爲に一 法を說きたまへるを聞き、佛爲に一切智乃至一切相智相應の法を說きたまへるを聞 無願解脫門相應の法を說きたまへるを聞き、佛爲に五眼・六神通相應の法を說きたまへるを聞 爲に四靜慮乃至四無色定相應の法を說きたまへるを聞き、佛爲に八解脫乃至十遍處相應の法を說。 議界相應の法を說きたまへるを聞き、 たまへるを聞き、佛爲に內空乃至無性自性空相應の法を説きたまへるを聞き、 後に圍繞せるを見る。 佛不共法相應の法義を分別し、復た聞きて無忘失法・恒住捨性相應の法義を分別し、復た聞きて一切 たまへるを聞き、 して三十二大丈夫相を具し、 1 或は夢の中に於て菩提樹の其の量高廣にして衆寶もてせるを見、 切相智相應の法義を分別し、復た聞きて一切陀羅尼門・一切三摩地門相應の法義を分別 力乃至十八佛不共法相應の法を說きたまへるを 聞き、佛爲に無忘失法・恒住捨性相 切の菩薩摩訶薩行相應の法義を分別し、復た聞きて諸佛の無上正等菩提相應の法を分 佛爲に四念住乃至八聖道支相應の法を說きたまへるを聞き 佛爲に諸佛の無上正等菩提相應の法を說きたまへるを聞き、 し、復た聞きて五眼・六神通相應の決義を分別し、復た聞きて佛の 身、 衆の中に處して、佛爲に布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多相 八十隨好圓滿莊嚴し大光明を放つて普ねく一切を照らし、 佛爲に苦聖諦乃至道聖諦相應の法を說きたまへるを聞き、 切の菩薩摩訶薩行相應の法 大菩薩、 佛為 佛爲に眞如乃至不思 復た聞きて布施波 菩提樹に趣き き IT 十力乃至十八 空 應の法 工解脫門乃至 佛爲に 聲聞菩薩 を説 應

の一種にて佛の正坐を云ふ坐、本跏趺坐ともいひ、坐

波羅蜜多に繋け夜寝息の時も諸の悪夢無く唯だ善夢のみを得。謂ゆる如來應正等覺の身、真金色に 心倦むこと無く身樂しく心樂しく身輕く心輕く身調柔に心調柔に 身安隱に心安隱にして心を般若 護念するなり。復た次に憍尸迦、是の善男子善女人等若し能く是の如く般若波羅蜜多を供養 鐸其の中に間飾し、衣服瓔珞金銀寶器、衆妙珍奇の伎樂燈明無量に雑綵して其の處を莊嚴し、若し 除去し、 ること無し。是を以ての故に、憍尸迦、若し此の般若波羅蜜多所在の處に隨ひ周匝の諸の不淨物を 終に由りて是の善男子善女人等心便ち廣大にして修する所の善業倍す復た增長し一切の所為障礙有 熾盛の諸の諸の天龍等有りて其の所に來至し彼の書寫せる所の甚深般若波羅蜜多を觀禮讀誦 妙行を修し其の處を嚴潔し至心に是の如き般若波羅蜜多を供養せば當に知るべし爾の時大神力威 誦し供養恭敬尊重讃歎し合掌右繞し歡喜護念せるなりと。復た次に憍尸迦、是の善男子善女人等淨 天龍等其の處に來至するに隨ひ此の中の所有る邪神惡鬼、驚怖退散し敢へて住する者無し。 恭敬尊重讃歎し合掌右繞し歡喜護念せるなりと。憍尸迦、其の如き大神力を具し威德熾盛なる諸 天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、是の善男子善女人等者し是の如き甚深般若波羅蜜多の安置せらる 大神力威徳熾盛の諸の天龍等有りて其の所に來至し、彼の書寫せる所の甚深般若波羅蜜多を觀禮讀 る處に妙光明有るを見、或は其の處に異香芬馥とし若しは天樂の音を聞かば、當に知るべし爾の時 若波羅蜜多を觀禮讀誦し、供養恭敬尊重讃歎し合掌右繞し歡喜謔念せるを覺知するやと。爾の時佛、 **少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天及び餘の無量の大威德の諸の龍** 樂又健達轉阿素洛揚路茶緊接洛莫呼洛伽人非人等有りて、其の所に來至し彼の書寫せる所の甚深般 處に來至し彼の書寫せる所の甚深般若波羅蜜多を觀禮讀誦し供養恭敬尊重讃歎し合掌右繞 く是の如く般若波羅蜜多を供養せば、便ち無量の大神力を具し威德熾盛なる諸の天龍等有りて其 掃拭塗治し香水を散瀝し寳座を敷設して之を安置し香を焼き華を散じ巉蓋を張施し寳幢幡 の因

四士五

ふ。

円縁に由りて常に踏ひて擁護すと。 捨せさらんが爲の故に、恒に諸の有情を利樂せんが爲の故に。彼の諸天等も亦復た是の如く、此の り。恒に諸の有情を救拔せんが爲の故に、恒に諸の有情を成熟せんが爲の故に、恒に諸の有情を聚 逐擁護して其の勢力を増すなり。所以は何ん、是の善男子善女人等は已に無上正等覺心を發せばな を發せる者、或は佛法に依り已に殊勝の利樂事を獲たる者、法を敬重せんが故に恒に此の來至し隨 熟すべき、或は重業を轉じて現世に輕受するをば除く。憍尸迦、是の善男子善女人等は此の般若波 天、及び餘の無量大威徳の諸の龍樂又健達轉阿素洛揭路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等有りて、常に此 淨天,淨天,無量淨天,遍淨天。廣天,少廣天,無量廣天,廣果天,無繁天,無熱天,善現天,善見王,色究竟 是の善男子善女人等は此の三千大千世界丼びに餘の十方無邊世界の所有る四大王衆天・三十三天・夜 や設くと爲すと。是の念を作し已て歡喜踊躍して獲し所の福をして倍す復た增長せしむ。憍尸迦、 若波羅蜜多を觀禮讀誦し供養恭敬耸重讚歎し右繞禮拜し合掌して去らん。此れは我れ則ち已に法施 羅蜜多大威神力に由り、是の如き等の現世種種の功徳勝利を獲。謂ゆる諸天等の已に無上菩提の心 に來至し隨逐擁護するに由り、一切の人非人等に惱害せられす。唯だ宿世に定れる惡業因の現在に 摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天・梵衆天・梵輔天・梵育天・大梵天・光天・少光天・無量光天・ 極光

卷の第一百二十七

初分校量功德品第三十之二十五

天・梵輔天・梵曾天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光浮天・浮天・少浮天・無量浮天・遍浮天・廣天・ の十方無邊世界に於ける所有る四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天・梵衆 時に天帝釋。佛に白して言さく、世尊、是の善男子善女人等は云何が此の三千大千世界丼びに除

先知すべき線を述ぶ。

虁叉健達縛阿素洛揭路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等有りて常に此に來至し、我が書寫せし所の甚深般 少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天及び餘の無量の大威德の諸の龍 天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・ 無量淨天・遍淨天・廣天・

す。 至無 般若波羅蜜多を修行して恒に斷盡する無し。〇內室乃至無性自性空。〇眞如乃至不思議界。 菩薩摩訶薩獨党阿羅漢不還一來預流果等に愛念せられ、復た世間の諸の天魔梵人及び非人阿素洛等 宗親朋友知識國王大臣及び諸の沙門婆羅門等に愛敬せられ、亦た十方無邊世界 布し、或は復た書寫し紫寶もて嚴師し、復た種種上妙の花覧遊散等の香衣服瓔珞質幢幡蓝紫妙 此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し 新乃至道聖諦。©四靜慮乃至四無色定。®八解脫乃至十遍處。 ©四念住乃至八聖道支。 @空解脫門乃為[6] 愛護せられん。是の善男子善女人等は最勝無斷の辯才を成就し、何是の善男子善女人等は布施乃至 伎樂燈明を以て諸の所有を讒くすまで供養恭敬尊重讃歎せば,是の善男子善女人等は恒に父母師長 若し善男子善女人等是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫し種種に莊嚴し清淨處に置きて供養恭敬尊 幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎すべし。復た次に憍尸迦 傷に宣説流布すべし。復た應に書寫し衆寶もて嚴飾し、 是の如き甚深般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟して廣く有情 て無礙なり。 て恒に斷続する無し。是の善男子善女人等は菩薩殊勝の神通を成就し諸の佛土に遊ぶこと自在にし 在天の巳に阿耨多羅三藐三菩提の心を發せる者、 讃歎せば時に此の三千大千世界の所有る四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自 憍尸迦、 一切指智。 |供養恭敬尊重讃歎し、右繞禮拜合掌して去らん。 所有る梵衆天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・ **辨說門**。 若し善男子善女人等、 是の等男子善女人等は一切の外道の異論に降伏せらず、 (c) 五眼、 一切陀羅尼門、一 六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心無忘失法、 是の如き現在未來に無斷無盡の功德勝利を得んと欲せば、 切三摩地門。是の善男子善女人等は有情を成熟し佛山を嚴淨し 恒に是の處に來りて是の如き般若波羅蜜多を觀禮 無量植上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢 理 の如く思惟し廣く有 而かも能く外道の異論を降伏 恒住捨性。(c) 切の如來應 情の 偽に宣説 (c) 苦聖 il 珍 切智 一等覺 奇 應に 重 0

(0)「是警男子警女人等修行布施乃至般若波羅蜜多」のある所に大下に出す電法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(0)にて略し以下をの諸法のみ略出す但し「内空、眞如、苦聖諦」の三氏「修行」とある所に「安住」の語を代入するものとす。

復た次に憍尸迦

若し善男子善女人等、一

切智智に應する心を以て、無所得を用て方便と爲し、

れに入りて攝す。又た是の如き諸の善男子善女人等は善く內室に住し乃至善く無性自性室に住する 羅蜜多有るを見ず。是を以ての故に、憍尸迦、此の善男子善女人等は是の般若波羅蜜多大威神力に に由るが故に都て能く論難する者有るを見ず、亦た論難せらるる者有るを見ず。亦た所說の般若波 無學法。若しは見所斷法・修所斷法・非所斷法。若しは世間法・出世間法。若しは有漏法・無漏法。若 若しは過去法・未來法・現在法。若しは飲界繫法・色界繫法・無色界繫法。若しは學法・無學法・非學非 蜜多 秘密藏の中にて具さに廣く一法切法を分別するが故なり。謂ゆる若しは善法・不善法・無記法。 以ての故に、彼れは是の如き甚深般若波羅蜜多に由りて加祐ぜらるるが故なり。又た此の般若波羅 護持せらるるに由るが故に一切の異學の論難に屈伏せられず。 しは有爲法・無爲法。若しは有見法・無見法。若しは有色法・無色法。若しは共法・不共法。若しは聲 の功德勝利を獲て衆の魔の眷屬侵援すること能はさるべし。復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、 四衆の中に於て、是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說せば心怯怖無く一切の論難に屈せられず。何を 若しは獨冕法。若しは菩薩法。若しは如來法なり。諸の是の如き等の無量百千種種の法門

く有情の爲に宜說流布し、或は復た書寫し衆寶もて嚴飾し復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞 欲せば當に是の如き甚深般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理 可き者有るを見ざればなり。憍尸迦、若し善男子善女人の輩、是れ等現在無邊の功德勝利を得 **ず小沈没せず亦た憂悔せず。所以は何ん、是の善男子善女人等は法の驚恐怖畏沈没及び憂悔せしむ** 學し理の如く思惟し解說書寫して廣く流布せしめば是の善男子善女人等は其の心驚かず恐れ 復た次に憍尸迦、若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し 妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎すべし。 の如く思惟 精勤修 de んと 怖か

【四】四歳。四端歳、四部弟子、四輩などといふ、佛弟子の四種、即ち比丘、比丘尼、低婆塞、優婆夷の稱。低型、脳密敵、脳密の法蔵。甚深秘奥にして唯佛奥佛の境

是の善男子善女人等は我れ現在未來の無量無邊の殊勝功德を獲得すと說くと。 等の香衣服總絡寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎せば、 の如く思惟し廣く有情の爲に宣説流布し、所は復た書寫して種種に嚴飾し、復を無量上妙の花鬘塗散

珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡すまで供養恭敬奪重讚敷せば我れ等諸天常に隨ひて衞護し一切 流布し、或は復た書寫して衆寶もて嚴節し、復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙 の人非人等の種種の悪縁をして擾害する所とならしめずと。 て方便と爲し此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し理の如く思惟し廣く有情の爲に宜說 時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、者し善男子善女人等一切智智の心を離れず無所得を以

善女人等、一切智智に應する心を以て、無所得を用て方便と貸し、是の如き甚深般者波羅蜜多相應 **使と爲し是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說せん時は無量の諸の天子等有り法を敬重せんが故に皆會** 以て諸の所有を鑑くすまで供養恭敬尊重讃歎せんに。是の善男子善女人等は現在世に於て當に無邊 書寫して紫寶もて嚴飾し、復た種種上妙の花鬘塗散等の香水服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を 多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣說流布し、或は復 に來集し天の威力を以て說法者をして辯才滯り無く、設ひ障難有るも遮斷する能はざらしむ。憍尸 で無盡に宣暢せしむ。憍尸迦、若し善男子善女人等、一切智智に應する心を以て、無所得を用て方 の法を宣說せん時は無量の諸の天子等有り皆會に來集し天の威力を以て說法者をして辯才を增益 んが傷の故に皆會に作集し歡喜踊躍して是の如き甚深般若波羅蜜多を敬受す。憍尸迦、若し善男子 無所得を用て方便と爲し此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦せん時は無量百千の天子有りて法を聽か 爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等,一切智智に應ずる心を以て、 諸の善男子善女人等、一切智智に應する心を以て、無所得を用て方便と爲し、此の般若波羅蜜

功徳あるを説く。

を離れず無所得を以て方便と爲し、此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し なり。 の下劣心想に超過し、諸の整聞獨覺乘の法に於て終に稱讃せず、一切法に於て知らざる所無けれ 波尼殺婦分の亦た一にも及ばず。何を以ての故に、憍尸迦、是の善男子善女人等は一切の聲聞獨覺 にも及ばず百千俱胝分の一にも及ばず百千俱胝那庾多分の一にも及ばず、敷分算分計分喩分乃至鄔 の一にも及ばず百千分の一にも及ばず俱胝分の一にも及ばず百俱胝分の一にも及ばず千俱胝分の 此の善男子善女人等に於て成就する所の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊の百分の一にも及ばず千分 憍尸迦、是の善男子善女人等は聲聞及び獨覺地に超過す。何を以ての故に、一切の聲聞獨覺の下劣 は當に佛の如しと知るべし。何を以ての故に、決定して阿耨多維三藐三菩提に趣向するが故なり。 勤修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣說流布し所は復た書寫して種種に嚴飾し、復た無量上妙 切智智の心を離れず無所得を以て方便と爲し、此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦 心を解脱せるが故なり。憍尸迦、一切の聲聞獨覧の成就する所の戒蘊定蘊無蘊解脫蘊解脫智見蘊は、 を成就し無量殊勝の解脫蘊を成就し無量殊勝の解脫智見蘊を成就す。憍尸迦、是の善男子善女人等 讃歎せば、是の善男子善女人等は無量殊勝の戒蘊を成就し無量殊勝の定蘊を成就し無量殊勝の慧蘊 の花鬘鈴散等の香衣服纓絡寶幢幡蓋紫妙珍奇の伎樂燈明を以て諸の所有を盡くすまで供養恭敬尊重 但だ前に說く所の如き功德有るのみとは說かず。何を以ての故に、憍尸迦、若し善男子善女人等一 幢幡蓋紫妙珍奇の伎樂燈明を以て諮の所有を盡くすまで供養恭敬尊重讃歎する諮の善男子善女人等 有情の爲に宣說流布し及び能く書寫して種種に嚴飾し、復た無量上妙の花鬘塗散等の香衣服纓絡實 有るのみと説かず。何を以ての故に、是の如き般若波羅蜜多は無邊の勝功德を具足するが故なり。 謂ゆる能く正しく都ての無所有を知ればなり。憍尸迦、若し善男子善女人等、 我れ亦た此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し廣く 一切智智の心

地門。山菩薩摩訶薩行。出無上正等菩提。 力乃至十八佛不共法。 (a)無忘失法,恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩

是の如き般者波羅蜜多を警寫せる有りて種種に嚴飾し、復た無量上妙の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶 於て說きたまへるも猶ほ未だ盡きす。所以は何ん、我が世尊より受けし所の般若波羅蜜多の功德深廣 し精動修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣說流布するに獲る所の功德も亦た無邊際なり。若し にして量無邊際なればなり。諸の善男子善女人等,此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀 解脱書寫して廣く流布せしめば此の便りに由りて四靜慮四無量四無色定五神通等有りて世間に出現 幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明一切の所有を以て供養恭敬尊重讃歎するに獲る所の功徳も亦た無邊際な 爾の時天帝釋、佛に白して言さく,世尊、今者如來應正等覺、此の般若波羅蜜多の一切の功德に (b) 世尊、 若し此の甚深般者波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し

小獨党及び獨貴菩提。小菩薩摩訶薩及び菩薩摩訶薩行。山一切の如來應正等覺及以無上正等菩提。 邊處天•無所有處天•非想非非想處天。心預流乃至阿羅漢及び預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 廣天・少廣天・無量廣天・廣果天。心無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天。心空無邊處天・識無 **梵衆天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・** 無忘失法,恒住捨性。(1)一切智乃至一切相智。(1)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(1)刹帝利大族•婆羅 念住乃至八聖道支。心室解脱門乃至無願解脫門。心五眼、六神通。心佛の十力乃至十八佛不共法。心 門大族・長者大族・居士大族。心四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天。心 (b)內室乃至無性自性空。(b)真如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)八解院乃至十遍處。 一部の時佛、天帝釋に告げて言はく、

情尸迦、我れ此の甚深般若波羅蜜多は但だ前に説く所の功德 (b) 四

功徳を廣託す。

【二】 敷若の功徳無量なるもいふ。

(b)「世尊若有於此甚深般若波底乃至五神通等出現世間」右の文中「四靜慮乃至五神通等出現世間」右の文中「四靜慮乃至五神通」の所に永下に出す諸法を代入の所に永下に出す諸法を代入せば他は皆同じき故之を符號

脱乃至十 乃至十八佛不共法。 (c)菩薩摩訶薩行。 (0四念住乃至八聖道支。 (c)無忘失法、 C無上正等菩提。 恒住捨性。 () 空解脫門乃至無願 (c) 切智乃至一 切相智。 解脫門。 (c) (c) 五眼、 切陀羅尼門、 六种通。 (c)佛の十カ 切三摩地

向するに由りて能く布施乃至般若波羅蜜多を修習して究竟に至らしむることを得るが故に、 若波羅蜜多は彼の布施乃至般若波羅蜜多に於て尊と爲り導と爲ると。 (d) 當に知るべし此の般若波羅蜜多に由るが故に能く一切智智に廻向し、復た 切智智に廻 此の般

十力乃至十八佛不共法。 八解脫乃至十 地門。 (d) 內室乃至無性自性空。他員如乃至不思議界。由苦聖諦乃至道聖諦。由 d許薩摩訶薩行。 温虚。(d) 四念住乃至八聖道支。d) 空解脫門乃至無願解脫門。 d無忘失法、 d無上正等菩提。 恒住捨性。 (d) 一切智乃至一 切相智。 (d) (d) 四靜慮乃至 五眼 切陀羅尼門、 六神通。 四無色定。 (d) 佛 切三 (d)

卷の第一百二十六

初分校量功德品第三十之二十四

だ廣く 生長の與に依止する所と為り能く建立を為すと知るべきが如く、 る所の一 回慶喜當に知るべし譬へば大地に種を以て中に散くに衆縁和合せば則ち生長するを得、 是の故に此の般若波羅蜜多は彼の布施乃至靜慮波羅蜜多に於て尊と爲り導と爲る。 般若波羅蜜多のみを稱讃すと。 切智智は布施乃至靜慮波羅蜜多の與に依止する所と爲り能く建立を爲し生するを得 是の如く般若波羅蜜多及び廻向 故に我れ但 大地 せし は種

解脫乃至十遍處。 (a) 內室乃至無性自性空。 (a) 四念住乃至八聖道支。 (a)真如乃至不思議界。 (a) 室解脫門乃至無願解脫門。 (a) 苦聖諦乃至道 聖諦。 (a) 四靜慮乃至 (a) 五眼、六神道。(a) 佛の 29 無色定。 (a)

四六七

智に廻向して布施乃至較若波羅蜜多を修習すと說くと。

乃至十八佛不共法。闾無忘失法、恒住捨性。闾一切智乃至一切相智。。 脫乃至十遍處。(1)四念住乃至八聖道支。(1)空解脫門乃至無願解脫門。 (a)內室乃至無性自性空。(a)真如乃至不思議界。(a)苦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a) (a)菩薩摩訶薩行。(a)無上正等菩提。 a)一切陀羅尼門、 (a)五眼、六神通。 a佛の十カ 切三摩地

智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修智すと說くと。 故なり。 室なり。何を以ての故に、菩薩摩訶薩行性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、菩薩摩訶薩行の菩薩摩訶薩行性 (b) 世尊、 慶喜、此れに由るが故に菩薩摩訶薩行の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し一切智 云何が菩薩摩訶薩行の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し

い菩薩摩訶薩行。 い無上正等菩提 至十八佛不共法。心無忘失法、恒住捨性。心一切智乃至一切相智。心 乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至無顯解脫門。心五眼、 內室仍至無性自性空。山真如乃至不思議界。山苦乃至道聖諦。 心四靜慮乃至四無色定。八解脫 一切陀羅尼門、一切三摩地門 六神通。山佛の十カ乃

を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 室なり。何を以ての故に無上正等菩提性室と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故 切智智に廻向 (c) 世尊、 慶喜、此れに由るが故に無上正等菩提の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 云何が無上正等菩提の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し、 して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、無上正等菩提の無上正等菩提性 無所得

©內室乃至無性自性答。©眞如乃至不思議界。©苦乃至道聖諦。©四靜慮乃至四無色定。 (c) 八解

(1)「世尊云何以菩薩摩訶薩行生。 …惟智布施乃至般若波羅密多」

bo 便と為し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、一來向乃至阿羅漢果の(5) ト爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習 りと。世尊、云何が一來向乃至阿羅漢果の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、預流向預流果の預流向預流果性空な とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に、預流向預流果等の無二を以て方便 來向乃至阿羅漢果性空なり。何を以ての故に,一來向乃至阿羅漢果性空と布施乃至般若波羅蜜多 (b) 何を以ての故に、 世尊、云何が預流向預流果の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一 預流向預流果性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故な

乃至十八佛不共法。b)無忘失法、恒住捨性。 脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至無願解脫門。 b)内室乃至無性自性室。b)真如乃至不思議界。b)苦乃至道聖諦。b)四靜慮乃至四無色定。 。心菩薩摩訶薩行。心無上正等菩提。 b)一切智乃至一切相智。 (b) (b) 五眼、 一切陀羅尼門、 六神通。 的佛の十力 切三摩地 (b)八解

ナと說くと。

卷の第一百二十五

初分校量功德品第三十之二十三

れに由るが故に獨覺菩提の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智 以ての故に、獨覺菩提性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此 智智に廻向 (a) 云何が獨覺菩提の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切 して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、獨覺菩提の獨電菩提性空なり。 何を

無二爲方便……阿羅漢果 ……由此故說……般若波經 阿羅漢果

有も何の場合と同じく略す。蜜多」

為方便……由 成說…… 右も前卷bの場合と同じく略 修習布施乃至般若波羅蜜多」

乃至十八佛不共法。 脫乃至十遍處。他四念住乃至八聖道支。也室解脫門乃至無願解脫門。 (t)內案乃至無性自性容。(t)真如乃至不思議界。(t)苦乃至道聖諦。(t)四靜慮乃至四無色定。 。此菩薩摩訶薩行。此無上正等菩提 (世無忘失法、 恒住捨性。(t)一切智乃至一 切相智。 (t) (t) 五眼、 一切陀羅尼門、一 六神通。 (t) 佛の 切三 (t) 十力 八解

卷の第一百二十四

初分校量功德品第三十之二十二

門性空なり。 なり。 無所得を方便と爲し、一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 ての故なり。 爲し一切智智に廻向 なりと。 切 (a) 世尊、 。智智に廻向して布施乃至般者波羅蜜多を修習するやと。慶喜、一切陀羅尼門の一切陀羅尼門性室 何を以ての故に、 世尊、 云何が 何を以ての故に、一切三摩地門性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以 慶喜、此れに由るが故に一 云何が一切三摩地門の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と 一切陀羅尼門の無ごを以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便 して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、一切三摩地門の一切三摩地 一切陀羅尼門性空と布施乃至般者波羅蜜多とは二無く二分無きを以て 切陀羅尼門等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し と属し の故

乃至十八佛不共法。 (a) (1)內容乃至無性自性空。(4)眞如乃至不思議界。(4)苦乃至道聖諦。(4)四靜慮乃至四無色定。(4) (a)川念住乃至八聖道支。 a無上正等菩提。 a無忘失法、 恒住捨性四 (a) 空解脫門乃至 切智乃至一 無願解脫門。a五眼、 切相智。 (a) 切陀羅尼門、一切三摩地門。 六种通。 (a) 佛の十力 八解

右も前径(1の場合の如く略す。若波羅蜜多」 無二為方便………… 触 放設…… 般 地門……… 由此放設……… 般

に無志失法等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向 恒住捨性性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故 して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、 云何が恒住捨性の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向 以ての故に、 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、無忘失法の無忘失法性空なり。 (s)世尊、 (1)一切智乃至一切相智。(1)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(1)菩薩摩訶薩行。(1)無上正等菩提。 云何が無忘失法の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切 無忘失法性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。 恒住捨性の恒住捨性性空なり。何を以ての故に、 世尊、 何を

脫乃至十遍處。 力乃至十八佛不共法。⑤無忘失法、恒住捨性。 (S)內室乃至無性自性空。(S)真如乃至不思議界。(S)苦乃至道聖諦。(S)四靜慮乃至四無色定。(S)八解 (s) 菩薩摩訶薩行。 S四念住乃至八聖道支。 S無上正等菩提。 (S) 空解 (S)一切智乃至 脱門乃至無 願 一切相智。 解 脫 FF (S) (S) 五眼、 一切陀羅尼門、 六神通。 (s) 佛 切三摩 0

て布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。

以ての故に、 相智一 故に、 て布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、道相智 智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、一切智の一切智性空なり。 (t) 世尊、 此れに由るが故に 切相智の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向 切智性空と布施乃至般者波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、 云何が一切智の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 道相智 切相智性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。 切智等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し、 切相智の道相智 無所得を方便と為し一切智 一切相智性空なり。 何を以 云何が道 何 T を

右も「の場合の如く略す。 由此故說……般若波羅蜜多」 (8) (1)「世拿云何以一切智無二為 「世尊云何以無忘失法無二

右も国の場合と同じく略丁。 由此故說…… 方便……一

初分校量功德品第三十之二十一

修習すと說くと。

乃至十遍處。(9四念住乃至八聖道支。(9室解股門乃至無願解脫門。(9五眼、六神通。(9佛の十力乃 (9)內室乃至無性自性空。(9)真如乃至不思議界。(9)苦乃至道聖諦。(9)四靜慮乃至四無色定。(9)八解脫 (q菩薩摩訶薩行。 (無上正等菩提。 至十八佛不共法。印無忘失法、 恒住捨性。(q)一切智乃至一 切相智。(中一切陀羅尼門、一切三摩地門。

以て方便と爲し、無生を方便と爲し,無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜 以ての故に、佛の十力性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、 多を修習すと說くと。 至敝若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に佛の十力等の無二を の四無所畏乃至十八佛不共法性空なり。何を以ての故に、四無所畏乃至十八佛不共法性空と布施乃 し、一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、四無所畏乃至十八佛不共法 云何が四無所畏乃至十八佛不共法の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、佛の十力の佛の十力性空なり。何を (r)世尊、 云何が佛の十力の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切

乃至十遍處。()四念住乃至八聖道支。()空解脫門乃至無願解脫門。()五眼、六神通。()佛の十力乃色 至十八佛不共法。印無忘失法、 (r)內容乃至無性自性容。(r)真如乃至不思議界。(r)苦乃至道聖諦。(r)四靜慮乃至四無色定(r)。八解脫 恒住捨性。

帯の第一百二十三

初分校量功德品第三十之二十一

門等の無二を以て方便と爲し、 性空と布施乃至設者波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。 れするやと。 云何が無相無願解脫門の無二を以て方便と爲し、 無相無願解脱門の無相無願解脱門性空なり。 無生を方便と為し、無所得を方便と為し一切智智に廻向 一切 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修 何を以ての故に、 慶喜、 此れに由るが故 無相無願解脫門 回して布施乃 に卒解脱

乃至十八佛不共法。 脱乃至十遍處。 (p四念住乃至八聖道支。 (p)室解脫門乃至無願解脫門。 (c)內容乃至無性自性堂。 (p)真如乃至才見謂身 (c) 內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦乃至道聖諦。的四靜慮乃至四無色定。的八解 P五眼·六神通。 (p)佛の 十力

至般若波羅蜜多を修習すと說くと。

卷の第一百二十二

初分校量功德品第三十之二十

p無忘失法、 (P無上正等菩提。 恒住捨性。 (P) 切智乃至一 切相智。 (P)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(P)菩薩摩訶薩

便と偽し、 智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、五眼の五眼性空なり。 般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、 羅蜜多を修習するやと。慶喜、 五眼性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、 一を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波 (9)世尊、 無生を方便と爲し、 云何が五眼の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し、一切智 無所得を方便と為し、 六神通の六神通性空なり。 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を 此れに由るが故に五服等の無二を以て方 何を以ての故に、 六神通性空と布施乃至 云何が六神通の 何を以ての故に、

(p) 前巻と同意。

(Q)「世尊云何以五眼無二爲方故説………般若波羅蜜多」 故説………般若波羅蜜多」

四六

初分校量功德品第三十之十九、二十

卷の第第一百二十

分校量 功德品第三十之十九

(n) 無上正等菩提。 (n) 無忘失法·恒 住捨性。 (n) 切智乃至一 切相智。 (n) 切陀羅尼門・一 切三摩地門。山菩薩摩訶薩行。

故に、 所得を以て方便と爲し、 以ての故なり。 空なり。 向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、 正斷乃至八聖道支の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、四念住の四念住性空なり。 (0) 世尊、 四念住性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。 何を以 云何が四念住の無二を以て方便と為し、 慶喜。此れ ての故に、 一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 に由るが故に四念住等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 四正斷乃至八聖道支性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを 無生を方便と爲し、 四正斷乃至八聖道支の四正斷乃至八聖道支性 無所得を方便と為し一 無所得を方便と低し 世尊、 切智智に 何を以 云何が四 切智 7 廻 0

乃至十八佛不共法。 (0)菩薩摩訶薩行。 脫乃至十遍庭。 の內容乃至無性自性空。 (回四念住乃至八聖道支。) (回念解脫門乃至無願解脫門。 (0無上正等菩提。 の無忘失法·恒住捨性。 (0)真如乃至不思議界。(0)苦乃至道聖諦。 (0) 切智乃至 切相智。(0) ()四靜慮乃至四無色定。 (0) 一切陀羅尼門·一 五眼 ·六神通。 切三 (o) 佛 摩地門。 (0) の十力 八解

以ての故に、 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、空解脱門の空解脱門性空なり。 (p)世尊、 云何が空解脱門の無二を以て方便と貧し、 空解脱門性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、 無生を方便と爲し、 無所得を方便と為し一切

> (の)「世尊云何以四念住無二窓 由此故説……般若波羅蜜多」 由此故説……般若波羅蜜多」 聖道安……

右も(n)の場合と同じく略す。 協方便……無顯解殷門…… 蝦若波羅蜜多」

何

乃至十八佛不共法。 脱乃至十遍處。⑴四念住乃至八聖道支。⑴卒解脫門乃至無願解脫門。⑴五眼・六神通。⑴佛の十力 (1) 內容乃至無性自性容。(1) 真如乃至不思議界。(1) 苦乃至道聖諦。(1) 四靜慮乃至四無色定。(1) 八解

西五九

巻の第一百二十

初分校量功德品第三十之十八

(1)佛の十力乃至十八佛不共法。(1)無忘失法・恒住捨性。(1)一切智乃至一切相智。(1)一切陀羅尼門(1) 切三摩地門。山菩薩摩訶薩行。 ()無上正等菩提。

此れに由るが故に四靜慮等の無二を以て方便と爲し、 の故に、 施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、四無量四無色定の四無量四無色定性空なり。 四無色定の無ニを以て方便と爲し、 智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。**慶喜、四靜**慮の四靜慮性空なり。何を以 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 (0) 世尊、 四靜慮性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が四無 四無量四無色定性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。 云何が四靜慮の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智 無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向 無性を方便と爲し、 無所得を方便と為し 何を以て 慶喜、 ての故 て布 一切

m菩薩摩訶薩行。m無上正等菩提 乃至十八佛不共法。 脫乃至十遍處。四四念住乃至八聖道支。四字解脫門乃至無願解脫門。 內室乃至無性自性空。四眞如乃至不思議界。四苦乃至道聖諦。 m無忘失法·恒住捨性。 (m) 一切智乃至一切相智。m一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (m四靜慮乃至四無色定。 m) (m) 五眼 六神通。 (m) 佛 ナカ 八解

(n) 八解脫性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、 して布施乃至殺若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、八解脱の八解脱性空なり。何を以ての 云何か八解脱の無二を以て方便と爲し、 無生を方便と為し、 無所得を方便と爲し 云何が八勝 一切智

> (四)「世尊云何以四靜慮無二〇 方便………般若波羅蜜多 由此故說……般若波羅蜜多

(n)「世尊云何以八解配無二気 此故説……般若波羅鉴多」 出故記。

薩摩訶薩行血無上正等菩提。 脱乃至十遍處。四念住乃至八聖道支。回空解脫門乃至無願解脫門,回五眼六神通回佛の十力乃至十億 八佛不共法。面忘無失法。恒住捨法。面一 (h)內室乃至無性自性室。(h)真如乃至不思議界。(h)苦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定 切智乃至一切相智向一 切陀羅尼門·一 切三摩地門。向菩 (m)

向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、淨戒乃至般若波羅蜜多の淨戒乃至般若波羅蜜 淨戒乃至般若波羅蜜多の無二を以て方便と爲し無生を方便と爲し無所得を方便と爲し一切智智に廻 無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に布施波羅蜜多等の無二を以て方便と爲し無生を方便 多性空なり。何を以ての故に、淨戒乃至般若波羅蜜多性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分 何を以ての故に布施波羅蜜多性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きが故なり世尊云何が 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜布施波羅蜜多の布施波羅蜜多性空なり と爲し無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說く。 **尚世尊、云何が布施波羅蜜多の無二を以て方便と爲し無生を方便と爲し無所得を方便と爲し一切**

脱乃至十遍處。何四念住乃至八聖道支。何字解脫門乃至無願解脫門。何五眼・六神通 (n)內容乃至無性自性空。(n)真如乃至不思議界。(n)苦乃至道聖諦。(n)四靜慮乃至四無色定。何八解

> (の)「世尊云何以布施波羅蜜多無二為方便…………能智布施 若波羅蜜多」 若の(1)場合と全く同じ方法に より省略す。

> > (1172)

蜜多性空なり。 便と爲し一切智智に廻向して布施乃至殿若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、布施波羅蜜多の布施波羅 乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。 若波羅蜜多の淨戒乃至般若波羅蜜多性空なり。何を以ての故に、 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多に廻向するやと。慶喜、 以ての故なりと。 若波羅蜜多を修習すと說くと。 の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に列向し 何を以ての故に、 世尊、 云何が淨戒乃至般若波羅蜜多の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 布施波羅蜜多性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを 慶喜、此れに由るが故に、 淨戒乃至般若波羅蜜多性空と布施 て布 淨戒乃至般 施乃至般

(1) 內室乃至無性自性室。(1) 真如乃至不思議界。(1) 苦乃至道聖諦。(1) 四靜慮乃至四無色定。 山四金住乃至八聖道支。山室解脫門乃至無願解脫門。 (1) 五眼·六神通。 (1)

卷の一百一十九

初分校量功德品第三十之十七

切三摩地門。山菩薩摩訶薩行。山無上正等菩提。 山佛の十力乃至十八佛不共法。 (1)無忘失法。恒住捨性。 (1)一切智乃至 一切相智。山一切陀羅尼門。

廻向して、 (m) 世尊、 布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。 云何が苦楽論の無二を以て方便と爲し無生を方便と爲し無所得を方便と爲し一切智智に

方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、集滅道聖諦の集滅道 一分無きが故なりと。 苦聖諦の苦聖諦性苦なり。 世尊、 云何が集滅度聖諦の無二を以て方便と爲し無生を方便と爲し無所得を 何を以ての故に苦聖諦性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く

住」の語を用かるものとす。 他」ではなる。 大便………一般若波羅蜜多」 右も(1)の場合と同じく略す。 他し十八空・四諦及び眞如等 他し十八空・四諦及び眞如等

切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 ての故に、法界乃至不思議界性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶 此れに由るが故に真如等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一

乃至十八佛不共法。①無忘失法・恒住捨性。①一切智乃至一切相智。①一切陀羅尼門・一切三摩地門 脱乃至十遍處。①四念住乃至八聖道支。①室解脫門乃至無願解脫門。①五眼・六神通。①佛の十力 (J)菩薩摩訶薩行。(J)無上正等菩提。 ()內容乃至無性自性空。()真如乃至不思議界。()苦乃至道聖諦。()四靜慮乃至四無色定。()八解

布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 滅道聖諦性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。 乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、集滅道聖諦の集滅道聖諦性空なり。何を以ての故に、集 に苦聖諦等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して 滅道聖諦の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得方便と爲し一切智智に廻向 故に、苦聖諦性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が集 智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、苦聖諦の苦聖諦性空なり。 (k)世尊、 云何が苦聖諦の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智 慶喜、 此れに由るが 何を以ての して布施

乃至十八佛不共法。以無忘失法·恒住捨性。以一切智乃至一切相智。以一切陀羅尼門·一切三摩地門。 脱乃至十遍處。 似四念住乃至八聖道支。 似空解脫門乃至無願解脫門。 心菩薩摩訶薩行。心無上正等菩提 以內室乃至無性自性室。以真如乃至不思議界。以苦乃至道聖諦。以四靜慮乃至四無色定。以八解 ki 五眼·六神通。 は佛の十力

山世尊、 云何が布施乃至般若波羅蜜多の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 無所得を方

初分校量功德品第三十之十六

方便……道聖諦……

右も①の場合に同じ。若波羅蜜多〕

右も国の場合と同じく略す。若波羅蜜多」 無二爲方便………般若波羅蜜多 蜜多……由此故說……

り。何を以ての故に、外空乃至無性自性空性空と彼の布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを 内空性空と彼の布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が外空乃 得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に內空等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所 て布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、外空乃至無性自性空の外空乃至無性自性空性空な 至無性自性空の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向し に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、內空の內空性空なり。何を以ての故に、 云何が内空の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智

卷の第一百一十八

心內容乃至無性自性空。

初分校量功德品第三十之十六

住捨性。⑴一切智乃至一切相智。⑴一切陀羅尼門・一切三摩地門。⑴菩薩摩訶薩行。⑴無上正等菩提。 至八聖道。①卒解脫門乃至無願解脫門。①五眼・六神通。①佛の十力乃至十八佛不共法。①無忘失法・恒 乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、法界乃至不思議界の法界乃至不思議界性空なり。 思議界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施 真如性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が法界乃至不 に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜,真如の真如性空なり。何を以ての故に、 (1)真如乃至不思議界。(1)苦乃至道聖諦。(1)四靜慮乃至四無色定。(1)八解脫乃至十遍處。(1)四念住乃 り世尊、云何が真如の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智 何を以

(1)「世尊云何以内空無二爲方便………無性自性空…… 由此故説………般若波羅蜜 多」「

(j)「世尊云何以虞如無二爲方 便………不思謀界……由 便素を明じく略出す。

初分校量功德品第三十之十五

乃至八聖道支。⑤玄解脫門乃至無願解脫門。⑤五眼・六神通。⑤佛の十力乃至十八佛不共法。 忘失法·恒住捨性。⑤一切智乃至一切相智。⑥一切陀羅尼門·一切三摩地門。⑤菩薩摩訶薩行。 ⑤真如乃至不思議界。 ⑤苦乃至道聖諦。 ⑤四靜慮乃至四無色定。 ⑤八解脫乃至十遍處。 ⑤四念住

乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に無明等の無二を以 處觸受愛取有生老死愁歎苦憂惱の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多 愁歎苦憂惱の行乃至老死愁歎苦憂惱性空なり。何を以ての故に、行乃至老死愁歎苦憂惱性空と布施 無明性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が行識名色六 に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、無明の無明性空なり。何を以ての故に、 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、行識名色六處觸受愛取有生老死 世尊、云何が無明の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智

h菩薩摩訶薩行。h無上正等菩提。 乃至十八佛不共法。山無忘失法・恒住捨性。山一切智乃至一切相智。山一切陀羅尼門・一切三摩地門。 脱乃至十遍處。山四念佳乃至八聖道支。山空解脫門乃至無願解脫門。山五眼・六神通。山佛の十力(き) (b)內室乃至無性自性空。(b)真如乃至不思議界。(b)苦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解

(g)

……由此故說……般若波羅蜜 便……老死愁歎苦

右もgの場合に同じ。

四五 Ŧ.

初分校量功德品第三十之十三、四、五

卷の第一百一十五

初分校量功德品第三十之十三

f)四点住乃至八聖道支。 f無忘失法・恒住捨性(鼻界まで) ① 全解脱門乃至無願解脫門。(D 五眼・六神通。(D 俳の十力乃至十八佛不

巻の第一百一十六

初分校量功德品第三十之十四

f無忘失法·恒住捨性(舌界より)。 (f) 一切智乃至一切相智。的一切陀羅尼門・一切三摩地門。的菩薩

風空識界性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故 若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、水火風空識界の水火風空識界性空なり。何を以ての故に、水火 の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至較 界性界と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が水火風空識界 廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、地界の地界性空なり。何を以ての故に、 布施乃至散若波羅蜜多を修習すと說くと。 に地界等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し、一切智智に廻向して 摩訶薩行。①無上正等菩提 は世尊、云何が地界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に

(f) 前卷と同意

(f) 前巻と同意。

右も付の場合と同じて略出す。 由此故説……般若波羅蜜多」 便…………秋風空識界……

__(114)__

と說くと。 爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習す 波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に意界等の無二を以て方便と なり。何を以ての故に、法界意識界及び意觸意觸に縁ぜられて生する所の諸受性空と布施乃至般若 意觸に絲ぜられて生する所の諸受の法界意界意識界及び意觸意觸に縁ぜられて生する所の諸受性空 方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、法界意識界及び意觸 及び意觸意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を 意界性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が法界意識界 に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、意界の意界性空なり。何を以ての故に、 生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 を以ての故に、觸界身識界及び身觸身觸に終ぜられて生ずる所の諸受性空と布施乃至般若波羅蜜多 とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に身界等の無二を以て方便と爲し、無 世尊、云何が意界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智

(f)内容乃至無性自性(舌界まで)

巻の第一百一十四

初分校量功德品第三十之十二

定。近八解脫乃至十遍處。 |内室乃至無性自性空(身界より)。(1)真如乃至不思議界。(1)苦乃至道聖諦。(1)四靜慮乃至四無色(2)

初分校量功德品第三十之十二

(f)

方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波程蜜多を修習すと說くと。 二.無く二分無きを以ての故なりと。慶喜、此れに由るが故に、鼻界等の無二を以て方便と爲し、無生を ての故に、香界鼻識界及び鼻觸鼻觸に終ぜられて生する所の諸受性空と布施乃至般若波羅蜜多とは ぜられて生する所の諸受の香界鼻識界及び鼻觸鼻觸に縁ぜられて生する所の諸受性空なり。 て一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、香界鼻識界及、鼻觸鼻觸に緣

身觸身觸に縁ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生が方便と爲し、無所得を方便 性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊,云何が觸界身識界及び 廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶善、身界の身界性空なり。何を以ての故に、身界 を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 は二無く二分無きを以ての故なりと。慶喜、此れに由るが故に、舌界等の無二を以て方便と爲し、無生 以ての故に、味界舌觸界及び舌觸舌觸に縁ぜられて生する所の諸受性空と布施乃至般若波羅蜜多と 縁ぜられて生する所の諸受の味界舌識界及び舌觸舌觸に縁ぜられて生する所の諸受性空なり。何を 舌觸に縁ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し 界性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊,味界舌識界及び舌觸 廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、舌界の舌界性姿なり。何を以ての故に、舌 と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜:觸界身識界及び身觸身觸 に移ぜられて生する所の諸受の觸界身識界及び身觸身觸に縁ぜられて生する所の諸受性空なり。何 切智智に廻向して布施乃至鮫若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、味界舌界舌識界及び舌觸舌觸に 世は、云何が身界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に 世尊、云何が舌界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に

り。何を以ての故に、色界眼職界及び眼觸眼觸に縁ぜられて生する所の諮受性室と布施乃至般若波 方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、色界眼識界及び眼觸 し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと 羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に限界等の無二を以て方便と爲 觸に縁ぜられて生する所の諸受の色界眼識界及び眼觸眼觸に縁ぜられて生する所の

說くと。

便と爲し一切智智に廻向して布施乃至敵若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、聲界耳識界及び耳觸耳 多とは二無く二分無きを以ての故なりと。慶喜、此れに由るが故に、耳界等の無二を以て方便と爲 何を以ての故に、聲界耳識界及び耳觸耳觸に縁ぜられて生する所の諸受性空と布施乃至般若波羅蜜 觸に縁ぜられて生する所の諸受の聲界耳識界及び耳觸耳觸に縁ぜられて生する所の諸受性空なり。 び耳觸耳觸に縁ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方 界性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が襲界耳識界及 廻向して布施乃至般

方波羅蜜多を修習するやと。慶喜、耳界の耳界性空なり。何を以ての故に、耳 世尊、云何が耳界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に 無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと

鼻觸に縁ぜられて生する所の諸學の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便・爲し 空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世尊、云何が香界鼻識界及び鼻觸 ・世尊、云何が鼻界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に して布施乃至敝若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、鼻界の鼻界性空なり。何を以ての故に、鼻界性

處の く二分無きを以ての故なり。慶喜、此れに由るが故に、色處等の無二を以て方便と爲し、無生を方 無所得を方便と爲し、切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、聲香味觸法 無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するや 無きを以ての故なりと。世尊、 (e) 上篇し、無所得を方便と篇し 慶喜、色庭の色處性空なり。 內容乃至無性自性空。 整香味觸法處性空なり。 て布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 に、眼處の無二を以て方便と爲し、 (e) 真如乃至不思議界。 何を以ての故に、 一切智智に廻向して布施乃至散若波羅蜜多を修習すと說くと。 云何が整香味觸法庭の無二を以て方便と為し、無生を方便と為し、 何を以ての故に、色庭性空と布施乃至散若波羅蜜多とは二無く二分 聲香味觸法處性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無 無生を方便 e苦乃至道聖諦。 世尊、 「爲し、 云何が色處の無二を以て方便と爲し 無所得を方便と爲し

卷の一百一十三

初 量功德品第三十之十一

四靜慮乃至四無色定。ⓒ八解脫乃至十遍處。ⓒ四念住乃至八聖道支。◉室解脫門乃至無(wa) 切陀羅門·一切三摩地門。(e)菩薩摩訶薩行。(e)無上正等菩提。 (e) 五眼·六神通。 。他佛の十力乃至十八佛不共法。他無忘失法・恒住捨性。他一切智乃至一 切相智。 (の) 前後と同意。

び眼矯眼欄に縁ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を f)世勢、云何が眼界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一 廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、眼界の眼界性空なり。 施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。世早、 何を以 云何が色界眼識界 の故に、 切智智

(1)「世尊云何以身界無二為方便……云何以身界無二為方便。……云何以五界無二為方便。 右も()の場合の如く略す。由此故説……般若波羅蜜多 ……云何以惠界無二為方便…

(e) 乃至十八佛不共法。 (c)無上正等菩提。 (c)無忘失法·恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門·一切三摩地門。

IC 此れに由るが故に、色等の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智 色つ色性空なり。何を以ての故に、色性空と布施乃至般若彼羅蜜多とは二無く二分無さを以ての故 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。 なりと。世尊、云何が受想行識の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲 廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習すと說くと。 を以ての故に、受想行識性空と布施乃至般者波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。慶喜、 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、受想行識の受想行識性空なり。 具壽慶喜復た佛に白して言さく、は世尊、 云何が色の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 佛言はく、

d·菩薩摩訶薩行。d·無上正等菩提。 乃至十八佛不共法。d無忘失法·恒住捨性。d 脱乃至十遍處。(d)四念住乃至八惡道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。 內室乃至無性自性容。(山嵐如乃至不思議界。(山苦乃至道็語)。 一切智乃至一切相智。d) d四靜慮乃至四無色定。 (d) 五眼 切陀羅尼門·一 • 六种通。 切三 (d) 佛の十力 摩地門。 (d) 八解

乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜・ 意處の無二を以て方便と爲し、無所を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するやと。慶喜、眼處の眼處性空なり。何を以 處性空を布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なりと。 (e) 耳鼻舌身意處性空と布施乃至般若波羅蜜多とは二無く二分無きを以ての故なり。 世尊 云何が眼處の無二を以て方便と爲し、 耳鼻舌身意處の 無生を方便と爲し、無所得を方便と爲 耳鼻舌身意處性空なり。 世尊、 云何が 廻向 何を以て ての故に、 耳鼻舌身 切智智 て布施 の故

(6) 一世尊云何以限處無二爲方便………世尊云何以限處無二爲方

四四九

初分校量功德品第三十七十

(e)菩薩摩訶薩行。(e)無上正等菩提。

巻の第一百一十二

初分校量功德品第三十之十

切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 (1)慶喜當に知るべし獨覺菩提の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 無所得を方便と爲し

乃至十八佛不共法。 脱乃至十遍處。(4)四念住乃至八聖道支。(4)空解脫門乃至無願解脫門。 (a) 內空乃至無性自性空。自眞如乃至不思議界。自苦乃至道聖諦。自四靜慮乃至四無色定。 (a)無忘失法·恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一 (a) 五眼·六神通。 切陀羅尼門・一 切三摩地門。 a佛の十力 (a) 八解

(a) 菩薩摩訶薩行。(a) 無上正等菩提。

| b 慶喜當に知るべし菩薩摩訶薩行の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と 一切智智に廻向にして布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。

乃至十八佛不共法。心無忘失法,恒住捨性。心一切智乃至一切相智。心 小菩薩摩訶薩行。 脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖道支。心空解脫門乃至無願解脫門。心五眼 (b)內容乃至無性自性空。(b)真如乃至不思議界。(b)苦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解 b無上正等菩提。 一切陀羅尼門·一 ・六神通。山佛の十力 切三摩地門。

(の慶喜當に知るべし無上正等菩提の無二を以て方便となし、無生を方便と爲し、無所得を方便と 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。

脱乃至十遍處。 (6)四念住乃至八聖道支。 (6)空解脫門乃至無願解脫門。 (e)內室乃至無性自性空。 (c)真如乃至不思議界。 (e)苦乃至道聖諦。 (c)四靜慮乃至四無處色定。 (c) (で五眼・六神通。 (で佛の 八八解

(1)「慶享當知以凋覺菩薩…… 般若波羅蜜多」

蜜多」 蜜多山 無二為方便……… · 般若波羅無二為方便……… · 般若波羅

右も的の場合に同じ。

乃至十八佛不共法。 方便と爲 處。 無所得を方便と為し一切智智に (c)四念住乃至八聖道支。 性自性空。 (c)無忘失法·恒住捨性。 (e)真如乃至不思議界。 (C) 室解脫門乃至無願解脫門。 (c) 廻向し 切智乃至 (C) 苦乃至道聖諦。 て布施乃至般素波 切相智。 (C)四靜慮乃至四無色定。 (c) (c) 五眼·六神通。 羅蜜多を修習するなりと。 切陀羅尼門·一 切三摩地門。 (c) 佛 (c) 八解 の十力

無生を方便と爲し、 (d) 慶喜當に知るべし一 切智智に廻向し 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなり て布施乃至般若波羅蜜多を修習し、 切陀羅尼門の無二を以て方便と為し 切三摩地門の無二を以て方便と為し、 無生を方便と為し 無所得を方便と

(c)

無上正等菩提

乃至十八佛不 脱乃至十遍處。 (d) 內容乃至 共法。 無性自性空。他真如乃至不思議界。 (d) d無上正等菩提。 d無忘失法·恒住捨性。 (d) 一切智乃至 (d) 苦乃至道 願 切相智。(d) 解脫門。 聖諦。 (d) (d) 五 服 四靜慮乃至四無色定。 切陀羅尼門・一 . 六神 通。 切三 (d) 佛の十力 摩地門。 (d)八解

(d)

訶薩行。

至般 漢果の無二を以て方便と爲し、 (e) 慶喜當に知るべし預流向預流果の無二を以て方便と爲し、 若波羅蜜多を修習するなりと。 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、一 無生を方便と爲し、 無所得を方便と為し一切智智に 一來向一 無生を方便と爲し、 來果不還向不還果阿 廻向し 無所得 羅漢向 7 を方便 布施乃 阿

內室乃至無性自性空。但真如乃至不思議界。 八佛不共法。 温處。 (e) 四金住乃至八 (e)無忘失法·恒住捨性。 聖道支。 (e) 空解脫門乃至無 (e) 切智乃至 e) 苦乃至道 願解脫門。 切相智。(e) 聖部。 (e) 四靜慮乃至四無色定。 (e) 五眼 切陀羅尼門·一 . 六神 通 切三摩地門。 (e) 佛 (e) 八解 0 十力

> (山)「慶喜當知以一切陀羅尼地門………般若波羅蜜多」地門………般若波羅蜜多」地門………一切四無二為方便………一切四 切陀羅尼門

(ら) 預流向預流果。一來向阿羅漢果……般若波羅蜜多 無二為方便……阿羅漢向 來果不還向不還果阿羅漢向

四四七

初分校量功總品第三十之九

帝の第一百一十

初分校量功德品第三十之九

上属し、 切智智に廻向 (a) 慶喜當に知るべ 無生を方便となし、 して布施乃至般若波羅蜜多を修智し、 し佛 シナ 力の無一 無所得を方便と偽し一 一を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多 四無所 畏乃至十八佛不共法の無一 無所得を方便と為 一を以 を修 て方便

するなりと。

乃至十八佛不共法。 脫乃至十遍處。(1)四念住乃至八聖道支。(1)空解脫門乃至無願解脫門。 a)菩薩摩訶薩法。 內容乃至無性自性空。 (a) 無上正等菩提。 a無忘失法·恒住捨性。 a真如乃至不思議界。 (a) 切智乃至 a苦乃至道聖諦。 切相智。(a) (a) 四靜慮乃至四無色定。 (a) 丘眼·六神通。 切陀羅尼門· 切三摩地門。 (a) 佛の十力 (a) 八解

切 心慶喜當に知るべ 智智に廻向 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、恒住捨性の無二を以て方便と爲し、無生を方便 し無忘失法の無二を以て方便と爲し、 無生を方便と爲し、 無所得を方便と爲

乃至十八佛不共法。 山菩薩摩訶薩行。 b內容乃至無 十遍處。小四念住乃至八聖道支。 性自性容。心真如乃至不思議界。心苦乃至道聖論。 心無上正等菩提。 心無忘失法·恒住捨性。 心容解脫門乃至無願解脫門。 (b) 切智乃至 切相智。山 b)四靜慮乃至四無色定。 (b) 五眼·六神通。 切陀羅尼門·一 切三摩地門。 (b) 佛の十力 (b) 八解

温で 慶喜當に知るべし 廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、 一切智の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切 道相智一切相智の無二を以て方便と爲し、無生を

右ももの場合に同じ。

四四五

菩薩摩訶薩行。

(j無上正等菩提。

乃至十遍處。 (h) (h) 至十八佛不共法。山無忘失法・恒住捨性。 內室乃至無性自性空。h) 真如乃至不思議界。h) 苦乃至道聖諦。h) 四靜慮乃至四無色定。h) (h) 四 h無上正等菩提。 念住乃至八聖道支。山室解脫門乃至無願解脫門。山五服・六神通。 CONTRACTOR OF STREET, 的一切智乃至一切相智。的一切陀羅尼門·一切三摩地門。 (h)佛の十カ乃

脱乃至十遍處。①四念住乃至八樂道支。①空解脫門乃至無願解脫門。①五眼・六神通。①佛の十力乃②の內字乃至無性自性字。①眞如乃至不思議界。①苦乃至道樂諦。①四靜慮乃至四無色定。①八解 (i) 至十八佛不共法。 便と貧し、無所得を方便と貧し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 菩薩摩訶薩行。①無上正等菩提。 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、 (1)慶喜當に知るべし空解脱門の無二を以て方便と為し、無生を方便と為し、無所得を方便と為し (i)無忘失法·恒住捨性。(i)一切智乃至一切相智。(i)一切陀羅尼門·一切三摩地門。 無相無願解脱門を以て方便と爲し、無生を方

脱乃至十温處。()四念住乃至八聖道支。()字解脫門乃至無願解脫門。()五眼・六神通。()佛の十力乃 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、六神通の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲 至十八佛不共法。①無忘失法・恒住捨性。①一切智乃至一切相智。①一切陀羅尼門・一切三摩地門。〕 ()慶喜當に知るべし五眼の無二を以て方便と爲し、無性を方便と爲し、無所得を方便と爲し ()內容乃至無性自性容。()眞如乃至不思議界。()苦乃至道塞諦。()四靜 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 慮乃至四無色定。)八解

(i)「慶喜當知以空解股門 無二 おも(h)の場合に同じ。

右も(3)の場合に同じ。 おも(3)の場合に同じ。

佛の = 八解脫乃至十 力乃至十八佛不共法。 (c) 菩薩摩訶薩行。 遍庭。 (e) 四念住乃至八聖道支。 (e)無上正等菩提 (e) 無忘失法·恒住捨性。 (e) 空解脱門乃至無願解脫門。(e) 五眼・六神通。 (e)一切智乃至 切相智。 (e) 切陀羅尼門・ 切 (e)

切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、 乃至十八佛不共法。 股乃至十遍處。f)四念住乃至八聖道支。f)空解脫門乃至無願解脫門。 b) 菩薩摩訶薩行。f)無上正等菩提。 (f)內室乃至無性自性空。(f)真如乃至不思議界。(f)苦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。 慶喜當に知るべし四靜慮の無二を以て方便と爲し、 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 ff無忘失法·恒住捨性。ff一切智乃至一切相智。ff 四無量四無色定の無二を以て方便と爲し、 無生を方便と爲し、 (f) 五眼 切陀羅尼門·一 無所得を方便と爲し ・六神 通。 切三摩地門。 (前佛の十カ (f)八解

切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、八勝處乃至十遍處の無二を以て方便と爲し、無 乃至十八佛不共法。 空を方便と為し (B)內室乃至無性自性室。(B)真如乃至不思議界。(B)苦乃至道聖諦。(B)四靜慮乃至四無色定。(B)八解 (質慶喜當に知るべし八解脱の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 (g四念住乃至八聖道支。(g)空解脫門乃至無願解脫門。 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと ⑤無忘失法•恒住捨性。⑤一切智乃至一切相智。⑤一切陀羅尼門•一 (S) 五眼 無所得を方便と爲し • 六神通。 切三摩地門。 宮佛の十カ

智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、四正斷乃至八聖道支の無二を以て方便と爲し、 慶喜當に知るべし四念住の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し 無所得を方便と関し、一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。

g菩薩摩訶薩行。

(5)無上正等菩提。

(6) 前巻と同意。

右も()の場合に同じ。 教若波羅蜜多.」

| 方便………八聖道支…… | 方便……八聖道支…… | 大便……八聖道支…… | 大変を表している。 | 大変を表してなる。 | 大変を表してなる。 | 大変を表してなる。 | 大変を表しをなる。 | 大変をなる。 | 大変をなる。 | 大変をなる。 | 大変をなる。 | 大変をなる。 | 大

乃至十八佛不共法。 脫乃至十遍處。 (1) 內室乃至無性自性空。(1) 真如乃至不思議界。 (C)四念住乃至八聖道支。 無所得を方便と貸して一 (c) 無忘失法、 恒住捨性。 心室解脫門乃至無願 切智智に廻 (c) (c) 苦乃至道 切 向し布施乃至般若波維 智乃至一 切相智。 聖諦。 (c) 解脫門。 四靜慮乃至四無色定。 (c) (c) 五眼、 切陀羅尼門、 蜜多を修習するなりと。 六神通。 (c) 切三 佛の (c) 摩地 八解 -4-力

門。

(c) 菩薩摩訶薩行。

(c) 無上

正等菩提

摩地門。 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、集滅道聖諦い無二を以て方便と爲し、無生 力乃至十八佛不共法。は無志失法、恒住捨性。は一 (d) (d) 內容乃至無性自性容。山眞如乃至不以議界。 慶喜常に d)菩薩摩訶薩行。 無所得を方便と爲 十遍處。 知るべ 心四念住乃至八聖道支。 し苦楽諦の無二を以て方便と貸し、無生を方便と貸し、無所得を方便と爲 d無上正等菩提。 L 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 (d) (山菁聖論乃至道聖論。) 四靜慮乃至四無色定。 切智乃至一切相智。 乃至無 願解脫門。 (d) (d) H 眼、 切陀羅尼門、 六 神 通。 一を方 (d) 切三 L 佛 0 (b) 便

上寫 為し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、 (e) 慶喜當に知るべし布施波羅蜜多の無二を以て方便と属し、無生を方便と属し、 無生を方便と爲し、 無所得を方便とほし 一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習 浄戒乃至般若波羅蜜多の無二を以て方便 無所得を方便と

(e) 內容乃至無性自性空。 (e) 道 如乃至不思議界。 (e) 若乃至道聖諦。 (e) 四靜慮 乃至四無色定。 するなりと。

巻の第一百一十

初分校量功德品第三十之八

初分校量功德品第三十之七、

八

(e)「慶喜當知以布施波羅蜜多」 無二以方便………般若波羅蜜多」 無二以方便………般若波羅蜜多」

巻の第一百九

仍分校量功德品第三十之七

多を修習するなりと。 慶喜富に知るべ て方便と爲し、 廻向して布施乃至般若波羅蜜多 し無明の無二を以て方便と爲し、 無生を方便と為し、 無所 修智 得を方便と為 行識名色六處觸受愛取有生老死 無生を方便と為し、 D 切智智に 廻向 無所得を方便と属し L して布: 愁歎苦憂 施乃至 惱 岩波羅 0

內容乃至無性自性室。 八佛不共法。 十遍處。 (a) 174 念住乃至八聖道支。 (a) 無忘失法、 (a) 真如乃至不思議界。 恒住捨性。 (a) 空解 (a) 脱門乃至無願 切智乃 (a) 苦乃至道聖 至 切相智。 解脫門。 部。 (a) 四靜慮乃至四 (a) (a) H 切陀 眼 羅尼 六神通。 無色 門 定 (a) 切三 佛 V (a) 力

生を方便と為し (b) 智智に廻向 菩薩摩訶薩行。 十八佛不共法。 (b) 內室乃至無性自性空。心真如乃至不思議界。 慶喜當に知るべ (a) 菩薩摩訶薩行。 して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、 (b) 四念住乃至八聖道支。 、無所得を方便と為し (b) (b) 、し内空の無二を以て方便と爲し、 無上 無忘 (a) 失法 無上正等菩提。 正等菩提。 恒住 捨性。 山室解脫門乃至無 切智智に廻向して布 (b) 一切智乃至 (b) 苦乃至道聖諦。(b) 外空乃至無性自性空の無二を以て方便と爲し、 無生を方便と爲し、 願解脫門。 切相 施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 (b) (b) 四 五眼 靜慮乃至四無色定。 切陀 無所得を方便 釉 六神通。 尼門、 (b) 切三摩地門 佛 と写 (b) 0 八解脫 力乃 切

(a) 「慶喜雷知以無明無二為方便………行識名色六處觸受便………行識名色六處觸受を愛取有生老死愁歎舌憂惱…… 般若波羅蟾多」 無明。行識名色六處觸受受愛取有生老愁歎苦憂惱。

(b)「慶喜當知以內空無二爲方便……無性自性空…… 般若波羅蜜多」

無生 おも()の場合の如す略す。 無生 粉若波羅蜜多」

に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習

慶喜當に知る

し真如の無二を以

て方便と為

無生

を方便と為

無所得

を方便と為

法界乃至不思議界の

無

一を以て方便と爲

と爲し、 智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 爲し無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 的內容乃至無性自性空。 法界点識界及び意觸意觸に縁ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と 無生を方便と爲し。 (1) 真如乃至不思議界。(1) 苦乃至道聖諦。 無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習 慶喜當に知るべし意界の無二を以て方便 h四靜慮乃至四無色定。

卷の第一百八

初分校量功德品第三十之六

三摩地門。 十力乃至十八佛不共法。 (h) 八解脫乃至十遍處。 (h)菩薩摩訶薩行。 (h) 的無忘失法、 四念住乃至八聖道支。 的無上正等菩提。 恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。 山空解脫門乃至無願解脫門山 (h) 五眼、 切陀羅 六神通 尼門、 (h) 切 佛

心菩薩摩訶薩 智智に (i) 至十遍處。 內空乃至無性自性空。①真如乃至不思議界。①苦乃至道聖諦。 慶喜當に知るべし地界の無二を以て方便と爲し、 廻向 佛不共法。 無所得を方便と爲し L 行。 7 (1)四念住乃至八聖道支。 布施乃至般若波羅蜜多を修習し、水火風空識界の無二を以て方便と爲し (i) (i) 無忘失法、 無上正等菩提。 一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなり。 恒住捨性。 () 空解脱門乃至 (i)一切智乃至 衆生を方便と為し、無所得を方便と為し 無願解脫門。 切相智。 (i)四靜慮乃至四 (i) (b) 切陀雞尼門、 五眼、六神通 無色定。i) 。ii 佛の十カ乃 切三 無生 摩地門。 を方 八解 切 便

(h) 前巻と同意

乃至十八佛不共法。 門。g菩薩摩訶薩行。 脫乃至十遍處。 g內容乃至無性自性空。gi真 (g)四念住乃至八聖道支。 g無忘失法、 g無上正等菩提。 如乃至不思議界。 恒住捨性。g一切智乃至一 欧空解脱門乃至無願解脫門。 (g)苦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。 切相智。 g一切陀羅尼門、 (g) 五眼、 六神通。 (g) 佛 切三摩地 (g)八解 0 ナカカ

方便とはし、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修 般若波羅蜜多を修習するなりと。慶喜當に知るべし耳界の無二を以て方便と爲し、 受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布 智に廻向 と爲し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。 習し、香界鼻識界及び鼻觸鼻觸に線ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と貸し、 觸に縁ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 し、無所得を方便と爲し一切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、聲界耳識界及び耳觸耳 羅蜜多を修習するなりと。 を以て方便と爲し、 して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、味界舌識界及び舌觸舌觸に縁ぜられて生する所の諸受の に知るべし舌界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、 所得を方便と爲し一 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するなりと。慶喜當に知るべし鼻界の無二を以て 慶喜當に知るべし眼界の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、無所得を方便と爲し一切智 して布施乃至般若波羅蜜多を修督し、色界眼識界及び眼觸眼觸に縁ぜられて生する所の諸 双智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習 無生を方便と爲し、 慶喜當に知るべし身界の無二を以て方便と爲し、 無所得を方便と為し、 無所得を方便と爲し一切智智に廻向 一切智智に廻向して布施乃至般若波 觸界身識界及び身觸身觸 無生を方便と貧し、 無所得を方便と為し 無生を方便と為 無生を方便 慶喜當 施乃至 無 IT

> 3 するものとす。 の代りに「安住」の二 眞如、苦聖諦」の三は「修習 色處。學香味觸法處。 字を以て

は

以下略田す亦た「内空、眞如右も図の場合と同方法により す。 苦聖論」の三は「修習」の代り 向一切智智修智布施乃至 便無生為方便無所得為方世廻 便……以法界意識界內意 に「安住」の語を用ふるものと 波羅蜜多 觸意觸爲緣所生諸受無二爲方 眼觸為緣所生路受 慶喜當知以眼界無二為方 般

(4) (ほ) 觸舌觸為滁所生諸受。 觸鼻觸爲緣所生諸受。 觸耳觸爲緣所生諸受。 .. 舌界。味界舌識界及舌 鼻界。香界鼻識界及鼻 學界耳識界

身觸為緣所生諸受。

縁ぜられて生する所の諸受の無二を以て方便と爲し、無生を方便と爲し、

無所得を方便と属し一切

四三九

解脫門。 (e) (e) 四 五眼·六神通。 至 四無色定。 (e) 八 解脫 乃至 十遍處。 (e) 四 念住乃至 支。 (e) 空解 脱門乃言

悉の第一百七

初分校量功德品第三十之五

切二 (e) 摩地門。 0 + 力乃至十八佛不共法。 (e) 菩薩摩訶薩 行。 (e) (e) 無上正等菩提。 無忘失法、 恒 住捨性。 (e) 一切智乃至 切相智。(e) 切陀羅尼門、

(f) なりと。 を方便と為し 十九乃至 八解脫乃至十遍處。 無生を方便と爲し、 言はく、 (f) 內室乃至無性自性室。 (f) 慶喜、 一切智智に廻向 佛不共法。 (f) 汝今當に知るべし。 四念住乃至八聖道支。 無所得を方便と属し一 f無忘失法、 して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、受想行識の無二を以て方便 (1)真如乃至不思議界。 恒佳 色の無二を以て方便と爲し、 捨性。 (f) 空解脱門乃至 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を (f) 切智乃至 (f) 苦乃至道 無願 聖縮。 切相智。 解脫門。 無生を方便と爲し、 (f)四靜慮乃至四 (f) (f) 丘眼·六神通。 切陀羅 尼門、 無色定。 修習する 無所得 (f) と爲 切

無所得を方便と為し して布施乃至般若波羅蜜多を修習し、 に知るべ 智智に廻向 欧慶喜當に知るべ し色魔の無二を以て方便と爲し、 L 無所得を方便と爲し一 て布 施乃至般若波羅蜜多を修習し、耳鼻舌身意處の無二を以て方便と傷 し眼る 切智智に廻向して布施乃至般著波羅蜜多を修習するなりと。 處の 無二を以て方便と 切智智に廻向して布施乃至般若波羅蜜多を修習するな 整香味觸法處の無二を以で方便と貸し、 無生を方便と為し、 爲し、 無生を方便と為し、 無所得を方便と貸し一 無所得を方便と爲 無生を方便と為し、 切智 1) 智 無生を方 L K 慶喜當 廻向

三摩地門。

(f) 菩薩

摩

河薩

行

(f)無上正

等菩提

空 「等と、「修習市施汝羅蜜多」等とある所は「安社內空」等と、「修習市施汝羅蜜多」等とある所は「安社內空」等と、「修習市施汝羅蜜多」に相應する所とす。「例でなる故之を符號(同にて略し以下はその諸法のみ略組す個以下はその諸法のみ略組する所を「安住」として內空、眞如、苦聖論「公里して改むべきものとす。「後智」とある所を「安住」として後し、

- (99)-

不なり は彼の布施淨戒安忍精進靜慮波 り乃ち名づけて眞に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修すと爲す可きが故に此 世 佛言はく、 羅蜜多に於て尊と爲り導と爲るが故に、 要すー 切智智に廻向して浮戒安忍精進 靜慮般若波羅蜜多を修する 我れ但だ廣く般若波羅蜜多 の般若波羅蜜多

解脫乃至十遍處。 力乃至十八佛不共法。 內容乃至無性自性空。 (c) 菩薩摩訶薩行。 C四念住乃至八聖道支。 (6)無忘失法、 (e) (c) 真 !!! 無上正等菩提。 乃至不思議界。 恒住捨性。 (C) 空解脫門乃至無願解脫門。 (c) (c) 苦聖諦乃至道聖諦。 切智乃至 切相智。 (c) 五眼 (c) (c) 四靜慮乃至四無色定的 切陀羅尼門、 六神通。 (c) 佛の 切三塵 + 1

解脫門乃至無願 仙苦聖諦乃至道聖齡。 浄戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修すと名づくと。 を修習せば是れを一 佛言はく、 切智乃至 **戸戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修するやと。慶喜、** 無所得を方便と爲して浮戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修智せば是れを一 喜復た佛に白して言さく 切相智。 解脫門。 無二を以て方便と貧し、 切智智に廻向して布施波羅蜜多を修すと名づくと。 dU們屬乃至四無色定。 (d) (b) 五眼 切陀羅尼門、 六神通。 は世尊、云何が一切智智に廻向して布施波羅蜜多を修するやと。 は佛の十力乃至十八佛不共法。 無生を方便と爲し、 切三摩地門。 (1)八解脫乃至十 d內容乃至無性自性空。 () 菩薩摩訶薩行。 無二を以て方便と爲し、 遍處。 無所得を方便 (d) 世尊、 四念住乃至八聖道支。 d無忘失法、 d真如乃至不思議 d無上正等菩提 と爲して布施波羅蜜多 云何が一 切智智に 無生を方便 恒住捨性。 切智智に 廻向 (d) 界。 L 空 7 2

乃至般若波羅蜜多を修省するや。 し一布施乃至般岩波羅蜜多を修習するや。 復た佛に白して言さく、 何の 無生を以て方便と爲し、 (e) 世尊、 (e)內容乃至無性自性空。 何の無二を以て方便と為し 無所得を方便と為し一 (e) 真如乃至不思議界。 切智智に 切智智に廻向 廻向して布施 (e) 苦聖諦 よりて以下略出,但し一内空、 右の文も心の場合と同方法 廻向一切智智而 修布施波羅蜜多……是名

修淨戒安忍精

不共法。 切智。 相 智 切

慶喜當知由此 「汝今」の二 宇を 般岩波羅 蜜多 湘

で以下略出す。 石も(a)の 場合と同 方法により

向一切智智而修布施之の「佛書慶喜於意云」 五 ……我但資稱讚殼若波羅 般若能~出三界を導き三 忍精進靜慮般若波羅蜜多。 一切智智而修布施波羅蜜 尊と寫り夢と寫る云云。 布施波羅蜜多。 淨戒

にて略し以下その諸法のみ略 他は全文同じき故之を符號(e) 他は全文同じき故之を符號(e) と改むべきものとす ある所を「住内空」「住頂如」 出す但し「內空、眞如、苦聖節」 の三は「修布施波羅蜜多」等と 「世尊云何廻向一切智智面

阿蘇陀(Ananda)

羅蜜多………但廣稱讃般若 「世尊何終不廣稱讚布施波

符號を變更す。 皆同文なる故之を符號山にて 下に出す諸法を代入せば他は靜應波羅蜜多」のある所に大 略し以下その諸法のみ略出す。 右の文中「布施波羅蜜多乃 關法第四卷により以 F

內空。外空·內外空·空空·大 法空·不可得空·無性空·自 本性空·自相空·共相空·一 竟空•無際空•散空•無變異空• 空·勝義空·有爲空·無爲空·畢

空·無性自性空。 眞如。 法界法性• 切

性・法定法住實際虚空界不思妄性・不變異性・平等性・離生

(3) 四苦聖諦。 四無量四無色 無滅道聖諦。

八解脫。 八勝處九次館

(そ) 五根五力七等覺支八聖道支。 定十遍處 四念住。四正斷四神足

3 佛十力。 四無所畏四無

脫乃至十遍處。 乃至十八佛不共法。 內空乃至無性自性空。 bo 波羅蜜多・精進波羅蜜多・靜慮波羅蜜多を稱讃せずして但だ廣く般若波羅蜜多のみを稱讃するや。 知るべし二無く亦た二分無しと。是の故に般若波羅蜜多の功德威神は甚だ爲れ希有なりと。 は諸佛の 爾の時具壽慶喜、佛に白して言さく、 所以は何ん、 切智智に異らざればなり。 (4)四念住乃至八聖道支。(4) 室解脫門乃至無願解脫門。(4) 五眼、六神道。 諸佛の得たまへる所の a無忘失法、 (1) 真如乃至不思議界。(1) 苦聖諦乃至道聖諦。 (a)阿耨多羅三藐三菩提。 恒住捨性。 諸佛の得たまへる所の一切智智と此の般若波羅蜜多には當に (a) 世尊、 一切智智は般若波羅蜜多に異らず、 (a) 何に繰りて廣く布施波羅蜜多・淨戒波羅蜜多・安忍 切 智乃至一 切相智。 (a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解 (a) 一切陀羅尼門、 是の如く般若波羅蜜多 (a)佛の十力 切三摩地 (a)

法。(b) 的性空。眞如乃至不思議界。 の與に 心四念住乃至八聖道支。心室解脫門乃至無願解脫門。 佛言はく、 b無上正等菩提。 無忘失法、恒住捨性。 尊と爲り導と爲るに由るが故に我れ但だ廣く般若波羅蜜多のみを稱讃す。心內空乃至無性自 (f)慶喜、 汝今當に知るべし。 (b) (小)苦聖諦乃至道聖諦。 切智乃至一切相智。心一切陀羅尼門、一切三摩地門。心菩薩摩訶薩 此の般若波羅蜜多は彼の布施波羅蜜多乃至靜慮波羅蜜 い四靜慮乃至四無色定。い八解脫乃至十 (b)五眼、六神通。 心佛の十力乃至十八佛不共 温處。 多

(a) 菩薩摩訶薩行。

を修するは眞に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修すと名づく可きや不やと。慶喜答へて言はく、 ず一切智智に廻向して布施波羅蜜多を修するに由り乃ち名づけて真に布施波羅蜜多を修すと爲す可 施波羅蜜多を修すと名づく可きや不やと。 (c) 佛言はく、慶喜、 意に於て云何、 意に於て云何。 若し一切智智に廻向せずして淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜 若し一 慶喜答へて言はく、 切智智に廻向せずして布施波羅蜜多を修するは真に布 不なり世尊と。 佛言はく、 慶喜、

四三七

故に、是の善男子善女人等に我れ等諸天の敬事すること佛の如く或は佛に近づくが如くなればなり。 し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣説流布せば是の善男子善女人等は魔及び眷屬其の便りを得す、 佛に白して言さく、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學 我れ等諸天も亦た常に是の警男子善女人等に隨逐し勤めて擁護して損惱無からしめん。 を生すと。時に諸の天衆、復た種種上妙の天花衣服瓔珞及び香鬘等を化して佛の上に散じ、重ねて 何を以ての

生するを得るが故に。是の如く般若波羅蜜多は皆諸佛の一切智智より生するを得るが故なり。所以 佛の一切智智を求むべし。何を以ての故に、諸佛の得たまへる所の一切智智は皆般若波羅蜜多より 諸佛の一切智智を得んと欲せば當に般若波羅蜜多を求むべく、般若波羅蜜多を得んと欲せば當に諸 根のものの能く是の事を辦するに非す、定めて先世に無量の佛所に於て多く善根を集め、多く正願 聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣說流布せば是の善男子善女人等は少善 に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し廣く有情の為に宜說流布するなり。世尊 法を尊重するが故にと。 は何ん。諮佛の得たまへる所の一切智智は般若波羅蜜多に異らず、是の如く般若波羅蜜多は諮佛の を發し、多く佛を供養し、多く善知識に攝受せられたるもののみ、乃ち能く此の甚深般若波羅蜜多 **蜜多より生するを得るが故に、是の如く般若波羅蜜多は皆諸佛の一切智智より生するを得るが故な** ば當に諸佛の一切智智を求むべし。何を以ての故に、諸佛の得たまへる所の一切智智は皆般若波器 橋戸迦、諸佛の一切智智を得んと欲せば當に般若波羅蜜多を求むべく、般若波羅蜜多を得んと欲せ 二無く亦た二分無しと。爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如 切智智に異らざればなり。諸佛の得たまへる所の一切智智は此の般若波羅蜜多と、 爾の時天帝釋、佛に白して言さく、世尊、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心に聽 當に知るべし

の無二の理を示す。

道に復へして去らしむべしと。時に天帝釋念じ巳つて便ち甚深般若波羅蜜多を誦しぬ。是に於て思 情の修する所の勝業を壞す。我れ當に佛より受けし所の甚深般若波羅蜜多を念誦し彼の惡應をして 由るに是の如き四兵は定めて是れ悪魔の化作せる所ならん。悪魔は長夜に常に佛の短を伺ひ諸の有 種勝兵も亦た及ぶ能はず、吉祥茅園の力士王種の四種勝兵も亦た及ぶ能はさればなり。斯の観察に

魔退きて本所に還へれり。甚深般若波羅蜜多大神呪王力の遣する所なるが故に。

巻の第一百六

初分校量功德品第三十之四

般若波羅蜜多を書持し恭敬供養せば當に知るべし是の處は妙なる光明有りて闇冥を除滅し諸の勝利 及び殊勝の行も亦た了知すべし。諸方の邑に隨ひ善男子善女人等有りて淨信心を以て是の如き甚深 持し恭敬供養せば當に知るべし是の處は妙なる光明有りて闇冥を除滅し諸の勝利を生すと。爾の時 の三千大千世界乃至十方無量無數無邊の佛國に於ても亦復た是の如し。此れに由りて菩薩摩訶薩衆 膽部洲の人の中に在りて流布せば當に知るべし此の處は佛寶法寶苾錫僧久住して滅せざるなり。此 た了知す可し。世尊、諸方の邑に隨ひ善男子善女人等有りて淨信心を以て是の如き般若波羅蜜多を書 乃至十方無量無數無邊の佛國に於ても亦復た是の如し。此れに由りて菩薩摩訶薩衆及び殊勝行も亦 て流布せば、當に知るべし此の處は佛寶法寶苾紹僧寶も久住して滅せさればなり。此の三千大千世界 洲の人の中に在りて久住せんととを。何を以ての故に、乃至般若波羅蜜多、膽部洲の人の中に在り 空に踊らして佛の上に散じ、合掌恭敬し俱に佛に白して言さく、願はくは此の般若波羅蜜多、 爾の時會中の所有四大王衆天乃至色究竟天同時に種種の天花衣服瓔珞及び香鷺等を化作し身を虚 天帝標等の諸の天衆に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所説の如し。乃至般若波羅蜜多、 PARTICULAR OF THE PARTY OF THE 贍部

名なり。吉祥茅國、

諸天般若の久住を願ふ。

去らしめぬ。 切の せる龍神樂又健達轉阿素洛揭路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等は、 現天・善見天・色究竟天、 りを得るを見す。何を以ての故に、含利子、此の三千大千世界に於ける一切の四大王衆天・三十三 若しは婆羅門若しは異道等の諸の有情類の敢へて惡意を懷き來りて般若波羅蜜多を求むるも能く便 めんが爲に我が所に來趣せり。 舍利子、 伽人非人等は皆共に是の如き般若波羅蜜多を守護し衆惡をして留難を作さしめず。何を以ての故に、 多より出生するが故なり。又た舍利子、 量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善 天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天・一切の梵衆天、梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無 衆惡をして留難を作さしめさればなり。 彼の諸佛等は皆般若波羅蜜多より出生するが故なりと。 舍利子、 切の獨覺、一切の菩薩摩訶薩及び一切の天龍神樂叉健達縛阿素洛 我れ都て 一切の整開、一切の獨覺、一切の菩薩摩訶薩、我れ及び一切の大威力を具 舍利子、 彼の外道等に一善法有るをも見ず。悉く恶心を懐き我が便りを求 十方各院伽沙等の如き話佛世界の 我れ都で一切世間の若しは天若しは魔若しは梵若し 何を以ての故に、 皆共に是の如き般若波羅蜜多を守 舍利子、 是の諸天等は皆般若波羅蜜 一切の如來應正等覺、 揭路茶緊捺洛莫呼 は沙門 護 3

も亦た及ぶ能はず、 飾し殊麗なる、 びに般若波羅蜜多とを懶幸し留難を作さんと欲するに非ずや。何を以ての故に、 勇鋭佛所に來詣せり。時に天帝釋見已つて念言すらく、將に惡魔化して此の事を爲し來りて佛と幷 菩提を得べし。我れ應に往到して其の眼を破壞すべしと。是の念を作し已つて く集會せるに般若波羅蜜多を宣説せり。是の中必ず菩薩摩訶薩有りて一受記し當に阿耨多羅三藐三 面の時惡賦是の念を作さく、 摩揭陀園の影堅大王の四種勝兵も及ぶ能はさる所、 劫比羅國の釋迦王種の四種勝兵も亦た及ぶ能はず、 、今如來應正等覺は四衆に圍遶せられ及び欲色界の諸の天人等皆同 憍薩羅國の勝軍大王の四種 吹合梨園の 是の如 四兵を化作し 栗站毘種の四 き四兵の嚴

【□型 若し善心あれば度せらるべきも、悪心邪見のみあり て定相を求むるが故に逃遣せ らるとなり。

(三) 受記。成佛すべしとの (三) 四兵。象兵、馬兵、車 記別を受くるなり。

利帝利種の名なり。

求めんが爲に相率ひて來れるも天帝釋の般者波羅蜜多大呪王を念誦せし力に由りて彼れをして還り

て還り去るならんと。佛、其の意を知らしめして含利子に告げたまはく、

と。念じ已つて便ち甚深般若波羅蜜多を誦せり。是に於て諸の來れる外道梵志、遙に敬相を現

時に舎利子見己つて念言すらく、彼れ何の終行り

彼の外道等は我が便りを 7

四三三

か故らに

來り

世

尊を右遶し退きて本所に還れり。

【三】 戍莲羅 Śūdrn四姓 最下位、農人なり。 の下に在りて屠殺を業とする 游茶羅 Caṇdala 四姓 養職を除く購入なり。 補料婆Pulpasa 腱種族 中 0

すっ

【三 外道惡魔の難ずる能 なりとする般若

恵施受齋持戒等の法。図四靜慮乃至四無色定・五神通。四布施波羅蜜多乃至較若波羅蜜多。図內容 乃至無性自性空。似真如乃至不思議界。図苦聖諦乃至道聖諦。図八解脫乃至十遍處。図四念住乃至 說して廣く流布せしめば、宮是の善男子善女人等は所生の處に隨ひて常に十善業道を遠離せず。宮 男子善女人等、此の般者波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し書寫解 男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し書寫解說 心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し書寫解說して廣く波布せしめば、當に諸の是の如 情に於て慈悲喜捨の心を離れさるが故なり。憍尸迦、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至 多を念誦せば必ず王等に歡喜問訊恭敬讃美せらる。何を以ての故に、是の善男子善女人等は常に有 憍尸迦,是の善男子善女人等若し國王王子大臣等の處に往至する有りて至心に是の如き般若波羅蜜 譴罰加害せられず。何を以ての故に、是の如き般若波羅蜜多の威德勢力の法爾らしむるが故なり。 賊の逼迫するに遭はんに至心に是の如き般若波羅蜜多を念誦せば、若し其の所に至るも終に彼れに する所と爲らず、先の定業の現在に受くべきをば除く。憍尸迦、是の善男子善女人等害し官事に怨 して廣く流布せしめば云何が當に未來の功德勝利を成就し得べきやと。佛言はく、憍尸迦、若し善 き等の現世種種の功德勝利を成就するを得べしと。時に天帝釋、佛に白して言さく、世尊、若し善 g 空解脫門乃至無顯解脫門。

願力に乗じて彼の趣に往生し有情を成熟するをば除く。是の善男子善女人等は所生の處に隨ひて常 十八佛不共法を成就し得べし。是の善男子善女人等は當に無忘失法・恒住捨性を成就し得べし。是 の善男子善女人等は當に一切陀羅尼門、一切三摩地門を成就し得べし。是の善男子善女人等は當に 切智乃至一切相智を成就し得べし。是の善男子善女人等は永く一切の地獄傍生鬼界に墜墜せす、 是の善男子善女人等は當に五眼六神通を成就し得べし。是の善男子善女人等は當に佛の十力乃至

(9) 一是善男子善女人覧所生成 管不遠離十善業道」、相應す さ所に次下に阻す諸法を代入 せば他は皆同文なる故之を符 は他に皆同文なる故之を符 を記し以下その諸法を

內室乃至無性自性室。 有る方便善可は指是の 脫乃至十遍處。 力を成就するが故に能く布施波羅蜜多を行じ、 (e) 四 念住乃至八聖道友。 如き湛深般若波羅蜜多より生長することを得。 (e) 真如乃至不思議界。 (e) 室解脫門乃至無願解脫門。 (e)苦聖諦乃至道聖諦。(e) 能く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行す。 四 (e) 憍尸迦、 静慮乃至四無色定。 菩薩摩訶薩は方便 (e) (e)

相智。任三十二大士相、八十種隨形好。 力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法· 橋尸 迦、 菩薩摩訶薩は方便善巧力を成就するが故に能く五眼を得、 恒住捨性。 f)一切陀羅尼門· 一切三摩地門。 能く六神 (f) 通 を得。 切智乃至 (f) 佛の 切

尸迦、 力圓滿、 蜜多に由りて成就することを得。 の行を行じ能く 訶薩は方便善巧力を成就するが故に能く壽量圓滿を攝取し能 沙沙、 菩薩摩訶薩は方便善巧力を成就するが故に能く有情を成熟し佛土を厳淨す。憍尸迦、 眷屬圓滿を攝取す。 菩薩摩訶薩は方便善巧力を成就するが故 無上正等菩提を得。 憍尸迦、 憍尸迦、 菩薩摩訶薩は方便善巧力を成就するが故に能 是の如く菩薩摩訶薩及び所有る方便善巧は皆般若波羅 に聲聞地に堕ちず、 く衆具圓滿、 獨覺地を證せさるなり。 淨土圓滿、 く菩薩 種姓圓 0 十地等 滿 壓 憍 色

し理 毒葉の中る所と爲らず、 受持讀誦 時天帝釋、 成就し得べきやと。 持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し書寫解說して廣く流布せしめば、 復た次に憍尸迦、 の如く思惟し書寫解說して廣く流布せしめば當に現在未來の功德勝利を成就し得べしと。 佛に白して言さく、 精勤修學 佛言はく、 若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦 理の如く思惟し書寫解説して廣く流布せしめば、 刀兵の害する所、 世鎮、 憍尸迦、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心 若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞 火の焚燒する所、 水の漂溺する所、乃至 四百四病の殀歿 云何が當に現在の功徳勝利を 是の善男子善女人等は現 し精勤修學 に聴聞 L 在

者の文中「布施乃至穀岩波羅客多」の所に次下に出す諸法を代入せば他に替同文なる故を代入せば他に替同文なる故を代入せば他に審し以下その之を符號(e)にに略し以下その之を符號(e)にに略し以下その潜法のみ略目す。 で銀下衛出す。 で銀下衛出す。

地火起るが故に熱病二百二、水風起るが故に冷病二百二、

四三

U 间

覺及び獨覺菩提。 (c) (c) 至四無色定• (c) 万.眼。 苦聖諦乃至道聖諦。 憍尸迦、菩薩摩訶薩に依因るが故に十善業道世間 た次に憍尸迦、 (c) 六神通。 切智乃至一 五神通等。 (で佛の十力乃至十八佛不共法。 (c) 菩薩摩訶薩及び菩薩摩訶薩十地等の行。(c) 如來應正等覺及び阿耨多羅三 是の (6)八解脫乃至十遍處。 切相智。 (6)布施乃至般若波羅蜜多。(6)內空乃至無性自性空。(6)真如乃至不思議界。 如き悲深般若波羅蜜多に依因るが故に菩薩摩訶薩有りて世間 (c)預流乃至阿羅漢。 (6四念住乃至八聖道支。(6)室解脱門乃至無 (c)無忘失法・恒住捨性。 に顯現す。 () 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (で惠施受齋持戒等の法。 (c) 一切陀羅尼門·一切三 (c)四靜慮乃至 に顯現 解脫門。 (c) 獨

支。 (d) 如 惠施受齋持戒 く菩薩摩訶薩の滿 憍尸迦、 象(d) d)室解脫門乃至無願解脫門。 菩薩摩訶薩及び如來應正等覺諸山大海。 獨覺向獨覺菩提。 (d) 譬へば滿月輪に依因るが故に一切の藥物星辰山海特明を増すことを得るが如く、 切陀羅尼門· 眞如乃至不思議界。 の法。 月輪に依因る (d) 四新 (d)菩薩摩訶薩十地等の行及び阿耨多羅三藐三菩提(d)聲聞獨覺有學無 一切三摩地門。 慮乃至四無色定・五神通等。心布施乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無 (d) 五眼。 (d)苦舉諦乃至道聖諦。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道 が故に The second secon (d) 六神通。山佛の十力乃至十八佛不共法。山無忘失法・恒 切世間の十善業道の樂草物の類皆明を増すことを得。 一切智乃至一切相智。 d)預流向預流果乃至阿羅漢向阿 (d) 是の

の有情の爲 は能く一 若し諸の如來應正 に無倒無に 切の人乘天乘聲聞乘獨覺乘無上乘を出生するが故なり。 切の世間出世間法を宣説す。 何を以ての故に、 憍尸迦、 憍尸迦、 0 當に 便善 知る 巧 を具

(の「慢尸迦依因菩薩所依因否薩に傲力る故に菩薩に属する故に菩薩に依因るが故に云々となす。

(1)「如是依因菩薩縣訶薩滿月輪散一切世間十善業道薬草物輸散一切世間十善業道薬草物

(b)

、空解

解

脫門。

(b) 五眼·

六神 (b)

(b)佛の十カ乃至十

八佛不共法。 流乃至阿羅漢。

(b)

無忘失法·

(b)

切陀羅 門乃至無

尼門·

切三摩地門。

切 通。

智乃 (b)

至

切

相智。

(b)

預

(b)

預

預流果 恒住

阿羅漢果b

獨覺及び獨覺菩提。

菩薩摩訶薩及び菩薩摩訶薩十

地等の行。

(b) 如來應 流向

IE

四二九

《名づく。功德は一切の不壽 共に諸呪中功德最大の故にか 共に諸呪中功德最大の故にか 大神呪等。大神呪、大 在り。 を除き 切の善法を與ふる

現世間」
現世間」
お略出す。 波(b) DICて略し以下その諸法のほ他は皆同文なる故之を符所に以下に出す諸法を伐入の文中「十善業道」に相應す 蜜多 咒王故十善業

漢向阿羅蓮果。 (a) の十地等の法。国如來應正等費及び阿耨多羅三藐三菩提。是の故に大仙、汝應に是の如き般若波 五眼·六神通。 (a) 切智乃至一切相智。 (a) (a) 俳の 誦ー精動修學し理の如く思惟し供養恭敬尊重讃歎すべしと。 獨覺及び獨覺向獨覺果。回菩薩摩訶薩・三藐三佛陀。 十力乃至十八佛不共法。②無忘失法・恒住捨性。②一切陀羅尼門・一切三摩 (1)整開乘乃至無上乘。(1)預流乃至阿羅漢。 (a) 菩薩摩訶薩及び菩薩摩訶 (a) 預流向預流果乃至阿羅

復た命終するも還つて本處に生じ、天の富樂を受けて倍す前に勝らん。 時に阿素洛の兇悖の徒黨、題心即ち滅して復た更に生ぜさるなり。憍尸迦、 情尸迦、若し阿素洛の兇悖の徒識是い思念を興さん。我れ等當に三十三天と陣戦を交へて諍はんと。 を理の如く思惟すべし。 羅密多を誦すべし。 羅蜜多を受持讀 波羅蜜多を學し當に無上正等菩提を證して無餘依般涅槃界に入れるなるべく、未來の諸佛及び諸 三藐三菩提を證すべ 子及び諸の天女、 般若波羅蜜多を聞信する功徳威力甚だ廣大なるが故なり。憍尸迦、若し善男子善女人等或は諸の 天女に、五衰の相現れ其の心験き惶恐して悪趣に壁せば、爾の時汝等諸天の眷屬、 く善根力の故に、此の般若波羅蜜多に於て淨信を生するが故に、五衰の相沒し身意泰然たらん。 設ひ て至心に是の如き般若波羅蜜多を念誦すべし。時に諸の天子或は諸の天女、是の般若波羅蜜多を聞 甚深般若波羅蜜多を持つべし。汝應に此の甚深般若波羅蜜多を讀むべし。 の時汝等諸天の眷屬、應に各誠心に是の如き甚深般若波羅蜜多を念誦し供養恭敬尊重讃歎すべし。 爾の時佛、 天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、汝應に此の些淡般若波羅蜜多を受くべし。汝應に此 此の般若波羅蜜多一 汝應に此の甚深般者波羅蜜多を精動修學すべし。汝應に此の甚深般若波羅蜜多 汝順に此の甚深般若波羅蜜多を供養恭敬母重讃歎すべし。何を以ての故に、 何を以ての故に、 たび其の耳を經るに由る善根力の故に決定して當に阿耨多羅 憍尸迦、 過去の諸佛及び諸の弟子は一切皆是の如き般若 何を以ての故に、 若し諸の天子或は諸 汝應に此の甚深般若波 應に其の 前に往る 憍尸迦、 天

信を示す。

【六】 五衰の相。諸天果報金 さて籌迫る時五種の死相現ず。 で、三に蠅來り身に著く、四 に他天己が座處に坐するを見、

CONTRACTOR DOL

初 分校 量 一功德品第三十之三

1) 羅蜜多有りて世に出現すと。心內室乃至無性自性室。回真如乃至不思議界。回苦聖諦乃至道聖諦。 仙、 (4) 大仙、當に知るべし三寶の種斷絕せさるに由るが故に、便ち布施波羅蜜多淨戒安忍精進靜慮般若波 る有らば則ち 佛寶の種をして斷ぜず法寶の種をして斷ぜず僧寶の種をして斷ぜさらしむればなり **尊重讃歎する有らば則ち一切の佛眼をして滅せず法眼をして滅せず僧眼をして滅せざらしむればな** 減すればなり。 般若波羅蜜多を受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し供養恭敬尊重讃歎せば則ち一切の惡法をし (3)四靜慮乃至四無色定。(3)八解脫乃至十遍處。(3)四念住至乃八聖道支。(3)空解脫門乃至無願解脫門。 如く思惟し供養恭敬尊重讚歎する有らば、則ち一切の天衆をして增益せしめて諸の 阿素洛の朋黨損 損減せしめて善法増益すればなり。 是の如き般若波羅蜜多を精動修學すべし。大仙、是の如き般若波羅蜜多を理の如く思惟すべし。大 帝釋に白して言さく、大仙、是の如き般若波羅蜜多を受くべし。大仙、是の如き般若波羅蜜多を持 浄天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天、聲を同うして共に天 自在天・梵衆天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍 つべし。大仙、是の如き般若波羅蜜多を讀むべし。大仙、是の如き般若波羅蜜多を誦すべし。 大仙、 是の如き般若波羅蜜多を供養恭敬尊重讃歎すべし。何を以ての故に、 時此の三千大千世界に於ける所有る四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化 若し是の如き般若波羅蜜多を受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し供養恭敬尊重 大仙、 若し是の如き般若波羅蜜多を受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し供養恭敬 大仙、若し是の如き般若波羅蜜多を受持讀誦し精勤修學し理 大仙、 若し能く是の如き 一讃歎す 大仙

名け、 行ひて E ば大仙と稱す。 長生を求むる人を仙と 大仙 (Maharai)。 道

(a)「大仙當知由三寶不斷絕 あり 等。般若により三変不斷の 紫洛の惡法減ず。 とす、天力増せば善法増し 話により諸天と闘戦するも 阿菜洛は非天と譯し

若波羅蜜多出現於世」 蜜多」に相應する所に次下に右の文中「布施乃至般若波羅 右の文中「布施乃至般岩波」 文なる故之を符號回にて略し 出す諸法を代入せば他は皆同 以下その賭法のみ略出

四二七

初分校量功德品第三十之三

明を以て爲に供養せんに、前に造りし所の窣堵波の繭を以て此の稿条に比ぶるに百分の一にも及ば 處天・非想非非想處天。() 聲聞乘乃至無上乘。 () 預統向預流果乃至阿羅漢向阿羅 住捨性。d)一切陀羅尼門·一切三摩地門。d)一切智乃至一切相智。d)刹帝利大族·婆羅門大族·長者 不思議界。创苦聖諦乃至道聖諦。创四靜慮乃至四無色定。创八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖不思議界。创苦聖諦乃至道聖諦。创四靜慮乃至四無色定。创八解脫乃至十遍處。心四念住乃至八聖 ば世間に常に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多有ればなり。山內容乃生無性自性空。山眞如乃至 波羅蜜多瞻部洲の人の中に在りて住せば則ち此の世間の佛寶法寶茲獨僧寶は皆住して滅せざればな ず、千倶胝分の一にも及ばす、 百千倶胝分の一にも及ばす、 百千倶胝那庾多 分の一にも 及ばす、 **ず、千分の一にも及ばず、百千分の一にも及ばず、供胝分の一にも及ばず、古倶胝分の一にも及ば** 果。憍尸迦、若し此の般若波羅蜜多贍部洲の人の中に在りて住せば世間に常に菩薩摩訶薩有りて菩薩 無量廣天・廣果天。仙無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天。仙空無邊處天・識無邊處天・無所有 天・梵會天・大梵天・光天・ 少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣天・少廣天・ 大族。居士大族。心四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化月在天。心梵衆天・梵輔 道支。⑷室解脫門乃至無願解脫門。⑷五眼•六神通。⑷佛の十力乃至十八佛不共法。⑷無忘失法•恒 數分算分計分喩分乃至鄔波尼殺曇分の亦た一にも及ばず。何を以ての故に、憍尸迦、若し此の般若 知恩報恩、供養賢聖有ればなり、付橋尸迦、若し此の般若波羅蜜多贍部洲の人の中に在りて住せ 若し此の般若波羅蜜多瞻部洲の人の中に在りて住せば世間に常に十善業道及び施戒修 復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈 漢果。小獨覺向獨覺

 行を修し有情を成熟し佛土を嚴淨すればなり。

憍尸迦・若し此の般若波羅蜜多腳

妙法輪を轉じて無量の衆を度せば

(d)「慣尸迦若比較若波羅蜜多在膽部洲人中住者世間常有布在膽部洲人中住者世間常有布施……般若波羅蜜多」方の文中「布施乃至敷若波羅蜜多」のある所に外下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(d)にて略し以下る故之を符號(d)にて略し以下

聽聞 得るが故なり。 不 處。 に供養 IE 至るまでの所有る功 3 を得るが故なり。 it 性自性空。 h 護浦し 女人等一 一共法。 等覺の が故なり。 力 の般若波羅 して思議する T 善男子 (c) V 出 114 切 時佛 一せば是の善男子善女人等此 尊重讃歎 精勤修學し理 念住乃 所有る無上 現 0 切智智の心を離れず無所得を以て方便と爲 (e) づする 善女人等 無忘失法、 布 (c) 橋尸 施淨戒 道 憍尸 至八 可か か 多 如乃至不思議界。 橋尸 迦 故なり。 釋に告げて言はく、 迦、 德 由 聖道 らず E 拉 復た種種上妙 0 一等苦 迦、 切 此 h 恒住捨性。 忍精進 如く思惟し廣く有情 智智の 稱計 かも 此 7 支。 の般若波羅蜜 提大般 橋尸 此の般若 0 出 切 理 般若波羅蜜多 ナ可 (c) 空解 靜慮般若波羅蜜多 迦, 0 心を離れ 現するが故なり。 の菩薩摩 涅槃は而 如 (c) (c) カン 0 0 く思惟 此 波羅蜜多に由り 脱門乃至無願解脫門。 苦聖諦乃至道聖諦。 らざるなり。 花鬘塗散等の香衣服 因 多に由りて の般若波羅蜜多に 切 是の 縁に ず無所得を以て方便 陀羅尼門·一 訶薩は有情を成熟し かも出現するが故 に由りて 1) 如 由 廣 爲に宣説流 1 りて生ずる 是の如 1= 有情の為に 憍尸迦、 Mi 何を以 切 て 力》 切三摩地門。 切の聲聞乘獨覺乘無上乘 0 8 切 苦薩摩訶薩 由 ての 布し、 (e) 生することを得るが改 瓔 此 所の 四靜慮乃至四無色定。 0 汝が所が 此 b 0 (c) 珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の 心と爲 なり。 預流向 2 宣說流布 佛土を嚴淨するを 故には憍尸迦、 般 0 五 般 若 腿 脳楽は甚だ彼れよりも多く無量無 或は書寫する有りて種種 し此 若波羅蜜 切の獨覺向 波羅蜜多に 說 (c) 憍尸 の如 0 預流果乃至阿 初發心 神通。 0 切 般 迦、 し。 智乃至 若波羅 或は書寫 多 此 憍尸 K より 獨覺果 此 (c) 於て至心 佛 なり。 一而かも成することを 0 由 は 0 乃ち 蜜多 緣 羅 而 (e)八解 般若波羅蜜多に 伎樂燈 迦、 1) 0 切 する 漢向阿 K 7 は カン + 相 由る 力乃 も生すること K K 而 (c) 內室乃至 於て 脱乃至十 力 切 金剛喩定に 有りて 明を以 K 聽 し善男子善 莊嚴 出出 至十 聞 かい 0 憍尸 至心 故 如 L 來應 種 K 現 -受 迦 佛 種 K 由

(で)「無尸迦由此般若波羅蜜多而得生加」のある所に大下に出す審多ので中「布施力」を持続では古間文な踏法を代入せば他は古間文な踏法を代入せば他は古間文ない。 のある所に外下に出すを登り、のある所に外下に出すといる。

【七】金剛喩定。佛智の称なり。其の體堅固其の用鋭利にして以て最極微細の煩惱を斷ずる禪定を云ふ。 【八】 堵供羹の功徳、持敷若の功徳に労ること百千萬分の

乃至道聖諦、若しは佛の五眼、若しは六神通、若しは布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多、若しは內空乃至 法印なり亦た是れ 無性自性空、若しは真如乃至不思議界、若しは一切陀羅尼門一切三摩地門、若しは佛の しは八解脱乃至十遍處、若しは四念住乃至八聖道支、若しは空解脱門乃至無願解脫門、 多は總で能く一切の善法を攝蔵するに由ればなり。所謂十善業道、若しは四靜恵乃至四無色定、 以て爲に供養せんに、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて生する所の福梁は甚だ彼れよりも多 子善女人等、 明を以て爲に供養せんに、 に莊嚴し供養恭敬尊重讃歎し、 するが故に已に彼岸に到り、當に彼岸に到るべく、現に彼岸に到れり。世尊、此の因緣に由りて若 に無上正等菩提を證せり。 波羅蜜多に於て常に勤め學するが故に已に無上正等菩提を證し、當に無上正等菩提を證すべく,現 此の甚深般若波羅蜜多に攝入す。世尊,是の如き甚深般若波羅蜜多は是れ諸の如來應正等覺の真 く無量無邊にして思議す可からす稱計す可からさるなり。何を以ての故に、世尊、 殿し、供養恭敬尊重讃歎し、復た種種上妙の花覧塗散等の香衣服瓔珞黃幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を りて生する所の福聚は寧ろ多しと爲すや不やと。佛言はく、甚だ多しと。天帝釋言さく、 し善男子善女人等一切智智の心を離れず、無所得を以て方便と爲し此の般若波羅蜜多に於て至心に し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣説流布し、或は書寫する有りて種種に莊 受持護誦し精勤修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣說流布し、或は書寫する有りて種種 若しは無忘失法恒住捨性、若しは 一切智智の心を離れす無所得を以て方便と爲し、此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞 一切整聞獨覺の眞實法印なり。 世尊、 是の善男子善女人等の此の因縁に由りて生する所の福聚甚だ彼れよりも 復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇い伎樂燈 一切の聲聞獨覺は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に於て常に 一切智乃至一切相智、若しは餘の無量無邊の佛法皆 世尊、一切の如來應正等覺は行是の如き甚深般若 此の般若波 若しは苦聖諦 十九乃至十 若し善男 勤め

に由りて生する所の福聚は甚だ彼れよりも多く無量無邊なりと。 の香衣服瓔珞寶幢幡監衆妙珍奇の伎樂燈明を以て爲に供養せんに、是の善男子善女人等の此の因緣 に宣説流布し、或は書寫する有りて種種に莊嚴し供養恭敬尊重讃歎し、復た種種上妙の花鬘整散等 ト為し、此の殺者波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修習し理の如く思惟し廣く有情の為 甚だ多し善逝と。佛言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等一切智智の心を離れず無所得を以て方便 類の此の因縁に由りて生する所の福聚は堕ろ多しと爲すや不やと。天帝釋言さく、甚だ多し世尊、 形籌を続くすまで供養恭敬尊重讃歎せんに、汝が意に於て云何。是の如き三千大千世界の諸の有情 隙無からしめ、復た種種の天の妙花覧塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て其の 來般涅槃の後に於て佛の設利羅を供養せんが爲の故に妙七寶を以て軍塔波を起て種種の珍奇もて間 に嚴節を雜へ其の量高大にして一踰繕那、廣さは高さの半を減じ、各三千大千世界の中に滿てて空 (甲)中千界を置いて………………温ねく三千大千世界の中に滿てて空隙無からしめ………… 橋戸迦に告げたまはく、一三千大千世界を置いて、設ひ復た三千大千世界の諸の有情類各如

以て若しは 滿てて空隊無からしめ、復た種種の天の妙花覧塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明 奇もて間に嚴節を雜へ其の量高大にして一踰繕那、廣さは高さの牛を減じ、各三千大千世界の中 未來現在の諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎するなりと。假使ひ十方各苑伽沙等の如き世界の一切の 是の如き般若波羅蜜多を供養恭敬尊重讃歎せば、是の善男子善女人等は當に知るべし則ち爲れ過去 時に天帝釋復た佛に白して言さく、是の如し是の如し、誠に聖教の如し。若し善男子善女人等、 各如來般涅槃の後に於て佛の設利羅を供養せんが爲の故に妙七寶を以て窣堵波を起て種種の珍 一劫或は一却の餘を經で供養恭敬尊重讃歎せんに、世尊、是の諸の有情の此の因緣に 由

L. 心を離れず無所得を以て方便と爲し、此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し 帝釋言さく、進だ多し世尊、進だ多し善逝と。佛言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等一切智智の 瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て其の形壽を盡くすまで供養恭敬尊 重讃 敷 せんに、 汝が意 高さの牛を滅ぜるを、蟾部洲の中に滿てて空隙無からしめ、復た種種の天の妙花鬘塗散等の否衣服 に、妙七寶を以て窜堵波を起て種種の珍奇もて間に嚴節を難へ、其量廣大にして一踰繕那、 事を置いて、復た善男子善女人等有り、諸の如來般涅槃の後に於て佛の設利羅を供養せんが爲の故 て生する所の福聚は甚だ彼れよりも多く無量無邊なりと。(甲)佛、憍尸迦に告げたまはく、 瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て 宮に供養せんに、 是の 善男 子善女人等の此の因緣に由り 逝 因縁に由りて生ずる所の福聚寧ろ多しと爲すや不やと。天帝釋言さく、甚だ多し世尊、甚だ多し善 理の如く思惟し廣く有情の爲に宜説流布し、或は書寫する有りて 種種に莊嚴し 供養恭敬尊重讃歌 に於て云何。是の善男子善女人等、此の因縁に由りて生する所の福聚寧ろ多しと爲すや不やと。天 部洲を置いて……………四洲界の中に瀟てて空隙無からしめ………… の善男子善女人等、此の因縁に由りて生する所の稲聚は甚だ彼れよりも多く無量無邊なり。 し、或は書寫する有りて種種に莊嚴し供養恭敬尊重讚歎し、復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服 の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し廣く有情の爲に宣說流 20 こ其の形容を盡すまで供養恭敬尊重讃歎せんに、汝が意に於て云何。是の善男子善女人等は此の 復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て爲に供養せんに是 佛言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等、一切智智の心を離れず無所得を以て方便と爲し、 復た種種の天の妙華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明 廣さは 是の一 を

|甲)四洲界を置いて…………小千界の中に滿てて空饋無からしめ……………

【共】 以下、先よりもより多大なる実体の功徳を以て較若大なる実体の功徳を以て較若大なる実体の功徳を以て較若が、(甲)「信格性性を展生を決して、(中)「他は特別をご満晩が出るで、大なる実体の功徳を以下を被無無無別」等をご満晩が出版と比較す。

「電騰部別」等を「満晩部別」の所に「満四別界」等を「満晩部別」の所に「満四別界」等を大々代入所に「満四別界」等を大々代入所に「満四別界」等を大きない。

に妙七寶を以て 廣く有情の爲に宣説流布し、或は書寫する有りて種種に准嚴し供養恭敬尊重讃歎し、復た種 得を以て方便と爲し此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟 の法門。 (a) 眼·六神通。 慮乃至四無色定。a八解脫乃至十遍處。 故に是の如き般若波羅蜜多等は是れ一切の聲聞獨覺菩薩摩訶薩及び諸の天人阿素洛等の利益安樂所 等の真實の法印なり。 華鬘塗散等の香水服瓔珞寶幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て爲に供燈せば、是の善男子善女人等は 依の處なるが故なり。 に勤め修學すべく、應に靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多に依りて常に勤め修學すべし。 男子善女人等は若しは佛世に住したまふら若しは涅槃したまひし後も應に般者波羅蜜多に に已に彼岸に到り、當に彼岸に到るべし、現に彼岸に到れり。是の緣を以ての故に、自憍尸迦、 切の獨覧阿羅漢不還一來預流果等も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多等の法に於て常に勤め學すが故 するが故に已に無上正等菩提を證し、常に無上正等菩提を證すべく、現に無上正等菩提を證せり。 蜜多等の法は是れ諸の如來應正等覺の眞實の法印なり、 法は定めて是れ我れ等が眞實の大師なり常に勤め隨び學せば所願皆滿ぜん。是の如き甚深般若波羅 切 因縁に由りて幾所の福をか得んと。 智乃至一 爾の時天帝釋、 a佛の十カ乃至十八佛不共法。 善男子善女人等有り、 切相智。 窓塔波を起ニ種種の珍奇もて間に嚴飾を難へ、其の量廣大にして一 (a)內空乃至無性自性空。(a)真如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。 一切の如來應正等覺は皆是の如き甚深般若波羅蜜多等の法に於て常に勤め學 a)所餘の無量無邊の佛法。 佛に白して言さく、世尊、若し善男子善女人等一切智智の心を離れず無所 諸の如來 佛言はく、憍尸迦、 (a)四念住乃至八聖道支。 a無忘失法·恒住捨性。a一切陀羅尼門·一切三摩地門。 般涅槃の後に於て、 (3) 甚深般若波羅蜜多に隨順する蘊處界等の無量 亦た是れ一 我れ還つて汝に問はん、 a。空解脫門乃至無願解脫門。 佛の設利羅を供養せんが爲の故 切の獨覺阿羅漢不還 當に意に隨ひ **論籍那**、 何を以ての 依りて常 來預流果 種上妙の 諸の善 (a) (a) 五 四

(1)「憍尸迦諸善男子書女人等編盤多常動作學………阿素潘鑑多常動作學………阿素洛等利益安樂所依處故」以下その諸法を代入せば他は皆同史なる故之を符號(4)にて略しまする故之を符號(4)にて略します。

(三) 変塔の功能よりも般若 の功徳の大なるを說く。 の功徳の大なるを說く。 にご】 総涅槃(Parinirvāna)。 【正】 総建槃(Parinirvāna)。 【正】 総塔波 Shūpa 塔婆なり。佛物或は経文を奉安し又 死者生存者の態を標機する経 に合利、歯、髪等を埋め金石 上木を以て築造し瞻仰世しむ。 も云ふ。里程を討る稱目なり。 帝王一日行軍の里程にして或 市田十里或は三十里といふ は四十里或は三十里といふ

めて追 に住したまひし時常に勤めて一切陀羅尼門及び一切三摩地門を修學せしが故に無上正等菩提を證得 常に勤めて無忘失法及び恒住捨性を修學せしが故に無上正等菩提を證得し 位に住したまひ 温患を修 に住したまひし時常に勤めて苦聖諦及び集滅道聖諦に安住せしが、故に無上正等菩提 十八佛不共法を修學せしが故に無上正等菩提を證得したまへり。 したまへ て四念住及び四 月性空に安住 の法に於て亦た應に佛に隨ひ常に勤め精進して修學し安住すべし。是の如き甚深般若波羅蜜多等 一菩提を證得したまへればなり。 たまへり。 等菩提を證得したまへ 如 如及び 法を修學せしが故に無上正等菩提を證得したまへ 1) 學せしが故に無上正等菩提を證得 の餘の甚深般若波羅蜜多に隨順する蘊處界等の無量の法門に安住 菩薩の位に住したまひし時常に勤めて四靜慮及び四無量四無色定を修學せしが故に 法界乃至不思議界に安住せしが故に無上正等菩提を證得したまへり。 如來昔菩薩の位に住したまひし時常に勤めて一切智及び道相智一 如來昔菩薩 せしが故に 提を證 たまへ E し時常に勤めて空解脱門及び無相無願解脱門を修學せしが故に無上 断乃至八聖道支を修舉せしが故に無上正等菩提を證得したまへり。 1) 得したまへ h の位に住したまひし時常に勤めて五眼及び六神通を修學せ 無上正等菩提を證得したまへ 如來昔菩薩の位に住したまひし時常に勤めて佛の十 b) o 如來昔菩薩の 如 我れ等今者無上正等菩提を求めん為には此の甚深般若波羅蜜多等 り。如來告菩薩の位に住したまひし時常に勤め 來昔菩薩の 位に住したまひし時常に勤めて八解院及び八勝處乃至十 したまへり。 位に住したまひし時常に勤めて内空及び外空乃至無 Do b 如來昔菩薩の位 如來昔菩薩の位の住したまひし時常 如來昔菩薩の位に住したまひし 如來昔菩薩の位に住 に住し せしが故に阿 たまへり如 力及 たまひ 切相智を修學せしが て諸の餘の無 U しが故に無上 E を證得したま 如來告菩薩 來告菩薩 したまひ 179 等菩提を證 如來昔菩薩 無所畏乃至 時常に勤め 0 0 位 位

の如く思惟すべし。非毀して無上正等菩提に於て而かも留難を作さしむべからず。 性、若しは一切陀羅尼門若しは一切三摩地門、若しは一切智若しは道相智一切相智、若しは餘の無 に請問 等は餘の甚深般若波羅蜜多に隨順する蘊處界等の無量の法門に於ても亦た應に聽聞し受持讀誦 量無邊の佛法、 眼若しは六神通,若しは佛の十力若しは四無所畏乃至十八佛不共法。若しは無忘失法若しは恒住捨 遍處、若しは四念住若しは四正斷乃至八聖道支。若しは空解脫門若しは無相無願解脫門、若しは五 苦壅諦若じは集滅道壅諦、若しは四靜慮若しは四無量四無色定、若しは八解脫若しは八勝處乃至十 若波羅蜜多。若しは内空若しは外空乃至無性自性空、若しは真如若しは法界乃至不思議界、若 し。何をか甚深般若波羅蜜多に購入する餘の勝善法と謂ふ。所謂布施波羅蜜多淨戒安忍精進靜慮般 於て亦應に聽聞し受持讀誦し精勤修習し理の如く思惟し好んで 師に請問し樂ふて 他の爲に說くべ 以て爲に供養せよ。憍尸迦、是の善男子善女人等は餘の甚深般若波羅蜜多に攝入する諸の勝善法に 供養恭敬尊重讃歎すべし。復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡藍衆妙珍奇の伎樂燈明を に是の如き甚深般若波羅蜜多に於て敷敷聽聞し受持讀誦し、精勤修習し理の如く思惟し、好んで師 修習して菩提行に趣き、菩薩の不退轉地に住し速に無上正等菩提を證して留難無からんと欲せば應 し樂ふて他の爲に說くべし。此の事を作し已らば復た應に書寫し、種種の實物而も用て莊嚴 是れを甚深般若波羅蜜多に攝入する餘の勝善法と謂ふ。憍尸迦、是の善男子善女人

卷の第一百四

八美以上時春已納此二時降減其四四條於四回

初分校量功德品第三十之二

何を以ての故に、憍尸迦、是の善男子善女人等に應に是の念を作すべければなり。如來昔菩薩の位 したまひし時常に勤めて般若波羅蜜多及び靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修學せしが故に無

初分校量功德品第三十之二

四九

幾所の衆生佛を信じ法を信じ僧を信じ、 等菩提を證すと。 千世界に於て少しの 衆生錬磨長養して菩提心に趣き、 上分結を斷じて阿羅漢果を得、 の衆生四無礙解を修し、 此の三千大千世界に於て極めて少しの衆生のみ父母師長を供養恭敬す、 衆生. 不 退轉地に住し、 耨多羅三 貪瞋癡を薄くして一來果を得、 幾所の 幾所の衆生佛に於て究竟し法に於て究竟し僧に於て究竟し、 衆生三解脱門を修し、 幾所の衆生四靜慮を修し、 藐三菩提に趣き、 爾の時佛、 衆生のみ有りて父母師長を供養恭敬す四乃至少しの衆生のみ有りて速に無上正 幾所の衆生速に無上正等菩提を證するやと。 幾所の衆生六神通を修し、 天帝釋に告げて言はく、 幾所の衆生發心して定めて獨覺菩提に趣き、 幾所の衆生既に發心し己つて精勤修習して菩提行に趣 幾所の衆生方便善巧して般若波羅蜜多を修行し、 幾所の衆生八解脫を修し、幾所の衆生九次第定を修し、 幾所の衆生五順下分結を斷じて不還果を得、 幾所の衆生佛に於て疑ひ無く法に於て疑ひ無く僧に於て疑 幾所の衆生四無量を修し、 幾所の衆生永く三結を斷じて預流果を得、 是の如し是の如し、汝が所說の如し。 天帝釋言さく、 幾所の衆生三十七菩提分の 幾所の衆生四無色定を修 轉た少しの衆生の 幾所の衆生發心して定 世尊、 幾所の衆生菩薩 幾所の衆生五順 此 き、 の三千 み沙門婆 憍尸迦、 幾所の 大

の有情發心し定めて阿耨多羅三藐三菩提に趣き精勤修習して菩提行に趣くと雖も而 た次に憍尸 憍尸迦、 多分は聲聞獨覺下劣の地中に退堕す。 の方便善巧を遂 是の因縁に由り、 迦 惡慧懈怠にして下劣の精進、 我 礼 清淨無障の佛眼を以 離する 著し善男子善女人等發心し定めて阿耨多羅三藐三菩提に趣き精動 に由り、 若しは一若しは二者しは三の有情は菩薩の て十方各院伽沙等の如き世界を觀察す 何を以ての故に、 下劣の勝解、 下劣の有情は證するとと能 橋尸迦、 阿耨多羅三 るに、 不退轉地 はさるが故 も基 に住 だ

羅門を供養恭敬すの乃至轉た少しの

衆生のみ速に無上正等菩提を證す。

(m) 以下帰の所間の場合の 法に等きものを繰返すのみ とmの場合に同じ。 法に等しき故之を省略 略する 0 33 の路 ح 7

五順上分結を斷じて阿羅漢果を得、轉た少分の人のみ發心して定めて獨覺菩提に趣き、 職癡を薄くして

一來果を得、 轉た少分の (1) 真如乃至不思議界、(1) 苦聖諦乃至道聖諦、(1) 四靜慮乃至四無色定、(1) 八解脫乃至 十 遍 處、 人のみ發心し定めて阿耨多羅三藐三菩提に趣き、轉た少分の人のみ旣に發心し已つて精勤修習し菩 第定を得、 の法を得、 成就し僧證淨を成就し、轉た少分の人のみ佛に於て疑ひ無く法に於て疑ひ無く僧に於て疑ひ無く、 是の縁を以ての故に當に知るべし此の贍部洲内に於て極めて少分の人のみ佛證淨を成就し法證淨を 法、山無忘失法·恒住捨性、 念住乃至八聖道支、山室解脱門乃至無願解脫門、山五眼・六神通、山佛の十力乃至十八佛不共 靜慮波羅蜜多を修せず、般若波羅蜜多を聞かず般若波羅蜜多を修せず、山内空乃至無性 自 安忍波雞 此の贈部洲の中に於て極めて少分の人のみ永く三結を斷じて預流果を得、轉た少分の人のみ食 羅蜜多を修せず、浮戒波羅蜜多を聞かず浮戒波羅蜜多を修せず、安忍波羅蜜多を聞 轉た少分の人のみ四無礙解を得、轉た少分の人のみ六神通を得と。憍尸迦、當に知る 轉た少分の人のみ三解脱門を得、轉た少分の人のみ八解脱を得、轉た少分の人のみ九次 人のみ佛に於て究竟し法に於て究竟し僧に於て究竟し、轉た少分の人のみ三十七菩提分 精進波羅蜜多を聞かず精進波羅蜜多を修せず、 (i) 一切陀羅尼門·一切三摩地門、(i) 一切智乃至一切相智。 轉た少分の人のみ五順下分緒を斷じて不還果を得、轉た少分の人のみ 慮波 蜜多を聞かず 轉た少分の 憍尸迦 性 力 (l) 空 四

て云何。 爾の 時佛、 幾所の衆生、 贍部洲 天帝釋 幾所の衆生諸欲の中に於て厭愚想・無常想・苦想・無我想・不淨想・厭食想・一 の所有る人類を置きて、此の三千大千世界に於ける幾所の衆生、 沙門婆羅門を供養恭敬し、幾所の衆生施を行じて齋持戒を受け、 に語つて言はく、我れ今汝に間はん、汝が意に隨ひて答へよ。憍 父母 幾所の衆生十 師 尸迦、 長を供養恭 切世間一 意に

提行に趣くと。

四七

分校量功德品第三十之一

幾所の人有りて 内極めて少分の人のみ、 人有りて五順下分結を斷じて不還果を得。 分の人有りて永く三結を斷じて預流果を得。少分の人有りて貧瞋癡を薄くして一來果を得。 を得。少分の人有りて九次第定を得。少分の人有りて四無礙解を得。少分の人有りて六神通を得。 の内少分の人有りて三十七菩提分の法を得。 護らず、 死に流轉して無量世より來た多く佛を見ず、 じて預流果を得、 脱門を得、 の人有りて發心し定めて獨覺菩提に趣く。 の人のみ既に登心し已つて精動修習して菩提行に趣く。 凝解を得、轉た少分の人のみ六神通を得。 に於て究竟し、僧に於て究竟す。轉た少分の人のみ三十七菩提分の法を得、 人有りて貪瞋癡を薄くして一來果を得るや。幾所の人有りて、五順下分結を斷じ不還果を得るや。 爾の時、 幾所の人有りて發心し定めて阿耨多羅三藐三菩提に趣くやと。天帝釋言さく、 安忍を修せず、 轉た少分の人のみ八解脱を得、 轉た少分の人のみ貪瞋癡を薄くして一來果を得、轉た少分の人のみ五順下分結を 五順上分結を斷じ阿羅漢果を得るや。幾所の人有りて發心し定めて獨覺菩提に 天帝釋に告げて言はく、 轉た少分の人のみ五順上分結を斷じて阿羅漢果を得。 法に於て疑ひ無く、 精進を起さず、靜慮を習はず、 佛證淨を成就し、 轉た少分の人のみ發心して定めて阿耨多羅三藐三菩提に趣き、 僧に於て疑ひ無し。 橋尸迦、 是の如し、是の如し、汝が所說の如し、憍尸迦、 少分の人有りて五順上分結を斷じて阿羅漢果を得。 轉た少分の人のみ九次第定を得、 法證淨を成就し、 少分の人有りて發心て定めて阿耨多羅三藐三菩提に趣 少分の人有りて三解脱門を得。少分の人有りて八解脱 正法を聞かず、 贈部洲の内、 般若を學せず、山布施波羅蜜多を聞かず布 何を以ての故に、憍尸迦、 轉た少分の人のみ佛に於て究竟 僧證淨を成就す。轉た少分の 僧に親近せず、 極めて少分の人のみ永く三結を斷 轉た少分の人のみ發心 布施を行ぜず、 轉た少分の人の 轉た少分の人のみ三解 踏の有情類は生 世館、 人の 膽部 轉た少分 少分 淨戒を み四 婚部洲 洲 少分 法

ないの

宣説す可からざる無上無上上無等等の一切智智は皆是の如き張深般若波羅蜜多より出生するが故な 識無邊處天・無所有處天・非想非非想處天。は一切の預流預流果乃至阿羅漢阿羅漢果。以一切の獨覺・ (は世間の所有る四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天。 は世間の 所有る 梵 獨覺菩提。以一切の菩薩摩訶薩・菩薩摩訶薩法。以一切の如來應正等覺。憍尸迦、思量す可からず 天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天。以世間の所有る空無邊處天・ 紫天·於輔天·梵會天·大梵天·光天·少光天·無量光天·極光淨天·淨天·少淨天·無量淨天·遍淨天·廣 父母・師長・施戒修等の無量の善法。は世間の所有る刹帝利大族・婆羅門大族・長者大族・居士大族。

るや。幾所の人有りて六神通を得るや。 幾所の人有りて八解脱を得るや。幾所の人有りて九次第定を得るや。幾所の人有りて四無礙解を得 て佛に於て疑ひ無く、法に於て疑ひ無く、僧に於て疑ひ無きや。幾所の人有りて佛に於て究竟し、 て云何。 竟するのみと。佛言はく、憍尸迦、我れ復た汝に問はん、汝が意に隨ひて答へよ。憍尸迦、意に於 疑ひ無く、僧に於て疑ひ無きのみ。少分の人有りて佛に於て究竟し、法に於て究竟し、僧に於て究 を成就し、法證淨を成就し、僧證淨を成就するのみ。少分の人有りて佛に於て疑ひ無く、法に於て 法に於て究竟し、僧に於て究竟するやと。天帝釋言さく、世尊、贍部洲の内少分の人有りて佛證淨 贈部洲の内幾所の人有りて佛證淨を成就し、法證淨を成就し、僧證淨を成就するや。幾所の人有り を知らざるやと。佛言はく、憍尸迦、我れ今汝に間はん、汝が意に隨ひて答へよ。意に於て云何。 せさるは、彼れ豈に甚深般若波羅蜜多を供養恭敬尊重讃歎して是の如き大功德の利を獲得すること 爾の時天帝釋、佛に白して言さく、世尊、贍部洲の人甚深般若波羅蜜多に於て供養恭敬尊重讃歎 贍部洲の內幾所の人有りて三十七菩提分の法を得るや。幾所の人有りて三解脱門を得るや。 幾所の人有りて永く「三結を斷じて預流果を得るや。 。幾所

るを知る者動きを説く。

·(75

なり。三に凝結、電理を展ふり。二に減取結、邪戒を行ふ

初分校量功德品第三十之一

若し善男子善女人等但だ般若波羅蜜多に於このみ供養恭敬尊重讃歎するも、 寶もて嚴節! 是れ一切智智及び此の般若波羅蜜多を供養するに非す。何を以ての故に、憍尸迦、佛身の遺體は此の 故に、憍尸迦、一切智智及び相好身丼びに設利羅は皆般若波羅蜜多を以て根本と爲すが故なり。 則ち一切智智及び依止する所の佛の相好身井びに涅槃後の佛の設利羅を供養すと爲す。何を以ての 敬供養す。此の縁に山 菩薩摩訶薩の所有る族性圓滿・色力圓滿・財寶圓滿・眷屬圓滿。仏世間の所有る十善業道、供養沙門・ 切相智。 道聖諦。以四靜慮乃至四無色定。以八解脫乃至十遍處。以四念住乃至八墾道支。以空解脫門乃至無 般若波羅蜜多より出生するが故なり。国内室乃至無性自性空。国真如乃至不思識界。 者を多と爲す。何を以ての故に、以憍尸迦、 の花鬘塗散等の香衣服瓔珞賓幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て爲に供養すると、是の二の福聚は前 幡蓋衆妙珍奇の伎楽燈明を以て爲に供養すると、或は善男子善女人等佛の涅槃の後家堵波を起て七 深の經典を書きて種種に莊嚴し供養恭敬尊重讃歎し、復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢 の伎樂燈明を以て爲に供養せよ。是を以ての故に、憍尸迦、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多甚 て甚深般者波羅蜜多を書寫解説すべし。復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞瓊幢幡蓋 佛を供養せんと欲せば、 般若波羅蜜多一切智智の根本に非ざるが故なり。憍尸迦、此の緣に由るが故に、諸の善男子善女人等 解脫門。 若し善男子善女人等但だ佛身及び設利羅に於て供養恭敬尊重讃歎するも是の善男子善女人等は は一切陀羅尼門・一切三摩地門。は菩薩摩訶薩の所有る有情を成熟し佛土を嚴淨する。 k五眼·六神通。 寶函に佛の設利羅を盛り貯へ其の中に安置して供養恭敬尊重讃敦し、 るが故に我が涅槃の後、諸の天龍神人非人等我が設利羅を恭敬供養す。憍尸 若しは心若しは身に先づ當に聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如 は佛の十九乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。 布施淨減安忍精進靜慮般若波羅蜜多は皆是の如き志 是の善男子善女人等は (k) (k)苦聖諦乃至 復た種種上妙 切智乃至 く思性 業妙珍奇 迦、 (k)

初分校量功德品第三十之一

恭敬尊重讃歎すべからず。相好身と佛の遍智と依止する所と爲るを以ての故に諸の天龍阿素洛等恭 羅蜜多正しく因と爲りて一切智智を生じ、此の智をして現前し相續せしむることを爲すが故に復た 學せしが故に一切智智及び相好身を得たり。何を以ての故に、憍尸迦、般若波羅蜜多を學せずして無 佛の相好身を修集す。此の相好身若し遍智所依の處に非すんば一切の天龍阿素洛等誠を竭して供養 るのみ。若し佛の相好身に依止するも一切智智に由る無くしては轉ぜざるなり。是の故に、般若波 いて如來應正等覺と名づけず、但だ一切智智を證得するを以て說いて如來應正等覺と名づく。憍尸 上正等菩提を證得する是の處り有ること無きが故なり。憍尸迦、相好身を獲得するを以ての故に說 と。佛、憍尸迦に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。我れ般若波羅蜜多に於て修 何。如來の得たる所の一切智智及び相好身は何等の法に於て修學して得たるやと。天帝釋言さく、世 しと爲すやと。佛言はく、憍尸迦、我れ、還つて汝に問はん當に意に隨つて答ふべし。意に於て云 塗散等の香衣服纓絡寶幢幡葢衆妙珍奇の伎樂燈明を以て爲に供養すると、是の二の福聚の何者か多 飾せる寶函に佛の「設利羅を盛り貯へ其の中に安置して供養恭敬尊重讃歎し、復た種種上妙の花鬘 珍奇の伎樂燈明を以て爲に供養すると、或は善男子善女人等佛涅槃の後窣堵波を起て、七寶もて嚴 書きて種種に莊嚴し、供養恭敬尊重讃歎し、復た種種上妙の花覧塗散等の香衣服纓絡寶幢幡蓋衆妙 爾の時天帝釋、佛に白して言さく,世尊、若し善男子善女人等,此の般若波羅蜜多甚深の經典を 如來の得たる所の一切智智は甚深般若波羅蜜多凶と爲るが故に起る。佛の相好身は但だ依處爲 如來の得たまへる所の一切智智及び。相好身は、此の般若波羅蜜多に於て修學して得たまへり

の功徳を比較す。

佛の身骨なり。

問答體の中の反問法なり。

種好具足せる佛身。三十二相八十

初分校量功德品第三十之一。

當に種種上 留難有らしめざるが故に。當に知るべし是の處は即ち真の 制多なりと。 切の天龍阿素洛等皆同じく守護し供養恭敬尊重讃歎す。 菩提を證せしむればなり。 不還果或は阿羅漢果を證得せしめ、 を安立して三乘の安樂妙行に住せしめ、 窓無怖の身心安樂を施し、 類有りて菩提樹院 べし、 多大神呪王を書き、 過去未來現在の諸佛は皆此の處に坐して無上正等菩提を證得し、菩提を得已りて諸の 憍尸迦、 諸の怖畏の事皆 た是の如しと。 妙の花鬘、 若し善男子善女人等怨家惡獸の災権、 に入り或は彼の院の邊りに至るが如 多少の分に隨ひて香養に盛り貯 自ら消除せん。天龍鬼神常に守護するが故に。 **全散等の香** 切の天龍阿素洛等常に來り守護し供養恭敬尊重讃歎し般若波羅蜜多をして 無量無數の有情を安立して人天倉貴の妙行に住せしめ、 是の如き勝事は皆般若波羅蜜多の威神の力に由る。 、衣服瓔珞實幢幡蓋衆妙珍奇の伎樂燈明を以て 無量無數の有情を安立して當に獨覺菩提を證得 無量無數の有情を安立して現に或は預流果或は 厭禱疾疫毒薬の呪等を怖畏せば へ寶筩の中に置き恒に身に隨逐 し。 當に知るべし般若波羅蜜多所住 人非人等傷害すること能は 橋尸迦、 切の有情皆敬禮すべし。 是の故に此の處は 爲に供養すべしと。 譬 L 應 無量無數 L ば人或は傍生 す。 7 或は無上正 に般若波羅蜜 0 恭敬供養 虚に 來果或 所以 有情に無 0 有情 は خ

【八】 制多Onityn支提とも云 が積集して之を成ずる故との名 ありとして一説に世尊無量の 高りとして一説に世尊無量の名 を塔婆と云ひ合利無きを制多 と云ふと。

精勤修學して現に無上正等菩提を證し妙法輪を轉じ無量の衆を度せばなり。 神呪王に於て精勣修學して已に無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度し、未來の 衆を度すべく、現在十方無邊世界の有ゆる諸の菩薩摩訶薩衆も此の般若波羅蜜多大神呪王 衆も此の般若波羅蜜多大神呪王に於て精動修學して當に無上正等菩提を證し妙法輪を轉じ 一に於て

ら尚 り守護 他の爲に開示分別せんをや。當に知るべし、是の輩は功德無邊にして速に菩提を證 是の善男子善女人等但だ般若波羅蜜多大神呪王を書き清淨の處に置き恭敬供養尊重讃 書きて清淨の處に置き、恭敬供養尊重讃歎し、聽聞し受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟せず亦た 界及び餘の十方無量無數無邊世界の所有る四大王衆天乃至色究竟天並 他の爲に開示分別せずと雖も而かも此の住する處の國邑王都の人非人等、一切の災横疾疫の傷害す る所と爲らす。所以は何ん、是の如き般若波羅蜜多大神呪王の所住の處に隨ひて爲に此の三千大千世 色究竟天、並びに諸の龍神阿素洛等常に來り守護し、恭敬供養尊重讃歎し、般若波羅蜜多大神呪王を 天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・ 天·視史多天·樂變化天·他化自在天·梵樂天·梵輔天·松會天·大梵天·光天·少光天·無量光天·極光淨 して留難有らしめざるが故なり。復た次に憍尸迦、著し善男子善女人等此の般若波羅蜜多大神呪王を に隨ひて貸に此の三千六千世界及び餘の十方無量無數無邊世界の所有四大王衆天・三十三天・夜摩 邑人及び非人、一切の災横疾疫の傷害する所と爲らず。所以は何ん、是の善男子善女人等所住 し理の如く思惟し書寫解說して廣く流布せしめば、是の善男子善女人等居正する所に隨ひて國土 復た次に憍尸迦、者し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦 ほ是の し恭敬供養尊重讃歎 如き現法 の利益を獲、況んや能く聽聞し受持讀誦し精勤修學し し、般若波羅蜜多大神呪王をして留難有らしめざるが故 びに諸の龍神阿素洛等常に 理の如く思惟し及び廣く なり。 歎するの 切を利樂す し精勤修學 の處

得方意生を得ず儒童を得ず作者を得ず受者を得ず知者を得ず見者を得ず。我等に於て無所得なるに 由るが故に自ら害せられず他を審せられず、倶に害せられざるなり。 多人呪王を學する時、 多を學して自他倶に皆不可得なりと了すればなり。憍尸迦、是の養男子善女人等は此の般若波羅 我を得方有情を得方命者を得方生者を得方養者を得方士夫を得方補特伽羅を

苦憂憐。口內容乃至無性自性率。印真如乃至不思識界。 處乃至意處。())色處乃至法處。())眼界乃至諸受。())其界乃至諸受。())弟界乃至諸受。())舌界乃至諸 受①身界乃至諸受。①意界乃至諸受。①地界乃至識界。①苦聖諸乃至道聖諦。①無明乃至老 **す、色蘊等に於て無所得なるが故に、自ら害せられず他を害せられず供に害せられざるなり。**(1) り憍尸迦、是の善男子善女人等は此の般若波羅蜜多大呪玉を學する時、 色を得ず、 受想行識を得

卷の第一百三

初分攝受品第二十九之五

恒住捨性。①一切智乃至一切相智。①一切陀羅尼門・一切三摩地門。①預流乃至叫羅漢。①預流向 八聖道支。①空解脫門乃至無願解脫門。①五眼・六神通。〕佛の十カ乃至十八佛不共法。〕無忘失法・ 法·無上正等菩提。」)聲聞乘乃至無上乘。 ()) 征施波羅蜜多乃至殿若波羅蜜多。()四靜慮乃至四無色定。()八解脫乃至十過處。()四念住乃至 漢向阿羅漢果。()獨覺·獨覺向獨覺小。()菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。() 菩 薩摩 (j)

じ説の如く行じて皆憾益を獲せしむ。何を以ての故に、過去の菩薩摩訶薩衆は此の般若波羅蜜 も而かも無上正等菩提を證し、 是の善男子善女人等は此の般若波羅蜜多大呪王を學てる時、 諸の有情の心行差別を観じて、 宜きに随ひて爲に無上の法輪を轉 我及び法に於て所得無しと

(う)「觸尸迦是善男子善女人等學此般若波羅鑑多大呪王時不得也……不爲自害不爲害不為害人。 一個不爲俱害……不爲自害不爲害不爲害他不爲俱害……不爲自害不爲害不爲此人不所以下に出す諸法を代入る所に來下に出す諸法を代入る所に來下に出す諸法を代入る所に來下に出す諸法を代入。

前後と同意。

ず、 學し書寫解說して廣く流布せしめば是の善男子善女人等は 如き般若波羅蜜多は是れ一切呪王、最上最妙にして能く及ぶ者無く、大威力を具して能く一切を伏 は是れ大明呪、 如き甚深般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し、恭敬供養尊重讃歎し受持讀誦し理の こと能はす、 復た次に憍尸迦、 切の降伏する所と為らず。 何を以ての故に、 せられず、 水も溺すこと能はず、火も焼くこと能はず、刀杖悪獸怨賊惡神衆邪魍魎も傷害するこ 是の如き般若波羅蜜多は是れ無上呪、 若し善男子善女人等一切智智の心を離れず無所得を以て方便と爲し、 俱に害せられざるなり。 憍尸迦、是の如き般若波羅蜜多は是れ大神呪、 是の善男子善女人等是の如 所以は何ん、 是の如き般若波羅蜜多は是れ無等等呪、是の 一切の毒薬 蠱道 是の善男子善女人等は此 き呪王を精勤修學せば、 一鬼魅厭禱呪術 是の如き般若波羅蜜多 如く思惟 自ら害 の般若波羅 常に是 害する 世 られ 0

の煩惱を云ふ。 優縛垢汗する

【六】 鬼魅。霊鬼の人に害を 勝の法にて調伏するなり。 勝の法にて調伏するなり。

【七】大明呪。外道の呪を明 際法の大明呪となす。これ煩 勝法の大明呪となす。これ煩 勝法の大明呪となす。これ煩 が過程をも滅する明呪なり。 を が例して知るべし。 に喪ふこと終に是の

處り無けん。

智に廻向す。山眞如乃至不思議界。山苦聖諦乃至道聖諦。 訶薩は般若波羅蜜多に依りて外空乃至無性自性空に住するが故に能く高心を調伏し亦た能く一切智 を修するが故に、外空乃至無性自性空を得す、外空乃至無性自性空に住する者を得ず。是の菩薩摩 亦た能く に住する者を得す。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に依りて内室に住するが故に能く高心を調伏し 切智智に廻向す。若し菩薩摩訶薩、 、外室乃至無性自性室に住する時は善く般若波羅蜜多

i)八解脫乃至十遍處。i)四念住乃至八聖道支。i)空解脫門乃至無願解脫門。i)五眼·六神通。 切相智。山成熟有情 の十力乃至十八佛不共法。白無忘失法・恒住捨性。白一切陀羅尼門・一切三摩地門。白一切智乃至一 若波羅蜜多に依りて四無量四無色定を修するが故に能く高心を調伏し亦た能く一切智智に廻向 多を修するが故に四無量四無色定を得ず、四無量四無色定を修する者を得ず。是の菩薩摩訶薩は般 調伏し亦た能く一切智智に廻向す。若し菩薩摩訶薩、四無量四無色定を修する時は善く般若波羅蜜 と説くと。 き鮫若波羅蜜多は甚だ爲れ希有なり。菩薩を調伏して高心せさらしめ而かも能く一切智智に廻向す を修するが故に能く如實に高心を調伏し亦た能く如實に一切智智に廻向す。是の故に我れ、 静慮を修する者を得す。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に依りて四靜慮を修するが故に能く高心を ()世尊若し菩薩摩訶薩、 嚴淨佛土。世尊、是の如き菩薩摩訶薩は出世間の般若波羅蜜多に依りて善法 四靜慮を修する時は善く般若波羅蜜多を修するが故に四靜慮を得ず、四 是の如 (i) 30

若し善男子善女人等の此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し親近して供養し理の如く思惟し書寫解說 男子善女人等の身常に安隱にして心恒に喜樂し一切の災横に侵惱せられざらん。復た次に憍尸迦, に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟し書寫解說して廣く流布せしめば、是の善 頭の時佛、 天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等能く是の如き甚深般若波羅蜜多

(1)「世尊若菩薩摩訶薩修四部 歳時………修四無景四無色 成時 調代高心亦能廻向一切 智智」 おもいの場合と同方法により で略出す。

を見がれ煩惱を除くを說く。

< 切陀羅尼門・一切三摩地門。⑤一切智乃至一切相智。⑤成熟有情・嚴淨佛土。世尊、 摩訶薩は般若波羅蜜多に依りて般若波羅蜜多を行するが故に能く高心を調伏し亦た能く一切智智に く般若波羅蜜多を修するが故に般若を得ず、 高心を調伏し亦た能く一切智智に廻向す。若し菩薩摩訶薩、 静慮を具する者を得す。 忍乃至靜慮波羅蜜多を行する時は善く般若波羅蜜多を修するが故に安忍乃至靜慮を得す、安忍乃至 蜜多を行するが故に能く高心を調伏し、亦た能く一切智智に廻向す。若し菩薩摩訶薩、 するが故に浮戒を得す、 す。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に依りて布施波羅蜜多を行するが故に能く高心を調伏し亦た能 の布施波羅蜜多を行ずる時は善く般著波羅蜜多を修するが故に施者を得ず、受者を得ず、 ること能はず、亦た如質に一切智智に廻向すること能はさるなり。 を機亂せらるるが故に、般若波羅蜜多を修すと雖も而かも未だ得さるが故に、如實に高心を調伏す 訶薩は世間心に依りて諸の善法を修し、方便善巧無くして布施等を行するが故に、 脫門乃至無願解脫門。 心を起して一切智智に廻向すること能はず。〇八解脱乃至十遍處。〇四念住乃至八聖道支。 無色定を修すと。是の菩薩摩訶薩は我我所に擾亂せられ るごと能はす。菩薩摩訶薩、四無量四無色定を修する時、若し是の念を作さん、我れ能く四 切智智に廻向す。 若し菩薩摩訶薩、出世間の淨戒波羅蜜多を行する時は善く般若波羅蜜多を修 go五眼·六神通。 是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に依りて靜慮波羅蜜多を行するが故に能 淨戒を具する者を得す。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に依りて淨戒波羅 宮佛の十九乃至十八佛不共法。宮無忘失法・恒住捨性。 般若を具する者を得ず、 て四無量四無色定を修するが故 出世間の般若波羅蜜多を行ずる時は善 世傳、 亦た一切法を得ず、 若し菩薩摩訶薩、 我我所の執に心 是の如き菩薩摩 出世間の安 布施を得 是の菩薩 (g) 空解 出世間 遂に高 無 (g) 量四

(九)世尊、 若し菩薩摩訶薩、 内空に住する時は善く般若波羅蜜多を修するが故に内空を得す、 內空

等戒度と同文なる故略出せり、 安忍乃至静康の各庭は

(1) 一世尊若菩薩康訶薩住內空性空故能調代高心亦能廻向一世空故能調代高心亦能廻向一切智智」 場合と同方法によりて省略するものとす。

我れ能 (f) 世尊、 無くして安忍乃至般若波羅蜜多を行するが故に遂に高心を起して一 するが故に、 能く佛に施すと。若し菩薩獨覺聲聞孤窮老病道行の乞者に於て布施を行ずるに便ち是の念を作さん、 菩薩を調伏して高心せざらしめ而かも能く一 伏して高心せさらしめ而かも能く一切智智に廻向すと。 に遂に高心を起して一 性自性室に住すと。 訶薩は我我所の執に擾亂せられて內空に住するが故に。 忍乃至般若波羅蜜多を行す、 能はす。 是の菩薩摩訶薩は方便善巧無くして淨戒を行字るが故に遂に高心を起して一切智智に廻向すること を行する時、 爾の時天帝釋、 はす。 為中等、 世間 く菩薩 菩薩摩訶薩、 菩薩摩訶薩、 菩薩摩訶薩、 の布施波羅蜜多を行する時、 菩薩摩訶薩 一獨覺聲聞孤窮老病道行の乞者に施すと。 便ち是の念を作さん、 遂に高心を起して一切智智に廻向すること能はず。 佛に白して言さく、 是の菩薩摩訶薩は我我所の執に擾亂 切智智に廻向すること能にす。 外室乃至無性自性室に住する時、 内室に住する時、 世間の安忍乃至般若波羅蜜多を行する時、 四靜慮を修する時、 我れ能く安忍乃至般若波羅蜜多を滿すと。 我れ能く淨戒波羅蜜多を行す、我れ能く淨戒波羅蜜多を滿ずと。 世尊、 著し是の念を作さん、我れ能く内室に住すと。 若し佛所に於て布施を行するに便ち是の念を作さん、 切智智に廻向するやと。 是の如き般若波羅蜜多は甚だ爲れ希有なり。 若し是の念を作さん、 是の菩薩摩訶薩は方便善巧無くして布施を行 f真如乃至不思議界。 遂に高心を起して 佛言はく、 若し是の念を作さん、 せられて外室乃至無性自性室に住するが故 便ち是の念を作さん、 菩薩摩訶薩、 切智智に廻向すること能はず。 憍尸迦、 我れ能く四静 天帝釋言さく、 是の菩薩摩訶薩 一切智智に廻向すること (f) 苦聖諦乃至道聖諦。 云何が般若波羅蜜多は 世間の淨戒波羅蜜多 我れ能く外室乃至無 慮を修すと。 是の菩薩摩 は 我れ能く安 方便善巧 菩薩を調 是の 我れ

智に廻向するを明す。 して高心せしめず而も 苦隆を 切 智伏

を繰返へすのみなる故省略 就き釋戒度の場合の如き同文 安忍乃至般若の各度 4

(f) 世 空故遂起高心不能廻向 (代)「世尊菩薩廉嗣薩住內經時 切

法を代入せば他は皆同文なりなのある所に次下に出す諸なの文中「四空乃至無性自性 格す。 格す。 (f) 逢起高心不能廻向一切智智」 (g)「世尊菩薩摩訶薩修四靜康 その諸法のみ略出す。 故に之を符號(月にて略 「世尊菩薩摩訶薩修 の場合の如くし 以下

菩薩摩訶薩は我我所の執に擾亂せられて四靜愿を修するが故に遂に高心を起して一切智智に廻向す

四〇五

らず。 勤 薩摩訶薩は こよ HI す。 を得ず。 世 能はす。 我が浮戒波羅蜜多圓 んば終に ずんば終に か 修學し ち我が靜慮波羅蜜多圓 能は らす。 迦 若し我 理 ずの 我が し彼の 我れ忿恚の勢力に隨ふべ の如 切智智を成すること能はず。 是の菩薩摩訶薩は六波羅蜜多を學するに常に是の念を作す。 切 安忍波 彼の カに 智智の心を離れ が般若波羅蜜多圓滿せず れ無智の勢力に 切智智を成すること能は く思惟 カに 隨 羅蜜多 滿するを得ず。 はば則 し書寫解說 滿するを得ず。 隨はば則ち 圓滿せずんば終に ち 隨 ず無所得を以て方便と為し、 我が布施波羅蜜多圓滿するを得す。 1000 カン して廣 らず。 我が精進波羅蜜多圓滿するを得す。 若一我が浄戒波羅蜜多圓 からず。 く流布せしむるに、 若し すっ んば終 我れ破戒の勢力に隨 若し彼の力に隨はば則ち我が安忍波羅蜜多圓 我が 我 K れ心観の勢力に 若し彼の力に 切智智を成すること能 靜慮波羅蜜 切智智を成ずること能 是の \$. S. 多圓滿せ 滿 此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し 隨はば則ち 隨 世 如き ~ . s ずん 力 らず。 若 はす。 ずんば終に からず。 ば終 現 L 法後 若し 我れ慳貪の 我が般若波羅蜜 我が布施波羅 若 はずと。 1C 我が し彼 法の功徳 我 若 切 n 懈怠 精進波羅蜜多圓 智智 L 0 勢力 切智智を成 力 彼 に随 を成 0 0 蜜 沙沙 勢力 満す に随 利 多 力 多 圓 E はば 圓 を獲得 ずること 是の菩 満する るを得 3 K 滿 隨 次ずる ははば 则 隨 世 カ 精 ち すっ

施はて慳

きをやと。

想處定。何八解脫乃至十遍處。何四念住乃至八聖道支。何空解脫門乃至無顧解脫門。何五眼・六神 通。自佛の十力乃至十八佛不共法。 **慮・第四靜慮。** ◎慈無量·悲無量·喜無量·捨無量。 ◎ 空無邊處定· 識無邊處定·無所有處定· 非想非非

卷の第一百二

初分,第受品第二十九之四

菩薩の圓滿色身を具せざるぺし。若し菩薩の圓滿色身を得、菩薩行を行ぜば有情の見る者必卞無上 に能く一切智智を得べきをや。我れ若し安忍波羅蜜多を修せすんば當に諸根殘缺し容貌醜陋にして 生じて尙ほ下賤人の身すら得ること能はず、何に由りてか有情を成熟し佛土を嚴淨せん。況んや當 行ぜずんば當に貧賤の家に生じて尚は勢力すら無かるべし。何に由りてか有情を成熟し佛土を嚴淨 所の般若波羅蜜多は無所得を以て方便と爲し、一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。 所得を以て方便と爲し、一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。起す所の精進波羅蜜 せん。況んや當に能く一切智智を得べきをや。我れ若し浮戒波羅蜜多を護らずんば當に諸の惡趣に 液羅蜜多は無所得を以て方便と爲し、一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。學する 多は無所得を以て方便と爲し、一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。入る所の靜慮 て方便と爲し、一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。修する所の安忍波羅蜜多は無 と爲し、一切有情と同じく共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。護る所の淨戒波羅蜜多は無所得を以 憍尸迦、是の菩薩摩訶薩は六波羅蜜多を行する時、常に是の念を作す、我れ若し布施波羅蜜多を 憍尸迦、是の菩薩摩訶薩は六波羅蜜多を行する時、行する所の布施波羅蜜多は無所得を以て方便)無忘失法·恒住捨性。(e)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(e)一切智乃至一切相智。

(e) 前卷と同意。

を讃説し、歡喜して般若波羅蜜多を行する者を讃歎す。 多を行じ、他をして靜慮波羅蜜多を行ぜしめ、 ぜしめ、 を行する者を讃歎し、自ら般若波羅蜜多を行じ、 **歌喜して安忍波羅蜜多を行する者を讃歎し、自ら精進波羅蜜多を行じ、他をして精進波羅蜜多を行** 波羅蜜多の法を讃說し、椒喜して布施波羅蜜多を行する者を讃歎し、自ら淨滅波羅蜜多を行じ、 をして浮戒波羅蜜多を行ぜしめ、 (e)橋尸迦、是の菩薩摩訶薩は自ら布施波羅蜜多を行じ、他をして布施波羅蜜多を行ぜしめ、 自ら安忍波羅蜜多を行じ、他をして安忍波羅蜜多を行せしめ、安忍波羅蜜多の法を讃說 精進波羅蜜多の法を讃說し、歡喜して精進波羅蜜多を行する者を讃歎し、 **浮戒波羅蜜多の法を讃說し、歌喜して浮戒波羅蜜多を行する者を** 靜慮波羅蜜多の法を讃說し、歡喜して靜慮波羅蜜 他をして般若波羅蜜多を行ぜしめ、般若波羅蜜多 自ら靜慮波羅蜜

(1) 內容乃至無性自性空。 (e)真如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。 (e)初靜慮·第二靜慮·第三

> ()「帳尸迦是菩薩嚴訶薩自行布施波羅蜜多………款喜讃布施波羅蜜多」等とし其者の文中「布施波羅蜜多」等と出す。 「自行布施波羅蜜多」等と出す。 「自行布施波羅蜜多」等と出す。 「自行布施波羅蜜多」等とある所を「內空」「真如」「苦聖部」 「自行布施波羅蜜多」等とある所を「內空」「真如」「苦聖部」 「自行布施波羅蜜多」等とある所を「內空」「真如」「苦聖部」

る所 無所得を以て方便と爲すが故なり。(1)內容乃至無性自性空。(1)真如乃至不思議界。(1)苦聖諦乃至道 佛も亦た常に是の如き菩薩を護念し、惡法をして滅せしめ善法增長す。所謂は布施波羅蜜多を增長 擁護せられ一切の実績をして侵惱せしめず、法の如く求むる所滿足せざる無し。十方世界現在の諸 王及び天帝釋、 は乃至能く般涅槃取を滅し彼の對治を増す。憍尸迦、是の如き般若波羅蜜多は能く一切の歐の住す 流向預流県取乃至阿羅漢向阿羅漢果取。 て損減無からしめ、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を增長して損減無からしむ。何を以ての故に、 復た次に憍尸迦、 (c) 理の如く思惟し書寫解説して廣く流布せしめば、是の菩薩摩訶薩、常に三千大千世界の の法を滅し及び能く一切の善事を生長す。是の故に般若波羅蜜多は無數量の大威神力有るなり。 (c)菩薩摩訶薩法取·無上正等菩提取。 (d) — (d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無顧 解脫門取。 切智取乃至一 (d) 五眼·六神通。 切陀羅尼門・一切三 地忍界の主大梵天王・極光淨天・遍淨天・廣果天・淨居天等丼びに諸の善神、皆同じく (c) 若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精勤修 五眼取•六神通取。 切相智取。(c) は佛の十力乃至十八佛不共法。は無志失法・恒住捨性。は一 摩地門。 一切陀羅尼門取·一切三摩地門取。 ()佛十力取乃至十八佛不共法取。 (で獨党取・獨党向獨党県取。 ()整聞乘取乃至無上乘取。憍尸迦、是の如き般若波羅蜜多 (で、菩薩摩訶薩取・ 三藐三佛陀 (で預流取乃至阿羅漢取 (c)無忘失法取·恒住捨性 切智乃至一切 四大天 (c) 預 善法解者の功德を明す。 1

下その諸法のみ略出す。 り故に之を符號(の)にて略し以諸法を代入せば他は皆同文な 蜜多」のある所に大下に出す右の文中「布施乃至般若波攝 減……以無所得為方便故

第二。 不異収。偷盗。 れ苦報に通ずるを以ての故に。 憲、邪見を十惡業となす、こ 龍惡語、雜穢語、食欲、

斷生命を離るる法を讃説し歡喜して、斷

橋尸迦、

是の菩薩

深く恩義を知り堅く善友に事へ、怪嫉忿恨覆惱韶誑矯等の隱蔽する所と爲らず。

憍尸迦、

是の菩薩摩訶薩は發言するに威 蕭

しく聞くもの皆敬受し、稱量談説するに調錯亂

訶薩は自ら 断生命を離れ、他をして断生命を離れしめ、

生命を離るる者を讃歎し、自ら不興取を離れ、他をして不興取を離れしめ、不興取を離るる法を讃

秦の名。 【六】 莫耆。康祇(Magha)。 【六】 莫耆。康祇(Magha)。

のみ田す。 では他に皆同文なり故に之を せば他に皆同文なり故に之を せば他に皆同文なり故に之を で、下に出す諸法を代入 のみ田す。

NO O

分攝受品第二十九之三

住せしめ、或は彼れを安立して四念住乃至八聖道支に住せしめ、或は彼れを安立して空解院門乃至 め、或は彼れを安立して四靜慮乃至四無色定に住せしめ、或は彼れを安立して八解脫乃至十遍處に 或は彼れを安立して真如乃至不思議界に住せしめ、或は彼れを安立して苦聖諦乃至道聖諦に住せし て彼れをして斷滅して永く生死を離れしむ。或は彼れを安立して內室乃至無性自性空に住せしめ、 外法に於て一切悉く捨て方便して彼れをして般若波羅蜜多に安住せしむ。若し諸の有情生死に流轉 する菩薩摩訶薩の獲る所の後法の功德勝利と爲す。 解說して廣く流布せしむるに由りて、當來世に於て速に無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の は彼れを安立して世間出世間一 安立して一切智乃至一切相智に住せしめ、或は彼れを安立して一切陀羅尼門・一切三摩地門に住せ 力乃至十八佛不共法に住せしめ、或は彼れを安立して無忘失法・恒住捨性に住せしめ、或は彼れ 無願解脫門に住せしめ、或は彼れを安立して五眼・六神通に住せしめ、或は彼れを安立して佛の し長夜に恒に貪瞋癡等の隨眼纏垢の擾亂する所と爲らば是の菩薩摩訶薩は能く種種の善巧方便を以 衆を度し、本の所願に隨ひて有情を安立し、三乘に於て修學究竟し乃至無餘涅槃に證入せしむ,憍 或は彼れを安立して菩薩の十地に住せしめ、或は彼れを安立して無上正等菩提に住せしめ、 是の如きを名づけて受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し書寫解説して般若波羅蜜多を 理の如く思惟し書寫解說して般者波羅蜜多を流布する菩薩摩訶薩の獲る所の現法の功德勝利 或は彼れを安立して預流果乃至阿羅漢果に住せしめ、或は彼れを安立して獨覺菩提に住せし 憍尸迦、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に於て受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し書寫 切の善法に住せしむ。憍尸迦、是の如きを名づけて受持讀誦し

く思惟し書寫解說して廣く流布せしむるに、其の地方所に若し惡魔及び魔の眷屬有り、

或は種種

の如

復た次に橋尸迦、若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し、精動修

十力乃至十八佛不共法。 八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。的空解脫門乃至無願解脫門。 的內容乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的苦聖諦乃至道聖諦。的四靜慮乃至四無色定的 的預流果乃至阿羅漢果。的獨覺菩提。的菩薩十地。b無上正等菩提。b世間出世間 (b)無忘失法·恒住捨性。(b) 一切智乃至 一切相智。 (b) 一切陀羅尼門· (b) 五眼· 六神通 (山)佛の 切

便して彼れをして靜慮波羅蜜多に安住せしむ。若し諸の有情長夜に愚癡ならば是の菩薩摩訶薩は內 蜜多に安住せしむ。若し諸の有情長夜に心亂るれば是の菩薩摩訶薩は內外法に於て一切悉く捨て方 の有情長夜に懈怠ならば是の菩薩摩訶薩は內外法に於て一切悉く捨て方便して彼れをして精進波羅 於て一切悉く捨て方便して彼れをして浮戒波羅蜜多に安住せしむ。若し諸の有情長夜に忿恚せば是 彼れをして布施波羅蜜多に安住せしむ。著し諸の有情長夜に破戒せば、是の菩薩摩訶薩は內外法に 果さざるべし。 院凌辱違害を爲さんと欲するも、彼れ適 聽き極めて善く作意すべし。吾れ當に汝が爲に分別し解說すべしと。天帝「言はく,唯然大聖、 の菩薩摩訶薩は内外法に於て一切悉く捨て方便して彼れをして安忍波羅蜜多に安住せしむ。 し諸の有情慳貪の爲の故に長夜に鬪諍せば、是の菩薩摩訶薩は內外法に於て一切悉く捨て方便して て方便と爲し、長夜に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、 くは時に爲に說きたまへ。我れ等樂聞したてまつらんと。佛言はく、 思惟し、書寫解説して廣く流布せしむる是の善男子善女人等の現法後法の功德勝利を汝應に諦かに 復た次に憍尸迦、 若しは諸の惡魔及び魔の眷屬、若しは餘の暴惡、增上慢の者有り、此の菩薩摩訶薩の所に於て 何を以ての故に、憍尸迦、是の菩薩摩訶薩、 若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し精勤修學し理の如く 心を興こすに速に殃禍に遭ひて自ら當に殄滅し願ふ所を 一切智智に應する心を以て無所得を用 大悲願を以て上首と爲す。 憍尸迦、若しは種種の外道 梵 若し諸

點を廣說せんとす。

【二】 姓志 (Brahmacārin)。
 【三】 省上慢の者。禪定を得るも聖道に暗く實相空を聞きるも聖道に暗く實相空を聞きるも聖道に暗く實相空を聞きるも聖道に暗る方。

三九九

初分攝受品第二十九之三

法を讃説し、 り解脱せしめ 方便の力を以て諸の有情の爲に法要を宣說し、宜しきに隨ひて三乘法の中に安置し永く生 無願解脫門を讃說し、五眼を讃說し、六神通を讃說し、 處乃至十遍處を讚說し、 を讃説し、集滅道聖諦を讃説し、四靜慮を讃説し、 切陀羅尼門を讃説し、一切三摩地門を讃説 無忘失法を讃説し、恒住捨性を讃説し、 外空乃至無性自性空を讃説 無餘依般涅槃界を證し、 四念住を讃説し、 或は復た諸の娯趣の苦より拔済し天人の中にて諸の快樂を 四正斷乃至八聖道支を讃説し、 し、眞如を讃説し、法界乃至不思議界を讃説し、 L 佛資を讃說し、 四無量四無色定を讃説 佛の十力を讃説し、 一切智を讃説し、 法賓茲獨僧賓を讃説す。 道相智 し、八解脱を讃説し、 空解脱門を讃說し、 四無所畏乃至十八佛不共 切相智を讃説 復た善巧

巻の第一百一

初分攝受品第二十九之三

失法 (a) 獨覺菩提。(a) 菩薩 至八聖道支。 如乃至不思議界。 多を構受する有らば則ち爲れ布施乃至般若波羅蜜多を撰受するなり。 時に天帝釋復 、恒住捨性。(a) (8) 空解脫門乃至無願解脫門。(8) た佛に白して言さく、 (1) 芳聖諦乃至道聖諦。 切智乃至 (a)無上正等菩提。 切 相智。 (a)四靜慮乃至四無色定。(a) (a) (a)世間出世間 五眼·六神通。 般若波羅蜜多は甚だ偽れ希有なり。 切陀羅尼門· 切の善法。 切三摩地門。 (a)佛の十力乃至十八佛不共法。 八解脫乃至十遍處。 (8)內容乃至無性自性空。 (a) 預流果乃至阿羅漢果。 (a) 若 (a) 14 念住乃 (a) 無忘 (a)

n 希有なり。 山 若し般若波羅蜜多に於て能く攝受する者は、 天帝輝に告げて言はく、 是の如し是の如し、 汝が所説の如し。般若波羅 則ち能く布施乃至般若波羅蜜多を攝受 多は甚だ賃

(a)の如くして略するものとす
部康般若波羅蜜多」

分の一 供
胝分の一
にも及ば
ず、 して其の形容を盡くさん。若し復た人有りて須臾の頃を経て 薩摩訶薩を供養恭敬尊重讃歎せんに、 如くなるを、善男子善女人等有りて彼の顧田に於て無量種の上妙の樂具を以て、供養恭敬尊重讚數 にも及ばず、百千分の 百千俱胝分の一にも及ばず、數分算分計分喩分乃至 にも及ばず、 前の功徳を以て此の編聚に比ぶるに百分の 倶胝分の にも及ばず、 初發心の六波羅蜜多を離れさる菩 百俱胝分の 鄔波尼殺曇分の亦た 一にも及ばす、 にも及ばず、 Ŧ 千

も及ばざるなり。

らず。 世界より一 諸佛より聴聞する所の正法は乃ち無上正等菩提に至るまで終に忘失せず、 欣樂する所の殊勝の善根に隨て、諸佛に於て供養恭敬尊重讃歎するに由りて即ち成滿することを得、 法の功徳を攝受し、 岩波羅蜜多に於て受持讀誦し精勤修學し理の如く思惟し書寫解說して廣く流布せしめば是の 此の菩薩摩迦薩を守護し供養恭敬尊重讃歎し、一切の災横をして侵悩せしむること勿るべしと。 し、音聲圓滿し、 UY 洲界。 の時天帝釋、 是の故 憍尸迦、 內瞻部洲東勝身洲。 但だ菩薩摩 世界に趣き、 (d) に汝等 聲聞及び獨覺に由るが故に菩薩摩訶薩及び諸の如來應正等覺の世間に出現することな 小千 陀羅尼圓滿し、三摩地圓滿す。 **佛に白して言さく、世尊、甚だ奇にして希有なり。** 一世界。 一切の天龍及び阿素洛健達縛揭路茶緊捺洛樂叉邏利娑莫呼洛伽人非 訶薩のみに由るが故に聲聞獨覺及び諸の如來應正等覺有りて世間 有情を成熟し佛土を嚴淨し、 母圓滿し、生圓滿し、眷屬圓滿し、相好圓滿し、光明圓滿し、 (d) 付南瞻部洲東勝身洲西牛貨洲。 無佛の國に至りて布施波羅蜜多を識說し、淨戒乃至般若波羅蜜多を讚說し、 中千世界。 は三千大千佛の世界。 復た善巧方便の力を以て身を變ずること佛の如く 佛國より d南瞻部洲東勝身洲西牛貨洲北俱盧洲。 は十方無量無邊の世界。 佛國に趣き諸佛世尊に親近承事 是の菩薩摩訶薩、 聞く所の法要は速に能 眼圓滿し に出現すれば 人等常に應に 何を以て 此 の甚深般 如き 耳川滿 の故 (d) な 現

【二】 現世功徳滅諍を說く。

分攝受品第二十九之二

乃至八聖道支。 の苦を 1 供養恭敬尊重 法·恒住捨性。 乃至般若波羅蜜多。 ぜしむ。 薩際訶薩なり。憍尸迦、是の菩薩摩訶薩に由るが故に諸の有情をして永く地獄傍生鬼界阿 To に出 法輪を轉じて無量の 理の (d) 加 憍尸迦、 (c) 橋尸迦、 現ナ。 四大王衆天乃至他化自在天。 薩に由るが故に四靜慮四 離れしむ。 如 非想處天。 橋尸迦、 迦、假使八南贍部洲に逼滿せる聲聞獨党、聲 く思惟し書寫解説して廣く流布 無所得を以て方便と爲し、 如き菩薩摩訶薩を供養恭敬尊重讃歎する者は當に知るべし即ち是れ我れ及び十方 讃歎し動加守護し、 憍尸迦、 是の菩薩摩訶薩に由るが故に如來應正 (c) を供養恭敬尊重讃歎するなり。 是の菩薩摩訶薩に由 (C) 空解脫門乃至無頗解脫門。(C) 一切智乃至 憍尸迦、 是の菩薩摩訶薩に (c) (c) 是の 預流乃至阿羅漢及び預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 內容乃至無性自性室。 衆を度するなり。 縁を以 是の菩薩摩訶薩に由るが故に十善業道世間に出現す。 重讃歎し動加守護し、 切相智。 無量四 ての故に、 切の災横をして侵惱せしむること勿るべし。 (c) 梵衆天乃至廣果天。 c) 無繁天乃至色究竟天。 るが故に 由るが 常に能 無色定世間に出現す。 (c) せし 憍尸迦、 故に諸の 切 汝等天龍阿素洛等常に應に隨逐 菩薩摩 (0)真如乃至不思議界。 めば、 く此 五眼·六神通 是の故に汝等一切の天龍阿素洛等常に應に隨逐して 陀羅尼門・一切三摩地門。 是の菩薩摩訶薩に由るが故に佛 0 0 等覺世間 天人をして永く一 當に 甚深般若波羅蜜多に於て受持讀誦 司 ば甘蔗蘆葦竹林稻麻の叢等の間の空隙無きが 切の災横をして侵悩せしむること勿るべ 薩世 知るべ (e) 間 佛の十カ乃至十八佛不共法。 (c) 八 IC に出現して有情を成熟し し是の善男子善女人等は即ち是れ 出現し 八解脫乃 () 苦聖諦乃至道聖諦。 切の災横疾疫食窮飢渴寒熱等 T 至十 無 (c) 上正 して此 追處。 利帝利大族乃至 憍尸 等菩提を證得 (c) (c) 憍尸 獨党 の菩薩 法實茲獨僧法 (c) 容無邊處天乃 (c) 布施波羅蜜多 佛土を嚴淨 迦、 . 獨覺向 精勤修 若し人有 (c) (c) 一輔臣僚 無忘失 14 是の菩 L 念住 切

(の)「憍尸迦由是菩薩除訶薩故間」

「一個学園四經量四無色定出現世間」

「一個学園の女中「四靜慮乃至四無色定出現世間」

「一人社ば他は皆同文なり故に 一人人社ば他は皆同文なり故に 一人人社ば他は皆同文なり故に 一人人社ば他は皆同文なり故に 一人人社ば他は皆同文なり故に

⁽は)「幡尸迦假使温滿南騰部洲の水異れる故之れを掲ぐ。 水異れる故之れを掲ぐ。 水異れる故之れを掲ぐ。 水異れる故之れを掲ぐ。 水異れる故之れを掲ぐ。 水異れる故之れを掲ぐ。

敬し守 び阿素洛健 便ち如來應正等覺、 摩訶薩に由るが故に世間便ち獨覺及び獨覺向獨覺果有るなり。世尊、是の菩薩摩訶薩に由るが故に が故に世間便ち預流乃至阿羅漢及び預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果有るなり。 即便ち空無邊處天・識無邊處天・無所有處天・非想非非想處天有るなり。世尊、是の菩薩摩訶薩に由る 臓に由るが なり。 告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所説の如し。 世間便ち菩薩摩訶薩の有情を成熟し佛土を嚴淨する有り。世尊、是の菩薩摩訶薩に由るが故に世間 便ち四大王衆天・三十三天・夜摩大・覩史多天・樂變化天・他化自在天有るなり。世尊、是の菩薩摩訶 摩訶薩に由るが故に世間便ち佛寶法寶苾芻僧寶有るなり。世尊、是の緣を以ての故に我れ等天・龍及 世間便ち無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天有るなり。世尊、 **淨天・無量淨天・逼淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天有るなり。世尊是の菩薩摩訶薩に由るが故に** 大族·居 羅尼門・一切三摩地門。世尊、是の菩薩摩訶薩に由るが故に世間便ち刹帝利大族・婆羅門大族・長者 六神通。 至不思議界。 便ち十善業道有るなり。 をして永く一切の災横疾疫貧窮飢渴寒熱等の苦を離れしむ。世尊、是の菩薩摩訶薩に由るが故に世 護し (b) 士大族・諸の小國王・轉輪聖王・輔臣僚佐有るなり。 (b) 八解脫乃至十遍處。山 達柳。揭路茶・緊捺洛。樂叉・邏刹娑英呼洛伽・人非人等常に隨逐して此の菩薩摩訶薩 故に世間便ち梵衆天・梵輔天・梵曾天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少 佛の十九乃至十八佛不共法。 的苦聖諦乃至道聖諦。的四念住乃至八聖道支。的空解晚門乃至無願解晚門。 切の災横をして侵惱せしめざるべしと。 無上正等菩提を證得し妙法輪を轉じて無量の衆を度する有り。 し世尊、是の菩薩摩訶薩に由るが故に世間便ち四靜慮四無量四 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。山內空乃至無性自性空。 り無忘失法・恒住捨性。 憍尸迦, 爾の時世尊、 世尊、 若し善男子善女人等、 (山) 一切智乃 是の菩薩摩訶薩に由るが故に世 是の菩薩摩訶薩に 天帝釋及び諸の天龍阿素洛等に 至一 切相智。 世尊、 世尊、 由るが故 切智智の 無色定有る (b) (b) 五眼 是の菩薩 (b) 是の菩薩 道如乃定 一切陀 K 間 圃 16 世 .

(も)「世霖由是菩薩摩訶薩教世代入世ば他は皆詞文なり故に 代入世ば他は皆詞文なり故に 之を符號(も)にて略し以下その 之を符號(も)にて略し以下その とを行動(も)にて略し以下その

初分攝受品第二十九之二

三九五

に於て正しく安養するが故なり。 らず、亦た横死せずと。何を以ての故に、是の善男子善女人等は布施波羅蜜多を修行して諸の有情 を修するが故なり。憍尸迦、是の善男子善女人等は終に横しましに諸の險惡の緣の懺害する所と爲

内容を修するが故に、善く外容乃至無性自性空を修するが故なり。 すして無所得を以て方便と爲し、此の般若波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し、精動修學して 多に於て若し未だ聽聞し受持讀論し精動修學して正しく思惟せざる者は今應に一切智智の心を離れ 天・他化自在大・梵衆天・極光淨天・遍淨天・廣果天等已に無上正等覺心心を發せるも此の般若波羅蜜 竪せず、所以は何ん、是の善男子善女人等は一切智智の心を離れず、無所得を以て方便と爲し善く 女人等は若しは空宅に在り、若しは曠野に在り、若しは險迫及び危難の處に在るも終に怖畏驕恐毛 理の如く思惟すべし。憍尸迦、若し善男子善女人等、一切智智心心を離れず無所得を以て方便と爲 し、此の殺害波羅蜜多に於て至心に聽聞し受持讀誦し精動修學し理の如く思惟せば、是の善男子善 復た次に憍尸迦、此の三千大千世界に於ける所有四大王衆天・三十三天・夜摩天・觀史多天・樂變化

粘深般若波羅蜜多に於て受持護誦し精勤修學し理の如く思惟し、書寫解說して廣く流布せしめなば、 淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天等、 倶に 佛に 白して 女人等は即ち是れ菩薩摩訶薩なるが故なり。世尊、是の菩薩摩訶薩に由るが故に諸の有情をして永 我れ無常に隨ひて恭敬擁衞し一切の災橫をして侵惱せしめざらん。何を以ての故に、此の善男子導 言さく、世尊、若し善男子善女人等。一切智智の心を離れず無所得を以て方便と爲し、常に能く此の 自在天・梵象天・梦輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍 爾の時此の三千大千世界に於ける 所有る 四大王衆天・三十三犬・夜摩天・観史多天・樂變化天・他化 地獄傍生鬼界阿素洛等の諸の險患趣を斷ぜしむ。世尊、是の菩薩摩訶薩に由るが故に諸の天人

【本】 諸天般若行者を守護すべきを覧く。

懺害の事得可からざるを以ての故なり。 からず、 者無しと。 方便とはし、 踏の天子、 現天・善見天・色究竟天・皆集り和合して同じく爲に明證せるを照知したまへり。是に於て顧みて天 想行識の空無相無願に住すればなり。 廣く流布せしめば、 帝釋に命じて言はく,憍尸迦,若しは菩薩摩訶薩、若しは茲芻・茲芻凡・鄔波索迦・鄔波斯迦・若しは 量光天。極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣大・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善 三十三天,夜摩天,覩史多天,樂變化天,他化自在天,梵衆天,梵輔天,梵會天,大梵天,光天,少光天。 無 無願 何を以ての故に、自憍尸迦、 若しは諸の天女、若しは善男子、若しは善女人、一切智智の心を離れず、 は 此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し、精勤修習し理の如く思惟し、 無願の便りを得可からず。 當に知るべし是の輩は諸の 空を以ては空の便りを得可からず、 是の善男子善女人等は善く色の空無相無願に住し、善く受 何を以ての故に、 悪魔王及び魔の眷属能く 色蘊等の自性皆空にして能惱所惱及び 無相は無相の便りを得可 便りを得爲に惱害する 他の爲に演説し 無所得を以て

(a) 五眼·六神通。 (a) 死愁歎苦憂惱。 乃至諸受。自身界乃至諸受。的意界乃至諸受。自地界乃至識界。自苦聖諦乃至道聖諦。自無明乃至老 と以ての故に、是の善男子善女人等、無所得を以て方便と爲し、一切有情に於て善く慈悲喜捨の心 復た次に憍尸迦、 |四靜慮乃至四無色定。|(i)八解脫乃至十遍處。|(i)四念住乃至八聖道支。(i)空解脫門乃至無顯解脫門。 切陀羅尼門· 處乃至意處。 (a)內室乃至無性自性空。 (a)菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。 切三靡地門。 a佛の十九乃至十八佛不共法。 是の善男子善女人等は、 (a)色處乃至法處。 (8) 預流乃至阿羅漢。 (a) 門界乃至諸受。(a) 耳界乃至諸受。(a) 鼻界乃至諸受。 (1) 真如乃至不思議界。(1) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (a) 菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 人及び非人の能く便りを得て為に惱害する者無し。 a)無忘失法·恒住捨性。 (a) 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (a) (a) 聲聞乘乃至無上乘。 切智乃至 切相智。 (a) 舌界 何 (a)

にて略し以下その諸法のみ略他は皆同文なる故之を符號(4)に次下に出す諸法を代入せばに次下に出す諸法を代入せば Do 出す。略しい 煩惱と五難と死魔と天魔とあ 惱所惱及惱害事不可得故」 (a)「個尸迦是善男子善女人等 故に誘惑悩亂し恐怖し 【四】便り。菩薩道力少きが 字書字經卷にして實相智慧を以色蘊等自性皆空 以て魔界を減ずる怨敵と 宣示するもの。 むるを云ふ。 佛菩薩は三界を脱するを + の語言名 す。

【五】 此處に善男子善女人とせず菩薩とせず持護等の功徳 は人非人の怨害小にして魔器 は人非人の怨害小にして魔器

等覺明行圓滿善逝世間解無上丈夫調御士天人師佛薄伽梵と號すべしと。 汝當來世に 佛即便ち我れに阿耨多羅三藐三菩提の記を授けたまへり。 智を離れず、 れず、 佛の十カ乃至十八佛不共法を離れず、無忘失法・恒住捨性を離れず、一切智乃至一切相 無数大劫を過ぎ此の世界の 切陀羅尼門、一 す、四念住乃至八聖道支を離れず、室解院門乃至無願解院門を 離れ 切三摩地門を難れず、 賢劫の中に於て當に作佛することを得ん。 諸の餘の佛法を離れさるを得たり。 謂ゆる是の言を作したまへり、善男子、 ず、五眼·六神 能寂如來應正 時に然燈

的眼處乃至意處、的色處乃至法處、的眼界乃至諸受、的耳界乃至諸受、的鼻界乃至諸受、的舌界乃 五眼・六神通、山佛の十力乃至十八佛不共法、 四靜慮乃至四無色定、山八解脫乃至十遍處、山四念住乃至八聖支、山空解脫門乃至無願解脫門、 死愁軟苦愛惱、山內空乃至無性自性空、山真如乃至不思議界、山布應波羅蜜多乃至般若波羅蜜多、 至諸受、山身界乃至諸受、山意界乃至諸受、山地界乃至識界、山苦聖論乃至道提諦、山無明乃至老 色に於て取らず捨てざるを方便と爲すが故に、受想行識に於て取らず捨てざるを方便と爲す 薩摩訶薩衆をして速に能く一切智智を擴取せしめたまへり。無所得を以て方便と爲すが故に。所謂 向獨覺果、山菩薩摩訶薩・三藐三洲陀、山菩薩摩訶薩法・無上正等菩提、山聲聞乘乃至無上乘。 切陀羅尼門。一切三摩地門、山預流乃至阿羅漢、山預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果、 時に諸の天仙等、 佛に白して言さく、 世尊、 b)無忘失法·恒住捨性、b)一切智乃至 是の如き般若波羅蜜多は甚だ為れ希有なり。 切相智、 が故に。 諸の菩 (h) (h)

霜の時世尊、四衆の謂ゆる玄錫。玄錫尼・邬波索迦・邬波斯迦・及び菩薩摩訶薩・丼びに四大王衆天・

30 千佛次第して出世する ことあるも、 小乗には五佛出世と 鋭く

政は聖

へ劫と

傷を說く。

三九一

能く正しく修行して常に遠離せず。是の故に汝等彼の菩薩に於て當に敬ひ事ふること猶ほ如來の如 (S)菩薩摩訶薩法・無上正等菩提、(S)聲聞乘乃至無上乘。是の如き菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に於て 羅漢、g)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果,g)獨覺·獨覺向獨覺果,g)菩薩摩訶薩·三 法、g無忘失法·恒住捨性、g)切智乃至一切相智、g)切陀羅尼門·一切三摩地門。g資流乃至阿 g四念住乃至八聖道支、 空乃至無性自性空。 gh真如乃至不思議界、 能く勤め修學して謂ゆる自布施波羅蜜多を學し、淨戒・安忍・精進・靜慮・般若波羅蜜多を の天仙の 輩、汝曹當に知るべし、若し菩薩摩訶薩、 (g室解脱門乃至無願解脱門、g五眼・六神通、g佛の十カ乃至十八佛不共 (g)諸聖諦・四靜慮乃至四無色定、(g)八解脫乃至十 無所得を以て方便と為し、 切法に於て 藐三佛陀 温處、

方便と爲せしが故に便ち布施波羅蜜多を離れず乃至般若波羅蜜多を離れず、 の首に於て然燈佛五莖の花を散じたまへるを見、髪を布きて泥を掩ひ無上法を聞き、 汝等當に知るべし、 眞如乃至不思議界を離れず、 我れ往昔に於て、然燈如來應正等覺世に出現したまひし時、 諸の聖諦を離れず、 四靜慮乃至四無色定を離れず、 内室乃至無性自性空を 衆花城の 無所得を以 八解脫乃 四衢路

以下略田す。以下略田す。

「B」 標章自己成佛の本事を Tylkam)。 燃燈或は錠光とい Tylkam)。 燃燈或は錠光とい ひ、本と釋奪に授記せる古佛 なり。

初分攝受品第二十九之一

界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自苦聖誇乃至道聖諦。自無明乃至老死愁歎苦憂憐。 爲に微妙正法の所謂者般波羅蜜多を分別開示す。若し菩薩有りて此の般若波羅蜜多に於て能く說の 可き無しと雖も而かも三乘の教・所謂聲聞・獨覺・無上乘の教を施設する有りと。 菩薩摩訶薩・三藐三佛陀。 色定。四八解脫乃至十遍處。回四念住乃至八聖道支。回空解脫門乃至無願解脫門。 (e)內容乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (e)四靜慮乃至四無 の教の中には法の得可き無し。所謂此の心中色の得可き無く受想行識の得可き無し。 如く行じ遠離せずんば、我等彼れに於て敬ひ事ふること佛の如くせん。是の如き般若波羅蜜多甚深 聲に唱へて言はく、善哉善哉、尊者善現、佛の神力を承け、佛を依處と爲し、善く我等天人世間の 佛の十九乃至十八佛不共法。 爾の時會中の天帝釋等、 色處乃至法處。自眼界乃至諸受。自耳界乃至諸受。自鼻界乃至諸受。自舌界乃至諸受。 (e)預流乃至阿羅漢。(e)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(e)獨覺·獨覺向獨覺果。(e) (e)菩薩摩訶薩法·無上正等菩薩。(e)聲聞乘乃至無上乘 欲界の天衆梵天王等、 (e)無忘失法·恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。 色界の諸天及び 伊舍那神仙天女、 (e) 是の如き諸法の得 一切陀羅尼門。 (e) 五眼·六神通。 (e) 眼處乃至意 同時に三返高 (e) 身

港深の教中に於て、 彼の菩薩に於て當に敬ひ事ふること猶ほ如來の如くすべし。汝等當に知るべし。出布施波羅蜜 の般若波羅蜜多に於て無所得を以て方便と爲し、 諸の天仙等に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所説の如し。此の般若波羅蜜多 色等の諸法は得可き無しと雖も而かも三乗の教を施設する有り。 能く説の如く修行して遠離せずんば、 若し菩薩有り 汝天仙

(e) 「無色可得無受想行職可得他は皆同文なり故に之を符號の名。 「一」 「無色可得無受想行職可得 他は皆同文なり故に之を符號 他は皆同文なり故に之を符號 他は皆同文なり故に之を符號 に大下に出す諸法を代入せば

の般若波羅蜜多も亦た無邊なり。 若波羅蜜多も亦た無邊なるやと。善現答へて言はく、憍尸迦、真如無邊なるが故に所緣も亦た無邊 天帝釋、 なり。法界の所緣無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なり。復た次に て言はく、憍尸迦、法界無邊なるが故に所縁も亦た無邊なり。所緣無邊なる、故に法界も亦た無邊 所緣無邊なるが故に真如も亦た無邊なり。真如の所緣無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所 善現に問ふて言はく、大徳、云何が真如の所線無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般 真如の所緣無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なりと。時に

A STATE OF THE PARTY OF THE PAR

The same of the sa

ると。 行する所の般者波羅蜜多も亦た無邊なりと。 告げて言はく、憍尸迦、此の縁に由るが故に我れ是の説を作す、有情無遽なるが故に菩薩摩訶薩 何を以ての故に、諸の有情の本性浮なるを以ての故なり。彼れ本より來た所有無きが故にと。 の名字を説くに、此の中頗し有情に生有り滅有ること有りや不やと。天帝釋言はく、不なり大德。 有りと顯示為すや不やと。天帝釋言はく、不なり大德と。善現告げて言はく、憍尸迦、此の般若波 での故に。憍尸迦、汝が意に於て云何、著し諸の如來應正等覺、殑伽沙等の劫を經て住し諸の有情 法の増語にも非ず、但だ是れ假立せるのみ。客名に攝せられ、無事名に攝せられ、無緣名に攝せら 是れ何の法の増語ぞやと。天帝釋言はく、大德、言ふ所の有情、有情とは法の増語に非ず、亦た非 時に天帝釋、善現に問ふて言はく、云何が有情無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行ずる所の般若波羅蜜 **雑蜜多の中に於て既に實に有情有りと顯示せさるが故に無邊なりと說く。彼の中邊不可得なるを以** 多も亦た無邊なるやと。善現答へて言はく、憍尸迦、汝が意に於て云何。言ふ所の有情、有情とは 復た次に憍尸迦、有情無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なりと。 善現復た言はく、憍尸伽、汝が意に於て云何、此の般若波羅蜜多の中に於ても亦た實に有情 善現

初分款衆德品第二十八之二

三八九

CATHORNIA CO.

無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なり。 所の般若波羅蜜多も亦た無邊 は中若しは邊皆不可得なるを以ての故に無邊なりと說く。彼れ無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する に我れ是の説を作す、 憍尸迦、 色無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なり、 色等無量なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も なり。 所以は何ん、 色蘊等 亦た無量なり 受想行識 の若

(d) (d) 老死愁歎苦憂惱。因內容乃至無性自性空。因真如乃至不思議界。因布施波羅蜜多乃至較若波羅蜜多。 乃至諸受。(自身界乃至諸受。 波羅蜜多も亦た無邊なりと。 覺·獨覺向獨覺果。d善薩摩訶薩·三藐三佛陀。 四靜慮乃至四無色定。由八解脫門乃至十遍處。由四念住乃至八聖道支。由空解脫門乃至無 的眼處乃至意處。d)色處乃至法處。d)眼界乃至諸受。d)耳界乃至諸受。d)身界乃至諸受。d)舌界 憍尸迦、此の緣に由るが故に是の說を作す、色等無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若 切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流乃至阿羅漢。(d)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 五眼・六神通。は佛の十カ乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は一切智乃至 d)意界乃至諸受。d)地界乃至識界。d)苦聖諦乃至道聖諦。 d菩薩摩訶薩法・無上正等菩提。 d聲聞乘乃 (d) 無明乃至 切 **無願解脫** 至無上 相智 (d)

薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なり。 が法界の所縁無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なるやと。善現答 訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なりと。 羅蜜多も亦た無邊なるやと。善現答へて言はく、憍尸迦、 警現は問ふで言はく、大德、云何が所縁無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波 所線無邊なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無邊なり。 復た次に憍尸迦、 時に天帝釋、 一切智智の所縁無邊なるが故 善現 法界の所縁無邊なるが故に菩薩摩 に問ふて言はく、 に菩薩摩訶

> (山)「鴨尸遍色無邊故……… 被無邊故菩薩摩訶薩所行般若 波羅蜜多亦詮無邊」 で以下略出す。

b 蜜多も亦た人なりと。 覺向獨覺果。 迦、 £ 眼·六神通。 It 0 緣 b苦薩摩訶薩·三藐三佛陀。 K 切三 由るが故に我れ是の説を作す、 (b) 佛の十力乃至十八佛不共法。 摩地門。 (b) 預流 **加乃至阿羅漢。** 的菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 色等大なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の (b) b無忘失法·恒住捨性。b 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 一切智乃至一 的聲聞乘乃至無上 **[7]** 相智。由 (b) 般若波羅 獨覺·獨

の如 なるを以ての故に無量なりと說く。 量なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無量なり。 一薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た無量 (c) く量不可得なり。 憍尸迦、 色無量なるが故に菩薩摩訶薩の行 憍尸迦、 虚空無量なるが故に色蘊等も亦た無量なり。 橋尸迦、 響へ する所の般若波羅蜜多も亦 なり ば虚空の量の不可 得なるが如 所以は何 た無量 色蘊等無量なるが故に (ん色蘊等の なり、 色蘊等も 量不 亦た是 可 識

乃至諸受。 多。(四無量乃至四 脫門。 老死愁歎苦憂惱 (c) (c) 肥 處此 (c) 五眼·六神通。 切陀羅尼門・一 至意 (0)身界乃至諸受。 處。 (c) 內室乃 無色定。 (c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c) 切三 (c) 佛 至無性自性空。 摩地門。 の十カ乃至十 (c八解脫乃至十 (c) 意界乃至諸受。 八佛 (c) 真如乃至不思議界。 遍處。()四念住乃至八聖道支。 不 (c)地界乃至識界。 共法。 (c)無忘失法·恒住捨性。(c) 耳界乃至諸受。(C鼻界乃 (c) 布施波羅蜜 (c) 苦聖諦乃至道聖諦。 () 室解脫門乃至無願 **里多**乃至 切智乃至 至諸受。 般 (c) 無明乃至 波 (c) 舌界 切

卷の第九十九

初分歎衆德品第二十八之二

薩·二藐三佛陀。 預流乃至阿羅漢。 (c)菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 (C)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (c 聲聞 乘乃至 (c) 獨党 無上乘。 ٠ 獨覺向 橋尸 迦、 獨覺果。 此 の線 (C)菩薩 K 山るが故

分數衆德品第二十八之一、二

(の「無尸迦色無量故………… を複考波羅蜜多亦無量」 を複字無量故菩薩摩訶薩所行 を複字無量故菩薩摩訶薩所行

三八七

初分歎衆德品第二十八之一

を得、 大なり。 る 有情を成熟し佛土を嚴淨して無上正等菩提を證得す。 果を得、 若しは未來の諸の 是れ大波羅蜜多、 て言は 羅漢は此 の一 故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多も亦た説いて大なりと爲す。 時に天帝釋、 來者は此の中に於て學して一來果を得、 是れ無量波羅蜜多、 般若波羅蜜多も大なり。 諸の獨覺者は此 は此の中に於て學して能く有情を成熟し佛土を嚴淨して無上正等菩提を證得すと。 諸の不還者は此の中に於て學して不還果を得、 所以は何ん、 0) 是の如 中に於て學して阿羅漢果を得、諸の獨覺者は此の中に於て學して獨覺菩提を得、諸の菩薩 善現 預流者は此の中に於て學して預流果を得、 し是の如 是れ無量波羅蜜多、 に白して言さく、 色蘊等の前中後際皆不可得なるが故に說いて大なりと爲す。 の中に於て學して獨常菩提を得、 是れ無邊波羅蜜多なり。 4 受想行職大なるが故に菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多 汝が所説の如し。 是れ無邊波羅蜜多なり。 大德、 諸 菩薩摩訶薩の 0 憍尸迦、 諸 不還者は此の中に於て學して不還果を得、 V) 預流 (b) 憍尸迦、 諸の阿羅漢は此の中に於て學して阿羅漢果 諸の菩薩摩訶薩は此の中に於て學して 行 菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多は 者は此の中に於て學して預流果を得、 諸の一 ずる所の 憍尸迦、 色大なるが故に菩薩摩訶薩 來者 般若波羅蜜多は是れ 若しは過去、 は此の中に於て學して一 彼の大に しは現 善現告げ 大波羅蜜 6 由るが 四の行 諸の 亦た 在 能 す BB 諸

【一】 管釋般若の大無量無過 を讃ずるに對し善現これを廣

摩訶薩所行般若波羅蜜多亦配 為大」 「他は皆同文なり故に之を符號他は皆同文なり故に之を符號を 他は皆同文なり故に之を符號を りにて略し以下その諸法のみ

一靜慮乃至四無色定。

。的八解脫乃至十遍處。

的四念住乃至八聖道支。的空解脫門乃至無願

處乃至意處。

(b)

色處乃至法處。

的眼界乃至諸受。

(b)

耳界乃至諸受。

的鼻界乃至諧受。

的身界乃至諸受。

的意界乃至潜受。

(b) 地界乃至識界。

的苦聖諦乃至道聖諦。

(b) 無

明乃至舌

(b)

內容乃至無性空。

(b)

真如乃至不以議界。

(b)

布施

波羅蜜多乃至般若波羅

蜜多。

(b)

權漢果法性。

卷の第九十八

初分求般若品第二十七之十

正等菩提法性。匈聲聞乘法性乃至無上乘法性。 (a)獨覺法性·獨覺向獨覺果法性。(a)菩薩摩訶薩法性·三藐三佛陀法性。(a)菩薩摩訶薩法法性·無上

(a) 前巻と同意。

三八五

初分求般若品第二十七之八、九、十

巻の第九十六

初分求般若品第二十七之八

向預流果真如乃至阿羅漢向阿羅漢果真如。 (c) 乃至一切相智真如。 十遍處真如。 三佛陀真如。《書薩摩訶薩法真如·無上正等菩提真如。 神通真如。 布施波羅蜜多真如乃至般若波羅蜜多真如。 a佛の十九眞如乃至十八佛不共法眞如。 (a)四念住真如乃至八聖道支真如。(a)空解脫門真如乃至無願解脫門真如。(a) (a)一切陀羅尼門真如·一切三摩地門真如。(a)預流真如乃至阿羅漢真如。 (a)眼處法性乃至意處法性。(a)色處法性乃至法處法性。(a)眼界法性 (a)獨覺真如·獨覺向獨覺果真如。(a)菩薩摩訶薩真如·三藐 (a)四靜慮真如乃至四無色定真如。 a無忘失法真如·恒住捨性真如。 a聲聞乘真如·無上乘真如 (a) 八解脫 (a) 五眼真如 一切智真如 心真如乃至 (a) 預流 • 六

の第九十七

乃至諸受法性。匈耳界法性乃諸受法性。

復た次に自色法性乃至識法性。

初分求般若品第二十七之九

乃至八聖道支法性。 假法性。(a)內空法性乃至無性自性空法性。(a)真如法性乃至不思議界法性。 性乃至十八佛不共法法性。问無忘失法法性。恒住捨性法性。一切智法性乃至一切相智法性。 般若波羅蜜多法性。 (a) · 幕界法性乃至諸受法性。○ 古界法性乃至諸受法性。○ 身界法性乃至諸受法性。○ 資界法性乃至 (a) 地界法性乃至識界法性。 (3) 空解脫門法性乃至無願解脫門法性。 (a)四靜慮法性乃至四無色定法性。(a)八解脫法性乃至十 (a)苦聖諦法性乃至道聖諦法性。(a)無明法性乃至老死愁歎苦憂 (a) 五眼法性·六神通法性。 (a) 布施波羅蜜多法性乃至 遍處法處。 は佛の十力法 (8)四念住法性 (a) 切陀

> (a) 前您と同意。

(a) 前卷と同意。

a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。 老死愁數苦憂惱。因內容乃至無性自性空。因真如乃至不思議界。因布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 乃至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自苦理諦乃至道聖諦。自無明乃至 に非ず、 非ず離受想行識に非さればなり。 からす受想行識に於て求むべからず、色を離れて求むべからす受想行識を離れて求むべからず。 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(i)舌界 無所有にして得可からざるに由るが故に、 離色に非ず離受想行識に非す。是の故に菩薩摩訶薩所行の般若波羅蜜多は色に於て求む 所以は何ん、 a)四念住乃至八聖道支。a)空解脫門乃至無願解脫門。 是の如き一切は皆無所有性にして得可からさればな 菩薩摩訶薩所行の般若波羅蜜多は色に非ず受想行識

巻の第九十五

(a)

五眼·六神通。

(4)佛の十力乃至十八佛不共法。(4)無忘失法・恒住捨性。(4)一切智乃至一切相智。

初分求般若品第二十七之七

獨覺·獨覺向獨覺果。 切陀羅尼門· (a)菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。(a)菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。(a)聲聞乘乃至無 切三摩地門。 (a)預流乃至阿羅漢。(a)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(a) (a)

道聖諦真如。 (1)身界真如乃至諸受真如。(1)意界真如乃至諸受真如。(1)地界真如乃至識界真如。 如乃至諸受真如。 復た次に、自色真如乃至識真如。自眼處真如乃至意處真如。自色處真如乃至法處真如。自 (8)無明真如乃至老死愁敷苦憂惱真如。(8)內空真如乃至無性自性空真如。 (a) 耳界真如乃至諸受真如。 (a) 鼻界真如乃至諸受真如。 a舌界真如乃至諸受真 (a) 苦聖諦眞如乃至 (a) 真如真如乃 眼界真

前後と同意

三人三

初分求般者品第二十七之五、六、七

巻の第九十三

初分求般若品第二十七之五

(a) 覺・獨覺 切陀羅尼門·一 心靜慮乃至四無色定。 五眼·六神通。 元向獨覺果。 切三摩地門。 (a)菩薩摩訶薩·三 (a) 俳の十 (a) 八解脫 力乃十八佛不共法。 (1) 預流乃至阿羅漢。 乃至十遍處。 藐三佛陀。 a川念住乃至八聖道支。 (8) 菩薩摩訶薩法 a無忘失法·恒住捨性。 (a) 預流向 頂 流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 . 無上正等菩提。 (a) 空解脫門乃至無 (a) 切智乃至 (a) 整聞 乗乃至無 切 相 願解脫 (a) 智。 温

迦 せざるに非す、 彼の尊者会利子の所說は是の如く一 如來の 神力、 如來の依處と爲るは無依處を以て依處と爲すが故に。 切法に於て離るるに非ず即するに 非す相應 す る K

巻の第九十四

初分求般若品第二十七之六

1) 於て求むべからず、 若波羅蜜多は當に何に於て求むべきやとは、 色に非字無色に非字、 爾の時具壽善現、 からず。所以は何ん、 何を以ての故に、 しは般若波羅蜜多、 受想行識に於て求むべからず。色を離れて求むべからず、 復た天帝釋に告げて言はく、 憍尸迦、 有見に非ず無見に非ず、 若しは色、若とは受想行識、 菩薩摩訶薩所行の般若波羅蜜多は色に非
字受想行識に非
ず、 若しは求、 是の如き一 (a) 憍尸迦、 有對に非字無對に非字、 憍尸迦、汝先に問ひ 切皆相應するに非ず相應せざるに 菩薩摩訶薩行する所の般若波羅蜜多は色に 若しは離色、 若しは離受想行識、 し所の、 咸同一相にして所謂無相 受想行識を離れて求 菩薩摩訶薩所行 非ず、 若しは菩 雑色に の般 有 70

(a) 前巻と同意

【一】 以下般若は一法の中も一法を離れても求むべかも一法を離れても求むべか

(a)「憍尸迦菩薩摩訶薩所行殺若……是故菩薩摩訶薩所行殺若波羅愛多不應於色求不應此色求不應此色求不應此色求不應此性自文なり故に之を行数。 「他は皆同文なり故に之を行数。」 「他は皆同文なり故に之を行数。」 「他は皆同文なり故に之を行数。」 「他は皆同文なり故に之を行数。」 3

K

乃至諸受。自身界乃至諸受。自意界乃至諸受。自地界乃至識界。自苦聖諦乃至道聖諦。自無明乃至 老死愁軟苦憂惱。自內空乃至無性自性空。自眞如乃至不思議界。自布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a) 舌界

卷の第九十

初分求般若品第二十七之二

乃至識界。 不思議界。 f) 耳界乃至譜受。 行布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。竹四靜慮乃至四無色定。 (f)苦聖論乃至道聖論。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)內室乃至無性自性空。(f)真如乃至 (f) 鼻界乃至諸受。(f) 舌界乃至諸受。(f) 身界乃至諸受。(f) 意界乃至諸受。(f) 地界

(f)

前後と同意。

巻の第九十一

初分求般若品第二十七之三

菩薩摩訶薩・三藐三佛陀。 三摩地門。代預流乃至阿羅漢。代預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。代獨覺・獨覺向獨覺果。 佛の十力乃至十八佛不共法。①無忘失法・恒住捨性。①一切智乃至一切相智。① の八解脱乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。的空解脫門乃至無願解脫門。的五眼・六神通。 (f)菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。(f)聲聞乘乃至無上乘。 一切陀羅尼門· 切 (f)

卷の第九十二

初分求般若品第二十七之四

ても亦た相應するに非ず相應せざるに非す。如來は色法性に於て相應するに非ず相應せざるに非 非
す
相
應
せ
さる
に
非
す
。 受想行識法性に於ても亦た相應するに非す相應せざるに非す。如來真如は色に於て相應するに 如來は色に於て相應するに非
す相應せざるに非
す、受想行識に於
ても
亦た相應するに 如來は色真如に於て相應するに非ず相應せざるに非ず、受想行識真如に於

Ì

は、一幡尸麹如來於色非相應非不相應………於離受想行識不相應,不相應,不相應,不相應,不相應,不相應,

(f)

前後と同意。

迦 色法性 非 4 IC П 加 道 受想行識 K 中 非 す。 處法性得 如 非 r 來 如 來得 すっ 如 き 非 受 すっ 來真 す すっ (想行識 色真 K 非 0 0 E! 得可きに非ず。色を離れて真如如來真如得 0 ず、 得 非 中 中 色を 如 2) 可 來真 如 色法性 可 ず、 如 中 可きに 色 3 * 加 得可 來得 き 如 0 得 如 離 離れ rc F 來真 非ず、 K 如 受想行識 中 來得可きに非 離れ 可 46 非ず、 きに非 非方。 て如 0 如 得 可きに きに非す。 中受想行識 如 來眞如得可きに非ず、 可きに非 法性如 7 0 如 來真如得可きに非ず。色を 受想行識法性を離れて如 (f) 中受想 非ず、 すい 受想行識 來得可きに 0 中 來法性 橋尸迦、 ず、 色真 ず、 如 如 真如 來真如 來法性 行識得 如來の 法性 受想行 如 如 得可きに非ず、 得 非ず、 來の中色得可きに非ず、 色を離れ 0 の中 明き 得 可 中受想行職真如得可きに非 中如來得 の中色眞如得可きに非ず、 可きに 3 識 K 如 受想行識員 に非ず。 如 法性の中如來得 來法性 來真如 非 て如 非 ず。 來得可きに H 離れ 可きに非ず ず、 3 受想行識を 來得可きに非す、 色法性 色の 得 の中色得 に非ず、 て如來法性得 如 如 可 き 來法性の中受想行識得 中如來法性得 を離れて如 非ず。 0 K 미 、受想行識を離れ 非ず、 如來 離れ 可きに 受想行識の中如來得 中 きに非ず、 如 受想行識真如 すっ 來法性得 0 て法性如 色を離れ 可あに非ず、受想行識 非 受想行識を離れて如 中色真如得可き 來得可きに 如 來法性の ず、 色 可きに非ず、 如來の 法性 來法性 受想行識の中 て如來真 可 て眞如如 き 0 非ず。 K 中受想行識法性得 中受想行識法性 中如來得可 0 叫 非ず、 きに 中 可きに 得 加 如 如來法性 に非ず、 可 來真 來真如 きに 色法性 非 得可きに 非ず、 を離 來得 如 す。 如 來 來真 非 如 きに 色真 得 得 受想行識 す。 法 0 北上 本 可 非 非ず 性 中 加 得 如 ~ 4 印 可きに 離 來 可き きに 憍 色 得 ず、 如 IC 0 如 可 \$2 中 得 P 來 非 0 न 京 0

f 眼處乃至意處。f 色處乃至法處。f 眼界乃至諸受。

性可得」
「憍尸迦非雕色如來可得」

法

初分求般若品第二十七之十一八十二

.37

初分求般若品第二十七之一

説の中に於て求むべしと。時に天帝釋、善現に謂つて言はく、今尊者、 性如來得可きに非ず。 依の處に非ず、亦た所依無し。但だ世俗に 隨順せんが 爲に 施設して 依處と爲ると說くのみ。憍尸 げて言はく、憍尸迦、是の如し是の如く、汝の所說の如し。一切法は依處無し。是の故に如來は所 如何が舍利子の説く所の是れ如來の神力にして如來依處と爲りたまへりと言ふ可けんやと。 言はく、是れ 於て求むべきやと。舍利子言はく、憍尸迦・菩薩摩訶薩の 行ずる所の 般若波羅蜜多は當に善現の所 來真如の中無依處真如得可きに非す。無依處法性の中如來法性得可きに非す。如來法性の中無依。 依處と爲れるに非ずと。天帝釋言はく、是れ誰れの神力ぞ誰れか依處と爲れると。善現報 無依處を離れ一員如如來真如得可きに非す。 無依處を離れて如來得可きに非す。無依處を離れて真如如來得可きに非す。無依處を離れ の時天帝釋、舎利子に問ふて言はく、大徳、菩薩摩訶薩の行する所の般若波羅蜜多は當に何に 如來の 大徳依處と爲れるに非すとする耶と。善現告げて言はく、憍尸迦、此れ我が神力に非す、 中無依處真如得可きに非す。 の中如來得可きに非テ。 無依處の中如來真如得可きに非产。如來真 如來の神力、如來依處と爲りだまへりと。天帝釋言はく、大德、一切法は依處無し、 無依處を難れて如來真如得可きに非す。無依處を離れて如來法性得可きに非 如來法性の中無依處得可きに非す。 如來の中無依處得可きに非す。 無依處法性の中如來得可きに非ず。 無依處を離れて法性如來法性得可きに非す。 如の中無依處得可きに非ず。 無依處真如 無依處真如の中如 の中如來真如 舎利子の所説は將に大徳の 如來の中無依處法性得 得可きに非ず。 來得可きに非 無依處の中如 善現告 て法 我

を試く。を試く。

「二」 依處。これに二あり、 を示し無依止とするをいふ。 を示し無依止とするをいふ。 を示し無依止とするをいふ。 を示し無依止とするをいふ。 を示し無依止とするをいふ。 を示し無依止とするをいふ。 ですっている。 ですっている。 をする。 The state of the s

7.

乃至道聖諦。@無明乃至老死愁歎苦憂惱。@內空乃至無性自性空。@真如乃至不思議界。@布施波 (e) 鼻界乃至諸受。(e) 舌界乃至諸受。(e) 身界乃至諸受。(e) 意界乃至諸受。(e) 地界乃至識界。(e) 苦聖諦 (e) @ 室解脱門乃至無願解脫門。 @ 五眼·六神通。 @ 佛の十力乃至十八佛不共法。@ 無忘失法·恒住捨性 羅蜜多乃至般若波羅蜜多。e四靜慮乃至四無色定。e八解脫乃至十遍處。e四念住乃至八聖道支。 菩提。() 聲聞乘乃至無上乘。 阿羅漢向阿羅漢果。@獨覺•獨覺向獨覺果。@菩薩摩訶薩•三藐三佛陀。@菩薩摩訶薩法• 無上正等 切智乃至一切相智。e)一切陀羅尼門·一切三摩地門。e)預流乃至阿羅漢。e)預流向預流果乃至

多を學して、則ち能く一切智智を成辦す。學する所無く成辦する所無きを以て方便と爲すが故に。 しは取若しは捨若しは染若しは淨若しは集若しは散若しは增若しは減を見ずして而かも般若波羅蜜 是の如く舍利子、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時,一切法に於て若しは生若しは滅若

STATE OF THE PARTY OF THE PARTY

切智智を成辦すと。 佛陀。 **ず、亦た能く攝受し及び壊滅する者有るを見ずして般若波羅蜜多を學せば是の菩薩摩訶薩は能く一** 乃至阿羅漢。 (付菩薩摩訶薩法・無上正等菩提。は)聲聞乘乃至無上乘。是れ攝受す可く及び壞滅せらる」を見 (d) d預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。dgg·獨覺向獨覺果。 無忘失法·恆住捨性。 (d)一切智乃至一切相智。(d) 一切陀羅尼門·一 (d)菩薩摩訶薩•三藐三 切三摩地門。 (d) 頂 流

辨す。 門時に舎利子、善現に向ふて言はく、菩薩摩訶薩、是の如く般若波羅蜜多を學せば能く一 若しは集若しは散を見ず、受想行識の若しは集若しは散を見ず。色の若しは増若しは減を見ず、受 成辦する耶と。善現答へて言はく、菩薩摩訶薩、是の如く般若波羅蜜多を學せば能く一 舎利子、是の菩薩摩訶薩、是の如く般若波羅蜜多を學せば能く一切智智を成瓣す、學する所無く成 想行識の若しは增若しは減を見ず。何を以ての故に、色蘊性等空無所有不可得なるを以ての故なり。 しは取若しは捨を見ず。色の若しは染若しは浮を見ず、受想行識の若しは染若しは浮を見す。 しは滅を見ず、受想行識の若しは生若しは滅を見ず。色の若しは取若しは捨を見ず,受想行識 朝するやと。 調する所無きを以て方便と爲すが故に。 切法に於て攝受壞滅せられずして而かも方便して學するが故なりと。合利子言はく、 善現言はく、(自合利子、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、色の若 一切法に於て攝受壞滅せられずして而かも方便して學せば、云何が能く一切智智を成 切智智を成 切智智を しは生若 0

(色眼處乃至意處。色色處乃至法處。(色眼界乃至諸受。(色耳界乃至諸受。

巻の第八十九

初分學般若品第二十六之五

(e)「含利子是菩薩摩訶薩行殺不見受想行識若生若滅……以無所學無所成辦為方便故」 た次下に出す諸法を代入せば に次下に出す諸法を代入せば に大下に出す諸法を代入せば に大下に出す諸法を代入せば にたでもし以下その諸法のみ

乃至諸受。 创真如乃至不思議界。d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。d)四靜慮乃至四無色定。d)八解脫乃至十 (c)五眼·六神通。 老死愁歎苦憂惱。ⓒ內室乃至無性自性空。 ©四靜慮乃至四無色定。©八解脫乃至十遍處。 一切陀羅尼門・ 界乃至諸受。付耳界乃至諸受。付身界乃至諸受。付舌界乃至諸受。 ©眼處乃至意處。ⓒ色處乃至法處。ⓒ眼界乃至諸受。◎耳界乃至諸受。◎鼻界乃至諸受。◎ 舍利子、 (d)地界乃至識界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)無明乃至死愁歎苦憂惱。 他四念住乃至八聖道支。 (c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。 若し菩薩摩訶薩、 (c)菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。 (で佛の十力乃至十八佛不共法。 切三摩地門。 (1)色に於て、受想行識に於て、(1)眼處乃至意處。(1)色處乃至法處。 (色預流乃至阿羅漢。(色預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 d空解脫門乃至無願解脫門。 (C)真如乃至不思議界。(O)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (c) 菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 (e)四念件乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願 (e)無忘失法·恆住捨性。(c)一切智乃至 (d) 近眼・ d)身界乃至諸受。d)意界乃至 六神通。 (d)內容乃至無性自性空。 () 舉聞乘乃至無上乘。 (d) 佛の (c) 無明乃至 切相智。 力乃至十八 (c) 獨覺 解脫門。 (c) 舌界 (d) (c)

(の)「舎利子」の三字を「菩薩摩部薩如是學時………以色蘊 等若能若所內外俱空不可得故」 に加へ「色乃至識」の所に大下 に出す諸法を代人せば他は皆 同じき故之を符號(の)にて略し

(35

諸法を略出するのみとす。 右の内「於」の一字を略し以

七五

(d) 切陀羅尼門。 五眼·六 輔 通。 (d) 菩薩摩訶薩·二 切三 (d) 佛 0 地 + 門。 力乃至十八佛不共法。 (d) 预 藐三佛 陀。 流乃至阿羅漢。 d 菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 (d) (d) 無忘失法·恒 預流向預流果乃 住 捨性。 至阿羅漢向阿羅漢果。 (d) 切智乃 d聲聞乘乃至無上乘。 至 切 相 (d) 獨覺・ (d)

の第八十八

初分學般若品第二十六之四

せられざるが故に學し、 て言はく、 (a) 是の如 受想行識に攝受壊滅せられさるが故に學す し是の如し、 舍利子、 菩薩摩訶薩は是の如く學する時、 るなり。 色に攝

(a) (a)四靜慮乃至四無色定。 老死愁歎苦憂惱。 乃至諸受。 切陀 五眼·六神通。 度乃至意處。(a) 羅尼門・一 獨覺果。自菩薩摩訶薩:二 (a) 身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。 切三摩地門。 a)佛の十力乃至十八佛不共法。 (2) 內室乃至無性自性空。 色處乃至法處。 (a) 預流乃至阿羅漢。 二藐三佛陀。a)菩薩摩訶薩·法無上正等菩提。 (1) 服界乃至諸受。(1) 耳界乃至諸受。(1) 鼻界乃至諸受。 (1) 真如乃至不思議界。(1) 布施波羅蜜多乃至散若波羅蜜多 (a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願 (a) 地界乃至識界。 (a)無忘失法·恒住捨性。 (a) · 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (a) 苦聖 (a) 諦乃至道聖諦。 (a) 聲聞乘乃至無上 切智乃至 切 (a) 相智。 無明 (a) 解脫門。 (a) 獨 乃至 舌界 (a)

せら 時に舍利子、 處乃至意處。 さるが故に學し、 善現に問うて言はく、 受想行識に 攝受壞滅 的眼界乃至諸受。 (b) 何 に綴りて菩薩摩訶薩は是の如く學す せられざるが故 (b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b) に學するや。 る時、 色に攝受壊滅 舌界乃色

(b)

身界乃至諸受。

意界乃至諸受。

(b)

地界乃至識界。

(b)

· 苦聖諦乃至道

聖部。

(b)

無明乃至老

(b)

色處乃至法處。

的內容乃至無性自性室。

b真如乃至不思議界。

(b)

布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多

「如是如是舍利子……

故に之を符號して略しその出す諸法を代入して得るなり 法のみ略担するものとす。

(b) 切陀羅尼門・ 五眼·六神通。 (c) 橋戶 故に學せさらん、 迦 に攝受壊滅せられさるが故に學するなり。 的菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。 し菩薩摩訶薩、 (b)佛の十力乃至十八佛不共法。 切三摩地門。 二分無きが故に。 (b) 色の増減の爲の故に學せざらん、二分無きが故に。 預流乃至阿羅漢。 是の菩薩摩訶薩は色に攝受壞滅せられさるが故に學 b善薩摩訶薩法·無上正等菩提。 (b)無忘失法·恆住捨性。 (b) 何を以ての故 預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 15 色蘊等二分無きを以て (b) 一切智乃至 (b) 聲聞乘乃至無上乘。 受想行識 切相智。 (b) 0 0 獨覺・ 增減 故 ١ (b)

獨覺向 乃至諸受。心身界乃至諸受。 れざるが故に學し、受想行識 (c) 五眼·六神通 (c) 老死愁歎苦憂惱。 切陀羅尼門· **加靜慮乃至叫無色定。** 時に舍利子、 III 處乃至 獨覺果。 善現に問うて言はく、 (c) 菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。 切三摩地門。 の佛の十力乃至十八佛不共法。 (0)內容乃至無性自性空。 (c) 色處乃至法處。 (C)八解脫乃至十遍處。 (c) 意界乃至諸受。 に攝受壊滅せられざるが故に學する耶 (c) 預流乃至阿羅漢。 (d)善現、 (c) IR 界乃至諸受。()耳界乃至諸受。 (0)真如乃至不思議界。(0)布施波羅蜜多乃至般若波 (c) 菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 菩薩摩訶薩は是の如く學 (6)地界乃至識界。(6)苦聖諦乃 (e)四念住乃至八聖道支。(e) 空解脫門乃至無願解脫門。 (c) 無忘失法·恒住捨性。 ()預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (c)一切智乃至 する時、 (0) 鼻界乃至諸 (3) 聲聞 至道聖部 色に攝受壞滅 乘乃至無上 切相智。 受。 (c) 無明乃 (c) 獨覺 (c) 舌界 乘。 せら (c)

老死愁歎苦憂悯。 M 靜慮乃至四無色定。 處乃至意處。 (d) 身界乃至諧受。 d內容乃至無性自性容。 (d) 色處乃至法處。 (d) 八解脫乃至十 (d) 意界乃至諸受。 (d) 眼界乃至諸受。 温處。 d真如乃至不思議界。d布施波羅蜜多乃至般若波 (d) (d)地界乃至識界。 四念住乃至八聖道支。由室解脫門乃至 (d) 耳界乃至諸受。 (d)苦聖諦乃五 (d) 鼻界乃至諸受。 至道聖確。 (d) 無明乃至 (d) 舌界

> 二分故」 以色蕴等 色智減故學……以色蕴等

略出す但し「色蘊」の「蘊」の他は皆同文なり故に之を符 他は皆同文なり故に之を符號に大下に出す諸法を代入せば は之を除法するも にて略し以下その諸法のみ

法によりて以下略出するもの右の文も心の場合に同じき方右の文も心の場合に同じき方

初分學般若品第二十六之三

(d)

訶薩·三藐三佛陀。 g預流乃至阿羅漢。 ⑤菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 ⑤預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 g聲聞乘乃至無上乘。 (g) 獨覺· 獨覺向獨覺果。

巻の第八十七

初分學般若品第二十六之三

思議清淨の佛法を學するなり。何を以ての故に、二分無きが故なり。 精進・靜慮・般若波羅蜜多に於て學せん、二分無きが故に。是の菩薩摩訶薩、能く無量無數無邊不可 (8) 憍尸迦、 **港し菩薩摩訶薩、能く布施波羅蜜多に於て學せん、二分無きが故に。能く淨戒・安然・**

十力乃至十八佛不共法。 (4) 無志失法・恒住捨性。 (4) 一切智乃至一切相智。 (4) 一切陀羅尼門・一切三摩 八解脫乃至十遍處。(1)四念住乃至八聖道支。(1) 室解脫門乃至無顯解脫門。(1) 五眼・六神通。 摩訶薩·三藐三佛陀。⑷菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。⑷聲聞乘乃至無上乘。 地門。(1)預流乃至阿羅漢。(1)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(1)獨覺·獨覺向獨覺果。(1)菩薩 (a)內空乃至無性自性空。(a)真如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a) (a) 佛の

を以ての故なり。 色の増減の爲の故に學せす。受想行識の増減の爲の故に學せず。何を以ての故に、色蘊等二分無き 的橋戸迦、若し菩薩摩訶薩、能く無量無數無邊不可思議清淨の佛法を學せば、是の菩薩摩訶薩は

的四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。的空解脫門乃至無顯解脫門。 乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。的地界乃至識界。的苦聖諦乃至道聖諦。 老死愁歎苦憂惱。山內空乃至無性自性空。山眞如乃至不思議界。山布施波羅蜜多乃至般若波 的眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的身界乃至諸受。 b無明乃至 b舌界

> (a)「幡戸迦若菩薩摩訶薩能於 布施波羅蜜多學………何以故 無二分故」

法によりて以下略出す。

(b)「憍尸迦者菩薩摩訶薩…… 以下皆右の女に等しき故之れ を符號(b)にて略しほだ異れる を符號(b)にて略しほだ異れる

ff 無明乃至老死愁歎苦憂惱。ff 內室乃至無性自性空。 聞乘乃至無上乘。 若波羅蜜多。 羅漢果。 至無願解脫門。 受。的舌界乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。的地界乃至職界。 無きが故に。 (e) (e)四靜慮乃至四無色定。 獨覺向 (d) 切陀羅尼門・一 五眼·六神通。 切 憍尸 相 獨覺果。 (f) 迦、 智。 獨覺·獨覺向獨覺果。氏菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。 (e)身界乃至諸受。 (f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖道支。 (f) 眼 (f) 若し菩薩摩訶薩、 f 五眼·六神通。 (e)菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。(e)菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 切三摩地門。 e佛の十力乃至十八佛不共法。 切陀羅尼門・ 處乃至意處。 (e)內室乃至無性自性空。 (e)真如乃至不思議界。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (e)八解脫乃至十遍處。 (e) 意界乃至諸受。 (色)预流乃至阿羅漢。 f)色處乃至法處。(f) 色空に於て學せん、二分無きが故に、 (1)佛の十力乃至十八佛不共法。(1)無志失法・恆住捨性。 切三摩地門。的預流乃至阿羅漢。 (e四念住乃至八聖道支。(e室解脫門乃至無願解脫門。 (6)地界乃至識界。(6)苦聖諦乃至道聖諦。 (e)無忘失法·恆住捨性。(e)一切智乃至 (e)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 限界乃至諸受。f) 耳界乃至諸受。f) 鼻界乃至諸 f真如乃至不思議界。 f 菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 f) 預流向預流果乃至阿 受想行識に於て學せん、二分 氏布施波羅蜜多乃至般 (方苦聖諦乃至道聖諦。 (e) 聲聞乘乃至無上 f) 空解脱門乃 (f) — 切相智。 (e) 無明乃至 羅漢向阿 (e) 獨覺 切智乃 (f) 學 e)

蜜多に於て學するなり。 g情尸迦、 是の 菩薩摩訶薩は能く布施波羅蜜多に於て學し、能く淨戒・安忍・精進・靜慮・般若波羅 何 を以 ての故に、 二分無きが故なり。

八解脫乃至十 g內空乃至無性自性空。 遍處。 佛不共法。 g川念住乃至八聖道支。 g無忘失法·恆住捨性。 g真如乃至不思議界。 g空解脫門乃至 g) 一切智乃至 g苦聖諦乃至道聖諦。 切 相智。 脱門。 g四靜慮乃至四無色定。 (g) (g) 五眼· 切陀羅尼門· 六神通 切三 (g) 佛 (g) 0

四「憍尸如是菩薩摩訶 薩能の「憍尸如是菩薩摩訶 薩能」 一致者波羅蜜多」に相應する で略するの如く「布施乃 で略するのかとす。

三

る可 미 受想行識を見さるが故に愛想行識に於て學せざるなり。 空の故に菩薩 らず、 からず、 受想行識空は受想行識空に於て學丁可からざるが故なり。 受想行識空は受想行識空を見る可からさるが故なり。 は受想行識を見ず。 憍尸迦、 菩薩摩訶薩、 何を以ての故に、 色を見ざるが故に色に於で學せず、 憍尸 迦、 憍尸迦、 色空は色空に於て學す 色空は色空を見

(d) all. 處乃至意處。(d) (d) 身界乃至諸受。 色處乃至法處。 (d) 意界乃至諸受。 (d) 眼界乃至諸受。 (d) 地界乃至識界。 (d) 耳界乃至諸受。 (d) 鼻界乃至諸受。 (d) 舌界

巻の第八十六

初分學般若品第二十六之二

(d) 苦聖緒 流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 無上正等菩提。 (d) (d) 乃3 解脫門乃至無願解脫門。 多乃至般若波羅蜜多。 至道聖諦。 一切智乃至 一 (f) 聲聞乘乃至無上乘。 (d) 切相智。 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 d獨覺·獨覺向獨覺果。 (d) (d) (d) 四靜慮乃至四 一切陀羅尼門。 五眼·六神通。 無色定。d 內容乃至無性自性空。 一切三摩地門。 は佛の十カ乃至十八佛不共法。 (d)菩薩摩訶薩· 八解脫乃至十遍處。 (d)預流乃至阿羅漢。 三藐三佛陀。 (d) 眞如 (d) 乃至不思議界。 (d) 菩薩 四念住乃至 (d) 無忘失法·恆 d預流向 摩訶薩法 TO 聖 (d)

學せずんば、 ての故に、二分無きが故なり。 一分無きが故なり。 是の菩薩 し菩薩摩訶薩、 摩 訶薩は色空に於て學すと爲し、 空に於て學せずんば、 (e)橋尸迦、 若し菩薩摩訶薩、 是の菩薩摩訶薩は空に於て學すと爲す。 受想行識室に於て學すと爲す。 色空に於て學せず、 受想行識空に於て 何を以 何を以 7

(e) (e) 色處乃至法處。 (e)眼界乃至諸受。 (e) 耳界乃至諸受。 (e) 鼻界乃至諸受。

(d)「憍尸迦色色性空………不可受想行識空於受想行識空於受想行識空於受想行識空於可能に之を符號(d)にて略し以下その諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を容號(d)にて略し以下その諸法を略出するのみとす。

(d) 前巻と同意。

(e) 舌界

蜜多を學すべし。(情尸迦、菩薩摩訶薩は是の如く學する時、色に於て學せず、受想行識に於て學 せざるなり。 の中に於て學す可きを見ざるが故なり。 何を以ての故に、憍尸迦、 是の菩薩摩訶薩は色の中に於て學す可きを見ず、受想行識

智。(c)一切陀羅尼門· 蜜多。 (C四靜慮乃至四無色定。 (C)八解脫乃至十遍處。 (C四念住乃至八聖道支。 (C) 空解脫門乃至無願解 乃至老死愁歎苦憂惱。心內空乃至無性自性空。心真如乃至不思議界。 舌界乃至諸受。(6)身界乃至諸受。(6)意界乃至諸受。(6)地界乃至識界。(6)苦聖諦乃至道聖諦。(6)無明 的四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十湯處。的四念住乃至八室道支。的空解脫門乃至無願解脫門。 乘無上乘。 脫門。五眼· るや。②眼處乃至意處。②色處乃至法處。②眼界乃至諸受。②耳界乃至諸受。②鼻界乃至諸受。② (b) 五眼·六神通。 老死愁數苦變惱。的內空乃至無性自性空。的真如乃至不思議界。的布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多 乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。的地界乃至識界。的苦聖諦乃至道聖諦。的無明乃至 獨覺向獨覺果。心菩薩摩訶薩・三藐三佛陀。心菩薩摩訶薩法・無上正等菩提。心聲聞乘獨覺乘無上乘 切陀羅尼門・一切三摩地門。的預流乃至阿羅漢。的預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。的獨覺・ 時に天帝釋、善現に問うて言はく、心大德、何に緣りて菩薩摩訶薩は色を見ず、受想行識を見ざ 、眼處乃至意處。的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的舌界 六神通。 b)佛の十力乃至十八佛不共法。b)無忘失法·恒住捨性。b)一切智乃至一切相智。b) 一切三摩地門。((預流乃至阿羅漢。()預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。 (c)佛の十力乃至十八佛不共法。 (c)無忘失法・恒住捨性。 (c)一切智乃至一切相 (c)菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。(c)菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。(c)聲聞乘獨覺 () 布施波羅蜜多乃至般若波羅

善現答へに言はく、は憍尸迦、 色は色性空の故に菩薩摩訶薩は色を見す、受想行識は受想行識性

5分學般若品第二十六之十分 ラッパー

(b) 「橋戸迦菩薩摩訶薩……不見受思行識可於中學故院(b)にて略し以下その諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法を明めたて略し以下その諸法を明めたて略し以下をの諸法を

巻の第八十五

初分學般若品第二十六之一

等の法に於て假名を壞せずして而かも法性を說くやと。佛、自情尸迦に告げたまはく、 せずして而かも色等の法性を説く。所以は何ん、色等の法性は壞無く不壞無し。是の故に善現の所 名、受想行識は但だ假名のみ。是の如き假名は法性を離れず。具籌善現は是の如き色等の假名を遠 深にして假名を壞せずして而かも法性を說くと。時に天帝釋即ち佛に白して言さく、 も亦た壌無く不壌無し。 時に天帝釋心に是の念を生ず、尊者善現は智慧甚深にして 假名を壊せずして而かも法性を說く 佛其の心を知ろしめし便ち彼れに印して言はく、憍尸迦の心の所念の如く、具壽善現の智慧其 尊者善現は何 色は但だ假

乃至諸受。(4)身界乃至諸受。(4)意界乃至諸受。(4)地界乃至識界。(4)苦聖諦乃至道聖諦。(4)無明乃至 獨覺向獨覺果。(a)菩薩摩訶薩•三藐三佛陀。(a)菩薩摩訶薩法• 無上正等菩提。 (a) 五眼·六神通。 (3)四靜慮乃至四無色定。(3)八解脫乃至十遍處。(4)四念住乃至八聖道支。(4)空解脫門乃至無願解脫門。 老死愁歎苦憂惱。自內空乃至無性自性空。自眞如乃至不思議界。自布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 切陀羅尼門· 情尸迦·具壽善現は是の如き法に於て假名を壞せずして而かも法性を說くと。 、眼處乃至意處。自色處乃至法處。自眼界乃至諸受。自耳界乃至諸受。自身界乃至諸受。自舌界 一切三摩地門。(1)預流乃至阿羅漢。(1)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(1)獨覺。 (1)佛の十力乃至十八佛不共法。 (1)無忘失法・恒住捨性。 (1)一切智乃至一切相智。 (1) a聲聞乘獨党乘無上

は假名に非ざる無し。憍尸迦、菩薩摩訶薩は一切法は但だ假名のみなりと知り已つて應に般若波羅 具籌善現、帝釋に語つて言はく、憍尸迦、是の如し是の如し佛の說きたまふ所の如く諸の所有法

(k)四靜慮乃至四無色定。(k)八解脫乃至十遍處。(k)四念住乃至八聖道支。(k)空解脫門乃至無願解脫門。老死愁歎苦憂惱。(k)內空乃至無性自性空。(k)真如乃至不思議界。(k)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 乃至諸受。以身界乃至諸受。以意界乃至諸受。以地界乃至識界。以苦聖諦乃至道聖諦。以無明乃至 は五眼・六神通。は佛の十力乃至十八佛不共法。は無忘失法・恒住捨性。は一切智乃至一切相智。は 獨覺向獨覺果。以菩薩摩訶薩·三藐三佛陀。以菩薩摩訶薩·無上正等菩提。以聲聞乘乃至無上乘。 一切陀羅尼們,一切三摩地門。以預流乃至阿羅漢。以預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。以獨覺, (k) 、眼處乃至意處。以色慮乃至法處。以眼界乃至諸受。以耳界乃至諸受。以鼻界乃至諸受。以舌界

初分散花品第二十五

奉り、 見ず、 く、今尊者善現は佛の神力を承け一切有情の爲に大法雨を雨らさんとす。我れ等今者供養せんが爲 **遍淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁大・無熱天・善現天・善見天・色空竟天、咸是の念を作さ** 化自在天·梵衆天·梵補天·梵會天·大梵天·光天·少光天·無量光天。極光淨天·淨天·少淨天·無量淨天· 則ち受想行識に非ず。 の散する所の華は實に草木の水陸に生する所に非ず、亦た心よりは質に能く化生せず、 具壽善現、 滿せり。 各種種微妙の香花を化し如來諸の菩薩等に散じ率る。是の時此の三千大千佛の世界に於て花悉く充 の故に、宜しく各天の諸の妙華を化作し、釋迦如來及び菩薩摩訶薩並びに茲獨僧、 亦た不生なり。 はく、但だ是の花のみ不生なるに非ず、 善現に問ふて言はく、 るのみと。 に心より化出せるなるべしと。時に天帝釋、 爾の時天帝釋及び此の三千六千世界の 亦た所説の甚深般若波羅蜜多に散じ、爲に供養すべしと。時に諸の天衆是の念を作し已つて 是の花殊妙なり、 佛の神力を以て虚空の中に於て合して花臺と成り、莊嚴殊妙にして三千大千世界に逼複す。 具籌善現、帝釋に語つて言はく、是の花不生なれば則ち花に非さるなりと。 斯の事を観己つて是の念言を作さく、今散ずる所の花は諸天の處に於て未だ曾て有るを 此れ既に不生なれば則ち色に非ず、 但だ是の花のみ不生と爲すや、餘法も亦た爾なりと爲すやと。 何を以ての故に、不生法は諸の戯論を離るるを以て施設して色等と爲す可か 定めて草木の水陸に生ずる所には非ず、 諸の餘法も亦た爾なり。 所有四大王衆天·三十三天·夜摩天·覩史多天·樂變化天·他 既に善現の心の所念を知り、 受想行識も亦た不生なり、 何すれぞ謂ふや。は憍尸迦、 應に是れ諸天の供養せんが爲の故 善現に謂つて言はく、 此れ既に不生なれ 算者善現に散じ 善現答へ 時に天帝釋、 但だ變現な て言

法不生なるを說()。

骶尸迦色亦不生……不

功德勝事を攝受するを廣說す。所謂菩薩摩訶薩は此の般若波羅蜜多に於て勤め修行するが故に、所 性自性空に由るが故に此の般若波羅蜜多甚深の教中に於て無所得を以て方便と爲し、菩薩摩訶薩の **辯・應辯、凡て演説する所豊かなる義味の辯、一切世間最妙勝の辯を得るなり。舍利子、外空乃至無** 廢せず、恒に勝定に居して鄧心を離散し、此の緣を爲すに由りて、無礙辯・斷盡無き辯・謬亂無き辯・迅 佛土より一佛土に趣き諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し、願樂する所に隨ひて種種の善根皆能く修習 於て勤め修行するが故に所生の處に隨ひて常に化生を受け、 乃至一切三糜地門なり。舎利子、内空に由るが故に此の般若波羅蜜多甚深の教中に於て無所得を以 至八聖道支、若しは室解瞼門乃至無願解脫門、若しは五眼・六神通若しは佛の十力乃至十八佛不共命 若しは苦聖諦乃至道聖諦、若しは四靜慮乃至四無色定、若しは八解脫、乃至十遍處若しは四念住乃 法の所謂聲聞・獨覺・無上乘の法を廣說す。含利子、內室に由るか故に此の般若波羅蜜多甚深の教中 外室乃至無性自性室に由るが故に此の般若波蜜多張深の教中に於て無所得を以で方便と爲し、三乘金 湛深の教中に於て無所得を以て方便と爲し、三乘法の所謂聲聞・獨覺・無上乘の法を廣說す。舍利子、 して圓滿するを得、諸佛より聞持する所の正法は乃ち無上正等菩提に至るまで能く忘失せず亦た懈 て方便と爲し、菩薩摩訶薩の功德勝事を攝受するを廣說す。所謂菩薩摩訶薩は此の般若波羅蜜多に 便と爲し、菩薩摩訶薩の初發心より乃至十地の諸の菩薩道を攝受するを膺說す。 に於て無所得を以て方便と爲し、菩薩摩訶薩の 初發心より 乃至十地の 諸の菩薩道を 攝受すと廣 處に隨ひて常に化生を受け乃至 若しは無忘失法・恒住捨性、若しは一切智乃至一切相智若しは一切陀羅尼門・一切三摩地門な 所謂布施波羅蜜多川至般若波羅蜜多、若しは內空乃至無性自性空、若しは真如乃至不思議界、 舎利子、外室乃至無性自性空に由るが故に此の般若波羅蜜多甚深の教中に於て無所得を以て方 一切世間最妙勝の辯を得るなりと。 不退神通に於て能く自在に遊戲

温堤。 (i) 員如乃至不思議界。(i) 布施波羅蜜多乃至般著波羅蜜多。(i) 四轉慮乃至四無色定。(i) 八解脫乃至 受。(j)地界乃至識界。(j)苦聖諦乃至道聖諦。(j)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(j)內室乃至無性自性空。 界乃至諸受。①耳界乃至諸受。①鼻界乃至諸受。①舌界乃至諸受。①身界乃至諸受。①意界乃至諸 佛不共法。()無忘失法·恒住捨性。()一切陀羅尼門·一切三摩地門。()一切智乃至一切相智。 知者・見者に於て、無所得を以て方便と質し。①色乃至識。①眼處乃至意處。①色處乃至法處。①眼 於て無所得を以て方便と爲し、 言はく、 菩薩摩訶薩は此の般若波羅蜜多に於て勤め修行するが故に所生の處に隨ひて常に化生を受け乃至 法雲地法。 い菩薩摩訶薩・三藐三佛陀。 采乃至無上乘。 ①四念住乃至八聖道支。①空解脫門乃至無顧解脫門。①五眼・六神通。①佛の十カ乃至十八 此れは何の法に於て無所得を以て方便と爲せる耶と。善現言はく、い舍利子、 ()異生地乃至如來地。 一勝の (j)預流乃至阿羅漢。 辯を得るなり。 ()菩薩摩訶薩法·無上正等菩提。 此れは有情。命者。生者・養者・士夫・補特伽羅・意生・儒童・作者・受者・ 是の如き深教の諸の所說有るは無所得を以て方便と爲すと。 ()異生地法乃至如來地法。 ()預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。()獨覺·獨覺向獨覺果。 ()極喜地乃至法雲地。()極喜地法乃 此れは我に

以て方便と爲して三乘法の所謂聲聞獨覺無上乘の法を廣說するや。何の因緣の故に、此の般若波羅蜜 受するを廣説するや。 多差深の教中に於て無所得を以て方便と爲して菩薩摩訶薩の初發心より乃至十地の諸の菩薩道を攝 蜜多甚深の教中に於て無所得を以て方便と爲して菩薩摩訶薩の功德勝事を擴受するを廣說するや。 時に舎利子、善現に問ふて言はく、何の因緣の故に、此の般若波羅蜜多甚深の教中に於て無所得を 謂菩薩摩訶薩は此の般若波羅蜜多に於て勤め修行するが故に、所生の處に隨ひて常に化生を受け、 一切世間最妙勝の辯を得と。警現答へて言はく、含利子、內室に由るが故に此の般若波羅蜜多 所謂布施波羅蜜多乃至一切三摩地門なりと。何の因緣の故に、 此の般若波羅

(j) 「含利子此 於我……知 者 見者以無所得而爲方便」 右の文中「我乃至見者」の所 に以下に出す諸法を代入せば 他は皆同なり故に之を符號(j) にて略し以下その諸法を略出 するのみとす。 説す。所謂布施波羅蜜多乃至一切三摩地門なり。菩薩摩訶薩の功德勝事を攝受するを廣說す。所謂 所謂聲聞・獨覺・無上乘の法を廣說し、菩薩摩訶薩の初發心より乃至 佛土より一佛土に趣き諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し、願樂する所に隨ひて種種の善根皆能く修習 於て勤め修行するが故に、所生の處に隨ひて常に化生を受け、不退神通に於て能く自在に遊戯し、一 三摩地門なり。菩薩摩訶薩の功德勝事を攝受するを廣說す。所謂菩薩摩訶薩は此の般若波羅蜜多に 八佛不共法、若しは無忘失法・恒住捨性、若しは一切智乃至一切相智、若しは一切陀羅尼門・一切 議界、若しは苦聖諦乃至道聖諦、若しは四靜慮乃至四無道定、若しは八解脫乃至十遍處。若しは四議界、若しは古歌節乃至道聖諦、若しは四靜慮乃至四無道定、若しは八解脫乃至十遍處。若しは四 へて言はく、是の如し是の如し、誠に所説の如し。此の般若波羅蜜多甚深の教中に於ては三乘法の た懈廢無く、恒に勝定に居して亂心を離散し、此の緣を爲すに由りて無礙辯、斷盡無き辯、 して速に圓滿するを得、諸佛より聞持する所の正法は乃ち無上正等菩提に至るまで能く忘失せず亦 念住乃至八聖道支、若しは空解脱門乃至無願解脱門、若しは五眼・六神通、若しは佛の十力乃至十念住乃至八聖道支、若しは空解脱門乃至無願解脫門、若しは五眼・六神通、若しは佛の十力乃至十 を廣說す。所謂布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多、若しは內空乃至無性自性空、若しは真如乃至不思 聞・獨覺・無上乘の法を廣說せさらんや。菩薩摩訶薩の初發心より乃至十地の諸の菩薩道を攝受する 時に舍利子、善現に問ふて言はく、豈に此の 應辯、凡て演説する所豐かなる義味の辯、一切世間最妙勝の辯を得るなりと。 般若波羅蜜多の甚深の教中に於て三乘法の所謂聲 十地の諸の菩薩道を攝受すを廣

三乗法の廣説。

を以て遠離不遠離を分別せず。遠離不遠離を以て受想行識を分別せず、亦た受想行識を以て遠離不 を分別せず、亦た受想行識を以て寂靜不寂靜を分別せず。遠離不遠離を以て色を分別せず、亦た色 寂靜不寂靜を以て色を分別せず、亦た色を以て寂靜不寂靜を分別せず。寂靜不寂靜を以て受想行識 て滅不滅を分別せず。 を分別せさればなり。 滅不滅を以て受想行識を分別せず、亦た受想行識を以て滅不滅を分別せず。

老死愁歎苦憂惱。①內容乃至無性自性空。①真如乃至不思識界。 乃至諸受。(1)身界乃至諸受。(1)意界乃至諸受。(1)地界乃至識界。(1)苦聖諦乃至道聖諦。(1)無明乃至 ①眼處乃至意處。①色處乃至法處。①眼界乃至諸受。①耳界乃至諸受。①鼻界乃至諸受。①舌界層を分別せさればなり。

THE REAL PROPERTY.

OF REAL PROPERTY.

CLADINY

巻の第八十三

SAN THE PARTY OF T

初分受教品第二十四之二

法·恒住捨性。(i)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(i)一切智乃至一切相智。(i)聲聞乘乃至無上乘。(i) 藐三佛陀。() 菩薩摩訶薩・無上正等菩提。() 極喜地乃至法雲地。 預流乃至阿羅漢。(i)預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。(i)獨覺·獨覺向獨覺果。(i)菩薩摩訶薩·三 八聖道支。①空解脫門乃至無願解脫門。①五眼・六神通。①佛の十力乃至十八佛不共法。①無忘失 (1) 布施沒羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(1)四靜慮乃至四無色定。(1) 八解脫乃至十遍處。(1)四念住乃至

巻の第八十四

初分受教品第二十四之三

極喜地法乃至法雲地法。①異生地乃至如來地。①異生地法乃至如來地法。①有爲界・無爲界。

(i) 前巻と同意。

THE REAL PROPERTY.

(i)

THE THE

7

せず、 佛の所に於て親近供養し弘誓願を發し、衆の善本を殖ゑ利根聰慧にして諸の善知識に攝受せらるる 行職を分別せず、 亦た色を以て有願無願 岩波羅蜜多に於て亦た能(信受す。何を以ての故に、⑴是の如き人等は終に空不空を以て色を分別 者は此の甚深にして見難く覺り難く尋思せらるるに非ず尋思の境を超えたる微妙寂靜岐勝第一の般 於て能く深く信受す。 誰れか能く信受せんやと。 無願を分別せず。 て受想行識を分別せず、亦た受想行識を以て有相無相を分別せず。有願無願を以て色を分別せず、 不空を分別せず。 若波羅蜜多に於て亦た能く信受す。復た善男子善女人等有りて已に過去無量無數百千俱膨那庾多の して見難く受り難く、 多は是の如く甚深にして見難く覺り難く尋思せらるるに非す尋思の境も超え、微妙寂靜最勝第 の諸大聲聞 爾の時具壽舎利子、 唯だ極聖の者のみ自ら内に證する所、 亦た色を以て空不空を分別せず。空不空を以て受想行識を分別せず、亦た受想行識を以て空 及び無量百千の菩薩摩訶薩、 生不生を以て色を分別せず、 有相無相を以て色を分別せず、亦た色を以て有相無相を分別せず。 亦た受想行識を以て生不生を分別せず。滅不滅を以て色を分別せず、亦た色を以 復た已に聖諦を見たる及び を分別せず。 零思せらるるに非す

零思の境を超えたる

微妙寂靜最勝第一 具壽、大月連·具壽 善現答へて言はく、菩薩摩訶薩の不退轉地に住する有らば、 有願無願を以て受想行識を分別せず、 同時に聲を擧げ 執大藏·具諦 世の聴慧の人の測る能はさる所なり。 亦た色を以て生不生を分別せず。生不生を以て受想 漏蓋の阿羅漢有らば所願を滿ぜんが爲に此の般 滿慈子·具壽大迦多衍那·具壽 善現に問ふて言はく、 亦た受想行識を以て有願 の般若波羅蜜多に 是の如き法に於て 所説の般若波羅蜜 有相無相を以 大迦葉波等 此の甚深に

> 「二」 学列子。今所市(Karin) 得なるを示す。 得なるを示す。

(Mahā-maudgalyāyana)。佛十大弟子の一、神通第一。十大弟子の一、神通第一。佛十大弟子の一、持律第一。佛十大弟子の一、武法第一。佛十大弟子の一、武法第一。 (Kātyāyama)。佛十大弟子の一、論議第一。

(21 .)

【ル】 大迦葉。摩訶迦葉(Mabākāšyapa)。佛十大弟子の一、 浄行第一。

【八】 善鬼。須菩提(Subhūti)。 佛十大弟子の一、解空第一。 り聖智を以て煩惱を斷盡する とと。

(1) 「如是人等 終 不以空不空分別色……亦不以受想行識分別的心……亦不以受想行識分別意識不意難」に相應右の文中「色乃至識」に相應右の文中「色乃至識」に相應右の文中「色乃至識」に相應を容録(1) にて略し以下その諸

分受教品第二十四之一

M

夢の如き見なりと宜就す。天子當に知るべし。設ひ更らに法の涅槃に勝るる者有るも我れ亦た說 化の如く夢の如き所見なりと說くと爲すや、亦た微妙寂靜究竟涅槃も幻の如く化の如く夢の如き見 なりと說くと爲す耶と。善現言はく、諸の天子、我れ但だ我等色等乃至阿耨多羅三 の如く化の如く夢の如き所見なりと說くのみならず、亦復た微妙寂靜究竟涅槃も幻の如く化の如く 無く二分無きが故なりと。 て幻の如く化の如く夢の如き見なりと爲す。所以は何ん、幻化夢事と一切法乃至涅槃とは皆悉く 時に諸の天子善現に問ふて言はく、今尊者、但だ我等色等乃至阿耨多羅三藐三菩提 三年, 自由一時一時一時一日時間, 第二 藐三菩提のみ幻 のみ幻 0 如

(h) 天子當に知るべ 羅・意生・儒童・作者・受者・知者・見者は幻の如く化の如く夢の如き所見なりと。何を以ての故に、 0 等の自性室なるを以ての故なり。 て言はく、是の如し是の如し、汝の所說の如 如き有情化の如き者の爲に化の如き法を說き、夢の如き有情夢の如き者の爲に夢の如き法を說く。 Ļ 我とは幻 0 如く化の し。幻 如く夢の如き所見。 の如き有情幻の如き者の爲に幻の如き法を説き、化 有情·命者·生者·養者·士夫·補特伽 我

(h) 無明乃至老死愁歎苦憂惱。 (h) 色乃至識。 (h) 舌界乃至諸受。 (h) 眼處乃至意處。h (h) 身界乃至諸受。 (h) 內容乃至無性自性室。 色處乃至法處。山眼界乃至諸受。 (h) 意界乃至諸受。 h真如乃至不思議界。 (h) 地界乃至識界。(h) 苦聖諦乃至道聖諦 (h) 耳界乃至諸受。 (h)

巻の第八十二

初 分諸天子品第二十三之二

異生地乃至如來地。 三藐三佛陀。 預流乃至阿羅漢。 八聖道支。 (h) 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 恒住終性。 的空解脫門乃至無願解脫門。 (h) 菩薩 (h) (h) (h) 摩訶薩法・ 預流向預流出乃至阿羅漢向阿羅漢果。 切陀羅尼門・一切三 異生地法乃至如來地法。 無上正 等菩提。 (h) (h) 四靜慮乃至四無色定。 摩地門。 五眼 山有為界·無為界。 (h) . 極喜地乃至法雲地。 (h) 六神通。 切智乃至 (h) (h) 佛の h八解脫乃至十遍處。 . 切相智。 + 力乃至十八佛不共法。 獨宛向 (h)極喜地法乃至法雲地 (h) 獨覺果。 、聲聞 乘乃至無上 (h) 菩薩摩訶薩 (h) 四念住乃至 (h) 無忘失 生。 (h) (h)

如き法を説き、 天子當に知るべし、 化の如き有情化 此の緣に由るが故に我れ是の說を属す、幻の如き有情幻の如き者の属に幻の 0 如き者の 爲に化 の如き法を説き、 夢の如き有情夢 0 如き者の為に

卷と同意。

(h)

初分諸天子品第二十三之二

三五九

聞乗乃至無上乗。⑤預流乃至阿羅漢。⑤預流向預流果乃至阿羅漢向阿羅漢果。⑤獨覺佛不共法。⑥無忘失法・恒住捨性。⑤一切陀羅尼門・一切三摩地門。⑤一切智乃至二 温處。。G四念住乃至八聖道支。。G空解脫門乃至無顧解脫門。。G五眼・六神通。 G佛の 法乃至法篡地法。 果。図菩薩摩訶薩・三藐三佛陀。図菩薩摩訶薩法・無上正等菩提。 gg與如乃至不思議界。g市施波羅蜜多乃至設若波羅蜜多。g四靜慮乃至四無色定。g八解說乃至十 g地界乃至諸受。g苦聖諦乃至道聖證。g無明乃至老死愁數苦憂惱。g內空乃至無性自性空。 (g)異生地乃至如來地。(g)異生地法乃至如來地法。(g)文字語言。 ⑤極喜地乃至法雲地。 g極喜地 一切相智。(g)聲 ·獨党向獨覺 十九乃至十八 The state of the s

諸の菩薩摩 上正等菩提に住せんと欲し證せんと欲する ゆる獨覺所得の菩提に住せんと欲し證せんと欲するは亦た此の忍に依りて究竟を得。諸の有ゆる る預流・一 無く亦た解者無し。是の故に汝等諸法の中に於て應に所說に隨ひて。堅固忍を修すべし。諸の有ゆ 如 し。諸法乃至無上菩提、文字語言の皆及ばさる所なり。故に敬若波羅蜜多に於ては說く無く聽く 爾の時善現、諸の天子の心の所念を知り便ち之に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所念の 常に勤 來不還・阿羅漢果に住 め修學して捨離すべからずと。 訶薩は初發心より乃ち究竟に至るまで、應に無説無聽無解の甚深般若波羅蜜 せんと欲し證せんと欲するは亦た此の忍に依りて究竟を得。 は要らず此の忍に依りて究竟を得。 是の如 く諸 一多に住すべ の天子、 諸 の有

子即ち復た問ふて言はく、能說能聽及び所說の法皆幻の如く化の如く夢の如き事なる耶と。善現答へ 以ての故に、是の如き聽者は所說の中に於て聞く無く解する無く證する所無きが故にと。時に諸の天 するぞと。 し、我れ今幻の如き化の如き夢の如き有情の爲に幻の如き化の如き夢の如き法を說かんと欲す。何を に諸の天子心に復た念言すらく、尊者善現は今に於て何等の有情の爲に何等の法を説 善現爾の時諸の天子の心に念する所の事を知り、便ち之に告げて言はく、天子當に知る んと欲

な。以て道理に安住するを云ふ。 発不動の心

告げて言は 甚深に轉じ、 羅蜜多に於て復た種種に方便して顯說し解し易からしめんと欲すと雖も而かも其の意趣甚 説者·聽者及び能解者都て得可からずと。時に諸の天子復た是の念を作さく、 非ず。 か らず。 何を以ての故に、 不なり大徳と。 して說法するが如き、 微細に 天子當に知るべし、 (天子當に して微細に更り測度す可きこと難しと。 さの 善現告げて言はく、 知るべ 深細性得 し、 意に 巧みなる幻師或は彼の弟子、 色は甚深に 於て云何、 可からさるが故に、 是の如く天子、 非ず微細に 是の 中質に能説・能聽・能解者有りや不やと。 非す、 善現、 受想行識の 四衢道に於て 切法皆幻の如きが故に、 受想行識も亦 彼の心の所念を知り、 深細性も亦た得可 尊者善現 四衆及び た湛深に 此 深に 非ず微細 0 佛身を幻 からさる 便ち之に 般若の 般若波 諸天 中

(f) 力乃至十八佛不共法。 (f) 四靜慮乃至四無色定。 死愁歎苦憂惱。 至諸受。 (f) 向獨覺果。 眼處乃至意處。 (f) 地法乃至法雲地法。 f)身界乃至諸受。 乘乃至無上乘。 ff 菩薩摩訶薩·二 (f) (f) 色處乃至法處。 內空乃至無性自性空。 f無忘失法 (f) 八 (f) 異生地 (f) 解脫乃至十 f)意界乃至諸受。 預 貌 流乃至阿羅漢。 ٠ 乃至如 恒住捨性。 佛陀。 (f) 遍處。 眼界乃至諸受。(f) 來地。 (f) 近菩薩摩訶薩法·無上正 真如乃至不思議界。ff 布施波羅蜜多乃至般 (f) (f) (f)地界乃至識界。 f」異生地法乃至如來地 (f) 預流向 四念住乃至八聖道支。 切陀羅尼門 預流 耳界乃至諸受。 果乃至 • (f) 切三 等菩提。 苦聖諦乃至道聖 阿羅漢向阿羅漢果。 (f) 五眼 法。 摩地門。 f 鼻界乃至諸受。 (f) 極喜 • 六神通 (f) 地乃 切 智乃 (f) 波羅蜜多 (f) (f) 無明乃 獨覺 佛の (f) 至 、舌界 地 切

せず。 眼界乃至諸受。實耳界乃至諸受。 に諸 何を以ての故に、 の天子復 た是の念を作さく、 色蘊性等説く可からさるが故なり。 g鼻界乃至諸受。 図尊者善現は所説 g舌界乃至諸受。 0 法 g眼處乃至意處。 0 中に色を施設せず、 (g) 身界乃至諸受。 g色處乃至法處。 善想行識を g意界乃至

> 婆夷を信伽の四案となす。 影向業、結線業の四をいふ。 影の業、結線業の四をいふ。

かい

故なり

分諧天子品第二十三之

初分諸天子品第二十三之一

れ等が輩竟ひに解すること能はずと。善現、彼の心の所念を知り、便ち之に告げて言はく、 是の如し。天子當に知るべし、佛の化身、無量の茲獨・茲獨尼・鄔波索迦・鄔波斯迦を化作して俱に 者及び能解者皆不可得なり。一切の如來應正等覺の所證の無上正等菩提、其相の甚深なるも亦復た 何を以ての故に、甚深般若波羅蜜多の文字言説は皆遠離の故なり。此れに由りて中に於て說者、聽 た彼れに告げて言はく、我れ曾て此に於て一字をも説かず、汝等聞かず、當に何所んぞ解すべけん。 子、我が說く所に於て解すること能はさる耶と。諸天子言はく、是の如し是の如しと。具籌善現復 而かも尙ほ知る可し。 知るべし。二人一山谷に處り、各一面に住して佛法僧を讃するに俱時に響を發するが如き、意に於 如く天子、一切法は皆夢の如きが故に、般若の中説者。聽者及び 能解者都て 得可からず。天子當に の中質に能説・能聽。能解者有りや不やと。諸天子言はく、不なり大德と。善現告げて言はく、 當に知るべし、 是の如く天子、 何。是の中賓に能說・能聽・能解者有りや不やと。諸天子言はく、不なり大德と。善現告げて言はく、 會に來集し、復た一りの能說法人を化作して此の衆の中に於て妙法を宣揚するが如き、意に於て云 現告げて言はく、是の如く天子、一切法は皆響の如きが故に、般若の中説者。聴者及び能解者都で て云何、此の二響聲能く互に相聞こえ互ひに相解するや不やと。諸天子言はく、不なり大徳と。 の時會中に「諸の天子有り竊かに是の念を作さく、諸の樂叉等の言詞呪句、復だ隱密すと雖も 夢中に在りて夢に佛有り菩薩聲聞を教誡教授するを見るが如き、意に於て云何、是 切法は皆化の如きが故に、般若の中說者、聽者及び能解者都て得可からず。天子 尊者善現、此の般若波羅蜜多に於て種種の言詞を以て顯示すと雖も而かも我 汝等天

(e) 一切智乃至一切相智。(e) 聾聞乘乃至無上乘。(e) 預流及び預流向果乃至阿羅漢及び阿羅漢向果。(e)

三五五

(d) 無明乃至老死愁數苦憂惱。 d舌界乃至諸受。 (d) 身界乃至諸受。 は内容乃至無性自性空。は真如乃至不思議界。 d意界乃至諸受。d地界乃至識 (d) 、苦聖新 而乃至道。

心の第八十一

初分天帝品第二十二之五

流及び預流向果乃至阿羅漢及び阿羅漢向果。d3獨覺及び獨覺菩提、 法·恒住捨性。 八聖道支。同空解脫門乃至無顧解脫門。同五眼・六神通。 d市施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。d 及び法乃至法雲地及び法。 (d)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(d) 異生地及び法乃至如來地及び法。是の如く善現、 四靜慮乃至四無色定。因八解脫乃至十遍處。因四念住乃至 切智乃至一切相智。山聲聞乘乃至無上乘。 は佛の十九乃至十八佛不共法。 菩薩如來及び菩薩如來法。 如來の 心は (d) 無忘失 (d) 極 (d) 預

受。(e)身界乃至諸受。 處乃至意處。(e)色處乃至法處。 するに非す住せざるに非らさればなり。 同如來は 眼·六神通。 岩波羅蜜多に住すと雖も而かも色に於て住する非が住せざるに非ず、 都で住する所無く亦た住せさるに非ずと。 無色定。 切法に於て都て住する所無く亦た住せざるに非す。 (e)內室乃至無自性空。(e)真如乃至不思議界。 e佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法·恒住捨性。 (e)八解脫乃至十 合利子に謂つて言はく、 (e)意界乃至諸受。 (e) 遍處。 ·眼界乃至諸受。(自耳界乃至諸受。(自鼻界乃至諸受。(自舌界乃至諸 何を以ての故に、色蘊等は二相無きを以ての故なり。 (e) (e)地界乃至識界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)無明乃至老死愁 是の如く菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に住すと雖 四念住乃至八 (e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 聖道支。 所以は何ん、((含利子、菩薩摩訶薩 (e) 室解脫門乃至無願解 (e) 切陀羅尼門·一切三摩地門。 受想行識に於ても亦た住 8 (e) 四靜 而 (e) 五 (e) 眼 から

(d) 前卷と同意。

法によりて略するのとす。 おの文もdの場合と全く同方 二相似」 一相似」 一名の文もdの場合と全く同方

時 多に於て住すべ 若波羅蜜多に於て住すべき所の如く、 阿羅漢向 羅蜜多。 明乃至老死愁歎苦憂惱。 (c) 舌界乃至諸受。 無く受想行識の名聲無きを得べしとして住すべからず。 異生 切三摩地 復た次には憍尸迦、 なり。 地及び法乃至如來地及び法。 切法は都て所有無く、 果。 (c) (c My (c) 一靜慮乃至四 (で獨覺及び獨覺菩提、 五眼·六神 眼處乃至意處。 き所、 (c) (c)身界乃至諸受。 切智乃至 住すべからざる相に隨ひて無所得を以て方便と爲して應に是の如く學す 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 通。 (6)內容乃至無性自性容。 無色定。 (c) 名字音聲皆不可得なりと覺ればなり。 (它色處乃至法處。 佛の十カ乃至十八佛不共法。 切相智。 (c) (0)意界乃至諸受。 所以は何ん、 菩薩如來及び菩薩如來法。 八解脫乃至十遍處。 住すべからざる相と爲す。 (C聲聞乘乃至無上乘。 () 限界乃至諸受。 (0) 真如乃至不思議界。 切の如來應 (c)地界乃至識界。 (c) 何を以て 四念住乃至八聖道支。 (c) 無忘失法·恒 IE (c) (で預流及び預流向果乃至阿 願ふて我れ當に淨佛土の中色の の故 橋尸迦、 等覺は阿耨多羅三 極喜地及び法乃至法雲地 (0)耳界乃至諸受。(0)鼻界乃至諸受 憍尸迦、 元 (0)布施波羅蜜多乃至般若波 (で)苦聖諦乃至道聖諦 菩薩摩訶薩、 住捨性。(c) 有所得を以て 是れを菩薩摩 (c) 空解 一藐三 切陀羅尼門 脱門乃至 方便と為 菩提を得 河薩 及び法 羅漢及び 0 (c) 蜜

は何 を以ての故なり。 於て云何諸 般若波羅蜜多に住すべきやと。 時に舍利子、 は善現、如來の心は色に住 の如 来心は何の所に住すと爲すやと。 是の念 (d) 服處乃至意處。 言を作さく、 具籌善現、含利子の心の所念を知り即ち之れに謂つて日は せず、受想行識に住 (d) 若し菩薩摩訶薩、 色處乃至法處。 舍利子 せず。 (d) 切法に於て住 眼界乃至諸受。 言はく、 何を以ての故に、 諸佛 すべからさる者は云何 の心都で住する所無 (d) 耳界乃至諸受。 色蘊等は不可 (d) 鼻界乃 得 L なる 所以 意に て 力。

(の)「糯尸迦 菩薩 癖詞薩……以有所得爲方便故」 方の文中「色乃至識」のある 方に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符 が他にて略し以下その諸法の

住受想行議何以改以中蕴等不の如くなるを明す。 の如くなるを明す。

三五三

分天帝品第二十二之四

は諸の聲聞獨党の作意を離れて必ず無上正等菩提を得として住すべからず。何を以ての故に、 住し其の土寛廣にして十方面に於て殑伽沙世界の量の如くなるべしとして住すべからず。 以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、 なり。憍尸迦、 れ當に壽量無邊を獲得すべしとして住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故 由りて勢力を増上し我が壽命をして殑伽沙大劫の如くにして住せしむべしとして住すべ 波羅蜜多を行する時、我れ當に善く四神足を修し已つて是の如き殊勝の等持に安住し、 て住すべからず。 からず。何を以ての故に、 餘涅槃に入るとして住すべからず。 此れは 是れ聲 聞 獨覺地を超え菩薩地に住する者として住すべ 字無餘涅槃に入るとして住すべからず。 心疾く皆除こり無量無邊の身病も亦た愈ゆべしとして住すべからず。 ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。 證得し妙法輪を轉じ諸の佛事を作し無量無數の有情を度脱して涅槃の畢竟安樂を得せしむべ 切の相続する煩惱及び諸の習氣を斷すべしとして住すべからず、我れ當に阿耨多羅三藐三菩提 の好中無數量希有の 金剛座に安坐し其の座廣大にして量三千大千佛土に等しかるべしとして住すべからず。 菩提樹に依止し其の樹高廣にして衆賓もて莊嚴し出す所の妙香有情の聞く者貪瞋癡等 一一の相百福莊嚴すべしとして住すべからす。我れ當に最勝圓滿の八十隨好を成就し 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、我れ當に最勝圓滿の三十二種大士夫相を成 何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。 勝事有りて莊嚴を爲すべしとして住すべからず。 我れ當に一切智・道相智・一切相智を具足し一切法 有所得を以て方便と属すが故なり。 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 此れは是れ獨党向、 憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 此れは是れ獨覺果にして現在必ず無 復た次に憍尸迦、 有情の此の菩提樹の香を聞く 憍尸迦、 何を以ての故に、 一切相を覺り已りて永く 我れ當に一嚴淨土に安 菩薩摩訶薩は般 此の等持に からず。 有所得 我れ當に 何を以 有所 我 を 我

ものなるを云ふ。

三五

苦を受くる最後の身を云。

方便と爲すが故なり。 我れ當に佛の十力を成勝すべしとして住すべからず、 の身を成辨し諸の有情をして觀じて厭倦無からしむべしとして住すべからず。何を以ての故に、 身を成辨し諸の有情の見る者をして歡喜せしむべしとして住すべからず、我れ當に八十隨好所莊嚴 量無邊の所作の事業に於て總持自在なるべしとして住すべからず、 爲すが故なり。 れ當に道相智、 薩は般若波羅蜜多を行ずる時、 無量無邊の等持差別に於て遊戲自在なるべしとして住すべからず。何を以ての故に、 捨性を成辧すべしとして住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。 べしとして住すべからず。 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 憍尸迦、 切相智を成立すべしとして住すべからず。 憍尸迦、 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時、 何を以ての故に、 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 我れ當に無忘失法を成辦すべしとして住すべからず、我れ當に恒住 我れ當に一切智を成辦すべしとして住すべからず、 有所得を以て方便と爲すが故なり。 我れ當に四無所畏乃至十八佛不共法を成 何を以ての故に、有所得を以て方便と 我れ當に一 我れ當に一切三摩地門を成辦 我れ當に三十二相所莊嚴 切陀羅尼門を成辨し 憍尸迦、 有所得を以 菩薩摩訶 朔す 有 我 7

て般涅槃を得る者として住すべからず。 般涅槃法なりとして住すべからず、 隨法行者、 所得を以て方便と爲すが故なり。 復た次に憍尸迦、 苦際を盡くし得として住すべからず。 極七返有、 至 此れは是れ 此れは是れ 煩惱方盡なりとして住すべからず、此れは是れ預流定不墮法、 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、此れは是れ 家家、 第八補特伽羅なりとして住すべからず、此れは是れ預流果、 此れは是れ 此れは是れ一來向、 此れは 此れは 是れ不還向、 是れ阿羅漢向、 間なりとして住すべからず、 此れは是れ 此れは是れ不還果にして彼方に往 此れは是れ阿羅漢果にし 來果にして一來の此の 隨信 行者、 此れは是れ 此れは是れ 此れ 此れは是れ て現在必 齊 は是れ 首補 中間 間

30 修行するもの、後者は自ら法他の言教を信ずるに由て隨て るを隨法行者と名く。前者は るを隨信行者と名づけ利根な 見道位の を思惟して行を成ずる人を 随信行二は隨法行なり鈍根な 中聖者に二有り一は

【五】 第 八忍地。 八桶特伽 見諦

放之を極七返と云ふ。 敬之を極七返と云ふ。 敬之を極七返と云ふ。 の聖者、欲界修惑或は八品を【八】 一間。不還向中の一種を證して涅槃に入るなり。 【七】家家。 【六】極 鈍根なる者にして未だ修惑を 生、家より家に轉生して極果 者なり此の聖者は三生又は 一來向中にて極果を證する聖 七返有。 十八有學の一〇

眼を成解すべしとして住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、 庾多の諸の天の伎樂及び無量種上妙の珍財を以て爲に供養すべしとして住すべからず、我れ當に無 便と爲すが故なり。 憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、我れ當に無量無數の諮佛國 菩提或は般涅槃或は人天の樂を得せしむべしとして住すべからす。何を以ての故に、有所得を以て方 神通を圓滿することを得己つて當に無量無數の世界に遊び諸佛世尊を禮敬瞻仰供養承事し 門を圓滿すべしとして住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、 以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 らず、我れ當に究竟圓滿の天眼・天耳・他心・宿住・漏盡智通を成僻すべしとして住すべからず。 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時、我れ當に究竟圓滿の神境智通を成辦すべしとして住すべか 我れ當に清淨の肉眼を成瓣すべしとして住すべからず、我れ當に清淨の天眼・慧眼・法眼・究竟の佛 量無數無邊の有情を安立して無上正等菩提に於て不退轉を得せしむべしとして住すべからず。何を に往詣し諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し復た無邊の花香瓔珞寶幢幡蓋衣服臥具飲食燈明百千俱胝 と十方佛の所居の浄土の如くすべしとして住すべからず、我れ當に諸の有情類を成熟して無上正等 得を以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、我れ當に嚴淨するこ 訶薩は般若波羅蜜多を行する時、我れ當に菩薩の五神通を圓滿すべしとして住すべからず、我れ すべしとして住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。 生に入るべしとして住すべからず、我れ己に正性難生に入ることを得たり當に菩薩の不退轉地 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、我れ加行を修すること旣に圓滿し巳つて當に菩薩の正性難 ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 理の如く思惟し廣く有情の爲に宣説開示すべしとして住すべからず。何を以ての故に、有所 ,正法 に住 A LINE AND MALE

所得を以て方便と爲すが故なり 雑蜜多を行する時、 阿耨多羅三藐三菩提是れ無爲相なりとして住すべからず。何を以ての故に、 有

らず、 なり。 住すべからず。 れ當に四念住を圓滿すべしとして住すべからず、我れ當に四正斷乃至八聖道支を圓滿すべしとして して住すべからす。我れ當に八勝處、九次第定、十遍處を圓滿すべしとして住すべからす。 と爲すが故なり。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、我れ當に八解脫を圓滿すべ 我れ當に四無量、 れ當に淨戒乃至般若波羅蜜多を圓滿すべしと。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。 復た次に憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、初發心に住し已つて便ち是の念を作すべか 第二地乃至第十地の殊勝事に住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。 故なり。 菩薩如來應正等覺是れ福田なりとして住すべからず。 ての故に、 を以ての故に、 一來不還阿羅漢是れ福田なりとして住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故 蜜多を行する時、我れ當に空解脱門を圓滿すべしとして住すべからず、我れ當に無相、 復た次に憍尸迦、 我れ當に布施波羅蜜多を圓滿すべしと。初發心に住し已つて便ち是の念を作すべからず、 憍尸迦、 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、我れ當に四靜慮を圓滿すべしとして住すべからず、 復た次に憍尸迦、 有所得を以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。 有所得を以て方便と属すが故なり。 菩薩摩訶薩は殺若波羅蜜多を行ずる時、獨覺是れ福田なりとして住すべからず。 四無色定を圓滿すべしとして住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、預流是れ福田なりとして住すべからず、 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが 初地の殊勝事に住すべからず、 憍尸迦、 菩薩摩訶薩は般若波 無願解 何を以 何 我

不動地善慧地法雲地。

ず有為ようでもしていからせば相の取著無く住すべから 具見地海地雕欲地已辦地獨登(5) 異生地。種性地第八地 【二】無爲相。生住異滅の ず有爲ならば虚誑にして住す 【二】預流果等の聖果無 地菩薩地如來地。 べからず。

果報無量なりと記くを以て苦いる。日流果等の聖果は顧田 産此に住せんとすべからず。 相の造作なきこと。

三四九

初分天帝品第二十二之四

しは無願に住すべからず。何を以ての故に、 は遠離若しは不遠離に住すべからず。色の若しは空若しは不空に住すべからず、受想行識の若しは は無相に住すべからす。色の著しは有願著しは無願に住すべからず、受想行識の著しは有願若 しは不空に住すべからず。 色の若しは有相若しは無相に住すべからず、 有所得を以て方便と爲すが故なり。 受想行識の若しは有相

的五眼·六神通。 的四靜慮乃至四無色定。的八解脫乃至十遍處。的四念住乃至八聖道支。的空解說門乃至無願解脫門。 乃至諸受。的身界乃至諸受。的意界乃至諸受。 老死愁歎苦憂惱。 (b) 眼處乃至意處。 的佛の十力乃至十八佛不法共 的內室乃至無性自性空。b)真如乃至不思議界。b)布施波羅蜜多乃至敷若波羅蜜多 的色處乃至法處。的眼界乃至諸受。的耳界乃至諸受。的鼻界乃至諸受。的舌界 (的地界乃至識界。(的苦聖諦乃至道聖諦。 (b)無明乃至

悉の第八十

初分天帝品第二十二之四

來法。 (b)無忘失法·恒住捨性。(b)一切陀羅尼門·一切三摩地門。(b)一切智乃至 (b) (b) 預流乃至阿羅漢。 極喜地及び極喜地法乃至法雲地及び法雲地法。的異生地及び異生地法乃至如來地及び如 (b)預流向預流果乃至阿羅漢果。 b)獨覺乃至獨覺果。 一切相智。 () 菩薩如來、 (b) 發聞 元列至無 菩薩如

住すべからず。何を以ての故に、有所得を以て方便と爲すが故なり。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波 便と爲すが故なり。 復た次に憍尸迦、 來不還阿羅漢果是れ無爲相なりとして住すべからず。 憍尸迦、 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、預流果是れ 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時獨覺菩提是れ無爲相なりとして 何を以ての故に、 無爲相なりとして住すべ 有所得を以て方

(6) (1) へかし **空無性空自性空無性自性空。** 自相空共相空一切法空不可得 つれし 定。 2 忍精進靜慮般若波羅蜜多。 法住實際虛空界不思議界。 性不變異性平等性離一性法定 空無際空散空転 大空勝義空有爲空無爲空畢竟 を 一取有生老死愁歎苦憂惱。 布施波羅蜜多。發戒安 真如。 四舒度。四無量四無色 內空。外空內外空空空 無明。行職名色六處觸 法界法性不虚妄 八勝處九次第 切法空不可得 變異空本性空

(そ) 四念住。四正斷四神足 (つ) 空解散門。無相無顧解

(お) 佛十力。四無所長四無 艦解大慈大悲大淳大捨十八佛 不共法。

一來果不避向不避果阿羅漢向(な) 預流向。預流果一來向(の) 預流向。預流果一來向智。

(む) 極害地。難垢地發光地(な) 獨置。獨盤向獨學果。阿羅漢果。

來地。 切智乃至 切相智 (1) 聲聞乘乃至無上乘。(1) 預流乃至如來。(1) 極喜地乃至法雲地。 f) 異生地乃至

巻の第七十九

初 分天帝品第二十二之三

なり。 蜜多。 解脫門。 乃至老死愁歎苦憂惱。 ず、此れは是れ受想行識なりとして住すべからず。 切三摩地門。(a) 復た次に(a)憍尸迦、 (a) 異生地乃至如來地。 a川靜慮乃至川無色定。 (a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。 (a) 五眼·六神通。 (1) 身界乃至諸受。 一切智乃至 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 a內容乃至無性自性空。 (3)佛の十力乃至十八佛不共法。 (a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。 切相智。 (a) 意界乃至諸受。 (a)聲聞乘乃至無上乘。 (a) (眼界乃至諸受。(3)耳界乃至諸受。(3)鼻界至乃諸受。 (a) 真如乃至不思議界。 (a) 地界乃至識界。 何を以ての故に、 (a) 無忘失法·恒住捨性。 (1) 預流乃至如來。 此れは是れ色なりとして住 (a)苦聖諦乃至道聖諦。 有所得を以て方便と爲 (a)布施波羅蜜多乃至般若波羅 (a) 室解脫門乃至無願 (a) 極喜地乃至法雲 (a) 切陀羅尼門、 すべから す (a) 無明 が故 (a)

からずい は浄若しは不浄に住すべからず。 の若しは我若しは無我に住すべからず。 受想行識の若しは樂若しは苦に住すべからず。 的復た次に憍尸迦、 受想行識の若しは常若しは無常に住すべ は不寂靜に住すべからず。 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行する時、 色の若しは寂靜若しは不寂靜に住すべ 色の若しは遠離若し 色の若しは浮若しは不浮に住すべからず、 色の若しは我若しは無我に住すべからず、 からす。 は不遠離に住すべからず、受想行識の若 色の若しは樂若しは苦に住すべ 色の若しは常、 からず、 若しは無常に住すべ 受想行識の若しは 受想行識 受想行識 からず の若し

> 以有所得爲方便故 よりて略するのとす。 符號を改む。 (3) よりで略すものとす 右の文も四の場合と同方法 以有所得爲方便故 右も前巻氏の場合と同方法 「復次橋尸迦…… 色。受想行識。 以下通關法卷三により 以 故

- 耳鼻舌身意處。
- 觸爲緣所生語受 觸爲綠所生諸受。 耳界。整界耳識界及耳 限界。色界眼識界及眼 摩香味觸法處。
- 胸身觸爲綠所生諸受。 胸舌胸爲綠所生諸受。 胸鼻觸為絲所生諸受。 觸爲緣所生諸受。 舌界。味界舌識界及舌 身界。觸界身聯 身界。香界鼻識界及鼻 激界。法界意識界及意

三四七

尼門、 波羅蜜多。 (e)無明乃至老死愁歎苦變惱。(e)內室乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。 は應に般若波羅 漢·獨覺·菩薩·如來。 無願解脫門。 如く住す 継蜜多に於て住すべき所の如く住すべからざる相を說くべし。 (e) 舌界乃至諸受。 切三摩地門。 是の如き (e) し。 (e) 五 眼 四靜慮乃至四 電多 (e) 眼 處乃至意處。 河薩 に住すべ 0 ٠ (e)極喜地乃至法雲地。 六神 (e) 切は皆二無く二分無し。 (e) 身界乃至諸受。 具壽善現、 の菩薩摩訶薩 一切智乃至 至 無色定。 きやとは、 (e) 佛 (e)色處乃至法處。 (e)八解脫乃至十遍處。 0 天帝釋に告げて言はく、 切相 十力乃至十八佛不共法。 性空なり。 諦かに聴け諦 (e) 意界乃至諸受。 智。 (e) 異生地乃至如來地 憍尸迦、 e聲聞乘·獨覺乘、無上乘。 若し (e) 眼 は色性空、若しは受想行識性空、若し かに聴け、 界乃至諸受。 菩薩摩訶薩、 (e)四念住乃至八聖道支。 (e)地界乃至識界。(e)苦聖諦乃至道 橋尸迦、 (e) 無忘失法、 (e)憍尸迦、 當に (0) 耳界乃至諸受。 般若波羅蜜多に於て 汝の問 汝が爲に菩薩摩 (è) 預流·一 (e)布施波羅蜜多乃至般 色の色性空、 恒住 3 捨性、 云何が菩薩摩 (e) 空解脫門乃至 來·不還 訶 (e) (e) 應に是 鼻界乃至 It 0 切陀 般 . 聖 一河薩

所なるやと。 至四無色定。 身界乃至諸受。 時に天帝釋、 价內室乃至無性自性空。 受想行識に住 (f) 佛の 色處乃至法處。任 ff 八解脫乃至十 善現答へて言はく、 (1)意界乃至諸受。 善現に問うて言はく、 十力乃至十八佛不共法。 ナベ からず。 眼界乃至諸受。所耳界乃至諸受。 fi 真如乃至不思議界。 遍處。 f)地界乃至識界。 (f) 何を以ての故に、 近四念住乃至八聖道支。 憍尸迦、 云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時住 f無忘失法·恒住捨性。 菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行 ff 布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。 (竹 苦聖諦乃至道聖諦。 有所得を以 () 室解脫門乃至無願 (f) (f) 鼻界乃至諸受。 て方便と属すが故なり。 切陀羅尼門。 ff無明乃至老死 ずる 時、 ff 舌界乃至諸受。 解脫門。 切三摩地門 色に す (f) (f) 2: 然數 (f) 14 からさる III 静恵乃 Ii. 態乃る ナベ (f) (f) 至 力

E の住すべき所を

(e) 橋戸迦色色性空受想行識を受想行識性空…帳戸迦菩薩摩受想行識性空…帳戸迦菩薩摩では他は書同文なり故に之を存めにて略し以下その諸法ののある。

(3)「憍尸迦 菩薩 瞬前臓……以有所得爲方便故」のある右の文中「色乃至識」のある 続けにて略しる 號式にて略し以下その諸法のは他は皆同文なり故に之を符 ららざるを明す 色に住すべ 切有所得に からず等。 住す ~ b

色に住せばこれ質有とする有

ち是れ非心、 亦た不可思議は非心に廻向すべからず、 向心は則ち心に非ず、菩提心も亦た心に非ず、若し心に非されば則ち思議す可からず。 K 提心は廻向心 菩提心と廻向心と和合せざる、 に天帝釋、 雖も而かも諸法に於て都て見る所無しと。憍尸迦、是れを菩薩摩訶薩の鮫若波羅蜜多と爲すと。時 所有無く得可からず、 摩訶薩の のみ有りて互びに相縁藉し、滋潤増長し漏滿充溢して 廻向 ナベ からず、 善現に問うて言はく、大徳、云何が菩薩摩訶薩の廻向心と菩提心と和合せざる、 廻向心と菩提心と和合せず、 是の如き一 の中に於て所有無く得可からざるやと。善現答へて言はく、 迹、 亦た非心は不可思議に廻向すべからす。不可思議は不可思議に廻向すべからず、 菩提心は廻向心の中に於て所有無く得可からす。 一種俱に所有無く。 云何が廻向心は菩提心の中に於て所有無く得可からざる、 般若波羅蜜多を修行する時、 何を以ての故に、非心は卽ち是れ不可思議、 菩提心と廻向心と和合せず。 無所有の中廻向無きが故なり。憍尸迦、 我我所無しと。 是の如き觀を作さん、 復た是の觀を作さん、 菩薩摩訶薩は諸法を觀すと 廻向心は菩提心の 憍尸迦、 若し是の觀 菩薩摩訶薩 不可思議は卽 非心は非心 云何が菩 中に於て 唯だ諸法 云何が 0

慶喜し、安撫建立して究竟を得せしめ、 故に我れも亦た應に佛の教に承順 して究竟を得せしめたまへり。 の諸佛及び諸の弟子は諸の菩薩摩訶薩の爲に六波羅密多を宣說し、示現教導讃勵慶喜し、 爾の 佛に白して言さく、 亦た善能く諸の菩薩摩訶薩を勘勵し、歡喜踊躍して般若波羅蜜多を修學せしむと。 善現を讃めて言はく、善哉善哉、汝善能く諸の菩薩摩訶薩 世尊、 世尊も爾の時亦た中に在して學し今無上正等菩提を證したまへり 我れ既に恩を知れり、報ひざるべからす。何を以ての故に、 諸の菩薩摩訶薩の 速に無上正等菩提を證す。是れも則ち名づけて彼の恩德 爲に六波羅蜜多を宣説し、 0 爲に般若波羅蜜 示現教導讚勵 安撫建立 時に具書

さば、是れを菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多と爲すと。

【二】 我我所。我と我所。我 は自我即ち自身、我所は我ル 所有物即ち我によつて執着せ られるものをいふ。 行の功德を菩提成就の爲めに 二」 廻向心。所修の善事善 行の功德を菩提成就の爲めに 本り向ける心。 上は菩提を求 め、下は衆生を救済せんとす

すべしとなり。 となりの となりの となりの 思なり、思を報じて 示教

三四五

是れを菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多と属す。 **た觀察し、內室の作無く爲無きを觀察し、外室乃至無性自性室の作無く爲無きを觀察せば、憍尸迦、** 性空の生無く滅無きを觀察し、內空の染無く淨無きを觀察し、外空乃至無性自性空の染無く淨無き 無性自性室の無願を觀察し、 を觀察し、外空乃至無性自性空の遠離を觀察し、 内空の寂靜を觀察し、 内空の生無く減無まを觀察し、外空乃至無性自 外空乃至無性自性空の寂靜を觀察し、 内室の 遠

d)一切陀羅尼門、 應する心を以て無所得を用て方便と爲して四靜慮を修し、は四無量。 若し菩薩摩訶薩、一切智智に應する心を以て無所得を用て方便と爲して般若波羅蜜多を行ぜば、 じ、若し菩薩摩訶薩、一切智智に應する心を以て無所得を用て方便と爲して靜慮波羅蜜多を行じ、 行じ、著し菩薩摩訶薩、一切智智に應する心を以て無所得を用て方便と爲して 精進波羅蜜多を行 多を行じ、若し菩薩摩訶薩、一切智智に應する心を以て無所得を用て方便と爲して安忍波羅蜜多を 八聖道支、d。空解脫門、 羅蜜多を行じ、若し菩薩摩訶薩、 勝處、dd九次第定、dd 、迦、是れを菩薩摩訶薩の般者波羅蜜多と爲す。復た次に憍尸迦、d)若し菩薩摩訶薩、 復た次に憍尸迦、 (b)真如、 d四無所畏。 無所得を用て方便と爲して一切相智を修せば、憍尸迦、是れを菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多と爲 法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界 (d) d川無礙解、 若し菩薩摩訶薩、 切三摩地門、(d) 十遍處、他四念住、他四正斷、他四神足、他五根、他五力、 d無相解脫門、d無願解脫門、 d大慈大悲大喜大捨、d十八佛不共法、d無忘失法、 一切智智に應する心を以て無所得を用て方便と爲して淨戒波羅 一切智智に應する心を以て無所得を用て方便と爲して布施波 切智、 (d) 道相智、 (d)四聖諦智、 若し菩薩摩訶薩、 (d) 五眼。 (d)四無色定、 (d) 切智智に應する心 六神通、 d七等覺支、 (d)八解脫, (d)恒住捨性 (d) 切智智に 佛の (d) (d) 幡

> (d) 「善菩薩 摩訶薩以應 一切智智ル用無所得為方便修四部 原」右の文中「四部底」のある 原」右の文中「四部底」のある 原」右の文中「四部底」のある がはは昔同文なり故に之を符 は他は昔同文なり故に之を行 なりないなに之を行 なりないないない。

作無く爲無きを思惟せば、憍尸迦、是れを菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多と爲す。 無く淨無きを思惟し、受想行識の染無く淨無きを思惟し、色の作無く爲無きを思惟し、受想行識の 保つ可からざるを思惟し、色の生無く滅無きを思惟し、受想行識の生無く減無きを思惟し、 思惟し、受想行識の性安隱ならさるを思惟し、色の信を保つ可からさるを思惟し、受想行識の信を 行識の疫有るを思惟し、色の癘有るを思惟し、受想行識の癘有るを思惟し、色の性安隱ならざるを の災ひ有るを思惟し、色の横有るを思惟し、受想行識の横有るを思惟し、色の疫有るを思惟し、受想 思惟し、色の厭ふ可きを思惟し、受想行識の厭ふ可きを思惟し、色の災ひ有るを思惟し、受想行識 減するを思惟し、受想行識の速に減するを思惟し、色の畏る可きを思惟し、受想行識の畏る可きを 色の逼切を思惟し、 衰朽を思惟し、受想行識の衰朽を思惟し、色の變動を思惟し、受想行識の變動を思惟し、 受想行識の逼切を思惟し、 色の敗壞を思惟し、受想行識の敗壞を思惟し、色の 色の速に 色の染

乃至睹受。自身界乃至諧受。自意界乃至諸受。 (a) 眼處乃至意處、(a) 色處乃至法處。(a) 眼界乃至諸受。(a) 耳界乃至諸受。(a) 鼻界乃至諸受。(a) 舌界

卷の第七十八

初分天帝品第二十二之二

の我、 察し、内室の無相を觀察し、外室乃至無性自性室の無相を觀察し、內室の無願を觀察し、外室乃至 變異空・本性空・自相空・共相空・一切法空・不可得空・無性空・自性空・無性自性空の我、 (a) 復た次に的憍尸迦、若し菩薩摩訶薩、一切智智に應ずる心を以て無所得を用て方便と爲し、內室 地界乃至識界。自無明乃至老死愁歎苦憂惱。 我所無きを觀察し、外空・內外空・空空・大空・勝義空・有爲空・無爲空・畢竟空・無際空・散空・無 我所無きを觀

(a) 前巻と同意。 一切智智心……是爲菩薩摩訶薩以應 一切智智心……是爲菩薩摩訶薩以應 を代入せば他の皆同 ななり故に之を符號的にて略 でなり故に之を符號的にて略

三四三

初分天帝品第二十二之二。

特現ぜさらしむること猶ほ黑鐵の 發さざる者は今皆應に發すべし。憍尸迦、若し聲聞獨覺の 正性離生に入れる者は復た阿耨多羅三 る。云何が菩薩摩訶薩應に般若波羅蜜多に住すべき。 親三菩提の心を發すこと能はず、 に佛の神力を承け如來の意に順ひ、諸の菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜多を、 て大徳の宣説する舩若波羅蜜多を聞か 士夫は應に更に上法を求むべく、 是の中設し能く無上正等菩提に於て發心し趣く者有らば我れ亦た隨喜す。 應に學すべき所の如く宜説すべし。憍尸迦・汝諸天等の未だ 善現に白して言さく、 帝釋に告げて言はく、善哉、 我れ有情の最妙善品に於て礙を爲さざるが故なり。 何を以ての故に、彼れは生死の流に於て已に限隔を作 贈部金に對するが如くなればなり。 んと欲す。大徳、 今此の三千大千世界の欲色の諸天一切來集し咸く皆渴仰し 憍尸迦·汝等諸天·諦かに聽け諦かに聽け。 云何か菩薩摩訶薩應に般若波羅蜜多を學す 何者か是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多な 阿耨多羅三藐三菩提の心を 菩薩摩訶薩の應に住す 所以は何ん、 す かい 諸の勝 吾れ當 故

> 【三】帝釋の間に對へて般若なる水中より出づる金を言ふ 波羅鑑を説く。 CJambunadasuvaran)の略舊 膽部金は贈部祭陀

47 六欲天の第二の忉利天の一天帝釋。帝釋天ともい

深入究竟住を問ふ。

般若學修の法を問ふ。

じ聖生を得て永く凡夫の生を断に立 正性離生。煩惱障を断 二九 下性離生。 上等正是 【二八】 佛陀の覺智を 釋の姓。 悟尸迦(Knnfikn)。 と響す。 いふつ

(A)にているのでは、 が他は皆同文なる散之を符號 が他は皆同文なる散之を符號 のある 陸般若波羅蜜多一 應一切智智……是爲菩薩峰 【三〇】 般若の體を示す。 離れるをいふ。 「憍尸迦若菩薩摩訶薩

空を思惟し、受想行識の空を思惟し、

受想行識の無願を思惟し、色の寂靜を思惟し、

惟し、受想行識は癰の如しと思惟し、

受想行識の遠離を思惟し、色の病の如しと思惟し、受想行識は病の如しと思惟し、色の癰の如

色は箭の如しと思惟し、

受想行識は箭の如しと思惟

受想行識は瘡の如しと思惟し、色の熱惱を思惟し、受想行識の熱惱を思惟し、

と爲し、色の無常を思惟し、受想行識の無常を思惟し、

色の無我を思惟し、受想行識の無我を思惟し、色の不浮を思惟し、受想行識の不淨を思惟し、色の

色の無相を思惟し、

受想行識の寂靜を思惟し、色の遠離を思惟し

受想行識の無相を思惟し、

色の無願を思

を略出す。

に汝が爲に說くべし。(橋尸迦、

汝の問

ふ何者か是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多なるやとは、

諦かに聴け諦

かに聴け、

無所得を用て方便

若し菩薩摩訶薩、一切智智に應する心を以て、

色の苦を思惟し、受想行識の苦を思惟し

2

初分天帝品第二十二之一

して爜舫し諸光の中に於て最尊・最勝・最極・最妙・無比・無等・無上・第一なるを 以て 諸天の光を蔽ひ **す、百千分の一にも及ばす、乃至百千俱胝那庾多分の亦た一にも及ばす。是の如く數分・算分・計分・** 究竟天、各無量百千俱胝那庾多の淨居天衆と俱に來會して坐せり。是の諸の天衆各勝業を以て妙身 天、各無量百千俱抵那庾多の第四靜慮天衆と俱に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る色 の光を感ずるも、如來身の 各無量百千俱胝那庾多の第三辭慮天衆と倶に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る廣果 量百千倶脳那庾多の第二靜慮天衆と倶に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る遍淨天、 千俱胝那庾多の初靜慮天衆と俱に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る極光淨天、各無 の樂變化天衆と俱に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る。自在天王、各無量百千俱抵 天衆と倶に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る。樂變化天王、各無量百千俱胝那庾多 倶に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る。妙喜足天王、各無量百千俱胝那庾多の喜足 會して坐せり。 那庾多の他化自在天衆と倶に來會して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る大梵天王、各無量百 して坐せり。此の三千大千世界に於て所有る天帝、各無量百千俱胝那庾多の三十三天衆と俱に來 爾の時此の三千大千世界に於て所有る 此の三千大千世界に於て所有る。善時分天王、各無量百千倶胝那庾多の時分天衆と 常に現する所の光に比ぶるに百分の一にも及ばす、千分の一にも及ば 四大天王、各無量百千俱胝那庾多の四大天衆と俱に來會

> 【二】諸天來集を明す。 【二】四大天王。護世の多聞、 特國、均長、廣目なり。 特國、均長、廣目なり。 は三】三十三天。忉利(Jrāyazstrimsa)。 【三】 参摩足。側兜率天(Sa= ihrmāṇaratideva)。 【六】 樂變化。須涅蜜陀(Ja= ihrmāṇaratideva)。

Savartina)

vāsī)。
vāsī)。
vāsī)。
常光。
が表示)。
常光。
が表示)。
常光とあり。
常光は佛身として常に具なる光明。
【10】
鄭波尼殺桑(Upanisad)
は近少微細、因等と譯す、算

初分天帝品第二十二之一

謗

B

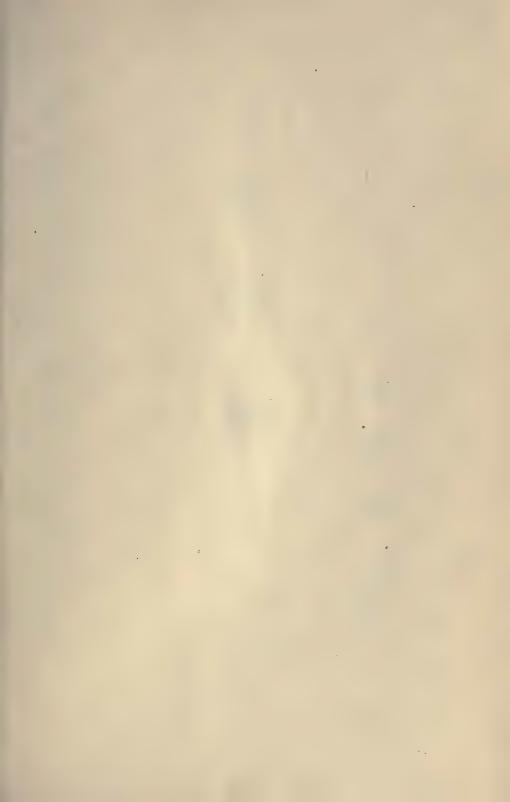
公一元0)

The second secon

The second of th

次

讃般若品第三十二 (一三一六)	隨喜廻向品第三十一 (一六—一寸)	校量功德品第三十 (10至一1会)	攝受品第二十九(先—一〇三)	歎德品第二十八 (55-55)	求般若品第二十七 (元-九)	學般若品第二十六 (五一元)	散花品第二十五 (四一至)	受教品第二十四(至一品)	諸天子品第二十一 (八一三)	天帝品第二十(丰-八)	初分	大般若波羅蜜多經(全六百卷中至卷第二百八十七)
			三九0—		二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	二二六二二六二二六二二六二二六二二六二二六二二六二二六二二六二二六二二二二二二						金丁
五九0]	五七五	五元		三八九]	灵 查·····	- 11441	- 三学」	三至	三城— 三次0〕			→ 上六]
	•		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				•	=	•			(通頁)



(15)

般

岩

椎

尾

辨

匡

譯

部



CHENG YU TUNG
EAST ASIAN LIBRARY
UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY,
130 St. George Street
8th FLOOR
TORONTO, CANADA M5S 1A5

(15)

譯 切

绘

大 東 出 版 社 蔵 版

